



# KOBE CITY HOSPITAL BULLETIN

Vol. 61, 2022

Kobe City Hospital Organization

## 神戸市立病院紀要

令和4年 第61巻

神戸市立医療センター中央市民病院  
神戸市立医療センター西市民病院  
神戸市立西神戸医療センター  
神戸市立神戸アイセンター病院

地方独立行政法人 神戸市民病院機構

# KOBE CITY HOSPITAL BULLETIN

An Annual Review of  
Medical Science and Practice

Kobe City Hospital Organization

## EDITORIAL BOARD

Yutaka Takahashi, M.D., Chairman

Takayuki Ishikawa, M.D.

Mutsushi Kawakita, M.D.

Yutaka Furukawa, M.D.

Ichiro Nakamura, M.D.

Hiromi Tomioka, M.D.

Kousaku Matsubara, M.D.

Ken Washio, M.D.

Yasuhiko Hiramami, M.D.

## 巻頭の辞

神戸市立病院紀要第 61 巻が刊行の運びとなりました。例年のごとく、本紀要におきまして多くの論文や学術活動の記録が掲載されております。神戸市民病院群の医療者が日々の医療業務の実践にとどまらず論文や学会発表をとおしてその成果を世に発信していく姿勢にあらためて敬意を表すものであります。

私ども神戸市民病院群の役割は医療により市民の生命と健康を守ることにより、確立した従前の医療を適切により高いレベルで遂行することが第一の責務ですが、同時に医療をさらに前に進めていく使命も有していると考えます。そのためには研究的志向を合わせもつことが必要となります。大学のような研究機関ではありませんので臨床的研究が中心ですが、症例の豊富な市民病院群ですので、シーズには事欠かないと思います。また臨床試験や様々な治験にかかわることも大切な役割です。

一つ強調させていただきたいことがあります。それは学会発表をすればそれをできるだけ論文化することに努めていただきたいということです。学会発表に比してはるかに多くの労力が求められますが、経験を積めばそのハードルは下がるものです。上司の立場の方には若い医療者に対しては臨床上の指導とともにアカデミックマインドの醸成にも引き続き尽力されますようお願い申し上げます。

昨今、わが国の論文発表の質と量の低下が指摘されています。このようななかで本紀要は神戸市民病院群の医療者が高度専門医療を行っているとともに新しい医療を拓くという高い志を掲げて日々の臨床に邁進していることを世に示すものであります。

本紀要が皆様方の日々の診療・看護そして研究にいささかでも資することを祈念する次第です。

神戸市立医療センター西市民病院

院長 有井 滋 樹

# 目 次

## I. 総 説

- I. 1 左室駆出率の保持された心不全（Heart Failure with Preserved Ejection Fraction；HFpEF）の本質と心不全パンデミック  
.....中央市民病院 病院長 木 原 康 樹..... 1

## II. 原 著

- II. 1 当院における外国生まれ結核患者の検討  
.....西市民病院 呼吸器内科 瀧 口 純 司 他.....13

## III. 症例報告

- III. 1 若年に発症した肺原発 clear cell tumor の 1 例  
.....西市民病院 臨床検査技術部 弘 田 大 智 他.....19

## IV. 新型コロナウイルス感染症に関する論文等

- IV. 1 （医療研究報告）COVID-19 中等症専用病棟における気管挿管患者のオーラルケア  
.....西市民病院 看護部 4階病棟 大 橋 佳 奈 他.....25
- IV. 2 （実践報告）COVID-19 軽症・中等症の病棟における重症患者合併症予防法の考察  
.....西市民病院 看護部 4階病棟 樽 本 南々帆 他.....29

## V. CPC 報告

- V. 1 CPC 報告（2021年4月～2022年3月）（中央市民病院）.....33
- V. 2 CPC 報告（2021年4月～2022年3月）（西市民病院）.....39
- V. 3 CPC 報告（2021年4月～2022年3月）（西神戸医療センター）.....44

## VI. 医学振興事業等研究費補助による業績報告

### (1) 笠原ガン治療研究事業

- VI. 1 進行期小細胞肺癌患者の治療前の自己免疫関連抗体と1次治療としての免疫チェックポイント阻害薬含有抗癌剤の免疫関連有害事象と治療効果に関する前向き観察研究  
.....中央市民病院 呼吸器内科 佐 藤 悠 城.....59
- VI. 2 新型コロナウイルス感染症と抗癌剤による薬剤性肺炎の臨床的、画像的特徴の比較検討  
.....中央市民病院 呼吸器内科 嶋 田 有 里.....61
- VI. 3 リツキシマブ投与歴のある血液疾患患者における BNT162b2、mRNA-1273、ChAdOx1-S 接種後の SARS-CoV-2 IgG 抗体価及び接種後副反応に関する観察研究  
.....中央市民病院 血液内科 西久保 雅 司.....66
- VI. 4 頭頸部癌化学放射線療法後に撮像した PET-CT による予後予測の検討  
.....中央市民病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 瀧 口 清 海.....67
- VI. 5 頸部感染治療に難渋した、下咽頭癌化学放射線療法後に骨髄異形成症候群を合併した 2 例  
Two cases of myelodysplastic syndrome and neck infection after chemoradiotherapy for hypopharyngeal carcinoma  
.....中央市民病院 耳鼻咽喉科 戸 部 陽 太.....67

VI. 6	口腔癌皮弁再建術後に皮弁上に発癌した2症例 .....中央市民病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 道田哲彦.....	70
VI. 7	頬部に発生した線維肉腫成分を伴う隆起性皮膚線維肉腫の一例 .....中央市民病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 道田哲彦.....	71
VI. 8	組織内照射治療後20年以上経過し、照射野に再び発生した舌癌の2症例 .....中央市民病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 安本眞美他.....	72
VI. 9	当院における口蓋小唾液腺腫瘍の検討 .....中央市民病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 池永直.....	73
VI. 10	頬粘膜癌の臨床的検討ー多施設後方視研究の口腔癌データベースからー .....中央市民病院 頭頸部外科 篠原尚吾.....	74
VI. 11	Clinical outcomes of scalp angiosarcoma treated with intensity-modulated radiotherapy .....中央市民病院 放射線治療科 岩井貴寛.....	75
VI. 12	新型コロナウイルス感染症に対するがん患者の不安と対処について .....中央市民病院 看護部・緩和ケアセンター 梅田節子他.....	78
<b>(2) 松本アレルギー疾患研究事業</b>		
VI. 13	鼻腔及び喉頭に病変を来たすIgG4関連疾患 .....中央市民病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 濱本文美.....	85
<b>(3) 医学振興事業</b>		
VI. 14	担がん患者のDOACsを用いた深部静脈血栓症治療における治療効果予測因子の検討 .....中央市民病院 臨床検査技術部 鳥居裕太.....	86

## VII. 病院別診療科別論文発表及び学会報告数

VII. 1	中央市民病院 .....	89
VII. 2	西市民病院 .....	89
VII. 3	西神戸医療センター .....	90
VII. 4	神戸アイセンター病院 .....	90

## VIII. 論文発表

VIII. 1	中央市民病院 .....	91
VIII. 2	西市民病院 .....	132
VIII. 3	西神戸医療センター .....	135
VIII. 4	神戸アイセンター病院 .....	141

## IX. 学会報告

IX. 1	中央市民病院 .....	143
IX. 2	西市民病院 .....	209
IX. 3	西神戸医療センター .....	217
IX. 4	神戸アイセンター病院 .....	231

I. 総

説

# I. 総 説

## I. 左室駆出率の保持された心不全 (Heart Failure with Preserved Ejection Fraction ; HFpEF) の本質と心不全パンデミック

木原 康樹<sup>1, 2)</sup>

<sup>1)</sup> 神戸市立医療センター中央市民病院病院長

<sup>2)</sup> 広島大学名誉教授 (循環器内科学)

### 要 旨

高血圧症あるいは代謝障害を患う高齢者が罹患する垂型の心不全 HFpEF (左室駆出率の保持された心不全) が注目されている。HFpEF は心室の構造変化がもたらす拡張障害がその基本病態と考えられてきたが、複雑な末梢臓器との連関が関与しているとの報告が集まりつつある。本稿ではそれらを概括し、定説にとらわれない発想を喚起したい。末梢臓器との連関を考慮すれば HFpEF に対する治療方法も開発が展開すると思われる。

キーワード：心不全、HFpEF、拡張障害、動脈硬化、心室 - 動脈連関

(神戸市立病院紀要 61 : 1 - 11, 2022)

## Reconsidering the pathophysiology of heart failure with preserved ejection fraction and diastolic dysfunction

Yasuki Kihara, MD, PhD<sup>1, 2)</sup>

<sup>1)</sup> Director, Kobe City Medical Center General Hospital

<sup>2)</sup> Professor Emeritus (Cardiovascular Medicine) , Hiroshima University

### Abstract

Heart failure with preserved ejection fraction (HFpEF), a novel concept of heart failure with normal contractile performance, plays a substantial role in the elderly population in Japan. The underlying pathophysiology of HFpEF may be a stiffening ventricle and its subsequent diastolic noncompliance. However, recent investigations suggest more complex interactions between the ventricle and peripheral organs including sclerotic arterioles, sarcopenic skeletal muscles, and imbalanced autonomic nervous systems. The author summarizes the limitations of the diastolic dysfunction theory and what would be expected from the new theory of organ interactions.

Key words : heart failure, heart failure with preserved ejection fraction, diastolic dysfunction, arteriosclerosis, aorto-ventricular coupling

(Kobe City Hosp Bull 60 : 1-11, 2022)

## はじめに

本世紀の初頭から HFpEF（左室駆出率の保持された心不全）という心不全における新たな疾患カテゴリーが現れ、実態が十分に理解されないまま、臨床医たちはその概念に振り回されている。著者もそのひとりであるが、定説としての左室拡張障害機序では単純に説明できない症例も少なくないと感じている。本総説においては、HFpEF の立ち位置とその病態機序に関する現在までの議論の推移を概括し、臨床実践への一助としたい。

## I. 心不全パンデミックにおける HFpEF の重要性

### 1. 心不全患者の増大と心不全パンデミック

高齢者人口が増大する本邦において慢性心不全患者が顕著に増加していることが報告されている<sup>1-4)</sup>。全国で罹患者は130万人に迫るといわれ<sup>1)</sup>、J-ROAD 疫学調査によると、心不全による入院は毎年1-2万人ずつ増加しており<sup>4)</sup>、医療資源を圧迫する因子となっている。日本循環器学会等では「心不全パンデミック」と呼称し、社会に対して注意喚起を行っている。著者らによる広島県内2次医療圏域での疫学調査によると、心不全入院患者の年齢中央値は79歳であり、10年前の報告に比較して約10歳高齢側にシフトしている<sup>5-7)</sup>。半数近くがオクトゲナリアンで構成されているということは、健康寿命と生物寿命との間を占める人口の多くが心疾患に侵されていることを物語っている。

### 2. 新たな心不全カテゴリーとしての HFpEF

心不全とは一般に虚血性心疾患や拡張型心筋症などに代表されるような心臓とりわけ左心室が拡大しその収縮力が低下した病態を典型例として挙げてきた。そこでは左室収縮力の指標である左室駆出率 (LVEF) が低下することに対して、左室拡張末期容量 (LVEDV) が増大して代償する。従って、心不全患者は心室の拡大を反映して心胸郭比が増大した胸部レントゲン像を呈すると考えてきた。ところが近年になり、そのような心拡大像を呈することがなく、うっ血は顕著ではあるが、心エコー検査をしても左室収縮能は正常である患者の一群があることに注目が集まった。そのようなグループはそもそも心不全にカウントされてこなかった訳であるが、注意して調べると、LVEF の低下した心不全と同等数に達するほど多数にのぼり、しかも心臓の活動は一見正常でありながら予後は従来の心不全患者と同様に不良であることが指摘をされるようになった<sup>8-11)</sup>。心臓病学者たちは従来の心不全を LVEF の低下した心不全 (Heart Failure with reduced EF: HFrEF) と称して、この新たな疾患群 (Heart Failure with preserved EF) と区別をつけるようになった。前掲の広島県での心不全疫学調査では、

た<sup>8-11)</sup>。心臓病学者たちは従来の心不全を LVEF の低下した心不全 (Heart Failure with reduced EF: HFrEF) と称して、この新たな疾患群 (Heart Failure with preserved EF) と区別をつけるようになった。前掲の広島県での心不全疫学調査では、

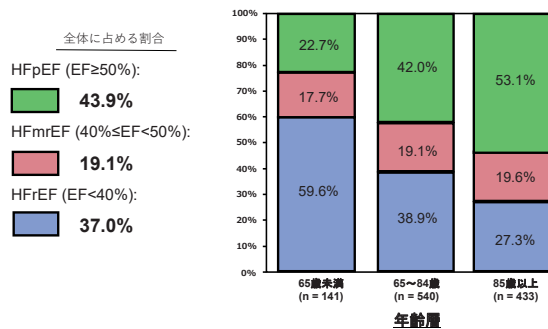


図1 広島県基幹病院における心不全入院患者の横断調査: REAL-HF における左室駆出率および年齢別の心不全患者分布, n = 1141, Kitagawa T, Kihara Y, et al. Circ Rep 2019; 1: 112-117<sup>5)</sup> より改変。

HFpEF 患者が全体の44%を占めていた。65歳以下非高齢者の大多数は従来の心不全である HFrEF で構成されていたが、85歳以上の超高齢者に焦点を当てるとその半数以上は HFpEF であり、若年者とは顕著な対比をなすことが明らかになった<sup>5)</sup>。社会で生じている心不全パンデミック、即ち増加する高齢心不全患者の多くが、HFpEF であり、HFpEF の増大こそが現代における心不全患者増加の本体であることが推測される。

## II. HFpEF の左室拡張障害説

### 1. HFpEF の臨床像

国外における臨床疫学調査でも、臨床上心不全症状を呈する症例の約半数が LVEF の正常もしくは保たれた心不全、即ち HFpEF であることが報告されている<sup>8-11)</sup>。前述の広島県での研究を含め国内での疫学調査も同様である。その臨床像における特徴として挙げられているのは、1) 臨床的に心不全症状 (肺うっ血と運動耐容能低下) を呈し、2) LVEF が正常に保たれている、3) ドプラ心エコー法もしくは心臓カテーテル検査で左室拡張能障害が証明されているの3点を軸に考えるのが標準的とされている<sup>12-13)</sup>。著者はそれに、4) 高齢、フレイル、高血圧、糖尿病、肥満、慢性腎臓病など併存症の合併、そして5) HFrEF で有効性が確立した薬物治療法のほとんどが HFpEF では予後改善効果を示さないことを挙げておきたい<sup>14-17)</sup>。



## 2. HFpEF と左室拡張障害

左心室の力学的挙動は、収縮、駆出、弛緩、拡張の4相をもって把握されるものとされ、それは左室圧-容量曲線によってよく表現されてきた。その点で左心室の収縮・駆出動態と同時に弛緩・拡張期特性が解析され、その定量的取り扱いと病態における修飾については20世紀後半の心臓力学で様々な理解が進んだ。虚血性心疾患、特発性心筋症、その他多くの変性疾患においては、収縮期特性と同時に(程度の差こそあれ)拡張期特性にも障害があることが示され、それらの負荷依存的挙動や収縮と弛緩との連関についても把握されたところである<sup>18-20)</sup>。

一方で、弛緩・拡張期特性の定量化に欠かせなかったカテ先圧マノメーター付きカテーテルや左室内インピーダンスカテーテル(瞬時左室容量測定)等の臨床使用は、その侵襲性や費用、そして臨床判断や治療選択における決定的役割の欠如などを理由に、21世紀初頭を境に特殊な臨床研究等を除いて限定されたものとなった。それら侵襲的カテーテル検査法の衰退を生じた要因のひとつに、心エコー検査の応用発展により非侵襲的に左室拡張期特性が見かけ上定量化できるようになったことがある<sup>21-23)</sup>。左室への拡張期血液流入(経僧帽弁血流)をドップラ信号として捉えると、そのパターンは受動的に左心房圧と左室拡張期圧との差分によって決定されているため、左室拡張障害で左室拡張期圧が十分に低下しないときには、その差分(陰圧部分)を減少させたり、あるいは流入を妨げて左心房内圧を上昇させたりすることが特徴的な僧帽弁流入血流パターンを形成する。これらの血流指標に加えて、左室(僧帽弁下部)心筋組織ドップラ信号と組み合わせとして表現する( $E/e'$ )ことにより血流信号自体よりも前負荷に依存しない左室拡張能の把握が可能となるとされた<sup>24-28)</sup>。そのため従来は診断が技術的に困難とされていた左室拡張障害もカテーテル検査によらず外来診療も含めての応用が可能となり、広く普及することとなった。その一方で、詳細かつ本質的な左室弛緩・拡張特性(とりわけ心筋ストレス-ストレイン関係を基にした心筋ステイフネス指標)の直接的定量化を伴う学術的追及は限定的となった。

その時期を前後して、HFpEFという新たな心不全亜型が注目を集めることとなった。心臓病学者がまず気づいたことは、LVEFが正常範囲にある一方、これらの患者は心エコー検査で左室流入血流ドップラパターンや $E/e'$ 測定値が押しなべて異常であることである<sup>28-30)</sup>。従って、HFpEFは、HFrfEFの

収縮障害に対して心室拡張障害こそがその本態であると解されることになった。

## 3. $E/e'$ 高値が意味するところ

組織ドプラ法は、心筋の収縮・拡張速度を検出する方法で、僧帽弁輪の長軸方向の速度( $e'$ )を評価する。僧帽弁血流速波形の計測と組み合わせることで( $E/e'$ )非侵襲的に左室拡張末期圧の推定が可能とされる。左房圧と左室弛緩の両方の影響を受ける僧帽弁 $E$ 速度を $e'$ 速度で除すことで、左室弛緩の影響を除去し、左房圧(左室充満圧)を予測する。通常、平均 $E/e'$ 比の値が8未満の場合は左室充満圧が正常であることを示し、値が14を上回る場合は左室充満圧上昇と判定する。拡張障害の推定が困難な経僧帽弁血流(TMf)融合例や心房細動においても左室拡張末期圧の推定が可能で、各種心疾患における左室拡張機能の推定における有用性が示されている。一方で、肥大型心筋症における左室拡張末期圧推定に関しては、対象患者数を増やした追試験では以前報告されたほどの精度はないとの報告がある。また左室容積が大きく心係数が小さな非代謝性心不全患者における $E/e'$ は左室拡張末期圧と相関がないことが示されている。つまり $E/e'$ の解釈に関しては、病態に応じた考慮が必要である<sup>31)</sup>。左室拡張機能不全を検出するための4つの評価項目およびその異常カットオフ値としては、僧帽弁輪 $e'$ 速度(中隔側 $e' < 7\text{cm/sec}$ 、側壁側 $e' < 10\text{cm/sec}$ )、平均 $E/e'$ 比 $> 14$ 、左房最大容積指標 $> 34\text{ mL/m}^2$ 、および最大TR速度 $> 2.8\text{ m/sec}$ が推奨されており、それらの半分を超える評価項目が異常機能を示唆するカットオフ値を満たさない場合の左室拡張機能は正常であるとされる。半分を超える評価項目がこれらのカットオフ値を満たす場合、左室拡張機能不全と判断される。評価項目の半分がカットオフ値を満たさない場合、結果は不確定となる<sup>31)</sup>。なぜこのように複雑かと云えば、基本的にこれら指標は心筋組織の拡張特性そのものではなく、拡張末期圧や圧格差を表現する指標であるからである。左室拡張末期圧の上昇は左室心筋の拡張期特性の異常に起因するという部分には少なからず論理の飛躍がある。

## Ⅲ. HFpEF 診断基準の変遷

### 1. 従来のHFpEF診断基準

ヨーロッパ心臓病学会(ESC)の『心不全診断ガイドライン2016』におけるHFpEFの診断基準は以下のものであった；①心不全を疑う症状、身体所

見がある、② 左室駆出率 (left ventricular ejection fraction : LVEF) が保たれている (LVEF  $\geq 50\%$ )、③ ナトリウム利尿ペプチドの上昇 : BNP  $\geq 35$  pg/mL、NT-proBNP  $\geq 125$ pg/mL、④ 心不全の原因となり得る心臓の機能的異常がある、⑤ 心臓超音波検査にて以下の基準を満たす ; 1) 左房容積係数 (left atrial volume index : LAVI)  $> 34$  mL/m<sup>2</sup>、2) 左室心筋重量係数 (left ventricular mass index : LVMI)  $\geq 115$  g/m<sup>2</sup> (男性)、 $\geq 95$  g/m<sup>2</sup> (女性)、3) 左室流入血流速波形 E/e'  $\geq 13$  cm/s、中隔と側壁の平均 e'  $\leq 9$  cm/s<sup>32)</sup>。従って、ESC は LVEF が正常ながら心不全症状と心臓の異常があり、BNP と E/e' 指標のごとく左室拡張末期圧上昇が示唆される指標が異常の場合に HFpEF と診断しようと教示している。

## 2. H<sub>2</sub>FPEF スコアのもたらしたパラダイムシフト

ところが、Mayo Clinic が長年集積した HFpEF 患者に関する疫学データの解析から新たな診断推定方法 H<sub>2</sub>FPEF スコア (HFpEF 予測因子) が 2018 年に提唱された<sup>17)</sup>。この解析の単変量解析の段階においては、BNP や E/e' などの左心室動態に由来する定量因子も多数含まれていたが、更に多変量解析を実施した結果では下図の如く、E/e'  $> 9$  と肺高血圧症 (PAP  $> 35$  mmHg) を除くと他は併存症に関する因子しか残存しないことになった。H<sub>2</sub>FPEF スコアとして重みづけが行われ (肥満と心房細動に重点化)、0-9 点で表現すると、精度の高い発症予測が可能となったという (3 点以上は約 60% の発症確立を有する)。このスコアが示唆するところは、併存症が重なれば重なるほど HFpEF が発症する確率が高くなるということであり、左室拡張指標が示唆する拡張機能障害の程度が発症に寄与する意味は一義的ではなく、付加的な因子に過ぎないということになる<sup>17,33)</sup>。

一体どのように理解されるかといえ、HFpEF においては心臓という臓器に病態の首座、即ち「心筋病変に伴う拡張機能障害とその結果としての左室拡張期圧上昇 (肺うっ血)」がありその程度が病態を決定している、との想定がどうもそれだけではないということである。では、HFpEF という心不全はなぜどのように心不全になるのであろうか。

	Clinical Variable	Values	Points
H <sub>2</sub>	Heavy	Body mass index $> 30$ kg/m <sup>2</sup>	2
	Hypertensive	2 or more antihypertensive medicines	1
F	Atrial Fibrillation	Paroxysmal or Persistent	3
P	Pulmonary Hypertension	Doppler Echocardiographic estimated Pulmonary Artery Systolic Pressure $> 35$ mmHg	1
E	Elder	Age $> 80$ years	1
F	Filling Pressure	Doppler Echocardiographic E/e' $> 9$	1
<b>H<sub>2</sub>FPEF score</b>			<b>Sum (0-9)</b>
Total Points			0 1 2 3 4 5 6 7 8 9
Probability of HFpEF			0.2 0.3 0.4 0.5 0.6 0.7 0.8 0.9 0.95

参考文献 17) より転載許諾のもと引用

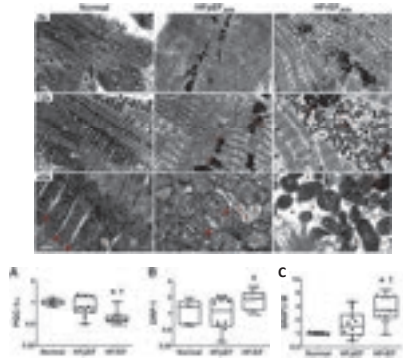
図 2 HFpEF の発症を予測する H<sub>2</sub>FPEF スコア<sup>17)</sup> メイヨークリニックでの HFpEF 患者プールおよびその追跡結果に基づき策定された。肥満と高血圧と心房細動が合併する個体でのスコアは総計 6 点となり、将来 HFpEF を発症するリスクは 90% を超えることとなる。

## 3. HFpEF の心筋組織病変、HFrfEF との対比

その前に、HFpEF 患者の心筋にどのような病変が示されているのかを概説する。HFpEF は収縮動態が一見正常でありながら肺うっ血を主徴とする血行動態異常を呈する症候群であるから、当然その原因疾患は単一ではない。以前より特発性肥大型心筋症などの求心性左室肥大 (壁厚増大と左室内腔狭小化) を伴う心筋変性疾患の拡張機能障害は詳細に検討されている<sup>34-35)</sup>。心臓アミロイドーシス等の心筋細胞内への蛋白貯留による変性疾患もそのような拡張障害を特徴とする。心臓アミロイドーシスについては従来その診断能力が低かったために過小評価されており<sup>36-38)</sup>、実際には HFpEF のほとんどはアミロイドーシスであるとする意見もある。一方、求心性左室肥大を生じる代表的な病態には高血圧症が古くから知られている。高血圧心とスポーツマンの肥大心との相違であったり、病的左室肥大の病理であったり、主に線維化を伴う左室組織性状やその結果としての拡張障害から説明されてきており、高血圧心の少なくとも一部はやはり HFpEF に関与することが想像される<sup>39-40)</sup>。このように左室拡張機能障害を来す原因病理については、不均一な集団を扱っていることになる。その中で心筋症や心アミロイドーシスなどの明確な診断下にあるサブグループを除外した後の原因が明確でない部分が HFpEF の大多数を占めていることには異論がない。

ではそのような原因疾患が不明の HFpEF 患者の心筋にはどのような病変が認められているのか。一

言でいえば、求心性左室肥大と中等度までの線維化、それに左房拡大を除いては劇的変化がないというのが現在のコンセンサスである<sup>37,41)</sup>。ChaanineらはHFpEF患者の左室心筋生検を実施して電子顕微鏡で詳細な観察を行い、HFrfEF患者のそれと比較している<sup>42)</sup>。筋原線維の配列構造に異常はない。HFrfEFでは心筋細胞内

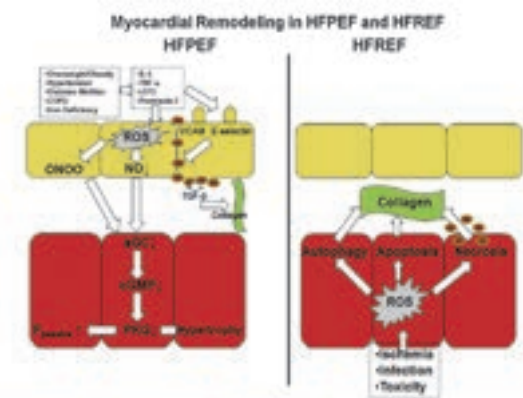


参考文献 42) より転載許諾のもと引用  
 図3 正常、HFpEF患者、およびHFrfEF患者より得られた左室心筋生検標本の電顕写真と同標本における心筋ミトコンドリアの遺伝子発現<sup>42)</sup>。HFpEF心筋ではミトコンドリアのマスタースイッチ遺伝子は低下しておらず(A)、分割機転の活性化もない(B)。

ミトコンドリアマスタースイッチの遺伝子発現を検討してもHFrfEFのような落ち込みは示されない。Hahnらによる心筋生検標本における遺伝子発現パターンの検討においても、HFpEF心筋の挙動はHFrfEFとは異なるものであることが示されている<sup>43)</sup>。とりわけミトコンドリアにおけるoxidative phosphorylationは(患者の肥満の程度とも相関しつつ)HFrfEFとは逆に発現亢進を示した。その他にendoplasmic reticulum stress、autophagy、それにangiogenesis関連遺伝子がダウンレギュレーションを示したがこれらはHFrfEFと同方向であった。

一方、液性因子の解析においては、HFpEF患者の血清は、炎症性サイトカインの上昇を示すことが知られている<sup>44-48)</sup>。PaulusらはHFpEFでは心室内膜や冠動脈を含む全身の血管系とりわけ血管内皮に広範な炎症が生じているとの仮説を講じ、HFrfEFでの障害が心筋細胞における酸化ストレスを介する組織障害の進行であることは根本的に異なる可能性を提唱している<sup>49)</sup>。上流には肥満、高血圧、糖尿病などの炎症を惹起する併存症とその病態があり、それらが液性因子を介して血管・心室内皮細胞に酸化ストレスを発生させ、結果として近接する心筋細胞でのsGC-cGMP-PKGシステムを麻痺させて心筋組織の弛緩を障害すると考えた。同仮説には未だに具体的証明は欠けているが、これまで

の心筋拡張障害説一辺倒から、HFpEF患者が有する併存症との関係を考察させる手がかりを与えた。HFpEFの中には冠動脈狭窄や冠動脈末梢循環障害を有する患者が少なからず存在することも報告されているが<sup>50-53)</sup>、冠微小循環障害に基づく拡張障害である可能性はPaulusらの内皮細胞障害仮説と結びついて、捨てがたい可能性である<sup>52,53)</sup>。しかしながら、もしPaulusらの仮説が病態の実相なのであれば、心臓・冠動脈系のみならず身体の隅々にまで広く分布する内皮細胞とその血管系にも押しなべて病態があると考えする必要はないのであろうか。



参考文献 49) より転載許諾のもと引用  
 図4 PaulusによるHFpEF炎症説<sup>49)</sup>。HFrfEFでは心筋細胞が病態の首座であったが、HFpEFにおいては隣接する内皮細胞に一次的な炎症が生じていると説く。

#### IV. HFpEFの併存症と心外病変

##### 1. HFpEF併存症の多様性と共有される病態

HFpEFと診断される患者の特徴は地域ごとに大きな違いがあることが知られている。本邦における患者の多くが高齢者であることを示したが、それは世界的にそうなのではない。そもそも80歳以上が人口に大きな割合を占める地域が乏しい。アメリカや新興国ではより若い年齢で肥満や糖尿病それに高血圧を基礎に持つ割合が圧倒的に大きい。女性に偏在していることも特徴である<sup>54)</sup>。一方、CKDやCOPDを背景とする患者群も指摘されている。表象における多様性と治療方策多角化の必要性が、目下根本的治療法のないHFpEFにおいて、更なる混乱を来す要因になっている。

これら様々な併存症の共通項としては、生活習慣病という括りで語られる生活スタイルと密接に関わっている個体環境であり、病態の中でサイトカインシグナルを介して炎症機転を起こす。その主たる標的はPaulusも指摘するように血管系にあるが、

心臓という臓器を主たるターゲットとするものではない。いくつかの拡張障害を呈する小動物心不全モデルが提唱されているが、それらの全てが高血圧や肥満、代謝障害等を基礎に持つモデルであることも興味深い<sup>55)</sup>。

血中 miRNA の発現についての網羅的検討においても、HFpEF に特異的な活性化 miRNA は目下同定されてはいない<sup>56,57)</sup>。HFpEF における活性化 miRNA 群は、炎症惹起、血管内皮機能障害、代謝障害、線維化を通して HFpEF 心筋細胞の遺伝子発現に影響を与えることが想定されるが、それら活性の直接的要因には、糖尿病、肥満、高血圧、COPD など併存症の存在がある。これらの所見は、H<sub>2</sub>FPEF スコアが示す併存症の HFpEF 発症への関与と矛盾しないし、必ずしも心筋細胞がその直接の標的でなくてもよい。

## 2. 内皮依存性血管弛緩反応と HFpEF

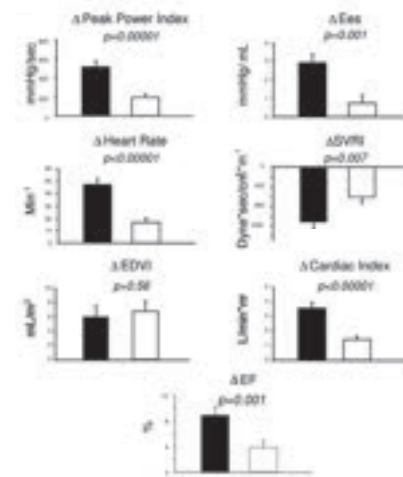
図 5 HFpEF 患者とそうでない者との上腕動脈内皮依存性弛緩反応 (FMD)、ニトログリセリン依存性弛緩反応 (NID)、および動脈壁厚 (IMT) との比較。HFpEF 患者では進行した内皮機能障害、平滑筋弛緩障害、それに動脈リモデリングが存在する。Kishimoto et al., Int J Cardiol<sup>59)</sup> のデータより改変作図。

広島大学循環器内科学教室と原爆放射線医学研究所は動脈硬化の病態解析において前腕動脈の内皮依存性血管拡張反応の定量法としての FMD (Flow-mediated vasodilatation) に着目し、データの集積や測定値の平準化を行ってきた。測定肢を加圧により 5 分間阻血した後に圧を開放すると末梢測では内皮で産生される NO に依存した一過性の血管拡張と血流増大が示される。この FMD は血管平滑筋に依存した NTG 依存性弛緩や血管リモデリング (血管壁厚の増大) などよりも早期から検出される機能的動脈硬化指標と考えられる<sup>58)</sup>。著者らは FMD を実施された被検者プールから、心エコー検査も同時期に行われ、2016 年 ESC の HFpEF 診断クライテリアを満たす患者を抽出し、年齢、性別等をマッチさせた非 HFpEF 群を抽出し比較を行った<sup>59)</sup>。HFpEF 重症度の指標として E/e' をプロットすると、FMD の減少 (即ち血

管内皮細胞機能の減衰) は HFpEF 重症度と相関した。更に平滑筋依存性血管弛緩反応の障害も HFpEF 重症度と相関し、血管リモデリングの程度も同様であった。この横断的検討が示唆するところは、末梢動脈硬化の進行は左室拡張期圧上昇を伴っているということである。動脈硬化が後負荷を増大させ、求心性左室肥大を介して心室拡張不全ひいては拡張期圧を上昇させる、という図式に目新しさはないかもしれない。しかし、著者らの研究における多変量解析の結果では、E/e' の規定因子に FMD などの末梢動脈硬化指標は有意な関係性を示したものの、心エコー測定上の左室壁厚、左室心筋重量、および左房径は関係性を否定された。従って、末梢動脈系と中心圧とは従来の概念を越えてより密接な関係にあることが示唆される。

## 3. 末梢血流障害を示唆する知見

HFpEF の重大な特徴として、運動負荷や陽性変時負荷に対しての最大酸素摂取能 (PeakVo<sub>2</sub>) の制限、即ち運動耐容能低下がある。負荷時における急速な中心血圧の上昇とうっ血がその一次要因と考えられてきたが、どうもそうではない。Fermoye らは運動負



荷前後での造影 CT 検査により、胸腔内における血液プールを定量化した<sup>60)</sup>。すると HFpEF においても肺血流量は対象に比して増加しておらず、運動による増加も認められなかった。Borlaug らも肺野血液量が HFpEF 患者の運動負荷時に変化しないことを

増加しておらず、運動による増加も認められなかった。Borlaug らも肺野血液量が HFpEF 患者の運動負荷時に変化しないことを

確認した<sup>61)</sup>。彼らはまた心プルスキャンでの血行動態測定と心肺運動負荷代謝指標を定量化し、HFpEFでの運動時心拍出係数増加の頭打ちが拡張末期指標ではなくむしろ心拍数増加の減高(迷走神経緊張を伴う自律神経障害)および末梢血管抵抗の調節障害とに關係していることを示した<sup>61)</sup>。Kawaguchiらは詳細な血行動態測定によりHFpEF患者では、左室収縮末期圧-容量關係から導かれる心室ステイフネスが負荷依存的に高値であることを証明した<sup>62)</sup>。同時にHFpEF患者の左心室は硬化した動脈に接続されているため左心室-動脈連関に異常があり、単位当たりの血液を末梢へ運搬するのに過剰なエネルギー消費を要する環境にあった。心臓リザーブの縮小、拡張期特性の障害、過剰なエネルギー需要などHFpEFにおける心臓挙動の異常の背景に末梢血管系の動脈硬化が必須であることが示唆された<sup>62)</sup>。従来の心筋代謝や構造の異常により心室拡張性に異常が生じるとの考えから、血管系との連関の中で心室負荷状況に依存した拡張特性の変容が生じる可能性が考えられ、著者らのHFpEF患者の血管機能異常が示すところも、このような流れの中で解釈が成り立つものと想像される。

Zamaniらによると、末梢での異常は血管系にとどまらない。彼らはHFpEF患者の末梢骨格筋における酸素取り込み能( $\Delta \text{Avo}_2$ )に低下があることを示した<sup>63)</sup>。骨格筋組織の脂肪化変性(adiposity)の程度と $\Delta \text{Avo}_2$ 低下との間に密接な相関があった。心筋におけるミトコンドリア活性の低下は乏しいことを述べたが、その一方でHFpEF患者の骨格筋のミトコンドリアマスタースイッチ遺伝子発現は顕著な低下があるとの報告もある<sup>64)</sup>。なかなか治療方法が確立しないHFpEFにおいて、慢性心血管リハビリテーションの予後改善を伴う有効性が示されつつあるが、骨格筋に対する直接効果を考えると興味深い<sup>65)</sup>。

ここまで述べてくると、HFpEFが心筋組織の弛緩・拡張障害でその全てを説明できない可能性が見えてくるであろう。それらが、心筋特性により決定されているというよりも、血流障害や代謝障害を有する末梢組織と接続されそれらに血流を供給する臓器として心臓の適応態度が表出していると想像する必要がある。更にそのメカニズムの具体を解明するとともに、治療介入点を見いだすことが課題としてある。

## おわりに

臓器と臓器との連関の中にしかも血行動態の修飾を通して病態が現れる。HFpEFにはそのように複雑なメカニズムが隠されており、単純に左心室の組織が硬

いというようなものではないことが明らかになってきたと考える。どうすれば更なる病態へのアプローチが可能になるのだろうか。簡単ではないが、著者には富岳のようなスーパーコンピュータの中に仮想臓器をプログラミングとして構築し、冠動脈系を備えた丸ごとの心臓と微小血管や骨格筋を有する末梢臓器とを様々なパラメータを与えながら接続を行うことではないかと考える<sup>66)</sup>。幸い富岳をベースとしたin-silico organの構築は心臓も含めて顕著な進展を示している。ここ港島においてこのような研究機関間の連携を実現し、問題の解決に繋げることは夢ではないかもしれない。その具体化に向けて自分に何ができるのかを考えたい。

最後に本年10月に開催された第26回日本心不全学会総会において、第10回日本心不全学会学会賞を受賞させていただいた。著者のライフワークである心不全・心筋収縮弛緩障害を長年にわたって支えていただいた多くの先輩、同僚、後輩諸氏にこの場を借りて御礼を申し上げる。

## 参考文献

- 1) Okura Y, Ramadan MM, Ohno Y, et al: Impending epidemic: future projection of heart failure in Japan to the year 2055. *Circ J.* 72 (3): 489-91, 2008
- 2) Yaku H, Ozasa N, Morimoto T, et al: Demographics, Management, and In-Hospital Outcome of Hospitalized Acute Heart Failure Syndrome Patients in Contemporary Real Clinical Practice in Japan - Observations From the Prospective, Multicenter Kyoto Congestive Heart Failure (KCHF) Registry. *Circ J.* 82 (11): 2811-2819, 2018
- 3) Shiraishi Y, Kohsaka S, Sato N, et al: 9-Year Trend in the Management of Acute Heart Failure in Japan: A Report From the National Consortium of Acute Heart Failure Registries. *J Am Heart Assoc.* 7 (18): e008687, 2018
- 4) Ide T, Kaku H, Matsushima S, et al: Clinical Characteristics and Outcomes of Hospitalized Patients With Heart Failure From the Large-Scale Japanese Registry Of Acute Decompensated Heart Failure (JROADHF). *Circ J.* 85 (9): 1438-1450, 2021
- 5) Kitagawa T, Hidaka T, Naka M, et al: Current Medical and Social Conditions and Outcomes of Hospitalized Heart Failure Patients: Design and Baseline Information of the Cohort Study in Hiroshima. *Circ Rep.* 1 (2): 112-117, 2019

- 6) Kitagawa T, Hidaka T, Naka M, et al : Current Medical and Social Issues for Hospitalized Heart Failure Patients in Japan and Factors for Improving Their Outcomes : Insights From the REAL-HF Registry. *Circ Rep.* 2 (4) : 226-234, 2020
- 7) Kitagawa T, Hidaka T, Watanabe N, et al : Current conditions and significance of outpatient cardiac rehabilitation and home nursing-care services in heart failure patients with mid-range or preserved ejection fraction : post-hoc analysis of the REAL-HF registry. *Heart Vessels.* 37 (5) : 745-754, 2022
- 8) Vasani RS, Larson MG, Benjamin EJ, et al : Congestive heart failure in subjects with normal versus reduced left ventricular ejection fraction : prevalence and mortality in a population-based cohort. *J Am Coll Cardiol.* 33 (7) : 1948-1955, 1999
- 9) Senni M, Redfield MM : Heart failure with preserved systolic function. A different natural history? *J Am Coll Cardiol.* 38 (5) : 1277-1282, 2001
- 10) Kitzman DW, Gardin JM, Gottdiener JS, et al : Importance of heart failure with preserved systolic function in patients  $\geq 65$  years of age. CHS Research Group. *Cardiovascular Health Study. Am J Cardiol.* 87 (4) : 413-419, 2001
- 11) Tsutsui H, Tsuchihashi M, Takeshita A : Mortality and readmission of hospitalized patients with congestive heart failure and preserved versus depressed systolic function. *Am J Cardiol.* 88 (5) : 530-533, 2001
- 12) Pieske B, Tschöpe C, de Boer RA, et al : How to diagnose heart failure with preserved ejection fraction : the HFA-PEFF diagnostic algorithm : a consensus recommendation from the Heart Failure Association (HFA) of the European Society of Cardiology (ESC). *Eur Heart J.* 40 (40) : 3297-3317, 2019
- 13) Tsutsui H, Isobe M, Ito H, et al : JCS 2017/JHFS 2017 Guideline on Diagnosis and Treatment of Acute and Chronic Heart Failure : Digest Version. *Circ J.* 83 (10) : 2084-2184, 2019
- 14) Vasani RS, Levy D : Defining diastolic heart failure : a call for standardized diagnostic criteria. *Circulation* 101 (17) : 2118-2121, 2000
- 15) Nagueh SF, Smiseth OA, Appleton CP, et al : Recommendations for the Evaluation of Left Ventricular Diastolic Function by Echocardiography : An Update from the American Society of Echocardiography and the European Association of Cardiovascular Imaging. *J Am Soc Echocardiogr* 29 (4) : 277-314, 2016
- 16) Ho JE, Lyass A, Lee DS, et al : Predictors of new-onset heart failure : differences in preserved versus reduced ejection fraction. *Circ Heart Fail* 6 (2) : 279-286, 2013
- 17) Reddy YNV, Carter RE, Obokata M, et al : A Simple, Evidence-Based Approach to Help Guide Diagnosis of Heart Failure With Preserved Ejection Fraction. *Circulation* 138 (9) : 861-870, 2018
- 18) Grossman W, Barry WH : Diastolic pressure-volume relations in the diseased heart. *Fed Proc.* 39 (2) : 148-55, 1980
- 19) Janicki JS, Weber KT : Factors influencing the diastolic pressure-volume relation of the cardiac ventricles. *Fed Proc.* 39 (2) : 133-140, 1980
- 20) Burkhoff D, Mirsky I, Suga H : Assessment of systolic and diastolic ventricular properties via pressure-volume analysis : a guide for clinical, translational, and basic researchers. *Am J Physiol Heart Circ Physiol.* 289 (2) : 501-512, 2005
- 21) Nagueh SF, Appleton CP, Gillebert TC, et al : Recommendations for the evaluation of left ventricular diastolic function by echocardiography. *J Am Soc Echocardiogr.* 22 (2) : 107-133, 2009
- 22) Nagueh SF : Left Ventricular Diastolic Function : Understanding Pathophysiology, Diagnosis, and Prognosis With Echocardiography. *J Am Coll Cardiol Cardiovasc Imaging.* 13 (1 Pt 2) : 228-244, 2020
- 23) Galderisi M, Cosyns B, Edvardsen T, et al : Standardization of adult transthoracic echocardiography reporting in agreement with recent chamber quantification, diastolic function, and heart valve disease recommendations : an expert consensus document of the European Association of Cardiovascular Imaging. *Eur Heart J Cardiovasc Imaging.* 18 (12) : 1301-

- 1310, 2017
- 24) Mitter SS, Shah SJ, Thomas JD : A Test in Context : E/A and E/e' to Assess Diastolic Dysfunction and LV Filling Pressure. *J Am Coll Cardiol*. 69 (11) : 1451-1464, 2017
  - 25) Sunderji I, Singh V, Fraser AG : When does the E/e' index not work? The pitfalls of oversimplifying diastolic function. *Echocardiography*. 37 (11) : 1897-1907, 2020
  - 26) Sharifov OF, Gupta H : What Is the Evidence That the Tissue Doppler Index E/e' Reflects Left Ventricular Filling Pressure Changes After Exercise or Pharmacological Intervention for Evaluating Diastolic Function? A Systematic Review. *J Am Heart Assoc*. 6 (3) : e004766, 2017
  - 27) Arques S, Roux E, Luccioni R : Current clinical applications of spectral tissue Doppler echocardiography (E/E' ratio) as a noninvasive surrogate for left ventricular diastolic pressures in the diagnosis of heart failure with preserved left ventricular systolic function. *Cardiovasc Ultrasound*. 5 : 5-16, 2007
  - 28) Arques S : Current clinical applications of spectral tissue Doppler echocardiography (E/e' ratio) as a noninvasive surrogate for left ventricular diastolic pressures in the diagnosis of heart failure with preserved ejection fraction. Revisited 15 years later. *Ann Cardiol Angeiol (Paris)*. 70 (4) : 245-252, 2021
  - 29) Erdei T, Smiseth OA, Marino P, et al : A systematic review of diastolic stress tests in heart failure with preserved ejection fraction, with proposals from the EU-FP7 MEDIA study group. *Eur J Heart Fail*. 16 (12) : 1345-61, 2014
  - 30) Sharifov OF, Schiros CG, Aban I, et al : Diagnostic Accuracy of Tissue Doppler Index E/e' for Evaluating Left Ventricular Filling Pressure and Diastolic Dysfunction/Heart Failure With Preserved Ejection Fraction : A Systematic Review and Meta-Analysis. *J Am Heart Assoc*. 5 (1) : e002530, 2016
  - 31) Nagueh SF, Smiseth OA, Appleton CP, et al : Recommendations for the Evaluation of Left Ventricular Diastolic Function by Echocardiography : An Update from the American Society of Echocardiography and the European Association of Cardiovascular Imaging. *J Am Soc Echocardiogr*. 29 (4) : 277-314, 2016
  - 32) Ponikowski P, Voors AA, Anker SD, et al : 2016 ESC Guidelines for the diagnosis and treatment of acute and chronic heart failure : The Task Force for the diagnosis and treatment of acute and chronic heart failure of the European Society of Cardiology (ESC) Developed with the special contribution of the Heart Failure Association (HFA) of the ESC. *Eur Heart J*. 37 (27) : 2129-2200, 2016
  - 33) Teramoto K, Teng TK, Chandramouli C, et al : Epidemiology and Clinical Features of Heart Failure with Preserved Ejection Fraction. *Card Fail Rev*. 8 : e27, 2022
  - 34) Marian AJ, Braunwald E : Hypertrophic Cardiomyopathy : Genetics, Pathogenesis, Clinical Manifestations, Diagnosis, and Therapy. *Circ Res*. 121 (7) : 749-770, 2017
  - 35) Varma PK, Neema PK : Hypertrophic cardiomyopathy : part 1 : introduction, pathology and pathophysiology. *Ann Card Anaesth*. 17 (2) : 118-24, 2014
  - 36) Michels da Silva D, Langer H, Graf T : Inflammatory and Molecular Pathways in Heart Failure-Ischemia, HFpEF and Transthyretin Cardiac Amyloidosis. *Int J Mol Sci*. 20 (9) : 2322, 2019
  - 37) Hahn VS, Yanek LR, Vaishnav J, et al : Endomyocardial Biopsy Characterization of Heart Failure With Preserved Ejection Fraction and Prevalence of Cardiac Amyloidosis. *J Am Coll Cardiol Heart Fail*. 8 (9) : 712-724, 2020
  - 38) Oghina S, Bougouin W, Bézard M, et al : The Impact of Patients With Cardiac Amyloidosis in HFpEF Trials. *J Am Coll Cardiol Heart Fail*. 9 (3) : 169-178, 2021
  - 39) Slivnick J, Lampert BC : Hypertension and Heart Failure. *Heart Fail Clin*. 15 (4) : 531-541, 2019
  - 40) Dunlay SM, Roger VL, Redfield MM : Epidemiology of heart failure with preserved ejection fraction. *Nat Rev Cardiol*. 14 (10) : 591-602, 2017

- 41) Simmonds SJ, Cuijpers I, Heymans S, et al : Cellular and Molecular Differences between HFpEF and HFrEF : A Step Ahead in an Improved Pathological Understanding. *Cells*. 9 (1) : 242, 2020
- 42) Chaanine AH, Joyce LD, Stulak JM, et al : Mitochondrial Morphology, Dynamics, and Function in Human Pressure Overload or Ischemic Heart Disease With Preserved or Reduced Ejection Fraction. *Circ Heart Fail*. 11 (2) : e005131, 2019
- 43) Hahn VS, Knutsdottir H, Luo X, et al : Myocardial Gene Expression Signatures in Human Heart Failure With Preserved Ejection Fraction. *Circulation*. 143 (2) : 120-134, 2021
- 44) Schiattarella GG, Sequeira V, Ameri P : Distinctive patterns of inflammation across the heart failure syndrome. *Heart Fail Rev*. 26 (6) : 1333-1344, 2021
- 45) Riehle C, Bauersachs J : Key inflammatory mechanisms underlying heart failure. *Herz*. 44 (2) : 96-106, 2019
- 46) Loredó-Mendoza ML, Ramírez-Sánchez I, Bustamante-Pozo MM, et al : The role of inflammation in driving left ventricular remodeling in a pre-HFpEF model. *Exp Biol Med (Maywood)*. 245 (8) : 748-757, 2020
- 47) Hanna A, Frangogiannis NG : Inflammatory Cytokines and Chemokines as Therapeutic Targets in Heart Failure. *Cardiovasc Drugs Ther*. 34 (6) : 849-863, 2020
- 48) Olsen MB, Gregersen I, Sandanger Ø, et al : Targeting the Inflammasome in Cardiovascular Disease. *J Am Coll Cardiol Basic Transl Sci*. 7 (1) : 84-98, 2021
- 49) Paulus WJ, Tschöpe C : A novel paradigm for heart failure with preserved ejection fraction : comorbidities drive myocardial dysfunction and remodeling through coronary microvascular endothelial inflammation. *J Am Coll Cardiol*. 62 (4) : 263-71, 2013
- 50) Shah SJ, Lam CSP, Svedlund S, et al : Prevalence and correlates of coronary microvascular dysfunction in heart failure with preserved ejection fraction : PROMIS-HFpEF. *Eur Heart J*. 39 (37) : 3439-3450, 2018
- 51) Rush CJ, Berry C, Oldroyd KG, et al : Prevalence of Coronary Artery Disease and Coronary Microvascular Dysfunction in Patients With Heart Failure With Preserved Ejection Fraction. *JAMA Cardiol*. 6 (10) : 1130-1143, 2021
- 52) Taqueti VR, Solomon SD, Shah AM, et al : Coronary microvascular dysfunction and future risk of heart failure with preserved ejection fraction. *Eur Heart J*. 39 (10) : 840-849, 2018
- 53) Franssen C, Chen S, Unger A, et al : Myocardial Microvascular Inflammatory Endothelial Activation in Heart Failure With Preserved Ejection Fraction. *JACC Heart Fail*. 4 (4) : 312-24, 2016
- 54) Shah SJ, Kitzman DW, Borlaug BA, et al : Phenotype-Specific Treatment of Heart Failure With Preserved Ejection Fraction : A Multiorgan Roadmap. *Circulation*. 134 (1) : 73-90, 2016
- 55) Barandiarán Aizpurua A, Schroen B, van Bilsen M, et al : Targeted HFpEF therapy based on matchmaking of human and animal models. *Am J Physiol Heart Circ Physiol*. 315 (6) : H1670-H1683, 2018
- 56) Rech M, Barandiarán Aizpurua A, van Empel V, et al : Pathophysiological understanding of HFpEF : microRNAs as part of the puzzle. *Cardiovasc Res*. 114 (6) : 782-793, 2018
- 57) Schmitter D, Voors AA, van der Harst P : HFpEF vs. HFrEF : can microRNAs advance the diagnosis? *Eur J Heart Fail*. 17 (4) : 351-4, 2015
- 58) Maruhashi T, Soga J, Fujimura N, et al : Brachial artery diameter as a marker for cardiovascular risk assessment : FMD-J study. *Atherosclerosis*. 268 : 92-98, 2018
- 59) Kishimoto S, Kajikawa M, Maruhashi T, et al : Endothelial dysfunction and abnormal vascular structure are simultaneously present in patients with heart failure with preserved ejection fraction. *Int J Cardiol*. 231 : 181-187, 2017
- 60) Fermoye CC, Stewart GM, Borlaug BA, et al : Effects of exercise on thoracic blood volumes, lung fluid accumulation, and pulmonary diffusing capacity in heart failure with preserved ejection fraction. *Am J Physiol Regul Integr Comp*



Physiol. 319 (5) : R602-R609, 2020

- 61) Borlaug BA, Melenovsky V, Russell SD, et al : Impaired chronotropic and vasodilator reserves limit exercise capacity in patients with heart failure and a preserved ejection fraction. *Circulation*. 114 (20) : 2138-47, 2006
- 62) Kawaguchi M, Hay I, Fetis B, et al : Combined ventricular systolic and arterial stiffening in patients with heart failure and preserved ejection fraction : implications for systolic and diastolic reserve limitations. *Circulation*. 107 (5) : 714-720, 2003
- 63) Zamani P, Proto EA, Mazurek JA, et al : Peripheral Determinants of Oxygen Utilization in Heart Failure With Preserved Ejection Fraction : Central Role of Adiposity. *JACC Basic Transl Sci*. 5 (3) : 211-225, 2020
- 64) Molina AJ, Bharadwaj MS, Van Horn C, et al : Skeletal Muscle Mitochondrial Content, Oxidative Capacity, and Mfn2 Expression Are Reduced in Older Patients With Heart Failure and Preserved Ejection Fraction and Are Related to Exercise Intolerance. *J Am Coll Cardiol Heart Fail*. 4 (8) : 636-645, 2016
- 65) Kamiya K, Sato Y, Takahashi T, et al : Multidisciplinary Cardiac Rehabilitation and Long-Term Prognosis in Patients With Heart Failure. *Circ Heart Fail*. 13 (10) : e006798, 2020
- 66) Sugiura S, Okada JI, Washio T, et al : UT-Heart : A Finite Element Model Designed for the Multiscale and Multiphysics Integration of our Knowledge on the Human Heart. *Methods Mol Biol*. 2399 : 221-245, 2022

II. 原

著

## Ⅱ. 原 著

### Ⅱ. 当院における外国生まれ結核患者の検討

瀧口純司<sup>1)</sup>、李 正道<sup>1)</sup>、岩林正明<sup>1)</sup>、横田 真<sup>1)</sup>、橋本梨花<sup>1)</sup>、網本久敬<sup>1)</sup>、金子正博<sup>1)</sup>、  
藤井 宏<sup>1)</sup>、富岡洋海<sup>1)</sup>、藤山理世<sup>2)</sup>、楠 信也<sup>2)</sup>、有川健太郎<sup>3)</sup>、岩本朋忠<sup>3)</sup>

<sup>1)</sup> 神戸市立医療センター西市民病院 呼吸器内科

<sup>2)</sup> 神戸市健康局保健所 保健課

<sup>3)</sup> 神戸市健康科学研究所

#### 要 旨

(目的) 我が国における新登録結核患者総数のうち外国生まれ患者の割合は増加傾向である。当院における外国生まれ結核患者について、背景や臨床像を明らかにする。(対象と方法) 2016年1月から2020年12月までの5年間に当院での新登録結核患者のうち、外国出生者について後方視的に検討した。(結果) 外国出生患者は18例(男性8例、女性10例)。年齢階級別では20-29歳が13例を占め全員が留学生であった。入国から結核診断まで1年未満が多く、発見方法は検診12例、非検診6例であった。出生国はベトナム11例、ミャンマー3例、中国2例、スリランカとインドネシアが1例ずつであった。薬剤耐性は6例でみられた。(結論) 当院における外国生まれ結核患者は結核高蔓延国出身の若年者が多かった。抗結核薬耐性例も多くみられ、外国生まれ結核患者の診療にあたっては菌の培養検出と感受性検査が重要である。

キーワード：結核、外国生まれ、薬剤耐性、分子疫学的解析

(神戸市立病院紀要 61 : 13 - 17, 2022)

### Clinical features of foreign-born tuberculosis patients in our hospital

Junji Takiguchi<sup>1)</sup>, Masamichi Ri<sup>1)</sup>, Masaaki Iwabayashi<sup>1)</sup>, Makoto Yokota<sup>1)</sup>, Rika Hashimoto<sup>1)</sup>,  
Hisanori Amimoto<sup>1)</sup>, Masahiro Kaneko<sup>1)</sup>, Hiroshi Fujii<sup>1)</sup>, Hiromi Tomioka<sup>1)</sup>, Riyo Fujiyama<sup>2)</sup>,  
Shinya Kusunoki<sup>2)</sup>, Kentarou Arikawa<sup>3)</sup>, Tomotada Iwamoto<sup>3)</sup>

<sup>1)</sup> Department of Respiratory Medicine, Kobe City Medical Center West Hospital

<sup>2)</sup> Kobe City Public Health Bureau Public Health Management Center

<sup>3)</sup> Kobe Institute of Health

#### Abstract

Introduction: The proportion of foreign-born patients with tuberculosis (TB) in Japan has been increasing. This study aimed to clarify the background and clinical features of foreign-born TB patients in our hospital.

Materials and Methods: We retrospectively reviewed all foreign-born patients with TB presented to our hospital from January 2016 to December 2020.

Results: During the 5-year period, there were 18 foreign-born patients with TB (10 females). Of these, 13 were between the ages of 20 and 29 years, and all of them were international students. The country of origin of the patients was as follows: 11 from Vietnam, 3 from Myanmar, 2 from China, 1 from Sri Lanka, and 1 from Indonesia. Most of the patients identified during the health check-up had been in Japan for shorter than 6 months at the diagnosis. There were 6 cases of anti-tuberculosis drug resistance.

Conclusion: Most of the foreign-born patients with TB in our hospital were young and from countries with a high prevalence of tuberculosis. Because a considerable proportion of patients had anti-tuberculosis drug resistance, culture detection and susceptibility testing of bacteria are important for the treatment of foreign-born patients with tuberculosis.

Key word : tuberculosis, foreign-born, drug resistance, variable numbers of tandem repeat

(Kobe City Hosp Bull 61 : 13-17, 2022)

## はじめに

近年、日本における外国生まれ結核患者は増加傾向にある。結核の統計2021によると2020年の新登録結核患者のうち外国出生患者数は1,411人であり2019年から130人減少しているが、新登録結核患者総数12,739人のうち外国出生患者の割合は11.1%と前年の10.7%から増加している。特に若年層における増加が顕著であり、15-19歳では53.3%、20-29歳では71.3%を占めるに至っている<sup>1)</sup>。一般的に結核低蔓延状態になってからも順調に罹患率が減少することは少なく、先に低蔓延化を迎えた西欧先進諸国の多くが減少の鈍化に直面している。その最大の理由として罹患率の高い国からの外国人移住者、労働者の流入が指摘されている<sup>2,3)</sup>。神戸市立医療センター西市民病院は神戸市西市街地域に所在する358床の病院であり、年間数例の外国生まれ結核患者の診療にあたっている。神戸市の外国籍住民は近年増加傾向であり、2020年の時点で48,000人程度、中でもベトナムやネパール籍の住民が増加している。また当院の位置する長田区、兵庫区ではベトナム籍の住民が多い<sup>4)</sup>。神戸市の外国生まれ結核患者数は近年横ばいであるものの、20代においてはその大半を占めている<sup>5)</sup>。今回、我々は当院における在日外国人結核患者の動向や臨床像について検討を行い、今後の結核対策について考察を行った。

## I. 対象と方法

2016年1月から2020年12月までの5年間における当院での新登録結核患者186例のうち、外国出生者18例を対象とした。

診療録を調査し年齢、性別、出身国、職業、入国から受診までの期間、受診動機、病型<sup>6)</sup>、抗酸菌検査所見、転帰について後方視的に検討した。また分離された菌株についてはvariable numbers of tandem repeat (VNTR)法と疫学情報を併せた検討を加えた。なおVNTRは12領域分析法(JATA (12)-VNTR)と超多変領域(Hypervariable 4 loci: 3232、3820、4120、QUB11a)を対象として行った<sup>7)</sup>。

本研究は神戸市立医療センター西市民病院の倫理審査委員会の承認を受けて行われた(承認番号 第22-0065、承認日2022年5月24日)。

## II. 結果

Tableに当院における外国生まれ結核患者18例の年齢、性別、出身国、職業、入国から受診までの期間、受診動機、病型、抗酸菌検査所見、転帰を示した。

### 1. 患者背景(年齢、性別、出身国、職業)

当院で診断した外国生まれの結核患者数は年に2-7例で推移しており、性別は男性8例(44.4%)、女性10例(55.6%)、また20歳代が13例(72.2%)と大半を占めた(Figure 1)。出身国ではベトナムが11例(61.1%)、ミャンマー3例(16.7%)、中国2例(11.1%)、インドネシアとスリランカ各1例ずつであった(Figure 2)。職業は学生が15例(日本語学校生13例、その他2例)であった。

### 2. 受診動機と入国から受診までの期間

受診動機は健診発見が9例と最も多く、有症状受診は6例、接触者健診発見は3例であった(Figure 3)。入国から当院初診までの期間については、健診発見9例中7例が入国6か月以内と比較的早期に受診しているのに対し、有症状受診では6例中4例が受診までに7か月以上を要していた。

### 3. 結核の病型

18例中17例で肺結核を伴っていた。肺結核単独は14例で、肺結核に肺外結核を伴っていたのは3例(粟粒結核1例、結核性胸膜炎1例、結核性髄膜炎1例)であった。肺外結核単独は乳腺結核の1例のみであった。また肺結核17例のうち4例で空洞を認めた。

### 4. 抗酸菌検査

18例中15例で培養陽性であった。喀痰抗酸菌塗抹検査は肺結核を伴う有症状者5例中3例で陽性であった。当初、喀痰・胃液検査で菌が検出されなかったため、肺結核17例のうち10例で気管支鏡検査が施行された。最終的に気管支鏡検体のみが培養陽性となったのは5例であった。培養陽性となった15例のうち、なんらかの薬剤耐性が6例(40.0%)でみられた。薬剤耐性の内訳はイソニアジド(INH)1剤耐性が1例、ストレプトマイシン(SM)1剤耐性が1例、SM・カナマイシン(KM)2剤耐性が1例、INH・SM2剤耐性が3例であった。リファンピシン(RFP)耐性やINH・RFPを含む多剤耐性はみられなかった。

### 5. 転帰

転帰については17例が治療成功、転出は1例であった。なお転出した1例は帰国ではなく国内の他保健所に移管されていた。

### 6. 分子疫学的解析

接触者健診発見3例のうち2例が培養陽性となり、それぞれのindex caseとVNTRプロファイルの一致がみられた。2例の詳細であるが、1例は北京型modern typeで当院を受診した患者とルー

ムシエが確認された。もう1例は北京型ancient typeで日本語学校の同じクラスに喀痰塗抹陽性患者が発見され、接触者健診で診断された。上記2例は外国生まれ結核患者から感染・発病したと考えられる。その他の培養陽性13例については分子疫学のおよび実地疫学的調査から国内で感染した可能性は低いと考えられた。

### Ⅲ. 考察

この20年間、日本における結核罹患率は減少を続けている。2020年度の人口10万人対の結核罹患率は10.1と低下し、すでに低蔓延国の目安である10万人あたり10以下となった地域もある。COVID-19による受診差し控えの影響を考慮しても、近い将来に日本は結核低蔓延期に入ると予想される。加えて新登録結核患者のうち約40%を占め、これまで唯一増加していた80歳以上についても2018年に減少へと転じた。既感染高齢者の減少とともに日本生まれの結核患者は全体として減少傾向が続くと予想されている。一方で、外国生まれの年間新規結核患者は1000人を超え次第に増加している。結核低蔓延化を迎えた多くの先進国では、既に結核患者の大部分を外国出生者が占めている。2001年以降、米国では米国以外生まれの結核患者が過半数を占め<sup>8)</sup>、ヨーロッパ諸国でも外国出生者の割合が増加してきている<sup>9)</sup>。今後は日本においても欧米諸国でみられるように外国生まれ結核患者割合が高まることが予想される。

これまでの報告によると、外国生まれ結核患者が日本で結核と診断され届け出されるのは「入国後2年以内」が40%程度である<sup>10)</sup>。日本において結核患者が多い上位6か国のうち、近年では中国が減少に転じ、2015年以降はベトナム・インドネシア・ネパール出身者が増加しつつある<sup>10)</sup>。

今回の検討では大半がWHOによって指定されている結核高蔓延国<sup>11)</sup>の出身者であり、とくに神戸市で人口が増加しているベトナム出身者が多くみられた。また高蔓延国から来日した日本語学校生が入国早期に健診発見されるケースが最多であった。健診発見の大半は入国6か月以内の比較的早期に受診しており、喀痰抗酸菌塗抹検査は全例陰性であった。入国6か月以内に健診発見される患者の多くは発病した状態で来日していると考えられるが、既に欧米諸国では高蔓延国からの入国者に対する入国前結核スクリーニングが行われている。これにより入国前に診断される結核患者が増加し、入国後に診断され

る患者数は減少していることが報告されている<sup>12)</sup>。日本では2020年3月26日に「入国前結核スクリーニングの実施に関するガイドライン」が発表された<sup>13)</sup>。この制度はCOVID-19の影響もあり未だ実施に至っていないが、実施後は入国早期に健診発見される結核患者が減少すると予想される。

有症状受診者における入国から受診までの期間は6例中5例が7か月以上であり、さらに4例は1年以上であった。肺結核を合併した有症状者5例のうち3例が喀痰抗酸菌塗抹陽性であることも踏まえると、有症状者は病状が進行し排菌に至ってから受診している傾向が示唆された。また診断が確定した後も言語の問題から定期的な受診や服薬遵守といった課題が残る。

薬剤感受性検査についてはいずれかの抗結核薬に対する耐性症例が15例中6例と多く認められた。多剤耐性結核は認めなかったが、INH・SMに耐性が多い傾向があった。報告によると日本における多剤耐性結核症例数は外国生まれで増加傾向がみられており<sup>1)</sup>、2016年以降は過半数を占めている<sup>10)</sup>。日本での多剤耐性率と比べアジア諸国の多剤耐性率は初発例でも数倍高く<sup>10)</sup>、外国生まれ結核患者の診療に際しては多剤耐性結核対策が重要になる。喀痰、胃液で菌を採取できない場合は積極的に気管支鏡検査を行い、菌の培養検出と感受性検査に最大限の努力を要するが、言語の問題からも気管支鏡検査の説明と同意、実際の施行については容易ではないのが現状である。また、今回の検討では治療中の帰国(転出)や不明が既報に比べ少なかったが、治療完遂率向上のため開始時には6か月レジメンを選択し、保健所と連携し服薬支援を行うことが大切である。

接触者健診発見例におけるVNTRの結果からは、来日後もコミュニティ内で感染が拡大している可能性が示された。報告によると外国人の若者たちは学校に通うだけでなく飲食業などのアルバイトをして生活していることが指摘されている。高蔓延国から来日する若者は発病リスクの高い集団であり、来日後の過酷な生活(衣食住・労働環境)が発病の危険因子、病状の増悪因子となることが指摘されている<sup>14)</sup>。入国前スクリーニングのみならず、入国後の発症やコミュニティ内における感染拡大リスクから、入国後も定期健診が必要である。

### おわりに

日本は結核中蔓延国から低蔓延国への転換期を迎えている。既に外国生まれ結核患者数が自国民の結核患

者数が上回っている米国などの低蔓延国に学び、将来を見据えた新たな結核対策が必要である。

## 謝辞

神戸市立医療センター西市民病院総合内科 臨床検査技術部 微生物検査室

著者COI (conflict of interest) 開示:本論文発表内容に関して特になし。

## 参考文献

- 1) 公益財団法人結核予防会(編)：結核の統計2021. 公益財団法人結核予防会, 2021
- 2) Gilbert RL, Antoine D, French CE, et al : The impact of immigration on tuberculosis rates in the United Kingdom compared with other European countries. *Int J Tuberc Lung Dis* 13 : 645-651,2009
- 3) 石川信克：わが国の結核対策の現状と課題(3)「世界、日本の結核の疫学と課題」. *日本公衛誌* 55 : 791-794, 2008
- 4) 神戸市. 外国人の人口 <https://www.city.kobe.lg.jp/a47946/shise/toke/toukei/jinkou/kokusekibetsu.html> (参照 2022-08-23)
- 5) 神戸市保健所保健課. 神戸市感染症の話題2021(3) 結核 <https://www.city.kobe.lg.jp/documents/504/2021-3.pdf> (参照 2022-08-23)
- 6) 日本結核病学会用語委員会(編)：新しい結核用語辞典. 南江堂, 2008
- 7) 日本結核・非結核性抗酸菌症学会(編)：抗酸菌検査ガイド2020. 南江堂, 2020
- 8) Centers for Disease Control and Prevention(CDC) : Reported Tuberculosis in the United States, 2015. Atlanta,GA : US Department of Health and Human Services, CDC, 2016
- 9) Odone A, Tillmann T, Sandgren A,et al : Tuberculosis among migrant populations in the European Union and the European Economic Area. *Eur J Public Health* 25 : 506-512,2015
- 10) 公益財団法人結核予防会結核研究所疫学情報センター. Tuberculosis in Japan-annual report 2021(参照 2022-08-23)
- 11) World Health Organization. Global tuberculosis report 2021. <https://www.who.int/publications-detail-redirect/9789240037021> (参照 2022-08-23)
- 12) UK Health Security Agency. UK pre-entry tuberculosis screening Report 2021.[https://assets.publishing.service.gov.uk/government/uploads/system/uploads/attachment\\_data/file/1064395/TB\\_annual-report-2021.pdf](https://assets.publishing.service.gov.uk/government/uploads/system/uploads/attachment_data/file/1064395/TB_annual-report-2021.pdf) (参照 2022-08-23)
- 13) 出入国在留管理庁. 外務省. 厚生労働省. 入国前結核スクリーニングの実施に関するガイドライン. <https://www.mhlw.go.jp/content/000613443.pdf> (参照 2022-08-23)
- 14) 森野英里子, 高崎 仁, 杉山温人, 他 : 外国人結核の現状と課題. *結核* 91 : 703-708,2016

(受付 2022年9月8日、採択 2022年12月20日)

## Table

Gender	Age	Notification Year	Country of origin	Occupation	Case Finding Method	Length of stay in Japan	Smear of Sputum	Classification	Drug resistance	Outcome					
Male	8	10~19	1	2016	2 Vietnam	11 student	15 mass screening	9	6months or less	8 positive	4	0	1 any resistance	6 cure	17
Female	10	20~29	13	2017	4 Myanmar	3 self employee	1 medical institution	6	more than 6months	10 negative	14	I	0 non resistance	12 transfer out	1
		30~39	2	2018	7 China	2 office worker	1 contact examination	3				II	4		
		40~49	1	2019	3 Indonesia	1 N/A	1					III	13		
		50~59	0	2020	2 Sri Lanka	1						IV	0		
		60~69	0									V	0		
		70~79	1												

Figure 1

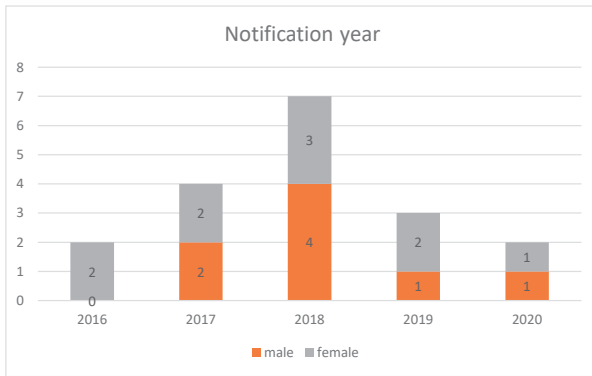


Figure 2

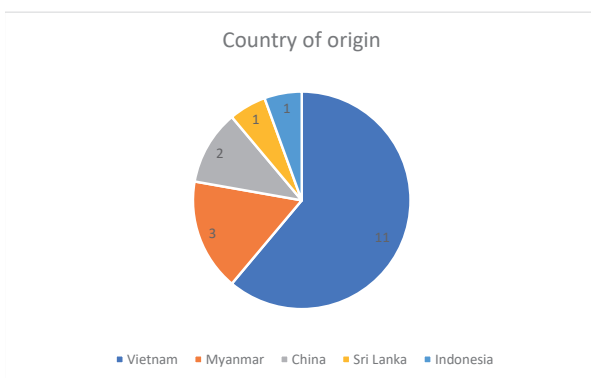
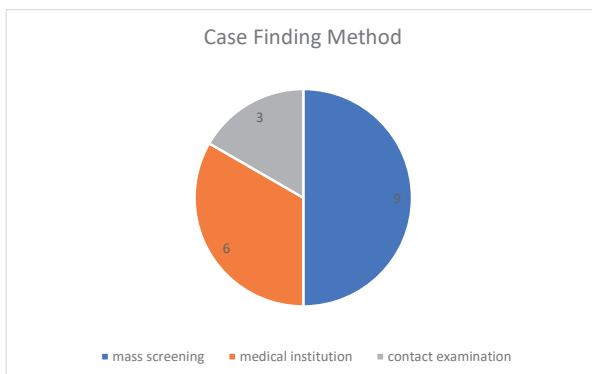


Figure 3



### Ⅲ. 症 例 報 告



## Ⅲ. 症例報告

### Ⅲ. 若年に発症した肺原発 clear cell tumor の 1 例

弘田大智<sup>1)</sup>、村井志織<sup>1)</sup>、井上友佳里<sup>1)</sup>、中 彩乃<sup>1)</sup>、岡村俊佑<sup>1)</sup>、吉田澄子<sup>1)</sup>、山下展弘<sup>1)</sup>、勝山栄治<sup>2)</sup>  
神戸市立医療センター西市民病院 <sup>1)</sup>臨床検査技術部 <sup>2)</sup>同病理診断科

#### 要 旨

肺原発の clear cell tumor (clear cell tumor of the lung : CCTL) は perivascular epithelioid cell が発生母地と推定されている非常にまれな腫瘍である。今回、我々は健診で発見された CCTL の一例を経験したので、その細胞像について報告する。症例は 19 歳、女性。健診で異常陰影を指摘され、当院に紹介となった。造影 CT 検査で右中葉に不均一な造影効果を示す 22mm 大の境界明瞭な類円形腫瘍を認めたため、胸腔鏡下右肺中葉切除術を施行した。肉眼所見は境界明瞭な 20×18mm 大の淡褐色調で均一な充実性腫瘍であった。捺印細胞診では、赤血球やリンパ球優位の炎症細胞を背景に顆粒状の細胞質を有する円形核の細胞や細胞質の乏しいほぼ裸核状の細胞を孤在性に少数みた。軽度の核腫大や核形不整を示すものの、N/C 比は低く、クロマチンの増量は認めなかった。組織所見では、気道構造や拡張した血管を巻き込みつつ、小型で異型に乏しい核、clear で比較的豊富な胞体を有する腫瘍細胞の増生をみた。免疫染色で HMB-45、CD34 陽性所見を認め、CCTL と診断した。

キーワード：肺原発 clear cell tumor、腫瘍捺印細胞診

(神戸市立病院紀要 61 : 19 - 23, 2022)

### Clear cell tumor of the lung in an adolescent

Daichi Hirota<sup>1)</sup>, Shiori Murai<sup>1)</sup>, Yukari Inoue<sup>1)</sup>, Ayano Naka<sup>1)</sup>, Shunsuke Okamura<sup>1)</sup>,  
Sumiko Yoshida<sup>1)</sup>, Nobuhiro Yamashita<sup>1)</sup>, Eiji Katsuyama<sup>2)</sup>

<sup>1)</sup> Department of Clinical laboratory, Kobe City Medical Center West Hospital, Hyogo, Japan

<sup>2)</sup> Department of Pathology, Kobe City Medical Center West Hospital, Hyogo, Japan

#### Abstract

Clear cell tumor of the lung (CCTL) is an extremely rare neoplasm arising from perivascular epithelioid cells. Here, we report a case of CCTL found during a medical examination, and describe its cytological findings. A 19-year-old female patient was referred to our hospital because of an abnormal chest shadow found on chest radiographs during a medical examination. Chest computed tomography (CT) showed a demarcated, oval, homogeneous lesion approximately 22 mm in diameter in the right middle lobe. A thoracoscopic right middle lobectomy was performed. Macroscopically, the tumor appeared well circumscribed, 20 × 18 mm in size, with a light brownish, homogeneous solid mass. Stump cytology of the resected specimen was performed before formalin fixation. The cytological preparations showed poor cellularity, and there were almost no clusters. The smear contained red blood cells and lymphocytes. The cells were granular, ill-defined, or had no preserved cytoplasm. They also had round or oval bland nuclei with a single nuclear body. The cells showed a low nuclear-cytoplasmic ratio. Histologically, the tumor consisted of round or oval clear cells with distinct cell borders, and a granular eosinophilic cytoplasm involving the respiratory tract tissue and dilated blood vessels. The immunohistochemical profile was positive for Human Melanoma Black (HMB) -45 and cluster of differentiation (CD) 34. Hence, CCTL was diagnosed.

Key words : clear cell tumor of the lung, stump cytology, adolescent

(Kobe City Hosp Bull 61 : 19 - 23, 2022)

## はじめに

肺原発の clear cell tumor (Clear cell tumor of the lung: CCTL) は1971年にLiebowとCastlemanによって初めて報告された<sup>1)</sup> perivascular epithelioid cell が発生母地と推定される<sup>2)</sup> 非常にまれな腫瘍である。CCTLの細胞学的報告はさらに少ない。

今回、われわれは健診で偶然発見されたCCTLの一例を経験し、摘出された腫瘍検体に捺印細胞診を施行し、その細胞像を評価できたので報告する。

## I. 症例

患者：19歳、女性。

主訴：自覚症状なし。

既往歴：特記事項なし。

家族歴：特記事項なし。

生活歴：特記事項なし。

現病歴：20XX年5月に健診で施行した胸部X線写真で異常陰影を指摘され、当院呼吸器内科に紹介された。

来院時の血液検査では特記すべき所見はなかった。

胸部X線写真では、心陰影に接する様に右下葉に22mm大の結節影を認めた。CT検査では、肺野条件で右中葉に22×16mm大の境界明瞭な類円形腫瘍を認めた。造影CT検査では、動脈相で不均一な造影効果を示し、後期相では比較的均一な造影効果を認めた(図1A、1B)。石灰化や空洞化、壊死様の所見は認めなかった。MRI検査では、T2強調画像で淡い高信号を示し、拡散強調画像でADC (apparent diffusion coefficient) の低下を認めた。PET (positron emission tomography) -CT検査ではFDG (<sup>18</sup>F-fluorodeoxyglucose) の集積は認めなかった。

以上の所見より、肺原発の腺癌、扁平上皮癌、小細胞癌などより硬化性肺胞上皮腫やカルチノイド腫瘍を疑った。悪性の可能性も否定できないため、胸腔鏡下右肺中葉切除術が施行された。

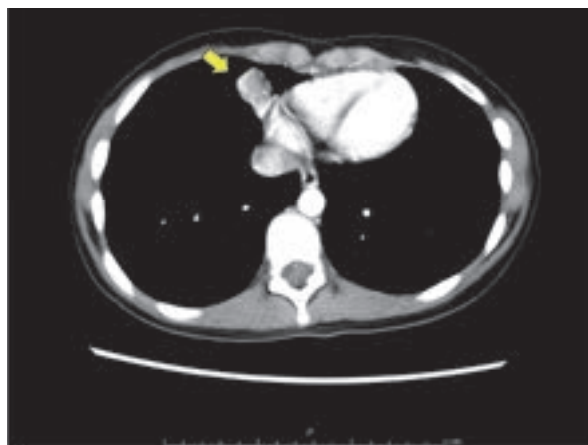


図1：造影CT検査.

A) 動脈相で不均一な造影効果を認めた.

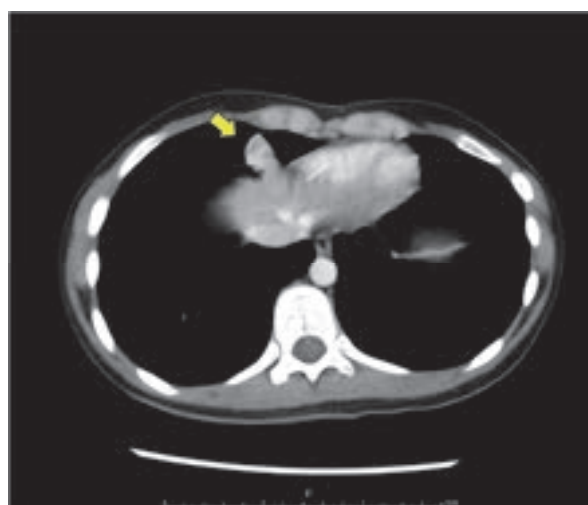


図1：B) 後期相では比較的均一な造影効果を認めた.

## 細胞学的所見

手術後検体提出時、ホルマリン固定前の腫瘍から捺印細胞診を施行した。パパニコロウ染色では、赤血球やリンパ球優位の炎症細胞を背景に顆粒状の細胞質を有する円形核の細胞や、細胞質の乏しいほぼ裸核状の円形から類円形の核を有する細胞を孤在性に少数みた(図2A)。軽度の核腫大や核形不整を示すものの、細胞質を有する細胞のN/C比は低く、クロマチンは比較的繊細で増量は認めなかった。また、小型核小体を単個認めた(図2B)。ギムザ染色では細胞質内に小型で均一な顆粒状の物質を観察した。

採取された細胞量が少数であったことやクロマチンの性状から良性疾患を考えたが、細胞診では診断には至らなかった。

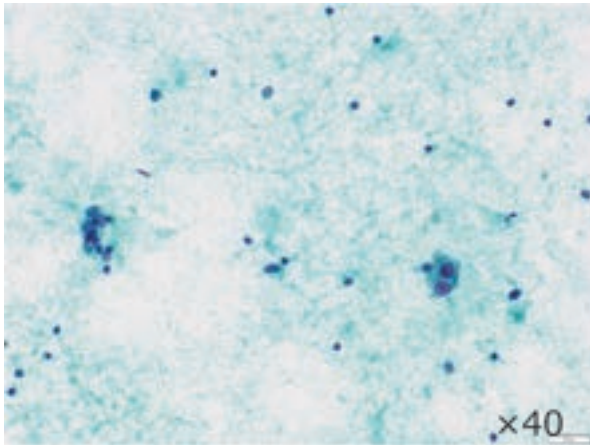


図2：腫瘍捺印細胞診のパパニコロウ染色像。  
A) 顆粒状の細胞質を有する細胞や細胞質の乏しいほぼ裸核状の細胞を孤在性にみた。

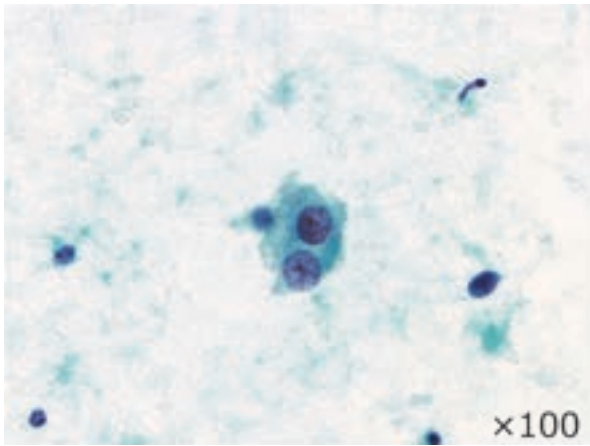


図2：B) 細胞質を有する細胞のN/C比は低く、小型核小体を単個認めた。

#### 組織学的所見

1. 肉眼所見：境界明瞭な 20×18mm 大の淡褐色調で均一な充実性腫瘍を認めた (図3)。
2. 組織所見：境界明瞭な腫瘍であり、腫瘍内には気道構造や拡張した類洞様の壁の薄い血管を散見した。強拡大にすると、clear で比較的豊富な胞体を有する細胞の充実性増殖を認めた (図4)。核は小型で異型に乏しく、核分裂像や壊死、石灰化などの所見は認めなかった。以上より CCTL を疑った。
3. 免疫組織化学染色：HMB-45 が細胞質に、CD34 が細胞膜に陽性であった。サイトケラチン (AE1/AE3) やデスミン、S-100 は陰性であり (図5)、CCTL と診断した。

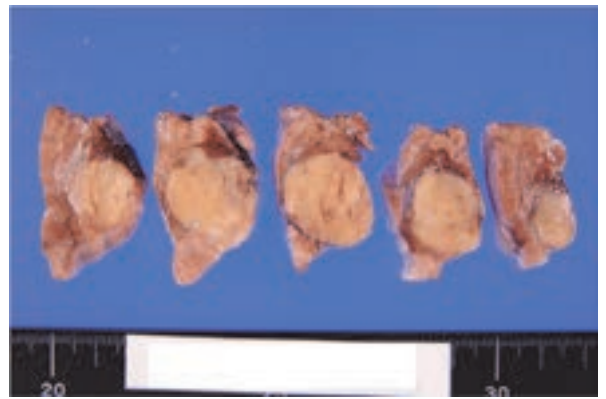


図3：肉眼像。  
境界明瞭な淡褐色調で均一な充実性腫瘍を認めた。

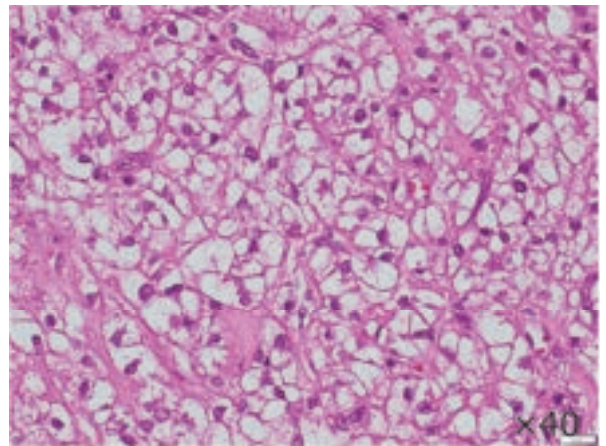


図4：HE 染色像 (強拡大)。  
clear で比較的豊富な胞体を有する細胞の充実性増殖を認めた。

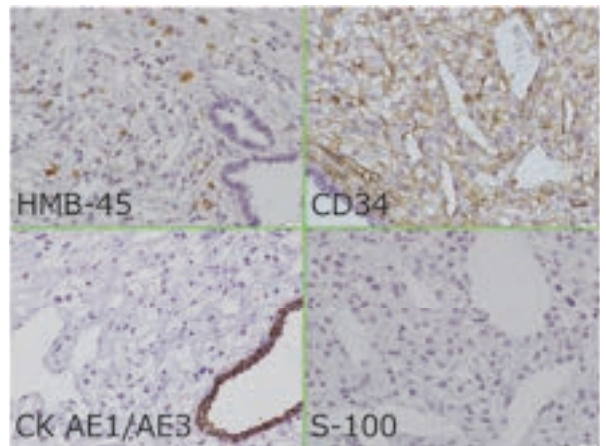


図5：免疫組織化学染色像。  
HMB-45 や CD34 が陽性、サイトケラチン (AE1/AE3) や S-100 は陰性であった。

経過：術後合併症なく経過し、約3年後の時点で腫瘍の再発は認めていない。

## II. 考察

CCTLは1971年にLiebowとCastlemanによって初めて報告された<sup>1)</sup> perivascular epithelioid cellが発生母地と推定される<sup>2)</sup> 非常にまれな間葉系腫瘍であり、腎血管筋脂肪腫やリンパ管筋腫症(LAM)等とともにPEComa familyに属する。Shenら<sup>3)</sup>は2020年の論文でCCTLとして報告されているものは100例より少ないと報告している。

文献上、CCTLと診断された56例の症例をまとめたWangら<sup>4)</sup>の報告では、年齢は40-70歳に多かったが、1例8歳でCCTLと診断された症例がある<sup>5)</sup>。性差はないか、わずかに女性に多い。

本例も19歳の女性であり、若年でも発症する可能性がある点に注意が必要である。

ほとんどの症例は無症状で胸部X線写真やCT検査で偶然発見されている。一般に良性疾患として扱われているが、肝転移をきたし死亡した症例<sup>6)</sup>や急速に増大した症例<sup>1,7)</sup>の報告もある。

本例も症状は認めず、健診の胸部X線写真で偶然発見された。また、術後約3年の時点で再発は認めていない。

CCTLの肉眼所見は主に境界明瞭な3cm以下の結節で、切除表面は通常均質で光沢がある。出血や壊死、空洞化や石灰化はみられない<sup>4)</sup>。

組織学的には豊富な透明または好酸性の細胞質を有する境界明瞭な円形から類円形の細胞で構成される充実性の腫瘍で、核の大小不同は軽度あり、核小体は目立つ傾向にある。通常、分裂像はみられず、壊死所見は極めてまれである。壁の薄い類洞様の血管が特徴である<sup>2)</sup>。細胞質にはPAS染色が強陽性でジアスターゼにて消化される豊富なグリコーゲン顆粒を有するため、別名“sugar tumor”とも呼ばれる<sup>1)</sup>。

本例もclearで比較的豊富な胞体を有する細胞の充実性増殖であり、核は小型で異型に乏しかった。分裂像はほとんど認めず、壊死所見もなかった。壁の薄い類洞様の血管を散見し、ジアスターゼにて消化される豊富なグリコーゲン顆粒を認め、CCTLを疑った。

免疫組織化学染色ではメラノサイト系のマーカーであるHMB-45やmelan Aが陽性を示すことが特徴である<sup>2)</sup>。サイトケラチンやデスミン、EMAなどは陰性<sup>8)</sup>で他のclear cell typeの腫瘍と鑑別可能である。本例もHMB-45が細胞質に陽性を示し、サイトケラチン(AE1/AE3)やデスミンなどは陰性でCCTLと診断した。

CCTLは通常、開胸術や肺葉切除術、区域切除術によって診断される。術前にCCTLと診断できた症例は少なく、またその細胞学的報告はかなり少ない。米

川ら<sup>9)</sup>によるとCCTLの細胞学的報告は2例の症例報告および5例の学会報告のみであり、われわれが検索した限りでも数例を認めるのみであった<sup>4,10-12)</sup>。

岡ら<sup>13)</sup>は、CCTLの術中迅速検体に捺印細胞診を施行し、その細胞所見を以下のように記している。「腫瘍細胞は、孤立散在性あるいは数個の細胞が結合性の緩い小集団を作って出現。背景は出血性だが、血鉄素や泡沫細胞は見られない。裸核状細胞が多いが、細胞質の保存されているものではN/C比は低い。核は細胞質のほぼ中心に位置し、小型・類円形でよく揃っており、クロマチンは繊細。1~2個の核小体をもつ。細胞質はライトグリーン淡染性で、レース状~微細顆粒状。」

彼らは振り返ってみると、本例の細胞像はCCTLの典型的な像であったと考察している。

本例は臨床上鑑別となった硬化性肺上皮腫とは背景にヘモジデリン貪食組織球や多くの炎症細胞が出現していなかった点や細胞質が豊富ではなかった点などから、またカルチノイド腫瘍とは出現している細胞量や核クロマチンが顆粒状でなかった点などからそれぞれ鑑別できたが、出現している細胞数の少なさから診断に難渋した。しかし、振り返ってみると本例も岡らとほぼ同様の細胞所見を示しており、事前にCCTLの細胞像を知っておれば、鑑別の一つに挙げる事ができた可能性が示唆された。

## III. 結語

健診で発見されたCCTLの一例を経験し、その腫瘍捺印細胞診を評価できた。臨床的に良性疾患が疑われる場合にはCCTLも鑑別の一つに挙げる必要があると考えられた。

- 1) Liebow AA, Castleman B : Benign clear cell (“sugar”) tumors of the lung. *Yale J Biol Med* 43 : 213-222, 1971
- 2) Travis WD, Brambilla E, Nicholson AG, et al : The 2015 World Health Organization classification of lung tumors. Impact of genetic, clinical and radiologic advances since the 2004 classification. *J Thorac Oncol* 10 (9) : 1243-1260, 2015
- 3) Shen L, Lin J, Ren Z : Clear cell tumor of the lung could be aggressive : a case report and review of the literature. *Journal of Cardiothoracic Surgery* 15 : 177-181, 2020
- 4) Wang GW, Zhang D, Diao XW, et al : Clear cell tumor of the lung : a case report and literature

- review. *World J Surg Oncol* 11 : 247-251, 2013
- 5) Fukuda T, Machinami R, Joshita T, et al : Benign clear cell tumor of the lung in an 8-year-old girl. *Arch Pathol Lab Med* 110 (7) : 664-666, 1986
  - 6) Sale GE, Kulander BG : 'Benign' clear-cell tumor (sugar tumor) of the lung with hepatic metastases ten years after resection of pulmonary primary tumor. *Arch Pathol Lab Med* 112 (12) : 1177-1178, 1988
  - 7) Kalkanis A, Trianti M, Psathakis K, et al : A clear cell tumor of the lung presenting as a rapidly growing coin lesion : is it really a benign tumor? *Ann Thorac Surg* 91 (2) : 588-591, 2011
  - 8) Gaffey MJ, Mills SE, Zarbo RJ, et al : Clear cell tumor of the lung. Immunohistochemical and ultrastructural evidence of melanogenesis. *Am J Surg Pathol* 15 (7) : 644-653, 1991
  - 9) 米川 香, 橘真由美, 駒井隆夫, 他 : 核内封入体を認めた肺 benign clear cell tumor の 1 例. *J Jpn. Soc. Clin. Cytol.* 45 (5) : 288-293, 2006
  - 10) Policarpio-Nicolas ML, Covell J, Bregman S, et al : Fine needle aspiration cytology of clear cell "sugar" tumor (PEComa) of the lung : report of a case. *Diagn Cytopathol* 36 (2) : 89-93, 2008
  - 11) Edelweiss M, Gupta N, Resatkova E, et al : Preoperative diagnosis of clear cell "sugar" tumor of the lung by computed tomography-guided fine-needle biopsy and core-needle biopsy. *Ann Diagn Pathol* 11 : 421-426, 2007
  - 12) Tsilimigras DI, Bakopoulos A, Ntanasis-Stathopoulos N, et al : Clear cell "sugar tumor" of the lung : Diagnostic features of a rare pulmonary tumor. *Respir Med Case Rep* 23 : 52-54, 2018
  - 13) 岡 輝明, 佐藤 明, 堀内 啓, 他 : 肺良性明細胞腫の捺印細胞像. *日臨細胞誌* 35 : 170, 1996

(受付 2022年6月30日、採択 2022年12月20日)

## IV. 新型コロナウイルス感染症に 関する論文等

## IV. 新型コロナウイルス感染症に関する論文等

### IV. 1 COVID-19 中等症専用病棟における気管挿管患者のオーラルケア

大橋佳奈<sup>1)</sup>、村野なつ実<sup>1)</sup>、林 有里<sup>1)</sup>、北林聖子<sup>1)</sup>、大桑由美<sup>2)</sup>、荒木敬雄<sup>1)</sup>

<sup>1)</sup> 地方独立行政法人 神戸市民病院機構 神戸市立医療センター西市民病院 看護部 4階病棟

<sup>2)</sup> 地方独立行政法人 神戸市民病院機構 神戸市立医療センター中央市民病院 看護部 救急病棟

#### 要 旨

人工呼吸器関連肺炎（Ventilator-associated pneumonia 以下 VAP）は、気管挿管下の人工呼吸患者におこる、重要なデバイス関連院内感染である。VAP の起炎菌の多くが口腔内細菌由来であり、VAP 予防のための口腔ケアの重要性が見直されている。筆者らは新型コロナウイルス感染症（以下 COVID-19）中等症専用病棟の限られた時間や人数で行うことのできる、VAP 予防の観点での口腔ケアを実施した。口腔ケアでは、カフ圧管理を行い、感染を避けるため人手を少なく、簡便かつ安全に効果的に行えるようアンカーファストや洗口液を使用し、口腔ケアのタイミングを考え実施したため症例報告をする。

キーワード：新型コロナウイルス感染症、人工呼吸器関連肺炎、気管挿管、口腔ケア、洗口液、アンカーファスト、カフ圧管理

（神戸市立病院紀要 61：25 - 28, 2022）

## I. はじめに

人工呼吸器関連肺炎(Ventilator-associated pneumonia 以下VAP)とは、気管挿管下の人工呼吸患者に、人工呼吸開始後48時間以降に新たに発生した肺炎で、重要なデバイス関連院内感染である。高度治療室(high care unit 以下HCU)では最も多い感染症であるが、適切な予防策の適用によりVAP発生を予防することができる。今回、筆者らはCOVID-19病棟に限られた時間・人員の中、VAP予防の観点で看護介入を行ったため報告する。

## II. 倫理的配慮

症例報告をするにあたり、患者に口頭と書面で説明し同意を得た。また、患者個人が特定されないように匿名性に配慮した。

## III. 症例

1. 患者：A氏 60歳代 男性
2. 既往歴：高血圧
3. 喫煙歴：40年間 40本/日
4. 家族構成：妻(同居であり、キーパーソン)
5. 現病歴：COVID-19を発症し、経皮的酸素飽和度(以下SpO<sub>2</sub>)の低下を認め、当院への入院となった。点滴治療が開始されたが、酸素化の悪化が見られ、入院3日目に経口気管挿管が行われた。人工呼吸器による調節換気を行いながら治療を継続し、VAPを合併することなく、入院7日目にCOVID-19の重症病床がある他院へ搬送となった。

## IV. 看護問題

- # 1 人工呼吸器装着により合併症が起こる可能性がある。

## V. 看護の実際

筆者はA氏のCOVID-19発症12日目、気管挿管後3日目に受け持った。A氏はCOVID-19の重症症例であり、重症病床へ搬送されるべきであったが、COVID-19の第4波では重症症例を受け入れている病院が満床であり、当院にて経口気管挿管を実施し、継続治療を行っていた。A氏は人工呼吸器の従圧式換気モード、圧支持10cmH<sub>2</sub>O、呼気終末陽圧8cmH<sub>2</sub>Oにて換気が行われている状態であった。FiO<sub>2</sub>は55%まで減量出来ていた。FiO<sub>2</sub>55%でSpO<sub>2</sub>は94%を保てており、呼吸回数も15回/分と人工呼吸器に同調していた。COVID-19病棟では感染予防対策のためレッドゾーンへの入室時間や人数が限られており、看護師の人数を最小限でケアや挿管管理が

出来るよう、気管挿管チューブの固定をテープ固定ではなく、気管内チューブ固定具(アンカーファスト<sup>®</sup>)を使用していた。

筆者はA氏の口腔ケアを実施するために訪室し、口腔ケアの物品が整っているか確認をした。A氏のベッドサイドには、スポンジブラシのみ用意されている状態であった。筆者は、A氏は菌もありスポンジブラシのみではなく、ブラッシングが必要だと考えた。また、経口気管挿管は開口した状態が続くため、保湿ケアが重要であると考えた。そのため、看護師長に相談し、グルコン酸クロルヘキシジン含む薬用マウスウォッシュ(コンクールF)とマウスジェル(コンクールマウスジェル)をレッドゾーンへの持ち込みを行った。口腔ケアは安全に短時間で行えるよう看護師2人で行った。まずは口腔ケアが実施しやすいようA氏の体位を30°～45°の頭位挙上に整え、口腔内の流れ込みを防げるよう頸部前屈にした。その後、カフ圧が保たれているかカフ圧の確認を行った。カフ圧は自動カフ圧計を使用し、25cmH<sub>2</sub>O前後を一定に保つよう管理し、ケアを実施した。筆者はアンカーファスト<sup>®</sup>で固定された気管挿管チューブを右側へ移動させ視野の確保を行った。A氏の口腔内はやや乾燥しており、喫煙者であったため歯垢の付着が多く見られた。最初に、コンクールを含ませたスポンジブラシにマウスジェルを塗布し、口腔内を湿らし乾燥を軽減し汚れを浮かした後にブラッシングを行った。歯間や口蓋を意識し汚れを除去した。ブラッシング後、再度コンクールを含ませたスポンジブラシでふき取りを行った。さらに、気管挿管から3日経っておりバイドブロックの交換日であった。そのため、他の一人の看護師はチューブがずれないように固定し、筆者はテープとバイドブロックを交換した。交換時に気管挿管チューブやバイドブロックの汚れをスポンジブラシで少しずつ除去するように努めた。最後にカフ圧が25cmH<sub>2</sub>Oに保たれていることを確認し、口腔ケアを終了した。また、レッドゾーンへ入室時間・人数は限られており、筆者だけが関わることは難しかった。そのため、A氏に関わる看護師の全員がVAPを意識した看護が行えるように、カンファレンスを実施し、頭位挙上の推奨や口腔内の保湿と清潔を保ってほしいことを情報共有し、口腔ケアの手順のデモンストレーションを行った。

## VI. 考察

米国ヘルスケア改善協会(Institute of Healthcare Improvement 以下IHI)が示した人工呼吸器バンドル(2010)の中にクロルヘキシジンを用いた口腔ケアを



毎日行うことが挙げられている。また、VAPの起炎菌の多くが口腔内細菌由来であり、VAP予防のための口腔ケアの重要性が見直されている。

経口挿管の患者は気管挿管チューブによる開口状態や鎮痛鎮静薬の使用により、唾液分泌が低下し乾燥が顕著に見られる。さらに、乾燥によって口腔内の自浄作用が低下し、細菌数の増加につながる。これらを除去するために口腔ケアは有効である。また、細菌数を減少させる目的では、洗口液を使用したことも有効であったと考える。筆者らが使用した洗口液には0.05%のグルコン酸クロルヘキシジン（以下GCH）の成分が含有されており、口腔内細菌の増殖抑制作用があった。刈田らが行った研究でもGCHはいくつかの肺炎球菌に対して効果的であり、口腔ケア剤を用いた安価かつ簡便な口腔ケアが、効率的な肺炎予防策に繋がる可能性があることが報告されている<sup>1)</sup>。このことより、洗口液の使用はVAP予防に対して簡便に行える看護の一つであったことが考えられる。さらに口腔ケアを簡便に行うために、アンカーファストを使用したことも有効である。口腔内常在菌を減少させる手段として口腔ケアが重要である。テープでの気管挿管チューブ固定であれば、一度固定を外して口腔ケアを実施するため、計画外抜管や固定位置のずれなどのリスクがあり、それを予防する目的で口腔ケアの実施者以外の人手を要することとなる。しかしアンカーファストを使用した場合、人手が少なく口腔ケアが行える他、口腔内の観察および口腔ケアが容易となることが挙げられている。寺田らが行った研究にも、アンカーファストの使用により、ケアにおける人員数が有意に少ない結果が出ていることや、口腔ケアが容易になることで口腔衛生状態が改善され、VAP予防に繋がるということが述べられており、安全・効果的・効率的な口腔ケアが可能となったことが報告されている<sup>2)</sup>。

次に口腔ケアの方法について振り返る。A氏の場合は挿管後スポンジブラシのみで口腔ケアが実施されている状態であったが、スポンジブラシのみで行う口腔ケアが有効であるか疑問である。A氏は開口による乾燥も見られ、天然歯が残存している状態であり、スポンジブラシだけでは菌垢の除去が行えておらず、さらに細菌数が増加し、気管挿管チューブを伝って細菌が気道へ迷入することでVAPの発症リスクを高めると私は考えた。山崎らも「唾液分泌を促進させるためにはブラッシングが、有機物を除去するには洗浄とブラッシングが有効である。この要素を満たすオーラルケアは自浄作用の維持・促進につながり、口腔内の正常な環境が保つことが出来る」<sup>3)</sup>と述べている。その

ため、A氏の場合ブラッシングが必要であったと言える。このようにブラッシングを取り入れたことで、菌垢の除去だけでなく、簡便に唾液分泌促進でき、口腔内の乾燥を軽減し、口腔内の正常な環境を保つことができVAP予防へ繋げることが出来たと考える。

また、気道への流れ込みを防ぐには、カフ圧管理も重要であった。佐藤らは「体位変換によりカフ圧が変動し気管内壁とカフの隙間から口腔内および鼻腔内の病原微生物が下気道へ侵入する可能性がある（中略）体位変換がVAP予防として機能するためには、体位変換前後のカフ圧管理、口腔内及びカフ上吸引を体位変換前に実施することなど、十分な下気道への流れ込み防止対策を講じることが必要である」<sup>5)</sup>と述べている。また、カフ圧管理には、間欠的に行うカフ圧調整では手技によってカフ圧が低下することが露木の研究により明らかになっている。その点、自動カフ圧は手技による変化がなく、一定にカフ圧を管理することが出来る。このことより、自動カフ圧計を用いてカフ圧を管理していくことや体位変換前の吸引は、VAP予防へ繋げることが出来たと考える。

次に口腔ケアのタイミングについて振り返る。A氏の場合時間は決めていなかったが、朝昼夜の3回のブラッシングと適宜レッドゾーンへの入室時にスポンジブラシによる保湿を行っていた。日本クリティカルケア看護学会が述べている口腔ケア実践ガイドでは、従来の口腔ケアの方法はブラッシングと維持ケアをあげている。維持ケアとはブラッシングよりも手順が簡略であり、スポンジブラシを使用し口腔内の汚染物を回収したのち、口腔湿潤材などを使用し清浄・湿潤環境の維持を行う方法である。また、ブラッシングは1日1～2回実施、維持ケアはブラッシングを含めて少なくとも1日に4～6回、ケア間隔が均等になるように実施することが推奨されており、ケア間隔を均等にすることで良好な口腔環境が維持されると述べている。そのため乾燥が見られたときに適宜保湿を行うのではなく、ケア間隔に合わせ、レッドゾーンへの入室時間を考慮し、ブラッシングと維持ケアを実施することで、口腔内の良好な環境を保ち、さらなるVAP予防へ繋げることが出来ていたのではないかと考える。

## VII. 終わりに

COVID-19病棟での限られた人員や時間の中でも、正しい知識のもとで効率的に口腔ケアを行えば、感染予防を実施しVAP予防に繋げることが出来る。

## 参考文献

- 1) 刈田絢美, 眞野容子, 他:「肺炎予防を目的とした in vitro における洗口剤の有効成分の効果検討」.『医学検査』, 70, (1),32-39, 2021
- 2) 寺田 泉, 大野友久, 大石佐奈美:「カテーテル固定具パッチ装着による口腔ケア時の有用性について」.『日本呼吸ケア・リハビリテーション学会誌』, 25, (2) , 209-212, 2015
- 3) 山崎香織, 園田明美, 五十嵐和子, 他:「洗浄ブラシと持続吸引を用いた安全で簡便なオーラルケア」. 丸川征四郎:『ICUにおけるオーラルケア—口腔ケアスタンダード確立をめざして—』, メディカ出版, pp75-85
- 4) 榊原克紀, 河野 茂:「人工呼吸器関連肺炎の発症と診断」. 丸川征四郎:『 ICUにおけるオーラルケア—口腔ケアスタンダード確立をめざして—』, メディカ出版, pp24-33
- 5) 佐藤隆平, 宮川哲夫:「挿管後24時間の体位変換に着目した人工呼吸器関連肺炎発症に対する影響因子の検討」.『日本集中治療医学会雑誌』,21, (1) ,34-38, 2014

(受付 2022年6月30日、採択 2022年12月20日)

## IV. 新型コロナウイルス感染症に関する論文等

### IV. 2 COVID-19 軽症・中等症の病棟における重症患者合併症予防法の考察

樽本 南々帆<sup>1)</sup>、中村 穰<sup>1)</sup>、林 有里<sup>1)</sup>、北林 聖子<sup>1)</sup>、大桑 由美<sup>2)</sup>、荒木 敬雄<sup>1)</sup>

<sup>1)</sup> 神戸市立医療センター西市民病院 看護部 4階病棟

<sup>2)</sup> 神戸市立医療センター中央市民病院 看護部 救急病棟

#### 要 旨

私達は今回、COVID-19 感染症専用病棟で急激に呼吸状態が悪化し、人工呼吸器管理となった患者を担当した。COVID-19 肺炎病態が重篤化したため、ARDS の呼吸器管理の肺保護戦略を使用した。中でも人工呼吸器関連肺損傷 (VALI) を予防するためには、肺胞を虚脱再開通させないことが必要であり体位管理が効果的であった。また、COVID-19 感染症専用病棟では、感染予防のためにもレッドゾーンへの入室時間と人数が決められており、複数部署の看護師が集合した特殊な環境ではあったが、目標を定めそれに向かってチーム医療を実践することで、患者にとって個別性のある効果的な看護ケアを安全に提供できたので、考察を含めて報告する。

キーワード：COVID-19、人工呼吸器、気管挿管

(神戸市立病院紀要 61 : 29 - 32, 2022)

## はじめに

我々は本来軽症から中等症患者を想定した COVID-19 感染症専用病棟において、急激に呼吸状態が悪化し重症化したため、人工呼吸器管理となった患者を担当した。患者は ARDS の状態であり、人工呼吸器関連肺障害（以下 VALI）を合併する可能性が危惧された。さらに COVID-19 感染症専用病棟では感染予防のため、レッドゾーンへの入室時間と人数が決められていた。また、看護師は一般病棟の看護師と HCU 看護師と混合しており、人工呼吸器を使用している患者の看護経験のないものもいた。限られた時間とマンパワーで、人工呼吸器管理の患者に対する看護の難しさと必要性を改めて感じ、今後同様の困難な看護現場に直面した際の参考になるべく、考察を含めて今回報告する。

## I . 倫理的配慮

個人情報と保護し個人が特定されないよう配慮し、患者に口頭と書面にて説明し同意を得た。

## II . 事例紹介

1. 患者：70 歳代、男性、体重 67kg、身長 175cm
2. 喫煙歴：なし
3. 入院の経過：感染経路は不明ではあるが、入院 5 日前に発症した COVID-19 肺炎にて呼吸状態が悪化したため当院入院となった。入院直後より呼吸状態がさらに悪化し、気管挿管が施行された。挿管と同時に鎮静剤を使用し Richmond Agitation-Sedation Scale（以下 RASS）-4 ~ -5 で、呼吸器と同調していた。鎮静管理と同時に、麻薬で鎮痛管理が開始された。人工呼吸器設定は、肺保護戦略に則り設定変更され、最終的には調節換気（以下 CMV）モードの設定呼吸回数（以下 RR）8 回 / 分、呼気終末陽圧型（以下 PEEP）10cm H<sub>2</sub>O、吸入中酸素濃度（以下 FiO<sub>2</sub>）は 40% で、一回換気量（以下 TV）は 600 ~ 900ml に設定し酸素化を保ちながら、入院 6 病日目に他院へ転院となった。

## III . 看護問題

人工呼吸器装着により合併症、特に VALI が起こる可能性があることを一番の問題として看護診断を挙げた。

## IV . 看護の実際

入院初日に気管挿管が施行された。担当医師により数度呼吸器設定の変更が行われていたが、TV が 100 ~ 150ml の低換気と 700 ~ 800ml の過換気を繰り返

し、呼吸状態が不安定なまま経過し、コンプライアンスも 20ml/cmH<sub>2</sub>O 前後と低値であった。

筆頭著者は、入院 3 日目で本患者の受け持ちとなり、この段階では酸素需要も増加し FiO<sub>2</sub> は 65%、TV は 200ml 前後で、コンプライアンスは 18 ~ 22ml/cmH<sub>2</sub>O であった。痰は少量しか吸引出来ないと申し送りを受けていたが、胸部触診にて左背側に振動を認めた。患者は体幹と両上肢に抑制帯を使用し、鎮静剤も使用していたため自己で体位変換が出来ず、仰臥位で過ごす時間が長くなっていた。このため、体位により下葉に痰が貯留しやすく、重力によって下葉が圧迫され無気肺になる可能性が危惧された。対処法として右シムス位に体位変換を行い、シムス位実施中は傍に付き添い、呼吸状態の悪化、RASS、Critical-care Pain Observation Tool（以下 CPOT）の変化の観察を行った。右シムス時は、TV は 300ml ~ 400ml で安定しており、SpO<sub>2</sub> も上昇が見られた。15 分ほど右シムス位を行い、完全右側臥位を 2 時間程度行った後に吸引すると気管内から白黄色の粘稠痰が多量に回収し、FiO<sub>2</sub> を 55% に減量することが出来た。さらに、コンプライアンスも 40 ~ 50ml/cmH<sub>2</sub>O 台に上昇した。

また、CT 所見上肺の線維化の進行が考えられた。理学療法士に患者の状態を伝え、効果的な体位変換の方法や注意すべきところはないかアドバイスを求めた。理学療法士からは、肺の線維化が進んでいる場合においてはベッドをフラットの状態にして、完全側臥位やシムス位を行う方が有効であるとアドバイスを受けた。カンファレンスにおいて、理学療法士から受けたアドバイスを元に効率的な看護を皆が実施できるようにチーム内で討論した。この結果①日中の看護師が多い時間帯で体位ドレナージを実施し、看護師が実施中の患者の状態変化の有無を観察できるようにする②副雑音の聴取や、胸部を触診し、痰の貯留の有無を確認する③シムス位を行う時間は 1 時間を目標として、看護師の入室時間を考慮し初日は 15 分から開始し、少しずつ時間を延ばせるように評価していく④医師に確認した上で体位変換を実施する 1 時間前より経鼻栄養を中止する、と決定した。チーム全体での共有ができるようにワークシートに記入し、申し送りを行った。安全な看護の実施のため、医師と相談し中止基準を設定した。中止基準は① TV が 100 ~ 200ml と低換気が継続、または一時的に 100ml 以下になる時② FiO<sub>2</sub> を増量しても SpO<sub>2</sub> 88% 以下が続く時③ 脈拍が 100 回 / 分以上、収縮期血圧が 100mmHg 以下になった時④ RASS が 2 点以上になり落ち着きがなくなった時⑤ CPOT が 2 点以上になる時とした。また、完全側臥

位やシムス位を全員が統一して行えるよう、患者個人が特定されないよう工夫した上で実際の体位を写真撮影し、中止基準の用紙と共にベッドサイドに掲示した。翌日も3名の看護師で20分程度シムス位を実施し、シムス位中のTVは500～600mlで、コンプライアンスは30～40ml/cmH<sub>2</sub>O台と上昇した。その後完全側臥位に体位変換するとSpO<sub>2</sub>も上昇し、黄白色の粘稠痰を回収後、FiO<sub>2</sub>は40%まで減量できた。実施した看護師の中には普段は人工呼吸器管理に携わっていないものも多かったが、具体的な開始基準と中止基準があったことで安心して実施できた、またシムス位の実際の写真が掲示されていたことで、グリーンゾーンで実施するシミュレーションを行ってから患者に実践することでスムーズに体位を整えられ時間も有効に使うことが出来たとの感想があった。

## V. 考察

COVID-19は軽症、中等症I（呼吸不全なし）中等症II（呼吸不全あり）重症に区分されている。呼吸不全の定義はPao<sub>2</sub> ≤ 60mmHgである<sup>1)</sup>。COVID-19における肺炎では、ARDSを反映した組織像であるびまん性肺障害の所見が特徴的であるとされている。びまん性肺障害の組織像は時間経過とともに滲出期から器質化期、更に線維化期へと変化するとされており、COVID-19においても同様に時間経過とともに線維化期に移行する傾向にあるとされている。自験例ではH型に移行しており肺の線維化も進んでいると考えた。ARDSとは重症肺炎、敗血症や外傷などの様々な疾患が原因となり重度の呼吸不全となる症状の総称である。ARDSの診断基準の中でP/F比という酸素化障害の区分があり、自験例ではP/F比は160.8で、中等症であった。ARDSでは肺保護戦略を用いる必要がある。肺保護戦略とは、肺の過膨張による正常肺の障害を避け、肺を保護する目的で行われる。そのため、TVをなるべく低く抑えて管理する必要があったが、自験例では当初TVは、700～800mlと過剰気味であった。COVID-19では、新型コロナウイルス感染による最初の肺障害が発生した後、血管透過性が亢進し、肺水腫・ガス交換能低下・呼吸仕事量増大を起こし、これらがさらに血管透過性を亢進させていると考えられている。この負のループにより形成される急性肺障害をP-SILIという<sup>2)</sup>。また、VALIとは、人工呼吸による陽圧換気に伴う気胸などの肺の損傷と定義されている。自験例においては肺の線維化が進んでいる状態でTVが多く、VALIの高リスクが危惧された。VALIを回避するための人工呼吸器設定も肺保護戦略という概念でまとめられている。

肺保護戦略では肺胞の虚脱再開通回避の必要性があり看護師ができることで有効とされているのが腹臥位療法である。中野<sup>3)</sup>は「腹臥位では胸腔内圧の勾配の減少、経肺圧の上昇によって虚脱する肺胞が減少し、換気分布が均一になりやすいため、換気や酸素化の改善とともにVALIを軽減することが示されており肺保護戦略の一手段とも位置付けることが出来る」と述べている。さらに、三木<sup>4)</sup>は「肺の炎症性変化が肺組織を線維化させることで肺の拡張性を阻害する。（中略）肺炎等の炎症性反応による肺コンプライアンスの影響については、炎症性変化に伴う肺組織の線維化が肺コンプライアンスに影響を及ぼしている」と述べている。自験例では肺炎により急激な炎症の悪化を起こしており肺の線維化が進行していた。成人ではコンプライアンスの正常値は40～50ml/cmH<sub>2</sub>Oとされているが、本例では20～30ml/cmH<sub>2</sub>Oと低値であった。線維化の進行により肺コンプライアンスが低下していることが示唆され、そのため換気量が不安定で体位の工夫が必要であると考えた。完全側臥位やシムス位を行うと、コンプライアンスは上昇し、TVも安定した。虚脱した肺胞が広がり、換気分布が変化したことでシムス位から仰臥位に戻った後も、FiO<sub>2</sub>を減量出来たため効果があったと考える。また、本例では仰臥位で長時間過ごしており無気肺が形成されている可能性があった。左利ら<sup>5)</sup>は「自発呼吸の消失に伴う横隔膜の弛緩によって、背側肺が腹腔臓器に圧迫されることで無気肺を形成すると考えられている」と述べている。シムス位を行ったことで肺背側の換気スペースが確保出来、無気肺の予防につながった。人工呼吸器での肺保護戦略では、腹臥位が推奨されているが、病棟の特殊性のために、患者の安全上行えなかった。しかし、シムス位と完全側臥位を行った後は換気量が安定し、無気肺の予防や虚脱肺をリクルートしたため、VALIの予防につながり酸素化が改善したと考える。

さらに、自験例における問題点として、鎮静剤の使用や抑制の使用で体位変換が行えておらず、長時間仰臥位で過ごしていたため、痰が下葉に貯留している状態であり、去痰困難が挙げられた。痰の貯留から肺胞低換気となり、下葉の圧迫による無機肺の形成から、換気スペースが低下しガス交換効率も減少し酸素化の悪化につながっていると考えた。渡辺<sup>6)</sup>は「体位ドレナージは排痰したい肺区域に重量がかかる特定の体位をとり、分泌物を太い気管支まで移動させることを目的としている。分泌物はゆっくり移動するため、同一体位を30分以上持続させることが望ましい。」と述べている。COVID-19感染症専用病棟であり、看護

師の入室時間は制限されていた。直ぐに訪室出来る状況ではなかったため患者の安全上でもシムス位は30分以上行うことは出来なかった。しかし、体位変換後にA氏は、白黄色の粘稠痰を多量に回収出来た。このことより、短時間でも、効果的に体位ドレナージが行え、去痰困難の軽減と無気肺悪化を予防することにつながったと考える。

また、COVID-19病棟では、レッドゾーン内のスタッフは個人用防護具（Personal Protective Equipment：PPE）を着用して患者と接触しているため、情報を共有する場が困難となる。そのため、グリーンゾーン内で治療方針や内容を共有し、必要なスタッフの人数や滞在時間などを共有しておく必要があった。厚生労働省のチーム医療の推進に関する検討会の報告書によると一般的にチーム医療とは、医療に従事する多種多様な医療スタッフが、各々の高い専門性を前提に、目的と情報を共有し、業務を分担しつつも互いに連携・補充し合い、患者の状況に的確に対応した医療を提供する事とされている。私は理学療法士と情報を共有し体位についての専門的なアドバイスを受け、さらに、医師と開始基準、中止基準についてすり合わせを行い、一覧を作成しベッドサイドに掲示した。そして、安全に看護を行うために何か他に必要なことはないか先輩看護師の意見を参考にし、他の看護師との情報共有を兼ねてカンファレンスを行った。さらに、カンファレンスに参加できなかった看護師にも情報共有が出来るようにワークシートに記入し、具体的な方法はベッドサイドに掲示することで情報を共有した。このような工夫によって、体位変換の実際を見学していない看護師でも体位変換が可能となり、患者のコンプライアンスは上昇し、FiO<sub>2</sub>も減量することが出来た。冨塚<sup>7)</sup>は「専門職がそれぞれの役割を發揮し、同じ方向を目指すことで早期に患者の回復を支援することができる」と述べている。他の看護師から得られた感想においても、体位変換を行ううえで、人工呼吸器管理の経験が少ない看護師が行っても、鎮痛、鎮静コントロールに加え、事故抜去や回路接続部が外れるなどの事故も起こらず、統一した看護を継続して安全に提供できたとの意見が得られた。また、患者に個別性のある効果的な看護ケアを提供するために、カンファレンスや他職種と情報共有し、連携をとるなどのチーム医療の重要性が示唆された。

## おわりに

今回の症例発表を通して病態を理解し、その上で、安全かつ効果的な看護を、個別性をもって行う必要性

を学んだ。また、統一した看護を継続して安全に行えるよう工夫して情報共有を行うことが大切であると実感し、チーム医療の在り方について振り返り学習することが出来たため、今回の経験を振り返り報告した。

## VI. 引用文献、参考文献

- 1) 新型コロナウイルス感染症（COVID-19）診療の手引き 第8.1版 33
- 2) 浅井英樹：第48回 日本救急医学会総会・学術集会ランチョンセミナー4「救急・ICUにおけるチーム医療の実践 ～心肺蘇生と呼吸管理～」ご報告2020 ([https://www.imimed.co.jp/int/seminar/20jaam-48thls4\\_report/](https://www.imimed.co.jp/int/seminar/20jaam-48thls4_report/)) 閲覧日 2021年9月22日
- 3) 中野 豊：(2006)「ALI/ARDSに対する呼吸ケア-腹臥位に代わって前傾腹臥位による体位変換を適用したARDSの1例-」. ([https://www.jstage.jst.go.jp/article/jsrccr/15/4/15\\_461/\\_pdf/-char/ja](https://www.jstage.jst.go.jp/article/jsrccr/15/4/15_461/_pdf/-char/ja)) 閲覧日：2021年6月14日
- 4) 三木 司：慢性無気肺および再膨張肺の換気・肺循環動態についての実験的研究. 日胸外会誌 41：959, 1980
- 5) 左利厚生, 藤井智子, 安川 毅：無気肺と腹臥位. 臨床麻酔 29：675, 2005
- 6) 渡辺 敏, 中村恵子：New 人工呼吸器ケアマニュアル. 初版, 学研メディカル秀潤社, 東京, 2000
- 7) 冨塚洋子：病院機能評価 Ver6 受番から、チーム医療の実施を振り返る 北海道勤労者医療. 看護と介護 41, 2015

(受付 2022年6月30日、採択 2023年1月12日)

# V. C P C 報 告

## V. CPC 報告

### V. 1 CPC 報告(2021年4月～2022年3月) (中央市民病院)

#### 第1回中央市民病院CPC報告

1. 症 例 テ ー マ：羊水塞栓により心肺停止に至り死亡した一例
2. 診 療 科：産婦人科  
主治医・受持医：山添紗恵子、吉岡信也
3. CPC 開 催 日：2021年4月21日
4. 発 表 者：臨床側（産婦人科 山添紗恵子  
初期研修医 大橋孝太郎）  
病理側（西野彰悟  
初期研修医 小久保結未）
5. 患 者：34歳、女性
6. 臨 床 診 断：羊水塞栓症
7. 剖 検 診 断：心肺虚脱型羊水塞栓症
8. 臨 床 情 報：
  - 1) 現病歴  
妊娠39週0日に、午前1：30ごろ破水感があり午前2：00ごろに前医受診、前期高位破水の診断で経過観察目的の入院となっていたが、破水後に突然の心肺停止を来し、当院へ搬送。
  - 2) 既往歴・家族歴など  
右卵巣嚢腫（11歳）、左卵巣嚢腫（27歳）
  - 3) 診療所見（前医入院時）  
身長156.0cm, 体重60.9kg, BMI 25.0,  
BP117/81mmHg, HR77/min, BT36.9℃  
胎児心拍数陣痛図（CTG）：子宮収縮5-6分間隔,  
胎児心音異常なし
  - 4) 主な検査データ  
・血算：WBC  $17.5 \times 10^3/\mu\text{L}$ , Hb 9.2g/dL, Plt  $17.9 \times 10^4/\mu\text{L}$   
・生化学：TP 3.8g/dL, Alb 1.6g/dL, T-Bil 0.3mg/dL, AST 1123U/L, ALT 1077U/L, LDH 2494U/L, ALP 452U/L,  $\gamma$ -GT 23U/L, CK 863U/L, BUN 7.1mg/dL, Cre 0.65mg/dL, Na 139mEq/L, K 7.6mEq/L, Ca 8.7mg/dL, Glu 249mg/dL, CRP 0.11mg/dL, トロポニン 3.372ng/mL  
・血清学的検査：亜鉛コプロポルフィリン-1 <16 p mol/L, STN 44.0U/mL, C3 59.0mg/dL, C4 9.0mg/dL, C1 inhibitor 33.0%

- 5) 画像診断所見  
・頭部  
皮髄境界の不明瞭化  
脈絡叢からの出血を疑う右側脳室主体の出血  
・腹部  
膵臓は腫大、自己融解を疑う。腸管は拡張していた。Ai-CTでは明らかな一次性変化, CPAの原因を指摘できず。
- 6) 経過・治療  
若年・かつ前医の院内発症であり死戦期帝王切開の方針となった。死戦期帝王切開により児娩出、胎盤娩出し、胎児死亡確認（出生から30分経過）、その後死亡確認となった。
- 7) 手術所見  
なし
- 8) 症例の問題点(剖検で解明しなかった事項)  
・臨床経過からは羊水塞栓を疑うが、病理像は合致するか  
・その他に心肺停止に至る所見は認めていなかったか
9. 剖 検 情 報：
  - 1) 剖検診断と病理所見  
[主病変]
    1. 心肺虚脱型羊水塞栓症  
[副病変]
    1. 軽度脂肪肝
    2. 小葉中心性肝細胞壊死
    3. 大動脈粥状硬化軽度
    4. 右卵巣摘出後
    5. 膵臓 low grade PanIN
  - 2) 担当病理医：西野彰悟
10. 考 察：  
羊水塞栓症は、羊水が母体血中に流入することで引き起こされるアナフィラクトイド反応を病態とする疾患である。臨床型としては新派虚脱型とDIC型に分かれ、後者は子宮浮腫が病態の中心となることから、子宮型とも呼ばれる。羊水は夫抗原由来の異種蛋白を含んでおり、その羊水が母体血中に流入すると自然免疫系が反応すると補体系、キニンカリクレイン系が活性化し、子宮や肺を中心に急激に血管透過性が亢進し、間質に血管浮腫が発生し子宮弛緩症・肺



水腫となる結果、出血量に見合わない低血圧やDICが発生する。本症例では胚血管中に羊水成分が確認され、心肺虚脱型の羊水塞栓症と診断した。

## 第2回中央市民病院CPC報告

1. 症 例 テ ー マ：肝細胞癌肺転移に伴う閉塞性肺炎により呼吸不全に陥り死亡した一例

2. 診 療 科：消化器内科

主治医・受持医：安藤徳晃、猪熊哲郎

3. CPC 開 催 日：2021年8月18日

4. 発 表 者：臨床側（消化器内科 安藤徳晃  
初期研修医 田口宏和）  
病理側（山下大祐  
初期研修医 大濱大瑛）

5. 患 者：47歳、男性

6. 臨 床 診 断：肝細胞癌

7. 剖 検 診 断：肝細胞癌、びまん性肺胞障害、  
血栓性微小血栓症（レンバチニブ関連）

8. 臨 床 情 報：

### 1) 現病歴

HCC stage IV B（骨転移・肺転移）に対しレンバチニブで治療され、入院の6ヶ月前に肺転移による閉塞性肺炎で入院・抗菌薬治療されていた。来院当日に突然発症の呼吸苦があり、救急搬送された。胸部CTで肺転移増悪・閉塞性肺炎を認め、治療目的に入院となった。

### 2) 既往歴・家族歴など

HBVキャリア、腰椎椎間板ヘルニア（1999年）、甲状腺機能低下症（2013年）、高血圧症（2013年）、肝細胞癌（2015年）、肝細胞癌肝内再発・肺転移・骨転移（2016年）、黄色ブドウ球菌菌血症/動注用ポート植え込み部感染（2019年）、閉塞性肺炎（2020年）

### 3) 診療所見

身長173.0cm, 体重61.40kg, 意識清明,  
BP125/83mmHg, HR140/min, RR 30/min, SpO<sub>2</sub>  
100%(酸素8L), BT36.9℃

### 4) 主な検査データ

・血算：WBC  $21.3 \times 10^3/\mu\text{L}$ , Hb 11.5g/dL, Plt  
 $22.8 \times 10^4/\mu\text{L}$   
・生化学：Alb 1.7g/dL, AST 105U/L, ALT 46U/L,  
LDH(IFCC) 383U/L, CK 172U/L,  
CK-MB 21.4U/L, BUN 31.4mg/dL, Cre  
1.16mg/dL

### 5) 画像診断所見

- ・多発肺転移、縦隔肺門部リンパ節腫大の増悪、右胸水増悪
- ・左肺上下葉、右肺葉に磨りガラス陰影が新規に出現
- ・右肺中葉は閉塞性無気肺が以前と同様に存在。
- ・Th10、L1椎体の脊柱管内進展増悪・胸骨、左肩甲骨、右第6肋骨転移巣増大。

### 6) 経過・治療

呼吸不全に対してNPPVで、肺炎に対しては抗菌薬、呼吸困難に対してはモルヒネで治療開始されてEICU入室となった。主治医と本人と相談がなされ、DNAR/DNIの方針になった。

第2病日、呼吸困難感の増悪があり、モルヒネを増量。低換気となり、呼吸停止し永眠された。

### 7) 手術所見

なし

### 8) 症例の問題点(剖検で解明しなかった事項)

- ・臨床経過からは閉塞性肺炎を疑うが、病理像は閉塞性肺炎として矛盾しないか。
- ・腫瘍進行はどの程度か。

### 9. 剖 検 情 報：

[主病変]

1. 肝硬変を伴う中～低分化型肝細胞癌：手術ならびに分子標的薬治療後状態  
転移：両側肺・胸壁・右肺尖部胸膜・リンパ節（縦隔 膵臓周囲 腹部大動脈周囲 腸間膜）・右副腎
2. びまん性肺胞障害（左下葉）ならびに肺出血（右中葉）
3. 右室内陳旧性血栓
4. 心嚢液貯留（500mL）
5. 肝内胆汁瘻
6. 血栓性微小血栓症（レンバチニブ内服による）

[副病変]

1. 軽度大動脈粥状硬化症
2. Low grade PanIN
3. 骨髄低形成（部分的）
4. 慢性甲状腺炎

### 10. 考 察：

肝細胞癌の転移は肺・気管支・胸壁・骨・リンパ節へ及んでおり、特に肝細胞癌の気管支浸潤により閉塞し、右肺中葉は無気肺となっていた。多発肺転移により肺の換気機能は低下していたと考える。心嚢への腫瘍浸潤はなかったが、胸壁～前縦隔の腫瘍

と癒着しており、これによる心嚢水貯留で心機能が低下していた可能性もある。腫瘍気管内腔への進展による狭窄、癌性リンパ管症、腫瘍浸潤に伴う肺出血ならびにびまん性肺胞障害も引き起こしていた。びまん性肺胞障害は急性期で、発症後 3-7 日程度であり、入院直前の呼吸困難感是多発肺転移による肺出血ならびにびまん性肺胞障害による。

以上より、腫瘍の肺転移ならびに閉塞性肺炎により呼吸不全を引き起こし、死に至ったと考える。腎臓で、フィブリン血栓の形成や破碎赤血球がみられ、血栓性微小血管障害の像である。肝細胞癌に対して投与されていたレンパチニブが原因と考えられる。

### 第3回中央市民病院CPC報告

1. 症 例 テ ー マ：強皮症と肺高血圧症を有し、呼吸障害により死亡した一例
2. 診 療 科：呼吸器内科  
主治医・受持医：嶋田有里、富井啓介
3. CPC 開 催 日：2021 年 10 月 20 日
4. 発 表 者：臨床側（呼吸器内科 嶋田有里  
初期研修医 野口義朗）  
病理側（山下大祐  
初期研修医 押川大介）
5. 患 者：77 歳、女性
6. 臨 床 診 断：全身性強皮症、間質性肺炎
7. 剖 検 診 断：全身性強皮症、びまん性肺胞障害
8. 臨 床 情 報：

#### 1) 現病歴

入院 15 日前に歩行時の呼吸困難を自覚し前医受診。細菌性肺炎とし抗菌薬内服開始するも低酸素血症を認め、前医入院。細菌性肺炎として抗菌薬静注を開始。徐々に呼吸状態悪化し、挿管人工呼吸器管理開始。強皮症に伴う間質性肺炎も念頭にステロイドパルス施行。その後、意識レベル低下と左上肢麻痺出現。MRI にて脳梗塞を認めたため当院へ転送となった。

#### 2) 既往歴・家族歴など

全身性強皮症（2 年前に手指の硬化と逆流性食道炎で診断）  
逆流性食道炎、間質性肺炎  
胆石症、腎盂腎炎

#### 3) 診療所見

身長 140cm、体重 50.0kg  
バイタルサイン：GCS E4VTM6, BP132/88mmHg,  
HR103/min, RR21/min, BT36.4℃

左上下肢麻痺、右共同偏視 手指に限局性の腫脹あり

#### 4) 主な検査データ

・血算：WBC  $20.6 \times 10^3 / \mu\text{L}$ , Hb 9.4 g/dL,  
Plt  $22.9 \times 10^4 / \mu\text{L}$ ,  
・生化学：BUN 21.9 mg/dL, Cre 0.72 mg/dL,  
CRP 13.37 mg/dL, KL-6 529 U/mL,  
SP-D 236 ng/mL

#### 5) 画像診断所見

・右 MCA 領域脳梗塞、左半球、両側小脳の点状梗塞巣  
・右内頸動脈狭窄  
・両肺広範に牽引性気管支拡張を伴うすりガラス～浸潤影

#### 6) 経過・治療

右内頸動脈閉塞による脳梗塞に対して血栓回収術施行後、ICU に入室。第二病日、間質性肺炎増悪に対し IVCY を施行。意識障害は遷延しており頭部 CT では新規点状梗塞巣を認め、経食道エコーでは僧帽弁に疣贅の付着を認めた。第 5 病日、右腎梗塞ならびに脾梗塞が出現。ステロイド + IVCY 使用にも関わらず呼吸状態の改善に乏しく、ARDS の可能性が高いと判断。その後も意識障害の遷延と呼吸状態の悪化が続き withhold の方針へ。第 9 病日、永眠。

#### 7) 手術所見

なし

#### 8) 症例の問題点（剖検で解明しなかった事項）

・呼吸不全の原因として考えられる肺病変の病態は何か。  
・培養陰性で僧帽弁に疣贅付着を認めたが、感染性心内膜炎でよいか。  
・死因は何か。

#### 9. 剖 検 情 報：

[主病変]

##### 1. 強皮症（抗セントロメア抗体+）

##### 1.1. 肺高血圧（Heath-Edwards 分類：Ⅲ度）

1.1.1. 右室腔拡大

1.1.2. 心肥大（362g）

##### 1.2. 手指変形

##### 2. 両肺びまん性肺胞障害（感染疑い）

2.1. 胸水貯留（左 500ml, 右 400ml）

##### 3. 僧帽弁疣贅（非感染性血栓性心内膜炎）(12mm)

3.1. 右側頭葉出血性梗塞

3.2. 脾梗塞（5 mm）

[副病変]

1. 肝うっ血 (1124g)
2. 消化管びらん
3. 腹水貯留 (乳白色, 450mL)
4. 膵 low grade PanIN

#### 10. 考察:

肺は急性期～器質化期の DAD の所見であり、菌体は視認できなかったが、感染による ARDS と考えられた。疣贅も菌体は視認できず、消耗による非感染性血栓性心内膜炎を疑う。また右側頭葉に広範囲に出血性梗塞及び脾梗塞が見られ、疣贅によると考える。強皮症/肺高血圧(Heath-Edwards 分類: III 度)により心・呼吸予備能が低下していた際に感染から DAD を来たし、消耗によって非感染性血栓性心内膜炎を合併し脳梗塞となり、多臓器不全および呼吸不全で死亡したと考える。

### 第4回中央市民病院CPC報告

1. 症例テーマ: 統合失調症が背景にある 71 歳男性が発熱・意識障害で入院し、入院 3 日目に死亡した 1 例
2. 診療科: 総合内科  
主治医・受持医: 藤田将平、西岡弘晶
3. CPC 開催日: 2021 年 12 月 15 日
4. 発表者: 臨床側 (総合内科 藤田将平 初期研修医 山下新菜)  
病理側 (山下大祐 初期研修医 堂畑慶之)
5. 患者: 71 歳、男性
6. 臨床診断: 統合失調症、横紋筋融解症、急性腎障害
7. 剖検診断: 左内閉鎖筋膿瘍、横紋筋融解症、敗血症
8. 臨床情報:
  - 1) 現病歴  
入院 3 日前に当院精神科の定期外来を受診した際は普段通りだった。入院当日にヘルパーが自宅を訪れた際に、腹臥位で倒れているところを発見され、救急搬送された。来院時に発熱と意識障害を認め、精査目的に総合内科入院となった。
  - 2) 既往歴・家族歴など  
統合失調症、糖尿病
  - 3) 診療所見  
意識 GCS E4V4M6, BT 39.5 °C, BP 133/92 mmHg, HR 130 bpm, RR 20/min, SpO<sub>2</sub> 97%

瞳孔 3/3・対光反射 +/+、眼位正中、項部硬直なし、Jolt accentuation なし

胸部: 両側下肺野で coarse crackle 聴取

#### 4) 主な検査データ

血算: WBC 11.6 × 10<sup>3</sup>/μL, Hb 17.0 g/dL, Plt 23.6 × 10<sup>4</sup>/μL

生化学: T-Bil 2.1 mg/dL, AST 363 U/L, ALT 94 U/L, LDH 756 U/L, CK 21382 U/L, CK-MB 29.8 U/L, アミラーゼ 89 U/L, BUN 47.4 mg/dL, Cre 2.27 mg/dL, CRP 11.86 mg/dL, トロポニン 1.120 ng/mL, NTproBNP 1712.0 pg/mL,

【尿検査】 潜血 (3+)、白血球 (-)、尿ケトン (+)、亜硝酸塩 (-)、赤血球 1-4/HPF

#### 5) 画像診断所見

- ・頭部 CT: 頭蓋内出血や骨折なし
- ・胸腹部単純 CT: 肺炎像なし、両腎周囲に軽微な脂肪織濃度上昇あり、左内閉鎖筋腫大あり(膿瘍または横紋筋融解疑い)

#### 6) 経過・治療

横紋筋融解症、細菌性髄膜炎、菌血症疑いに対して抗菌薬を投与し入院となった。第 2 病日になり意識レベルが低下、頭部 MRI で脳血管障害、脳炎、ernicke 脳症の所見なく、脳波でてんかん波なく、びまん性脳機能障害を示唆する間欠的に左右差のない徐波を認めた。その後も時々開眼や離握手に従うなど意識レベルの変容が見られ、褥瘡エンタリーもしくは閉鎖筋膿瘍からの敗血症とそれに伴う意識レベル低下と考え、抗生剤を変更した。第 3 病日も発熱・意識障害が持続し、その後血圧・心拍数低下が進行し、同日心停止・死亡確認となった。

#### 7) 手術所見

なし

#### 8) 症例の問題点(剖検で解明しなかった事項)

- ・ショックの原因は敗血症と考えているが、心原性や出血性の要素はあったのか
- ・CT で認めた内閉鎖筋の腫大は膿瘍だったのか
- ・細菌性髄膜炎の所見はあったか
- ・急性腎不全の原因、特に横紋筋融解症と造影剤腎症の関与はあったか

#### 9. 剖検情報:

[主病変]

1. 左内閉鎖筋膿瘍 + 萎縮壊死  
ミオグロビン円柱

## 2. 敗血症

急性脾炎

血球貪食像

[副病変]

1. 仙骨褥瘡

2. 多発潰瘍 (UL-II, 胃~十二指腸)

3. 擦過、打撲傷

4. 肺鬱血 (rt:787g, lt:470g)

5. 大動脈粥状硬化 (軽度)、冠動脈粥状硬化 (中等度) - 腎硬化症 (rt:168g, lt:160g)

6. 甲状腺腫大 (65g)

[偶発病変]

管状腺腫 (S 状結腸)

## 10. 考 察:

仙骨部に褥瘡、左内腸骨筋腫大部位に膿瘍形成を認め、急性脾炎や脾臓・骨髄での血球貪食像も認めた。臨床的に菌血症は証明されていないが、膿瘍と合わせて敗血症と考える。胃十二指腸潰瘍と下部消化管内の黒色水様便があったが、循環不全に至る程度とは考えにくく、腸管壊死もなかった。大血管は年齢相応の動脈硬化を認めた。腎臓は背景に腎硬化があり、ミオグロビン円柱を認め、横紋筋融解症による急性腎不全が考えられる。

以上より、敗血症に伴う循環不全に急性腎不全(横紋筋融解症)が合併し、多臓器不全により死亡に至ったと考える。膿瘍形成の原因としては仙骨部褥瘡が疑わしい。

## 第5回中央市民病院CPC報告

1. 症 例 テ ー マ: 肺腺癌の抗癌剤治療導入後より血痰を伴う呼吸状態悪化で心停止に至った1例
2. 診 療 科: 呼吸器内科  
主治医・受持医: 世利佳滉、富井啓介
3. CPC 開 催 日: 2022年2月16日
4. 発 表 者: 臨床側 (呼吸器内科 世利佳滉  
初期研修医 春名孝太郎)  
病理側 (山下大祐  
初期研修医 小久保結未)
5. 患 者: 76歳、男性
6. 臨 床 診 断: 肺腺癌
7. 剖 検 診 断: 肺腺癌、器質性肺炎
8. 臨 床 情 報:
  - 1) 現病歴  
X- 5月 乾性咳嗽が出現。

X- 1月 血痰と食欲不振契機に施行された胸部単純X線検査で異常あり、当院へ転送。酸素需要があり、胸部造影CT検査で両側肺の異常陰影を認め、精査加療目的で入院。転送時既に血痰消失し、画像から肺血栓塞栓症が疑われ、ヘパリン開始。経気管支肺生検で肺腺癌と判明し、画像上で癌性胸膜炎や多発骨転移、髄腔内転移を認め、Stage IV B(cT4N0M1c)。ヘパリン開始から3週間でエドキサバンに変更。

X-10日 アテゾリズマブ1クール目開始。

X- 3日 自宅退院。

X日 フォロー外来で活動量の低下、血痰再燃、呼吸状態悪化を認め、再入院。

## 2) 既往歴・家族歴など

高血圧、脂質異常症、結核、痛風

## 3) 診療所見

身長 165cm、体重 67kg、BMI 25 BP 99/50mmHg、HR 62/min、RR 23/min、SPO<sub>2</sub> 90% (2L/min)、体温 36.5℃ 呼吸音: 右肺野減弱、fine cracklesを軽度聴取 喀痰: 淡血性、粘稠

## 4) 主な検査データ

血算: WBC 6100/ $\mu$ L, Hb 126g/dL, Plt 3.3万/ $\mu$ L

電解質: 特記所見なし

生化学: BUN 43.8mg/dL, Cre 1.43mg/dL, LDH 508U/L, CRP 21.6mg/dL

## 5) 画像診断所見

- ・胸部単純X線検査 (立位正面): 3日前と比較して、左肺野の透過性低下
- ・頸部胸腹部造影CT検査: 左肺優位に、両肺びまん性すりガラス影の増強、小葉間隔壁肥厚を伴う。

## 6) 経過・治療

入院後、エドキサバン中止、止血剤 (カルバゾクロム + トラネキサム酸) と抗菌薬開始。第2病日、呼吸状態悪化、レントゲンで左肺野陰影の悪化があり、mPSL 500mg/dayを開始するも、両肺野陰影は悪化した。irAE 疑いに対してIVCY 500mgを当日のみ投与し、ステロイドパルス後療法としてmPSL 80mg/dayを開始。経胸壁心臓超音波検査にて大動脈弁や僧帽弁の弁尖に不整な塊状構造物を認め、IEに準じた投与方針に。間質性肺炎や真菌感染、ウイルス感染を疑ったが、自己抗体や $\beta$ -D グルカン、CMV 抗原

は全て陰性。その後も呼吸状態悪化が進行し、第14病日、心肺停止、死亡確認。

7) 手術所見

なし

8) 症例の問題点 (剖検で解明しなかった事項)

- ・肺野の病変や呼吸状態の悪化は肺癌が原因か？
- ・肺癌の進展、治療効果はどの程度であったか？
- ・肝障害や腎障害の原因は何か？

9. 剖 検 情 報：

[主病変]

1. 肺腺癌 化学療法及び免疫チェックポイント阻害剤投与後 (rt800g lt700g, 転移：左肺 腰椎)  
pT4NXM1b (MAR, PUL) , pStage IV A
  - 1-1. 癌性リンパ管症
  - 1-2. 胸水貯留 (rt:1200mL, lt:400mL)
2. 器質化肺炎、びまん性肺胞傷害 (rt800g lt700g)

[副病変]

1. 心虚血性変化 (急性 + 陳旧性) (800g, 心室中隔～前壁)  
冠動脈前下行枝の高度粥状硬化症
  - 1-1. 肝臓細胞壊死 (1100g)
2. 心肥大、両心拡大 (800g)
3. 高度大動脈粥状硬化症
  - 1-2. 腎硬化症 (rt:200g, lt:184g)
4. 僧帽弁、大動脈弁の非感染性疣贅 (800g)

10. 考 察：

右上葉の胸膜陥入部が原発と考えられる肺腺癌があり、腫瘍は両肺へ高度に浸潤していた。器質化肺炎もみられたが、腫瘍によるものか、免疫チェックポイント阻害薬によるものかは断定困難であった。心室中隔から前壁にかけて心筋梗塞を認めた。肝臓には、循環不全によると思われる出血性壊死の所見が見られた。このほか、腎硬化症の所見も認めた。

肺腺癌は治療効果に乏しく、広範な肺浸潤及び器質化肺炎による呼吸不全が背景にあることに加え、死亡の数日前に心筋梗塞を併発したことも死亡に関与していると考えられる。

## V. C P C 報告

### V. 2 C P C 報告(2021年4月～2022年3月) (西市民病院)

#### 第1回西市民病院C P C報告

1. 診療科、主治医・受持医：内科、星・桜井
2. C P C 開催日：2021年4月27日
3. 発表者：臨床側（桜井）  
病理側（岡林）
4. 患者：50歳代、女性
5. 臨床診断：出血性十二指腸潰瘍
6. 剖検診断：十二指腸潰瘍
7. 剖検情報：

##### 1) 剖検診断と病理所見

###### I. 十二指腸潰瘍（球部、直径約2cm）

- A. 同穿孔（周囲に血腫形成を伴う）
- B. 胃潰瘍（前庭部、小弯側、直径約8mm）

###### II. 肺うっ血水腫（左：400g、右：550g）

###### III. 脂肪肝（1100g）

###### IV. 肥満

\*十二指腸球部に大きな潰瘍形成があり、穿孔します。後腹膜に脂肪組織に囲まれた血腫を形成します。潰瘍部分の組織所見では、炎症は目立ちませんが、粘膜壊死、粘膜下層に軽度の線維化をみ、悪性所見は認めません。\*胃にも小さな潰瘍をみましました。その組織所見では、十二指腸と同様で、悪性所見は認めません。\*胃内容はコーヒー残渣様でした。\*腹腔外観は、腹水、播種、癒着などなくきれいです。\*脾臓は出血のため萎縮し、皺形成が目立ちました。

##### 2) 担当病理医：岡林・勝山

#### 第2回西市民病院C P C報告

1. 診療科、主治医・受持医：内科、星・林
2. C P C 開催日：2021年5月25日
3. 発表者：臨床側（林）  
病理側（岡林）
4. 患者：70歳代、女性
5. 臨床診断：臍癌
6. 剖検診断：臍癌
7. 剖検情報：

##### 1) 剖検診断と病理所見

###### 1. 臍癌（浸潤性膵管癌、腺癌、高分化型、体尾部、約12cm大）

- A. 同浸潤、転移

- 1) 大網（最大約13cm大）
- 2) 腸間膜
- 3) 小腸
- 4) 脾臓
- 5) 腹膜
- 6) 両側卵巣（最大約5cm大）
- 7) 子宮

##### B. 腸管癒着

##### C. 癌性腹膜炎

- 1) 腹水（4000ml、黄色透明）

##### 2. 腔水症

- A. 左胸水（100ml）

##### 3. 肺うっ血水腫（左230g、右390g）

##### 4. 肝褐色変性（830g）

##### 5. るい瘦

\*臍臓には、体尾部に硬結を認め、周囲腸管や胃、大網、脾臓などと一塊に癒着していました。その組織では、高分化な粘液性の腺癌がscirrhousに広範に浸潤し、臍癌に矛盾しない像ですが、病変部においては腫瘍と線維化に置換され、臍組織は不明瞭化しています。\*大網は全体が腫瘍に置換され、omental cakeの状態でした。\*左胸水を少量みましましたが、胸腔内や肺表面は播種などなくきれいでした。

##### 2) 担当病理医：岡林・勝山

#### 第3回西市民病院C P C報告

1. 診療科、主治医・受持医：内科、平佐・泉
2. C P C 開催日：2021年6月29日
3. 発表者：臨床側（泉）  
病理側（岡林）
4. 患者：70歳代、男性
5. 臨床診断：肝細胞癌
6. 剖検診断：肝細胞癌
7. 剖検情報：

##### 1) 剖検診断と病理所見

###### I. 肝癌（肝細胞癌、900g、最大約7cm以下多数、中～低分化型、門脈内腫瘍栓および血栓を伴う）

##### A. 肝硬変

1. 門脈圧亢進症
- a) 脾腫（200g）

- b) 食道静脈瘤
- 2. 肝不全
  - a) 腔水症
    - (1) 胸水 (左: 50、右: 200 ml)
    - (2) 腹水
  - b) 出血傾向 (皮下出血斑多数)

#### B. 同転移

- 1. 肺 (最大 3cm 大の結節多発)
- 2. リンパ節 (腭頭部周囲に約 5cm 大の転移)

#### II. 肺うっ血水腫

#### III. るい瘦

\*肝には大きな肝細胞癌をみ、門脈内に腫瘍血栓、脾静脈まで連なる血栓をみ、急性肝不全の原因と考えられます。大型胆管には閉塞を認めません。\*腭頭部周囲に腫瘍をみ、組織では腫瘍結節周囲にわずかにリンパ節構造の残存をみ、リンパ節転移を考えます。静脈侵襲が目立ちます。\*食道静脈瘤をみましたが、胃内容は殆どなく、血性ではありませんでした。\*腹水を多量にみましたが、腹膜は滑であり、播種も無く腹腔外観はきれいです。腸管漿膜も滑です。

2) 担当病理医: 岡林・勝山

#### 第4回西市民病院CPC報告

- 1. 診療科、主治医・受持医: 内科、星・永野・川勝
- 2. CPC 開催日: 2021年7月27日
- 3. 発表者: 臨床側 (川勝)  
病理側 (岡林)
- 4. 患者: 70歳代、男性
- 5. 臨床診断: 肺癌
- 6. 剖検診断: 重複癌
- 7. 剖検情報:
  - 1) 剖検診断と病理所見
    - 1. 重複癌
      - A. 肺癌 (右肺上葉、420g、腺癌 (神経内分泌腫瘍への分化を伴う)  
術後再発状態、化学療法後、最大径約 0.8cm)
      - 1) 同浸潤
        - a) 縦隔 / 胸膜浸潤、胸膜炎
      - 2) 同転移
        - a) 肝臓 (1700g、多発、最大径約 2cm)
        - b) 副腎 (両側、最大径約 1.7cm)
        - c) 左肺 (900g、最大径約 1mm)
    - B. 膀胱癌術後状態 (同転移なし)
      - 1) 回腸導管造設後状態

- 2. 左胸水 (500ml)
- 3. 左水腎症 (左: 120、右: 190g)
- 4. 脾腫 (430g)
- 5. 肺うっ血水腫 (左: 900、右: 420g)
- 6. 胃 GIST (0.5cm 大)

\*右肺には上葉主体に高度な癒着と無気肺を認め、その組織では、広範な壊死を伴った低分化な癌を認め、既往の腺癌の残存として矛盾しません。特染にて Synaptophysin (+), Chromogranin (+) であり、神経内分泌腫瘍への分化をみます。\*弁膜には肥厚をみますが、菌塊の付着や感染を示唆する活動性の炎症は認めません。\*肝臓には、多発転移をみますが、胆管炎の残存ははっきりしません。その他、感染源を示唆する活動性炎症は認めません。\*腸管に播種はなく、その外観はきれいでした。

2) 担当病理医: 岡林・勝山

#### 第5回西市民病院CPC報告

- 1. 診療科、主治医・受持医: 内科、星・金田
  - 2. CPC 開催日: 2021年9月28日
  - 3. 発表者: 臨床側 (金田)  
病理側 (岡林)
  - 4. 患者: 70歳代、男性
  - 5. 臨床診断: 肝癌
  - 6. 剖検診断: 重複癌
  - 7. 剖検情報:
    - 1) 剖検診断と病理所見
      - 1. 重複癌
        - A. 肝癌 (1350g、肝内胆管癌 (細胆管細胞癌)、低分化~肉腫様、両葉多発、びまん性、最大径約 11cm)
        - 1) 同転移、播種
          - a. 大網 (omental cake)
          - b. 腸間膜
        - 2) 肝硬変
          - a. 黄疸
          - b. 脾腫 (130g)
          - c. 腹水 (1500ml、黄色透明)
      - B. 前立腺癌 (約 5mm 大、転移なし)
    - 2. 右胸膜癒着
    - 3. 肺うっ血水腫 (左: 500、右: 600g)
    - 4. 大動脈硬化症、高度
      - A. 良性腎硬化症 (左: 100g、右: 110g)
- \*肝臓には右葉に大きな灰白色調結節の他、両

葉にびまん性に多発小結節をみしました。その組織では、壊死や浮腫を伴って、主に紡錘形の sarcomatoid な細胞がやや疎に増殖します。一部で上皮様の結合性がみられ、低分化な癌を考えます。肉眼的にやや緑色調にみえた領域を主体に、一部で立方状～低円柱状の小型細胞が鹿の角様に管状に増殖する像をみ、EMA の染色では内腔面に陽性像をみます。小型管内胆管癌とくに細胆管細胞癌を示唆する所見と考えます。\*腸間膜には微小な播種結節を多数みしました。\*偶発的に Gleason score 3+3 相当の微小な前立腺癌を認めました。\*その他、肺、消化管、膀胱に原発となりうる腫瘍は認められません。

2) 担当病理医：岡林・勝山

### 第6回西市民病院CPC報告

1. 診療科、主治医・受持医：内科、富岡・李・藤原
2. CPC 開催日：2021年10月26日
3. 発表者：臨床側（藤原）  
病理側（勝山）
4. 患者：60歳代、男性
5. 臨床診断：特発性肺線維症
6. 剖検診断：慢性間質性肺炎
7. 剖検情報：

#### 1) 剖検診断と病理所見

##### I. 慢性間質性肺炎（左：580、右：730g）

1. 肺性心（290g、手拳の1.1倍大）

##### II. るいそう

##### III. 肝褐色変性

##### IV. 腔水症

1. 胸水（左：300、右：400ml、やや血性）

##### V. 冠動脈硬化症（軽度）

\*肺はやや硬く触知し、胸膜面には軽度の凹凸があります。\*肺の組織所見では、胸膜直下、小葉間隔壁などを中心としたfibrosisをみます。慢性間質性肺炎の所見です。（コンサルタントの意見参照）\*腹腔内は腹水もなくきれいでした。\*るいそうが目立ちました。

2) 担当病理医：勝山

### 第7回西市民病院CPC報告

1. 診療科、主治医・受持医：内科、平井・渡辺・嘉祥
2. CPC 開催日：2021年11月30日
3. 発表者：臨床側（嘉祥）  
病理側（勝山）

4. 患者：60歳代、女性

5. 臨床診断：多嚢胞腎

6. 剖検診断：多嚢胞腎

7. 剖検情報：

#### 1) 剖検診断と病理所見

##### I. 多嚢胞腎（左：2100、右：2100g）

1. 嚢胞感染（左腎上極の嚢胞内容物膿様）
2. 脾周囲膿瘍
3. 多嚢胞肝および慢性肝炎（3400g）

##### II. 肺うっ血水腫（左：450、右：600g）

##### III. 心肥大（500g）

##### IV. 腔水症

1. 腹水（2400ml、黄色透明）

\*両腎とも多数の嚢胞形成をみ、腎実質がほとんどなくなります。\*嚢胞内容は黄色透明なものが大部分ですが、左腎上極の内容は膿様でした。その細菌培養で、Pseudomonas spp.（少数）、E.faecium（少数）、S.epidermidis（少数）、C.indologenes（少数）などみしました。\*肝にも同様の嚢胞形成をみます。残存肝の組織では、偽小葉形成をみますが、肝全体に及ぶ所見ではなく、慢性肝炎相当です。\*脾周囲に多数の好中球浸潤があり、膿瘍を形成します。\*黄色透明な腹水を多量にみしました。その細菌培養で、Pseudomonas spp.（少数）、S.aureus（少数）、S.epidermidis（少数）、C.indologenes（少数）、E. faecium（少数）などみしました。

2) 担当病理医：勝山

### 第8回西市民病院CPC報告

1. 診療科、主治医・受持医：内科、星・山口
2. CPC 開催日：2022年1月25日
3. 発表者：臨床側（山口）  
病理側（勝山）
4. 患者：80歳代、男性
5. 臨床診断：上腸間膜動脈血栓塞栓症
6. 剖検診断：肺炎
7. 剖検情報：

#### 1) 剖検診断と病理所見

##### I. 肺炎（右上葉、左：360、右：680g）

1. 肺うっ血水腫

##### II. 麻痺性イレウス

##### III. 慢性肝炎（760g）

##### IV. 左股関節人口骨頭置換術後状態

##### V. 大動脈粥状硬化症（中等度）

1. 良性腎硬化症（左：110、右：90g）



## VI. るいそう

\*開腹時、腹水はなく、また腸管の拡張もみませんでした。腸管の色もほぼ正常でしたが、空腸トライツ靱帯付近の空腸で、暗赤色に変色している部分をみました。その部分の組織所見では、うっ血とともに上皮の変性所見が目立ちます。\*腸管の通過障害となる病変はみられず、麻痺性イレウスと考えます。\*腸管内容もほぼ黄色褐色軟便で、血性ではありませんでした。\*右肺の重量増加があり、その組織所見では、主に上葉を中心に広い範囲で、肺胞腔内に多数の好中球浸潤をみます。左肺の一部にも同様の肺炎の所見をみました。右上葉からの細菌培養で、Klebsiella pneumoniae (3+) , E.coli (2+) など認めました。\*肝は茶色調で、表面、剖面は細顆粒状でした。その組織所見では、一部に偽小葉形成をみますが、肝全体には及びません。慢性肝炎と考えます。\*大動脈には中等度の硬化性変化をみます。上腸管膜動脈起始部にも硬化性変化があり、狭窄をみますが、血栓は確認されませんでした。

2) 担当病理医：辻村・勝山

## 第9回西市民病院CPC報告

1. 診療科、主治医・受持医：内科、星・中川・落合
2. CPC開催日：2022年2月22日
3. 発表者：臨床側（落合）  
病理側（勝山）
4. 患者：80歳代、女性
5. 臨床診断：肝硬変
6. 剖検診断：肝硬変
7. 剖検情報：

### 1) 剖検診断と病理所見

#### I. 肝硬変 (1500g)

##### 1. 肝不全

(1) 腹水 (550ml、やや血性)

##### 2. 門脈圧亢進症

(1) 脾腫

##### 3. 胃瘻造設術後状態

#### II. 求心性心肥大 (530g、手拳の1.3倍大、左心室厚：2.2cm)

##### 1. 大動脈粥状硬化症 (軽度～中等度)

(1) 良性腎硬化症 (軽度、左：230、右：230g)

##### 2. 冠動脈粥状硬化症 (軽度)

#### III. 腔水症

#### 1. 胸水 (左：200、右：150ml、やや血性)

(1) 両下葉無気肺 (左：280、右：330g)

## IV. 肥満

\*門脈内には血栓は認められません。\*脾腫は軽度で、食道静脈瘤は目立ちません。\*黄疸も明らかではありませんでした。\*腹水を多量にみましたが、腹腔概観は播種もなくきれいです。消化管内容も血性ではありませんでした。\*出血傾向は目立ちません。\*肺門部の気道内には異物はみませんでした。

2) 担当病理医：保木・勝山

## 第10回西市民病院CPC報告

1. 診療科、主治医・受持医：内科、小林
2. CPC開催日：2022年3月29日
3. 発表者：臨床側（小林）  
病理側（勝山）
4. 患者：50歳代、男性
5. 臨床診断：肝動脈瘤破裂
6. 剖検情報：

### 1) 剖検診断と病理所見

#### I. 左下腿皮膚癌術後状態 (左下腿、膝関節下部で切断、再発なし)

#### II. 肝動脈瘤、同コイル塞栓術後状態

##### 1. 閉塞性胆管炎

a. 多発性肝膿瘍

#### III. 多嚢胞腎 (左：860、右：820g)

##### 1. 腎不全

a. 尿毒症性心外膜炎

#### IV. 陳旧心筋梗塞 (830g、手拳の2倍大)

1. 冠動脈ステント挿入術後状態

2. 冠動脈粥状硬化症 (高度)

a. 大動脈粥状硬化症

3. 求心性心肥大

#### V. 肺うっ血水腫 (左：450、右：700g)

\*十二指腸乳頭部からカテーテルが露出している部分にはもはや血腫は認められません。\*カテーテルに沿って、胆管の横断面を検索したところ、総胆管の拡張をみました。特に閉塞の原因となる所見はみませんでした。\*肝剖面の検索で、肝門部を中心とした肝動脈瘤 (直径約3cm) を認め、その前後にコイルが確認されました。肝内に、暗赤色やや濁な軟化巣が散見されます。組織では、壊死とともに多数の好中球浸潤があり、閉塞性胆管炎に伴う肝膿瘍と考え

ます。\*消化管内容は大腸内で血性でしたが、小腸内は血性ではありませんでした。\*心外膜は、点状の出血があり、汚くなります。癒着もありました。冠動脈の石灰化が目立ちます。\*組織では、fibrin の析出を伴い心外膜の fibrosis をみ、臨床経過から尿毒性の心外膜炎と考えます。\*冠動脈は外部からも硬化し触知します。\*心筋には、白色に変色する部分があり、陳旧心筋梗塞の所見です。\*やや血性、糞臭を帯びた腹水を少量（50ml）みましたが、腸管漿膜は概して著変はありませんでした。

2) 担当病理医：勝山

## V. CPC 報告

### V. 3 CPC 報告(2021年4月～2022年3月) (西神戸医療センター)

#### 第1回西神戸医療センターCPC報告

1. 症 例 テ ー マ：慢性骨髄単球性白血病の急性転化及び敗血症性ショックより死に至った1例
2. 診療科、主治医・受持医：免疫血液内科  
新里偉咲、佐伯美紀
3. CPC 開催日：2021年7月12日
4. 発 表 者：臨床側（免疫血液内科 新里偉咲、大島章裕、芳村理紗）  
病理側（病理診断科 浅井沙月）
5. 患 者：80歳、男性
6. 臨 床 診 断：慢性骨髄単球性白血病
7. 剖 検 診 断：慢性骨髄単球性白血病(chronic myelomonocytic leukemia)、急性転化  
腫瘍浸潤
8. 臨 床 情 報：

#### 1) 現病歴

慢性骨髄性単球白血病(CMML)に対し輸血にてフォロー中の患者。2019年10月からWBC 2～8万、単球 20～50%、芽球 20%～30%で推移していた。間質性肺炎の指摘ありHOT導入されている。

2020年年末より食事摂取量が低下していた。

2021年1月X-1日より39℃台の発熱が出現し解熱剤で様子をみていたが改善せず、1月X日に免疫血液内科外来を予約受診した。血液検査で炎症反応高値、低血圧、低血糖を認め細菌性肺炎の疑いで加療目的に入院となった。

#### 2) 既往歴・家族歴など

間質性肺炎(73歳、2020年3月にビダーザの副作用で増悪ありHOT導入)

オーバーラップ症候群、帯状疱疹(76歳)、右鼠径ヘルニア(78歳)

脂質異常症、高尿酸血症、大動脈弁狭窄症

飲酒歴：なし 喫煙歴：20本×50年(10年前より禁煙) 家族歴：特記事項なし

#### 3) 診療所見

血圧 73/59 mmHg, 心拍数 95 bpm, 体温 36.3℃, SpO<sub>2</sub> 97-99% (酸素 1L), 呼吸促進なし(呼吸計測なし)

#### 4) 主な検査データ

(血液検査)WBC 150500 / $\mu$ l (NEUT STAB 6.5%, SEG 5.5%, LYMPH 7.5%, MONO 55.5%, MYELO 8.0%, METAMYELO 0.5%, 芽球 14.0%, EBL/100WBC 3%), RBC 207万/ $\mu$ l, Hb 6.5 g/dl, Ht 19.8%, Plt 3.9万/ $\mu$ l, MCV 96 fl, MCH 31.4 pg, MCHC 32.8%, 血糖 37 mg/dl, CRP 11.3 mg/dl, T-Bil 0.6 mg/dl, AST 76 IU/l, ALT 40 IU/l, ALP 525 IU/l, LDH 1964 IU/l, AMY 178 IU/l, BUN 43 mg/dl, Cr 2.46 mg/dl, eGFR 20.6 ml/分/1.73, Na 134 mEq/l, K 5.3 mEq/l,  $\beta$ -D グルカン 45 pg/ml (心電図) 軽度PQ延長

#### 5) 画像診断所見

<胸部X線検査> CPA sharp、心拡大あり、両下肺に透過性低下あり

<胸部単純CT検査> 両肺野背側末梢優位に分布する網状影が前回より増強。左上葉S1+2末梢や右下葉S6には浸潤影も認める。やや不明瞭ながら両側頸部～鎖骨上窩、縦隔のリンパ節は前回との比較でやや増大傾向にあり、脾腫も明らかに増強している。

#### 6) 経過・治療

低血糖に対し適宜50%ブドウ糖液20ml投与し再検した。貧血に対してはRBC2単位輸血施行した。熱源精査目的に胸部CT撮像し熱源は肺炎によるものと考え、メロペネムを投与開始した。また血圧低下に対しては輸液全開、昇圧剤を持続投与した。収縮期血圧100mmHgを維持できていたが、入院日の夜より急激な酸素化低下、血圧低下とそれに伴う意識レベル低下を認めたため、酸素15L投与開始し、昇圧剤を増量した。動脈血液ガスではAG開大性の代謝性アシデミアを認め、高K血症に対してカルチコール投与、間質性肺炎の増悪と副腎不全も考慮してメチルプレドニゾロン500mgを投与した。DNARの方針だったため緊急透析や気管挿管はせずに経過をみていたが酸素需要漸増していき、入院2日目午前8時12分に永眠された。

#### 7) 手術所見

なし

#### 8) 症例の問題点(剖検で解明しなかった事項)

- ・多臓器不全に至った原因は何だったのか
- ・副腎不全に至る器質的な病変は存在したか
- ・間質性肺炎の急性増悪は存在したのか

## 9. 剖 検 情 報：

### 1) 剖検診断と病理所見

#### <主病変>

- 慢性骨髄単球性白血病 (chronic myelomonocytic leukemia; CMML)、急性転化  
腫瘍浸潤; 肺 (重量測定せず)、脾臓 (710g)、腎臓 (右 200g, 左 200g)、  
肝臓 (1930g)、心臓 (400g)、腸間膜リンパ節

- 1.1. pulmonary leukostasis
- 1.2. 肺水腫、両側全葉に高度

#### <副病変>

- 敗血症 [血液培養より Staphylococcus aureus 検出]
  - 1.1 心筋内微小膿瘍
- 間質性肺炎  
両肺下葉、胸膜下線維化あり。蜂巢肺は認めず。
- アスペルギルス感染症 左上葉嚢胞形成
- 動脈硬化症  
大動脈; 中等度から高度 (腹腔動脈分岐部、  
総腸骨動脈優位)  
左冠状動脈起始部 50% 狭窄

### 2) 担当病理医：浅井沙月

### 3) 病理医からのコメント

慢性単球性骨髄性白血病 (CMML) の急性転化の状態と考えられ、肺、脾臓、腎臓、肝臓、心臓への腫瘍細胞浸潤を認めた。特に肺での腫瘍細胞浸潤による肺水腫および pulmonary leukostasis による呼吸機能低下が死因の主体と考えられた。その他、腫瘍細胞浸潤による腎臓の管内増殖性糸球体腎炎様の病態による腎機能低下や肝機能低下、(範囲は極めて微小であるが) 心筋への腫瘍浸潤および感染による循環機能低下とともに、敗血症による全身状態の悪化が相乗的に死因に寄与したものと考えられた。

## 10. 考 察：

慢性骨髄性単球白血病 (CMML) とは、骨髄異形成症候群 (MDS) と骨髄増殖性腫瘍 (MPN) の重なり合う特徴を有する造血幹細胞障害であり、AML 転化にリスクを有する疾患である。CMML は末梢血芽球が増加するほど白血病化のリスクが高いと言われている。今回の症例では末梢血における芽球 + 単芽球を 20% 以上認めており、死亡する数

ヶ月前から白血病化があったものと考えられる。すでに白血病化している CMML では WBC 数と LDH 値で病勢を評価できると報告されているが、今回の症例では死亡前日から血清 WBC と LDH はいずれも大幅に上昇しており、CMML の急激な増悪があったものと考えられる。白血病の臓器浸潤の傾向として、脾臓、肝臓、リンパ節といったリンパ器官で最も多く、次に肺や腎臓も多いと報告されている。実際に本症例でも脾臓、肝臓、肺、腎臓、心臓、腸間膜リンパ節に白血病浸潤を認めた。今回の症例では、CMML が白血病化していたことによって易感染性状態となり、そこに肺炎が重なることで、CMML が急性増悪したものと考えた。肺炎による Septic Shock と、CMML の急性増悪による他臓器浸潤により、多臓器不全となったことで死に至ったものと考えた。

## 11. 参考文献：

- 1) Blood Research 2021 : 56 (S1)
- 2) Barcos, Maurice, et al : An autopsy study of 1206 acute and chronic leukemias (1958 to 1982). Cancer 60 (4) : 827-837, 1987

## 第2回西神戸医療センターCPC報告

1. 症 例 テ ー マ：急性骨髄性白血病の診断で緩和導入療法を施行中に突然の呼吸不全をきたし死に至った1例
2. 診療科、主治医・受持医：免疫血液内科 橋本朗子
3. CPC 開催日：2021年7月19日
4. 発 表 者：臨床側 (免疫血液内科 橋本朗子、稲田有作)  
病理側 (病理診断科 浅井沙月)
5. 患 者：65歳、男性
6. 臨 床 診 断：急性骨髄性白血病
7. 剖 検 診 断：acute monoblastic and monocytic leukemia (AMoL)
8. 臨 床 情 報：
  - 1) 現病歴

20XX年6月24日より歩行時の動悸や息切れを自覚していた。以後2週間で5kgの体重減少を認めていた。7月6日にA病院消化器内科外来を受診した。血液検査で血球数の異常から血液疾患を疑われたため、同A病院の免疫血液内科にコンサルトされた。施行された骨髄穿刺の所見から急性骨髄性白血病疑いとして同日A病院免疫血液内科に緊急入院となった。

## 2) 既往歴・家族歴など

20XX- 7年：胃がんに対し幽門側胃切除術

20XX- 2年：前立腺肥大症

その他：心房細動に対しカテーテルアブレーション後

飲酒歴：なし 喫煙歴：なし

家族歴：特記事項なし

## 3) 診療所見

特記事項なし

## 4) 主な検査データ

血液生化学検査では白血球数が31900 / $\mu$ lと著明な上昇を認め、LDHは9022 U/lと異常高値であった。Cre 1.46 mg/dl、eGFR 38.7 ml/min/1.73m<sup>2</sup>と腎機能低下も認めた。骨髄生検では芽球がMPO染色陽性の93.2%を占め、腫瘍量の多い所見であった。フローサイトメトリーではCD13、CD33といったAMLに特異的なマーカーが発現しており、これらを総合してAMLの診断となった。また、G-bandでは染色体のトリソミーに加え、長腕・短腕の欠失など多数の遺伝子変異が認められた。

## 5) 画像診断所見

第0病日の胸部X線撮影では明らかな心拡大や浸潤影を認めなかった。

## 6) 経過・治療

第3病日から化学療法（IDR+AraC）を開始したが、尿量が乏しく補液を3000ml/dayペースで施行したところ心不全を発症した。CHDFにて除水トライし、順調に除水できていたが、第4病日に突然呼吸状態が悪化し、NPPV装着が継続できず、人工呼吸管理に切り替える直前に心肺停止状態となり、心肺蘇生に反応せず同日患者は死亡した。LDHが42760 U/lまで上昇を認めており、原疾患の病勢は強かったものと思われるが、直接の心肺停止の原因が不明であり、病理解剖が施行される方針となった。

## 7) 手術所見

なし

## 8) 症例の問題点（剖検で解明しなかった事項）

1. 腫瘍の全身臓器への浸潤、転移を含めた広がりはどうであったか
2. 本症例における心肺停止に至る直接の原因は何であったか

## 9. 剖 検 情 報：

### 1) 剖検診断と病理所見

### <主病変>

1. 単球分化を伴う急性骨髄性白血病 [治療中]  
Acute monoblastic and monocytic leukemia (AMoL) 疑い
  - 1.1 Pulmonary leukostasis
  - 1.2 顆粒球肉腫（リンパ節腫瘍）  
病変浸潤臓器  
骨髄、肝臓（2400 g）、脾臓（550 g）、リンパ節（傍大動脈、肺門部、縦隔、胃周囲）、腎臓（右；240 g、左；210 g）、心筋内（右心室）、心外膜（右房表面、両心室表面、冠状動脈起始部周囲）、心内膜（左室）、食道固有筋層内、副腎

### <副病変>

1. 肺水腫 右上葉、右中葉、左上葉（右；850 g、左；750 g）
  - 1.1 胸水貯留（右；600 ml+  $\alpha$ 、黄色透明、左；200 ml+  $\alpha$ 、色調不明）
  2. DAD（Diffuse alveolar damage）疑い 右上葉のみ
  3. 心房細動 [臨床] 右房拡大、右心不全の疑い

### <随伴病変>

1. 幽門側胃切除後（2013年）：明らかな再発所見なし
2. 動脈硬化症  
弓部大動脈、総腸骨動脈優位。中等度から高度。右冠状動脈50%狭窄、左冠状動脈50%狭窄、
  - 2.1 陳旧性心筋梗塞、右室後壁 10x4 mm
3. 粘膜出血：左腎盂、膀胱

### 2) 担当病理医：浅井沙月

### 3) 病理医からのコメント

免疫組織化学の結果から acute monoblastic and monocytic leukemia (AMoL) が最も考えられた。腫瘍細胞の浸潤を多臓器に認めたが、特に肺胞壁の血管への高度な浸潤 (pulmonary leukostasis) およびそれに付随する肺水腫による呼吸機能不全が死因と考えられた。また、pulmonary leukostasis による肺高血圧、および治療による輸液負荷によって引き起こされた右心不全による循環不全も全身状態の悪化に寄与したと考えられた。

### 10. 考 察：TLSと本症例の死因との関連について

TLS (Tumor Lysis Syndrome: 腫瘍崩壊症候群) は、腫瘍細胞が崩壊し、細胞内から K、リン酸、核酸が多量に全身循環へ放出される oncologic emergency であり、核酸が尿酸へと代謝され、高

尿酸血症をきたすことにより尿酸が腎尿管に蓄積し、カルシウム結晶化することで腎血管収縮、局所の炎症、自己調節能の低下を引き起こし、腎血流量の低下による腎前性腎不全、AKI（急性腎障害）に至る病態である。TLSはBurkittリンパ腫やALLに対して細胞毒性治療（ゲムツズマブオゾガマイシン、ダウノルビシン、シタラビン等を用いる化学療法）を導入した際に最も起こりやすいとされているが、他の種類の腫瘍でも増殖速度の速い腫瘍、腫瘍負荷の大きい腫瘍、細胞毒性治療に感受性の腫瘍においては自発的に起こる可能性がある<sup>1)</sup>。TLSの発症リスクは、低リスク、中リスク、高リスクの順にLRD（0-1%）、IRD（1-5%）、HRD（5%-）と定義される。Solid tumor（固形腫瘍）は化学療法に感受性なので総じてLRD（神経芽細胞腫、奇形腫、肺小細胞がんはIRD）であり、慢性白血病はCML慢性期であればLRD、CLLではアルキル化剤単剤使用であればLRD、分子標的治療薬使用時にはIRDとなる。急性白血病は概してTLS発症リスクが高く、WBC数とLDHによって層別化される。また、パーキットリンパ腫もHRDである<sup>2)</sup>。本症例の場合、治療前の白血球数が31,900/ $\mu\text{l}$ であったため、発症リスクはIRDであった。LDHは第0病日の9022 U/lから第3病日には42150 U/lまで急上昇し、eGFRも第0病日の38.7mg/min/1.73m<sup>2</sup>から第3病日には30.6 mg/min/1.73m<sup>2</sup>へと経時的に低下を認めた。このことは、本症例でTLSが発症したものとして矛盾しない所見であると考えられる。これによる腎機能低下が右心不全や肺水腫の引き金となり、呼吸状態の悪化をきたし死因に結び付いた可能性が考えられる。

#### 11. 参考文献：

- 1) Laura C, et al: Cytotoxic therapy in acute myeloid leukemia: not quite dead yet. *Hematology Am* 2018 (1) : 51-62
- 2) Recommendations for the evaluation of risk and prophylaxis of tumour lysis syndrome (TLS) in adults and children with malignant diseases: an expert TLS panel consensus. *British Journal of Haematology* 149 : 578-586

### 第3回西神戸医療センターCPC報告

1. 症 例 テ ー マ：肺癌に癌性胸膜炎と心膜炎を合併し不整脈により急激に循環動態が破綻し死亡した一例
2. 診療科、主治医・受持医：呼吸器内科 上領 博、益田隆広
3. CPC開催日：2021年8月2日
4. 発 表 者：臨床側（大城碩輝、三谷莉永）  
病理側（浅井沙月）
5. 患 者：70歳、男性
6. 臨 床 診 断：肺癌、癌性胸膜炎、癌性心膜炎
7. 剖 検 診 断：左肺上葉 角化型扁平上皮癌
8. 臨 床 情 報：

#### 1) 現病歴

X-1年12月の胸部CT画像で左肺上葉に結節影と胸膜播種を疑う陰影を認め、当院呼吸器内科を受診した。肺生検で扁平上皮癌と診断され、ステージングの結果、臨床病期はIV期で化学療法を提案されたが、best supportive careを希望した。その後、外来通院を自己中断していたが、労作時呼吸困難の増悪と胸痛を自覚しX年5月4日に当院救急外来を受診した。

#### 2) 既往歴・家族歴など

ANCA関連血管炎、慢性閉塞性肺疾患、腰椎椎間板ヘルニア、前立腺肥大症

#### 3) 診療所見

体温 36.1℃，血圧 155/101 mmHg，心拍数 97 回/分，呼吸数 22 回/分，SpO<sub>2</sub> 100 % (room air)  
心音 整、呼吸音 左下肺優位に呼吸音の減弱あり、複雑音なし

#### 4) 主な検査データ

血液検査所見：WBC 9700/ $\mu\text{l}$ ，RBC 364 万/ $\mu\text{l}$ ，Hb 10.6 g/dl，Plt 26 万/ $\mu\text{l}$ ，CRP 9.6 mg/dl，AST 977 U/l，ALT 640 U/l，ALP 154 U/l，LDH 923 U/l，BUN 41 mg/dl，Cre 1.12 mg/dl，eGFR 50.6 ml/min/1.73m<sup>2</sup>，Na 141 mmol/l，K 4.5 mmol/l，Cl 104 mmol/l，Ca 8.7 mg/dl

#### 5) 画像診断所見

胸部X線画像：左肺の胸水貯留を認める。  
胸部単純CT検査：左胸水の貯留と心嚢液貯留を認める。

#### 6) 経過・治療

胸水貯留に対して、第1病日に胸腔ドレナージを施行した。ドレナージ後より背部痛の訴えがあり、心電図モニターで心房細動と心室期外収縮の

出現を認めた。第2病日早朝に意識レベル低下、心肺停止状態となり、心肺蘇生を開始した。3サイクルとアドレナリン1mgで自己心拍再開を認めたが、吐物が著明であり、窒息のリスクを考慮して気管内挿管の上、人工呼吸器管理を開始した。同日、再度心肺停止となり、心肺蘇生を開始、アドレナリンを計10mg投与されたが心電図で心静止波形が継続した。主治医による家族への状況説明によって心肺蘇生は中止され、死亡確認に至った。

#### 7) 症例の問題点(剖検で解明しなかった事項)

心肺停止に至った原因究明、癌性心膜炎と不整脈の関連について、胸腔ドレナージと不整脈の因果関係について

#### 9. 剖 検 情 報:

##### 1) 剖検診断と病理所見

##### <主病変>

##### 1. 左肺上葉 角化型扁平上皮癌

left U, 30x25x25 mm, pT4 (横隔膜), pm1, p13, Lyl, V1, D1, E (未検), pN3 (対側肺門), M1b(肋骨腫瘤), pT4N3M1b, pStage IV A(肺癌取扱い規約 第8版)

<腫瘍の拡がり> 左上葉肺内(肺内転移)、左葉臓側・壁側胸膜、リンパ節(気管周囲、縦隔、右下葉気管支周囲など)、心膜、横隔膜、肋骨腫瘤、両肺の脈管内及び肺動脈内、心臓左室漿膜面リンパ管、心臓右房漿膜面

##### 1.1 癌性胸膜炎 左胸腔ドレーン留置後

胸水; 左 220 ml (淡血性) (ドレナージとの合計 1020 ml), 右 220 ml (淡血性から血性)

##### 1.2 癌性心膜炎 心嚢水貯留; 220 ml (淡血性から血性)、心外膜炎

##### 1.2.1 循環不全状態

右肺うっ血、下葉優位に高度 肺水腫、左上葉・右下葉

肝臓 中心静脈周囲性壊死、うっ血 (1150g)

腎臓 急性尿管管壊死 (右; 160g, 左; 210g)

##### <副病変>

##### 1. [chronic obstructive pulmonary disease (COPD)]

##### 1.1 肺気腫、右肺上葉・中葉

##### 2. 右下葉線維化、嚢胞性病変

##### 3. 気管支肺炎、両葉

##### 4. IgG4 関連大動脈周囲炎、大動脈弓・腹部大動脈周囲

##### 5. 動脈硬化症

大動脈弓と腹部大動脈、中等度から高度。大動脈弁、軽度。

##### 6. 大動脈瘤 IgG4 関連大動脈周囲炎、あるいは動脈硬化症による

6.1 大動脈弓動脈瘤 (周径 6.0cm), 6.2 腹部大動脈動脈瘤 (周径 4.5cm)

##### 7. [ANCA 関連血管炎] 治療中 剖検時所見では明らかな病変を認めない

##### 8. 慢性胆嚢炎、胆石を伴う

##### 9. 両側多発腎嚢胞 (左腎臓には 5 cm 大の嚢胞、及び両側に 5 mm 大の嚢胞多数)

##### 2) 担当病理医: 浅井沙月

##### 3) 病理医からのコメント

左上葉に扁平上皮癌を認め、高度な癌性胸膜炎、癌性心膜炎を伴っており、呼吸機能低下と循環機能低下が慢性進行性に存在し、いずれの機能も極めて低下していたと考えられた。そこに、循環機能低下による肝機能障害、腎機能障害も加わり、多臓器不全により死に至ったと考えられた。また、臨床的に COPD の指摘があり、剖検時所見においても右肺の上葉、中葉の肺気腫を認め、また下葉の線維化を伴う嚢胞化から、もともとの呼吸機能の予備能も低下していたものと推察される。ドレーン挿入部の明らかな臓器損傷や、肺動脈塞栓も認めず、その他病態の急性変化に至る病変は明らかではなかった。

##### 10. 考 察:

癌性心膜炎の初発症状としての不整脈は稀だが、心房細動の頻度が最も高いとの報告がある。不整脈の明確な機序は不明である。治療の第一選択は心嚢穿刺ドレナージであり、平均3ヶ月の予後改善の報告がある。胸腔ドレナージの合併症としての心血管系異常は稀であるが、ドレナージ後の不整脈発生の報告は存在している。ドレーンによる刺激伝導系や心膜への機械的刺激が原因とされている。

本症例は、高度な癌性胸膜炎、癌性心膜炎を認め、癌性胸膜炎に由来する胸水貯留と左肺の拡張障害による呼吸機能低下、癌性心膜炎に由来する心嚢水貯留と拡張障害による循環機能低下が慢性進行性に存在していたと考えられる。そこに循環機能低下による肝腎機能障害も加わり、多臓器不全により死に至

ったと考えられる。不整脈出現には胸腔ドレナージの関与も考慮されたが、病理解剖では因果関係は示されなかった。

#### 11. 参考文献：

- 1) Suwanwongse K, Shabarek N : Atrial Flutter as an Initial Presentation of Malignant Pericardial Effusion Caused by Lung Cancer. Cureus 12(11), 2020
- 2) Maher EA, Shepherd FA, Todd TJ : Pericardial sclerosis as the primary management of malignant pericardial effusion and cardiac tamponade. The Journal of thoracic and cardiovascular surgery 112 (3) : 637-643, 1996
- 3) Ward EW, Hughes TE : Sudden death following chest tube insertion: an unusual case of vagus nerve irritation. The Journal of trauma 36 (2) : 258-259, 1994

#### 第4回西神戸医療センターCPC報告

1. 症 例 テ ー マ：脾臓原発悪性リンパ腫を背景とした脾破裂により、出血性ショックを来し死亡に至った症例
2. 診療科、主治医・受持医：免疫血液内科 橋本朗子
3. CPC 開催日：2021年9月13日
4. 発 表 者：臨床側（市原和樹、鈴木裕紀子）  
病理側（清水祐里）
5. 患 者：68歳、男性
6. 臨 床 診 断：脾臓原発悪性リンパ腫
7. 剖 検 診 断：PTCL-NOS
8. 臨 床 情 報：

##### 1) 現病歴

20XX年Y月初旬より強い倦怠感を自覚し前医を受診した。血液検査で血小板減少、画像検査にて脾腫を指摘された。血液疾患が疑われ、20XX年Y月中旬に当院を紹介され受診した。初診翌日に免疫血液内科へ入院となった。

##### 2) 既往歴・家族歴など

閉塞性動脈硬化症（ステント留置術後）、2型糖尿病、高脂血症  
家族歴に特記事項なし

##### 3) 診療所見

意識レベル GCS E4V5M6

脈拍 88 bpm, 血圧 112/68 mmHg, SpO<sub>2</sub> : 98%,  
体温 : 38.9℃

〈頭頸部〉眼瞼結膜軽度貧血、眼球結膜黄染なし

〈胸部〉心音：整 肺音：正常肺胞呼吸音、ラ音  
無し

〈腹部〉平坦・軟、圧痛無し、腸蠕動音亢進減弱  
無し

〈四肢〉両側下腿浮腫無し

#### 4) 主な検査データ

WBC 2600 / $\mu$ l, RBC 417 万 / $\mu$ l, Hb 12.8 g/dl, Plt 2.2  $\times$  10<sup>4</sup> / $\mu$ l, NEUT 37.5 %, LYMPH 19.5 %, MONO 23.0 %, ATYLYMP 19.0 %, PT-INR 1.3, D-dimer 0.83 $\mu$ g/ml, 血糖 182 mg/dl, CRP 10.0 mg/dl, Alb 3.0 g/dl, AST 33 IU/ml, ALT 78 IU/l,  $\gamma$ -GTP 290 IU/ml, ALP 966 IU/ml, LDH 285 IU/ml, BUN 21 mg/ml, Cr 1.13 mg/dl, eGFR 50.6 ml/分/1.73, Na 135 mEq/l, K 4.1 mEq/l, Cl 98 mEq/l, Ca 8.2 mg/dl, EBV-VCA-IgG 160 mg/dl, EBV-VCA-IgM <10 mg/dl, EBV-EA-IgG <10 mg/dl, EBNA 40 倍, CMV-IgG 54.9 mg/dl, CMA-IgM 0.06 mg/dl, sIL-2R 26200 U/ml

#### 5) 画像診断所見

腹部造影CT: 脾臓は腫大しており、一部で不均一・不整形の不染領域あり、梗塞性変化が疑われる。肝・胆・膵・副腎に病的所見はなく、縦隔・肺門部リンパ節・腹部～骨盤部リンパ節の病的腫大を認めない。胸水・腹水の貯留なし。

#### 6) 経過・治療

腸骨・胸骨生検では明らかな異型リンパ球の単調性増殖は認めず、腫瘍性の確定診断には至らなかった。EBVも既感染パターンであることが判明した。腹部CTで脾腫の著明な増大はなく、脾梗塞所見のみであったため、骨髓クロットでの診断可能性なども考慮し待機的に脾臓摘出術を施行する予定としていた。入院経過中、血小板・赤血球輸血を行ったが反応は乏しく血球減少は進行した。その間に血圧低下あり、補液・ノルアドレナリン・メチルプレドニゾロンの投与を開始した。予定手術の前日、心窩部痛と呼吸苦の訴えがあり、その直後に呼びかけへの反応が消失、自発呼吸も消失したため、心肺蘇生術が開始された。その後も自己心拍は再開せず死亡に至った。

#### 7) 手術所見

なし

#### 8) 症例の問題点（剖検で解明しなかった事項）

悪性リンパ腫による脾腫大からの脾破裂あるいは梗塞内出血があったか



## 9. 剖検情報:

### 1) 剖検診断と病理所見

脾臓は18cm × 16cmと著明に腫大、実質は暗赤色～一部黒褐色泥状であり脾梗塞内出血を認めた。剖検診断はT細胞性リンパ腫(NOS)であり、脾臓・骨髄・傍気管リンパ節、胃粘膜下脂肪織への浸潤を認めた。

脾臓組織における小型～中型のリンパ球はCD3(+), CD20(-), CD2(+), CD4(-), CD5(-), CD7(+), CD8(-)

### 2) 担当病理医: 清水祐里

### 3) 病理医からのコメント

T細胞性リンパ腫(PTCL-NOS)を背景とした脾腫により脾梗塞内出血をきたし、出血性ショックとなり死亡に至ったと考えられた。

## 10. 考察:

脾原発悪性リンパ腫の正式な定義は確立されていないが、一般には脾臓に主病巣があり、表在リンパ節に悪性リンパ腫がないものとされ、非ホジキンリンパ腫の約1%と稀な疾患である。PTCL-NOSは末梢性T細胞性リンパ腫(Peripheral T-Cell Lymphoma)のうち非特定型(Not Otherwise Specified)を指し、無治療の場合、月単位の病勢進行を示すaggressive lymphomaに分類される。治療法はCHOP療法が推奨されるが、治療効果は不十分であり、5年生存率が20-30%と予後不良な疾患である。脾臓摘出術は腫瘍量の減少や組織診断が得られるというメリットがあり、脾臓リンパ腫において脾臓摘出した群は、脾臓摘出していない群と比較して完全奏効率、再発率の低下、無再発生存率が高いという報告など、脾臓摘出が有効であったという例や症例報告も散見される一方で、手術リスクが非常に高いうえに脾臓後重症感染症(OPSI)や血栓症などのリスクを背負うことになるという報告もあり、診断目的の脾摘については様々な議論がある。脾梗塞に対する治療は、基本的に保存的加療を行い、出血や膿瘍を伴う場合は外科的治療を考慮することとされている。本邦で脾破裂をきたした脾臓原発悪性リンパ腫は1983年～2011年の間に13例が報告されており、3例はバイタル安定せず治療介入前に死亡した。残り9例は脾臓摘出術に術後化学療法が併用され、周術期死亡は見られなかったものの1年以上の生存例は2例のみであった。本症例は画像所見で梗塞内出血、脾破裂を認めず、血小板低下や全身状態が不良であったことなどを鑑みると脾臓摘出

術は高リスクであり文献からも積極的な推奨にはならなかったと考えられる。しかしながら、今後の治療方針の決定には病理学的診断が重要であり末梢血検査・骨髄生検では確定診断に至らなかったためどこかのタイミングで脾摘を行う必要はあると考えられた。入院直後であれば全身状態は比較的保たれており、すでに血球減少を認め高リスクであるものの手術を施行する余地はあったかもしれない。いずれにせよ予後不良な疾患ではあるが、入院直後に脾臓摘出術を施行することで、今回のような脾破裂による即死は防ぎ得た可能性は残る。

## 11. 参考文献:

- 1) Tsuya H, Hato T, Sato T, Kuwahara I, et al: A Case of Primary Malignant Lymphoma of the Spleen Growing for the Short period of Time. *Jpn J Gastroenterol Surg* 33:1960-1695, 2000
- 2) Kiyota M, et al: Primary splenic lymphoma with hemophagocytic syndrome: Case report of two. *松仁会医学誌* 56(2):100-105, 2017
- 3) Shimizu-Kondo K, et al: Malignant lymphoma of the spleen in Japan; A clinicopathological analysis of 115 cases. *Pathol. Int.* 62:577-582, 2012
- 4) 造血器腫瘍診療ガイドライン 2013年度版
- 5) 増田亜希子: 検査と技術 43(10):1004-1005, 2015.9.15
- 6) Onisai M, et al: Splenectomy in Lymphoproliferative Disorders: A Single Eastern European Center Experience. *Medicina* 56(12), 2020
- 7) Han B, Yang Z, Yang T, et al: Diagnostic Splenectomy in Patients with Fever of Unknown Origin and Splenomegaly. *Acta Haematol.* 119:83-88, 2008
- 8) Iannitto E, Tripodo C: How I diagnose and treat splenic lymphomas. *Blood.* 117(9):2585-2595, 2011
- 9) Hosoda T, et al: Splenic Infarctions Caused by Acute Cytomegalovirus Infection: A Case Report. *J.J.A. Inf. D.* 90:814-818, 2016
- 10) James W. Salazar, et al: Assessment of Clinical Conditions Associated With Splenic Infarction in Adult Patients. *JAMA Int. Med* 180(8):1125-1128, 2020

- 11) Chapman J, Helm TA, Kahwaji CI : StatPearls [Internet] Splenic Infarcts
- 12) Imaeda M, Hashimoto M, Ogiso S, Sakaguchi K, Ishikawa A, Ishizaka T : Spontaneous Rupture of Spleen in a Case of Primary Splenic Malignant Lymphoma. 日臨外会誌 73 (11) : 2957-2962, 2012

## 第5回西神戸医療センターCPC報告

1. 症 例 テ ー マ：間質性肺炎の急性増悪による死亡
2. 診療科、主治医・受持医：免疫血液内科 新里偉咲、佐伯美紀
3. CPC 開催日：2021年10月25日
4. 発 表 者：臨床側(呼吸器内科 上領 博、北野貴暉、和田尚一郎)  
病理側(病理診断科 高橋加奈)
5. 患 者：79歳、男性
6. 臨 床 診 断：間質性肺炎
7. 剖 検 診 断：間質性肺炎
8. 臨 床 情 報：

### 1) 現病歴

電気修理会社で勤務していたため、アスベスト暴露があった。2008年にアスベスト肺と診断され、近医通院中であった。アスベスト肺による間質性肺炎が徐々に悪化傾向であり、2020年頃からHOTの導入を勧められていた。安静時でSPO<sub>2</sub>が90%未満となり、6月にHOTを導入した。安静時、酸素2.5L/分でSPO<sub>2</sub>92%程度で、わずかの労作でSPO<sub>2</sub>低下するため、労作時は酸素3L/分であった。

2021年1月初旬ころから呼吸苦の増悪と倦怠感を自覚していた。1月X-1日、トイレ歩行時に呼吸苦の増悪があり失神したが、酸素増量にて改善した。

翌X日、HOT4LでSpO<sub>2</sub>90%とSPO<sub>2</sub>の低下を認め、救急要請した。血液検査、胸部CTを施行し、間質性肺炎の経時的な悪化に腰痛による息止めが加わったことによるSPO<sub>2</sub>の低下と診断し、帰宅した。帰宅後、トイレに行った後に廊下で意識状態が悪くなり倒れた。心肺停止状態となり、家族が救急要請した。

### 2) 既往歴・家族歴など

Alzheimer型認知症、脳動脈瘤 (ope)、脳梗塞、高血圧症、腰椎圧迫骨折  
家族歴：特記事項なし

### 3) 診療所見

来院時の波形は心静止  
胸骨圧迫されながら来院

### 4) 主な検査データ

(血液検査)

WBC 11400 / $\mu$ l, RBC 411 万 / $\mu$ l, Hb 12.6 g/dl, Plt 19.0 万 / $\mu$ l, CRP 2.4 mg/dl, T-Bil 0.6 mg/dl, AST 74 IU/l, ALT 57 IU/l, ALP 251 IU/l, LDH 539 IU/l, AMY 56 IU/l, BUN 30 mg/dl, Cr 0.87 mg/dl, eGFR 64.5 ml/分/1.73, Na 133 mEq/l, K 6.2 mEq/l

### 5) 画像診断所見

<胸部単純CT検査>両側に間質性肺炎像認める。新規の浸潤影は認めない。

### 6) 経過・治療

胸骨圧迫を継続したが、心静止の状態が続いたため、担当医から家族に説明し、死亡確認となった。

### 7) 手術所見

なし

### 8) 症例の問題点 (剖検で解明しなかった事項)

- ・死因としては、間質性肺炎があり、トイレでいきんだことによる負荷で呼吸停止に至ったと考えられるが、その他の原因の有無の精査をするため
- ・アスベスト肺についての情報を得るため

### 9. 剖 検 情 報：

#### 1) 剖検診断と病理所見

両側肺の壁側胸膜と横隔膜にプラークあり。両側肺は縮小している。軽度うっ血様。縦隔リンパ節腫大が数個認められた。肺動脈内に血栓無し。

左腎の脂肪織との癒着あり

#### 2) 担当病理医：高橋加奈

### 10. 考 察：

石綿 (アスベスト) は天然に存在する繊維状けい酸塩鉱物であり、以前は保温断熱目的で住宅などに使用されていた。石綿により生じる疾患としては、石綿肺、胸膜疾患、悪性腫瘍があげられる。石綿肺は石綿による肺繊維症の一種であり、慢性に進行する。胸膜疾患は良性アスベスト浸出液と良性胸膜プラークがあり、胸膜プラークは15～30年で出現する。悪性腫瘍は非小細胞性肺癌と小細胞肺癌、胸膜中皮腫があげられ、肺がんの潜伏期間は15～40年、悪性中皮腫の潜伏期は20～50年である。

1970-1980 年台にピークを認めた石綿使用の関連疾患及びそれに伴う死亡が現在においても大きな問題となっており、事実 2020 年のデータでは胸膜中皮腫による死亡数のピークは現在も更新され続けている。上記のような合併症の存在のため、2006 年にアスベストの輸入は中止された。石綿肺は、肺実質細胞に対する繊維の直接毒性作用と、炎症細胞による様々なメディエーター（活性酸素、プロテアーゼ、サイトカイン、成長因子）の放出により、アスベスト誘発性疾患が引き起こされると思われる。喫煙は粘液線毛クリアランスを妨げる事で、石綿肺の発症および進行率を増加させる。時間経過とともに、肺胞 I 型及び II 型細胞の喪失と、肺胞および間質マクロファージ、好中球、リンパ球、好酸球数の増加を特徴とするびまん性の肺障害は出現し、線維芽細胞の増殖とコラーゲンの蓄積により石綿肺は完成する。石綿肺は、胸部単純 X 線写真もしくは HRCT と、大量の石綿暴露歴により診断される。石綿肺には特異的治療はなく、禁煙、早期発見、これ以上のアスベスト暴露の回避、呼吸器感染症の早期治療、ワクチン接種といった増悪を防ぐ対応が主となる。石綿肺の合併症としては、呼吸不全と悪性腫瘍があげられ、石綿肺患者は相対リスク 3.5 倍で肺がんを合併しやすく、またタバコにより肺がんリスクは大幅に増大する。石綿肺に伴う呼吸不全は、gender, Age, FVC, DLCO を用いる GAP risk assessment system により、予後予測を行う事が可能である。

本症例では、2020 年 4 月に紹介となったが、2020 年初期の時点で、HOT 導入を勧められ（本人拒否のため施行せず）、呼吸機能検査ができないほどの呼吸状態であった。日本呼吸器学会雑誌による報告によるとじん肺患者が HOT 導入時の呼吸機能では VC  $2.24 \pm 0.64$  L, FVC  $2.17 \pm 0.66$  L, FEV1  $1.12 \pm 0.43$  L, %VC  $69 \pm 22$  %, FEV1%  $54 \pm 17$  % というデータが提示されており、上記を用いて欠損データを補充し GAP risk assessment system を用いたところ、2020 年 4 月の時点で GAP スコア III であるため、推定生存期間は 21 ヶ月であった。上記からは石綿肺に対する特異的治療がないことを鑑みると、来院した時点で予後は 1 年以内の可能性が十分ある症例であったと推定でき、本症例の経過と矛盾しない。

#### 11. 参考文献：

- 1) UPTPDATE：石綿肺
- 2) van Loon AJ, Kant IJ, Swaen GM, et al：

Occupational exposure to carcinogens and risk of lung cancer: results from The Netherlands cohort study. *Occup Environ Med* 54 : 817, 1997

- 3) Ngamwong Y, Tangamornsuksan W, Lohitnavy O, et al : Additive Synergism between Asbestos and Smoking in Lung Cancer Risk: A Systematic Review and Meta-Analysis. *PLoS One* 10 : e0135798, 2015
- 4) Ley B, Ryerson CJ, Vittinghoff E, et al : A multidimensional index and staging system for idiopathic pulmonary fibrosis. *Ann Intern Med* 156 : 684, 2012
- 5) Keskitalo E, Salonen J, Vähänikkilä H, Kaarteeno R : Survival of patients with asbestosis can be assessed by risk-predicting models. *Occup Environ Med*, 2021
- 6) 厚生労働省石綿肺関連データ

#### 第 6 回西神戸医療センター CPC 報告

1. 症 例 テ ー マ：関節リウマチ背景のニューモシスチス肺炎で呼吸不全に至った一例
2. 診療科、主治医・受持医：呼吸器内科 益田隆広、清岡 愛、石本涼菜
3. CPC 開催日：2022 年 2 月 14 日
4. 発 表 者：臨床側（石本涼菜、清岡 愛）  
病理側（高橋加奈）
5. 患 者：74 歳、男性
6. 臨 床 診 断：ニューモシスチス肺炎
7. 剖 検 診 断：びまん性肺胞障害
8. 臨 床 情 報：
  - 1) 現病歴  
関節リウマチ治療中でコントロール良好の男性。X 月 Y 日に新型コロナウイルスワクチンを接種し、同日夜間から労作時の呼吸困難が出現した。次第に安静時も呼吸困難を自覚するようになり、Y 日に救急要請した。
  - 2) 既往歴・家族歴など  
関節リウマチ、高血圧症、ステロイド性糖尿病、パラガングリオーマ  
(メトトレキサート、イグラチモド 内服中)
  - 3) 診療所見  
SpO<sub>2</sub> 95 %、両肺野で fine crackles 聴取、関節痛なし、手指のスワンネック変形あり

#### 4) 主な検査データ

【血液検査】WBC 8100/ $\mu$ l、白血球分画異常なし、CRP 19.3 mg/dl、 $\beta$ -D グルカン 134 ng/ml

【肺胞洗浄液】細胞分画：好中球 22.5 %、リンパ球 46.0 %、CD4/8 比 3.2、カリニ PCR (+)

#### 5) 画像診断所見

【胸部 CT】両肺野にびまん性のすりガラス影あり、下肺野に蜂巣肺あり  
間質性肺炎の増悪、感染による肺炎、薬剤性肺炎などが疑われた

#### 6) 経過・治療

間質性肺炎、細菌・ウイルス・真菌感染などを想定し day 1 よりステロイドパルス療法を開始し、メロペネム、ST 合剤、ガンシクロビルをエンピリカルに投与した。呼吸状態は悪化していき HFFC 導入、NPPV 導入し day 4 には挿管に至った。ニューモシスチス感染が発覚し ST 合剤増量後も呼吸状態は悪化していき治療の甲斐無く day 19 に死亡した。

#### 7) 手術所見

なし

#### 8) 症例の問題点（剖検で解明しなかった事項）

ニューモシスチス肺炎の増悪が死因なのか、画像からは DAD が疑われるが病理所見も一致しているか、ワクチン接種による薬剤性肺炎があるか

### 9. 剖 検 情 報：

#### 1) 剖検診断と病理所見

<主病変>

1. 【ニューモシスチス肺炎】（臨床診断、R 1020 g, L 900 g)

【関節リウマチ】（臨床診断）

2. びまん性肺胞傷害 (R 1020 g, L 900 g)

3. 前立腺癌 (-adenocarcinoma, EPE0, ly0, v0, pn0, sv0, pT2a)

<副病変>

1. 脂肪肝 (980g)

2. 大動脈粥状硬化症(高度)、冠動脈粥状硬化(中等度～高度)

3. 胃潰瘍

4. 膀胱点状出血

5. 胆嚢コレステローシス

死因：ニューモシスチス感染を契機としたと考えられるびまん性肺胞傷害による呼吸不全

2) 担当病理医：高橋加奈、石原美佐

3) 病理医からのコメント

肉眼的組織学的に全体的にガス交換が困難な状態の肺であり、正常な気腔の残存はごくわずかであった。肺胞壁の膜様物質の付着や壁在性の器質化巣からは、びまん性肺胞傷害の増殖期～器質化期相当の変化と考える。抗真菌薬や抗ウイルス薬による加療がされており、剖検時の標本内に特殊染色で pneumocystis jirovecii などの真菌は明らかでなく、サイトメガロウイルスも確認できなかった。臨床的に PCP-PCR 陽性であることから臨床的にニューモシスチス肺炎があり、感染を契機にびまん性肺胞傷害を引きおこし、呼吸不全に陥り死に至ったと推察される。また、感染以外にも元々の UIP パターンをとる間質性肺炎がベースにあり、その急性増悪的な反応が加わっていることも考慮される。やや複雑な肺病変を形成し非典型的であった。好酸球浸潤を認めずワクチン接種による薬剤性肺炎の有無は組織学的には不明である。

#### 10. 考 察：

間質性肺炎とは肺胞隔壁に炎症と線維化病変が生じる疾患の総称である。間質に炎症が生じると間質が浮腫み肥厚化し、炎症細胞が浸潤し、上皮と毛細血管との距離が広がるため、ガス交換が妨げられ低酸素血症を引き起こす。また、炎症細胞が産生するサイトカインや TGF- $\beta$  などの増殖因子によって線維芽細胞が増殖し、線維化を引き起こす。

間質性肺炎の診断においては薬剤性、膠原病肺、石綿肺、過敏性肺炎、肉芽腫性など原因の明らかな間質性肺疾患を除外し、原因疾患の見つからない場合に特発性間質性肺炎 (IIPs) と分類する。IIPs は、さらに特発性肺線維症 (IPF)、非特異性間質性肺炎 (NSIP) など6つの亜型に分類され、これらは胸部高分解能 CT (HRCT) の特徴的所見により推定し、肺生検による病理診断で確定する。IIPs の中でも IPF は頻度が高く、その他と治療法が異なるため、他の IIPs と区別する必要がある。HRCT と病理組織分類で UIP パターン分類 (1) を行い、両者の所見を合わせて、最終の臨床診断を行う。HRCT で明らかな UIP パターンがある場合、生検は基本的に推奨されない。本症例では重症化以前の CT で末梢胸膜直下に蜂巣肺を認める UIP パターンであり、背景肺として IPF の可能性があると考えた。

また、膠原病に分類されるほとんどの疾患が間質性肺炎を合併し得る。画像と生検の病理所見上、膠原病関連間質性肺疾患と IIPs との決定的な鑑別点

はないとされており (2)、膠原病関連性間質性肺疾患の確定診断には、膠原病の診断をつけること、または診断がついていることが重要となる。本症例は既往に関節リウマチがあったため、関節リウマチ関連性間質性肺疾患の可能性も考えられた。

以上より本症例は背景肺として、IPF または関節リウマチ関連性間質性肺疾患があったと考えられた。今回急激にびまん性すりガラス影が出現し、入院となったが、病態の増悪した原因として、間質性肺炎の急性増悪や、ニューモシスチス肺炎の病態そのもの、ARDS などが鑑別に上る。しかし、間質性肺炎の急性増悪や ARDS はどちらも HRCT で crazy-paving appearance を呈し、病理組織学的に DAD パターンとなるためこれらの鑑別は容易ではない。間質性肺炎の急性増悪とは、主に1ヶ月以内の経過中急速に、呼吸困難の増悪や、新たなすりガラス影や、酸素低下が出現する状態である。特に IPF の急性増悪の死亡率はきわめて高く、IPF 患者の死因の約 40% を占める (3)。急性増悪の病因は未だ不明だが、上皮細胞の機能障害、線維芽細胞の蓄積と活性化などの慢性因子と、急性ストレス、急性肺損傷などの急性因子の両方が関与していることが示唆されている。特に感染、微小吸引、機械的伸展などの広範囲の急性肺損傷が誘因となることが多いとされる。本症例においては、RA 治療により免疫抑制状態であった患者がニューモシスチス肺炎を発症し、それを契機に間質性肺炎の急性増悪をきたしたため、急速に病態が悪化したことが示唆された。

#### 11. 参考文献：

- 1) Lynch DA, et al : Diagnostic criteria for idiopathic pulmonary fibrosis: a Fleischner Society White Paper. Lancet Respir Med, 2017, (doi:10.1016/S2213-2600 (17) 30433-2)
- 2) Tanaka N, et al : Rheumatoid arthritis-related lung diseases: CT findings. Radiology 232 (1) : 81-91, 2004
- 3) Natsuizaka M, Chiba H, Kuronuma K : Epidemiologic survey of Japanese patients with idiopathic pulmonary fibrosis and investigation of ethnic differences. Am J Respir Crit Care Med 190 : 773-779, 2014

#### 第7回西神戸医療センターCPC報告

1. 症 例 テ ー マ : 病理解剖により腫瘍原発巣が判明した症例

2. 診療科、主治医・受持医：消化器内科 勝山苑香、仲田文雄

3. CPC 開催日：2022年2月28日

4. 発表者：臨床側 (草壁 優、仲田文雄)  
病理側 (高橋加奈)

5. 患者：64歳、男性

6. 臨床診断：腓癌 多発肝転移

7. 剖検診断：胎児消化管類似癌

8. 臨床情報：

##### 1) 現病歴

20XX年6月頃より呼吸困難感を認め、前医を受診した。重度の喫煙歴と肺機能検査結果から COPD と考えられ、吸入薬を開始した。呼吸困難感の精査目的の画像検査で偶発的に肝内に多発する腫瘍性病変を認めた。精査加療目的に7月X日当院を紹介受診した。

##### 2) 既往歴・家族歴など

なし

##### 3) 診療所見

腹部：圧痛無し。右季肋部に腫瘍性病変を触知

##### 4) 主な検査データ

〈血液検査〉WBC  $88 \times 10^2/\mu\text{l}$ 、NEUT 87.0%、LYMPH 7.6%、RBC  $358 \times 10^4/\mu\text{l}$ 、Hb 11.5g/dl、Ht 34.3%、Plt  $298 \times 10^4/\mu\text{l}$ 、PT-INR 1.4、PT-秒 17.3 秒、PT-% 49.7%、APTT-秒 41.1 秒、APTT-% 68.4%、血糖 91mg/dl、CRP 12.8mg/dl、TP 6.5g/dl、Alb 2.5g/dl、T-Bil 0.9mg/dl、ChE 172IU/l、AST 49IU/l、ALT 21IU/l、 $\gamma$ -GTP 279IU/l、ALP 460U/l、LDH 1053U/l、CK 69IU/l、AMY 24IU/l、Total-Chol 157mg/dl BUN 18mg/dl、Cr 0.73mg/dl、eGFR 83.0ml/分/1.73、Na 138mEq/l、K 4.4mEq/l、Cl 98mEq/l、Ca 8.1mg/dl

〈腫瘍マーカー〉CEA 4.3 ng/ml、AFP 10.2 ng/ml、CA19-9 37.2 U/ml PIVKA-II 32 mAU/ml

##### 5) 画像診断所見

【腹部CT】肝が著明に腫大し輪郭に凹凸を認める。肝内には最大で92mm大の境界が凹凸不整の大小多数の低濃度腫瘍を認める。一部門脈右枝への腫瘍の浸潤を認める。(各腫瘍の辺縁は凹凸のある不整形で、リング状濃染を示すものや腫瘍中央が低濃度で bull's eye 様の腫瘍などがみられる。ダイナミック造影で早期に染まりを示すものもみられるが、delayed enhancement を示す腫瘍も多数みられる。) (外側区域では肝内胆管の拡張がみられます。) (肝原発であれば混合癌を含む肝

細胞癌や肝内胆管癌を、あるいは転移性腫瘍を疑います。)

#### 6) 経過・治療

膵内分泌腫瘍疑いで入院され、多発肝転移していたため、7月20日に肝生検施行した。病理診断では、悪性度が高い癌ということは判明したが、原発巣は断定できなかった。癌が多発肝転移しており、ご本人の体力も考慮すると、手術は困難と判断し、BSCの方針となった。8/2に肝腫瘍破裂し、出血によって貧血が進行したため、赤血球液2単位輸血を行った。8/9意識レベル低下し、VT波形が出現した。8/10午前1時15分永眠された。癌の原発巣が不明であり、追究のため8/11に解剖を行った。

#### 7) 手術所見

無し

#### 8) 症例の問題点(剖検で解明しなかった事項)

癌の原発巣の解明

癌の性状や進展の範囲の解明

肝腫瘍破裂所見の有無の確認

膵と肝の組織型は同一かの確認

#### 9. 剖検情報:

##### 1) 剖検診断と病理所見

<主病変>

胃癌(胎児消化管類似癌, 胃体下部-幽門部, 尿管侵襲顕著)

同浸潤転移; 膵臓、肝臓

- 肝破裂、血腫形成状態(3350g)

- るい瘦(165cm, 39.7kg, BMI14.6)

<副病変>

1. 右下葉肺炎 誤嚥性肺炎疑い(Rt: 1110g, Lt: 260g)

2. 両側肺尖部ブラ形成、気腫性変化

3. 腎硬化症(Rt: 123g, Lt: 128g)

4. 動脈硬化症(大動脈: 軽~中等度、冠動脈: 中等度)

5. 小腸虚血性変化

6. 大腸憩室症

肉眼的に肝臓は著明に腫大し、多発腫瘤形成がみられ、右横隔膜下に血腫形成を認めた。その他に、胃幽門大弯側に張り出すような腫瘤形成があり、同部で胃幽門部の粘膜面では7x4cmの2型腫瘤形成を認めた。胃噴門部と膵臓をつなぐような腫瘤もみられ、胃噴門部の粘膜面では1cm程度の隆起を認めた。小腸は腫大した肝臓に圧排さ

れ、虚血性変化を呈していた。病理組織学的に、腫瘍はいずれも胎児消化管類似癌の像で、周囲の脂肪織や膵臓に浸潤し、肝臓へ転移し、尿管侵襲が顕著に認められた。その他の臓器に腫瘍の浸潤を認めない。

2) 担当病理医: 高橋加奈、勝島浩紀

3) 病理医からのコメント

胃幽門部の2型腫瘍を原発とする胎児消化管類似癌であり、膵臓への浸潤、肝転移が認められた。肝臓の血腫形成は腫瘍破裂として矛盾しない。右下葉に肺炎がみられたが、死因としての影響は軽度と推定される。死因は胃癌の肝・膵転移によるものと推定される。

#### 10. 考察:

① AFP産生胃癌について

AFP産生胃癌は胃癌の中の2~9%を占め、肉眼的にはBorrmann 2型、3型が多い。Stageの進行した症例も多く、肝転移は約60~70%に見られる。AFP産生胃癌を定義する明確な基準は特になく、血清AFP値や病理学的所見から判断される。AFP産生胃癌の治療法は決まっていないが、TS-1単剤で行われたものが多い。TS-1/CDDP療法の奏効率76.2%、TS-1/TXTの奏効率71.4%との報告もある。

②胎児消化管類似癌について

胎生初期の消化管上皮に類似した淡明な円柱細胞が管状、乳頭状、あるいは充実性増殖を示す腺癌である。胃下部にやや多いが、ほぼ全域に発生する。大部分は進行癌として発見され、通常は2型や3型病変を形成する。AFP産生胃癌の早期癌の検討では0-IIa+IIc型(42%)、0-IIc型(33%)、0-I型(8%)、0-IIa型(8%)と比較的隆起を伴う病変が多い。診断マーカーとして使われる消化管上皮に胎生初期のみに発現する分子の陽性率は、AFP 45%、glypican-3 83%、SALL4 72%である。治療法も決まっておらず、Ramucirumabが奏功した報告が散見される。

③この症例について

高齢男性、2型の進行胃癌ありSALL4+で静脈浸潤もあったため、胎児消化管類似癌の典型的な所見であった。膵臓や直腸、食道由来の胎児消化管類似癌も報告されているため、原発巣の判断は困難であった。

#### 11. 参考文献:

1) 村上義昭, 大東誠司, 河毛伸夫, 他: a-fetopro-

- tein (AFP) 産生胃癌の1例. 本邦報告 114 例の検討. 広島医 38:1204-1208, 1985
- 2) Chang YC, Nagasue N, Abe S, et al: Comparison between the clinicopathologic features of AFP-positive and AF-negative gastric cancers. Am J Gastroenterol 87: 321-325, 1992
  - 3) 国枝克行, 佐治重豊, 川口順敬, 他: 血清  $\alpha$ -fetoprotein 陽性胃癌の臨床病理学的特徴と増殖活性、基底膜形成に関する検討. 日消外会誌 30: 231-238, 197
  - 4) 石原 省, 柳澤昭夫, 高橋 孝, 他: 早期胃癌肝転移例における  $\alpha$ -fetoprotein 産生能の臨床病理学的、免疫組織学的検討. 日消外会誌 32: 2314-2319, 1999
  - 5) Ohtsu A, Boku N, Nagashima F, et al: A phase I/II study of S-1 plus cisplatin (CDDP) in patients (pts.) with advanced gastric cancer (AGC). Proc ASCO 20: 165a, 2001
  - 6) Yoshida K, Hirabayashi N, Toge T, et al: Phase I study of combination therapy with S-1 and docetaxel (TXT) for advanced or recurrent gastric cancer. Anticancer Res 24 (3b): 1843-1851, 2004
  - 7) 胃癌取り扱い規約. 第15版, 日本胃癌学会, 2017年10月
  - 8) Hirasaki S, Tanimizu M, Tsuzuki T, et al: Seronegative alpha-fetoprotein-producing early gastric cancer treated with endoscopic mucosal resection and additional surgery. Intern Med 43: 926-930, 2004

## 第8回西神戸医療センターCPC報告

1. 症 例 テ ー マ: びまん性大細胞型B細胞性リンパ腫患者にて発症した腸球菌菌血症
2. 診療科、主治医・受持医: 免疫血液内科 新里偉 咲、原 武史
3. CPC 開催日: 2022年3月14日
4. 発 表 者: 臨床側 (中村綾花、原 武史)  
病理側 (高橋加奈、勝島浩紀)
5. 患 者: 89歳、男性
6. 臨 床 診 断: 腸球菌菌血症、びまん性大細胞型B細胞性リンパ腫
7. 剖 検 診 断: びまん性大細胞型B細胞性リンパ腫

## 8. 臨 床 情 報:

### 1) 現病歴

2020年12月にびまん性大細胞型B細胞性リンパ腫 (DLBCL) と診断され、化学療法により部分寛解を得られていたが、2021年7月に再燃が疑われた。2021年8月25日よりサルベージ療法目的に入院となった。

### 2) 既往歴・家族歴など

甲状腺癌術後、糖尿病、高血圧症、発作性心房細動、軽度大動脈弁閉鎖不全症、両側鼠径ヘルニア

### 3) 診療所見

BT: 36.8 °C, HR: 74bpm, BP: 104/64 mmHg, SpO<sub>2</sub>: 98%

肝臓・脾臓を触れる

### 4) 主な検査データ

<血液検査> WBC 6400/ $\mu$ L (neut 86%, lymph 7%), RBC 346万/ $\mu$ L, Hb 10.0g/dL, 網赤血球 22% Plt 14.7万/ $\mu$ L, Glu 165 mg/dL, CRP 10.7 mg/dL, TP 4.8 g/dL, Alb 2.6 g/dL, T-Bil 2.4 mg/dL, ChE 107 IU/l, AST 58 IU/l, ALT 40 IU/l, ALP 525 IU/l, LDH 274 IU/l, CK 10 IU/l, UA 7.2 mg/dL, BUN 32 mg/dL, Cre 1.29 mg/dL, eGFR 40.6 mL/分/1.73, Na 132 mEq/L, K 2.9 mEq/L, Cl 88 mEq/L, Ca 8.1 mg/dL,  $\beta$ -D グルカン 6 pg/mL

### 5) 経過・治療

2021年8月25日より発熱あり。同日採取の血液培養より、E. faecium が検出された。8月26日よりバンコマイシンにて治療開始し、血中トラフ値を参考にしながら適宜用量調整を行った。血液培養による菌検出は8月31日まで続き、その後は検出されなかった。8月27日より酸素需要出現した。胸部レントゲンからは両側胸水貯留がみられた。胸水は増加していったため、9月7日よりアルブミン投与。9月10日朝より努力呼吸出現し、午前8時20分に心肺停止となった。午前10時4分、死亡を確認した。

### 6) 手術所見

なし

### 7) 症例の問題点 (剖検で解明しなかった事項)

- ・肺・肝臓の多発結節は悪性リンパ腫病変であるか否か。
- ・感染コントロール不良であったが、感染巣はみられるか。

## 9. 剖 検 情 報:

### 1) 剖検診断と病理所見

<主病変>

1. びまん性大細胞型 B 細胞性リンパ腫 (CD20-, CD30+)
  - 化学療法後、腫瘍残存
  - 同浸潤転移：肝臓、脾臓、肺、脾臓、リンパ節（縦隔、肺門部、腸間膜）

<副病変>

1. 【敗血症状態】 (E. faecium 検出)
2. サイトメガロウイルス感染症（副腎 rt; 5.7g, lt; 7.7g）
3. 腔水症（腹水；700mL, 右胸水；600mL, 左胸水；300mL, 心嚢液；少量）
4. 大動脈粥状硬化症（高度）冠動脈粥状硬化（中～高度）
5. 軽度心筋線維化及び乳頭筋の線維化（300g）
6. 腺腫様甲状腺腫

肝臓、脾臓、肺、脾臓、リンパ節（縦隔、肺門部、腸間膜）に、CD3（-）、CD5（-）、CD20（-）、CD79a（+）、CD30（+）、EBER（+）を示すリンパ腫を認めた。CD20（-）であるが治療後であり、既知のリンパ腫（びまん性大細胞型 B 細胞性リンパ腫）の残存と診断した。肝臓は著明に腫大していた（1850g）。軽度の脾炎、副腎に好中球浸潤および CMV 感染がみられた。いずれにも膿瘍形成を認めず、感染巣ははっきりとしなかった。

2) 担当病理医：高橋加奈、勝畷浩紀

3) 病理医からのコメント

びまん性大細胞型 B 細胞性リンパ腫化学療法後で部分寛解を得たが、再燃した症例である。リンパ腫の諸臓器への浸潤、特に肝臓への著明な浸潤により肝不全となったと推測される。また、肝腫大による横隔膜挙上が原因で肺の拡張が妨げられたことによる拡張不全や肺へのリンパ腫の浸潤のため、平常時よりも呼吸状態は悪化していたと推測され、呼吸不全も死への転帰の一端を担ったと考えられる。

10. 考察：

E.faecium 菌血症の 1 例を経験した。腸球菌菌血症の年間発生率は 10 万人あたり 10.0 人であり、E.faecium では 10 万人あたり 2.7 人である。発症リスクは女性より男性で高く、高齢ではその差が顕著といわれている。発症リスクとなる疾患は悪性腫瘍、糖尿病、うっ血性心不全、脳卒中などがある。予後に関しては、院内死亡率は 30～50%と言われ、

グラム陽性球菌の中では最も悪く、高齢患者の 30 日死亡率の増加の独立した予測因子である。特に、E.faecium 菌血症は E.faecalis 菌血症と比較して入院する可能性が高く、30 日死亡率が高い。本症例は高齢男性であり、基礎疾患を考慮すると腸球菌菌血症の発症リスク・死亡率が高かったと考えられる。また、悪性リンパ腫という疾患そのものの性質と化学療法の細胞毒性効果により免疫低下をきたしており、感染症合併のリスクが高かったと考えられる。

11. 参考文献：

- 1) Bright M, Parfitt EC, et al : Occurrence and determinants of enterococcal bloodstream infections: a population-based study. Infect Dis (Lond) 52 (9) : 638-643, 2020
- 2) Sohn Y, Rim JH, et al : Association of vancomycin trough concentration on the treatment outcome of patients with bacteremia caused by Enterococcus species. BMC Infect Dis. 21 (1) : 1099, 2021



## VI. 医学振興事業等研究費 補助による業績報告

## VI. 医学振興事業等研究費補助による業績報告

### (1) 笠原ガン治療研究事業

#### VI. 1 進行期小細胞肺癌患者の治療前の自己免疫関連抗体と1次治療としての免疫チェックポイント阻害薬含有抗癌剤の免疫関連有害事象と治療効果に関する前向き観察研究

中央市民病院 呼吸器内科 佐藤悠城

##### 【背景】

小細胞肺癌は悪性度が高く難治の癌であり、本邦では殺細胞性抗癌剤が長らく標準療法であったが、IMPOWER133 試験 (Horn et al. N Engl J Med. 2018)、CASPIAN 試験 (Paz-Ares et al. Lancet. 2019) の結果を受け、小細胞肺癌に免疫チェックポイント阻害薬 (ICI) の併用治療が推奨されるようになった。一方で ICI による副作用は免疫関連有害事象 (immune-related adverse events, irAE) と呼ばれ、重篤な irAE はしばしば致命的となる。この為自己免疫疾患合併例において、ICI は慎重に行うべきとされている。

自己免疫疾患の診断基準を満たさないが、自己抗体のみ陽性を示す患者に対しての ICI の有効性・安全性については、非小細胞肺癌で複数の報告がなされている。Toi らは非小細胞肺癌患者への ICI 治療前のリウマトイド因子 (RF)、抗核抗体 (ANA)、抗甲状腺抗体について後ろ向きに 137 人を検討し、3つの自己抗体陽性例では統計学的に irAE の頻度が多いが治療経過は良好であったことを報告した (Toi et al. JAMA Oncol. 2018)。一方 Yoneshima らは非小細胞肺癌患者において、治療前の ANA の抗体価について後ろ向きに 83 人について解析し、ANA 陽性例で irAE の発症は陰性例と差はないが、奏効率が悪い傾向にあったと報告している (Yoneshima et al. Lung Cancer. 2019)。以上のように現状では自己抗体陽性の患者における安全性や有効性については一定の見解は得られておらず、また小細胞肺癌については大規模な検討はされていない。

小細胞肺癌は 10-20% に傍腫瘍神経症候群が合併し、非小細胞肺癌と比べて免疫原性の高い腫瘍であり、脳炎などが重症化するとしばしば致命的となりうる (田嶋ら、日呼会誌 2003)。発症には特異的神経抗体が密接に関係しており、傍腫瘍神経症候群の抗体の多くは癌の発症前から存在することが知られている (田中ら、臨床神経学 2010)。小細胞肺癌の治療前の傍腫

瘍性神経抗体の有無と、傍腫瘍神経症候群の関係性については、今後実臨床で小細胞肺癌への ICI 投与を考える際に重要と考えられる。これらの背景から我々は小細胞肺癌に対して ICI 含有抗癌剤を投与する症例を対象に、他施設共同前向き観察研究を行なった。

##### 【対象及び方法】

2019 年 8 月から 2022 年 1 月までに関連 6 施設で進展型小細胞肺癌に対し 1 次治療として ICI 含有抗癌剤を開始した症例を対象とした。治療前の血清を採取し、自己抗体 (RF、ANA、抗甲状腺抗体)、傍腫瘍性神経抗体 (AMPH, CV2, PNMA2, RI, YO, HU, RECOVERIN, SOX1, TITIN, ZIC4, GAD65, TR) を測定した。主要評価項目を irAE 発症率とし、既報から自己抗体陽性率は 50%、自己抗体陽性例での irAE 発症率 60%、自己抗体陰性例での irAE 発症率 30%、 $\alpha = 0.05$ 、検出力 70% ( $\beta = 30\%$ ) とし、必要症例数は全体で 52 例と計算、追跡不能例・脱落例を考慮し 54 例の集積を目標とした。副次評価項目を傍腫瘍性神経抗体の頻度、傍腫瘍神経症候群の発症頻度、抗体の有無による無増悪生存期間 (PFS)、全生存期間 (OS) とした。データカットオフは 2022 年 1 月 30 日とした。

##### 【結果】

53 例が最終解析対象となった (図 1-3)。全体の PFS は 4.6 ヶ月であった (図 4)。自己抗体 (RF, ANA, 抗甲状腺抗体) は 29 名 (54.7%)、傍腫瘍性神経抗体は 16 名 (30.2%) に検出された。irAE は 20 名 (37.7%) の患者さんで認められ、自己抗体陽性では irAE 頻度 48%、陰性では 25% と陽性例で頻度が高い傾向にあったが、有意差はなかった ( $p=0.097$ , 図 5)。自己抗体の有無による PFS, OS は変わらなかった (図 6)。傍腫瘍神経症候群の発症は当研究では認められなかった。

##### 【考察】

自己抗体 (RF、ANA、抗甲状腺抗体) の頻度は非小細胞肺癌について行われた過去の試験と一致していた。自己抗体の有無で irAE の発症について、統計差はつかなかったものの、陽性例で多い可能性が示唆された。統計差がなかった理由として当研究では N 数

が少なかったため、今後の大規模な報告を待ちたい。  
また、治療効果についても両群間に差はなかった。これは観察期間が短いことが影響しているため、今後のフォローアップの結果をupdateしていく。

治療前の傍腫瘍性神経抗体が3割と非常に高頻度に認められたが、陽性例でも傍腫瘍神経症候群の発症は認められなかった。治療前の神経抗体は比較的高頻度に認められること、自己抗体のみで神経症状が無ければICI含有抗癌剤は安全に投与できる可能性が当研究から示唆された。

**【報告】**

WCLC 2022 現在論文作成中

**【Figure】**

図 1.

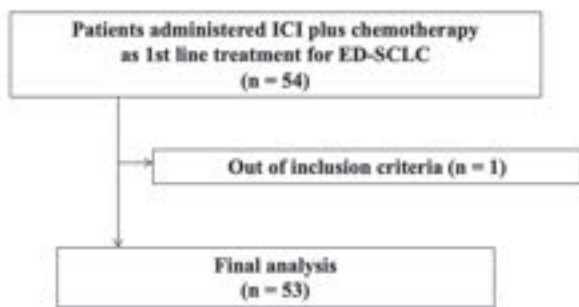


図 2.

**施設登録状況**  
UMIN ID : 000042962

**<登録数内訳>**

- 神戸市立医療センター中央市民病院 20例
- 神戸低侵襲がん医療センター 17例
- 神戸市立西神戸医療センター 6例
- 県立尼崎総合医療センター 5例
- 神戸市立医療センター西市民病院 5例
- 神鋼記念病院 1例

図 3.

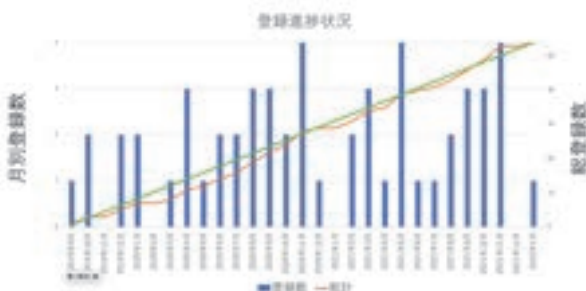


図 4.

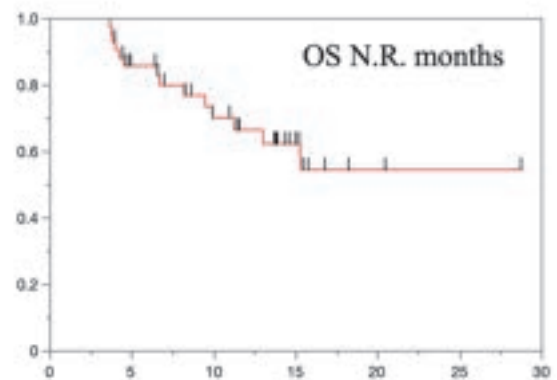
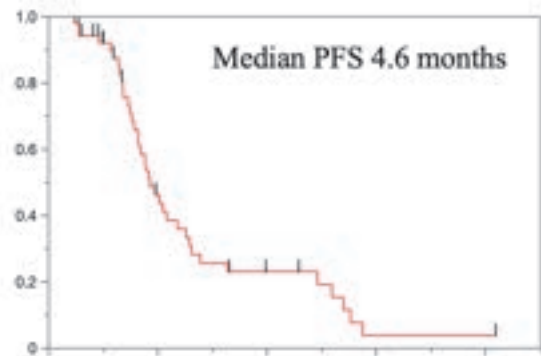


図 5.

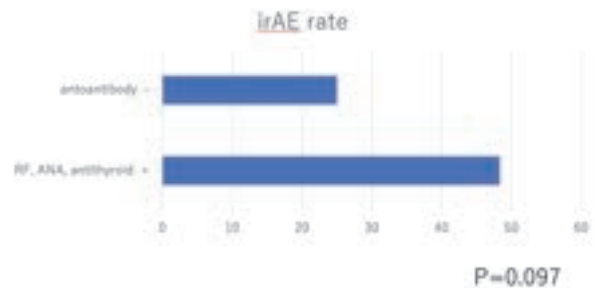
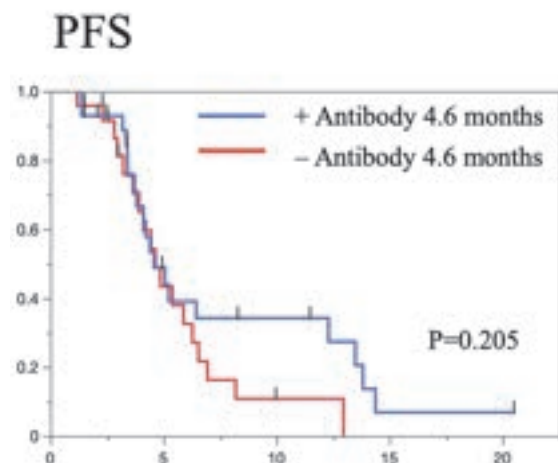
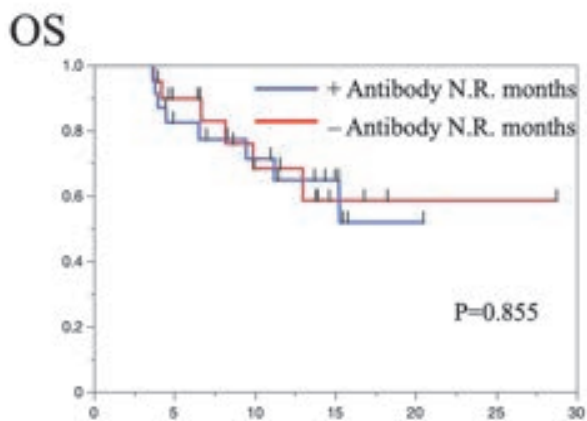


図 6.





## VI. 2 新型コロナウイルス感染症と抗癌剤による薬剤性肺炎の臨床的、画像的特徴の比較検討

中央市民病院 呼吸器内科 嶋田有里

### 【背景・目的】

肺癌の化学療法における重篤な副作用として薬剤性肺障害が挙げられ<sup>1)</sup>、日本人は他国と比較し肺障害の発症頻度や重症化リスクが高いことが知られている<sup>2),3)</sup>。

肺癌治療中患者においてCOVID-19および薬剤性肺障害の鑑別は重要であるが、両疾患の症状は発熱、咳嗽、呼吸困難などと類似しており、両疾患の鑑別が困難である。KL-6<sup>4)</sup>、SP-Dが薬剤性肺障害の診断や重症化のマーカーになることが知られているが、両疾患の血液検査データについて検討した報告はない。両疾患の胸部CTの主なパターンとしてGround-glass opacity、Consolidation、Crazy-paving pattern、小葉間隔壁肥厚と多彩であることが報告されている<sup>5),6)</sup>。

両疾患の鑑別は薬剤の投与歴やウイルスとの接触歴によってなされるが、臨床情報からの鑑別が難しい場合がしばしばあり、今回臨床検査及び画像的特徴について検討した。

### 【方法】

2011年7月から2020年5月までに当院で加療したCOVID-19症例92例および進行期非小細胞肺癌で抗癌剤により薬剤性肺障害を発症した症例54例を抽出した。

① KL-6、SP-Dを測定したCOVID-19症例および薬剤性肺障害症例の血液検査データを比較した。

② 胸部CTの評価が可能であったCOVID-19症例および薬剤性肺障害症例の画像読影を行い、COVID-19のCTカテゴリーであるThe RSNA expert consen-

sus statement<sup>7)</sup>のCTカテゴリーの分類をした。読影は2人の呼吸器内科医と1人の放射線科医により行った。

○ The RSNA expert consensus statementのCTカテゴリー<sup>7)</sup>について

□ Typical症例

以下のいずれかの所見をみとめていること。

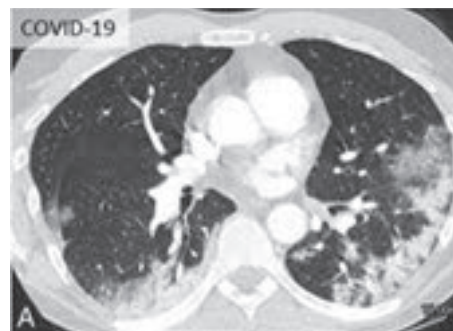
・末梢性かつ両側性に分布するGround-glass opacity (GGO)\* (Typical症例1)

・多発性の丸いGGO\* (Typical症例2)

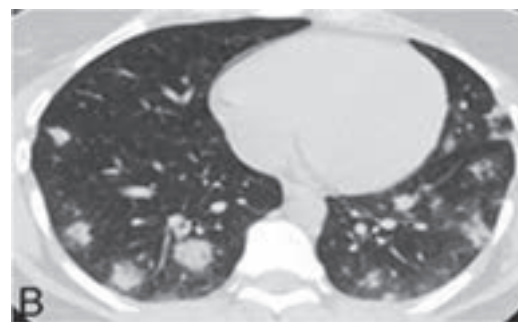
・Reverse halo signをはじめとする器質化肺炎の所見 (Typical症例3)

※ ConsolidationやCrazy-paving patternはあってもなくてもよい

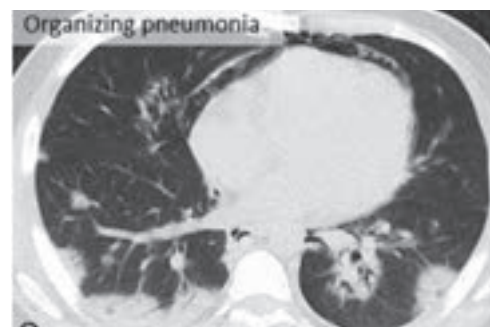
Typical症例1



Typical症例2 (片側であってもTypicalと分類する)



Typical症例3

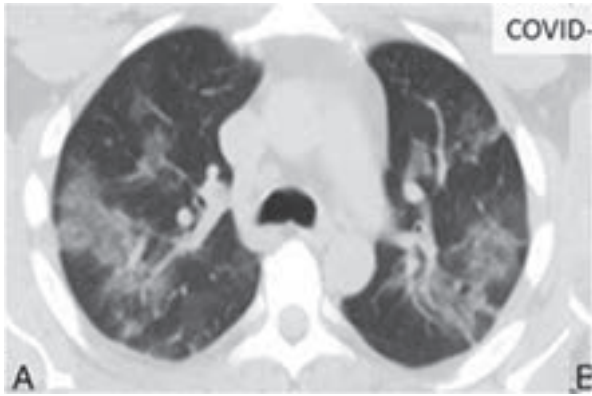


□ Indeterminate 症例

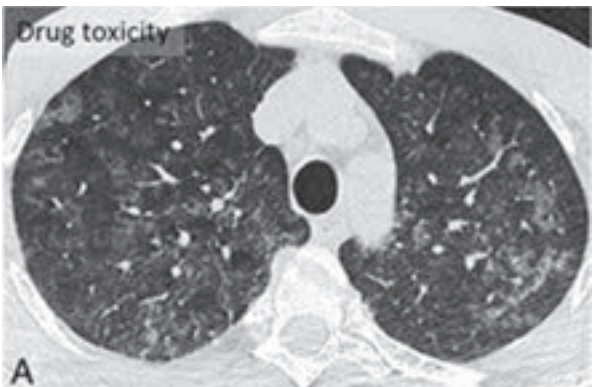
Typical 例の所見を認めず、かつ、以下のいずれかの所見を認める。

- ・多発性、びまん性、肺門周囲優位、片側性に分布する GGO (Indeterminate 症例 1)
- ・末梢優位の分布を示さず、丸くない小さな GGO を認める (Indeterminate 症例 2)

Indeterminate 症例 1



Indeterminate 症例 2



□ Atypical 症例

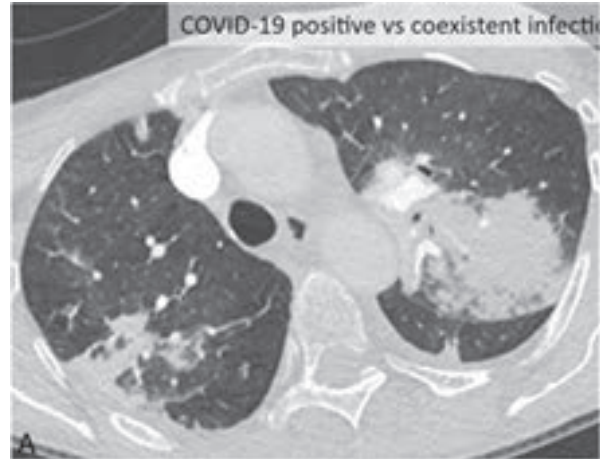
Typical 例や Indeterminate 例の所見を認めず、かつ以下のいずれかの所見を認める。

- ・GGO を伴わない、肺葉性または区域性の Consolidation (Atypical 症例 1)
- ・明瞭な小結節 (小葉中心性、tree-in-bud) (Atypical 症例 2)
- ・空洞 (Atypical 症例 2)
- ・胸水を伴う、小葉間隔壁の不整でない肥厚

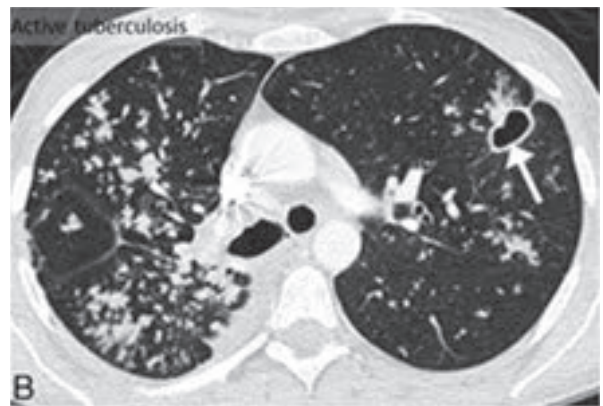
□ Negative 症例

肺炎を示唆する所見を認めない。

Atypical 症例 1

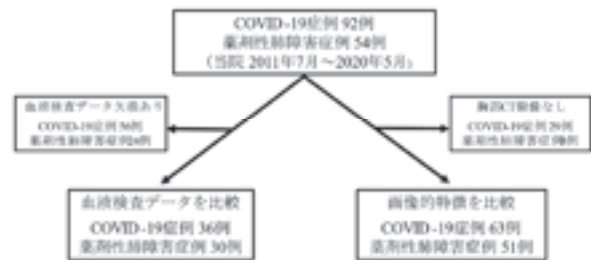


Atypical 症例 2



【結果】

- ・以下の症例が解析の対象になった。



- ・薬剤性肺障害症例 (n=54) の患者背景

使用した抗癌剤	
Chemo+ICI	4 (7.4%)
ICI	22 (40.7%)
TKI	15 (27.8%)
Cytotoxic chemotherapy	13 (24.1%)
Stage	
3 <sup>rd</sup> stage	7 (13.0%)
4 <sup>th</sup> stage	35 (64.8%)
4 <sup>th</sup> stage of recurrence	12 (22.2%)

組織型	
Adenocarcinoma	41 (75.9%)
Squamous cell carcinoma Not otherwise specified	12 (22.2%) 1 (1.9%)
治療ライン	
1st	25 (46.3%)
2nd	16 (29.6%)
3rd	3 (5.6%)
4 <sup>th</sup>	10 (18.5%)
ILD-Grade	
1	8 (14.8%)
2	20 (37.0%)
3	12 (22.2%)
4	9 (16.7%)
5	5 (9.3%)

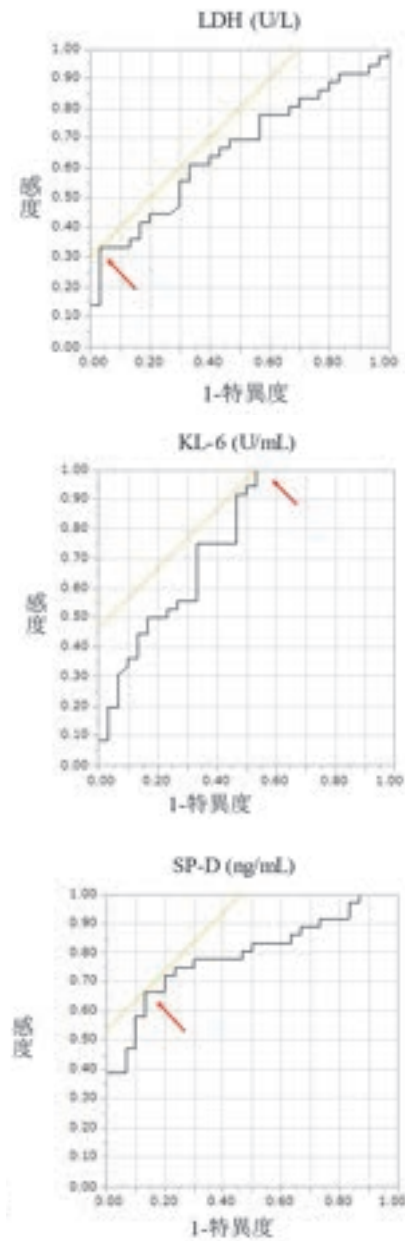
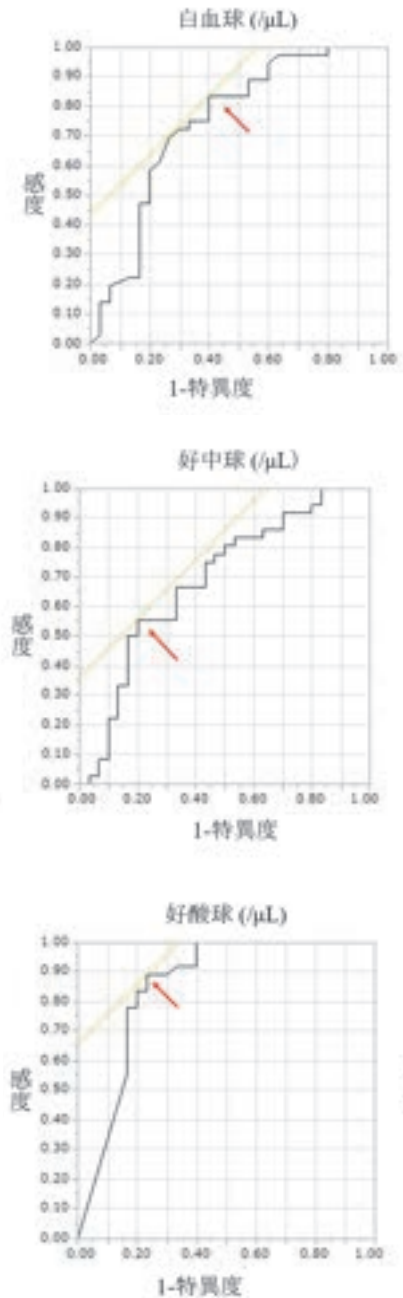
・ COVID-19 症例および薬剤性肺障害症例の患者背景、来院時呼吸状態

患者背景	Total (n=146)	COVID-19 (n=92)	薬剤性肺障害 (n=54)	P
年齢 (歳)	66 (48.75)	56.5 (42.72)	71 (64.8,78)	<0.0001
性別				0.130
男性	94 (64.4%)	55 (59.8%)	39 (72.2%)	
女性	52 (35.6%)	37 (40.2%)	15 (27.8%)	
喫煙歴				<0.0001
Never	68 (46.6%)	55 (59.8%)	13 (24.1%)	
Current or former	65 (44.5%)	26 (28.3%)	39 (72.2%)	
Unknown	13 (8.9%)	11 (12.0%)	2 (3.7%)	
	Total (n=146)	COVID-19 (n=92)	薬剤性肺障害 (n=54)	P
酸素投与なし	95 (65.1%)	57 (62.0%)	38 (70.4%)	0.028
酸素投与	40 (27.4%)	26 (28.3%)	14 (26.0%)	
HFNC	2 (1.4%)	0 (0%)	2 (3.7%)	
NPPV	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	
挿管人工呼吸器	9 (6.2%)	9 (9.8%)	0 (0%)	

① COVID-19 症例および薬剤性肺障害症例の血液検査データ

	Total (n=66)	COVID-19 (n=36)	薬剤性肺障害 (n=30)	P
白血球 (/μL)	6450 (4500,8625)	5700 (4225,7525)	8100 (6250,9550)	0.0003
好中球 (/μL)	5350 (3212,6970)	4332 (2860,5916)	6380 (4590,7544)	0.007
リンパ球 (/μL)	832 (538,1270)	755 (491,1007)	921 (576,1345)	0.125
好酸球 (/μL)	46 (0,124)	0 (0,41)	145 (69,282)	<0.0001
Hb (g/dL)	12.6 (11.5,14.2)	13.7 (12.2,15.4)	12.2 (10.8,12.8)	0.001
Plt (× 10 <sup>4</sup> /μL)	20.7 (16.3,28.3)	17.4 (14.6,21.5)	25.8 (20.0,35.7)	0.0006
AST (U/L)	35.5 (24.8,52)	38 (25,59.5)	29.5 (23.5,45.3)	0.176
ALT (U/L)	22.5 (15.8,36)	25.5 (15.3,43.3)	20.5 (15.8,32)	0.483
LDH (U/L)	328 (210,385)	350 (232,444)	255 (191,356)	0.032
Cre (mg/dL)	0.79 (0.70,0.98)	0.84 (0.71,1.15)	0.76 (0.67,0.96)	0.202
CRP (mg/dL)	7.14 (3.23,15.35)	8.41 (4.18,15.03)	6.33 (2.58,15.81)	0.580
KL-6 (U/mL)	410 (259,694)	298 (218,577)	674 (310,1649)	0.0003
SP-D (ng/mL)	81.8 (35.2,154.5)	49.8 (19.5,85.5)	129 (84,213)	<0.0001

- ・ COVID-19 症例は薬剤性肺障害症例と比較して白血球数、好中球数、好酸球数、KL-6、SP-D が有意に低かった。
- ・ COVID-19 症例は薬剤性肺障害症例と比較してLDH が有意に高かった。
- ・ ROC 曲線とそれぞれのカットオフ値の単変量解析



	白血球 ( $\mu\text{L}$ )	好中球 ( $\mu\text{L}$ )	好酸球 ( $\mu\text{L}$ )	LDH (U/L)	KL-6 (U/mL)	SP-D (ng/mL)
カットオフ値	7700	4514	69	410	881	64.9
AUC	0.746	0.688	0.850	0.655	0.763	0.793
感度	0.833	0.556	0.889	0.333	1.000	0.667
特異度	0.600	0.800	0.767	0.967	0.467	0.867

	P
白血球 (<7700 $\mu\text{L}$ vs $\geq$ 7700 $\mu\text{L}$ )	0.004
好中球 (<4514 $\mu\text{L}$ vs $\geq$ 4514 $\mu\text{L}$ )	0.006
好酸球 (< 69 $\mu\text{L}$ vs $\geq$ 69 $\mu\text{L}$ )	<0.0001
LDH (<410 U/L vs $\geq$ 410 U/L)	0.002
KL-6 (<881 U/mL vs $\geq$ 881 U/mL)	<0.0001
SP-D (<64.9 ng/mL vs $\geq$ 64.9 ng/mL)	<0.0001

② COVID-19 症例および薬剤性肺障害症例の CT カテゴリー

	Total (n=114)	COVID-19 (n=63)	薬剤性肺障害 (n=51)
Typical	45 (39.5%)	41 (65.1%)	4 (7.8%)
Indeterminate	67 (58.8%)	22 (34.9%)	45 (88.2%)
Atypical	2 (1.8%)	0 (0.0%)	2 (3.9%)
Negative	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)

Typical もしくは Typical 以外に分類したところ、以下ようになった。

	Total (n=114)	COVID-19 (n=63)	薬剤性肺障害 (n=51)	P
Typical	45 (39.5%)	41 (65.1%)	4 (7.8%)	<0.0001
Typical 以外	69 (60.5%)	22 (34.9%)	47 (92.2%)	

○結果まとめ

- ・ COVID-19 症例は薬剤性肺障害症例と比較して白血球数、好酸球数、KL-6、SP-D が有意に低かった。
- ・ COVID-19 症例および薬剤性肺障害症例を The RSNA expert consensus statement の CT カテゴリーで分類したところ、COVID-19 症例の方が Typical に分類される割合が有意に高かった。
- ・ Typical と分類された 45 例のうち、薬剤性肺障害の症例は 4 例 (8.9%) であった。COVID-19 症例のうち Typical と分類されたのは 41 例 (65.1%)、Indeterminate と分類されたのは 22 例 (34.9%) であった。

【考察】

COVID-19 症例が市中肺炎症例と比較して有意に白血球数が少ないことが示されている<sup>8)</sup>。また、COVID-19 症例において好酸球が減少することが報告されており、他の疾患との鑑別に有用であることが示唆されている<sup>9),10),11)</sup>。本検討で COVID-19 症例が薬剤性肺障害症例と比較して白血球数、好酸球数が有意に低く、両者の鑑別において白血球数、好酸球数が指標になりうる。COVID-19 症例が薬剤性肺障害症例と比較して KL-6、SP-D が有意に低く、両疾患の鑑別において KL-6、SP-D が指標になりうるが、重症の COVID-19 症例において KL-6、SP-D<sup>12),13)</sup>が上昇することが報告されており、重症症例において KL-6、SP-D は鑑別の指標にならないかもしれない。

COVID-19 症例および他の疾患の鑑別に The RSNA expert consensus statement の CT カテゴリーが有用であるという報告があるが<sup>15)</sup>、本研究でも鑑別に有用で

あることが示された。薬剤性肺障害症例の中に Typical と分類された症例もあり、RSNA CT カテゴリーの Typical の所見のみで薬剤性肺障害の可能性を除外するのは困難であると考えられる。COVID-19 症例の約 1/3 が Indeterminate と分類されており、これらの症例をさらに別の所見で評価する必要がある。Indeterminate 症例において subsegmental vascular enlargement が補助的な所見になりうることが示唆されており<sup>14)</sup>、両者の鑑別にあたり、有用かもしれない。

【結論】

- ・ COVID-19 および薬剤性肺障害の鑑別にあたり、白血球数、好酸球数、KL-6、SP-D が指標になりうる。
- ・ COVID-19 および薬剤性肺障害の鑑別にあたり、The RSNA expert consensus statement の CT カテゴリーが有用である。

【参考文献】

- 1) Fujimoto et al. PLoS One 2016;11 : e0168465.
- 2) Azuma et al. AJCCM, 2008;177 : 1397-1398.
- 3) Suresh et al. J Thorac Oncol 2019;14 : 494-502.
- 4) Ohnishi et al. Thorax 2003;58 (10) : 872-875.
- 5) Xu et al. Eur J Nucl Med Mol Imaging. 2020 May;47 (5) : 1275-1280.
- 6) Cleverley et al. Clin Radiol. 2002 Apr 57 (4) : 292-299.
- 7) Simpson et al. J Thorac Imaging. 2020 Jul;35 (4) : 219-227.
- 8) Zhou et al. Front Cell Infect Microbiol. 2020 Jun 16;10 : 322.
- 9) Li et al. Eclinical Medicine. 2020 May 3;23 : 100375.
- 10) Djangang et al. Microorganisms. 2020 Dec 4;8 (12) : 1929.
- 11) Soni et al. Int J Lab Hematol. 2020 Dec 8;00 : 1-5.
- 12) Alessandro et al. J Med Virol. 2020 Oct;92 (10) : 2216-2220.
- 13) Kerget et al. Lung. 2020 Oct;198 (5) : 777-784.
- 14) Ciccarese et al. Radiology. Cardiothoracic Imaging 24 (2020) .



### VI. 3 リツキシマブ投与歴のある血液疾患患者における BNT162b2、mRNA-1273、ChAdOx1-S 接種後の SARS-CoV-2 IgG 抗体価及び接種後副反応に関する観察研究

中央市民病院 血液内科 西久保雅司

#### 【問題】

抗 CD20 モノクローナル抗体リツキシマブ投与歴のある患者は、COVID-19 罹患の重症化リスクが高いにもかかわらず、新型コロナウイルスワクチンの効果が不十分である可能性が指摘されている。

#### 【研究目的】

本研究は、抗 CD20 モノクローナル抗体製剤投与歴のある血液疾患患者における、BNT162b2、mRNA-1273、ChAdOx1-S 接種完了後の SARS-CoV-2 IgG 抗体価の陽性率を評価すること、ならびに、これらのワクチンを接種した際に生じた接種後副反応を評価することを目的とする。

#### 【研究期間】

令和 3 年 6 月～現在に至る

#### 【研究方法】

研究倫理審査委員会承認日以降に神戸市立医療センター中央市民病院血液内科外来受診患者 150 名を対象とする観察研究である。研究への参加同意が得られた患者において、日本政府ならびに地方自治体が主導するワクチン接種を受ける予定日を聴取し、2 回目のワクチン接種を完了して 2 週間以上経過してから、3 カ月を超えるまでに、原疾患の治療を目的として外来を受診した際に、通常診療に必要な採血に加えて研究用検体を 11mL 採取する。研究用検体を用い、同センター検査室で化学発光免疫測定法 (CLIA 法) を用いた ARCHITECT SARS-CoV-2 IgG II Quant (アボット社提供) で新型コロナウイルスに対する特異的 IgG を測定する。また、患者の細胞性免疫、液性免疫状態を評価するために、リンパ球サブセット検査及び、IgG、IgA、IgM 値を測定する。患者カルテを参照し、年齢、性別、病名、病期、原疾患に対する治療経過に関する情報を収集する。アンケート法により、ワクチンを接種した際に生じた副反応について聞き取りを行う。

#### 【研究結果及び考察】

The humoral response to BNT162b2 or mRNA-

1273 mRNA COVID-19 vaccines was evaluated in 148 patients treated with anti-CD20 antibodies (71 [48%] men, median age 71 [interquartile range, IQR 64-77] years) and 38 healthy controls (9 [24%] men, median age 28 [IQR 25-40] years). Seropositivity rates were 64% in the patient group and 100% in healthy controls. Only 11.5% of patients who received anti-CD20 antibodies within 9 months achieved a seropositive response; whereas 91.7% of those whose last anti-CD20 antibodies were administered prior to 9 months did so. A seropositive response was achieved in 89.8% of patients (90 individuals) with >3% B cells, but only in 12% of patients with ≤3% B cells. Among patients receiving anti-CD20 antibodies more than 9 months earlier, the humoral response was poor if they were still in a B-cell-depleted state. Exposure to anti-CD20 antibodies more than 9 months prior to vaccination and >3% B cells in peripheral blood improve the response to mRNA COVID-19 vaccines.

Fig. 1

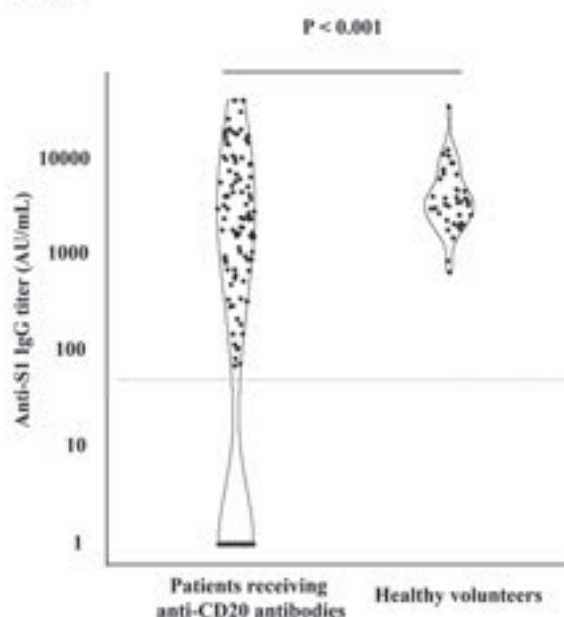
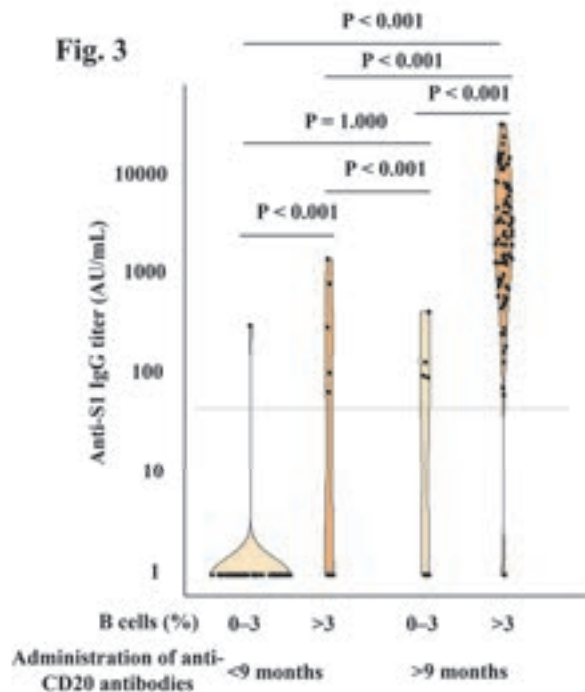


Fig. 1 Anti-S1 antibody titers in patients who received anti-CD20 antibodies and healthy volunteers.  $P < 0.001$  was calculated using either the Mann-Whitney U test or chi-square test.



**Fig. 3** Anti-S1 antibody titer in patients sub-grouped according to time from last anti-CD20 antibody treatment to vaccination and B-cell fraction. Black dotted lines indicate 50 AU/mL, the cut-off value of serologic reactions according to the manufacturer's instructions. The titer of seronegative patients was 1 AU/mL. P-values were calculated using the Mann-Whitney U test followed by Bonferroni correction.

#### 【今後の展望】

本研究で得られた成果については、現在査読付き英文雑誌に投稿中である。

#### VI. 4 頭頸部癌化学放射線療法後に撮像した PET-CT による予後予測の検討

中央市民病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 濱口清海

頭頸部癌治療において化学放射線療法は、根治治療あるいは再発リスクの高い症例における術後治療として広く施行されている。頭頸部癌における化学放射線療法においては白金製剤、特に CDDP が高い有効性を示しており、標準薬として位置づけられている。

化学放射線療法後の治療効果判定においては 12 週後の PET-CT によるサーベイランスが計画的頸部郭清手術に対して非劣性であることが示されており、頭頸部癌診療ガイドラインにおいて PET-CT によるサーベイランスが推奨されている（推奨グレード B）。

PET-CT による診断は陰性的中度高く、12 週以降の検査で感度・特異度が上昇することが知られていることから、当科では治療効果判定として治療後 3 カ月を目途に PET-CT を撮像している。

しかしながら、PET-CT による再発・遺残に関する治療効果判定については上記のごとく一定の標準的な方法が確立されているが、その後の再発・転移についてはどのようなフォローアップ方法が再発の発見に効率的であるのかについてのエビデンスがない。本研究により、治療効果判定の PET-CT で再発リスクの大きさを規定することができれば、特に後治療および再発治療を早期に行うことが可能となり治療法の改善が期待できると考えられ、当科において 2012 年から 2019 年の 8 年間に頭頸部癌に白金製剤を用いた化学放射線療法を行い、治療効果判定に PET-CT を撮像した 82 例を検討した。

診断結果は CMR63 例、PMR14 例、PMD5 例であった。5 年無再発生存率は CMR : 83.9%、PMR : 46.2%、5 年粗生存率は CMR : 85.4%、PMR : 79.5%、5 年疾患特異的生存率は CMR : 93.7%、PMR : 79.5% であった。CMR 症例で転移再発は 9 例 11 部位に見られ、原発巣 4 例、リンパ節 1 例、肺転移 3 例、肝転移 2 例、骨転移 1 例であった。

以上のように PET-CT を撮像することで、撮影時点での遺残・再発の診断のみならず、CMR の場合において高率で長期的な無再発や生存が期待できることが示された。また一方で高率ではあるが 100% でないため、定期的な画像診断を含めた観察を行う必要があることが示された。

本研究の結果を第 122 回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会において発表しディスカッションを行った。今後、PET-CT の結果が既存の TNM 分類によるステージ分類に置き換わる可能性があるかについて質疑があったが、置き換わるというよりも組み合わせにより予後予測に資すると考えられる旨説明した。

#### VI. 5 頸部感染治療に難渋した、下咽頭癌化学放射線療法後に骨髄異形成症候群を合併した 2 例 Two cases of myelodysplastic syndrome and neck infection after chemoradiotherapy for hypopharyngeal carcinoma

中央市民病院 耳鼻咽喉科 戸部陽太  
Department of Head and Neck Surgery, Kobe City Medical Center General Hospital

Yota Tobe, Shogo Shinohara, Kiyomi Hamaguchi, Shinji Takebayashi, Tetsuhiko Michida, Tadashi Ikegami, Ayami Hamamoto, Mami Yasumoto

We encountered two patients who developed treatment-related myelodysplastic syndrome (MDS) and neck infection after chemoradiotherapy for head and neck squamous cell carcinoma (HNSCC), in whom we had difficulty in treating the neck infection and pharyngocutaneous fistula formation.

Case 1: 73-year-old male. The patient had undergone total pharyngo-laryngo-esophagectomy, bilateral neck dissection, and free jejunal flap reconstruction after neo-adjuvant chemotherapy (nedaplatin, 5-FU) 14 years earlier for left pyriform sinus squamous cell carcinoma (SCC) pT4aN2cM0. After surgery, he had received adjuvant chemoradiotherapy (docetaxel, 60Gy) and adjuvant chemotherapy (oral fluorouracil agents). He was hospitalized thereafter due to necrosis of the free jejunal flap. After surgical debridement, a staged reconstruction strategy was considered for the defect. Reconstructions using a left deltopectoral (DP) flap, left pectoralis major myocutaneous flap, and right DP flap were attempted, but failed, with residual fistula formation due to marginal or total necrosis of the flaps. Finally, it took 67 weeks before we succeeded in closing the fistula using a migrating tube flap from the right DP flap. The patient was diagnosed as having MDS while he was hospitalized and this was thought to be responsible for his delayed wound healing.

Case 2: 76-year-old male. The patient had undergone neo-adjuvant chemotherapy (nedaplatin, S-1) and chemoradiotherapy (docetaxel, 60Gy) 12 years earlier for left pyriform sinus SCC pT2N1M0. He had been diagnosed 3 years earlier as having MDS. He was hospitalized for deep neck infection. In spite of prompt surgical drainage and antibiotic therapy, he developed septic shock 7 weeks after admission. Although his condition began to improve and the fistula started to become smaller after the second surgery for debridement, his deep neck infection progressed to cervical vertebral osteomyelitis 30 weeks after admission and the patient died 39 weeks after admission.

In conclusion, physicians should be keenly aware that infection in a HNSCC patient who develops treatment-related MDS after chemoradiotherapy can be a life-threatening event, and close attention needs to be paid to wound healing in these patients.

# 頭頸部癌に対する化学放射線治療後 骨髄異形成症候群を合併し 頸部感染治療に難渋した症例

神戸市立医療センター中央市民病院 頭頸部外科  
戸部陽太, 篠原尚吾, 竹林慎治, 濱口清海, 道田哲彦, 安本眞美, 濱本文美

## はじめに

化学放射線療法(CCRT)は頭頸部扁平上皮癌に対する治療法として有用であるが、併用薬剤として一般的なプラチナ製剤は、使用後骨髄腫瘍が発生する危険性が知られている。今回下咽頭扁平上皮癌に対して CCRT を含む治療後に骨髄異形成症候群(MDS)を発症し、咽頭皮膚瘻や頸部感染症の治療に難渋した 症例を経験したので報告する。

第45回 日本頭頸部癌学会  
COI 開示  
筆頭発表者: 戸部陽太

演題名  
頭頸部癌に対する化学放射線治療後骨髄異形成症候群を合併し  
頸部感染治療に難渋した症例

本演題に関して、開示すべきCOI関係にある企業などはありません

## 症例 76歳 男性

### 患者背景

発症 12年前  
左梨状陥凹型下咽頭低分化扁平上皮癌 cT2N1M0に対して  
ネダプラチン 120mg/body と S-1 120mg/body/day 2 週間投与による  
導入化学療法後、画像評価で原発巣及び転移リンパ節はPR~CRと判断し  
CCRT(60Gy、ドセタキセル 20mg/body/week 2 コース)施行  
以降再発なく、経過観察を行っていた

### 主訴

発熱、左頸部痛

### 現病歴

発症前日午後から左前頸部痛を自覚した  
症状が持続するため、発症日に当院救急外来を受診した

### 既往歴

#### MDS(表)

発症 3 年前に診断、高齢のため積極的治療の適応なし  
月 1 回程度輸血での支持療法の方針

#### 胆嚢炎

発症 3 年前、腹腔鏡術後創部治癒に3か月を要した

#### 心房細動

アブレーション治療後

#### 食道癌

発症 12 年前に手術、再発なし

### 身体所見

167cm, 72kg, BMI 25.8

左前頸部に発赤、圧痛を認めた

経鼻内視鏡:

鼻咽頭粘膜に紫斑が散在し、中咽頭~喉頭蓋左側の粘膜は浮腫状

### 血液検査

TP 8.5 g/dL, Alb 3.7 g/dL, BUN 27.7 mg/dL, Cre 1.61 mg/dL, CRP 7.59 mg/dL,  
WBC 5000 / $\mu$ L, Hb 8.0 g/dL, Plt 7000 / $\mu$ L, Band 12.0 %, Seg 46.5 %, Lymph.  
18.5 %, Mono. 22.0 %, Eos. 1.0 %, Baso. 0.0 %, Blast 0.0 %

### 治療経過(図4)

発症日に撮影した造影 CT 検査では頸部脂肪織濃度の上昇を認め、頸部蜂巣炎として抗菌薬点滴投与による保存治療を開始した。本患者の MDS に対しては診断時から支持療法が行われており、入院後も週 1 回程度の頻度で赤血球 2 単位、濃厚血小板 10 単位の輸血を継続して行う方針とした。発症 3 日後に再度造影 CT 検査を行ったところ深頸部膿瘍に進展していることが判明した(図1)ため、発症 4 日後に全身麻酔下で左頸部切開排膿術、気管切開術を施行した。抗菌薬投与と創部洗浄で保存加療を行い、膿瘍は消失したものの創部は閉鎖したままだった。発症 2 週後に洗浄液が口腔内にあふれたことから下咽頭皮膚瘻が判明し、絶食、経鼻経管栄養を開始した。必要栄養量は標準体重をもとに算出し1700kcal、タンパク78gを目標に投与を行ったが水様便が持続、消化体栄養剤に変更するなど症状改善を図るも血清 Alb 値は低値で推移した。発症 7 週後に血圧低下と意識レベル低下を来し、2 日間の昇圧薬を用いた ICU 管理となった。この時の各種培養検査で細菌は検出されなかったが、創部で感染が持続し創傷治癒遅延や敗血症性ショックを引き起こしている可能性が考えられたため、昇圧薬から離脱後ただちに創部デブリドマンを施行した。その後、炎症反応は低下傾向となり経口抗菌薬に変更、栄養状態も改善に転じ創部は徐々に閉鎖傾向となった。発症 11 週後に着色水嚢下検査を行い下咽頭皮膚瘻孔が開鎖したことを確認した。発症 24 週後の血液検査はCRP 1.08 mg/dL、白血球 1200 / $\mu$ L、Hb 8.5 g/dL、血小板 0.9 万 / $\mu$ L であり、単純 CT 画像上膿瘍は消失、下咽頭瘻孔を疑う所見を認めなかった(図2)ため、MDS による汎血球減少は同程度で持続しているものの感染は治癒し瘻孔は閉鎖したと判断し、同週に廃用症候群改善のためのリハビリテーション目的に転院となった。

ところが発症32週後に発熱及び両下肢の脱力のため再度当科入院となり、頸部 MRI 検査(図3)と造影 CT 検査を撮影したところ第5,6頸椎椎体炎及び咽頭膿瘍の診断であった。器質化した下咽頭の感染が頸椎へ波及したと判断し切開排膿術、抗菌薬加療を行うも制御困難であり、ICU 入退室を繰り返しながら全身状態が徐々に悪化し、発症41週後に永眠された。

末梢血液検査(発症3週前)	
好中球数( $\times 10^9$ / $\mu$ L)	0.42
ヘモグロビン濃度(g/dL)	8.7
血小板数( $\times 10^9$ / $\mu$ L)	0.5
芽球比率(%)	0
骨髄生検(発症1年前)	
顆粒球	脱顆粒
赤芽球	巨赤芽球様変化
巨核球	分離核や単核
芽球比率(%)	1.4
染色体検査	8トリソミー (14/20細胞)
2017年WHO分類	MDS-MLD
IPSS-R <sup>9)</sup>	high risk

#### 表:発症前血液学的検査所見

3系統全ての血球に異形成を認め、多血球系統の異形成を認めるMDS(MDS-MLD)と診断された

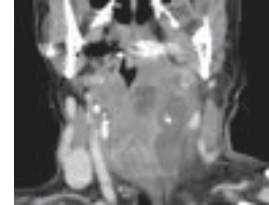


図1:発症3日後の造影CT画像  
中咽頭左側の傍咽頭間隙から鎖骨上レベルの椎前部にかけてリング状造影効果を伴う低吸収域を認めた

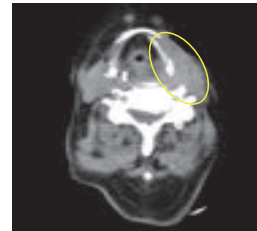


図2:発症24週の頸部単純CT画像  
頸部皮下組織は低吸収域な組織に置換され瘻孔閉鎖を得た

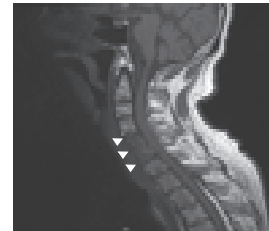


図3:発症32週の頸部MRI T1強調画像  
第5,6頸椎椎体は低信号を呈し(矢頭)椎体炎が疑われた

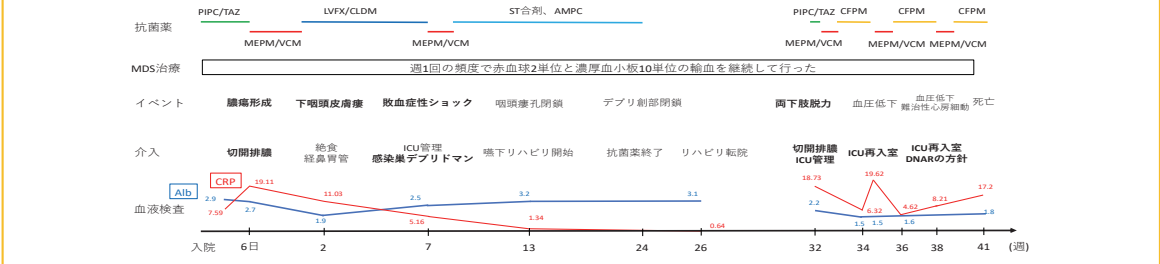


図4:症例の治療経過

## 考察

以前から血液腫瘍や婦人科癌に対して高用量の化学療法を行うと治療関連の骨髄異形成症候群(t-MDS)を発症することがあり、トポイシメラーゼ II 阻害剤、アルキル化薬、プラチナ製剤の投与が原因となることが知られていた<sup>1)</sup>。これまで頭頸部癌に対するCCRT後のt-MDS発症リスクは明らかにされていなかったが、近年の大規模データベース研究で頭頸部癌に対するCCRT後t-MDS/AMLの標準化罹患率は2.4であり、CCRT治療後10年間の累積罹患率は0.36%であった<sup>2)</sup>と報告された。t-MDS発症を予測するバイオマーカーとして末梢血中のクローン性造血(CHIP: clonal haematopoiesis of indeterminate potential)が有用であるとの報告がある<sup>3)</sup>が臨床への応用は検討中の段階であり、現状ではCCRT後の頭頸部癌患者が血球減少を来さないか、継続してフォローアップを行うことが必要である。

MDSは未熟な造血細胞に異常を生じる腫瘍性疾患で、骨髄で無効造血が起こる結果単一あるいは複数系統の血球減少、易感染性・易出血性や急性骨髄性白血病転化を来す<sup>4)</sup>。本症例ではCCRTによる頸部組織の血流低下とMDSによる貧血で組織が低酸素状態であったこと、好中球・血小板機能障害により殺菌能や壊死組織の貪食能、創傷治癒能力が低下したことから切開排膿と抗生剤点滴のみでは感染コントロールが得られず下咽頭皮膚瘻形成や全身状態悪化を起こした。これに対して感染巣の徹底的なデブリドマンを行うことで消炎が得られ栄養状態が改善し、瘻孔閉鎖が得られたと考えられる。

本症例は状態改善のため一度転院するも下咽頭の器質化した組織に再度感染し、炎症波及による頸椎椎体炎で感染コントロール不能となり死の転帰となった。本症例ではMDSの予後予測スコアであるIPSS-R<sup>9)</sup>でhigh riskに分類され、その50%生存率は15か月程度と予後不良であった。本症例のような背景の感染治療に際しては致死的な経過となる可能性を説明し、あらかじめ急変時の対応を決定しておく必要があると考えられる。

## 結語

頸部 CCRT 後に MDS を合併、頸部瘻孔形成や感染を来し、治療に難渋した 症例を経験した。頸部 CCRT 後の患者で汎血球減少を認めた場合には血液内科的な精査を依頼することが重要である。  
また MDS の重症度を把握し、外科的侵襲には危険性と限界があることや、適切な治療を行っても致死的な経過をたどる可能性があることを患者に十分説明する必要がある。

## 参考文献

- McNerney ME et al. Therapy-Related Myeloid Neoplasms: When Genetics and Environment Collide. Nat Rev Cancer. 2017.
- Morton LM et al.: Association of Chemotherapy for Solid Tumors With Development of Therapy-Related Myelodysplastic Syndrome or Acute Myeloid Leukemia in the Modern Era. JAMA Oncol. 2019.
- Takahashi K et al.: Preleukemic clonal haematopoiesis and risk of therapy-related myeloid neoplasms: a case-control study. Lancet oncol. 2017.
- 造骨髄腫瘍ガイドライン 2018 年度版 日本血液学会, 2020.
- Greenberg PL et al.: Revised International Prognostic Scoring System for Myelodysplastic Syndromes. Blood. 2012.

## VI. 6 口腔癌皮弁再建術後に皮弁上に発癌した2症例

中央市民病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 道田哲彦

### 【業績の報告学会】

第122回日本耳鼻咽喉科学会・学術講演会・2021/5/12-15・国立京都国際会館 e-ポスター発表

### 【演者】

道田哲彦<sup>1)</sup>、篠原尚吾<sup>1)</sup>、安本真美<sup>1)</sup>、濱本文美<sup>1)</sup>、戸部陽太<sup>1)</sup>、池永直<sup>1)</sup>、山崎博司<sup>1)</sup>、濱口清海<sup>1)</sup>、竹林慎治<sup>1)</sup>、藤原敬三<sup>1)</sup>、内藤泰<sup>1)</sup>、原重雄<sup>2)</sup>

1. 神戸市立医療センター中央市民病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科
2. 神戸市立医療センター中央市民病院 病理診断科

### 【緒言】

頭頸部癌治療において、腫瘍切除後の組織欠損の修復や喪失した機能の回復のために再建術が図られている。長年の経過で再建皮弁上に新たに癌が発生することが稀ながら報告されている。当科で口腔癌皮弁再建術後に皮弁上に発癌した2症例を経験したため、文献的考察を加え報告する。

### 【対象と方法】

症例1は73歳男性で、65歳時に左舌縁癌 pT3N1cM0 に対して舌亜全摘術、両側頸部郭清術、腹直筋皮弁再建術を施行し、追加治療として放射線治療を行った。術後7年後に無痛性、易出血性の白色隆起性病変が皮弁上に出現し、生検で扁平上皮癌と診断されたため皮弁上腫瘍の局所切除術を行った。術後の永久病理組織診断結果は扁平上皮癌の診断であったが、PAS染色は陰性であった。切除断端（残存舌側、深部断端）陽性であったものの Performance Status 3 と不良で追加治療は困難と判断し経過観察を行った。術後1年経過した時点で再発を来し、今後は緩和治療を行う方針となっている。症例2は71歳男性で、63歳時に右下顎肉癌 pT4aN0cM0 に対して右下顎区域切除術、右頸部郭清術、右大胸筋皮弁再建術を施行し、追加治療として放射線治療を行った。術後7年後に皮弁上のざらつきを自覚し、皮弁上に白斑を伴った不整病変を認め、生検で扁平上皮癌と診断。皮弁上腫瘍の局所切除術を行った。摘出標本の病理組織所見では扁平上皮癌の診断であったが、PAS染色は陰性であった。切除断端は陰性で、術後1年4か月の時点で無再発で経過している。

上記2例および国内外の症例報告を含めた30例で

検討を行った。皮弁再建術後発癌までの期間、皮弁上に発癌した組織型、発癌様式、再建皮弁の種類、発癌部位、放射線治療歴・飲酒歴・喫煙歴と発癌の関連に関して検討を行った。

### 【結果】

皮弁再建術後発癌までの期間は2～39年（平均12.8年）で、皮弁上に発癌した組織型はすべて扁平上皮癌であった。発癌様式としては外向性が半分程度でその他潰瘍状、白板状などがみられた。再建皮弁の種類としては前腕皮弁が10例、大胸筋皮弁が7例、胸三角筋部皮弁が5例、外側大腿皮弁が3例、その他の遊離皮弁が3例、腹直筋皮弁が1例、頸部局所皮弁が1例であった。発癌部位としては口腔が19例、中咽頭が4例、下咽頭が6例、喉頭が1例であった。再建皮弁術後から皮弁上発癌までの期間に放射線治療歴の有った例は5例、無かった例が18例であった。7例は不明であった。同様の期間で喫煙歴の有った例は5例、無かった例が17例、8例は不明であった。同様の期間で飲酒歴の有った例が7例、無かった例が13例で10例は不明であった。

### 【考察】

発癌様式としては外向性が多く、肉眼的に同定できるものがほとんどであり、長期間にわたって外来経過観察を継続することが必要と考えられた。再建皮弁の種類は様々だが皮弁上発癌部位としては口腔癌が多かった。照射歴、喫煙・飲酒歴と、発癌との関係は不明瞭であった。

再建皮弁上に扁平上皮癌が発生する原因としては諸家の報告から2つに大別される。1つは、唾液や食物中刺激物質などの外的刺激であったり、湿潤環境で出現したカンジダ感染などで慢性炎症を誘発し、皮弁皮膚が形態学的・生理学的に粘膜様変化を来し、異形成などを経て最終的に腫瘍性変化を来すことで発癌するというものである。それを裏付けるものとして、良性病変の皮弁再建術後に皮弁上に発がんした症例報告もある。2つ目としては、近接する口腔粘膜から皮弁皮膚に粘膜上皮細胞や遺伝情報が遊走・定着し、皮膚細胞に置き換わることで、置き換わった粘膜上皮が受けた発癌リスクを背景に発がんが促される、あるいは一次原発癌の遺残遺伝情報が供給されることで生じた異時性再発癌というものである。原発癌と皮弁上に発症した悪性腫瘍との間に遺伝子的関係が認められたとする報告がそれを裏付けている。その他、症例は少ないがヒトパピローマウイルス感染が発癌に関与している

とする報告もみられる。本症例においてはカンジダ感染は否定的であったものの、上記2つの発症機序いずれも可能性があると考えられた。

#### 【まとめ】

口腔癌皮弁再建後に皮弁上に発癌した2症例を経験した。これまでは5年を一つの目安として一次原発癌が治癒したと考えられた場合、近医でのフォローアップに切り替えることが多かった。10年経過した症例では終診としている例もみられたが、今回の自験例をふまえた研究で、発現機序は明確ではないが、皮弁再建術後発癌までの期間が非常に長いことが判明し、皮弁再建例においては10年経過した後にも皮弁上発癌がみられる可能性があることを念頭に、長期的に経過をみていく必要があると再認識された。

### VI. 7 頬部に発生した線維肉腫成分を伴う隆起性皮膚線維肉腫の一例

中央市民病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 道田哲彦

#### 【業績の報告学会】

第45回日本頭頸部癌学会総会ならびに学術講演会・2021/6/17-18・千葉県 口演発表

#### 【演者】

道田哲彦<sup>1</sup>, 篠原尚吾<sup>1</sup>, 竹林慎治<sup>1</sup>, 濱口清海<sup>1</sup>,  
池永直<sup>1</sup>, 戸部陽太<sup>1</sup>, 安本真美<sup>1</sup>, 濱本文美<sup>1</sup>, 原重雄<sup>2</sup>

1. 神戸市立医療センター中央市民病院  
耳鼻咽喉科・頭頸部外科
2. 神戸市立医療センター中央市民病院 病理診断科

#### 【緒言】

隆起性皮膚線維肉腫 (dermatofibrosarcoma protuberans, 以下 DFSP) は真皮から発生する中間悪性度を示す間葉系腫瘍で、四肢・体幹に好発するが顔面に生じるものは10%前後と少ない。DFSPの亜型である、線維肉腫成分を伴う DFSP (fibrosarcomatous variant of DFSP (以下 FS-DFSP)) は局所再発や遠隔転移のリスクが高い。当初は左耳下腺腫瘍を疑った FS-DFSP 症例を経験したので報告する。

#### 【症例】

59歳男性。8年前に左頬部の皮下腫瘤を自覚し、近医皮膚科で生検されるも悪性所見は無いとのことで経過観察されていた。最近になり腫瘤が増大してきたた

め当院へ紹介となった。術前診断では左耳下腺腫瘍(多形腺腫疑い)と考え、左耳下腺浅葉切除を行った。術後の永久病理組織診断で FS-DFSP の診断となり切除断端陽性であったため、後日拡大切除を行った。水平方向に3cmの安全域を設け、深部は下顎骨膜は温存するように咬筋、ならびに顔面神経頰骨枝、頰筋枝を合併切除し、腓腹神経で顔面神経再建術を行った。欠損部は大腿外側皮弁で再建した。術後放射線治療を60Gy行い、以後2年経過した時点で再発は無い。顔面神経麻痺は術直後は柳原法で2点であったが、1年7か月経過した時点で24点と、徐々に改善してきている。

#### 【DFSPの疫学、治療と予後】

国内の DFSP 発症の年齢中央値は44歳で、男女比は2.06とやや男性に多い。顔面領域では頬部に発生しやすい(本邦で報告された、顔面に生じた DFSP31例のうち23例が頬部に発症)。耳下腺領域の発生報告はわずかである。また、FS-DFSPはDFSPの9.85%~16%にみられると報告されている。DFSPの治療の第一選択は手術であり、2-4cmの安全域を設け、筋膜を含めた拡大切除が一般的である。断端陽性例や腫瘍が大きい場合、再発もしくは転移例で手術不能な場合は放射線治療がすすめられる。国内報告症例での FS-DFSP の局所再発は39%、遠隔転移は24%で、再発までの期間は概ね5年以内とされている。

#### 【考察】

DFSPは顔面領域では頬部に発生することが多く、治療には拡大切除を要することから機能性、審美性を考慮した再建術を検討する必要がある。本症例も3cmの安全域かつ咬筋筋膜を含め合併切除することで病変を摘出し得た。また、顔面神経移植術、遊離皮弁再建術を行うことで機能性、審美性に配慮することができた。

術後放射線治療は断端陽性例や手術不能例に考慮される。本症例は追加切除により切除断端は陰性であったが、線維肉腫成分を含んでいたことや、再手術例でもあり追加治療を行うこととした。幸い術後2年経過した時点で制御はできているが今後の再発に留意は必要である。

#### 【まとめ】

左頬部に発生した稀な FS-DFSP 症例を経験した。皮膚悪性腫瘍であるが顔面領域では頬部に発生することが多く、耳下腺腫瘍が疑われる場合がある。治療に

は安全域を設けた切除が必要であり、再建術を含めた対応を要するため頭頸部外科医として周知しておく必要がある。

## VI. 8 組織内照射治療後 20 年以上経過し、照射野に再び発生した舌癌の 2 症例

中央市民病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科  
安本眞美、篠原尚吾、竹林慎治、濱口清海  
道田哲彦、池永直、戸部陽太、濱本文美

### 【はじめに】

頸部リンパ節転移のない早期舌癌の治療において、形態・機能温存の観点から、従来組織内照射は良い適応である<sup>1)</sup>。これまでの報告によると 5 年局所制御率は、I 期で 79～93% 程度、II 期で 70～83% とされている<sup>2)</sup>。近年、放射線治療での長期生存例が増えるとともに照射部位における二次癌が注目されている。今回、組織内照射を施行し、治療終了後 20 年以上経過して照射野に再び発生した舌癌の 2 症例を経験したため、文献的考察を加え報告する。

### 【症例 1：59 歳女性】

【背景】 X-20 年 10 月、右舌縁部癌に対して A 病院にて組織内照射（線量不明）施行、以降再発なく経過していた。

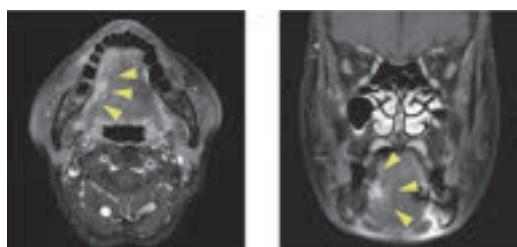
【現病歴】 X 年 10 月より舌裏面の灼熱感を自覚。当院口腔外科で生検を受け、扁平上皮癌と診断され当科を紹介された。

【既往歴】 関節リウマチにてメソトレキサート内服中

【嗜好歴】 飲酒：なし 喫煙：past smoker(10 本/日×15 年)

【身体所見】 右舌縁部の広範に白板病変とその後方に周堤を伴う潰瘍病変あり。同部位の持続的な灼熱感あり。頸部リンパ節腫脹なし。

【検査所見】 造影 MRI にて舌右縁部に前後径 20mm、深達度 11mm の造影効果を伴う腫瘍を認める。腫瘍の深部はオトガイ舌筋に浸潤しており、cT4a と診断した。また術前 FDG-PET/CT にて、リンパ節・遠隔転移は描出されなかった。



【治療】 右舌縁部癌（cT4aN0M0：TNM 分類第 7 版）として手術加療を行った。pull through 法による右可動部舌半切、右肩甲舌骨筋上郭清術、左前腕皮弁再建術を施行した。

【経過】 現在術後 8 年経過するも無再発生存中。再建部位の引き攣れやしびれを強く訴え、また舌運動低下に伴う口腔期障害による嚥下機能低下はみられるが、普通食を摂取可能である。

### 【症例 2：48 歳女性】

【背景】 Y-22 年 4 月、左舌縁部癌に対して B 病院にて組織内照射（70Gy）、同年 9 月左頸部リンパ節再発に対し C 病院にて左根治的頸部郭清術変法と術後照射（46Gy）を施行され、以降再発なく経過していた。

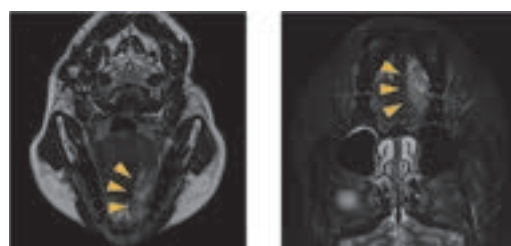
【現病歴】 Y 年 10 月、左舌縁部に硬結、びらんを認め、生検にて扁平上皮癌と診断された。

【既往歴】 稽留流産

【嗜好歴】 飲酒：なし 喫煙：never smoker

【身体所見】 左舌縁部に 3cm 大の一部潰瘍を伴う腫瘍あり。

【検査所見】 単純 MRI にて左舌縁部に前後径 27mm の T2WI 高信号、T1WI では筋肉と等信号の腫瘍を認める。冠状断での深達度は 15mm であり cT3 と診断した。オトガイ舌筋や舌骨舌筋には接しているが、浸潤はないと判断した。また術前 FDG-PET/CT にて、両側上頸部に淡い FDG 集積を認めるリンパ節を認めたが、転移の可能性は低いと判断した。



【治療】 左舌縁部癌（cT3N0M0：TNM 分類第 8 版）として手術加療を行った。術側に吻合に適した血管がなかったため、左可動部舌半切/口腔底部分切除（経口腔的に舌骨舌筋まで）、頸部リンパ節生検（すべて陰性）、PGA シートとフィブリン糊による被覆術を施行した。

【経過】 現在術後半年経過するも無再発生存中。舌尖部の軽度しびれあるも、普通食を摂取可能である。

### 【考察】

頭頸部癌組織内照射後の予後因子には、大因子とし

て後発頸部リンパ節転移、上部消化管や気道の重複癌、小因子として放射線誘発癌が挙げられている<sup>3)</sup>。しかし、頭頸部扁平上皮癌に関しては放射線誘発癌、局所再発、重複癌の間に病理組織学的な違いがなく、それらを区別することは極めて難しい。照射野内の癌の再発は治療後5～6年でほぼなくなることもあり、局所治癒8年以上の無再発領域に発生する腫瘍病変は放射線誘発癌と考えてよいとの見方もある<sup>4)</sup>。同報告によると、頭頸部扁平上皮癌に対して放射線治療後8年間の照射野における二次癌の粗発生率は1.8%で、照射からの経過が長くなるほど放射線誘発癌の可能性が高いとされている。この2例は一次癌に施行した放射線治療の照射範囲内に20年以上経過し、二次癌の発生を認めたことや、一次癌と今回の二次癌までの間に上部消化管の他部位に癌の発生を見ないことから、晚期再発や領域癌化より、放射線誘発癌と考える方が妥当と考えた。

放射線誘発癌に対する治療は手術が基本となる。再照射を選択した場合、たとえ照射間隔が空いていたとしても、直後より放射線潰瘍や壊死が発生する<sup>4)</sup>。今回の症例2では、組織内照射の後に頸部郭清、さらには術後照射も加わっており、再建の方針決定に難渋した。画像上患側に吻合に適した血管が見当たらなかったため、遊離皮弁による再建は断念し、PGAシートとフィブリン糊による二次治癒を期待したが、幸いなことに創部は問題なく上皮化した。

早期舌癌に対する組織内照射の局所制御率は外科的治療と遜色ないと報告されている<sup>5)</sup>が、本症例のようにその照射野に誘発癌が発生する可能性も考え、長い経験観察が必要と思われる。

#### 【結語】

- ・舌癌に対して組織内照射後、20年以上経過して発症した放射線誘発癌と考えられる2例を経験した。
- ・頭頸部癌に対して組織内照射を含めた放射線治療を行った後、長い年月を経て放射線誘発癌を発症することがあるため、長期の経過観察が必要である。
- ・放射線誘発癌の治療は手術が基本となる。

#### 【文献】

- 1) 堀内淳一：口腔領域癌に対する小線源治療の足跡と展望 日放腫会誌 8 (1)：9-20, 1996
- 2) 日本口腔腫瘍学会，日本口腔外科学会 編：口腔癌診療ガイドライン 2019年版：102-3, 2019
- 3) 渋谷 均：頭頸部癌の低線量率小線源治療 日放腫

会誌 21 (2)：59-62, 2009

4) Amemiya K, Shibuya H, Yoshimura R, et al : The risk of radiation-induced cancer in patients with squamous cell carcinoma of the head and neck and its results of treatment. The British Journal of Radiology 78 (935)：1028-1033, 2005

5) 中島寅彦，中村和正，白土秀樹他：早期舌癌に対する手術療法の治療成績 - 放射線治療との比較 - 日耳鼻 113 (5)：456-462, 2010

#### VI. 9 当院における口蓋小唾液腺腫瘍の検討

中央市民病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 池永直

小唾液腺腫瘍は、全頭頸部腫瘍の約0.5～1%を占める比較的頻度の少ない腫瘍で、その頻度の少なさから、小唾液腺腫瘍に対する臨床的検討も多くはない。小唾液腺は口蓋、口唇、頬粘膜、臼後部、口腔底、舌に分布するが、特に口蓋には小唾液腺が多数存在し、小唾液腺腫瘍の好発部位として知られている。

小唾液腺由来の腫瘍は耳下腺などの大唾液腺と比して悪性腫瘍の頻度が高いと報告されており、その比率は報告により33～84%とまちまちである。小唾液腺に発生する良性腫瘍は多形腺腫が最も多く85%を占め、悪性腫瘍は粘表皮癌が最多で腺様嚢胞癌がそのあとに続く。腫瘍の発生頻度が高い口蓋などでは良悪性腫瘍の比率が同程度であるのに対し、発生頻度の低い臼後部などでは悪性の比率が高いとされる。悪性腫瘍の比率が高く、治療に際しては可能であれば術前の良悪性の判定をつけることが重要である。唾液腺腫瘍の術前の組織診断としては、穿刺吸引細胞診(FNAC)が頻用されるが、甲状腺腫瘍などと比較して、その感度は60%～73%程度とそれほど高くはないことが問題である。頻度の高い多形腺腫と、小唾液腺悪性腫瘍は部分的に共通した組織像を呈することがあり、FNAC、生検や迅速病理で鑑別に難渋することがあるため、臨床所見、画像所見を含めて総合的に判断を行う必要がある。

今回、当研究を通じて、臨床的検討の報告の多くはない小唾液腺腫瘍について、過去13年間の検討を行い、年齢、性別、主訴などは良悪性間で有意な差を認めなかったが、悪性腫瘍は全体の50%であり臼後部に生じた1例は低悪性粘表皮癌の診断であり過去の報告と矛盾しない結果であることが確認された。MRI-DWIにおけるADC値やMRI検査での腫瘍の辺縁性状が良悪性を判定する一つの特徴となり得ることが示唆された。



## VI. 10 頬粘膜癌の臨床的検討—多施設後方視研究の口腔癌データベースから—

中央市民病院 頭頸部外科 篠原尚吾

### 【業績の報告学会・論文】

第45回日本頭頸部癌学会・2021年6月17日～18日・舞浜

### 【業績の論文】

○ Shinohara S, Kikuchi M, Harada H, Hamaguchi K, Asato R, Tamaki H, Mizuta M, Hori R, Kojima T, Honda K, Tsujimura T, Kumabe Y, Ichimaru K, Kitani Y, Ushio K, Kitamura M, and Omori K: Clinicopathological characteristics and survival outcomes of patients with buccal squamous cell carcinoma: Results of a multi-institutional study *Medicina* 2021, 57, 1361. <https://doi.org/10.3390/medicina57121361>

### 【著者・演者】

○篠原尚吾 1)、原田博之 2)、菊地正弘 3)、玉木久信 4)、濱口清海 1)、安里 亮 5)、堀 龍介 6)、本多啓吾 7)、辻村隆司 8)、隈部洋平 9)、市丸和之 10)、木谷芳晴 11)、牛呂幸司 12)、大森孝一 3)

- 1) 神戸市立医療センター中央市民病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科
- 2) 北野病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科
- 3) 京都大学大学院医学研究科 耳鼻咽喉科・頭頸部外科
- 4) 倉敷中央病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科
- 5) 国立病院機構京都医療センター 頭頸部外科
- 6) 天理よろづ相談所病院 耳鼻咽喉科
- 7) 日本赤十字社和歌山医療センター 耳鼻咽喉科
- 8) 日本赤十字社大津赤十字病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科
- 9) 兵庫県立尼崎総合医療センター 耳鼻咽喉科・頭頸部外科
- 10) 小倉記念病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科

### 【はじめに】

頬粘膜癌は頬粘膜上皮から発生する扁平上皮癌がほとんどであり、UICCの分類では口腔癌の亜部位の一つに分類されている。その発生頻度はその国の生活習慣によって多様であり、喫みたばこの習慣があるインドや東南アジアでは口腔癌の中でも頻度が高いとされている。ビンロウ (betel quid) を習慣とする台湾では口腔癌の37%を占めると言われているが、北米や欧州では10%程度と少ない。

本邦ではその発生頻度の少なさからか、まとまった症例数での報告は多くはない。渉猟しえた範囲で、本邦におけるもっとも症例数の多い報告は、2020年度静岡県立がんセンター単施設からの報告で66例であった。

我々は京都大学とその関連病院にて頭頸部癌の研究ワーキンググループ (Kyoto-HNG) を発足し、2020年に12施設 (本院、京都大学、静岡県立静岡総合病院、北野病院、京都医療センター、倉敷中央病院、天理よろづ相談所病院、和歌山日赤、大津日赤、県立尼崎総合医療センター、小倉記念病院、滋賀県立総合医療センター) での臨床データを持ち寄り、1000例以上の症例数を持つ口腔癌のデータベースを作成し、その中からいくつかの新知見を学会や論文報告してきた (原田ら: 日本頭頸部癌学会2020, Kikuchiら: *Medicina* 2020)。今回はそのデータベースから頬粘膜癌症例を抽出し、その疫学や臨床的な特徴について調査した。

### 【目的】

本邦における頬粘膜癌の口腔がん全体に対する発生頻度、疫学 (男女差、年齢分布、喫煙・飲酒との関連)、臨床ステージ (cTNM分類)、治療法、予後および予後に影響を与える因子について調査し、頬粘膜癌の臨床像の理解を深めること

### 【方法】

京都大学とその関連病院を加盟施設とする頭頸部癌の研究ワーキンググループ (Kyoto-HNG) の中から、研究の同意を得られた12施設 (京都大学、当院、静岡県立静岡総合病院、北野病院、京都医療センター、倉敷中央病院、天理よろづ相談所病院、和歌山日赤、大津日赤、県立尼崎総合医療センター、小倉記念病院、滋賀県立総合医療センター) にて2010年から2017年の7年間に加療した口腔癌症例1055例のデータを集積し、個人への識別を不能としたデータベースを作成した。各施設にそのデータの二次利用の許諾を得て、今回頬粘膜癌症例92例 (8.7%) を抽出し、疫学、臨床ステージ、治療法、予後および予後に影響を与える因子について調査した。

### 【結果】

疫学的には男女比 (59:33)、習慣的飲酒者の割合 (40%)、喫煙者の割合 (36%) は頬粘膜癌以外の口腔癌と有意差はなかったが、年齢分布は中央値73歳 (ほかの口腔癌69歳) と有意に高齢者が多かった。臨床ステージは、他の口腔癌と比較して有意に局所進行率、リンパ節転移率は低い結果であった。予後は3年全生存率は72%であり、

多変量解析の結果、局所進行（T3-4）が独立して有意に生命予後に影響を与える因子となった。

#### 【結語】

今回の報告は渉猟しえた範囲では本邦で最多の頬粘膜癌症例を集積した臨床研究であり、本邦における頬粘膜癌の疫学、臨床像、生命予後やそれに影響を与える因子について得られた知見は、今後の本邦におけるスタンダードなデータとなると考える。

#### 【追記】

本報告の内容を英文論文として上梓した。

## VI. 11 Clinical outcomes of scalp angiosarcoma treated with intensity-modulated radiotherapy

中央市民病院 放射線治療科 岩井貴寛

Takahiro Iwai<sup>1</sup>, Shun Okabayashi<sup>1</sup>, Ryo Ahida<sup>1</sup>, Takamasa Mitsuyoshi<sup>1</sup>, Toshiyuki Imagumbai<sup>1</sup>, Masaki Kokubo<sup>1</sup>

<sup>1</sup> Department of Radiation Oncology, Kobe City Medical Center General Hospital, Hyogo, Japan

### Purpose/Objective

Scalp angiosarcoma is rare cutaneous malignancy, which prognosis is very poor. Combined therapy including whole scalp radiotherapy (RT) is the treatment for scalp angiosarcoma and intensity-modulated radiotherapy (IMRT) is considered to have benefit for target coverage, however the clinical data is limited. We reviewed the patients with scalp angiosarcoma treated with IMRT in our institution.

### Material/methods

Between November 2017 and December 2019, patients with scalp angiosarcoma without distant metastasis treated with IMRT in our hospital were evaluated. Both definitive RT and postoperative RT were included. Information regarding patient status, tumor characteristics, treatment characteristics and outcomes were obtained from the clinical records. Overall survival (OS) and progression-free survival (PFS) were calculated by the Kaplan-Meier method from the start date of surgery or definitive RT. Toxicity was evaluat-

ed by CTCAE version 4.0.

### Results

Five patients were included in this study (Table 1). One patient had tumor invasion to salivary gland and regional lymph node metastasis at diagnosis. Definitive RT was performed for 2 patients and postoperative RT was performed for 3 patients. Surgical excision was performed with 1-3.5 cm margin. For RT, volumetric modulated arc therapy (VMAT) with 4 MV or 6 MV photon was used for all patients. The clinical target volume (CTV) was whole scalp for 4 patients, temporal scalp plus salivary gland for 1 patient, and both included 3-5 cm margin from tumor or surgical edge. The planning target volume (PTV) was CTV with a margin of 5 mm in all directions. All patients were treated with concurrent chemoradiotherapy with weekly paclitaxel (PTX) and 3 patients were treated with maintenance weekly PTX after RT. The median follow-up time was 25.6 months and 4 patients were alive with no evidence of disease. The one-year OS and PFS rates were both 80%. One patient exhibited recurrences in regional lymph node and salivary gland at 5.4 months after surgery. This patient exhibited also lung metastasis after first recurrences, which was cause of death, the recurrence from scalp was not observed. For acute and late toxicity, grade 3 dermatitis and grade 3 skin ulceration were observed for 2 patients, respectively. Any other grade 3 or higher acute and late toxicities were not observed.

### Conclusion

The outcome of the scalp angiosarcoma patients treated with IMRT in our institution was favorable with acceptable toxicity.

**Table 1**

Patient characteristics and outcomes for patients

Case	Age	Sex	PS	Tumor diameter (cm)	Site	Number of tumor	Tumor of ulcer	LN meta	Surgery	Surgical margin	Maint PTX	Dose/fractions	CTV	Status at last follow-up
1	66	M	0	4.5	Frontal	Multiple	+	-	+	+	+	70 Gy/35 fr	WS	DOD 8.7m
2	69	F	0	9.5	Parietal	Solitary	-	-	-	N/A	+	70 Gy/35 fr	WS	ANED 39.7m
3	74	M	0	1.7	Parietal	Solitary	-	-	+	-	+	70 Gy/35 fr	WS	ANED 25.6m
4	76	F	0	1.8	Parietal	Multiple	-	-	+	+	-	70 Gy/35 fr	WS	ANED 16.8m
5	81	F	1	10.1	Temporal SG	Solitary	+	+	-	N/A	-	60 Gy/20 fr	TS + SG	ANED 40.7m

Abbreviations: M – male, F – female, PS – performance status, SG – salivary gland, LN meta – lymph node metastasis,

N/A – not applicable, Maint PTX – maintenance paclitaxel, CTV – clinical target volume, WS – whole scalp, TS – temporal scalp,

DOD – dead of disease, ANED – alive with no evidence of disease

# Clinical outcomes of scalp angiosarcoma treated with intensity-modulated radiotherapy

Takahiro Iwaj (E-mail: takaiwai@kuhp.kyoto-u.ac.jp)<sup>1</sup>, Shun Okabayashi<sup>1</sup>, Ryo Ahida<sup>2</sup>,

Takamasa Mitsuyoshi<sup>1</sup>, Toshiyuki Imagumbai<sup>1</sup>, Masaki Kokubo<sup>1</sup>

<sup>1</sup> Department of Radiation Oncology, Kobe City Medical Center General Hospital, Hyogo, Japan



## Introduction and objectives

Scalp angiosarcoma is rare cutaneous malignancy, which prognosis is very poor. Combined therapy including whole scalp radiotherapy (RT) is the standard treatment for scalp angiosarcoma and intensity-modulated radiotherapy (IMRT) is considered to have benefit for target coverage rather than electron beam radiotherapy, however the clinical data is limited.

**We reviewed the patients with scalp angiosarcoma treated with IMRT in our institution.**

## Methods

Between November 2017 and December 2019, patients with scalp angiosarcoma without distant metastasis treated with IMRT in our hospital were evaluated. Both definitive RT and postoperative RT were included. Information regarding patient status, tumor characteristics, treatment characteristics and outcomes were obtained from the clinical records. Overall survival (OS) and progression-free survival (PFS) were calculated by the Kaplan-Meier method from the start date of surgery or definitive RT. Toxicity was evaluated by CTCAE version 4.0.

## Results

Five patients were included in this study (Table 1). One patient had tumor invasion to salivary gland and regional lymph node metastasis at diagnosis. Definitive RT was performed for 2 patients and postoperative RT was performed for 3 patients. Surgical excision was performed with 1 -3.5 cm margin. For RT, volumetric modulated arc therapy (VMAT) with 4 MV or 6 MV photon was used for all patients. The clinical target volume (CTV) was whole scalp for 4 patients, temporal scalp plus salivary gland for 1 patient, and both included 3 -5 cm margin from tumor or surgical edge. The planning target volume (PTV) was CTV with a margin of 5 mm in all directions. All patients were treated with concurrent chemoradiotherapy with weekly paclitaxel (PTX) and 3 patients were treated with maintenance weekly PTX after RT. The median follow-up time was 25.6 months and 4 patients were alive with no evidence of disease. The one-year OS and PFS rates were both 80%. One patient exhibited recurrences in regional lymph node and salivary gland at 5.4 months after surgery. This patient exhibited also lung metastasis after first recurrences, which was cause of death, the recurrence from scalp was not observed. For acute and late toxicity, grade 3 dermatitis and grade 3 skin ulceration were observed for 2 patients, respectively. Any other grade 3 or higher acute and late toxicities were not observed (Table 2).

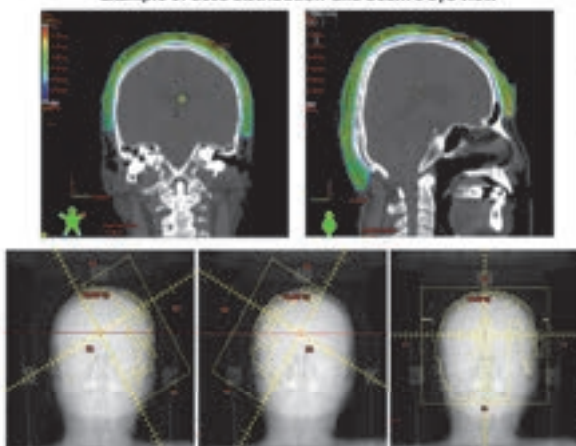
**Table 1. Patient Characteristics and outcomes for patients (Totally 5 patients)**

Case	Age	Sex	PS	Tumor diameter (cm)	Site	Number of tumor	Tumor of ulcer	LN meta	Surgery	Surgical margin	Concurrent PTX	Maintenance PTX	Energy of X-ray	Dose/ fractions	CTV	Status at last follow-up	Type of recurrence
1	66	M	0	4.0	Frontal	Multiple	+	-	+	+	+	-	6MV	70 Gy/35 fr	WS	DOD	SG + Neck lymph node
2	69	F	0	9.5	Parietal	Solitary	-	-	-	N/A	+	+	6MV	70 Gy/35 fr	WS	ANED	-
3	74	M	0	1.7	Parietal	Solitary	-	-	+	-	+	+	6MV	70 Gy/35 fr	WS	ANED	-
4	76	F	0	1.8	Parietal	Multiple	-	-	+	+	-	-	6MV	70 Gy/35 fr	WS	ANED	-
5	81	F	1	10.1	Temporal (SG)	Solitary	+	+	-	N/A	+	-	6MV	60 Gy/30 fr	TS + SG	ANED	-

Abbreviations: M - male, F - female, PS - performance status, SG - salivary gland, LN meta - lymph node metastasis, N/A - not applicable.

PTX - paclitaxel, CTV - clinical target volume, WS - whole scalp, TS - temporal scalp, DOD - dead of disease, ANED - alive with no evidence of disease

### Example of dose distribution and beam's eye view



**Table 2. Acute and late toxicities**

Acute hematologic toxicity	No.	Acute non-hematologic toxicity	No.	Late non-hematologic toxicity	No.
Anemia G2	1	Dermatitis radiation G2	3	Skin ulceration G2	2
Leukopenia G2	2	Dermatitis radiation G3	2	Skin ulceration G3	1
Neutropenia G2	1	Alpecia G2	4	Alpecia G2	5

## Discussions and conclusion

**Table 3. Previous reports on RT(electron) for scalp and face angiosarcoma**

Study	No.	No. of RT	RT Dose	Treatment	Survival	PFS	Local recurrence rate	Distant metastasis rate
Guadagnolo <sup>1</sup> 2011	70	30 (72%)	median 60Gy	S, RT, S+RT	41.6 m (MST)	35%	53%	36%
Ogawa <sup>2</sup> 2012	48	42 (87.5%)	median 60Gy	single or combined	33.4 m (MST)	18.75%	43.8%	17.1% (lung)
Miki <sup>3</sup> 2013	17	11 (100%)	70Gy	RT+Cb	26.0 m (MST)	N/A	47.10%	52.9%
Patel <sup>4</sup> 2015	55	32 (67.3%)	median 60Gy	single or combined	25.2 m (MST)	16%	N/A	N/A
Suzuki <sup>5</sup> 2016	14	14 (100%)	70Gy	combined	31 m (MST)	71%	50%	53.8%
Yang <sup>6</sup> 2016	42	13 (31.0%)	median 45Gy	single or combined	19% (5-y OS)	10%	N/A	N/A
<b>This study</b>	<b>5</b>	<b>4 (100%)</b>	<b>median 70Gy</b>	<b>RT+Cb</b>	<b>30 (MST)</b>	<b>80%</b>	<b>20%</b>	<b>20%</b>

Abbreviations: No - number, RT - radiotherapy, PFS - progression free survival, m - month, y - year, MST - median survival time, S - surgery, C - chemotherapy, OS - overall survival, N/A - not available

Although the number of patients were limited, the outcome of the scalp angiosarcoma patients treated with IMRT was not considered inferior to previous reports with electron beam radiotherapy. To evaluate the efficacy of IMRT for scalp angiosarcoma more accurately, the larger sample size is needed.

In conclusion, the results of the scalp angiosarcoma patients treated with IMRT in our institution was favorable with acceptable toxicity.

## References / Bibliography

<sup>1</sup> Guadagnolo et al, Head and Neck (2011), 33(5): 661-667

<sup>2</sup> Ogawa et al, British Journal of Radiology (2012), 85(1019): 1127-1133

<sup>3</sup> Miki et al, British Journal of Radiology (2013), 86(1030): 1-5

<sup>4</sup> Patel et al, JAMA Otolaryngology - Head and Neck Surgery(2015), 141(4): 335-340

<sup>5</sup> Suzuki et al, In Vivo (2016), 30(6): 923-926

<sup>6</sup> Yang et al, Oncology Letters (2016), 18(5): 5091-5096

\*Conflict of interest: We have no financial relationships to disclose.

## VI. 12 新型コロナウイルス感染症に対するがん患者の不安と対処について

梅田節子<sup>1) 2)</sup> 西本哲郎<sup>1) 4)</sup> 弦牧知佳<sup>1) 2)</sup>  
中岡ミチル<sup>2)</sup> 岩田奈美<sup>2)</sup> 競晴香<sup>1) 2)</sup>  
今道富美子<sup>2)</sup> 大音三枝子<sup>1) 3)</sup> 小久保雅樹<sup>1) 5)</sup>  
中央市民病院  
緩和ケアセンター<sup>1)</sup> 看護部<sup>2)</sup> 薬剤部<sup>3)</sup>  
緩和ケア内科<sup>4)</sup> 放射線治療科<sup>5)</sup>

### 【はじめに】

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は、60歳以上で基礎疾患（心臓病、糖尿病、肺疾患、がん、透析患者など）を持つ、免疫障害のある患者に重症化しやすいと報告されており、とりわけ、がん患者は抗がん治療（化学療法、免疫療法、放射線治療など）を受けているため感染した場合に重症化しやすい。2020年2月28日に発表された”Report of the WHO-China Joint Mission on Coronavirus Disease 2019 (COVID-19)”<sup>1)</sup>では、がんを併存疾患とし検査室で感染が確認された患者の症例死亡率は7.6%と報告している。これは全体3.8%、併存疾患なし1.4%と比較して高く、心血管疾患13.2%、糖尿病9.2%、高血圧8.4%、慢性呼吸器疾患8.0%に匹敵する。死亡率同様、人工呼吸器使用や集中治療室利用などのCOVID-19の増悪イベントは、非がん患者と比べ、がんサバイバー、がん患者の何れでも高い。COVID-19に感染した場合、全身管理を必要とし、場合によってはがん治療を一時的に中止する事態が起こる可能性があるため、がん患者は重症化リスクの高いグループであるとして、本邦では日本癌治療学会、日本癌学会、日本臨床腫瘍学会が3学会合同でがん患者へのCOVID-19ワクチンの優先接種を推奨している<sup>2)</sup>。またワクチン接種の推奨以外にも患者・家族の感染予防の啓蒙や、院内の感染予防のための環境整備、診療体制の見直しなどが求められてきた。当院は、感染症指定病院であるとともに、がん診療連携拠点病院として、がん医療を担っている基幹病院である。COVID-19の感染拡大の緊急事態宣言中においては、外来診療の制限や、侵襲的な検査や手術の差し控え、救急対応の制限などを行ってきた。これまでの通常の医療体制を継続することが難しい中で、通院治療しているがん患者の不安と対処を明らかにすることは、がん医療・看護の質を維持し、患者により適切な対応やケア、教育支援の示唆を得るものと考えられる。

### 【研究目的】

当院に通院治療しているがん患者が、COVID-19の感染拡大の状況で、どのような不安を体験し、対処をしてきたかを明らかにし、支援方法を検討することである。

### 【研究方法】

1. 研究デザイン  
質問紙調査。

2. 研究対象者

2020年3月30日～31日に当院に通院し化学療法、放射線治療を受けた、精神的に安定し、かつ主治医に許可を得て同意を得た成人のがん患者120名。

3. データ収集方法

研究対象候補者は、2020年3月30日～31日に通院し化学療法、放射線治療を受けた成人のがん患者のうち、精神的に安定しており、質問紙に答えてもらうことを主治医に許可を得た患者とした。感染を想起し不安定になる等心理的に脅威になる可能性があり、主治医が許可しない患者は除外した。対象候補者には、研究者が研究の趣旨と内容を文章を用いて口頭で説明した。調査期間に通院予定がない人には、研究者が電話で研究の趣旨と内容を口頭で説明し、同意が得られた対象者には、説明文書と同意書、質問紙を郵送した。回答後質問紙は、無記名で所定の場所に提出するか、後日郵送で返送を得た。

4. 調査期間

2020年8月～12月

5. 調査内容

- 1) 基本属性（年齢、性別）
- 2) がんの罹患部位、治療内容、闘病期間
- 3) 感染症状の有無と対処について
- 4) 2020年4月以降の治療の状況（継続、中止、延期）
- 5) 新型コロナウイルス感染症について不安や気がかりの有無とその内容
- 6) 感染予防の方法と対処
- 7) 感染予防の情報の収集方法、役立った内容
- 8) 医療者に希望する支援内容
- 9) その他気になることについて

## 6. 調査分析方法

質問紙の回答から、属性、疾患部位、治療内容などについて、項目毎に集計し、自由記述は内容を分析した。

## 7. 倫理的配慮

本研究は、院内研究倫理審査委員会の承認を得て行った。研究対象候補者に対し、研究者が研究の趣旨と内容を、説明文書を用いて口頭で説明し、文書で同意を得た。研究説明の際には、希望に応じて個室を準備するなど、プライバシーに配慮した。研究によって得たデータは本研究以外に使用しないこと、被験者から取得した情報から、氏名等の個人が特定できる情報を削除し匿名化した。研究データは紙媒体のまま、あるいはパスワード管理をした専用のUSBに保管し、鍵のかかる場所に保管した。

## 【結果】

### 1. 研究対象者の概要

対象候補者 133 名のうち 120 名の回答を得、有効回答率は 90.2% だった。対象者の内訳は、男性 64 名女性 56 名で、平均年齢は 60.9 歳（範囲 22-92 歳）であった（図 1.2 参照）。治療の内容は、抗癌剤治療 90 名、放射線治療 21 名、抗がん剤+放射線治療 7 名、緩和ケア 11 名であった（複数回答）（図 3 参照）。がんの罹患部位は、呼吸器 10 名、消化器 35 名、泌尿器 18 名、婦人科領域 18 名、頭頸部 15 名、乳腺 14 名、皮膚 4 名、血液 8 名であった（複数回答）（図 4 参照）。がんの診断を受けてからの闘病期間は平均 2 年 1 か月（範囲 1 か月～ 15 年 8 か月）であった。

### 2. 感染症状と治療状況

対象者が 2020 年 4 月以降に自覚していた感染症状は、37.5℃ 未満の発熱が 9 名（8%）、37.5℃ 以上の発熱が 14 名（12%）、咳 9 名（8%）、のどの痛み 6 名（5%）で、その他抗がん剤の副作用による発熱や頭痛、嘔吐、口腔内の痛み 5 名（4%）であり、90 名（75%）は何も症状がなかった（図 5 参照）。感染症状があった際にとった対処は、定期受診を待って受診したが 12 名（40%）、手持ちに持っている解熱剤や制吐剤などを使用して対処した 9 名（30%）、そのまま自宅で療養した 9 名（30%）、病院に電話で相談した 7 名（23%）、病院に予約外で受診した 7 名（23%）、かかりつけのクリニックに相談・受診した 5 名（17%）、誰に相談したらよいかわからず不安に思った 2 名（7%）、保健

所に相談した 1 名（3%）、その他「救急車を要請した」など 7 名であった（図 6 参照）。

2020 年 4 月以降の治療の状況については、がん治療を継続した患者は 107 名（89%）、治療を延期した 5 名（4%）、中止した 3 名（2%）、その他 5 名（4%）であった（図 7 参照）。

### 3. 新型コロナウイルス感染症の不安とその理由について

不安が大変あったと答えたのは 34 名（29%）、あった 65 名（55%）、あまりなかった 15 名（13%）、全くなかった 4 名（3%）であった（図 8 参照）。不安が大変あった、あったと答えた人（99 名）の不安の理由は、感染したら重症になる可能性がある 72 名（72%）、院内で感染する 58 名（59%）、通院の際に感染する 51 名（52%）、治療が継続できるかどうか 49 名（49%）、家族が大変心配したため 36 名（36%）、だれに相談したらいいかわからない 15 名（15%）の順に多かった。その他の意見では、「感染したら迷惑をかける」「病院を閉めるのかと不安」「まだ死にたくないと思った」などがあった（図 9 参照）。

### 4. 感染予防の方法と対処、情報の取捨方法、役立った内容

感染予防で気を付けていたことは、手洗い 113 名（94%）、マスクをつける 112 名（93%）、人ごみを避ける 93 名（78%）、外出を控える 85 名（71%）、うがい 77 名（64%）、人との距離を保つ 67 名（56%）、体温を測る 62 名（52%）、よく眠る 42 名（35%）、栄養を摂る 32 名（27%）、その他 11 名（9%）であった（図 10 参照）。

新型コロナウイルスの感染予防の情報はどこから得ていたかの質問には、TV や新聞、インターネットからと答えた人が 117 名（98%）とほとんどを占め、厚生労働省のホームページ、県や市の広報誌などからは 17 名（14%）、医療関係者からの説明を受けた人は、13 名（11%）であった。その他家族や知人から受けた人が 2 名（2%）いた（図 11 参照）。

感染予防で具体的に役立ち、安心できたと答えた情報は、「手洗いや密にならないなど感染予防行動」が 25 件と最も多く、「医師や看護師からの説明や情報」が 10 件、「市の感染状況や全国的な動向対策」が 9 件、「COVID-19 の知識（しくみ、歴史、ワクチン等）」6 件、「病院内の感染対策や説明（新聞報道含む）」3 件であった（表 1 参照）。医師や看護師からの説明や情

報と答えた人は、「病院に来て医療者と話をすることで安心できた」、「助言で気持ちが楽になった」、「新型コロナウイルスの流行中、病院のスタッフが普段通り勤務されている姿があり、ありがたく安心できた」と答えた。COVID-19の知識では、「がん治療で免疫が下がり重症化するかどうか気になっていた」と答えていた。関連する学会のホームページで不安が解消されたと答えた人は、「有名人が治療中に感染し亡くなったことから不安であったが、説明が役立った」と答えていた。また病院内の感染対策や説明の中には、「病院内での院内感染があったことに対して、新聞に病院長の説明があり安心した」と答えていた。

#### 5. 医療者に希望する支援、その他気になること

医療者に希望する支援は、病院内の感染対策が最も多く、「病院の入り口の検温やアルコール消毒の設置などの院内の取り組み」や、「感染した時の対処やアドバイス」、「治療が受けられること」であった。さらに「感染予防の情報提供」、「病院の感染状況、取り組みの公表」、「医療スタッフや他患者の感染対策の徹底」を求めている。他患者の感染予防の行動に対しては、医療者から注意してほしいという要望もあった。検査対応については、「症状があった際のPCR検査と治療」や「抗がん剤治療中は定期的にPCR検査をしてほしい」「免疫力が下がっていないか血液検査をしてほしい」があった。その他相談対応では、「体調に不安を感じた時の相談対応の支援」で、特に休日や夜間の対応を求めている。「孤独にならないよう相談場所が欲しい」、「入院時に面会できるようにしてほしい」という希望もあった。又、治療継続に関する要望もあり、「緊急時の対応」や「がん治療が中断にならないことを切望する」という意見があった。「免疫力が下がる時、風邪や感染症の関係について支援してほしい」という内容もあり、対象者が風邪とCOVID-19の区別に悩むことがわかった(表2参照)。

その他気になることや意見として、「感染するとがん治療が出来なくなる。助からないと思っている」「抵抗力が落ちる抗がん剤治療をやめたいが、治療しないとがんが大きくなる葛藤がある」と、COVID-19とがん治療の両方が及ぼす影響の葛藤があった。医療者への思いも多く、病院内の医療スタッフの姿や行動、取り組みについて注目し、「コロナ流行中でも医療スタッフが普段通りに対応し、治療ができたことに感謝している」という意見があった。病院の対応として、「感染対策など病院のやっていることは安心だった」とい

う意見がある一方、「トイレが汚かったことが気になった」「抗がん剤治療の際は、体に触れるものも多く、スタッフとの距離が近いので不安に感じた」と答えていた。その他、「予防行動をしっかりとすれば感染する可能性はとても低い」「自分ができる基本的なことをきっちりやっていきたい」など、感染に対する考えや思いが様々にあった(表3参照)。

#### 【考察】

2020年1月14日にWHOが新型コロナウイルスを確認したと発表し、その2日後には日本国内で初めての感染者が確認された。2月3日に横浜港に寄港したクルーズ船「ダイヤモンドプリンセス号」の集団感染、ライブハウスやスポーツジムなどのクラスター発生がおこり、3月からは新規感染者の急増を経て、2020年4月7日には、7都府県に緊急事態宣言が発令されるに至った<sup>3)</sup>。今回2020年3月30日～31日にがん治療を受けていた対象者はCOVID-19に関する詳細が解明されておらず、感染状況が刻々と変化する中でがん治療を続けることに感染の危険と治療の継続ができるかどうかの不安を抱えていた。がん患者のCOVID-19感染の頻度は様々な報告があるが1%～4%程度で、一般市民全体の感染数よりやや高いくらいの数字であり、がん患者が特別感染しやすいわけではないと言われている<sup>4)</sup>。しかしがん患者がCOVID-19に感染した場合の死亡率は、7.6%～25.6%<sup>1)5)</sup>であり、かなり高率であると報告されている。本調査でも、対象者の多くは感染したら重症になると感じ、TVや新聞、医療者から情報を得て感染予防行動をとっていた。不安の背景には、対象者が受けているがん治療が免疫力の低下を招き、常に感染の危険を伴っていると思っているからであった。治療により発熱や咳の症状が伴うため、COVID-19の感染との判別がつくかどうか心配し、相談窓口を求めていると考える。実際に今回の結果でも発熱や咳、のどの痛みや抗がん剤の副作用が全体の25%にあり、病院やクリニックに相談・受診し、少数であるが誰に相談したらよいかわからず不安だったと答えた人もいた。さらに、有名人ががん治療中に感染し亡くなったニュースがあったことも不安に感じたと答えており、感染することを身近に感じ不安が高まったと考える。「感染するとがん治療が出来なくなる。助からないと思っている」「抵抗力が落ちる抗がん剤治療をやめたいが、治療しないとがんが大きくなる葛藤がある」と答えていることから、がん治療の継続はがん患者にとって命綱

であり、同時に COVID-19 の感染を招くかもしれないという板挟みのような葛藤を抱えていた。勝俣は、COVID-19 禍であってもがん治療は緊急を要する場合、延期すると命にかかわってくる場合があるので、むやみにがんの治療を中止したり延期するべきではないと指摘している<sup>4)</sup>。本調査では、対象者は、感染とがん治療についての葛藤に対し自ら気をつける感染予防行動を模索し、セルフケア行動に結びついていたと考える。

新型コロナウイルスの感染予防の情報は TV や新聞、インターネットから得たと答えたものがほとんどを占め、医療関係者から受けたものは 1 割程度であった。マスコミからの情報に偏ったのは、世界同時に拡大した未知のウイルスで詳細が明らかでなかったことも要因であるが、情報の正確さへの疑問や市民の不安を高める危険がはらんでいたと考える。一方、感染予防で具体的に役立ち、安心できた情報では医師や看護師からの説明や情報が 2 番目に多く、医療者との会話で安心できた、助言で気持ちが楽になったと答えている。医療者に希望する支援でも緊急時の対応や相談対応を求めており、孤独に感じていることがわかった。がん治療を受ける対象者にとって、正確な情報を提供し、不安に対して丁寧に応え、症状に対応することはとても重要である。安心して治療を継続するために相談支援体制の充実が必要と考える。

2020 年 4 月以降の治療の状況では 89% の対象者ががん治療を継続できていた。このことは、コロナ流行中でも医療スタッフが普段通りに対応し、治療ができたことに感謝しているという意見が多かったことに結びついている。対象者は院内の感染状況や対策、医療スタッフの対応にも注視していた。コロナ禍においては、不安に対して丁寧な対応とケアをしていくこと、病院としての方針や対応をわかりやすく提示し、相談窓口の充実を図ることが、がん患者と医療スタッフがパートナーシップを組んでがん治療を継続する上で重要である。

### 【まとめ】

対象者のほとんど (84%) が COVID-19 について不安があり、その内容は「感染したら重症になる」「院内で感染する」「通院の際に感染する」「治療が継続できるかどうか心配」と答えた。TV や新聞、医療者から情報を得て感染予防行動をとっており、緊急時の対応や相談対応を求めていた。2020 年 4 月以降の治療の状況では、89% の対象者ががん治療を継続できており、COVID-19 流行中でも医療スタッフが普段通り

に対応し、治療ができたことに感謝していた。コロナ禍においては、不安に対して丁寧な対応とケアをし、病院としての方針や対応をわかりやすく提示し、相談窓口の充実を図ることが、がん患者と医療スタッフがパートナーシップを組んでがん治療を継続する上で重要である。

### 【引用・参考文献】

- 1) [https://www.who.int/publications/i/item/report-of-the-who-china-joint-mission-on-coronavirus-disease-2019-\(covid-19\)](https://www.who.int/publications/i/item/report-of-the-who-china-joint-mission-on-coronavirus-disease-2019-(covid-19))
- 2) 日本癌治療学会, 日本癌学会, 日本臨床腫瘍学会 (3 学会合同作成) 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) とがん診療について Q&A - 患者さんと医療従事者向け ワクチン編 第 1 版 - [https://www.jsmo.or.jp/news/coronavirus-information/qa\\_vaccinel\\_3gakkai.html](https://www.jsmo.or.jp/news/coronavirus-information/qa_vaccinel_3gakkai.html) (最終アクセス 2022/01/23)
- 3) 厚生労働省 . 国内の発生状況など <http://www.mhlw.go.jp/stf/covid-19/kokunainohasseijyoukyou.html> (最終アクセス 2022/01/23)
- 4) 勝俣範之: 国内外の学会の声明、取り組みとがん薬物療法のあり方、癌と化学療法、第 48 巻第 8 号、2021
- 5) 中川恵一: 「コロナとがん - リスクが見えない日本人」、海竜社、2020
- 6) 木原康樹監修: 「神戸市立医療センター中央市民病院 新型コロナウイルス感染症対策マニュアル」メディカ出版、2021

「新型コロナウイルス感染症に対するがん患者の不安と対処について」

<調査結果 図、表>

図 1 性別

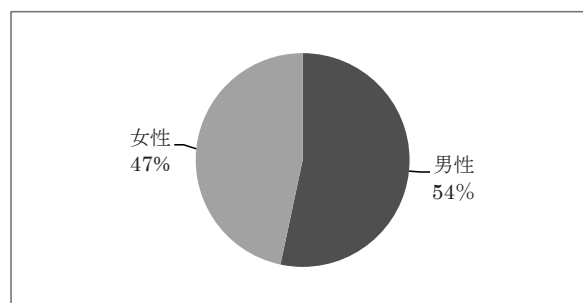




図2 年齢

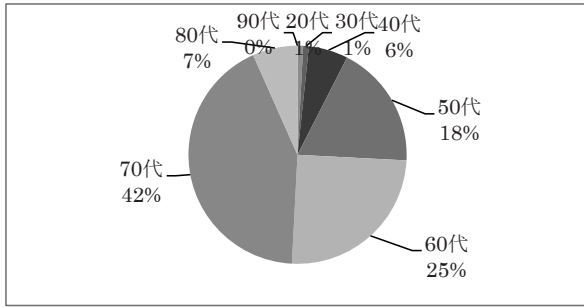


図7 2020年4月以降の治療の状況

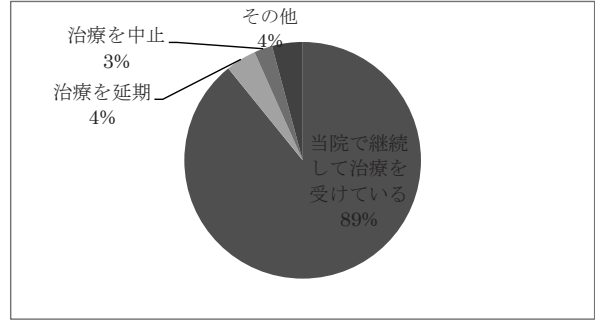


図3 治療内容

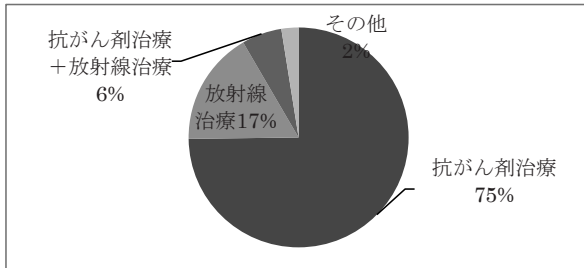


図8 新型コロナウイルス感染症の不安の有無

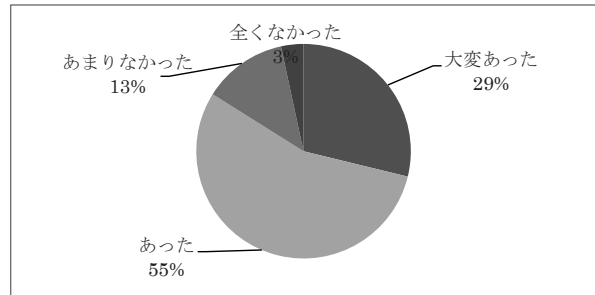


図4 がん罹患部位

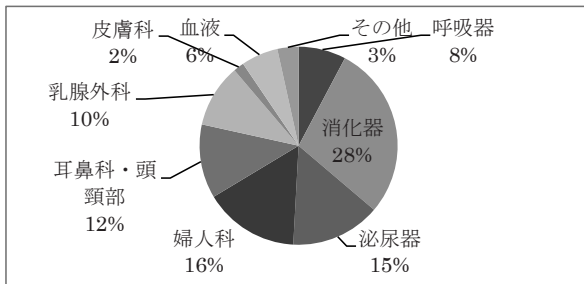


図9 新型コロナウイルス感染症の不安の理由

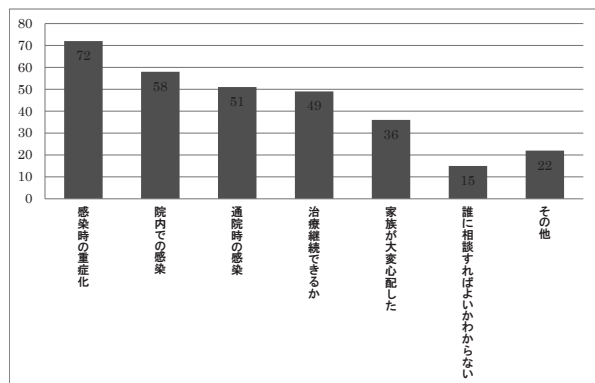


図5 2020年4月以降に自覚した感染症状(複数回答)

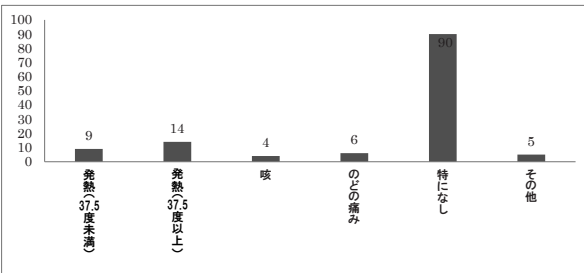


図10 感染予防の方法(複数回答)

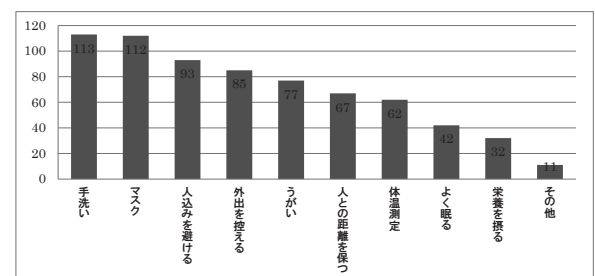


図6 症状があった際にとった対処(複数回答)

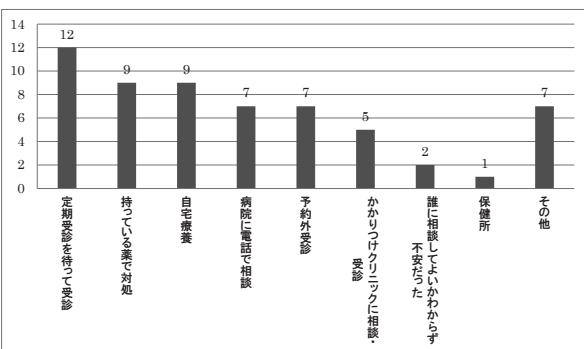


図 11 新型コロナウイルスの感染予防の情報源

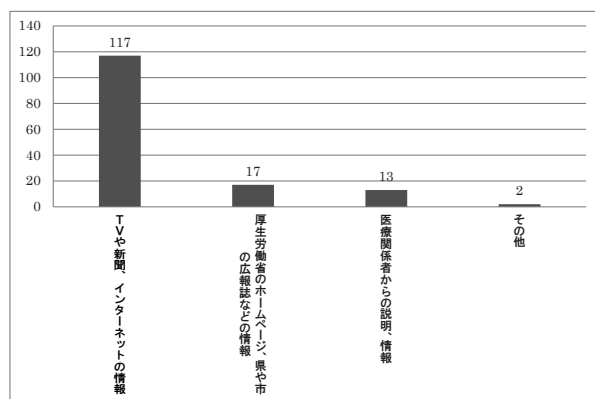


表 1. 感染予防で具体的に役立った、安心できた情報

内 容	件数
自分で気をつけること、感染予防の情報（手洗いなど消毒方法・密にならない）	25
担当医師、看護師の診察と説明や情報が安心できた	10
市の感染状況（ホームページ等）、全国的な動向、対策の情報	9
COVID-19の知識（感染のしくみ、特徴、歴史、ワクチン等）	5
病院内の情報（TV・新聞など、新聞に病院長の説明があり安心した）	3
感染者がでた職場や地域の情報	3
病院の対応（検温・消毒・密を避ける対策・電話再診）	3
厚生労働省・放射線治療学会等のHP（放射線治療による新型コロナウイルス肺炎への影響）	2
同じ患者からの情報・会話	2
病院スタッフの普段通りの姿勢・対応	1
衛生物品（ハンカチ、布マスクの代用・消毒物品など）の工夫	1
勤務先の医療部門からのお知らせ	1
必要以上に恐れない、軽んじないなど考え方	1

表 2. 医療者希望する支援

	内 容	件数
病院内の 感染対策	・院内での感染対策を引き続き行う（入り口検温、アルコール消毒設置）	8
	・感染した時の対処・アドバイス・治療が受けられること	8
	・感染予防の情報 病院の感染状況、取り組みの公表	5
	・コロナワクチンの情報・接種・開発、治療薬の開発	5
	・医療スタッフや他患者の感染対策の徹底（マスク着用、密にならない等）	3
	・感染後の詳しい情報を提供してほしい	1
検査対応	・症状があった際の早急なPCR検査と治療	11
	・希望したら検査してほしい	1
	・治療中は定期的にPCR検査をしてほしい	1
	・抗がん剤治療中は免疫力が下がっていないか血液検査をしてほしい	1
相談対応	・体調に不安を感じた時に相談できる支援（特に休日、夜間）	6
	・孤独にならないよう相談場所が欲しい	2
	・入院時に面会できるようにしてほしい	1
治療継続	・緊急時の対応	3
	・がん治療が中断にならないことを切望する	1
	・免疫力が下がるとき、風邪や感染症の関係について支援してほしい	1
	・救急外来の閉鎖時に抗がん剤治療中の患者だけでも対応してほしい	1
	・口腔ケアの指導	1

表3. その他気になることや意見

	内 容	件数
感染と治療の関係	・感染するとがん治療が出来なくなる 助からないと思っている	3
	・抵抗力が落ちる抗がん剤治療をやめたいが、治療しないとがんが大きくなる葛藤がある	1
医療者への思い	・コロナ流行中でも医療スタッフが普段通りに対応し感謝している	2
	・スタッフのおかげで抗がん剤治療が終了し乗り切れた。感謝している	2
	・通院はストレスだったが、スタッフの気遣いで乗り切れた	2
	・医療スタッフの方に感謝と応援をおくりたい	1
	・医療従事者の日々の取り組みに本当に頭が下がる。頑張ってもらいたい	1
	・医師に全部任せている。おかげで治った	1
	・医療従事者の負担がかからないように国や自治体は考えるべき	1
病院の対応	・感染対策など病院のやっていることは安心だった	2
	・トイレが汚い。石けんが出ないときがある	2
	・抗がん剤治療の際は、体に触れるものも多く、スタッフとの距離が近いので不安に感じた	1
	・3月末～4月は、入り口で3時間待たされ、わけがわからずしんどかった	1
	・コロナウイルス感染の疑いのある人が、病院の同じ入り口を利用していないか心配した	1
感染に対する考えや思い	・予防行動をしっかりしていれば感染する可能性はとても低い	1
	・自分ができる基本的なことをきっちりやっていきたい	1
	・できるだけ外出しない、太陽を浴びるベランダなどで過ごすなどした	1
	・口腔の清潔の重要性	1
	・自分が感染すると周囲がどう思うか不安。人からの中傷など気になる	1
	・不安はない。気を付けていても悪くなったら仕方ない	1
	・感染予防が生活の一部になるよう国中が努力するべき	1

## VI. 医学振興事業等研究費補助による業績報告

### (2) 松本アレルギー疾患研究事業

#### VI. 13 鼻腔及び喉頭に病変を来たす IgG4 関連疾患

中央市民病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 濱本文美

##### 【研究開始当初の背景】

長期間にわたり診断がつかず治療に難渋した IgG4 関連疾患患者を経験した。

喉頭肉芽、鼻腔ポリープをそれぞれ炎症性肉芽、好酸球性副鼻腔炎に準ずる病態であると考えていたが4回の全身麻酔下での生検を経て今回、改めて事前の採血結果を用いて IgG4 関連疾患の可能性を考慮した。当初は喉頭肉芽のみ染色依頼をしていたが、のちに鼻腔ポリープについても改めて染色したところ、両部位において現在用いられている IgG4 関連疾患の定義を満たした。

それゆえ喉頭、鼻腔病変共に IgG4 関連疾患であると一元的に診断、治療を開始した。

##### 【研究成果】

IgG4 関連疾患の好発部位に対する治療に準じてステロイド投与を開始したところ良好な治療成績を得られている。しかし本疾患はしばしば再発するといわれており、ステロイド量については慎重にテーパリングを行うと共に、長期間のステロイド使用となるため総合内科にも介入してもらい管理をお願いしている。

##### 【今後の展望】

これまでに、第 122 回日本耳鼻咽喉科学会・学術総会で本症例について発表した。

今後は論文化していく予定である。また鼻腔ポリープについて、臨床的には好酸球性副鼻腔炎疑い症例にも関わらず、難病指定に満たない症例の免疫染色を行い、疾患概念の重複性や IgG4 関連疾患としての鼻腔病変の実情について明らかにしていきたい。

## VI. 医学振興事業等研究費補助による業績報告

### (3) 医学振興事業

#### VI. 14 担がん患者の DOACs を用いた深部静脈血栓症治療における治療効果予測因子の検討

中央市民病院 臨床検査技術部 鳥居裕太

##### 【背景】

担がん患者の死因は、がん死に次いで静脈血栓塞栓症であることが広く知られており、担がん患者において深部静脈血栓症 (DVT) の適切な治療は予後を決定する上で非常に重要な因子である。しかしながら、担がん患者において DVT 治療薬である直接作用型経口抗凝固薬 (DOACs) の使用は消化管出血のリスクが上昇することが報告されており、非担がん患者のように容易に用いることができない。われわれは DVT 治療効果の予測において全身の筋肉量やサルコペニアの有無よりも、超音波検査を用いた局所的な筋肉 (腓腹筋) が有用であることを報告している。腓腹筋が保たれている場合には DOACs による DVT 治療効果が期待でき、反対に腓腹筋が乏しい場合には治療期間の長期化、治療効果への期待が乏しい可能性を示している。つまり、担がん患者において出血のリスク以外を考慮しながら、DVT 治療効果を予測できるため、臨床において非常に有益であるが、担がん患者におけるその有用性については未だ明らかでない。

##### 【目的】

担がん患者の DOACs による DVT 治療効果について腓腹筋径が有用であるか検討することである。

##### 【方法】

担がん状態で DVT を発症した患者を対象として、DVT 範囲に加えて、腓腹筋径を計測する。DVT 治療として DOACs 内服加療後に再度下肢静脈エコー検査を実施し、血栓退縮効果を判定する。臨床的背景、血液生化学データ、体成分データおよび収集した各種エコー検査データと DVT 退縮効果との関係を検討する。

DVT 退縮効果判定 =

$$[(\text{治療前 DVT 径}) - (\text{治療後 DVT 径})] \times 100 \div (\text{治療前 DVT 径})$$

DOACs 投与後に DVT 径の 40% 以上退縮した場合を DVT 退縮ありと判定した。

DVT 径は超音波プローブで圧迫しながら、B モード画像上で静脈の前壁と後壁の距離を測定し算出した。

また複数カ所に DVT がある場合は中枢側の DVT 最大径を解析に使用した。

##### 【結果】

対象は、担がん患者で DVT が疑われ、下肢静脈エコー検査を実施した際に、DVT を認め、DOACs による治療が施行された患者 153 例である。平均観察期間は  $143 \pm 63$  日、血栓退縮効果あり群 97 例 (63%)、血栓退縮なし群 56 例 (37%) であった。使用した DOACs は強化療法群 30 例、維持療法群 123 例であった。DVT 退縮あり群となし群では、退縮あり群で  $\Delta$ D ダイマー値が有意に高く、骨格筋量指数および腓腹筋径指数も有意に高かった。血栓退縮効果における ROC (Receiver Operatorating Characteristic curve) 曲線では、腓腹筋径指数が AUC : 0.864 で DVT 退縮効果に関連する因子として最も有用な指標であった。その他、治療前後の D ダイマー値が AUC : 0.706、骨格筋指数 (SMI) が AUC : 0.669 であった。

また、本研究における血栓退縮効果を予測する腓腹筋径指数は 8.5 (感度 :89%, 特異度 :77%) であったが、以前にわれわれが報告した腓腹筋径指数の cut off 値 8.3 を用いて、本研究母集団における血栓退縮効果についても検討した結果、腓腹筋径指数  $\geq 8.3$  (AUC : 0.820, 感度 90.7%, 特異度 :73.2%, Logrank test : Chi-squared 17.9,  $p < 0.001$ ) で有意に血栓退縮効果が高いことが示された。

表 1. 患者背景

	DVT退縮あり n = 97	DVT退縮なし n = 56	p 値
年齢 (歳)	68±10	68±12	0.45
男性 n, (%)	35 (36%)	14 (25%)	0.07
BMI (kg/m <sup>2</sup> )	22.1±4.0	22.1±3.9	0.48
がん術後 n, (%)	70 (72%)	35 (63%)	0.11
化学療法 n, (%)	70 (72%)	38 (68%)	0.29
治療日数 (日)	142±66	144±56	0.44
DOACs強化療法 n, (%)	20 (21%)	10 (18%)	0.34
$\Delta$ Dダイマー	3.28±1.80	1.26±0.52	0.005
握力 (kg)	24.0±9.0	21.8±8.3	0.21
中枢型DVT n, (%)	32 (33%)	22 (39%)	0.22
骨格筋量指数	7.7±1.5	6.9±1.4	0.01
腓腹筋径指数	9.6±1.3	7.9±1.0	<0.001

図1. 血栓退縮効果予測因子の検討

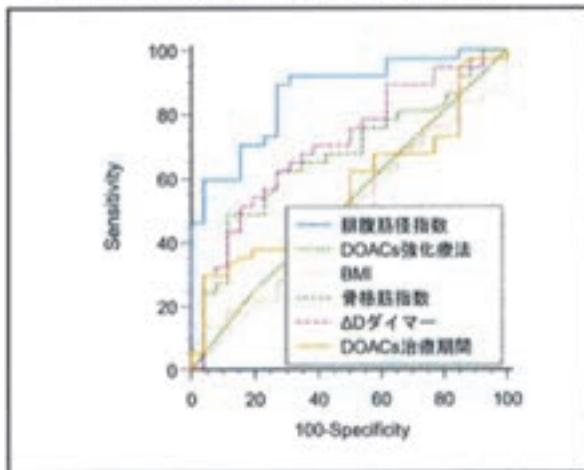
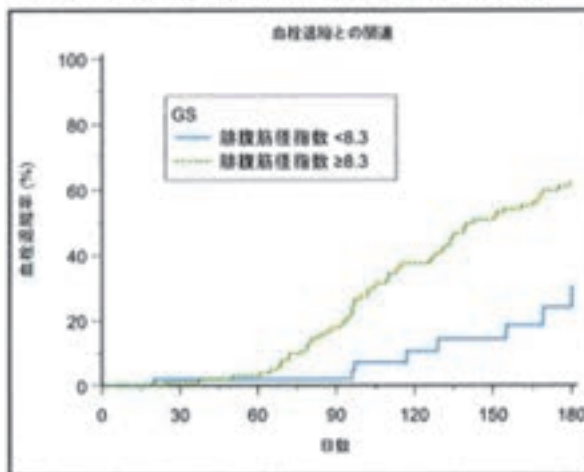


図2. 腓腹筋径指数による血栓退縮効果



### 【考察】

本研究では、DOACsによる担がん患者のDVT退縮効果に影響を及ぼす因子の関連性を検討した。結果として、腓腹筋径指数が血栓退縮効果の優れた予測因子であることが示された。担がん患者のDVT退縮効果を予測することは临床上極めて重要である。DVTの存在は肺血栓塞栓症の発症リスクであり、抗凝固療法の必要性について判断しなければならない。しかしながら、担がん患者では出血リスクの懸念もあることから、安易に抗凝固療法を開始しがたい。また、抗凝固療法を行っても血栓が退縮する可能性が低い場合、長期的な治療が必要となる。血栓退縮効果を予測することは、治療プロトコルを決定する上で重要であり、本研究結果からは、その判断の一助に腓腹筋径指数が有用と考える。

担がん患者では、ADL低下から一定の割合で身体的サルコペニアになると予想される。サルコペニアによる下腿筋のポンプ作用の低下は、血液のうっ滞によ

るDVT形成の原因や血栓退縮効果に影響する可能性が高い。下腿には腓腹筋とヒラメ筋があるが、腓腹筋はヒラメ筋に比べ歩行に重要な速筋が多いことが知られている。腓腹筋径指数がサルコペニアに伴う変化を鋭敏に反映しており、本研究結果に繋がったと考える。

### 【結語】

腓腹筋径指数は、担がん患者におけるDOACs治療において、DVT退縮効果を予測する因子となりうる事が明らかとなった。今後はDOACs中止例などにおいて、腓腹筋径指数が血栓の増大や退縮に及ぼす影響について検討したいと考える。

### 【本研究に関する成果報告】

コロナ禍による症例数減少によりデータ収集に時間を要した。今後、本研究データを纏め、学会発表および論文執筆する予定である。

### 【謝辞】

本研究遂行に際し、研究助成のご支援を賜りました公益財団法人がん研究振興財団に深く感謝申し上げます。

## Ⅶ. 病 院 別 診 療 科 別 論文発表及び学会報告数

## Ⅶ. 病院別診療科別論文発表及び学会報告数

	中央市民病院	論文発表	学会報告
1	循環器内科	71	100
2	糖尿病・内分泌内科	4	63
3	腎臓内科	3	28
4	脳神経内科	37	45
5	消化器内科	3	56
6	呼吸器内科	35	46
7	血液内科	35	32
8	腫瘍内科	11	35
9	膠原病・リウマチ内科	13	4
10	緩和ケア内科	-	3
11	精神・神経科	-	11
12	小児科・新生児科	8	10
13	皮膚科	6	13
14	外科・移植外科	3	32
15	乳腺外科	-	1
16	心臓血管外科	4	13
17	呼吸器外科	3	6
18	脳神経外科	38	90
19	整形外科	16	48
20	形成外科	3	7
21	産婦人科	4	20
22	泌尿器科	12	58
23	耳鼻咽喉科	18	38
24	頭頸部外科	13	33
25	麻酔科	5	18
26	歯科口腔外科	12	16
27	病理診断科	19	29
28	放射線診断科	10	21
29	放射線治療科	6	20
30	救急科	12	51
31	感染症科	28	34
32	総合内科	45	55
33	看護部	26	20
34	薬剤部	78	82
35	臨床検査技術部	3	37
36	放射線技術部	5	20
37	リハビリテーション技術部	-	-
38	臨床工学技術部	-	3
39	栄養管理部	1	13
40	臨床研究推進センター 研究部門 再生医療研究部	2	10
41	管理支援部門 管理支援室	-	3
	合計数	592	1,224

	西市民病院	論文発表	学会報告
	消化器内科	-	3
	呼吸器内科	16	52
	血液内科	-	-
	リウマチ・膠原病内科	1	1
	循環器内科	-	-
	腎臓内科	-	1
	糖尿病・内分泌内科	1	9
	脳神経内科	-	2
	総合内科	2	1
	小児科	2	2
	外科(消化器外科・呼吸器外科・乳腺外科・血管外科)	3	10
	整形外科	1	8
	リハビリテーション科	-	-
	脳神経外科	1	3
	皮膚科	-	-
	泌尿器科	-	2
	産婦人科	3	2
	眼科	-	-
	耳鼻咽喉科	-	-
	歯科口腔外科	-	6
	病理診断科	-	-
	放射線科	-	-
	麻酔科	-	-
	臨床腫瘍科	-	-
	救急総合診療部	-	-
	認知症疾患医療部	-	1
	看護部	-	5
	薬剤部	-	5
	臨床検査技術部	-	4
	放射線技術部	-	6
	リハビリテーション技術部	6	7
	臨床工学室	-	1
	栄養管理室	-	2
	合計数	36	133

※神戸市立病院紀要第61巻(令和4年)に掲載した論文発表及び学会報告から集計した数。



西神戸医療センター		論文発表	学会報告
1	総合内科	1	3
2	脳神経内科	1	2
3	糖尿病・内分泌内科	3	8
4	腎臓内科	4	5
5	免疫血液内科	3	2
6	循環器内科	-	1
7	消化器内科	1	12
8	呼吸器内科	-	11
9	緩和ケア内科	-	4
10	精神・神経科	1	-
11	小児科	4	8
12	外科・消化器外科	8	28
13	乳腺外科	3	12
14	整形外科	-	3
15	脳神経外科	3	8
16	呼吸器外科	8	20
17	皮膚科	8	18
18	泌尿器科	4	11
19	産婦人科	-	4
20	眼科	-	3
21	耳鼻いんこう科	2	9
22	リハビリテーション科	-	-
23	形成外科	3	8
24	放射線診断科	1	8
25	放射線治療科	-	-
26	麻酔科	-	1
27	病理診断科	6	-
28	歯科口腔外科	2	11
29	看護部	6	4
30	薬剤部	-	11
31	臨床検査技術部	8	16
32	放射線技術部	-	10
33	栄養管理室	-	1
34	リハビリテーション技術部	3	8
35	臨床工学室	1	4
36	感染防止対策室	7	16
37	医事課	-	1
合計数		91	271

神戸アイセンター病院		論文発表	学会報告
診療部		39	78
看護部		-	2
薬剤部		-	-
視能訓練士室		-	-
栄養管理室		-	1
事務局		-	-
合計数		39	81

		論文発表	学会報告
中央市民病院		592	1,224
西市民病院		36	133
西神戸医療センター		91	271
神戸アイセンター病院		39	81
合計		758	1,709

※神戸市立病院紀要第61巻(令和4年)に掲載した論文発表及び学会報告から集計した数。

## VIII. 論 文 発 表

## Ⅷ. 論文発表

### Ⅷ. 1 中央市民病院

#### Ⅷ. 1.1 循環器内科

1. 西浦直紀, 加地修一郎:【どう関係する?心疾患×他臓器(肺・脳・腎臓・消化器)の病態生理】(第1部)心疾患と治療でカラダに何が起きる?(第1章)心疾患で胸以外の症状が起こる!?(FILE 1)左心不全で呼吸困難になった!ハートナーシング 2021年春季増刊号:20-26, 2021
2. 西浦直紀, 加地修一郎:【どう関係する?心疾患×他臓器(肺・脳・腎臓・消化器)の病態生理】(第1部)心疾患と治療でカラダに何が起きる?(第1章)心疾患で胸以外の症状が起こる!?(FILE 2)大動脈弁狭窄症や僧帽弁閉鎖不全症で息切れが生じた!ハートナーシング 2021年春季増刊号:27-31, 2021
3. 西浦直紀, 加地修一郎:【どう関係する?心疾患×他臓器(肺・脳・腎臓・消化器)の病態生理】(第1部)心疾患と治療でカラダに何が起きる?(第1章)心疾患で胸以外の症状が起こる!?(FILE 3)心筋梗塞で呼吸困難になった!ハートナーシング 2021年春季増刊号:32-36, 2021
4. 佐野野香, 北井 豪:【どう関係する?心疾患×他臓器(肺・脳・腎臓・消化器)の病態生理】(第1部)心疾患と治療でカラダに何が起きる?(第1章)心疾患で胸以外の症状が起こる!?(FILE 4)不整脈でめまいや失神が起こった!ハートナーシング 2021年春季増刊号:37-44, 2021
5. 佐野野香, 北井 豪:【どう関係する?心疾患×他臓器(肺・脳・腎臓・消化器)の病態生理】(第1部)心疾患と治療でカラダに何が起きる?(第1章)心疾患で胸以外の症状が起こる!?(FILE 5)狭心症で肩が痛くなった!肩こりが起こった!ハートナーシング 2021年春季増刊号:45-50, 2021
6. 佐野野香, 北井 豪:【どう関係する?心疾患×他臓器(肺・脳・腎臓・消化器)の病態生理】(第1部)心疾患と治療でカラダに何が起きる?(第1章)心疾患で胸以外の症状が起こる!?(FILE 6)右心不全で食欲不振になった!ハートナーシング 2021年春季増刊号:51-56, 2021
7. 北井 豪, Tsutsui RS:大動脈弁狭窄症の診断と治療における心エコー検査の役割. 超音波医学 48(4):165-175, 2021
8. 佐野野香, 北井 豪:【How to 心不全ケア 予防・治療・緩和を知る!】ステージC 慢性心不全に進展して症状が出ている!どう治療・ケアする?ハートナーシング 34(7):646-660, 2021
9. 岡田大司:【心不全の血行動態をエコーで捉える!】腸のうっ血をエコーで評価する一心腸連関. 心エコー 22(7):688-692, 2021
10. 古川 裕:高齢者へのカルベジロール処方量について. 週刊日本医事新報 5083:52, 2021
11. 古川 裕:【プレジジョン・メディシン時代における腫瘍循環器学的重要性】IV章 腫瘍循環器学 トピックス 腫瘍循環器リハビリテーション(CORE). 循環器ジャーナル 69(4):642-646, 2021
12. 小堀敦志:第3章 心房細動アブレーションのコツ&トラブルシューティング 1.5) c) レーザーバルーン. 格段にうまくいく カテーテルアブレーションの基本とコツ 改訂版. 高橋 淳, 羊土社, 東京, 273-278, 2022
13. 岡田大司:【心不全薬物治療の道しるべ】今こそ!心不全の管理を整理しなおす 慢性心不全の薬物治療に使われるくすりと服薬サポート. 薬局 73(3):419-426, 2022
14. 金 基泰, 神戸貴成, 山元智子:MGUSが背景にあり、発作性心房細動を契機とする心原性ショックにより死亡した一例. 神戸市立病院紀要 60:56-58, 2022
15. Abe Y, Kitai T, Furukawa A, Nomura N, Matsumura Y, Naruko T, Yoshiyama M: Assessing the true severity of low-gradient aortic stenosis using resting echocardiography. J Cardiol. 77(4):327-333, 2021
16. Matsumura-Nakano Y, Shiomi H, Morimoto T, Yamaji K, Ehara N, Sakamoto H, Takeji Y, Yoshikawa Y, Yamamoto K, Imada K, Tada T, Taniguchi R, Nishikawa R, Tada T, Uegaito T, Ogawa T, Yamada M, Takeda T, Eizawa H, Tamura N, Tambara K, Suwa S, Shirofumi M, Tamura T, Inoko M, Nishizawa J, Natsuaki M, Sakai H, Yamamoto T, Kanemitsu N, Ohno N, Ishii K, Marui A, Tsuneyoshi H, Terai Y, Nakayama S, Yamazaki K, Takahashi M, Tamura T, Esaki J, Miki S, Onodera T, Mabuchi H, Furukawa Y, Tanaka M, Komiya T, Soga Y, Hanyu M, Ando K, Kadota K, Minatoya K, Nakagawa Y, Kimura T; On behalf the CREDO-Kyoto PCI/CABG Registry Cohort-3 Investigators: Comparison of Outcomes of Percutaneous Coronary Intervention Versus Coronary Artery Bypass Grafting Among Patients With Three-Vessel Coronary Artery Disease in the New-Generation Drug-Eluting Stents Era (From CREDO-Kyoto PCI/CABG Registry Cohort-3). Am J Cardiol. 145:25-36, 2021

17. Yamashita Y, Morimoto T, Amano H, Takase T, Hiramori S, Kim K, Oi M, Akao M, Kobayashi Y, Toyofuku M, Morita Y, Tada T, Izumi T, Chen PM, Murata K, Tsuyuki Y, Saga S, Nishimoto Y, Sasa T, Sakamoto J, Kinoshita M, Togi K, Mabuchi H, Takabayashi K, Yoshikawa Y, Shiomi H, Kato T, Makiyama T, Ono K, Kimura T; COMMAND VTE Registry Investigators : Clinical characteristics and outcomes of patients with venous thromboembolism according to diagnosis on weekends versus on weekdays. *J Thromb Thrombolysis*. 51 (3) : 779–788, 2021
18. Yamamoto K, Natsuaki M, Morimoto T, Shiomi H, Takeji Y, Kadota K, Imada K, Toyofuku M, Kanemitsu N, Shinoda E, Suwa S, Iwakura A, Tamura T, Soga Y, Inada T, Matsuda M, Koyama T, Aoyama T, Kato E, Sato Y, Furukawa Y, Ando K, Yamazaki F, Komiya T, Minatoya K, Nakagawa Y, Kimura T : Percutaneous Coronary Intervention Versus Coronary Artery Bypass Grafting in Patients With Versus Without Chronic Kidney Disease. *Am J Cardiol*. 145 : 37–46, 2021
19. Yamamoto K, Shiomi H, Morimoto T, Kadota K, Tada T, Takeji Y, Matsumura–Nakano Y, Yoshikawa Y, Imada K, Domei T, Kaneda K, Taniguchi R, Ehara N, Nawada R, Natsuaki M, Yamaji K, Toyofuku M, Kanemitsu N, Shinoda E, Suwa S, Iwakura A, Tamura T, Soga Y, Inada T, Matsuda M, Koyama T, Aoyama T, Sato Y, Furukawa Y, Ando K, Yamazaki F, Komiya T, Minatoya K, Nakagawa Y, Kimura T; CREDO–Kyoto PCI/CABG Registry Cohort–3 investigators : Percutaneous Coronary Intervention Versus Coronary Artery Bypass Grafting Among Patients with Unprotected Left Main Coronary Artery Disease in the New–Generation Drug–Eluting Stents Era (From the CREDO–Kyoto PCI/CABG Registry Cohort–3). *Am J Cardiol*. 145 : 47–57, 2021
20. Nishiwaki S, Morita Y, Yamashita Y, Morimoto T, Amano H, Takase T, Hiramori S, Kim K, Oi M, Akao M, Kobayashi Y, Toyofuku M, Izumi T, Tada T, Chen PM, Murata K, Tsuyuki Y, Saga S, Sasa T, Sakamoto J, Kinoshita M, Togi K, Mabuchi H, Takabayashi K, Shiomi H, Kato T, Makiyama T, Ono K, Inoko M, Kimura T; COMMAND VTE Registry Investigators : Impact of no, distal, and proximal deep vein thrombosis on clinical outcomes in patients with acute pulmonary embolism: From the COMMAND VTE registry. *J Cardiol*. 77(4) : 395–403, 2021
21. Ikari Y, Yamada S, Ehara N, Kozuma K, Shinke T, Sugano T, Seike F, Sonoda S, Tazaki J, Tsuji T, Mibiki Y, Muramatsu T, Morita T, Sawano M : The Japanese Association of Cardiovascular Intervention and Therapeutics position statement on coronary invasive procedures during the COVID–19 pandemic in Japan. *Cardiovasc Intervent Ther*. 36 (2) : 139–144, 2021
22. Tani T, Konda T, Kitai T, Ota M, Furukawa Y : Mitral Annular Disjunction–A New Disease Spectrum. *Cardiol Clin*. 39 (2) : 289–294, 2021
23. Okada Y, Nakai T, Kitai T : Role of Mitral Valve Repair for Mitral Infective Endocarditis. *Cardiol Clin*. 39 (2) : 189–196, 2021
24. Kitai T, Masumoto A, Okada T, Koyama T, Furukawa Y : Optimal Timing of Surgery for Patients with Active Infective Endocarditis. *Cardiol Clin*. 39 (2) : 197–209, 2021
25. Kitai T : Advances and Controversies in the Management of Mitral Valve Disease. *Cardiol Clin*. 39 (2) : xi, 2021
26. Ota M, Kitai T : Echocardiographic Evaluation of Successful Mitral Valve Repair or Need for a Second Pump Run in the Operating Room. *Cardiol Clin*. 39 (2) : 233–242, 2021
27. Yamamoto K, Shiomi H, Morimoto T, Takeji Y, Yoshikawa Y, Natsuaki M, Watanabe H, Tada T, Tazaki J, Yamaji K, Tamura T, Ando K, Kadota K, Furukawa Y, Nakagawa Y, Kimura T : Ischemic and bleeding risk after complex percutaneous coronary intervention in patients with or without high bleeding risk. *Catheter Cardiovasc Interv*. 97 (6) : E758–E770, 2021
28. Natsuaki M, Morimoto T, Shiomi H, Ehara N, Taniguchi R, Tamura T, Tada T, Suwa S, Kaneda K, Watanabe H, Tazaki J, Watanabe S, Yamamoto E, Saito N, Fuki M, Takeda T, Eizawa H, Shinoda E, Mabuchi H, Shirohane M, Uegaito T, Matsuda M, Takahashi M, Inoko M, Tamura T, Ishii K, Onodera T, Sakamoto H, Aoyama T, Sato Y, Ando K, Furukawa Y, Nakagawa Y, Kadota K, Kimura T; CREDO–Kyoto PCI/CABG Registry Cohort–3 Investigators : Application of the Modified High Bleeding Risk Criteria for Japanese Patients in an All–Comers Registry of Percutaneous Coronary Intervention – From the CREDO–Kyoto Registry Cohort–3. *Circ J*. 85 (6) : 769–781, 2021

29. Shiba M, Kato T, Morimoto T, Yaku H, Inuzuka Y, Tamaki Y, Ozasa N, Seko Y, Yamamoto E, Yoshikawa Y, Kitai T, Yamashita Y, Iguchi M, Nagao K, Kawase Y, Morinaga T, Toyofuku M, Furukawa Y, Ando K, Kadota K, Sato Y, Kuwahara K, Kimura T : Serum cholinesterase as a prognostic biomarker for acute heart failure. *Eur Heart J Acute Cardiovasc Care.* 10 (3) : 335–342, 2021
30. Yamamoto K, Watanabe H, Morimoto T, Domei T, Ohya M, Ogita M, Takagi K, Suzuki H, Nikaido A, Ishii M, Fujii S, Natsuaki M, Yasuda S, Kaneko T, Tamura T, Tamura T, Abe M, Kawai K, Nakao K, Ando K, Tanabe K, Ikari Y, Igarashi Hanaoka K, Morino Y, Kozuma K, Kadota K, Furukawa Y, Nakagawa Y, Kimura T; STOPDAPT-2 Investigators : Very Short Dual Antiplatelet Therapy After Drug-Eluting Stent Implantation in Patients Who Underwent Complex Percutaneous Coronary Intervention: Insight From the STOPDAPT-2 Trial. *Circ Cardiovasc Interv.* 14 (5) : e010384, 2021
31. Miyazaki S, Kobori A, Sasaki Y, Miyamoto K, Sato E, Hanazawa K, Morishima I, Kanzaki Y, Yamaji H, Yamao K, Kondo Y, Watanuki M, Kaneshiro T, Uchiyama T, Nakamura K, Hiramatsu S, Nakajima J, Arimoto T, Kaneko S, Osai N, Takagi T, Kaseno K, Takahashi A, Naito S, Kobayashi Y, Hachiya H, Kusano K, Yagi T, Iesaka Y, Tada H : Real-World Safety Profile of Atrial Fibrillation Ablation Using a Second-Generation Cryoballoon in Japan: Insight From a Large Multicenter Observational Study. *JACC Clin Electrophysiol.* 7 (5) : 604–613, 2021
32. Takahashi Y, Nitta J, Kobori A, Sakamoto Y, Nagata Y, Tanimoto K, Matsuo S, Yamane T, Morita N, Satomi K, Inaba O, Murata K, Sasaki Y, Yoshimoto D, Kaneko M, Tanimoto Y, Isogai R, Yamashita S, Sato H, Hanazawa R, Hirakawa A, Goya M, Sasano T : Alcohol Consumption Reduction and Clinical Outcomes of Catheter Ablation for Atrial Fibrillation. *Circ Arrhythm Electrophysiol.* 14 (6) : e009770, 2021
33. Song X, Saito N, Morimoto T, Taniguchi T, Shiomi H, Ando K, Nagao K, Kanamori N, Murata K, Kitai T, Kawase Y, Izumi C, Miyake M, Mitsuoka H, Kato M, Hirano Y, Matsuda S, Inada T, Murakami T, Takeuchi Y, Yamane K, Toyofuku M, Ishii M, Minamino-Muta E, Kato T, Yoshikawa Y, Inoko M, Ikeda T, Ishii K, Hotta K, Higashitani N, Kato Y, Inuzuka Y, Maeda C, Jinnai T, Morikami Y, Minatoya K, Kimura T; CURRENT AS Registry Investigators : Long-Term Impact of Diabetes Mellitus on Initially Conservatively Managed Patients With Severe Aortic Stenosis. *Circ J.* 85 (7) : 1083–1092, 2021
34. Hirose S, Matsue Y, Kamiya K, Kagiya N, Hiki M, Dotare T, Sunayama T, Konishi M, Saito H, Saito K, Ogasahara Y, Maekawa E, Kitai T, Iwata K, Jujo K, Wada H, Kasai T, Momomura SI, Minamino T : Prevalence and prognostic implications of malnutrition as defined by GLIM criteria in elderly patients with heart failure. *Clin Nutr.* 40 (6) : 4334–4340, 2021
35. Yoshida Y, Yamane T, Nakahara S, Kobori A, Sohara H, Aonuma K, Satake S; HotBalloon PMS Study Investigators : Efficacy and Safety of SATAKE HotBalloon<sup>®</sup> Catheter for Treatment of Paroxysmal Atrial Fibrillation – A Post – Marketing Surveillance Study. *Circ J.* 85 (8) : 1314–1320, 2021
36. Krittanawong C, Mahtta D, Narasimhan B, Wang Z, Bandyopadhyay D, Hanif B, Samad Z, Kitai T, Alam M, Sharma SK, Jneid H, Virani SS : Clinical characteristics and mortality after acute myocardial infarction-related hospitalization among Asians from a national population-based cohort study. *Prog Cardiovasc Dis.* 67:108–110, 2021
37. Seko Y, Kato T, Morimoto T, Yaku H, Inuzuka Y, Tamaki Y, Ozasa N, Shiba M, Yamamoto E, Yoshikawa Y, Kitai T, Yamashita Y, Iguchi M, Nagao K, Kawase Y, Morinaga T, Toyofuku M, Furukawa Y, Ando K, Kadota K, Sato Y, Kuwahara K, Kimura T; KCHF Study Investigators : A decrease in tricuspid regurgitation pressure gradient associates with favorable outcome in patients with heart failure. *ESC Heart Fail.* 8 (4) : 2826–2836, 2021
38. Seko Y, Kato T, Morimoto T, Yaku H, Inuzuka Y, Tamaki Y, Ozasa N, Shiba M, Yamamoto E, Yoshikawa Y, Kitai T, Yamashita Y, Iguchi M, Nagao K, Kawase Y, Morinaga T, Toyofuku M, Furukawa Y, Ando K, Kadota K, Sato Y, Kuwahara K, Kimura T; KCHF Study Investigators : Improved and new-onset anemia during follow-up in patients with acute decompensated heart failure: Characteristics and outcomes. *Medicine (Baltimore).* 100 (32) : e26892, 2021
39. Washida K, Kato T, Ozasa N, Morimoto T, Yaku H, Inuzuka Y, Tamaki Y, Seko Y, Yamamoto E, Yoshikawa Y, Kitai T, Yamashita Y, Iguchi M, Nagao K, Kawase Y, Morinaga T, Toyofuku M, Furukawa Y, Ando K, Kadota K, Sato Y, Kuwahara K, Kimura T : Risk Factors and Clinical Outcomes of Nonhome Discharge in Patients With Acute Decompensated Heart Failure: An Observational Study. *J Am Heart Assoc.* 10 (15) : e020292, 2021

40. Shiomi H, Morimoto T, Furukawa Y, Nakagawa Y, Kadota K, Yoshikawa Y, Yamaji K, Tada T, Tazaki J, Ehara N, Taniguchi R, Tamura T, Iwakura A, Tada T, Watanabe H, Suwa S, Toyofuku M, Inada T, Kaneda K, Ogawa T, Takeda T, Sakai H, Yamamoto T, Tambara K, Esaki J, Eizawa H, Yamada M, Shinoda E, Nishizawa J, Mabuchi H, Tamura N, Shirotani M, Nakayama S, Uegaito T, Matsuda M, Takahashi M, Inoko M, Kanemitsu N, Tamura T, Ishii K, Nawada R, Onodera T, Ohno N, Koyama T, Tsuneyoshi H, Sakamoto H, Aoyama T, Miki S, Tanaka M, Sato Y, Yamazaki F, Hanyu M, Soga Y, Komiya T, Ando K, Minatoya K, Kimura T : Coronary Revascularization in the Past Two Decades in Japan (From the CREDO-Kyoto PCI/CABG Registries Cohort-1, -2, and -3). *Am J Cardiol.* 153 : 20-29, 2021
41. Yamamoto K, Matsumura-Nakano Y, Shiomi H, Natsuaki M, Morimoto T, Kadota K, Tada T, Takeji Y, Yoshikawa Y, Imada K, Domei T, Kaneda K, Taniguchi R, Ehara N, Nawada R, Yamaji K, Kato E, Toyofuku M, Kanemitsu N, Shinoda E, Suwa S, Iwakura A, Tamura T, Soga Y, Inada T, Matsuda M, Koyama T, Aoyama T, Sato Y, Furukawa Y, Ando K, Yamazaki F, Komiya T, Minatoya K, Nakagawa Y, Kimura T; CREDO - Kyoto PCI/CABG Registry Cohort - 3 Investigators : Effect of Heart Failure on Long-Term Clinical Outcomes After Percutaneous Coronary Intervention Versus Coronary Artery Bypass Grafting in Patients With Severe Coronary Artery Disease. *J Am Heart Assoc.* 10 (15) : e021257, 2021
42. Konishi M, Kagiya N, Kamiya K, Saito H, Saito K, Ogasahara Y, Maekawa E, Misumi T, Kitai T, Iwata K, Jujo K, Wada H, Kasai T, Nagamatsu H, Ozawa T, Izawa K, Yamamoto S, Aizawa N, Makino A, Oka K, Momomura SI, Matsue Y : Impact of sarcopenia on prognosis in patients with heart failure with reduced and preserved ejection fraction. *Eur J Prev Cardiol.* 28 (9) : 1022-1029, 2021
43. Nozaki K, Kamiya K, Hamazaki N, Saito H, Saito K, Ogasahara Y, Maekawa E, Konishi M, Kitai T, Iwata K, Jujo K, Wada H, Kasai T, Nagamatsu H, Ozawa T, Izawa K, Yamamoto S, Aizawa N, Makino A, Oka K, Momomura SI, Kagiya N, Matsue Y : Validity and Utility of the Questionnaire-based FRAIL Scale in Older Patients with Heart Failure: Findings from the FRAGILE-HF. *J Am Med Dir Assoc.* 22 (8) :1621-1626.e2, 2021
44. Obayashi Y, Shiomi H, Morimoto T, Tamaki Y, Inoko M, Yamamoto K, Takeji Y, Tada T, Nagao K, Yamaji K, Kaneda K, Suwa S, Tamura T, Sakamoto H, Inada T, Matsuda M, Sato Y, Furukawa Y, Ando K, Kadota K, Nakagawa Y, Kimura T; CREDO - Kyoto AMI Registry Wave - 2 Investigators : Newly Diagnosed Atrial Fibrillation in Acute Myocardial Infarction. *J Am Heart Assoc.* 10 (18) : e021417, 2021
45. Iwata K, Kitai T, Yoshimura Y, Honda A, Shimogai T, Otsuka S, Takimoto R, Yamada K, Furukawa Y, Kohara N, Ishikawa A : Clinical impact of functional independent measure (FIM) on 180-day readmission and mortality in elderly patients hospitalized with acute decompensated heart failure. *Heart Vessels.* 36 (10) : 1536-1541, 2021
46. Natsuaki M, Morimoto T, Shiomi H, Kadota K, Tada T, Takeji Y, Matsumura-Nakano Y, Yoshikawa Y, Watanabe H, Yamamoto K, Imada K, Domei T, Yamaji K, Kaneda K, Taniguchi R, Ehara N, Nawada R, Toyofuku M, Shinoda E, Suwa S, Tamura T, Inada T, Matsuda M, Aoyama T, Sato Y, Furukawa Y, Ando K, Nakagawa Y, Kimura T; CREDO-Kyoto PCI/CABG Registry Cohort-3 Investigators : Effects of Acute Coronary Syndrome and Stable Coronary Artery Disease on Bleeding and Ischemic Risk After Percutaneous Coronary Intervention. *Circ J.* 85 (11) : 1928-1941, 2021
47. Krittanawong C, Tunhasirwet A, Wang Z, Farrell AM, Chirapongsathorn S, Zhang H, Kitai T, Mehta D : Is caffeine or coffee consumption a risk for new-onset atrial fibrillation? A systematic review and meta-analysis. *Eur J Prev Cardiol.* 28 (12) : e13-e15, 2021
48. Onishi N, Kaitani K, Nakagawa Y, Inoue K, Kobori A, Nakazawa Y, Ozawa T, Kurotobi T, Morishima I, Miura F, Watanabe T, Masuda M, Naito M, Fujimoto H, Nishida T, Furukawa Y, Shirayama T, Tanaka M, Okajima K, Yao T, Egami Y, Satomi K, Noda T, Miyamoto K, Haruna T, Higashi Y, Ito M, Horie M, Kusano KF, Shimizu W, Kamakura S, Shimizu Y, Hanazawa K, Tamura T, Izumi C, Morimoto T, Kimura T, Shizuta S; EAST-AF Investigators : The association between late-phase early recurrence within the blanking period after atrial fibrillation catheter ablation and long-term recurrence: Insights from a large-scale multicenter study. *Int J Cardiol.* 341 : 39-45, 2021
49. Yamamoto K, Natsuaki M, Morimoto T, Shiomi H, Ozasa N, Sakamoto H, Takeji Y, Imada K, Tada T, Taniguchi R, Uegaito T, Yamada M, Takeda T, Eizawa H, Suwa S, Shirotani M, Tamura T, Inoko M, Sakai H, Yamamoto T, Ishii K, Takahashi M, Tamura T, Miki S, Onodera T, Furukawa Y, Tanaka M, Ando K, Kadota K, Nakagawa Y, Kimura T; CREDO-Kyoto PCI/CABG Registry Cohort-3 investigators : Effect of Polypharmacy on Long-Term Mortality After Percutaneous Coronary Intervention. *Am J Cardiol.* 159 : 19-29, 2021

50. Iguchi M, Kato T, Yaku H, Morimoto T, Inuzuka Y, Tamaki Y, Ozasa N, Yamamoto E, Yoshikawa Y, Kitai T, Hamatani Y, Yamashita Y, Masunaga N, Ogawa H, Ishii M, An Y, Taniguchi R, Kato M, Takahashi M, Jinnai T, Ikeda T, Nagao K, Kawai T, Komasa A, Nishikawa R, Kawase Y, Morinaga T, Kawato M, Seko Y, Toyofuku M, Furukawa Y, Ando K, Kadota K, Abe M, Akao M, Sato Y, Kuwahara K, Kimura T : Ischemic Stroke in Acute Decompensated Heart Failure: From the KCHF Registry. *J Am Heart Assoc.* 10 (21) : e022525, 2021
51. Seko Y, Kato T, Morimoto T, Yaku H, Inuzuka Y, Tamaki Y, Ozasa N, Shiba M, Yamamoto E, Yoshikawa Y, Yamashita Y, Kitai T, Taniguchi R, Iguchi M, Nagao K, Jinnai T, Komasa A, Nishikawa R, Kawase Y, Morinaga T, Toyofuku M, Furukawa Y, Ando K, Kadota K, Sato Y, Kuwahara K, Kimura T; KCHF Study Investigators : Newly Diagnosed Infection After Admission for Acute Heart Failure: From the KCHF Registry. *J Am Heart Assoc.* 10 (22) : e023256, 2021
52. Takeji Y, Shiomi H, Morimoto T, Yamamoto K, Matsumura-Nakano Y, Nagao K, Taniguchi R, Yamaji K, Tada T, Kato ET, Yoshikawa Y, Obayashi Y, Suwa S, Inoko M, Ehara N, Tamura T, Onodera T, Watanabe H, Toyofuku M, Nakatsuma K, Sakamoto H, Ando K, Furukawa Y, Sato Y, Nakagawa Y, Kadota K, Kimura T; CREDO-Kyoto AMI Registry Wave-2 Investigators : Differences in mortality and causes of death between STEMI and NSTEMI in the early and late phases after acute myocardial infarction. *PLoS One.* 16 (11) : e0259268, 2021
53. Ishizu K, Kaji S, Nakashima M, Kitai T, Kim K, Ehara N, Kinoshita M, Furukawa Y : Focal Intimal Disruption Size at Multidetector CT and Disease Progression in Type B Aortic Intramural Hematoma. *Radiology.* 301 (2) : 311-319, 2021
54. Yamashita Y, Morimoto T, Kadota K, Takase T, Hiramori S, Kim K, Oi M, Akao M, Kobayashi Y, Toyofuku M, Inoko M, Tada T, Izumi T, Chen PM, Murata K, Tsuyuki Y, Nishimoto Y, Sasa T, Sakamoto J, Kinoshita M, Togi K, Mabuchi H, Takabayashi K, Kato T, Ono K, Kimura T; COMMAND VTE Registry Investigators : Severity of pulmonary embolism at initial diagnosis and long-term clinical outcomes: From the COMMAND VTE Registry. *Int J Cardiol.* 343 : 107-113, 2021
55. Kobori A, Sasaki Y, Pak M, Ishikura M, Murai R, Okada T, Toyota T, Taniguchi T, Kim K, Ehara N, Kinoshita M, Kihara Y, Furukawa Y : Comparison of Cryoballoon and Contact Force-Sensing Radiofrequency Ablation for Persistent Atrial Fibrillation in Clinical Practice. *Circ J.* 86 (2) : 290-298, 2022
56. Nagao K, Kato T, Yaku H, Morimoto T, Inuzuka Y, Tamaki Y, Yamamoto E, Yoshikawa Y, Kitai T, Taniguchi R, Iguchi M, Kato M, Takahashi M, Jinnai T, Ikeda T, Kawai T, Komasa A, Nishikawa R, Kawase Y, Morinaga T, Su K, Kawato M, Seko Y, Inada T, Inoko M, Toyofuku M, Furukawa Y, Nakagawa Y, Ando K, Kadota K, Shizuta S, Ono K, Sato Y, Kuwahara K, Ozasa N, Kimura T : Current use of inotropes according to initial blood pressure and peripheral perfusion in the treatment of congestive heart failure: findings from a multicentre observational study. *BMJ Open.* 12 (1) : e053254, 2022
57. Shiba M, Kato T, Morimoto T, Yaku H, Inuzuka Y, Tamaki Y, Ozasa N, Seko Y, Yamamoto E, Yoshikawa Y, Kitai T, Yamashita Y, Iguchi M, Nagao K, Kawase Y, Morinaga T, Toyofuku M, Furukawa Y, Ando K, Kadota K, Sato Y, Nakagawa Y, Kuwahara K, Kimura T : Changes in BNP levels from discharge to 6-month visit predict subsequent outcomes in patients with acute heart failure. *PLoS One.* 17 (1) : e0263165, 2022
58. Yamashita Y, Amano H, Morimoto T, Kadota K, Hata R, Matsushita K, Osakada K, Sano A, Takase T, Hiramori S, Kim K, Oi M, Akao M, Kobayashi Y, Toyofuku M, Inoko M, Tada T, Chen PM, Murata K, Tsuyuki Y, Nishimoto Y, Sasa T, Sakamoto J, Kinoshita M, Togi K, Mabuchi H, Takabayashi K, Kato T, Ono K, Kimura T; COMMAND VTE Registry Investigators : Risk factors of thrombotic recurrence and major bleeding in patients with intermediate-risk for recurrence of venous thromboembolism. *J Thromb Thrombolysis.* 53 (1) : 182-190, 2022
59. Tsujisaka Y, Kaji S, Kim K, Pak M, Sasaki Y, Kitai T, Kobori A, Furukawa Y : Mechanism of improvement in atrial functional mitral regurgitation after catheter ablation for atrial fibrillation: Three-dimensional analysis using multislice computed tomography. *J Card Surg.* 37 (2) : 314-321, 2022

60. Murai R, Kawase Y, Taniguchi T, Morimoto T, Kadota K, Ohya M, Shimada T, Maruo T, Fuku Y, Komiya T, Ando K, Hanyu M, Kanamori N, Aoyama T, Murata K, Onodera T, Yamazaki F, Kitai T, Furukawa Y, Koyama T, Miyake M, Izumi C, Nakagawa Y, Yamanaka K, Mitsuoka H, Shirotani M, Kato M, Miki S, Nakajima H, Hirano Y, Miyazaki S, Saga T, Sugioka S, Matsuda S, Matsuda M, Ogawa T, Nagao K, Inada T, Nakayama S, Mabuchi H, Takeuchi Y, Sakamoto H, Sakaguchi G, Yamane K, Eizawa H, Toyofuku M, Tamura T, Iwakura A, Ishii M, Akao M, Shiraga K, Minamino-Muta E, Kato T, Inoko M, Ueyama K, Ikeda T, Himura Y, Komasa A, Ishii K, Hotta K, Sato Y, Fujiwara K, Kato Y, Kouchi I, Inuzuka Y, Ikeguchi S, Miwa S, Maeda C, Shinoda E, Nishizawa J, Jinnai T, Higashitani N, Kitano M, Morikami Y, Kitaguchi S, Minatoya K, Kimura T; CURRENT AS Registry Investigators : Concomitant Mitral Regurgitation in Severe Aortic Stenosis — A Report From the CURRENT AS Registry —. *Circ J.* 86 (3) : 427–437, 2022
61. Yamamoto K, Natsuaki M, Morimoto T, Shiomi H, Takeji Y, Yamaji K, Matsumura-Nakano Y, Yoshikawa Y, Yamamoto E, Fuki M, Kato E, Yamashita Y, Yaku H, Nakatsuma K, Watanabe H, Matsuda M, Tamura T, Inoko M, Mabuchi H, Shirotani M, Eizawa H, Ishii K, Inada T, Onodera T, Shinoda E, Yamamoto T, Toyofuku M, Takahashi M, Sakamoto H, Miki S, Aoyama T, Suwa S, Sato Y, Furukawa Y, Ando K, Kadota K, Nakagawa Y, Kimura T; Credo-Kyoto PCI/CABG Registry Investigators : Coronary Artery Disease Without Standard Cardiovascular Risk Factors. *Am J Cardiol.* 164 : 34–43, 2022
62. Seko Y, Kishimori T, Kato T, Morimoto T, Yaku H, Inuzuka Y, Tamaki Y, Ozasa N, Shiba M, Yamamoto E, Yoshikawa Y, Yamashita Y, Kitai T, Taniguchi R, Iguchi M, Nagao K, Kawai T, Komasa A, Nishikawa R, Kawase Y, Morinaga T, Toyofuku M, Furukawa Y, Ando K, Kadota K, Sato Y, Kuwahara K, Kimura T; KCHF Study Investigators : Coronary angiography in patients with acute heart failure: from the KCHF registry. *ESC Heart Fail.* 9 (1) : 531–544, 2022
63. Amano M, Miyake M, Kitai T, Obayashi Y, Takegami M, Nishimura K, Furukawa Y, Izumi C : Additional Effects of Antiplatelet Therapy on Anticoagulant Agents in Patients With Bioprosthetic Valves and Atrial Fibrillation. *Circ J.* 86 (3) : 415–424, 2022
64. Izumi C, Miyake M, Fujita T, Koyama T, Tanaka H, Ando K, Komiya T, Izumo M, Kawai H, Eishi K, Yoshida K, Kimura T, Nawada R, Sakamoto T, Shibata Y, Fukui T, Minatoya K, Tsujita K, Sakata Y, Takegami M, Kimura T, Sugio K, Takita A, Nishimura K, Furukawa Y; BPV-AF Registry Group : Antithrombotic Therapy for Patients With Atrial Fibrillation and Bioprosthetic Valves — Real-World Data From the Multicenter, Prospective, Observational BPV-AF Registry —. *Circ J.* 86 (3) : 440–448, 2022
65. Aizawa N, Konishi M, Kitai T, Tsujisaka Y, Kawase Y, Shimada N, Tamura K, Kimura K, Ohya Y : Infrequent use of nighttime dialysis for emergency admission due to worsening heart failure in patients on maintenance hemodialysis. *Ther Apher Dial.* 26 (1) : 85–93, 2022
66. Obayashi Y, Miyake M, Amano M, Kitai T, Takegami M, Nishimura K, Tamura T, Furukawa Y, Izumi C : Impact of mitral versus aortic bioprosthetic valve position on thromboembolism and bleeding risk in patients with atrial fibrillation. *J Cardiol.* 79 (2) : 226–232, 2022
67. Hata R, Yamashita Y, Morimoto T, Kadota K, Amano H, Murai R, Osakada K, Sano A, Takase T, Hiramori S, Kim K, Oi M, Akao M, Doi K, Kobayashi Y, Toyofuku M, Izumi T, Tada T, Chen PM, Murata K, Tsuyuki Y, Saga S, Nishimoto Y, Sasa T, Sakamoto J, Kinoshita M, Togi K, Mabuchi H, Takabayashi K, Tsujisaka Y, Seko Y, Matsushita K, Yoneda F, Kato T, Ono K, Kimura T; COMMAND VTE Registry Investigators : Periprocedural management and clinical outcomes of invasive procedures after venous thromboembolism: from the COMMAND VTE registry. *J Thromb Thrombolysis.* 53 (2) : 540–549, 2022
68. Torii Y, Okada T, Tokiwa M, Furukawa Y : Multimodal imaging of right ventricular obstruction due to metastatic cardiac tumour. *Eur Heart J Case Rep.* 5 (7) : ytab290, 2021
69. Wada F, Hiramoto N, Yamashita D, Hara S, Furukawa Y, Ishii J, Nagata K, Nannya Y, Ogawa S, Ishikawa T : Dramatic response to encorafenib in a patient with Erdheim-Chester disease harboring the BRAFV600E mutation. *Am J Hematol.* 96 (8) : E295–E298, 2021
70. Yoshida K, Nakamura K, Ishigami M, Kinoshita M, Koyama T : Staged graft replacement with thoracic endovascular aneurysm repair for an extensive thoracoabdominal aortic aneurysm after total arch replacement. *J Cardiothorac Surg.* 17 (1) : 20, 2022



71. Sano M, Kim K, Furukawa Y : Extensive Coronary Thrombosis in a COVID-19 Patient. *Intern Med.* 61 (6) : 929-930, 2022

#### VIII. 1.2 糖尿病・内分泌内科

1. 印藤貴士, 青山晃博, 原 重雄, 藤本寛太, 濱川博司, 高橋 豊 : 異所性 ACTH 症候群診断より 12 年後に切除した ACTH 産生肺カルチノイドの一例. *日本呼吸器外科学会雑誌* 35 : 736-741, 2021
2. Shishido Y, Aoyama A, Hara S, Sato Y, Tomii K, Hamakawa H, Takahashi Y : Ringed fluorodeoxyglucose uptake predicted poor prognosis after resection of pulmonary pleomorphic carcinoma. *Journal of Cardiothoracic Surgery* 17 : 47, 2022
3. Aoyama A, Yamazaki H, Yoshida A, Maruoka H, Nasu S, Shiroishi Y, Eto M, Ibaraki T, Okuuchi N, Kuroda H, Hasuike T, Doi A, Yunoki K, Higashibeppu N, Tachikawa R, Tomii K, Ishikura R, Mima H, Takahashi Y, Naito Y, Shinohara S, Sakai N, Kaihara S, Kihara Y : Safe return to elective surgery following a coronavirus disease outbreak: An observational study. *神戸市立病院紀要* 60 : 25-33, 2022
4. Fujimoto K, Hataya Y, Okubo M, Matsuoka N : Influence of Levothyroxine With Recombinant Human Thyroid-Stimulating Hormone on Urinary Iodine Excretion Before Radioactive Iodine Administration. *Endocrine Practice* 27 : 1022-1027, 2021

#### VIII. 1.3 腎臓内科

1. 澤村直彦, 中村美咲季, 伊藤誠二, 大崎啓介, 田路佳範, 吉本明弘, 能登理央 : 横隔膜交通症により PD 腹膜炎に膿胸を合併したと考えられた 1 例. *腎と透析* 2021 Vol.90 別冊 : 190-192, 2021
2. 吉本明弘 : 新型コロナウイルスと血液透析 ②透析患者の受け入れとネットワーク (各地域での取り組み) 兵庫県での取り組み (神戸市を中心に). *日本透析医学会雑誌* 55 (2) : 87-92, 2022
3. 吉本明弘 : 当院における新型コロナウイルス感染症への対応 第 1 波を振り返って. *透析フロンティア* 31 (2) : 19-21

#### VIII. 1.4 脳神経内科

1. Kumutponpanich T, Ogasawara M, Ozaki A, Ishiura H, Tsuji S, Minami N, Hayashi S, Noguchi S, Iida A, Nishino I, OPDM\_LRP12 Study Group; Mori-Yoshimura M, Oya Y, Ono K, Shimizu T, Kawata A, Shimohama S, Toyooka K, Endo K, Toru S, Sasaki O, Isahaya K, Takahashi MP, Iwasa K, Kira JI, Yamamoto T, Kawamoto M, Hamano T, Sugie K, Eura N, Shiota T, Koide M, Sekiya K, Kishi H, Hideyama T, Kawai S, Yanagimoto S, Sato H, Arahata H, Murayama S, Saito K, Hara H, Kanda T, Yaguchi H, Imai N, Kawagashira Y, Sanada M, Obara K, Kaido M, Furuta M, Kurashige T, Hara W, Kuzume D, Yamamoto M, Tsugawa J, Kishida H, Ishizuka N, Morimoto K, Tsuji Y, Tsuneyama A, Matsuno A, Sasaki R, Tamakoshi D, Abe E, Yamada S, Uzawa A : Clinicopathologic Features of Oculopharyngodistal Myopathy With LRP12 CGG Repeat Expansions Compared With Other Oculopharyngodistal Myopathy Subtypes. *JAMA Neurology* 78 : 853-863, 2021
2. 塩見悠真, 藤原 悟, 森久芳樹, 片上隆史, 川本未知, 幸原伸夫 : 後頸部へのトリガーポイント注射後に細菌性髄膜炎、化膿性血栓性静脈炎を発症した 1 例. *BRAIN and NERVE* 73 : 737-740, 2021
3. Ohira J, Yoshimura H, Takanashi M, Yamashita D, Hara S, Ueno Y, Hattori N, Kawamoto M, Kohara N : Extensive leukoencephalopathy associated with idiopathic capillary leak syndrome: report of a case with neuropathology. *Neurol Sci.* 42 : 2095-2098, 2021
4. Tsunogae M, Fujiwara S, Shiomi Y, Kikawa Y, Kohara N, Kawamoto M : Eribulin Mesylate-related Multifocal Demyelinating Neuropathy with Myokymia in a Breast Cancer Patient. *Intern Med.* 60 : 2687-2691, 2021
5. Oyanagi K, Kitai T, Yoshimura Y, Yokoi Y, Ohara N, Kohara N, Sakai N, Honda A, Onishi H, Iwata K : Effect of early intensive rehabilitation on the clinical outcomes of patients with acute stroke. *Geriatr Gerontol Int.* 21 : 623-628, 2021
6. Shiomi Y, Fujiwara S, Morihisa Y, Katakami T, Kawamoto M, Kohara N : Bacterial Meningitis and Suppurative Thrombophlebitis after Trigger Point Injections: A Case Report. *Brain Nerve.* 73 : 737-740, 2021
7. Kimura M, Yoshimura H, Kohara N : Abnormal Movements in Bickerstaff Brainstem Encephalitis Mimicking Anti-N-Methyl-d-Aspartate Receptor Encephalitis. *JAMA Neurol.* 78 : 1149, 2021

8. Fujiwara S, Yoshimura H, Kawamoto M: Isolated anhidrosis of an upper limb in a patient with lung cancer: 'one-sleeve shirt sign'. *QJM*. 114 : 527-528, 2021
9. Fujiwara S, Ohara N, Imamura H, Seo R, Nagata K, Shimizu H, Kawamoto M, Kohara N, Sakai N : Rapid Response System for In-Hospital Large Vessel Occlusion: A Case-Control Study. *Journal of Neuroendovascular Therapy* 15 : 701-706, 2021
10. Wada F, Hiramoto N, Yamashita D, Hara S, Furukawa Y, Ishii J, Nagata K, Nannya Y, Ogawa S, Ishikawa T : Dramatic response to encorafenib in a patient with Erdheim-Chester disease harboring the BRAF<sup>V600E</sup> mutation. *Am J Hematol*. 96 : E295-E298, 2021
11. 川本未知, 石山浩之, 幸原伸夫 : 【脳・神経系の感染症 - 診断と治療の最前線】 脳・神経系のウイルス感染症わが国の COVID-19 重症例における神経学的所見の検討. *医学のあゆみ* 277 : 63-70, 2021
12. 幸原伸夫 : 特集【神経生理検査における医師と検査技師の連携 (技師はどこまでするべきか)】 電気生理検査における医師と検査技師の連携 - 急性期の一般病院で働く脳神経内科医の立場から -. *臨床神経生理学* 49 : 89-92, 2021
13. 山田莞爾, 岩田健太郎, 後藤田瑞樹, 本田明広, 幸原伸夫, 鄭 浩柄 : 特集【症例で読み解く サルコペニア・フレイルの進行を防ぐ栄養ケア】 慢性肝硬変患者に対するリハビリテーション栄養と多職種連携の実践. *Nutrition Care* 14 : 437-442, 2021
14. Takenaka T, Matsuzaki M, Fujiwara S, Hayashida M, Suyama H, Kawamoto M : Myeloperoxidase anti-neutrophil cytoplasmic antibody positive optic perineuritis after mRNA coronavirus disease-19 vaccine. *QJM: An International Journal of Medicine* 114 : 737-738, 2021, (DOI:10.1093/qjmed/hcab227)
15. Tsunogae M, Yoshimura H, Matsuzaki M, Yokota S, Kawamoto M : Localised chiasmal optic neuritis in neuromyelitis optica spectrum disorder. *Pract Neurol*, 2021
16. 常峰かな, 藤原 悟, 三村直哉, 石井淳子, 川本未知, 幸原伸夫 : 病名告知後に余生について自己決定を行うことができた孤発性 Creutzfeldt-Jakob disease (CJD) の 1 例. *言語聴覚研究* 18 : 103-109, 2021
17. Tanaka T, Fukuma K, Abe S, Matsubara S, Motoyama R, Mizobuchi M, Yoshimura H, Matsuki T, Manabe Y, Suzuki J, Ikeda S, Kamogawa N, Ishiyama H, Kobayashi K, Shimotake A, Nishimura K, Onozuka D, Koga M, Toyoda K, Murayama S, Matsumoto R, Takahashi R, Ikeda A, Ihara M; PROPOSE Study Investigators : Antiseizure medications for post-stroke epilepsy: A real-world prospective cohort study. *Brain and Behavior* 11 : e2330, 2021
18. 片上隆史, 藤原 悟, 秋山智明, 清水祐里, 原 重雄, 川本未知 : 特徴的な画像所見を呈し脳生検を行った自己免疫性 glial fibrillary acidic protein (GFAP) アストロサイトパッチーの 1 例. *臨床神経学* 61 : 756-761, 2021
19. Inui R, Murakami Y, Ohara N, Yamamoto Y, Ando K, Sakai N, Kawamoto M : Serial Radiological Findings in Meningovascular Neurosyphilis Presenting as Acute Ischemic Stroke: A Case Report. *Journal of Stroke and Cerebrovascular Diseases* 30 : 106087, 2021
20. Inui R, Fujiwara S, Kohara N, Kawamoto M : Post COVID-19 Bilateral Facial Nerve Palsy. *Internal Medicine* 61 : 241-243, 2022
21. Ohara M, Yoshimoto T, Okazaki S, Gon Y, Todo K, Sasaki T, Takasugi J, Ohara N, Ihara M, Mochizuki H : RNF213 p.R4810K Variant Carriers with Intracranial Arterial Stenosis Have a Low Atherosclerotic Burden. *J Atheroscler Thromb* : 63379, 2021, (DOI:10.5551/jat.63379)
22. Ishiyama H, Ishii J, Yoshimura H, Tsunogae M, Fujiwara S, Hiya S, Inui R, Shiomi Y, Nakazawa S, Kimura M, Kuroda T, Murakami Y, Maekawa K, Ohara N, Kohara N, Kawamoto M : Neurological Manifestations and Long-term Sequelae in Hospitalized Patients with COVID-19. *Intern Med*. 60 : 3559-3567, 2021
23. Suda S, Abe A, Iguchi Y, Yagita Y, Kanzawa T, Okubo S, Ohara N, Mizunari T, Yamazaki M, Nakajima N, Kondo K, Fujimoto S, Inoue T, Iwanaga T, Terasawa Y, Shibazaki K, Kono Y, Nakajima M, Nakajima M, Mishina M, Adachi K, Imafuku I, Nomura K, Nagao T, Yaguchi H, Okamoto S, Osaki M, Kimura K : Characteristics of Ischemic Versus Hemorrhagic Stroke in Patients Receiving Oral Anticoagulants: Results of the PASTA Study. *Intern Med*. 61 : 801-810, 2022, (DOI:10.2169/internalmedicine.8113-21)
24. Enomoto Y, Uchida K, Yamagami H, Imamura H, Ohara N, Sakai N, Tanaka K, Matsumoto Y, Egashira Y, Morimoto T, Yoshimura S : Impact of Procedure Time on Clinical Outcomes of Patients Who Underwent Endovascular Therapy for Acute Ischemic Stroke. *Cerebrovasc Dis*. 50 : 443-449, 2021

25. Nguyen TN, Haussen DC, Qureshi MM, Yamagami H, Fujinaka T, Mansour OY, Abdalkader M, Frankel M, Qiu Z, Taylor A, Lylyk P, Eker OF, Mechtouff L, Piotin M, Lima FO, Mont'Alverne F, Izzath W, Sakai N, Mohammaden M, Al-Bayati AR, Renieri L, Mangiafico S, Ozretic D, Chalumeau V, Ahmad S, Rashid U, Hussain SI, John S, Griffin E, Thornton J, Fiorot JA, Rivera R, Hammami N, Cervantes-Arslanian AM, Dasenbrock HH, Vu HL, Nguyen VQ, Hetts S, Bourcier R, Guile R, Walker M, Sharma M, Frei D, Jabbour P, Herial N, Al-Mufti F, Ozdemir AO, Aykac O, Gandhi D, Chugh C, Matouk C, Lavoie P, Edgell R, Beer-Furlan A, Chen M, Killer-Oberpfalzer M, Pereira VM, Nicholson P, Huded V, Ohara N, Watanabe D, Shin DH, Magalhaes PS, Kikano R, Ortega-Gutierrez S, Farooqui M, Abou-Hamden A, Amano T, Yamamoto R, Weeks A, Cora EA, Sivan-Hoffmann R, Crosa R, Möhlenbruch M, Nagel S, Al-Jehani H, Sheth SA, Lopez Rivera VS, Siegler JE, Sani AF, Puri AS, Kuhn AL, Bernava G, Machi P, Abud DJ, Pontes-Neto OM, Wakhloo AK, Voetsch B, Raz E, Yaghi S, Mehta BP, Kimura N, Murakami M, Lee JS, Hong JM, Fahed R, Walker G, Hagashi E, Cordina SM, Roh HG, Wong K, Arenillas JF, Martinez-Galdamez M, Blasco J, Vasquez AR, Fonseca L, Silva ML, Wu TY, John S, Brehm A, Psychogios M, Mack WJ, Tenser M, Todaka T, Fujimura M, Novakovic R, Deguchi J, Sugiura Y, Tokimura H, Khatri R, Kelly M, Peeling L, Murayama Y, Winters HS, Wong J, Teleb M, Payne J, Fukuda H, Miyake K, Shimbo J, Sugimura Y, Uno M, Takenobu Y, Matsumaru Y, Yamada S, Kono R, Kanamaru T, Morimoto M, Iida J, Saini V, Yavagal D, Bushnaq S, Huang W, Linfante I, Kirmani J, Liebeskind DS, Szeder V, Shah R, Devlin TG, Birnbaum L, Luo J, Churojana A, Masoud HE, Lopez CY, Steinfort B, Ma A, Hassan AE, Al Hashmi A, McDermott M, Mokin M, Chebl A, Kargiotis O, Tsvigoulis G, Morris JG, Eskey CJ, Thon J, Rebello L, Altschul D, Cornett O, Singh V, Pandian J, Kulkarni A, Lavados PM, Olavarria VV, Todo K, Yamamoto Y, Silva GS, Geyik S, Johann J, Multani S, Kaliev A, Sonoda K, Hashimoto H, Alhazzani A, Chung DY, Mayer SA, Fifi JT, Hill MD, Zhang H, Yuan Z, Shang X, Castonguay AC, Gupta R, Jovin TG, Raymond J, Zaidat OO, Nogueira RG; SVIN COVID-19 Registry, the Middle East North Africa Stroke and Interventional Neurotherapies Organization (MENA-SINO) ; Japanese Society of Vascular and Interventional Neurology Society (JVIN) : Decline in subarachnoid haemorrhage volumes associated with the first wave of the COVID-19 pandemic. *Stroke Vasc Neurol.* 6 : 542-552, 2021
26. Nogueira RG, Qureshi MM, Abdalkader M, Martins SO, Yamagami H, Qiu Z, Mansour OY, Sathya A, Czlonkowska A, Tsvigoulis G, Aguiar de Sousa D, Demeestere J, Mikulik R, Vanacker P, Siegler JE, Körv J, Biller J, Liang CW, Sangha NS, Zha AM, Czap AL, Holmstedt CA, Turan TN, Ntaios G, Malhotra K, Tayal A, Loochtan A, Ranta A, Mistry EA, Alexandrov AW, Huang DY, Yaghi S, Raz E, Sheth SA, Mohammaden MH, Frankel M, Bila Lamou EG, Aref HM, Elbassiouny A, Hassan F, Menecie T, Mustafa W, Shokri HM, Roushdy T, Sarfo FS, Alabi TO, Arabambi B, Nwazor EO, Sunmonu TA, Wahab K, Yaria J, Mohammed HH, Adebayo PB, Riahi AD, Sassi SB, Gwaunza L, Ngwende GW, Sahakyan D, Rahman A, Ai Z, Bai F, Duan Z, Hao Y, Huang W, Li G, Li W, Liu G, Luo J, Shang X, Sui Y, Tian L, Wen H, Wu B, Yan Y, Yuan Z, Zhang H, Zhang J, Zhao W, Zi W, Leung TW, Chugh C, Huded V, Menon B, Pandian JD, Sylaja PN, Usman FS, Farhoudi M, Hokmabadi ES, Horev A, Reznik A, Sivan Hoffmann R, Ohara N, Sakai N, Watanabe D, Yamamoto R, Doijiri R, Tokuda N, Yamada T, Terasaki T, Yazawa Y, Uwatoko T, Dembo T, Shimizu H, Sugiura Y, Miyashita F, Fukuda H, Miyake K, Shimbo J, Sugimura Y, Yagita Y, Takenobu Y, Matsumaru Y, Yamada S, Kono R, Kanamaru T, Yamazaki H, Sakaguchi M, Todo K, Yamamoto N, Sonoda K, Yoshida T, Hashimoto H, Nakahara I, Kondybayeva A, Faizullina K, Kamenova S, Zhanuzakov M, Baek JH, Hwang Y, Lee JS, Lee SB, Moon J, Park H, Seo JH, Seo KD, Sohn SI, Young CJ, Ahdab R, Wan Zaidi WA, Aziz ZA, Basri HB, Chung LW, Ibrahim AB, Ibrahim KA, Looi I, Tan WY, Yahya NW, Groppa S, Leahu P, Al Hashmi AM, Imam YZ, Akhtar N, Pineda-Franks MC, Co CO, Kandyba D, Alhazzani A, Al-Jehani H, Tham CH, Mamauag MJ, Venketasubramanian N, Chen CH, Tang SC, Churojana A, Akil E, Aykaç Ö, Ozdemir AO, Giray S, Hussain SI, John S, Le VH, Tran AD, Nguyen HH, Pham TN, Nguyen TH, Nguyen TQ, Gattringer T, Enzinger C, Killer-Oberpfalzer M, Bellante F, De Blauwe S, Vanhooren G, De Raedt S, Dusart A, Lemmens R, Ligot N, Pierre Rutgers M, Yperzeele L, Alexiev F, Sakelarova T, Bedeković MR, Budincevic H, Cindric I, Hucika Z, Ozretic D, Saric MS, Pfeifer F, Karpowic I, Cernik D, Sramek M, Skoda M, Hlavacova H, Klecka L, Koutny M, Vaclavik D, Skoda O, Fiksa J, Hanelova K, Nevsimalova M, Rezek R, Prochazka P, Krejstova G, Neumann J, Vachova M, Brzezanski H, Hlinovsky D, Tenora D, Jura R,

Jurák L, Novak J, Novak A, Topinka Z, Fibrich P, Sobolova H, Volny O, Krarup Christensen H, Drenck N, Klingenberg Iversen H, Simonsen CZ, Truelsen TC, Wienecke T, Vibo R, Gross-Paju K, Toomsoo T, Antsov K, Caparros F, Cordonnier C, Dan M, Fauchoux JM, Mechtouff L, Eker O, Lesaine E, Ondze B, Peres R, Pico F, Piotin M, Pop R, Rouanet F, Gubeladze T, Khinikadze M, Lobjanidze N, Tsiskaridze A, Nagel S, Ringleb PA, Rosenkranz M, Schmidt H, Sedghi A, Siepmann T, Szabo K, Thomalla G, Palaiodimou L, Sagris D, Kargiotis O, Klivenyi P, Szapary L, Tarkanyi G, Adami A, Bandini F, Calabresi P, Frisullo G, Renieri L, Sangalli D, Pirson A, Uyttenboogaart M, van den Wijngaard I, Kristoffersen ES, Brola W, Fudala M, Horoch-Lyszczarek E, Karlinski M, Kazmierski R, Kram P, Rogoziewicz M, Kaczorowski R, Luchowski P, Sienkiewicz-Jarosz H, Sobolewski P, Fryze W, Wisniewska A, Wiszniewska M, Ferreira P, Ferreira P, Fonseca L, Marto JP, Pinho e Melo T, Nunes AP, Rodrigues M, Tedim Cruz V, Falup-Pecurariu C, Krastev G, Mako M, de Leciñana MA, Arenillas JF, Ayo-Martin O, Cruz Culebras A, Tejedor ED, Montaner J, Pérez-Sánchez S, Tola Arribas MA, Rodriguez Vasquez A, Mayza M, Bernava G, Brehm A, Machi P, Fischer U, Gralla J, Michel PL, Psychogios MN, Strambo D, Banerjee S, Krishnan K, Kwan J, Butt A, Catanese L, Demchuk AM, Field T, Haynes J, Hill MD, Khosravani H, Mackey A, Pikula A, Saposnik G, Scott CA, Shoamanesh A, Shuaib A, Yip S, Barboza MA, Barrientos JD, Portillo Rivera LI, Gongora-Rivera F, Navarro-Escudero N, Blanco A, Abraham M, Alsbroom D, Altschul D, Alvarado-Ortiz AJ, Bach I, Badruddin A, Barazangi N, Brereton C, Castonguay A, Chaturvedi S, Chaudry SA, Choe H, Choi JH, Dharmadhikari S, Desai K, Devlin TG, Doss VT, Edgell R, Etherton M, Farooqui M, Frei D, Gandhi D, Grigoryan M, Gupta R, Hassan AE, Helenius J, Kaliev A, Kaushal R, Khandelwal P, Khawaja AM, Khoury NN, Kim BS, Kleindorfer DO, Kozyfman F, Lee VH, Leung LY, Linares G, Linfante I, Lutsep HL, Macdougall L, Male S, Malik AM, Masoud H, McDermott M, Mehta BP, Min J, Mittal M, Morris JG, Multani SS, Nahab F, Nalleballe K, Nguyen CB, Novakovic-White R, Ortega-Gutierrez S, Rahangdale RH, Ramakrishnan P, Romero JR, Rost N, Rothstein A, Ruland S, Shah R, Sharma M, Silver B, Simmons M, Singh A, Starosciak AK, Strasser SL, Szeder V, Tebeb M, Tsai JP, Voetsch B, Balaguera O, Pujol Lereis VA, Luraschi A, Almeida MS, Cardoso FB, Conforto A, De Deus Silva L, Varrone Giacomini L, Oliveira Lima F, Longo AL, Magalhães PSC, Martins RT, Mont' alverne F, Mora Cuervo DL, Costa Rebello L, Valler L, Zetola VF, Lavados PM, Navia V, Olavarria VV, Almeida Toro JM, Amaya PFR, Bayona H, Corredor A, Rivera Ordonez CE, Mantilla Barbosa DK, Lara O, Patiño MR, Diaz Escobar LF, Dejesus Melgarejo Fariña DE, Cardozo Villamayor A, Zelaya Zarza AJ, Barrientos Iman DM, Rodriguez Kadota L, Campbell B, Hankey GJ, Hair C, Kleinig T, Ma A, Tomazini Martins R, Sahathevan R, Thijs V, Salazar D, Yuan-Hao Wu T, Haussen DC, Liebeskind D, Yavagal DR, Jovin TG, Zaidat OO, Nguyen TN; on behalf of the SVIN COVID-19 Global Stroke Registry : Global Impact of COVID-19 on Stroke Care and IV Thrombolysis. *Neurology*. 96 : e2824-e2838, 2021

27. Nogueira RG, Abdalkader M, Qureshi MM, Frankel MR, Mansour OY, Yamagami H, Qiu Z, Farhoudi M, Siegler JE, Yaghi S, Raz E, Sakai N, Ohara N, Piotin M, Mechtouff L, Eker O, Chalumeau V, Kleinig TJ, Pop R, Liu J, Winters HS, Shang X, Vasquez AR, Blasco J, Arenillas JF, Martinez-Galdamez M, Brehm A, Psychogios MN, Lylyk P, Haussen DC, Al-Bayati AR, Mohammaden MH, Fonseca L, Luis Silva M, Montalverne F, Renieri L, Mangiafico S, Fischer U, Gralla J, Frei D, Chugh C, Mehta BP, Nagel S, Mohlenbruch M, Ortega-Gutierrez S, Farooqui M, Hassan AE, Taylor A, Lapergue B, Consoli A, Campbell BC, Sharma M, Walker M, Van Horn N, Fiehler J, Nguyen HT, Nguyen QT, Watanabe D, Zhang H, Le HV, Nguyen VQ, Shah R, Devlin T, Khandelwal P, Linfante I, Izzath W, Lavados PM, Olavarria VV, Sampaio Silva G, de Carvalho Sousa AV, Kirmani J, Bendszus M, Amano T, Yamamoto R, Doijiri R, Tokuda N, Yamada T, Terasaki T, Yazawa Y, Morris JG, Griffin E, Thornton J, Lavoie P, Matouk C, Hill MD, Demchuk AM, Killer-Oberpfalzer M, Nahab F, Altschul D, Ramos-Pachón A, Pérez de la Ossa N, Kikano R, Boisseau W, Walker G, Cordina SM, Puri A, Luisa Kuhn A, Gandhi D, Ramakrishnan P, Novakovic-White R, Chebl A, Kargiotis O, Czap A, Zha A, Masoud HE, Lopez C, Ozretic D, Al-Mufti F, Zie W, Duan Z, Yuan Z, Huang W, Hao Y, Luo J, Kalousek V, Bourcier R, Guile R, Hetts S, Al-Jehani HM, AlHazzani A, Sadeghi-Hokmabadi E, Tebeb M, Payne J, Lee JS, Hong JM, Sohn SI, Hwang YH, Shin DH, Roh HG, Edgell R, Khatri R, Smith A, Malik A, Liebeskind D, Herial N, Jabbour P, Magalhaes P, Ozdemir AO, Aykac O, Uwatoko T, Dembo T, Shimizu H, Sugiura Y, Miyashita F, Fukuda H, Miyake K, Shimbo J, Sugimura Y,

- Beer-Furlan A, Joshi K, Catanese L, Abud DG, Neto OG, Mehrpour M, Al Hashmi A, Saqqur M, Mostafa A, Fifi JT, Hussain S, John S, Gupta R, Sivan-Hoffmann R, Reznik A, Sani AF, Geyik S, Akil E, Churojana A, Ghoreishi A, Saadatnia M, Sharifipour E, Ma A, Faulder K, Wu T, Leung L, Malek A, Voetsch B, Wakhloo A, Rivera R, Barrientos Iman DM, Pikula A, Lioutas VA, Thomalla G, Birnbaum L, Machi P, Bernava G, McDermott M, Kleindorfer D, Wong K, Patterson MS, Fiorot JA Jr, Huded V, Mack W, Tenser M, Eskey C, Multani S, Kelly M, Janardhan V, Cornett O, Singh V, Murayama Y, Mokin M, Yang P, Zhang X, Yin C, Han H, Peng Y, Chen W, Crosa R, Frudit ME, Pandian JD, Kulkarni A, Yagita Y, Takenobu Y, Matsumaru Y, Yamada S, Kono R, Kanamaru T, Yamazaki H, Sakaguchi M, Todo K, Yamamoto N, Sonoda K, Yoshida T, Hashimoto H, Nakahara I, Cora E, Volders D, Ducroux C, Shoamanesh A, Ospel J, Kaliev A, Ahmed S, Rashid U, Rebello LC, Pereira VM, Fahed R, Chen M, Sheth SA, Palaiodimou L, Tsivgoulis G, Chandra R, Koyfman F, Leung T, Khosravani H, Dharmadhikari S, Frisullo G, Calabresi P, Tsiskaridze A, Lobjanidze N, Grigoryan M, Czlonkowska A, de Sousa DA, Demeestere J, Liang C, Sangha N, Lutsep HL, Ayo-Martín Ó, Cruz-Culebras A, Tran AD, Young CY, Cordonnier C, Caparros F, De Lecinana MA, Fuentes B, Yavagal D, Jovin T, Spelle L, Moret J, Khatri P, Zaidat O, Raymond J, Martins S, Nguyen T : Global impact of COVID-19 on stroke care. *Int J Stroke*. 16 : 573-584, 2021
28. Tatebayashi K, Uchida K, Kageyama H, Imamura H, Ohara N, Sakai N, Tanaka K, Yamagami H, Matsumoto Y, Takeuchi M, Morimoto T, Yoshimura S; RESCUE-Japan Registry 2 Investigators : Differences in Acute Ischemic Stroke Management and Prognosis between Multiple Large-Vessel Occlusion and Single Large-Vessel Occlusion: Subanalysis of the RESCUE-Japan Registry 2. *Cerebrovasc Dis*. 50 : 397-404, 2021
29. Fujita K, Tanaka K, Yamagami H, Yoshimoto T, Uchida K, Morimoto T, Imamura H, Sakai N, Ohara N, Matsumoto Y, Takeuchi M, Shigeta K, Toyoda K, Yoshimura S : Outcomes of Large Vessel Occlusion Stroke in Patients Aged  $\geq 90$  Years. *Stroke* 52 : 1561-1569, 2021
30. Tsunogae M, Fujiwara S, Ohara N, Murakami Y, Maekawa K, Fukumitsu R, Goto M, Imamura H, Kawamoto M, Sakai N : Clinical Impact of Large Vessel Occlusion Achieved First Pass Effect with Stent Retriever Alone: A Single-Center Retrospective Analysis. *Journal of Neuroendovascular Therapy*, 2021, (DOI:<https://doi.org/10.5797/jnet. oa.2021-0063>)
31. Hiya S, Fujiwara S, Nakagawa A, Sato Y, Omura Y, Hara S, Kohara N, Kawamoto M : Isolated progression of miliary brain metastasis in a patient with stable lung adenocarcinoma successfully treated with whole-brain radiotherapy: A case report. *eNeurologicalSci*. 25 : 100366, 2021
32. Ota K, Kimura M, Kawamoto M : Cerebral blood flow imaging in MR-negative SARS-CoV-2-related encephalitis with abnormal psychosis. *European Journal of Nuclear Medicine and Molecular Imaging* 49 : 2450-2451, 2022
33. 川本未知, 石山浩之, 幸原伸夫 : COVID-19 患者における神経症候と長期予後. *日本臨牀* 79 (10) : 1650-1659, 2021
34. Yamasaki H, Futamura N, Funakawa I, Kohara N, Yoshimura S, Motomura M : Two Lambert-Eaton Myasthenic Syndrome Patients with Ameliorated Activities of Daily Living Due to Cholinesterase Inhibitors. *Internal Medicine* : 7902-21, 2021
35. Yamada K, Iwata K, Tachikawa R, Yoshimura Y, Kanejima Y, Yamamoto A, Ono K, Honda A, Kohara N, Tomii K, Ishikawa A, Kitai T : Impact of physical frailty on the clinical outcomes of older patients hospitalized for pneumonia. *Geriatr Gerontol Int*. 21 : 926-931, 2021
36. Tani Y, Saito T, Taniguchi S, Ishihara M, Paku M, Adachi T, Ando M, Kohara N, Kimura J : Threshold-based Monitoring of Compound Muscle Action Potentials for Percutaneous Pedicle Screw Placement in the Lumbosacral Spine: Can We Rely on Stimulation of the Uninsulated Screw to Provide a Valid Safety Warning? *Spine Publish Ahead of Print*, 2021
37. Iwata K, Kitai T, Yoshimura Y, Honda A, Shimogai T, Otsuka S, Takimoto R, Yamada K, Furukawa Y, Kohara N, Ishikawa A : Clinical impact of functional independent measure (FIM) on 180-day readmission and mortality in elderly patients hospitalized with acute decompensated heart failure. *Heart Vessels*. 36 : 1536-1541, 2021

## VIII. 1.5 消化器内科

1. Morita S, Goda K, Yano T, Kaise M, Kato M, Inoue H, Niwa Y, Kodashima S, Miyahara R, Ochiai A, Ikegami M, Hamatani S, Shimoda T, Ohkura Y, Aida J, Nakanishi Y, Yoshimura K, Ishikawa H, Takubo K, Muto M : Multicenter prospective in vivo study of an endocytoscope system (ECS) for superficial esophageal cancer. *Journal of Gastroenterology* 56 : 808-813, 2021
2. 山田莞爾, 岩田健太郎, 後藤田瑞樹, 本田明広, 幸原伸夫, 鄭 浩柄 : 症例で読み解く サルコペニア・フレイルの進行を防ぐ栄養ケア 5 慢性肝硬変患者に対するリハビリテーション栄養と多職種連携の実際. *Nutrition Care* 14 : 437-442, 2021
3. Ueda T, Yabuuchi Y, Inokuma T : Shaggy white lesion with morphological changes in the oesophagus. *Gut. gutjnl-2021-326643*, 2022, (DOI : 10.1136/gutjnl-2021-326643)

## VIII. 1.6 呼吸器内科

1. Sugimoto T, Fujimoto D, Sato Y, Tamiya M, Yokoi T, Tamiya A, Iwasawa S, Hata A, Uchida J, Fukuda Y, Hara S, Kanazu M, Hirano K, Kokubo M, Yamamoto N : Durvalumab for patients with unresectable stage III non-small cell lung cancer and grade 1 radiation pneumonitis following concurrent chemoradiotherapy: a multicenter prospective cohort study. *Invest New Drugs*. 39 : 853-859, 2021
2. Sato Y, Morimoto T, Hara S, Nagata K, Hosoya K, Nakagawa A, Tachikawa R, Tomii K : Dissociated response and clinical benefit in patients treated with nivolumab Monotherapy. *Invest New Drugs*. 39 : 1170-1178, 2021
3. Ikeda S, Misumi T, Izumi S, Sakamoto K, Nishimura N, Ro S, Fukunaga K, Okamori S, Tachikawa N, Miyata N, Shinkai M, Shinoda M, Miyazaki Y, Iijima Y, Izumo T, Inomata M, Okamoto M, Yamaguchi T, Iwabuchi K, Masuda M, Takoi H, Oyamada Y, Fujitani S, Mineshita M, Ishii H, Nakagawa A, Yamaguchi N, Hibino M, Tsushima K, Nagai T, Ishikawa S, Ishikawa N, Kondoh Y, Yamazaki Y, Gocho K, Nishizawa T, Tsuzuku A, Yagi K, Shindo Y, Takeda Y, Yamanaka T, Ogura T : Corticosteroids for hospitalized patients with mild to critically-ill COVID-19: a multicenter, retrospective, propensity score-matched study. *Scientific Reports*. 11 : 10727, 2021
4. Shimada Y, Sato Y, Tachikawa R, Hara S, Tomii K : Gastrointestinal perforation following dabrafenib and trametinib administration in non-small cell lung carcinoma with BRAF V600E mutation: a case report and literature review. *Invest New Drugs*. 39 : 1702-1706, 2021
5. Liu Y, Soh WT, Kishikawa JI, Hirose M, Nakayama EE, Li S, Sasai M, Suzuki T, Tada A, Arakawa A, Matsuoka S, Akamatsu K, Matsuda M, Ono C, Torii S, Kishida K, Jin H, Nakai W, Arase N, Nakagawa A, Matsumoto M, Nakazaki Y, Shindo Y, Kohyama M, Tomii K, Ohmura K, Ohshima S, Okamoto T, Yamamoto M, Nakagami H, Matsuura Y, Nakagawa A, Kato T, Okada M, Standley DM, Shioda T, Arase H : An infectivity-enhancing site on the SARS-CoV-2 spike protein targeted by antibodies. *Cell*. 184 : 3452-3466, 2021
6. Hasegawa T, Nakagawa A, Suzuki K, Yamashita K, Yamashita S, Iwanaga N, Tamada E, Noda K, Tomii K : Type 1 inflammatory endotype relates to low compliance, lung fibrosis, and severe complications in COVID-19. *Cytokine*. 148 : 155618, 2021
7. Kobe H, Tachikawa R, Masuno Y, Matsunashi A, Murata S, Hagimoto H, Tomii K : Apalutamide-induced severe interstitial lung disease: A report of two cases from Japan. *Respiratory Investigation* 59 : 700-705, 2021
8. 磯部 威, 石井晴之, 小島 淳, 立川 良, 松村未来 : 座談会 with コロナ時代の呼吸器内科診療. *日本内科学会雑誌* 110 : 1115-1131, 2021
9. Tomii K, Terada J, Chin K : Increased usage of the high flow nasal cannula in COVID-19 cases in Japan -from the online questionnaire survey by the Japanese Respiratory Society. *Respiratory Investigation* 59 : 666-669, 2021
10. Yamada K, Iwata K, Tachikawa R, Yoshimura Y, Kanejima Y, Yamamoto A, Ono K, Honda A, Kohara N, Tomii K, Ishikawa A, Kitai T : Impact of physical frailty on the clinical outcomes of older patients hospitalized for pneumonia. *Geriatrics Gerontology International* 21 : 926-931, 2021
11. Fujiwara S, Ohara N, Imamura H, Seo R, Nagata K, Shimizu H, Kawamoto M, Kohara N, Sakai N : Rapid Response System for In-Hospital Large Vessel Occlusion: A Case-Control Study. *Journal of Neuroendovascular Therapy* 15 : 701-706, 2021

12. Wada F, Hiramoto N, Yamashita D, Hara S, Furukawa Y, Ishii J, Nagata K, Nannya Y, Ogawa S, Ishikawa T : Dramatic response to encorafenib in a patient with Erdheim–Chester disease harboring the BRAF<sup>V600E</sup> mutation. *Am J Hematol.* 96 : E295–298, 2021
13. Shiroshita A, Miyakoshi C, Tsutsumi S, Shiba H, Shirakawa C, Sato K, Matsushita S, Kimura Y, Tomii K, Ohgiya M, Kataoka Y : Effectiveness of empirical anti-pseudomonal antibiotics for recurrent COPD exacerbation: a multicenter retrospective cohort study. *Scientific Reports* 11 : 20066, 2021
14. Takemura T, Kataoka Y, Shirakawa C, Okazaki K, Sakurai A, Imakita T, Ikegaki S, Matsumoto H, Saito E, Takata H, Kaku S, Wada N, Shinomiya M, Otsoshi T, Shimada M, Nikaido J, Iki R, Hirano K, Hirai T, Endo K, Hirabayashi M, Naganuma T : Influence of loneliness and social isolation on the diagnosis and treatment of Japanese patients with advanced lung cancer: a prospective cohort study. *Annals of palliative medicine* 10 : 6236–6246, 2021
15. Oi I, Ito I, Hirabayashi M, Endo K, Emura M, Kojima T, Tsukao H, Tomii K, Nakagawa A, Otsuka K, Akai M, Oi M, Sugita T, Fukui M, Inoue D, Hasegawa Y, Takahashi K, Yasui H, Fujita K, Ishida T, Ito A, Kita H, Kaji Y, Tsuchiya M, Tomioka H, Yamada T, Terada S, Nakaji H, Hamao N, Shirata M, Nishioka K, Yamazoe M, Shiraishi Y, Ogimoto T, Hosoya K, Ajimizu H, Shima H, Matsumoto H, Tanabe N, Hirai T : Pneumonia Caused by Severe Acute Respiratory Syndrome Coronavirus 2 and Influenza Virus: A Multicenter Comparative Study. *Open Forum Infect Dis.* 8 : ofab282, 2021
16. Irie K, Nakagawa A, Fujita H, Tamura R, Eto M, Ikesue H, Muroi N, Fukushima S, Tomii K, Hashida T : Population pharmacokinetics of favipiravir in patients with COVID-19. *CPT Pharmacometrics Syst Pharmacol.* 10 : 1161–1170, 2021
17. Shirakawa C, Shiroshita A, Shiba H, Sato K, Matsushita S, Tomii K, Kataoka Y : The prognostic factors of in-hospital death among patients with pneumonic COPD acute exacerbation. *Respiratory Investigation* 60 : 271–276, 2022
18. Tamiya M, Fujikawa K, Suzuki H, Yokoyama T, Uenami T, Tamiya A, Sato Y, Saito G, Uchida J, Morita M, Hirashima T, Fukuda Y, Kanazu M, Hosoya K, Suzuki T, Ueno K, Fujimoto D, Kumagai T, Teramukai S : Classification and regression tree for estimating predictive markers to detect T790M mutations after acquired resistance to first line EGFR-TKI: HOPE-002. *Investigational New Drugs.* 40 : 361–369, 2022
19. Tachihara M, Tsujino K, Ishihara T, Hayashi H, Sato Y, Kurata T, Sugawara S, Okamoto I, Teraoka S, Azuma K, Daga H, Yamaguchi M, Kodaira T, Satouchi M, Shimokawa M, Yamamoto N, Nakagawa K; members of the West Japan Oncology Group (WJOG) : Rationale and Design for a Multicenter, Phase II Study of Durvalumab Plus Concurrent Radiation Therapy in Locally Advanced Non–Small Cell Lung Cancer: The DOLPHIN Study (WJOG11619L). *Cancer Manag Res.* 13 : 9167–9173, 2021
20. Sakata Y, Sakata S, Oya Y, Tamiya M, Suzuki H, Shibaki R, Okada A, Kobe H, Matsumoto H, Yokoi T, Sato Y, Uenami T, Saito G, Tsukita Y, Inaba M, Ikeda H, Arai D, Maruyama H, Hara S, Tsumura S, Morinaga J, Sakagami T : Osimertinib as first-line treatment for advanced epidermal growth factor receptor mutation-positive non-small-cell lung cancer in a real-world setting (OSI-FACT). *Eur J Cancer.* 159 : 144–153, 2021
21. Harada J, Nagata K, Morimoto T, Iwata K, Matsunashi A, Sato Y, Tachikawa R, Ishikawa A, Tomii K : Effect of high-flow nasal cannula oxygen therapy on exercise tolerance in patients with idiopathic pulmonary fibrosis: A randomized crossover trial. *Respirology.* 27 : 144–151, 2022
22. Takahashi T, Sakai K, Kenmotsu H, Yoh K, Daga H, Ohira T, Ueno T, Aoki T, Hayashi H, Yamazaki K, Hosomi Y, Chen–Yoshikawa TF, Okumura N, Takiguchi Y, Sekine A, Haruki T, Yamamoto H, Sato Y, Akamatsu H, Seto T, Saeki S, Sugio K, Nishio M, Inokawa H, Yamamoto N, Nishio K, Tsuboi M : Predictive value of EGFR mutation in non-small-cell lung cancer patients treated with platinum doublet postoperative chemotherapy. *Cancer Sci.* 113 : 287–296, 2022
23. Hiya S, Fujiwara S, Nakagawa A, Sato Y, Omura Y, Hara S, Kohara N, Kawamoto M : Isolated progression of miliary brain metastasis in a patient with stable lung adenocarcinoma successfully treated with whole-brain radiotherapy: A case report. *eNeurologicalSci.* 25 : 100366, 2021

24. Hosoya K, Fujimoto D, Morimoto T, Kumagai T, Tamiya A, Taniguchi Y, Yokoyama T, Ishida T, Matsumoto H, Hirano K, Kominami R, Tomii K, Suzuki H, Hirashima T, Tanaka S, Uchida J, Morita M, Kanazu M, Mori M, Nagata K, Fukuda I, Tamiya M : Clinical factors associated with shorter durable response, and patterns of acquired resistance to first-line pembrolizumab monotherapy in PD-L1-positive non-small-cell lung cancer patients: a retrospective multicenter study. *BMC Cancer*. 21 : 346, 2021
25. Doi A, Iwata K, Kuroda H, Hasuike T, Nasu S, Kanda A, Nagao T, Nishioka H, Tomii K, Morimoto T, Kihara Y : Estimation of seroprevalence of novel coronavirus disease (COVID-19) using preserved serum at an outpatient setting in Kobe, Japan: A cross-sectional study. *Clin Epidemiol Glob Health*. 11 : 100747, 2021
26. Akamatsu H, Teraoka S, Hayashi H, Fujimoto D, Hayata A, Haratani K, Ozawa Y, Yoshida T, Iwasa T, Shimokawa T, Tomii K, Nakagawa K, Yamamoto N : Pembrolizumab Plus Amrubicin in Patients With Relapsed SCLC: Multi-Institutional, Single-Arm Phase 2 Study. *JTO Clin Res Rep*. 2 : 100184, 2021
27. Komatsu M, Yamamoto H, Matsui S, Terasaki Y, Hebisawa A, Iwasawa T, Johkoh T, Baba T, Miyamoto A, Handa T, Tomii K, Waseda Y, Bando M, Ishii H, Miyazaki Y, Yoshizawa A, Takemura T, Kawabata Y, Ogura T : Clinical characteristics of immunoglobulin G4-positive interstitial pneumonia. *ERJ Open Res*. 7 : 00317, 2021
28. Fujimoto D, Miura S, Yoshimura K, Wakuda K, Oya Y, Yokoyama T, Yokoi T, Asao T, Tamiya M, Nakamura A, Yoshioka H, Haratani K, Teraoka S, Tokito T, Murakami S, Tamiya A, Itoh S, Yokouchi H, Watanabe S, Yamaguchi O, Tomii K, Yamamoto N : Pembrolizumab plus chemotherapy-induced pneumonitis in chemo-naïve patients with non-squamous non-small cell lung cancer: A multicentre, retrospective cohort study. *Eur J Cancer* 150 : 63-72, 2021
29. Niwamoto T, Handa T, Murase Y, Nakatsuka Y, Tanizawa K, Taguchi Y, Tomioka H, Tomii K, Kita H, Uyama M, Tsuchiya M, Emura M, Kawamura T, Arai N, Arita M, Uno K, Yoshizawa A, Uozumi R, Yamaguchi I, Matsuda F, Chin K, Hirai T : Cutaneous T-cell-attracting chemokine as a novel biomarker for predicting prognosis of idiopathic pulmonary fibrosis: a prospective observational study. *Respir Res* 22 : 181, 2021
30. Shindo Y, Kondoh Y, Kada A, Doi Y, Tomii K, Mukae H, Murata N, Imai R, Okamoto M, Yamano Y, Miyazaki Y, Shinoda M, Aso H, Izumi S, Ishii H, Ito R, Saito AM, Saito TI, Hasegawa Y : Phase II Clinical Trial of Combination Therapy with Favipiravir and Methylprednisolone for COVID-19 with Non-Critical Respiratory Failure. *Infect Dis Ther*. 10 : 2353-2369, 2021
31. Kobe H, Sato Y, Ohmura K, Fujita S, Mochizuki R, Tomii K : Multitarget therapy for pembrolizumab-induced refractory hemophagocytic lympho histiocytosis. *Curr Problems Cancer Case Reports* 4 : 100120, 2021
32. Doi A, Iwata K, Kuroda H, Hasuike T, Nasu S, Nishioka H, Tomii K, Morimoto T, Kihara Y : A cross-sectional follow up study to estimate seroprevalence of coronavirus disease 2019 in Kobe, Japan. *Medicine*. 100 : e28066, 2021
33. Chen H, Nakagawa A, Takamori M, Abe S, Ueno D, Horita N, Kato S, Seki N : Diagnostic accuracy of the interferon-gamma release assay in acquired immunodeficiency syndrome patients with suspected tuberculosis infection: a meta-analysis. *Infection* 50 : 597-606, 2022
34. Shishido Y, Aoyama A, Hara S, Sato Y, Tomii K, Hamakawa H, Takahashi Y : Ringed fluorodeoxyglucose uptake predicted poor prognosis after resection of pulmonary pleomorphic carcinoma. *Journal of Cardiothoracic Surgery* 17 : 47, 2022
35. Aoyama A, Yamazaki H, Yoshida A, Maruoka H, Nasu S, Shiroishi Y, Eto M, Ibaraki T, Okuuchi N, Kuroda H, Hasuike T, Doi A, Yunoki K, Higashibeppu N, Tachikawa R, Tomii K, Ishikura R, Mima H, Takahashi Y, Naito Y, Shinohara S, Sakai N, Kaihara S, Kihara Y : Safe return to elective surgery following a coronavirus disease outbreak: An observational study. *神戸市立病院紀要* 60 : 25-33, 2022

#### VIII. 1.7 血液内科

1. Iida S, Ishikawa T, Min CK, Kim K, Yeh SP, Usmani SZ, Mateos MV, Nahi H, Heuck C, Qin X, Parasrampur DA, Gries KS, Qi M, Bahlis N, Ito S : Subcutaneous daratumumab in Asian patients with heavily pretreated multiple myeloma: subgroup analyses of the noninferiority, phase 3 COLUMBA study. *Ann Hematol*. 100 : 1065-1077, 2021, (DOI:10.1007/s00277-021-04405-2)
2. Fujikura K, Yamashita D, Yoshida M, Ishikawa T, Itoh T, Imai Y : Cytogenetic complexity and heterogeneity in intravascular lymphoma. *J Clin Pathol*. 74 : 244-250, 2021, (DOI:10.1136/jclinpath-2020-206573)



3. Konuma T, Kanda J, Yamasaki S, Harada K, Shimomura Y, Terakura S, Mizuno S, Uchida N, Tanaka M, Doki N, Ozawa Y, Nakamae H, Sawa M, Matsuoka KI, Morishige S, Maruyama Y, Ikegame K, Kimura T, Kanda Y, Ichinohe T, Atsuta Y, Yanada M : Single Cord Blood Transplantation Versus Unmanipulated Haploidentical Transplantation for Adults with Acute Myeloid Leukemia in Complete Remission. *Transplant Cell Ther.* 27 : 334.e1-334.e11, 2021, (DOI:10.1016/j.jtct.2021.01.023)
4. Ochi Y, Ochi Y, Yoshida K, Huang YJ, Kuo MC, Nannya Y, Sasaki K, Mitani K, Hosoya N, Hiramoto N, Ishikawa T, Branford S, Shanmuganathan N, Ohyashiki K, Takahashi N, Takaku T, Tsuchiya S, Kanemura N, Nakamura N, Ueda Y, Yoshihara S, Bera R, Shiozawa Y, Zhao L, Takeda J, Watatani Y, Okuda R, Makishima H, Shiraishi Y, Chiba K, Tanaka H, Sanada M, Takaori-Kondo A, Miyano S, Ogawa S, Shih LY : Clonal evolution and clinical implications of genetic abnormalities in blastic transformation of chronic myeloid leukaemia. *Nat Commun* 12 : 2833, 2021, (DOI:10.1038/s41467-021-23097-w)
5. Nishikubo M, Shimomura Y, Hiramoto N, Sawamura N, Yamaguchi T, Hara S, Ishikawa T : Reversible renal-limited thrombotic microangiopathy due to gemcitabine-dexamethasone-cisplatin therapy: a case report. *BMC Nephrol* 22 : 175, 2021, (DOI:10.1186/s12386-y)
6. Terakura S, Kuwatsuka Y, Sugita J, Takahashi S, Ozawa Y, Ozeki K, Yoshioka S, Nakamae H, Kawakita T, Sawa M, Morishige S, Najima Y, Katsuo Y, Sakaida E, Kouzai Y, Kimura T, Ichinohe T, Fukuda T, Atsuta Y, Murata M, Teshima T : Effect of methotrexate dose in graft-versus-host disease prophylaxis after single-unit cord blood transplantation in adult acute myeloid leukemia. *Int J Hematol* 113:840-850, 2021, (DOI:10.1007/s12185-021-03097-8)
7. Kawai H, Ando K, Maruyama D, Yamamoto K, Kiyohara E, Terui Y, Fukuhara N, Miyagaki T, Tokura Y, Sakata-Yanagimoto M, Igarashi T, Kuroda J, Fujita J, Uchida T, Ishikawa T, Yonekura K, Kato K, Nakanishi T, Nakai K, Matsunaga R, Tobinai K : Phase II study of E7777 in Japanese patients with relapsed/refractory peripheral and cutaneous T-cell lymphoma. *Cancer Sci* 112 : 2426-2435, 2021, (DOI:10.1111/cas.14906)
8. Shimomura Y, Hara M, Yamamoto H, Uchida N, Kawakita T, Ashida T, Takada S, Ikeda T, Morishige S, Maruyama Y, Wake A, Ichinohe T, Fukuda T, Takanashi M, Atsuta Y, Ishikawa T : Adding melphalan to fludarabine and a myeloablative dose of busulfan improved survival after allogeneic hematopoietic stem cell transplantation in a propensity score-matched cohort of hematological malignancies. *Bone Marrow Transplant.* 56 : 1691-1699, 2021, (DOI:10.1038/s41409-021-01217-w)
9. Imoto H, Yoshioka S, Hiramoto N, Morita-Fujita M, Yamashita D, Ishikawa T : Haploidentical peripheral blood stem cell transplantation with posttransplant cyclophosphamide for systemic Epstein-Barr virus-positive T-cell lymphoma of childhood. *Bone Marrow Transplant.* 56 : 1743-1745, 2021, (DOI:10.1038/s41409-021-01263-4)
10. Terui Y, Rai S, Izutsu K, Yamaguchi M, Takizawa J, Kuroda J, Ishikawa T, Kato K, Suehiro Y, Fukuhara N, Ohmine K, Goto H, Yamamoto K, Kanemura N, Ueda Y, Ishizawa K, Kumagai K, Kawasaki A, Saito T, Hashizume M, Shibayama H : A phase 2 study of polatuzumab vedotin + bendamustine + rituximab in relapsed/refractory diffuse large B-cell lymphoma. *Cancer Sci.* 112 : 2845-2854, 2021, (DOI:10.1111/cas.14937)
11. Kamijo K, Shimomura Y, Yamashita D, Ishikawa T : A Case of Tyrosine Kinase Inhibitor-Induced Bone Marrow Aplasia That Was Successfully Treated with Allogeneic Hematopoietic Stem Cell Transplantation. *Case Rep Oncol* 14 : 1139-1143, 2021, (DOI:10.1159/000517442)
12. Nakamura M, Arai Y, Hirabayashi S, Kondo T, Doki N, Uchida N, Fukuda T, Ozawa Y, Tanaka M, Sawa M, Katayama Y, Kanda Y, Shiratori S, Nakamae H, Yoshioka S, Onizuka M, Ichinohe T, Atsuta Y, Kako S : Residual disease is a strong prognostic marker in patients with acute lymphoblastic leukaemia with chemotherapy-refractory or relapsed disease prior to allogeneic stem cell transplantation. *Br J Haematol.* 194 : 403-413, 2021, (DOI:10.1111/bjh.17646)
13. Hashimoto A, Tanaka Y, Ishikawa T, Shinzato I : Successful treatment of acute promyelocytic leukemia in a patient under hemodialysis with arsenic trioxide. *Clin Case Rep.* 9 : e04417, 2021, (DOI:10.1002/ccr3.4417)
14. Yamashita K, Shimomura Y, Ikesue H, Muroi N, Yoshimoto A, Hashida T : Safety and efficacy evaluation of low-dose trimethoprim-sulfamethoxazole for prophylaxis of *Pneumocystis pneumonia* in HIV uninfected patients undergoing hemodialysis: a retrospective observational study. *BMC Infect Dis.* 21 : 664, 2021, (DOI:10.1186/s12879-021-06374-3)

15. Wada F, Hiramoto N, Yamashita D, Hara S, Furukawa Y, Ishii J, Nagata K, Nannya Y, Ogawa S, Ishikawa T: Dramatic response to encorafenib in a patient with Erdheim–Chester disease harboring the BRAF<sup>V600E</sup> mutation. *Am J Hematol* 96 : E295–E298, 2021, (DOI:10.1002/ajh.26232)
16. Doki N, Toyosaki M, Shiratori S, Osumi T, Okada M, Kawakita T, Sawa M, Ishikawa T, Ueda Y, Yoshinari N, Nakahara S : An Open–Label, Single–Arm, Multicenter Study of Ibrutinib in Japanese Patients With Steroid–dependent/Refractory Chronic Graft–Versus–Host Disease. *Transplant Cell Ther.* 27 : 867.e1–867.e9, 2021, (DOI:10.1016/j.jtct.2021.05.019)
17. Shimomura Y, Hara M, Konuma T, Itonaga H, Doki N, Ozawa Y, Eto T, Uchida N, Aoki J, Kato J, Onishi Y, Takahashi S, Fukushima K, Nakamae H, Kawakita T, Tanaka J, Fukuda T, Atsuta Y, Ishikawa T, Ishiyama K : Allogeneic hematopoietic stem cell transplantation for myelodysplastic syndrome in adolescent and young adult patients. *Bone Marrow Transplant.* 56 : 2510–2517, 2021, (DOI:10.1038/s41409–021–01324–8)
18. Shimomura Y, Hara M, Hirabayashi S, Kondo T, Mizuno S, Uchida N, Mukae J, Kawakita T, Fukuda T, Kanda Y, Ota S, Ozawa Y, Eto T, Maruyama Y, Tanaka M, Nakano N, Kimura T, Ichinohe T, Atsuta Y, Yanada M : Comparison of fludarabine, a myeloablative dose of busulfan, and melphalan vs conventional myeloablative conditioning regimen in patients with relapse and refractory acute myeloid leukemia in non–remission status. *Bone Marrow Transplant.* 56 : 2302–2304, 2021, (DOI:10.1038/s41409–021–01380–0)
19. Konuma T, Kanda J, Kuwatsuka Y, Yanada M, Kondo T, Hirabayashi S, Kako S, Akahoshi Y, Uchida N, Doki N, Ozawa Y, Tanaka M, Eto T, Sawa M, Yoshioka S, Kimura T, Kanda Y, Fukuda T, Atsuta Y, Kimura F : Differential Effect of Graft–versus–Host Disease on Survival in Acute Leukemia according to Donor Type. *Clin Cancer Res.* 27 : 4825–4835, 2021, (DOI:10.1158/1078–0432.CCR–20–4856)
20. Wada F, Shimomura Y, Yabushita T, Yamashita D, Ohno A, Imoto H, Maruoka H, Hara S, Ishikawa T : CD38 expression is an important prognostic marker in diffuse large B–cell lymphoma. *Hematol Oncol* 39 (4) : 483–489, 2021, (DOI:10.1002/hon.2904)
21. Yamada C, Shimomura Y, Kamijyo K, Kanda–Kato M, Yoshioka S, Yamashita D, Ishikawa T : BCR/ABL1–positive B–lymphoblastic Lymphoma Successfully Treated with Dasatinib–combined Chemotherapy. *Intern Med.* 60 : 3149–3153, 2021, (DOI:10.2169/internalmedicine.7066–21)
22. Hosono N, Yokoyama H, Aotsuka N, Ando K, Iida H, Ishikawa T, Usuki K, Onozawa M, Kizaki M, Kubo K, Kuroda J, Kobayashi Y, Shimizu T, Chiba S, Nara M, Hata T, Hidaka M, Fujiwara SI, Maeda Y, Morita Y, Kusano M, Lu Q, Miyawaki S, Berrak E, Hasabou N, Naoe T : Gilteritinib versus chemotherapy in Japanese patients with FLT3–mutated relapsed/refractory acute myeloid leukemia. *Int J Clin Oncol.* 26 (11) : 2131–2141, 2021, (DOI:10.1007/s10147–021–02006–7)
23. Kurosawa S, Shimomura Y, Itonaga H, Najima Y, Kobayashi T, Ozawa Y, Kanda Y, Kako S, Kawakita T, Matsuoka KI, Maruyama Y, Ota S, Nakazawa H, Imada K, Kanda J, Fukuda T, Atsuta Y, Aoki J : Fludarabine/busulfan versus busulfan/cyclophosphamide as myeloablative conditioning for myelodysplastic syndrome: a propensity score–matched analysis. *Bone Marrow Transplant.* 56 (12) : 3008–3015, 2021, (DOI:10.1038/s41409–021–01447–y)
24. Shimazu Y, Mizuno S, Fuchida SI, Suzuki K, Tsukada N, Hanagaishi A, Itagaki M, Kataoka K, Kako S, Sakaida E, Yoshioka S, Iida S, Doki N, Oyake T, Ichinohe T, Kanda Y, Astuta Y, Takamatsu H; working group of the Japan Society for Transplantation, Cellular Therapy : Improved survival of multiple myeloma patients treated with autologous transplantation in the modern era of new medicine. *Cancer Sci.* 112 : 5034–5045, 2021, (DOI:10.1111/cas.15163)
25. Yanada M, Konuma T, Yamasaki S, Harada K, Iwasaki M, Kobayashi A, Nishijima A, Tanaka M, Uchida N, Nakamae H, Fukuda T, Onizuka M, Ozawa Y, Sawa M, Katayama Y, Yoshioka S, Kimura T, Ichinohe T, Atsuta Y, Kanda J, Yano S : Allogeneic Hematopoietic Cell Transplantation from Alternative Donors in Acute Myelogenous Leukemia: A Comparative Analysis. *Transplant Cell Ther.* 27:1005.e1–1005.e8, 2021, (DOI:10.1016/j.jtct.2021.08.027)
26. Wada F, Shimomura Y, Kamijo K, Yamashita D, Ohno A, Himeno M, Maruoka H, Hara S, Ishikawa T : Prognostic impact of CD38 expression in relapsed or refractory diffuse large B–cell lymphoma and follicular lymphoma transformation. *Leuk Lymphoma.* 63 : 1484–1487, 2022, (DOI:10.1080/10428194.2021.2024820)

27. 上條公守, 下村良充, 西久保雅司, 岡田直樹, 井本寛東, 山本隆介, 平本展大, 吉岡 聡, 米谷 昇, 松下章子, 石川隆之: 当院における移植後シクロホスファミドを用いたHLA 半合致移植の経験. 神戸市立病院紀要 60: 9-15, 2022
28. 下村良充: 貧血 ～鉄欠乏性貧血を中心に. シリーズGノート 逃げない内科診療「専門外なので…」から「全身を診る!」へ, 赤井靖宏, 東 光久, 八田 告, 鈴木 聡, 西山大地, 原 将之, (やっちゃえ! Genespelist), 羊土社, 東京, 162-165, 2021
29. 下村良充: 汎血球減少症 ～非専門医はどこまでする? シリーズGノート 逃げない内科診療「専門外なので…」から「全身を診る!」へ, 赤井靖宏, 東 光久, 八田 告, 鈴木 聡, 西山大地, 原 将之, (やっちゃえ! Genespelist), 羊土社, 東京, 166-170, 2021
30. Nishikubo M, Shimomura Y, Maruoka H, Nasu S, Nishioka T, Sakizono K, Mitsuyuki S, Kubo T, Okada N, Nakagawa D, Kamijo K, Imoto H, Yamamoto R, Nagai Y, Hiramoto N, Yoshioka S, Yonetani N, Matsushita A, Miyakoshi C, Doi A, Ishikawa T: Humoral response and safety of the BNT162b2 and mRNA-1273 COVID-19 vaccines in patients with haematological diseases treated with anti-CD20 antibodies: An observational study. *Br J Haematol.* 197: 709-713, 2022, (DOI:10.1111/bjh.18151)
31. Sekiguchi N, Rai S, Munakata W, Suzuki K, Handa H, Shibayama H, Endo T, Terui Y, Iwaki N, Fukuhara N, Tatetsu H, Iida S, Ishikawa T, Iguchi D, Izutsu K: Two-year outcomes of tirabrutinib monotherapy in Waldenström's macroglobulinemia. *Cancer Sci*, 2022, (DOI:10.1111/cas.15344)
32. Kubo T, Hino A, Fukushima K, Shimomura Y, Kurashige M, Kusakabe S, Nagate Y, Fujita J, Yokota T, Kato H, Shibayama H, Tanemura A, Hosen N: Nivolumab-induced systemic lymphadenopathy occurring during treatment of malignant melanoma: a case report. *Int J Hematol.* 116: 302-306, (DOI:10.1007/s12185-022-03312-0)
33. Kurosawa S, Yamaguchi T, Mori A, Matsuura T, Mori T, Tanaka M, Kondo T, Umemoto Y, Goto H, Yoshioka S, Machida S, Sato T, Katayama Y, Kato S, Shono K, Mizuno I, Fujiwara SI, Kohno A, Takahashi M, Fukuda T: Resignation and return to work in patients receiving allogeneic hematopoietic cell transplantation close up. *J Cancer Surviv*, 2021, (DOI:10.1007/s11764-021-01092-w)
34. Shimomura Y, Sobue T, Hirabayashi S, Kondo T, Mizuno S, Kanda J, Fujino T, Kataoka K, Uchida N, Eto T, Miyakoshi S, Tanaka M, Kawakita T, Yokoyama H, Doki N, Harada K, Wake A, Ota S, Takada S, Takahashi S, Kimura T, Onizuka M, Fukuda T, Atsuta Y, Yanada M: Comparing cord blood transplantation and matched related donor transplantation in non-remission acute myeloid leukemia. *Leukemia* 36: 1132-1138, 2021, (DOI:10.1038/s41375-021-01474-0)
35. Wada F, Kanda J, Yoshioka S, Ishikawa T, Akasaka T, Ueda Y, Hirata H, Arai Y, Yago K, Anzai N, Watanabe M, Ikeda T, Yonezawa A, Imada K, Itoh M, Kitano T, Takeoka T, Hishizawa M, Nohgawa M, Arima N, Asagoe K, Kondo T, Takaori-Kondo A; Kyoto Stem Cell Transplantation Group (KSCTG): Single Cord Blood Transplantation Versus HLA-Haploidentical-related Donor Transplantation Using Posttransplant Cyclophosphamide in Patients With Hematological Malignancies. *Transplantation*, 2021, (DOI:10.1097/TP.0000000000004006)

## VIII. 1.8 腫瘍内科

1. Ikoma T, Shimokawa M, Kotaka M, Matsumoto T, Nagai H, Boku S, Shibata N, Yasui H, Satake H: Clinical and prognostic features of patients with detailed RAS/BRAF-mutant colorectal cancer in Japan. *BMC Cancer* 21(1): 518, 2021, (DOI:10.1186/s12885-021-08271-z)
2. Satake H, Hashida H, Tanioka H, Miyake Y, Yoshioka S, Watanabe T, Matsuura M, Kyogoku T, Inukai M, Kotake T, Okita Y, Matsumoto T, Yasui H, Kotaka M, Kato T, Kaihara S, Tsuji A: Hepatectomy Followed by Adjuvant Chemotherapy with 3-Month Capecitabine Plus Oxaliplatin for Colorectal Cancer Liver Metastases. *The Oncologist* 26(7): e1125-e1132, 2021, (DOI:10.1002/onco.13816)
3. 安井久晃, 濱田麻美子, 田中年恵: 抗がん薬の曝露による生殖への影響とその対策. *がん看護*. 26(6): 551-555, 2021
4. Ikeshue H, Mouri M, Tomita H, Hirabatake M, Ikemura M, Muroi N, Yamamoto S, Takenobu T, Tomii K, Kawakita M, Katoh H, Ishikawa T, Yasui H, Hashida T: Associated characteristics and treatment outcomes of medication-related osteonecrosis of the jaw in patients receiving denosumab or zoledronic acid for bone metastases. *Support Care Cancer*. 29(8): 4763-4772, 2021, (DOI:10.1007/s00520-021-06018-x)

5. Ogata M, Ama Y, Ogata T, Hirabatake M, Yasui H, Satake H : Direct Oral Anticoagulants for the Treatment of Venous Thromboembolism in Patients With Active Cancer. *In Vivo* 35 (5) : 2747-2753, 2021, (DOI:10.21873/invivo.12559)
6. Jogo T, Nakamura Y, Shitara K, Bando H, Yasui H, Esaki T, Terazawa T, Satoh T, Shinozaki E, Nishina T, Sunakawa Y, Komatsu Y, Hara H, Oki E, Matsuhashi N, Ohta T, Kato T, Ohtsubo K, Kawakami T, Okano N, Yamamoto Y, Yamada T, Tsuji A, Odegaard JL, Taniguchi H, Doi T, Fujii S, Yoshino T : Circulating Tumor DNA Analysis Detects FGFR2 Amplification and Concurrent Genomic Alterations Associated with FGFR Inhibitor Efficacy in Advanced Gastric Cancer. *Clin Cancer Res.* 27 (20) : 5619-5627, 2021, (DOI:10.1158/1078-0432.CCR-21-1414)
7. Nakamura M, Satake H, Sagawa T, Takagane A, Sekikawa T, Oguchi K, Kaji T, Takeuchi M, Ichikawa W, Fujii M : <sup>18</sup>F-FDG-PET/CT as an imaging biomarker for regorafenib efficacy in metastatic colorectal cancer (JACCRO CC-12). *Oncol Ther.* 9 (2) : 635-645, 2021, (DOI:10.1007/s40487-021-00173-1)
8. Iwatsuki M, Orita H, Kobayashi K, Hidaka S, Arigami T, Kusumoto T, Satake H, Oki E, Tsutsumi S, Tobimatsu K, Shimokawa M, Saeki H, Makiyama A, Baba H, Mori M : Phase II study of S-1 and oxaliplatin as neoadjuvant chemotherapy for locally advanced adenocarcinoma of the gastric or esophagogastric junction: KSCC1601. *Gastric Cancer.* 25 (1) : 180-187, 2022, (DOI:10.1007/s10120-021-01218-0)
9. Takahashi Y, Sunakawa Y, Inoue E, Kawabata R, Ishiguro A, Kito Y, Akamaru Y, Takahashi M, Yabusaki H, Matsuyama J, Makiyama A, Tsuda M, Suzuki T, Yasui H, Matoba R, Kawakami H, Nakajima TE, Muro K, Ichikawa W, Fujii M : Real-world effectiveness of nivolumab in advanced gastric cancer: the DELIVER trial (JACCRO GC-08). *Gastric Cancer.* 25 (1) : 235-244, 2022, (DOI:10.1007/s10120-021-01237-x)
10. Nakamura Y, Okamoto W, Denda T, Nishina T, Komatsu Y, Yuki S, Yasui H, Esaki T, Sunakawa Y, Ueno M, Shinozaki E, Matsuhashi N, Ohta T, Kato K, Ohtsubo K, Bando H, Hara H, Satoh T, Yamazaki K, Yamamoto Y, Okano N, Terazawa T, Kato T, Oki E, Tsuji A, Horita Y, Hamamoto Y, Kawazoe A, Nakajima H, Nomura S, Mitani R, Yuasa M, Akagi K, Yoshino T : Clinical Validity of Plasma-Based Genotyping for Microsatellite Instability Assessment in Advanced GI Cancers: SCRUM-Japan GOZILA Substudy. *JCO Precis Oncol.* 6 : e2100383, 2022, (DOI:10.1200/PO.21.00383)
11. Kang YK, Chen LT, Ryu MH, Oh DY, Oh SC, Chung HC, Lee KW, Omori T, Shitara K, Sakuramoto S, Chung IJ, Yamaguchi K, Kato K, Sym SJ, Kadowaki S, Tsuji K, Chen JS, Bai LY, Oh SY, Choda Y, Yasui H, Takeuchi K, Hirashima Y, Hagihara S, Boku N : Nivolumab plus chemotherapy versus placebo plus chemotherapy in patients with HER2-negative, untreated, unresectable advanced or recurrent gastric or gastro-oesophageal junction cancer (ATTRACTION-4) : a randomised, multicentre, double-blind, placebo-controlled, phase 3 trial. *Lancet Oncol.* 23 (2) : 234-247, 2022, (DOI:10.1016/S1470-2045(21)00692-6)

#### VIII. 1.9 膠原病・リウマチ内科

1. Tsuchiya H, Ota M, Sumitomo S, Ishigaki K, Suzuki A, Sakata T, Tsuchida Y, Inui H, Hirose J, Kochi Y, Kadono Y, Shirahige K, Tanaka S, Yamamoto K, Fujio K : Parsing multiomics landscape of activated synovial fibroblasts highlights drug targets linked to genetic risk of rheumatoid arthritis. *Annals of the Rheumatic Diseases.* 80 (4) : 440-450, 2021, (DOI:10.1136/annrheumdis-2020-218189)
2. Bing N, Zhou H, Chen X, Hirose T, Kochi Y, Tsuchida Y, Ishigaki K, Sumitomo S, Fujio K, Zhang B, Valdez H, Vincent MS, Martin D, Clark JD : Contribution of a European-Prevalent Variant near CD83 and an East Asian-Prevalent Variant near IL17RB to Herpes Zoster Risk in Tofacitinib Treatment: Results of Genome-Wide Association Study Meta-Analyses. *Arthritis & Rheumatology.* 73 (7) : 1155-1166, 2021, (DOI:10.1002/art.41655)
3. Yanaoka H, Nagafuchi Y, Hanata N, Takeshima Y, Ota M, Suwa Y, Shirai H, Sugimori Y, Okubo M, Kobayashi S, Hatano H, Yamada S, Tsuchida Y, Iwasaki Y, Sumitomo S, Shoda H, Okada M, Okamura T, Yamamoto K, Fujio K : Identifying the most influential gene expression profile in distinguishing ANCA-associated vasculitis from healthy controls. *Journal of Autoimmunity.* 119 : 102617, 2021, (DOI:10.1016/j.jaut.2021.102617)
4. Ota M, Nagafuchi Y, Hatano H, Ishigaki K, Terao C, Takeshima Y, Yanaoka H, Kobayashi S, Okubo M, Shirai H, Sugimori Y, Maeda J, Nakano M, Yamada S, Yoshida R, Tsuchiya H, Tsuchida Y, Akizuki S, Yoshifuji H, Ohmura K, Mimori T, Yoshida K, Kurosaka D, Okada M, Setoguchi K, Kaneko H, Ban N, Yabuki N,

- Matsuki K, Mutoh H, Oyama S, Okazaki M, Tsunoda H, Iwasaki Y, Sumitomo S, Shoda H, Kochi Y, Okada Y, Yamamoto K, Okamura T, Fujio K : Dynamic landscape of immune cell-specific gene regulation in immune-mediated diseases. *Cell*. 184 (11) : 3006–3021.e17, 2021, (DOI:10.1016/j.cell.2021.03.056)
5. Doi H, Ohmura K, Tabuchi Y, Hashimoto M, Takase Y, Inaba R, Kozuki T, Iwasaki T, Taniguchi M, Kitagori K, Akizuki S, Murakami K, Nakashima R, Yoshifuji H, Yamamoto W, Tanaka M, Akio M : Validation and verification of the Japanese version of the systemic lupus erythematosus symptom checklist for patient quality of life. *Lupus*. 30 : 1108–1115, 2021, (DOI:10.1177/09612033211005026)
  6. Takase Y, Iwasaki T, Doi H, Tsuji H, Hashimoto M, Ueno K, Inaba R, Kozuki T, Taniguchi M, Tabuchi Y, Watanabe R, Kitagori K, Akizuki S, Murakami K, Nakashima R, Yoshifuji H, Itaya T, Yamamoto W, Uozumi R, Tanaka M, Ohmura K, Morinobu A : Correlation between irreversible organ damage and the quality of life of patients with systemic lupus erythematosus: The Kyoto Lupus Cohort survey. *Lupus*. 30 : 1577–1585, 2021, (DOI:10.1177/09612033211025614)
  7. Tsuji H, Ohmura K, Jin H, Naito R, Arase N, Kohyama M, Suenaga T, Sakakibara S, Kochi Y, Okada Y, Yamamoto K, Kikutani H, Morinobu A, Mimori T, Arase H : Anti-Double-Stranded DNA Antibodies Recognize DNA Presented on HLA Class II Molecules of Systemic Lupus Erythematosus Risk Alleles. *Arthritis Rheumatol*. 74 : 105–111, 2022, (DOI:10.1002/art.41897)
  8. Suetsugu H, Kim K, Yamamoto T, Bang SY, Sakamoto Y, Shin JM, Sugano N, Kim JS, Mukai M, Lee YK, Ohmura K, Park DJ, Takahashi D, Ahn GY, Karino K, Kwon YC, Miyamura T, Kim J, Nakamura J, Motomura G, Kuroda T, Niuro H, Miyamoto T, Takeuchi T, Ikari K, Amano K, Tada Y, Yamaji K, Shimizu M, Atsumi T, Seki T, Tanaka Y, Kubo T, Hisada R, Yoshioka T, Yamazaki M, Kabata T, Kajino T, Ohta Y, Okawa T, Naito Y, Kaneuji A, Yasunaga Y, Ohzono K, Tomizuka K, Koido M, Matsuda K, Okada Y, Suzuki A, Kim BJ, Kochi Y, Lee HS, Ikegawa S, Bae SC, Terao C : Novel susceptibility loci for steroid-associated osteonecrosis of the femoral head in systemic lupus erythematosus. *Hum Mol Genet*, 2021, (DOI:10.1093/hmg/ddab306)
  9. Iwasaki T, Doi H, Tsuji H, Tabuchi Y, Hashimoto M, Kitagori K, Akizuki S, Murakami K, Nakashima R, Yoshifuji H, Yamamoto W, Tanaka M, Ohmura K, Morinobu A : Phenotypic landscape of systemic lupus erythematosus: An analysis of the Kyoto Lupus Cohort. *Mod Rheumatol*, 2021, (DOI:10.1093/mr/roab020)
  10. Arase N, Tsuji H, Takamatsu H, Jin H, Konaka H, Hamaguchi Y, Tonomura K, Kotobuki Y, Ueda-Hayakawa I, Matsuoka S, Hirano T, Yorifuji H, Murota H, Ohmura K, Nakashima R, Sato T, Kumanogoh A, Katayama I, Arase H, Fujimoto M : Cell surface-expressed Ro52/IgG/HLA-DR complex is targeted by autoantibodies in patients with inflammatory myopathies. *J Autoimmun*. 126 : 102774, 2022, (DOI:10.1016/j.jaut.2021.102774)
  11. Tsuji H, Kuramoto N, Sasai T, Shirakashi M, Onizawa H, Kitagori K, Akizuki S, Nakashima R, Watanabe R, Onishi A, Murakami K, Yoshifuji H, Tanaka M, Hashimoto M, Ohmura K, Morinobu A : Autoantibody profiles associated with morbidity and mortality in scleroderma renal crisis. *Rheumatology (Oxford)* : keac047, 2022, (DOI:10.1093/rheumatology/keac047)
  12. Tanaka Y, Yamaguchi A, Miyamoto T, Tanimura K, Iwai H, Kaneko Y, Takeuchi T, Amano K, Iwamoto N, Kawakami A, Murakami M, Nishimoto N, Atsumi T, Sumida T, Ohmura K, Mimori T, Yamanaka H, Fujio K, Fujino Y, Saito K, Nakano K, Hirata S, Nakayamada S : Selection of treatment regimens based on shared decision-making in patients with rheumatoid arthritis on remission in the FREE-J study. *Rheumatology (Oxford)* : keac075, 2022, (DOI:10.1093/rheumatology/keac075)
  13. Liu Y, Soh WT, Kishikawa JI, Hirose M, Nakayama EE, Li S, Sasai M, Suzuki T, Tada A, Arakawa A, Matsuoka S, Akamatsu K, Matsuda M, Ono C, Torii S, Kishida K, Jin H, Nakai W, Arase N, Nakagawa A, Matsumoto M, Nakazaki Y, Shindo Y, Kohyama M, Tomii K, Ohmura K, Ohshima S, Okamoto T, Yamamoto M, Nakagami H, Matsuura Y, Nakagawa A, Kato T, Okada M, Standley DM, Shioda T, Arase H : An infectivity-enhancing site on the SARS-CoV-2 spike protein targeted by antibodies. *Cell*. 184 (13) : 3452–3466, 2021, (DOI:10.1016/j.cell.2021.05.032)

## VIII. 1. 10 小児科・新生児科

1. 高地貴行, 莊司貴代, 宮越千智, 宇津木博明, 平田健志, 小野田薫, 神園万寿世, 卜部馨介, 牧野理沙, 小松和幸, 川口晃司, 小倉妙美, 堀越泰雄, 渡邊健一郎: 小児血液腫瘍診療における抗菌薬適正使用支援プログラム (Antimicrobial Stewardship Program) 導入の有用性. 日本小児血液・がん学会雑誌 58 (1): 6-11, 2021, (DOI:10.11412/jspho.58.6)
2. Fujiwara T, Miyakoshi C, Kanemitsu T, Okumura Y, Tokumasu H: Identification and Validation of Hemophilia-Related Outcomes on Japanese Electronic Medical Record Database (Hemophilia-REAL V Study). J Blood Med. 12: 571-580, 2021, (DOI:10.2147/JBM.S313371)
3. Yamamoto-Kataoka S, Kataoka Y, Tochitani K, Miyakoshi C, Yamamoto Y: Influence of anti-coronavirus disease 2019 policies on 10 pediatric infectious diseases. Pediatrics International 64(1): e14958, 2021, (DOI:10.1111/ped.14958)
4. Shiroshita A, Miyakoshi C, Tsutsumi S, Shiba H, Shirakawa C, Sato K, Matsushita S, Kimura Y, Tomii K, Ohgiya M, Kataoka Y: Effectiveness of empirical anti-pseudomonal antibiotics for recurrent COPD exacerbation: a multicenter retrospective cohort study. Sci Rep. 11 (1): 20066, 2021, (DOI:10.1038/s41598-021-99640-y)
5. Nishikubo M, Shimomura Y, Maruoka H, Nasu S, Nishioka T, Sakizono K, Mitsuyuki S, Kubo T, Okada N, Nakagawa D, Kamijo K, Imoto H, Yamamoto R, Nagai Y, Hiramoto N, Yoshioka S, Yonetani N, Matsushita A, Miyakoshi C, Doi A, Ishikawa T: Humoral response and safety of the BNT162b2 and mRNA-1273 COVID-19 vaccines in patients with haematological diseases treated with anti-CD20 antibodies: An observational study. Br J Haematol, 2022, (DOI:10.1111/bjh.18151)
6. Kurosawa H, Shiima Y, Miyakoshi C, Nezu M, Someya M, Yoshida M, Nagase H, Nozu K, Kosaka Y, Iijima K: The association between prehospital vital signs of children and their critical clinical outcomes at hospitals. Scientific Reports 12: 5199, 2022, (DOI:10.1038/s41598-022-09271-0)
7. 吉田元嗣, 岡藤隆夫, 鶴田 悟, 八若博司, 飯尾 潤, 笠井正志, 小林 謙, 桃田哲也, 山本千尋, 熊谷直樹, 藤田 位: 兵庫県で実施したおたふくかぜワクチン安全性調査. 小児感染免疫 33 (3): 211-216, 2021
8. 大岩香梨, 岡藤郁夫, 田中裕也, 伊藤 環, 李 崇至, 奥立大樹, 鶴田 悟: 舌下免疫療法の小児適応拡大後の小児アレルギー性鼻炎患者における皮下免疫療法の必要性に関する検討. アレルギー 70 (9): 1200-1206, 2021, (DOI:10.15036/arerugi.70.1200)

## VIII. 1. 11 皮膚科

1. 古岡慶子, 増田泰之, 中村文香, 谷川絢乃, 鷺見真由子, 小坂博志, 長野 徹: シスプラチン+フルオロウラシル療法および weekly パクリタキセル療法を試みた進行期エクリン汗孔癌の1例. 皮膚科の臨床 63 (5): 665-668, 2021
2. 長野 徹: 8. 表皮内病変 (2) Bowen 病 4) 非外科的治療. 日本臨床 79 (増刊号 3): 145-149, 2021
3. 長野 徹: 金皮症・銀皮症. 今日の皮膚疾患治療指針, 佐藤伸一, 藤本 学, 門野岳史, 梶島健治, 第5版, 医学書院, 東京, 700-701, 2022
4. 星野達二, 藤井 優, 森 龍雄, 吉岡信也, 長野 徹, 大郷典子: 集学的治療にて有病生存の状態です約9年にわたって経過を観察しえた乳房外パジェット病 (EMPD: Extramammary Paget's disease) の1例. 西宮市医師会医学雑誌 26: 38-41, 2021
5. 田中彰浩, 古岡慶子, 谷川絢乃, 小坂博志, 長野 徹: 著明な脂腺誘導を伴った皮膚線維腫の2例. 皮膚科の臨床 63 (13): 2079-2082, 2021
6. Mochizuki R, Oka Y, Hashimoto S, Shiraki E, Ogo M, Jimbo H, Nakano E, Fujiwara S, Nagano T, Nishigori C: A case of recessive dystrophic epidermolysis bullosa treated with a cultured epidermal autograft. J Dermatol. 48 (4): e165-e166, 2021, (DOI:10.1111/1346-8138.15774)

## VIII. 1. 12 外科・移植外科

1. Hashida H, Kondo M, Kita R, Kitamura K, Uryuhara K, Kobayashi H, Kaihara S: Laparoscopic Colectomy for Splenic Flexure Cancer Approached from Four Directions. Journal of Laparoendoscopic & Advanced Surgical Techniques. Part A 31 (9): 1014-1018, 2021

2. Iwaki K, Kaihara S, Kitamura K, Uryuhara K : Resection strategy for colorectal liver metastasis focusing on intrahepatic vessels and resection margins. *Surgery Today* 51 (9) : 1440-1445, 2021
3. Satake H, Hashida H, Tanioka H, Miyake Y, Yoshioka S, Watanabe T, Matsuura M, Kyogoku T, Inukai M, Kotake T, Okita Y, Matsumoto T, Yasui H, Kotaka M, Kato T, Kaihara S, Tsuji A : Hepatectomy Followed by Adjuvant Chemotherapy with 3-Month Capecitabine Plus Oxaliplatin for Colorectal Cancer Liver Metastases. *The Oncologist* 26 : e1125-e1132, 2021

#### VIII. 1. 13 心臓血管外科

1. 吉田壮志, 坪田秀樹, 小山忠明 : 心原性ショックをきたした虚血性心筋症と機能性僧帽弁閉鎖不全症に対して術前から IMPELLA5.0 を導入し、左室形成術と僧帽弁置換術を完遂した 1 例. *日本心臓血管外科学会雑誌* 50 (3) : 155-159, 2021
2. 若見達人, 吉田一史, 石上雅之助, 大橋啓太, 小山忠明 : COVID-19 肺炎治癒後に上行大動脈瘤に対して開心術を施行した 1 例. *日本心臓血管外科学会雑誌* 50 (6) : 410-414, 2021
3. Yoshida K, Nakamura K, Ishigami M, Kinoshita M, Koyama T : Staged graft replacement with thoracic endovascular aneurysm repair for an extensive thoracoabdominal aortic aneurysm after total arch replacement. *Journal of Cardiothoracic Surgery* 17 : 20, 2022
4. 若見達人, 小泉滋樹, 中村 健, 小山忠明 : 腹腔動脈閉塞を伴った Stanford B 型急性大動脈解離に対する TEVAR 施行後の肝臓虚血に対して肝動脈へのバイパスを施行した 1 例. *脈管学* 61 (8) : 79-83, 2021

#### VIII. 1. 14 呼吸器外科

1. 印藤貴士, 青山晃博, 原 重雄, 藤本寛太, 濱川博司, 高橋 豊 : 異所性 ACTH 症候群診断より 12 年後に切除した ACTH 産生肺カルチノイドの一例. *日本呼吸器外科学会雑誌* 35 : 736-741, 2021
2. Shishido Y, Aoyama A, Hara S, Sato Y, Tomii K, Hamakawa H, Takahashi Y : Ringed fluorodeoxyglucose uptake predicted poor prognosis after resection of pulmonary pleomorphic carcinoma. *Journal of Cardiothoracic Surgery*. 17 : 47, 2022
3. Aoyama A, Yamazaki H, Yoshida A, Maruoka H, Nasu S, Shiroishi Y, Eto M, Ibaraki T, Okuuchi N, Kuroda H, Hasuike T, Doi A, Yunoki K, Higashibeppu N, Tachikawa R, Tomii K, Ishikura R, Mima H, Takahashi Y, Naito Y, Shinohara S, Sakai N, Kaihara S, Kihara Y : Safe return to elective surgery following a coronavirus disease outbreak: An observational study. *神戸市立病院紀要* 60 : 25-33, 2022

#### VIII. 1. 15 脳神経外科

1. Lo BWY, Fukuda H, Tsang ACO, Langer DJ, Miyawaki S, Koyanagi M, Lui MW : Commentary on Post, et al. Ultra-early tranexamic acid after subarachnoid hemorrhage: A randomized controlled trial. *Lancet* 2021. *Surgical Neurology International* 12 : 156, 2021, (DOI:10.25259/SNI\_242\_2021)
2. Tatebayashi K, Yoshimura S, Sakai N, Uchida K, Kageyama H, Yamagami H, Morimoto T; RESCUE-Japan Registry 2 investigators : Relationship Between Acute Neurological Function and Long-Term Prognosis in Patients with Large Arterial Occlusions. *J Stroke Cerebrovasc Dis.* 30 : 105625, 2021, (DOI:10.1016/j.jstrokecerebrovasdis.2021.105625)
3. Enomoto Y, Uchida K, Yamagami H, Imamura H, Ohara N, Sakai N, Tanaka K, Matsumoto Y, Egashira Y, Morimoto T, Yoshimura S : Impact of Procedure Time on Clinical Outcomes of Patients Who Underwent Endovascular Therapy for Acute Ischemic Stroke. *Cerebrovasc Dis.* 50:443-449, 2021, (DOI:10.1159/000515260)
4. 寺西邦匡, 芝野克彦, 福永貴典, 馬場庸平, 佐々木学, 梅垣昌士, 松本勝美 : 脳卒中後、頭蓋骨欠損に対し、神経内視鏡を用いて頭蓋形成術を行った 2 例. *脳卒中の外科* 49 : 224-228, 2021, (DOI:https://doi.org/10.2335/scs.49.224)
5. Akiyama T, Imamura H, Fukui N, Sakai N : Helicobacter cinaedi-infected chronic subdural hematoma mimicking an expanding hematoma: A case report. *Surg Neurol Int.* 12 : 288, 2021, (DOI:10.25259/SNI\_387\_2021)
6. Koyanagi M, Mosimann PJ, Nordmeyer H, Heddier M, Krause J, Narata AP, Serwi AE, Stracke CP, Chapot R : The transvenous retrograde pressure cooker technique for the curative embolization of high-grade brain arteriovenous malformations. *Journal of Neurointerventional Surgery* 13 : 637-641, 2021, (DOI:10.1136/neurintsurg-2020-016566)

7. 小柳正臣, 山上 宏 : II 脳梗塞・TIA 3 脳梗塞慢性期 3-1 非心原性脳梗塞 (3) 経動脈の血行再建療法 (頸部頸動脈). 脳卒中治療ガイドライン 2021 : 90-91, 2021
8. Yoshida K, Uwano I, Sasaki M, Takahashi O, Sakai N, Tsuruta W, Nakase H, Ogasawara K, Osato T, Takahashi JC, Hatano T, Kinouchi H, Miyamoto S; SUAVE-PEGASUS trial Investigators : Small Unruptured Aneurysm Verification-prevention Effect against Growth of Cerebral Aneurysm Study Using Statin. *Neurol Med Chir (Tokyo)*. 61 : 442-451, 2021, (DOI:10.2176/nmc.oa.2021-0017)
9. 高野裕樹, 阿部圭市, 野村 誠, 米山 琢, 比嘉 隆, 川俣貴一 : Progressive stroke を呈した内頸動脈高度狭窄に対し急性期 staged angioplasty を施行した 2 例. *脳卒中* 43 : 365-369, 2021, (DOI:https://doi.org/10.3995/jstroke.10844)
10. Koge J, Tanaka K, Yamagami H, Yoshimoto T, Uchida K, Morimoto T, Toyoda K, Sakai N, Yoshimura S : Mechanical thrombectomy for stroke patients anticoagulated with direct oral anticoagulants versus warfarin. *J Neurol Sci*. 427 : 117545, 2021, (DOI:10.1016/j.jns.2021.117545)
11. Omura Y, Imamura H, Tani S, Adachi H, Fukumitsu R, Sunohara T, Fukui N, Sasaki N, Fukuda T, Akiyama T, Kajiura S, Shigeyasu M, Asakura K, Horii R, Sakai N : A Damp-and-Push Technique for the Copolymer (Onyx) Embolization of Dural Arteriovenous Fistula. *Journal of Stroke and Cerebrovascular Diseases* 30 : 105853, 2021, (DOI:10.1016/j.jstrokecerebrovasdis.2021.105853)
12. Oyanagi K, Kitai T, Yoshimura Y, Yokoi Y, Ohara N, Kohara N, Sakai N, Honda A, Onishi H, Iwata K : Effect of early intensive rehabilitation on the clinical outcomes of patients with acute stroke. *Geriatr Gerontol Int* 21 : 623-628, 2021, (DOI:10.1111/ggi.14202)
13. Tanaka K, Yamagami H, Yoshimoto T, Uchida K, Morimoto T, Toyoda K, Sakai N, Yoshimura S : Endovascular Therapy for Acute Ischemic Stroke in Patients With Prestroke Disability. *JAHA* 10 : e020783, 2021, (DOI:10.1161/JAHA.121.020783)
14. Todo K, Yoshimura S, Uchida K, Yamagami H, Sakai N, Kishima H, Mochizuki H, Ezura M, Okada Y, Kitagawa K, Kimura K, Sasaki M, Tanahashi N, Toyoda K, Furui E, Matsumaru Y, Minematsu K, Kitano T, Okazaki S, Sasaki T, Sakaguchi M, Takagaki M, Nishida T, Nakamura H, Morimoto T; RESCUE-Japan Registry 2 Investigators : Author Correction: Time-outcome relationship in acute large-vessel occlusion exists across all ages: subanalysis of RESCUE-Japan Registry 2. *Sci Rep*. 11 : 18246, 2021, (DOI:10.1038/s41598-021-97242-2)
15. Kashani N, Cimflova P, Ospel JM, Singh N, Almekhlafi MA, Rempel J, Fiehler J, Chen M, Sakai N, Agid R, Heran M, Kappelhof M, Goyal M : Endovascular Device Choice and Tools for Recanalization of Medium Vessel Occlusions: Insights From the MeVO FRONTIERS International Survey. *Front Neurol*. 12 : 735899, (DOI:10.3389/fneur.2021.735899)
16. Tokuda K, Yamada Y, Uchida K, Sakakibara F, Sakai N, Imamura H, Yamagami H, Tanaka K, Ezura M, Nonaka T, Matsumoto Y, Shibata M, Ohta H, Morimoto M, Fukawa N, Hatano T, Enomoto Y, Takeuchi M, Ota T, Shimizu F, Kimura N, Kamiya Y, Shimamura N, Morimoto T, Yoshimura S : Effect of prior antiplatelet therapy on large vessel occlusion in patients with non-valvular atrial fibrillation newly initiated on apixaban. *J Neurol Sci*. 428 : 117603, 2021, (DOI:10.1016/j.jns.2021.117603)
17. Sasaki N, Imamura H, Shigeyasu M, Sakai N : Radical treatment of ruptured dissecting aneurysm on the P1 segment with monotherapy using multiple LVIS stents. *BMJ Case Reports* 14 : e244950, 2021, (DOI:10.1136/bcr-2021-244950)
18. Toyoda K, Yoshimura S, Fukuda-Doi M, Qureshi AI, Martin RH, Palesch YY, Ihara M, Suarez JI, Okada Y, Hsu CY, Itabashi R, Wang Y, Yamagami H, Steiner T, Sakai N, Yoon BW, Inoue M, Minematsu K, Yamamoto H, Koga M; ATACH Trial Investigators and the SAMURAI Investigators : Intensive blood pressure lowering with nicardipine and outcomes after intracerebral hemorrhage: An individual participant data systematic review. *Int J Stroke*, 2021, (DOI:10.1177/17474930211044635)
19. Kappelhof M, Ospel JM, Cimflova P, Kashani N, Singh N, McDonough R, Sehgal A, Almekhlafi MA, Fiehler J, Chen M, Sakai N, Majoie CB, Goyal M : Worldwide anaesthesia use during endovascular treatment for medium vessel occlusion stroke. *Interv Neuroradiol*, 2021, (DOI:10.1177/15910199211041487)



20. Nishi H, Ikeda H, Ishii A, Kikuchi T, Nakahara I, Ohta T, Sakai N, Imamura H, Takahashi JC, Satow T, Okada T, Miyamoto S : A multicenter prospective registry of Borden type I dural arteriovenous fistula: results of a 3-year follow-up study. *Neuroradiology*, 2021, (DOI:10.1007/s00234-021-02752-5)
21. Uchiyama S, Toyoda K, Omae K, Saita R, Kimura K, Hoshino H, Sakai N, Okada Y, Tanaka K, Origasa H, Naritomi H, Houkin K, Yamaguchi K, Isobe M, Minematsu K, Matsumoto M, Tominaga T, Tomimoto H, Terayama Y, Yasuda S, Yamaguchi T : Dual Antiplatelet Therapy Using Cilostazol in Patients With Stroke and Intracranial Arterial Stenosis. *JAHA* 10 : e022575, 2021, (DOI:10.1161/JAHA.121.022575)
22. 後藤正憲, 箸方宏州, 上里弥波, 寺田幸恵, 岩崎孝一 : Aplastic or Twig-like Middle Cerebral Artery に伴う側副路の微小動脈瘤破裂に対してバイパス術と母血管閉塞術を行った1例. *脳血管内治療* 6 : 127-134, 2021, (DOI:10.20626/nkc.cr.2021-0015)
23. Hoshino H, Toyoda K, Omae K, Ishida N, Uchiyama S, Kimura K, Sakai N, Okada Y, Tanaka K, Origasa H, Naritomi H, Houkin K, Yamaguchi K, Isobe M, Minematsu K, Matsumoto M, Tominaga T, Tomimoto H, Terayama Y, Yasuda S, Yamaguchi T; CSPS.com Trial Investigators : Dual Antiplatelet Therapy Using Cilostazol With Aspirin or Clopidogrel: Subanalysis of the CSPS.com Trial. *Stroke*. 52 : 3430-3439, 2021, (DOI:10.1161/STROKEAHA.121.034378)
24. Inui R, Murakami Y, Ohara N, Yamamoto Y, Ando K, Sakai N, Kawamoto M : Serial Radiological Findings in Meningovascular Neurosyphilis Presenting as Acute Ischemic Stroke: A Case Report. *J Stroke Cerebrovasc Dis*. 30 : 106087, 2021, (DOI:10.1016/j.jstrokecerebrovasdis.2021.106087)
25. Iihara K, Saito N, Suzuki M, Date I, Fujii Y, Houkin K, Inoue T, Iwama T, Kawamata T, Kim P, Kinouchi H, Kishima H, Kohmura E, Kurisu K, Maruyama K, Matsumaru Y, Mikuni N, Miyamoto S, Morita A, Nakase H, Narita Y, Nishikawa R, Nozaki K, Ogasawara K, Ohata K, Sakai N, Sakamoto H, Shiokawa Y, Takahashi JC, Ueki K, Wakabayashi T, Yoshimoto K, Arai H, Tominaga T; Japan Neurosurgical Society : The Japan Neurosurgical Database: Statistics Update 2018 and 2019. *Neurol Med Chir (Tokyo)*. 61 : 675-710, 2021, (DOI:10.2176/nmc.st.2021-0254)
26. 後藤正憲, 今村博敏, 坂井信幸 : Onyx を用いた dural AVF の治療. *Rad Fan* 19 : 41-43, 2021
27. Nguyen TN, Haussen DC, Qureshi MM, Yamagami H, Fujinaka T, Mansour OY, Abdalkader M, Frankel M, Qiu Z, Taylor A, Lylyk P, Eker OF, Mechtouff L, Piotin M, Lima FO, Mont'Alverne F, Izzath W, Sakai N, Mohammaden M, Al-Bayati AR, Renieri L, Mangiafico S, Ozretic D, Chalumeau V, Ahmad S, Rashid U, Hussain SI, John S, Griffin E, Thornton J, Fiorot JA, Rivera R, Hammami N, Cervantes-Arslanian AM, Dasenbrock HH, Vu HL, Nguyen VQ, Hettis S, Bourcier R, Guile R, Walker M, Sharma M, Frei D, Jabbour P, Herial N, Al-Mufti F, Ozdemir AO, Aykac O, Gandhi D, Chugh C, Matouk C, Lavoie P, Edgell R, Beer-Furlan A, Chen M, Killer-Oberpfalzer M, Pereira VM, Nicholson P, Huded V, Ohara N, Watanabe D, Shin DH, Magalhaes PS, Kikano R, Ortega-Gutierrez S, Farooqui M, Abou-Hamden A, Amano T, Yamamoto R, Weeks A, Cora EA, Sivan-Hoffmann R, Crosa R, Möhlenbruch M, Nagel S, Al-Jehani H, Sheth SA, Lopez Rivera VS, Siegler JE, Sani AF, Puri AS, Kuhn AL, Bernava G, Machi P, Abud DG, Pontes-Neto OM, Wakhloo AK, Voetsch B, Raz E, Yaghi S, Mehta BP, Kimura N, Murakami M, Lee JS, Hong JM, Fahed R, Walker G, Hagashi E, Cordina SM, Roh HG, Wong K, Arenillas JF, Martinez-Galdamez M, Blasco J, Rodriguez Vasquez A, Fonseca L, Silva ML, Wu TY, John S, Brehm A, Psychogios M, Mack WJ, Tenser M, Todaka T, Fujimura M, Novakovic R, Deguchi J, Sugiura Y, Tokimura H, Khatri R, Kelly M, Peeling L, Murayama Y, Winters HS, Wong J, Teleb M, Payne J, Fukuda H, Miyake K, Shimbo J, Sugimura Y, Uno M, Takenobu Y, Matsumaru Y, Yamada S, Kono R, Kanamaru T, Morimoto M, Iida J, Saini V, Yavagal D, Bushnaq S, Huang W, Linfante I, Kirmani J, Liebeskind DS, Szeder V, Shah R, Devlin TG, Birnbaum L, Luo J, Churojana A, Masoud HE, Lopez CY, Steinfort B, Ma A, Hassan AE, Al Hashmi A, McDermott M, Mokin M, Chebl A, Kargiotis O, Tsigvoulis G, Morris JG, Eskey CJ, Thon J, Rebello L, Altschul D, Cornett O, Singh V, Pandian J, Kulkarni A, Lavados PM, Olavarria VV, Todo K, Yamamoto Y, Silva GS, Geyik S, Johann J, Multani S, Kaliev A, Sonoda K, Hashimoto H, Alhazzani A, Chung DY, Mayer SA, Fifi JT, Hill MD, Zhang H, Yuan Z, Shang X, Castonguay AC, Gupta R, Jovin TG, Raymond J, Zaidat OO, Nogueira RG; SVIN COVID-19 Registry, the Middle East North Africa Stroke and Interventional Neurotherapies Organization (MENA-SINO) ; Japanese Society of Vascular and Interventional Neurology Society (JVIN) : Decline in subarachnoid haemorrhage volumes associated with the first wave of the COVID-19 pandemic. *Stroke Vasc Neurol*. 6 : 542-552, 2021, (DOI:10.1136/svn-2020-000695)

28. Numa S, Uchida K, Sakai N, Yamagami H, Shirakawa M, Kageyama H, Morimoto T, Yoshimura S; Recovery by Endovascular Salvage for Cerebral Ultra-acute Embolism Japan Registry 2 (RESCUE-Japan Registry 2) Investigators : Influence of single pass recanalization in acute ischemic stroke with large vessel occlusion in patients of Asian ethnicity. *J Neurol Sci.* 432 : 120076, 2022, (DOI:10.1016/j.jns.2021.120076)
29. Shigeyasu M, Sasaki N, Nishino S, Sakai N : Giant cell arteritis with simultaneous onset of multiple intracranial vascular occlusions: A case report. *Surgical Neurology International* 13 : 21, 2022, (DOI:10.25259/SNI\_1001\_2021)
30. Akiyama T, Imamura H, Goto M, Fukumitsu R, Sunohara T, Matsumoto S, Fukui N, Omura Y, Fukuda T, Go K, Kajiura S, Shigeyasu M, Asakura K, Horii R, Naramoto Y, Nishii R, Yamamoto Y, Sakai C, Sakai N : Pipeline flow diversion with adjunctive coil embolization for internal carotid artery aneurysms following an intradural component: results in 46 consecutive aneurysms from a Japanese single-center experience. *Neurosurg Rev.* 45 : 2221-2230, 2022, (DOI:10.1007/s10143-021-01719-7)
31. Kimura M, Ohara N, Fukuda T, Imamura H, Sakai N, Kawamoto M : Parent Artery Occlusion for Bow Hunter Syndrome. *J Vasc Interv Radiol*, 2022, (DOI:10.1016/j.jvir.2022.02.007)
32. Kurogi A, Onozuka D, Hagihara A, Nishimura K, Kada A, Hasegawa M, Higashi T, Kitazono T, Ohta T, Sakai N, Arai H, Miyamoto S, Sakamoto T, Iihara K; the J-ASPECT Study Collaborators : Influence of hospital capabilities and prehospital time on outcomes of thrombectomy for stroke in Japan from 2013 to 2016. *Sci Rep.* 12 : 3252, 2022, (DOI:10.1038/s41598-022-06074-1)
33. Sakai N, Takeuchi M, Imamura H, Shimamura N, Yoshimura S, Naito H, Kimura N, Masuo O, Hirotsune N, Morita K, Toyoda K, Yamagami H, Ishihara H, Nakatsu T, Miyoshi N, Suda M, Fujimoto S : Safety, Pharmacokinetics and Pharmacodynamics of DS-1040, in Combination with Thrombectomy, in Japanese Patients with Acute Ischemic Stroke. *Clin Drug Investig.* 42 : 137-149, 2022, (DOI:10.1007/s40261-021-01112-8)
34. Toyoda K, Omae K, Hoshino H, Uchiyama S, Kimura K, Miwa K, Minematsu K, Yamaguchi K, Suda Y, Toru S, Kitagawa K, Ihara M, Koga M, Yamaguchi T; CSPS.com Trial Investigators : Association of Timing for Starting Dual Antiplatelet Treatment With Cilostazol and Recurrent Stroke: A CSPS.com Trial Post Hoc Analysis. *Neurology.* 98 : e983-e992, 2022, (DOI:10.1212/WNL.0000000000200064)
35. Yoshimura S, Uchida K, Sakai N, Yamagami H, Inoue M, Toyoda K, Matsumaru Y, Matsumoto Y, Kimura K, Ishikura R, Morimoto T : Randomized Clinical Trial of Endovascular Therapy for Acute Large Vessel Occlusion with Large Ischemic Core (RESCUE-Japan LIMIT) : Rationale and Study Protocol. *Neurol Med Chir (Tokyo).* 62 : 156-164, 2022, (DOI:10.2176/nmc.rc.2021-0311)
36. Shimamura N, Naraoka M, Uchida K, Tokuda K, Sakai N, Imamura H, Yamagami H, Tanaka K, Ezura M, Nonaka T, Matsumoto Y, Shibata M, Ohta H, Morimoto M, Fukawa N, Hatano T, Enomoto Y, Takeuchi M, Ota T, Shimizu F, Kimura N, Kamiya Y, Morimoto T, Yoshimura S : The reperfusion therapy brings apixaban administration forward in nonvalvular arterial fibrillation patients with anterior circulation large vessel occlusion or stenosis. *World Neurosurg*, 2022, (DOI:10.1016/j.wneu.2022.03.036)
37. Singh N, Kashani N, Kappelhof M, Cimflova P, Ospel J, McDonough R, Menon B, Chen M, Fiehler J, Sakai N, Goyal M : Willingness to randomize primary medium vessel occlusions for endovascular treatment. *J Neuroradiol.* 49 : 157-163, 2022, (DOI:10.1016/j.neurad.2021.08.001)
38. Kawano H, Hirano T, Inoue M, Fukuda-Doi M, Iwasaki K, Omae K, Tanaka K, Yamamoto H, Koga M, Sakai N, Nagao T, Sasaki M, Hayakawa N, Toyoda K : Tenecteplase versus alteplase for large vessel occlusion recanalization (T-FLAVOR) : Trial protocol. *Eur Stroke J.* 7:71-75, 2022, (DOI:10.1177/23969873211070455)

## VIII. 1. 16 整形外科

1. Yasuda T, Matsunaga K, Hashimura T, Tsukamoto Y, Sueyoshi T, Ota S, Fujita S, Onishi E : Bone turnover markers in the early stage of rapidly progressive osteoarthritis of the hip. *European Journal of Rheumatology* 8 (2) : 57-61, 2021, (DOI:10.5152/eurjrheum.2020.20046)
2. Wada K, Sakamoto A, Kato R, Noguchi T, Shimizu T, Otsuki B, Murata K, Fujibayashi S, Matsuda S : Chondrosarcoma Arising from the Posterior Iliac Crest Extending into the Spinal Canal. *Case Reports in Orthopedics* 2021 : 5510075, 2021, (DOI:https://doi.org/10.1155/2021/5510075)

3. Kato R, Sakamoto A, Noguchi T, Matsuda S, Terajima H : Solitary Metastasis of Hepatocellular Carcinoma to the Rectus Abdominis 13 Years After the Initial Treatment. *ACG Case Reports Journal* 8 (5) : e00607, 2021, (DOI:10.14309/crj.0000000000000607)
4. 塚本義博 : 足関節周囲骨折に対する手術時期と術後創部合併症の検討. *日本足の外科学会雑誌* 42 (1) : 184-187, 2021
5. 塚本義博, 藤田俊史, 橋村卓実 : 手関節部自損症例の検討. *臨床整形外科* 56 (10) : 1299-1304, 2021, (DOI:https://doi.org/10.11477/mf.1408202167)
6. Honda S, Onishi E, Hashimura T, Ota S, Fujita S, Tsukamoto Y, Yasuda T : Mortality related to and functional outcomes of upper cervical spine fractures in the elderly. *J Orthop Sci.* : S0949-2658 (21) 00212-8, 2021, (DOI:10.1016/j.jos.2021.06.015)
7. Takamura D, Iwata K, Sueyoshi T, Yasuda T, Moriyama H : Relationship between early physical activity after total knee arthroplasty and postoperative physical function: are these related? *Knee Surg Relat Res.* 33 : 35, 2021, (DOI:10.1186/s43019-021-00118-y)
8. Yasuda T, Honda S, Matsunaga K, Hashimura T, Tsukamoto Y, Ota S, Fujita S, Onishi E : Association of preoperative muscle composition of the lower extremity with gait function after total knee arthroplasty. *J Orthop Sci* : S0949-2658 (21) 00336-5, 2021, (DOI:10.1016/j.jos.2021.10.001)
9. 加藤 怜, 大西英次郎, 藤田 暁, 橋村卓実, 安田 義 : 頭蓋内より腰仙椎硬膜内に転移したと思われる脊索腫の1例. *中部整災誌* 64 (6) : 771-772, 2021, (DOI:https://doi.org/10.11359/chubu.2021.771)
10. 原田崇史, 藤田俊史, 安田 義 : 成人の上腕骨遠位端骨折に対する double plate 固定の治療成績. *中部整災誌* 64 (4) : 511-512, 2021, (DOI:https://doi.org/10.11359/chubu.2021.511)
11. 田中 敦, 大西英次郎, 橋村卓実, 安田 義 : 頸椎骨折に前方固定術を行い術後再挿管を要した症例の検討. *中部整災誌* 64 (4) : 567-568, 2021, (DOI:https://doi.org/10.11359/chubu.2021.567)
12. OSCIS investigators; Chikuda H, Koyama Y, Matsubayashi Y, Ogata T, Ohtsu H, Sugita S, Sumitani M, Kadono Y, Miura T, Tanaka S, Akiyama T, Ando K, Anno M, Azuma S, Endo K, Endo T, Fujiyoshi T, Furuya T, Hayashi H, Higashikawa A, Hiyama A, Horii C, Imoto S, Iizuka Y, Ikuma H, Imagama S, Inokuchi K, Inoue H, Inoue T, Ishii K, Ishii M, Ito T, Itoi A, Iwamoto K, Iwasaki M, Kaito T, Kato T, Katoh H, Kawaguchi Y, Kawano O, Kimura A, Kobayashi K, Koda M, Komatsu M, Kumagai G, Maeda T, Makino T, Mannoji C, Masuda K, Masuda K, Matsumoto K, Matsumoto M, Matsunaga S, Matsuyama Y, Mieda T, Miyoshi K, Mochida J, Moridaira H, Motegi H, Nakagawa Y, Nohara Y, Oae K, Ogawa S, Okazaki R, Okuda A, Onishi E, Ono A, Oshima M, Oshita Y, Saita K, Sasao Y, Sato K, Sawakami K, Seichi A, Seki S, Shigematsu H, Suda K, Takagi Y, Takahashi M, Takahashi R, Takasawa E, Takenaka S, Takeshita K, Takeshita Y, Tokioka T, Tokuhashi Y, Tonosu J, Uei H, Wada K, Watanabe M, Yahata T, Yamada K, Yasuda T, Yasui K, Yoshii T : Effect of Early vs Delayed Surgical Treatment on Motor Recovery in Incomplete Cervical Spinal Cord Injury With Preexisting Cervical Stenosis: A Randomized Clinical Trial. *JAMA Netw Open.* 4 (11) : e2133604, 2021, (DOI:10.1001/jamanetworkopen.2021.33604)
13. Onishi E, Ota S, Fujita S, Tsukamoto Y, Yamashita S, Hashimura T, Matsunaga K, Yasuda T : Association between sagittal spinopelvic alignment and femoral head destruction in the early stage of rapidly destructive coxopathy. *Bone & Joint Open* 3 (1) : 77-84, 2022, (DOI:10.1302/2633-1462.31.BJO-2021-0175.R1)
14. Honda S, Ota S, Yamashita S, Yasuda T : Inverse association between sarcopenia and displacement in the early phase of fragility fractures of the pelvis. *Osteoporosis and Sarcopenia* 8 (1) : 24-29, 2022, (DOI: 10.1016/j.afos.2022.03.002)
15. 原田崇史, 藤田俊史, 塚本義博, 藤田 暁, 安田 義 : 上腕骨顆上骨折の術後に生じた亜急性尺骨神経障害に対して神経剥離術を行った1例. *中部整災誌* 65 (2) : 271-272, 2022, (DOI:https://doi.org/10.11359/chubu.2022.271)
16. Onishi E, Hashimura T, Ota S, Fujita S, Tsukamoto Y, Matsunaga K, Yasuda T : The Efficacy and Complications of Preoperative Embolization of Metastatic Spinal Tumors: Risk of Paralysis after Embolization. *Spine Surgery and Related Research* 6 (3) : 288-293, 2021, (DOI:10.22603/ssr.2021-0171)

## VIII. 1. 17 形成外科

1. Nishikubo M, Nasu S, Maruoka H, Kawabata T, Ikeda M, Nishioka H : Sequential breast implant infections due to *Campylobacter fetus* subsp. *fetus*. *Journal of Infection and Chemotherapy* 27 : 1080-1083, 2021, (DOI:<https://doi.org/10.1016/j.jiac.2021.01.012>)
2. 片岡和哉 : 骨性合指症分離後の骨断面への植皮にアルカリ処理ゼラチン含有コラーゲン使用人工皮膚を用いた治療経験. *日本手外科学会雑誌* 38 : 736-739, 2022
3. Ikeda M, Matsuzoe H, Kawabata T, Oka S, Kataoka K : Two Refractory Cases of Ulcer with Achilles Tendon Exposure Treated with bFGF Inserted into Pelnac-Gplus<sup>®</sup> Following Negative Pressure Wound Therapy. *International Journal of Surgical Wound Care* 3 : 1-4, 2022, (DOI:[https://doi.org/10.36748/ijswc.3.1\\_1](https://doi.org/10.36748/ijswc.3.1_1))

## VIII. 1. 18 産婦人科

1. Hoshino T, Yoshioka S, Shinohara S, Matsushita A, Imai Y, Kinugasa M, Tsuji Y : Clinical Diagnosis of Toxoplasmosis via Histopathological and Antibody Examination of Five Immunocompetent Patients at Kobe City Medical Center General Hospital, 2008 to 2015. *Case Reports in Infectious Diseases*. 2021 : 6611273, 2021
2. Hoshino T, Mori T, Fujii Y, Yoshioka S : Advanced Abdominal Pregnancy (AAP) after 20 Weeks of Gestation in Japan: A Retrospective Review. *Obstetrics and Gynecology International*. 2021 : 6624404, 2021
3. 小山瑠梨子, 川田悦子, 林 信孝, 田邊更衣子, 大竹紀子, 青木卓哉, 山下大祐, 吉岡信也 : 当院における卵巣上皮性境界悪性腫瘍の後方視的検討. *産婦人科の実際* 70 : 663-671, 2021
4. 荻野敦子, 大竹紀子, 小池彩美, 川田悦子, 青木卓哉, 原 重雄, 吉岡信也 : 子宮底部筋層内妊娠の1例. *産婦人科の進歩* 73 : 345-350, 2021

## VIII. 1. 19 泌尿器科

1. Kambe T, Yamasaki T, Mine Y, Hagimoto H, Kokubun H, Kubota M, Tsutsumi N, Inoue K, Hara S, Kawakita M : Complete remission of renal cell carcinoma with lung carcinomatous lymphangiosis after primary therapy with immune checkpoint inhibitors followed by partial nephrectomy for surgical consolidation. *IJU case reports*, 2022
2. Aizawa R, Nakamura K, Norihisa Y, Ogata T, Inoue T, Yamasaki T, Kobayashi T, Akamatsu S, Ogawa O, Mizowaki T : Long-term safety of high-dose whole pelvic IMRT for high-risk localized prostate cancer through 10-year follow-up. *Int J Clin Oncol*. 26 (11) : 2113-2122, 2021, (DOI:[10.1007/s10147-021-02002-x](https://doi.org/10.1007/s10147-021-02002-x))
3. Uemura M, Nakaigawa N, Sassa N, Tatsugami K, Harada K, Yamasaki T, Matsubara N, Yoshimoto T, Nakagawa Y, Fukuyama T, Oya M, Shinohara N, Uemura H, Tsuzuki T : Prognostic value of programmed death-ligand 1 status in Japanese patients with renal cell carcinoma. *Int J Clin Oncol*. 26 (11) : 2073-2084, 2021, (DOI:[10.1007/s10147-021-01993-x](https://doi.org/10.1007/s10147-021-01993-x))
4. Sumiyoshi T, Yamasaki T, Takeda M, Mizuno K, Utsunomiya N, Sakamoto H, Nakamura E, Ogawa O, Akamatsu S : Detection of von Hippel-Lindau gene mutation in circulating cell-free DNA for clear cell renal cell carcinoma. *Cancer Sci*. 112 (8) : 3363-3374, 2021, (DOI:[10.1111/cas.14972](https://doi.org/10.1111/cas.14972))
5. Aizawa R, Takayama K, Nakamura K, Ogata T, Inoue T, Yamasaki T, Kobayashi T, Akamatsu S, Tashiro Y, Ota H, Ogawa O, Mizowaki T : Long-term clinical outcomes of external beam radiation therapy for oligometastatic prostate cancer: A combination of prostate-targeted treatment and metastasis-directed therapy. *Int J Urol*. 28 (7) : 749-755, 2021, (DOI:[10.1111/iju.14567](https://doi.org/10.1111/iju.14567))
6. Kubota M, Kanno T, Inoue T, Yamasaki T, Okumura K, Ito K, Yamada H, Fujii M, Shimizu Y, Yatsuda J, Moroi S, Shichiri Y, Akao T, Sawada A, Saito R, Kobayashi T, Kawakita M, Ogawa O : Effect of optimal neoadjuvant chemotherapy on oncological outcomes of locally advanced bladder cancer with laparoscopic radical cystectomy: A matched-pair analysis in a multicenter cohort. *Int J Urol*. 28 (6) : 656-664, 2021, (DOI:[10.1111/iju.14533](https://doi.org/10.1111/iju.14533))
7. 川喜田睦司 : Editorial Comment. *泌尿器科紀要* 67 (11) : 515, 2021
8. 小田侑希, 橋村正哉, 大山信雄 : 精索原発びまん性大細胞型B細胞リンパ腫の1例. *泌尿器科紀要* 67 (11) : 511-515, 2021
9. Murata S, Inoue K, Makita N, Suzuki I, Kubota M, Tohi Y, Sugino Y, Kawakita M : Two cases of immunoglobulin G4-related disease diagnosed by transvaginal urethral needle biopsy. *IJU Case Rep*. 4 (5) : 282-284, 2021, (DOI:[10.1002/iju5.12325](https://doi.org/10.1002/iju5.12325))

10. Kubota M, Kawakita M : Editorial Comment to A case of perirenal non-specific lymphadenitis mimicking a solitary renal mass. *IJU Case Rep.* 5 (1) : 13-14, 2022, (DOI:10.1002/iju5.12384)
11. Hagimoto H, Makita N, Mine Y, Kokubun H, Murata S, Abe Y, Kubota M, Tsutsumi N, Yamasaki T, Kawakita M : Comparison between 5-aminolevulinic acid photodynamic diagnosis and narrow-band imaging for bladder cancer detection. *BMC Urol.* 21 (1) : 180, 2021, (DOI:10.1186/s12894-021-00946-w)
12. Ikesue H, Yamaoka K, Matsumoto A, Hirabatake M, Muroi N, Yamasaki T, Kawakita M, Hashida T : Risk factors of proteinuria and potentially protective effect of renin-angiotensin system inhibitors in patients with renal cell carcinoma receiving axitinib. *Cancer Chemother Pharmacol*, 2022, (DOI:10.1007/s00280-022-04408-4)

## VIII. 1. 20 耳鼻咽喉科

1. 藤原敬三 : 伝音難聴とはどんな病気ですか？患者さん向け耳鳴診療 Q&A, 一般社団法人日本聴覚医学会編, 金原出版, 東京, 44-45, 2021
2. 藤原敬三 : 耳硬化症とはどんな病気ですか？患者さん向け耳鳴診療 Q&A, 一般社団法人日本聴覚医学会編, 金原出版, 東京, 46-47, 2021
3. 藤原敬三 : 慢性中耳炎とはどんな病気ですか？患者さん向け耳鳴診療 Q&A, 一般社団法人日本聴覚医学会編, 金原出版, 東京, 48-49, 2021
4. 山崎博司 : 中耳奇形とはどんな病気ですか？患者さん向け耳鳴診療 Q&A, 一般社団法人日本聴覚医学会編, 金原出版, 東京, 50-51, 2021
5. 山崎博司 : 耳の手術をした場合にどうして耳鳴りが生じるのですか？患者さん向け耳鳴診療 Q&A, 一般社団法人日本聴覚医学会編, 金原出版, 東京, 54-55, 2021
6. 山崎博司 : 耳鳴りを起こす病気にはその他どのようなものがありますか？患者さん向け耳鳴診療 Q&A, 一般社団法人日本聴覚医学会編, 金原出版, 東京, 56-57, 2021
7. 内藤 泰 : どのような手術がありますか？患者さん向け耳鳴診療 Q&A, 一般社団法人日本聴覚医学会編, 金原出版, 東京, 114-115, 2021
8. 内藤 泰 : 耳鳴りに人工内耳の手術は有効ですか？患者さん向け耳鳴診療 Q&A, 一般社団法人日本聴覚医学会編, 金原出版, 東京, 116-117, 2021
9. 白井裕美子, 前川圭子, 末廣 篤 : 小児声帯結節と成人声帯結節における臨床所見の比較一対比を通して捉えた小児声帯結節の臨床的特徴一. *音声言語医学* 62 (3) : 215-222, 2021, (DOI:https://doi.org/10.5112/jjlp.62.215)
10. 竹上つかさ, 前川圭子, 末廣 篤 : 変声を契機に発症した筋緊張性発声障害. *音声言語医学* 62 (3) : 246-251, 2021, (DOI:https://doi.org/10.5112/jjlp.62.246)
11. 内藤 泰 : 耳鼻咽喉科の「総合聴覚センター」について. *しおかぜ通信* 49 : 2-3, 2021
12. 内藤 泰 : 2021年4月開設「総合聴覚センター」訪問. *FITTING* 34 (4) : 4-7, 2021
13. Kanemaru S, Kanai R, Omori K, Yamamoto N, Okano T, Kishimoto I, Ogawa K, Kanzaki S, Fujioka M, Oishi N, Naito Y, Kakehata S, Nakamura H, Yamada S, Omae K, Kawamoto A, Fukushima M : Multicenter phase III trial of regenerative treatment for chronic tympanic membrane perforation. *Auris Nasus Larynx* 48 (6) : 1054-1060, 2021, (DOI:10.1016/j.anl.2021.02.007)
14. 山崎博司 : 先天性サイトメガロウイルス感染症と人工内耳. *MB ENTONI* 261 : 45-52, 2021
15. 山崎朋子, 諸頭三郎, 玉谷輪子, 藤井直子, 山崎博司, 藤原敬三, 内藤 泰 : 小児両側同時人工内耳例の術後2年間の聴性行動と言語発達. *Audiology Japan* 64 : 538-544, 2021, (DOI:https://doi.org/10.4295/audiology.64.538)
16. 山崎博司, 藤井直子, 玉谷輪子, 山崎朋子, 諸頭三郎, 藤原敬三, 内藤 泰 : 当院におけるEAS症例と残存聴力を有する人工内耳症例の検討～EASと人工内耳のシームレス化にむけて～. *日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会会報* 125 : 18-23, 2022, (DOI:https://doi.org/10.3950/jibiinkotokeibu.125.1\_18)
17. 山崎朋子, 内藤 泰 : 内耳奇形・蝸牛神経低形成小児における人工内耳手術後の聴覚・言語発達. *JOHNS* 38 (2) : 199-202, 2022
18. Ueda K, Yamazaki H, Michida T, Shinohara S, Naito Y : High Riding Jugular Bulb Protruding Into Tympanic Cavity: Longitudinal Radiologic Study in a Deaf Child. *Ear Nose Throat J.* : 1455613221079494, 2022, (DOI:10.1177/01455613221079494)

## VIII. 1. 21 頭頸部外科

1. Kikuchi M, Yamashita D, Hara S, Takebayashi S, Hamaguchi K, Mizuno K, Omori K, Shinohara S : Discordant Immune Marker Expression Between Preoperatively Biopsied and Matched Surgically Resected Specimens in Patients With Oral Squamous Cell Carcinoma. *Cureus* 13 (4) : e14423, 2021, (DOI:10.7759/cureus.14423)
2. Kikuchi M, Harada H, Asato R, Hamaguchi K, Tamaki H, Mizuta M, Hori R, Kojima T, Honda K, Tsujimura T, Kumabe Y, Ichimaru K, Kitani Y, Ushiro K, Kitamura M, Shinohara S, Omori K : Lingual Lymph Node Metastases as a Prognostic Factor in Oral Squamous Cell Carcinoma—A Retrospective Multicenter Study. *Medicina* 57 : 374, 2021, (DOI:10.3390/medicina57040374)
3. 篠原尚吾, 富井啓介 : 第一種感染症指定医療機関における COVID-19 対策と院内感染の傷跡. *日鼻誌* 60 (1) : 115-117, 2021
4. 篠原尚吾 : 顎下型ガマ腫の治療. *耳鼻臨床* 114 (6) : 480-481, 2021
5. Shinohara S, Takebayashi S, Hamaguchi K, Michida T, Tobe Y, Ikenaga T, Yasumoto M, Hamamoto A, Imagumbai T, Mitsuyoshi T, Ashida R, Iwai T, Okabayashi S : Concurrent Chemoradiotherapy With Weekly Low-Dose Cisplatin for Japanese Patients With Head and Neck Squamous Cell Carcinoma. *Clinical Medicine Insights. Oncology* 15 : 11795549211048417, 2021
6. Sugio K, Okamoto T, Maniwa Y, Toh Y, Okada M, Yamashita T, Shinohara S, Yoshino I, Chida M, Kuwano H, Shiotani A : Descending necrotizing mediastinitis and the proposal of a new classification. *JTCVS Open* 8 : 633-647, 2021, (DOI: <https://doi.org/10.1016/j.xjon.2021.08.001>)
7. Hoshino T, Yoshioka S, Shinohara S, Matsushita A, Imai Y, Kinugasa M, Tsuji Y : Clinical Diagnosis of Toxoplasmosis via Histopathological and Antibody Examination of Five Immunocompetent Patients at Kobe City Medical Center General Hospital, 2008 to 2015. *Case reports in infectious diseases* 2021 : 6611273, 2021, (DOI: <https://doi.org/10.1155/2021/6611273>)
8. 安本眞美, 篠原尚吾, 竹林慎治, 瀧口清海, 道田哲彦, 池永直, 戸部陽太, 濱本文美 : 舌白板症に対する切除生検—病理診断と設定すべき安全域について—. *頭頸部癌* 47 (3) : 311-315, 2021
9. 竹林慎治, 篠原尚吾, 山下大祐, 濱本文美, 安本眞美, 戸部陽太, 池永直, 道田哲彦, 山崎博司, 瀧口清海, 藤原敬三, 内藤泰, 原重雄 : 唾液腺腫瘍における術中迅速病理診断の検討. *耳鼻臨床* 114 (12) : 951-955, 2021
10. Shinohara S, Kikuchi M, Harada H, Hamaguchi K, Asato R, Tamaki H, Mizuta M, Hori R, Kojima T, Honda K, Tsujimura T, Kumabe Y, Ichimaru K, Kitani Y, Ushiro K, Omori K : Clinicopathological Characteristics and Survival Outcomes of Patients with Buccal Squamous Cell Carcinoma: Results of a Multi-Institutional Study. *Medicina* 57 : 1361, 2021, (DOI:<https://doi.org/10.3390/medicina57121361>)
11. Ikesue H, Mouri M, Tomita H, Hirabatake M, Ikemura M, Muroi N, Yamamoto S, Takenobu T, Tomii K, Kawakita M, Katoh H, Ishikawa T, Yasui H, Hashida T : Associated characteristics and treatment outcomes of medication-related osteonecrosis of the jaw in patients receiving denosumab or zoledronic acid for bone metastases. *Supportive Care in Cancer* 29 (8) : 4763-4772, 2021, (DOI:10.1007/s00520-021-06018-x)
12. 篠原尚吾, 船曳和雄, 菊地正弘, 竹林慎治, 瀧口清海, 原重雄, 山下大祐, 今井幸弘, 溝口明 : 共焦点顕微内視鏡と生体に使用可能な染色法を用いた頭頸部扁平上皮癌のリアルタイムイメージング. *日耳鼻* 125 (1) : 80-81, 2022
13. Otsuki S, Hori R, Shinohara S, Kojima T, Tamaki H, Asato R, Kitamura M, Ichimaru K, Kitani Y, Kumabe Y, Honda K, Tsujimura T, Harada H, Ushiro K, Omori K : Real-world 2-year long-term outcomes and prognostic factors in patients receiving nivolumab therapy for recurrent or metastatic squamous cell carcinoma of the head and neck. *Auris Nasus Larynx*. S0385-8146 (22) : 00038-4, 2022, (DOI:10.1016/j.anl.2022.02.006)

## VIII. 1. 22 麻酔科

1. Ito J, Kawakami D, Morimoto T, Ueta H, Shimozono T, Mima H : The Effect of Changing Arterial Transducer Position on Stroke Volume Measurements Using FloTrac System Version 4.0: A Pilot Experimental Study. *Crit Care Explor.* 3 (6) : e0465, 2021

2. Ito J, Seo R, Kawakami D, Matsuoka Y, Ouchi K, Nonami S, Miyoshi Y, Tatebe M, Tsuchida T, Asaka Y, Yanai M, Ueta H, Shimozono T, Mima H, Doi A, Tomii K, Ariyoshi K : Clinical characteristics and outcomes of critically ill patients with COVID-19 in Kobe, Japan: a single-center, retrospective, observational study. *J Anesth.* 35 (2) : 213-221, 2021
3. Ouchi K, Kawakami D, Miyoshi Y, Tatebe M : Complete atrioventricular block with ventricular pacing mimics pulsus paradoxus. *Intensive Care Med.* 47 (5) : 614-615, 2021
4. Tatebe M, Kawakami D : Harlequin syndrome after surgery for aortic dissection. *Intensive Care Med.* 47 (12) : 1485-1486, 2021
5. Nonami S, Kawakami D, Ito J, Ouchi K, Miyoshi Y, Tatebe M, Tsuchida T, Seo R, Mima H : Incidence of Adverse Events Associated With the In-Hospital Transport of Critically Ill Patients. *Crit Care Explor.* 4 (3) : e0657, 2022

#### VIII. 1. 23 歯科口腔外科

1. 竹信俊彦 : Chapter 7「私の流儀」下顎枝垂直骨切り術 (IVRO). 顎矯正手術エッセンシャル ビジュアルでわかる顎変形症の手術のポイントとトラブルの対処, 横江義彦, 堀之内康文, クインテッセンス出版, 東京, 133-144, 2021
2. 竹信俊彦 : Chapter10 オトガイ形成術. 顎矯正手術エッセンシャル ビジュアルでわかる顎変形症の手術のポイントとトラブルの対処, 横江義彦, 堀之内康文, クインテッセンス出版, 東京, 177-192, 2021
3. 竹信俊彦 : Chapter 11 下顎骨延長術. 顎矯正手術エッセンシャル ビジュアルでわかる顎変形症の手術のポイントとトラブルの対処, 横江義彦, 堀之内康文, クインテッセンス出版, 東京, 193-205, 2021
4. Nashi M, Yamamoto S, Maeda K, Taniike N, Takenobu T : A Case of Infective Endocarditis Due to Oral Streptococci After Perioperative Oral Function Management. *Cureus* 13 (12) : e20446, 2021, (DOI:10.7759/cureus.20446)
5. Yamamoto S, Nashi M, Maeda K, Taniike N, Takenobu T : Postoperative dysphagia caused by a delay in mandibular fracture treatment in a patient with severe intellectual disability: a case report. *J Med Case Rep.* 16 : 6, 2021, (DOI: <https://doi.org/10.1186/s13256-021-03116-6>)
6. Ikesue H, Doi K, Morimoto M, Hirabatake M, Muroi N, Yamamoto S, Takenobu T, Hashida T : Risk evaluation of denosumab and zoledronic acid for medication-related osteonecrosis of the jaw in patients with bone metastases: a propensity score-matched analysis. *Support Care Cancer.* 30 (3) : 2341-2348, 2022, (DOI: [10.1007/s00520-021-06634-7](https://doi.org/10.1007/s00520-021-06634-7))
7. Maeda K, Hirai Y, Nashi M, Yamamoto S, Taniike N, Takenobu T : Clinical features and antimicrobial susceptibility of oral bacteria isolated from the blood cultures of patients with infective endocarditis. *Journal of Dental Sciences* 17 (2) : 870-875, 2022, (DOI:<https://doi.org/10.1016/j.jds.2021.09.023>)
8. Nashi M, Yamamoto S, Maeda K, Taniike N, Hara S, Takenobu T : A case of deposition of calcium pyrophosphate dehydrate crystals with synovial chondromatosis in the temporomandibular joint. *J Oral Maxillofac Surg Med Pathol* 34 : 49-54, 2022
9. 竹信俊彦, 谷池直樹, 平井雄三, 前田圭吾 : 歯性感染から広範囲な骨片壊死を生じた顎矯正手術の2例. *日本口腔感染症学会誌* 28 (1) : 26-31, 2021
10. 竹信俊彦 : 開咬症例における顎矯正手術 上顎に対する対応 (Le Fort I型骨切り術, 前歯部歯槽骨骨切り術). *日本顎変形症学会雑誌* 31 (4) : 230-237, 2021
11. 竹信俊彦 : COVID-19 High Volume Center での歯科口腔外科診療～わたしたちの対応～ 4. ～神戸市立医療センター中央市民病院での対応～. *日本口腔感染症学会雑誌* 28 (2) : 62-68, 2021
12. 星 和人, 池邊哲郎, 太田嘉英, 岸本裕充, 倉田 毅, 栗田 浩, 坂巻顕太郎, 竹信俊彦, 原田壮平, 小笠原徹, 鄭 漢忠, 桐田忠昭 : 新型コロナウイルス感染症流行下における口腔外科手術に関する指針. 第2版, 公益社団法人日本口腔外科学会, 東京, 2022, [https://www.jsoms.or.jp/medical/pdf/2022/0127\\_01.pdf](https://www.jsoms.or.jp/medical/pdf/2022/0127_01.pdf)

#### VIII. 1. 24 病理診断科

1. Kamijo K, Shimomura Y, Yamashita D, Ishikawa T : A Case of Tyrosine Kinase Inhibitor-Induced Bone Marrow Aplasia That Was Successfully Treated with Allogeneic Hematopoietic Stem Cell Transplantation. *Case Rep Oncol.* 14 : 1139-1143, 2021, (DOI:10.1159/000517442)

2. Yamada C, Shimomura Y, Kamijyo K, Kanda-Kato M, Yoshioka S, Yamashita D, Ishikawa T : BCR/ABL1-positive B-lymphoblastic Lymphoma Successfully Treated with Dasatinib-combined Chemotherapy. *Intern Med.* 60 : 3149-3153, 2021, (DOI:10.2169/internalmedicine.7066-21)
3. Wada F, Shimomura Y, Yabushita T, Yamashita D, Ohno A, Imoto H, Maruoka H, Hara S, Ishikawa T : CD38 expression is an important prognostic marker in diffuse large B-cell lymphoma. *Hematol Oncol.* 39 : 483-489, 2021, (DOI:10.1002/hon.2904)
4. Kikuchi M, Yamashita D, Hara S, Takebayashi S, Hamaguchi K, Mizuno K, Omori K, Shinohara S : Discordant Immune Marker Expression Between Preoperatively Biopsied and Matched Surgically Resected Specimens in Patients With Oral Squamous Cell Carcinoma. *Cureus.* 13 (4) : e14423, 2021, (DOI:10.7759/cureus.14423)
5. Wada F, Hiramoto N, Yamashita D, Hara S, Furukawa Y, Ishii J, Nagata K, Nannya Y, Ogawa S, Ishikawa T : Dramatic response to encorafenib in a patient with Erdheim-Chester disease harboring the BRAF<sup>V600E</sup> mutation. *Am J Hematol.* 96 : E295-E298, 2021, (DOI:10.1002/ajh.26232)
6. Nishioka H, Fujita S, Hara S : Fascioliasis Presenting With Migrating Liver Masses. *Am J Trop Med Hyg.* 105 (5) : 1132-1133, 2021, (DOI:10.4269/ajtmh.21-0539)
7. Ubara Y, Kawaguchi T, Nagasawa T, Miura K, Katsuno T, Morikawa T, Ishikawa E, Ogura M, Matsumura H, Kurayama R, Matsumoto S, Marui Y, Hara S, Maruyama S, Narita I, Okada H, Tsuruya K; Committee of Practical Guide for Kidney Biopsy 2020 : Kidney biopsy guidebook 2020 in Japan. *Clin Exp Nephrol.* 25 (4) : 325-364, 2021, (DOI: 10.1007/s10157-020-01986-6)
8. Wakabayashi K, Yamamoto S, Hara S, Okawara M, Teramoto K, Ikeda N, Kusunoki Y, Takeji M : Nivolumab-induced membranous nephropathy in a patient with stage IV lung adenocarcinoma. *CEN Case Rep,* 2021, (DOI:10.1007/s13730-021-00645-3)
9. Ohe R, Yang S, Yamashita D, Ichikawa C, Saito A, Kabasawa T, Utsunomiya A, Aung NY, Urano Y, Kitaoka T, Suzuki K, Takahara D, Sasaki A, Takakubo Y, Takagi M, Yamakawa M, Futakuchi M : Pathogenesis of follicular thymic hyperplasia associated with rheumatoid arthritis. *Pathol Int,* 2022, (DOI:https://doi.org/10.1111/pin.13212)
10. Wada F, Shimomura Y, Kamijyo K, Yamashita D, Ohno A, Himeno M, Maruoka H, Hara S, Ishikawa T : Prognostic impact of CD38 expression in relapsed or refractory diffuse large B-cell lymphoma and follicular lymphoma transformation. *Leuk Lymphoma,* 2022, (DOI:10.1080/10428194.2021.2024820)
11. Nishioka H, Nishino S, Yoshizaki A, Hara S : TAFRO syndrome presenting as intrahepatic cholangitis on autopsy. *Clin Case Rep.* 9 (4) : 2254-2258, 2021, (DOI:10.1002/ccr3.4005)
12. Maeda K, Yamashita D, Takenobu T : Ulcers on the bilateral palate mucosa following mRNA-based vaccination for coronavirus disease 2019 (COVID-19) : A case report. *J Stomatol Oral Maxillofac Surg,* 2022, (DOI:10.1016/j.jormas.2022.01.013)
13. 印藤貴士, 青山晃博, 原 重雄, 藤本寛太, 瀧川博司, 高橋 豊 : 異所性 ACTH 症候群診断より 12 年後に切除した ACTH 産生肺カルチノイドの一例. *日本呼吸器外科学会雑誌* 35 (6) : 736-741, 2021, (DOI:10.2995/jacsurg.35.736)
14. 甲 貴文, 瀧川博司, 印藤貴士, 宍戸 裕, 原 重雄, 高橋 豊 : 胸腔内穿破を来した縦隔奇形腫の 3 例. *日本呼吸器外科学会雑誌* 35 (3) : MO20-1, 2021
15. 谷川優麻, 小林裕之, 貝原 聡, 原 重雄 : 空腸異所性慢性膵炎急性増悪による空腸穿通の 1 例. *日本臨床外科学会雑誌* 82 (10) : 1828-1831, 2021, (DOI:https://doi.org/10.3919/jjsa.82.1828)
16. 荻野敦子, 大竹紀子, 小池彩美, 川田悦子, 青木卓哉, 原 重雄, 吉岡信也 : 子宮底部筋層内妊娠の 1 例. *産婦人科の進歩* 73 (3) : 345-350, 2021, (DOI:10.11437/sanpunosinpo.73.345)
17. 竹林慎治, 篠原尚吾, 山下大祐, 濱本文美, 安本眞美, 戸部陽太, 池永 直, 道田哲彦, 山崎博司, 瀧口清海, 藤原敬三, 内藤 泰, 原 重雄 : 唾液腺腫瘍における術中迅速病理診断の検討. *耳鼻咽喉科臨床* 114 (12) : 951-955, 2021, (DOI:10.5631/jibirin.114.951)
18. 小山瑠梨子, 川田悦子, 林 信孝, 田邊更衣子, 大竹紀子, 青木卓哉, 山下大祐, 吉岡信也 : 当院における卵巣上皮性境界悪性腫瘍の後方視的検討. *産婦人科の実践* 70 (6) : 663-671, 2021, (DOI:10.18888/sp.0000001755)
19. 片上隆史, 藤原 悟, 秋山智明, 清水祐里, 原 重雄, 川本未知 : 特徴的な画像所見を呈し脳生検を行った自己免疫性 glial fibrillary acidic protein (GFAP) アストロサイトパチーの 1 例. *臨床神経学* 61 (11) : 756-761, 2021, (DOI:10.5692/clinicalneuro.114.756)



## VIII. 1. 25 放射線診断科

1. Onishi Y, Kimura H, Shimizu M, Oka S, Umeda M, Kimura T, Kanagaki M : Transportal embolization for pancreatic arteriovenous malformation via a recanalized paraumbilical vein: A case report. *Radiol Case Rep.* 16 (7) : 1708-1711, 2021, (DOI:10.1016/j.radcr.2021.04.035)
2. Kohno S, Furuta A, Arizono S, Tokunaga K, Nakao S, Tanabe M, Kataoka TR, Isoda H, Togashi K : Imaging findings of granulocyte colony-stimulating factor-producing tumors: a case series and review of the literature. *Jpn J Radiol.* 39 : 857-867, 2021, (DOI:10.1007/s11604-021-01130-8)
3. Watanabe M, Kawai-Miyake K, Fushimi Y, Ishimori T, Nakajima A, Yoshimura M, Kikuchi M, Ohno K, Nakamoto Y : Application of a Flexible PET Scanner Combined with 3T MRI Using Non-local Means Reconstruction: Qualitative and Quantitative Comparison with Whole-Body PET/CT. *Mol Imaging Biol.* 24 : 167-176, 2022, (DOI:10.1007/s11307-021-01651-8)
4. 山本有香, 安藤久美子, 石蔵礼一 : 脳炎脳症・感染症. *臨床放射線* 66 : 421-435, 2021
5. 光野重芝 : 【絶対に見逃してはいけない画像診断 8 疾患～致命的な疾患を見抜くために、正常解剖と典型的な異常所見を押さえる!】 大動脈解離. *レジデントノート* 23 : 803-810, 2021
6. 有菌茂樹 : 泌尿器科疾患診断における拡散強調画像. *泌尿器科* 14 : 258-264, 2021
7. 安藤久美子 : BQ85 熱性けいれんが疑われる場合において神経画像検査は推奨されるか? 画像診断ガイドライン 2021 年版, 日本医学放射線学会, 第 3 版, 金原出版, 東京, 2021
8. 安藤久美子, 石蔵礼一 : 中枢神経系—その 1 : 急性脳症の画像診断. *小児内科* 53 : 1446-1450, 2021
9. 安藤久美子, 石蔵礼一 : 脊髄癒合不全症の画像診断. *画像診断* 42 : 109-119, 2021
10. 安藤久美子, 石蔵礼一 : Ciliopathy- 細胞のアンテナとその異常. *画像診断* 42 : 178-188, 2022

## VIII. 1. 26 放射線治療科

1. Kimura T, Takeda A, Sanuki N, Ariyoshi K, Yamaguchi T, Imagumbai T, Katoh N, Eriguchi T, Oku Y, Ozawa S, Tsurugai Y, Kokubo M, Shimizu S, Ishikura S : Multicenter prospective study of stereotactic body radiotherapy for previously untreated solitary primary hepatocellular carcinoma: The STRSPH study. *Hepatology Research* 51 : 461-471, 2021
2. Matsuo Y, Nagata Y, Wakabayashi M, Ishikura S, Onishi H, Kokubo M, Karasawa K, Shioyama Y, Onimaru R, Hiraoka M : Impact of pre-treatment C-reactive protein level and skeletal muscle mass on outcomes after stereotactic body radiotherapy for T1N0M0 non-small cell lung cancer: a supplementary analysis of the Japan Clinical Oncology Group study JCOG0403. *Journal of Radiation Research* 62 : 901-909, 2021
3. Saito G, Oya Y, Taniguchi Y, Kawachi H, Daichi F, Matsumoto H, Iwasawa S, Suzuki H, Niitsu T, Miyauchi E, Yokoi T, Yokoyama T, Uenami T, Sakata Y, Arai D, Okada A, Nagata K, Teraoka S, Kokubo M : Real-world survey of pneumonitis and its impact on durvalumab consolidation therapy in patients with non-small cell lung cancer who received chemoradiotherapy after durvalumab approval (HOPE-005/CRIMSON). *Lung Cancer.* 161 : 86-93, 2021
4. Zhou D, Nakamura M, Mukumoto N, Tanabe H, Iizuka Y, Yoshimura M, Kokubo M, Matsuo Y, Mizowaki T : Development of AI-driven prediction models to realize real-time tumor tracking during radiotherapy. *Radiation Oncology* 17 : 42, 2022
5. Sugimoto T, Fujimoto D, Sato Y, Tamiya M, Yokoi T, Tamiya A, Iwasawa S, Hata A, Uchida J, Fukuda Y, Hara S, Kanazu M, Hirano K, Kokubo M, Yamamoto N : Durvalumab for patients with unresectable stage III non-small cell lung cancer and grade 1 radiation pneumonitis following concurrent chemoradiotherapy: a multicenter prospective cohort study. *Invest New Drugs.* 39 : 853-859, 2021
6. Harada H, Omori S, Mori K, Konno M, Murakami H, Imagumbai T, Fukuda H, Nakamatsu K, Kimura T, Tanabe H, Fujita H, Tatebe H, Fujitaka K, Nishimura Y : Multi-institutional feasibility study of intensity-modulated radiotherapy with chemotherapy for locally advanced non-small cell lung cancer. *International Journal of Clinical Oncology* 27 : 1025-1033, 2022

## VIII. 1. 27 救急科

1. 大西理史：Part 2 うちではこうしている！ウィズコロナ時代の救急外来 4. 神戸市立医療センター中央市民病院の場合 [兵庫]. エマログ 34 (3) : 46-54 (350-358), 2021
2. 許 智栄：Dr. 許のひと捻りで変わる高齢者救急 第三回高齢者救急の間診—いつもの生活に想いを馳せる. エマログ 34 (3) : 83-88 (387-392), 2021
3. 許 智栄：Dr. 許のひと捻りで変わる高齢者救急 第四回2人の100歳. エマログ 34 (4) : 108-113 (556-561), 2021
4. Mizu D, Matsuoka Y, Huh JY, Onishi M, Ariyoshi K : Head CT findings and deterioration risk in children with head injuries and Glasgow Coma Scales of 15. The American Journal of Emergency Medicine 50 : 399-403, 2021, (DOI:<https://doi.org/10.1016/j.ajem.2021.08.060>)
5. 許 智栄：Dr 許のひと捻りで変わる高齢者救急【FINAL】 第6回がん患者がERにやってきた—救急緩和 Part 2. エマログ 34 (6) : 98-102 (858-862), 2021
6. Huh JY, Matsuoka Y, Kinoshita H, Ikenoue T, Yamamoto Y, Ariyoshi K : Premorbid Clinical Frailty Score and 30-day mortality among older adults in the emergency department. JACEP OPEN 3 : e12677, 2022, (DOI:<https://doi.org/10.1002/emp2.12677>)
7. 許 智栄：Dr 許の5Mアプローチで学ぶ高齢者救急キホンのキ 第0回高齢患者のマネジメントとは？—よろず相談室編. エマログ 35 (1) : 136-140, 2022
8. 許 智栄：Dr 許の5Mアプローチで学ぶ高齢者救急キホンのキ 第1回高齢者のMobility. エマログ 35 (2) : 133-139 (285-291), 2022
9. Mizu D, Nishida H, Matsuoka Y, Ariyoshi K : Visceral disseminated varicella zoster infection: a rare cause of acute abdomen in a patient with well-controlled diabetes mellitus—a case report. BMC Infectious Diseases 22 : 215, 2022, (DOI:<https://doi.org/10.1186/s12879-022-07183-y>)
10. Kataoka Y, Kimura Y, Ikenoue T, Matsuoka Y, Matsumoto J, Kumasawa J, Tochitani K, Funakoshi H, Hosoda T, Kugimiya A, Shirano M, Hamabe F, Iwata S, Fukuma S; Japan COVID-19 AI team : Integrated model for COVID-19 diagnosis based on computed tomography artificial intelligence, and clinical features: a multicenter cohort study. Ann Transl Med. 10 (3) : 130, 2022, (DOI:[10.21037/atm-21-5571](https://doi.org/10.21037/atm-21-5571))
11. Ikenoue T, Kataoka Y, Matsuoka Y, Matsumoto J, Kumasawa J, Tochitani K, Funakoshi H, Hosoda T, Kugimiya A, Shirano M, Hamabe F, Iwata S, Fukuma S; Japan COVID-19 AI team : Accuracy of deep learning-based computed tomography diagnostic system for COVID-19: A consecutive sampling external validation cohort study. PLoS ONE 16 (11) : e0258760, 2021, (DOI:[10.1371/journal.pone.0258760](https://doi.org/10.1371/journal.pone.0258760))
12. Itaya T, Shimizu S, Hara T, Matsuoka Y, Fukuhara S, Yamamoto Y : Association between facility-level adherence to phosphorus management guidelines and mortality in haemodialysis patients: a prospective cohort study. BMJ Open 11 (9) : e051002, 2021, (DOI:[10.1136/bmjopen-2021-051002](https://doi.org/10.1136/bmjopen-2021-051002))

## VIII. 1. 28 感染症科

1. Doi A, Iwata K, Kuroda H, Hasuike T, Nasu S, Kanda A, Nagao T, Nishioka H, Tomii K, Morimoto T, Kihara Y : Estimation of seroprevalence of novel coronavirus disease (COVID-19) using preserved serum at an outpatient setting in Kobe, Japan: A cross-sectional study. Clinical Epidemiology and Global Health 11, 2021, (DOI:[10.1016/j.cegh.2021.100747](https://doi.org/10.1016/j.cegh.2021.100747))
2. Doi A, Iwata K, Kuroda H, Hasuike T, Nasu S, Nishioka H, Tomii K, Morimoto T, Kihara Y : A cross-sectional follow up study to estimate seroprevalence of coronavirus disease 2019 in Kobe, Japan. Medicine (Baltimore) 100 (48) : e28066, 2021, (DOI:[10.1097/MD.00000000000028066](https://doi.org/10.1097/MD.00000000000028066))
3. 倉本恵里子, 室井延之, 平昌正樹, 平山晴奈, 柴谷直樹, 土井朝子, 栗本康夫, 橋田 亨：眼科日帰り手術クリニカルパスの変更に伴う経口第3世代セファロsporin系抗菌薬使用量変化に関する検討. 日治療会誌 69 (3) : 249-254, 2021
4. 黒田浩一：研修医のための微生物レクチャーシリーズ グラム染色所見と培養結果からどう考える？第13回グラム陽性球菌編⑬. J-IDEO 5 (3) : 353-363, 2021
5. 早野聡史, 圓尾友梨, 石田景子, 黒田浩一：駆け出し感染症内科医の Clinical Questions —調べたことは共有して、みんなで賢くなろう— (3). J-IDEO 5 (3) : 470-478, 2021

6. 黒田浩一：感染性心内膜炎. 臨床雑誌内科 127 (4) : 730-732, 2021
7. 黒田浩一：発熱性好中球減少症. 臨床雑誌内科 127 (4) : 760, 2021
8. 黒田浩一：市中肺炎—COVID-19 流行期でも正しく恐れてより良い診療を目指す. medicina 58 (4) : 96-100, 2021
9. 黒田浩一：研修医のための微生物レクチャーシリーズ グラム染色所見と培養結果からどう考える？第14回グラム陽性球菌編⑭. J-IDEO 5 (4) : 539-543, 2021
10. 坂口拓夢, 窪田佳史, 西原悠二, 黒田浩一：駆け出し感染症内科医の Clinical Questions —調べたことは共有して、みんなで賢くなろう— (4). J-IDEO 5 (4) : 557-585, 2021
11. 津山頌章, 早野聡史, 池垣俊吉, 黒田浩一：駆け出し感染症内科医の Clinical Questions —調べたことは共有して、みんなで賢くなろう— (5). J-IDEO 5 (5) : 783-791, 2021
12. 黒田浩一：感染予防の基礎知識と Q&A —新型コロナウイルスワクチン. 調剤と情報 27 (16) : 26-35, 2021
13. 土井朝子：新型コロナウイルス (SARS-CoV-2) のおさらい—新型コロナウイルスとは、どんなウイルス？調剤と情報, じほう, 2021年12月号, じほう, 東京, 2021
14. 木原康樹 (監修), 黒田浩一 (編集)：神戸市立医療センター中央市民病院 新型コロナウイルス感染症対策マニュアル, メディカ出版, 大阪, 2021
15. 清水彰彦, 飯島健太, 藤井元輝, 黒田浩一：駆け出し感染症内科医の Clinical Questions —調べたことは共有して、みんなで賢くなろう— (6). J-IDEO 5 (6) : 935-943, 2021
16. 黒田浩一：研修医のための微生物レクチャーシリーズ グラム染色所見と培養結果からどう考える？第15回グラム陽性球菌編⑮. J-IDEO 5 (6) : 856-861, 2021
17. 黒田浩一：診断のための補助検査法. 腎と透析 92 (1) : 141-146, 2022
18. 黒田浩一：研修医のための微生物レクチャーシリーズ グラム染色所見と培養結果からどう考える？第16回グラム陽性桿菌編①. J-IDEO 6 (1) : 71-77, 2022
19. 黒田浩一：新型コロナワクチンの3回目接種. J-IDEO 6 (1) : 46-51, 2022
20. 黒田浩一, 関谷紀貴, 出雲雄大, 矢吹 拓, 江原 淳, 織田錬太郎, 小川吉彦, 王 康治, 伊藤雄介, 生方綾史, 松尾裕央, 笠原 敬：当院の COVID-19 診療体制. J-IDEO 6 (1) : 46-51, 2022
21. 長命友梨, 新山 優, 早野聡史, 黒田浩一：駆け出し感染症内科医の Clinical Questions —調べたことは共有して、みんなで賢くなろう— (7). J-IDEO 6 (1) : 162-170, 2022
22. 黒田浩一：新型コロナウイルス感染症. 検査と技術 50 (2) : 88-94, 2022
23. 黒田浩一：かぜに隠れる肺炎を見極める. 呼吸器ジャーナル 70 (1) : 50-55, 2022
24. 黒田浩一：発熱および皮疹を有する患者へどう対応する？内科 129 (2) : 197-202, 2022
25. 黒田浩一：研修医のための微生物レクチャーシリーズ グラム染色所見と培養結果からどう考える？第17回グラム陽性桿菌編②. J-IDEO 6 (2) : 281-284, 2022
26. 岸田直樹, 黒田浩一, 尾崎治夫, 佐々木淳, 高山義浩, 松島和樹：これからの COVID-19 診療、病院と地域の連携をどうすべきか？ J-IDEO 6 (2) : 202-221, 2022
27. 岩田健太郎, 倉井華子, 黒田浩一, 坂木晴世, 山田和範, 山本 剛：コロナ禍での感染症内科医の働き方. J-IDEO 6 (2) : 222-243, 2022
28. 植田秀樹, 清水彰彦, 坂口拓夢, 黒田浩一：駆け出し感染症内科医の Clinical Questions —調べたことは共有して、みんなで賢くなろう— (8). J-IDEO 6 (2) : 365-372, 2022

## VIII. 1. 29 総合内科

1. Doi A, Iwata K, Kuroda H, Hasuike T, Nasu S, Kanda A, Nagao T, Nishioka H, Tomii K, Morimoto T, Kihara Y: Estimation of seroprevalence of novel coronavirus disease (COVID-19) using preserved serum at an outpatient setting in Kobe, Japan: A cross-sectional study. Clinical Epidemiology and Global Health 11, 2021, (DOI:10.1016/j.cegh.2021.100747)
2. Nishioka H: Gastric pneumatosis in a patient with anorexia nervosa. Clinical Case Reports 9 (6) : e04155, 2021, (DOI:10.1002/ccr3.4155)
3. Nishioka H, Fujita S, Hara S: Fascioliasis Presenting With Migrating Liver Masses. The American Journal of Tropical Medicine and Hygiene 105 (5) : 1132-1133, 2021, (DOI:10.4269/ajtmh.21-0539)

4. Shirota S, Yoshikawa S : Floating abscess in the inferior vena cava. *Postgraduate Medical Journal* postgradmedj-2021-140506, 2021, (DOI:10.1136/postgradmedj-2021-140506)
5. Doi A, Iwata K, Kuroda H, Hasuike T, Nasu S, Nishioka H, Tomii K, Morimoto T, Kihara Y : A cross-sectional follow up study to estimate seroprevalence of coronavirus disease 2019 in Kobe, Japan. *Medicine (Baltimore)* 100 (48) : e28066, 2021, (DOI:10.1097/MD.0000000000028066)
6. Yoshida H, Kanamori M : Reappraisal: Premature Graying of Hair. *Am J Med.* 134 (4) : e287-e288, 2021, (DOI:10.1016/j.amjmed.2020.09.044)
7. Nishioka H, Hayashi K, Shimizu H : Case Report: Splenic Infarction in Infectious Mononucleosis due to Epstein-Barr Virus Infection. *The American Journal of Tropical Medicine and Hygiene* 106 (2) : 623-625, 2021, (DOI:10.4269/ajtmh.21-0943)
8. Shimizu H, Nishioka H : Rapidly destructive coxarthrosis accompanied by fluctuating C-reactive protein level. *Clinical Case Reports* 9 (11) : e05131, 2021, (DOI:10.1002/ccr3.5131)
9. Maegawa K, Nishioka H : Pneumocephalus and pneumorrhachis caused by *Clostridium perfringens* infection. *International Journal of Infectious Diseases* 115 : 166-167, 2022, (DOI:10.1016/j.ijid.2021.12.311)
10. Fujiwara S, Ohara N, Imamura H, Seo R, Nagata K, Shimizu H, Kawamoto M, Kohara N, Sakai N : Rapid Response System for In-Hospital Large Vessel Occlusion: A Case-Control Study. *Journal of Neuroendovascular Therapy* 15 : 701-706, 2021
11. Nishioka H, Cho Y, Irie K, Kanamori M : Ceftriaxone-associated encephalopathy in a patient with high levels of ceftriaxone in blood and cerebrospinal fluid. *International Journal of Infectious Diseases* 116 : 223-225, 2022, (DOI:10.1016/j.ijid.2022.01.023)
12. Sugita S, Usui Y, Watanabe H, Panto L, Iida M, Suginoshita K, Koyanagi KO, Nishida A, Kurimoto Y, Takahashi M, Shindo T, Nishioka H, Takano M, Kezuka T, Goto H, Kitaichi N : Adenovirus-Associated Uveitis with Necrotizing Retinitis: Clinical Features and Genetic Analysis, a New Disease Entity. *SSRN* : 1-22, 2022, (DOI:10.2139/ssrn.4040158)
13. Shirota S, Nishioka H : Gaze-evoked nystagmus in Wernicke encephalopathy. *Clinical Case Reports* 10 (3) : e05615, 2022, (DOI:10.1002/ccr3.5615)
14. 岩本昌子, 東別府直紀, 西岡弘晶 : 当院の特定集中治療室 (ICU) における早期栄養介入管理加算算定の現状. *学会誌 JSPEN* 3 (2) : 110-113, 2021
15. 倉本恵里子, 室井延之, 平島正樹, 平山晴奈, 柴谷直樹, 土井朝子, 栗本康夫, 橋田 亨 : 眼科日帰り手術 クリニカルパスの変更に伴う経口第3世代セファロsporin系抗菌薬使用量変化に関する検討. *日治療会誌* 69 (3) : 249-254, 2021
16. 前川和輝, 奈須聖子, 西岡弘晶 : 合併症のない熱帯熱マラリアの再燃にアーテメター・ルメファントリン合剤を再度投与し治療できた1例. *感染症学雑誌* 95 (4) : 339-342, 2021
17. 常峰かな, 東別府直紀, 西岡弘晶 : 嚥下内視鏡検査を積極的に用いて摂食嚥下リハビリテーションを行った気道熱傷患者の1例. *学会誌 JSPEN* 3 (5) : 308-312, 2021
18. 前川和輝, 金森真紀 : What's your diagnosis?[225] 非完全栄養食品～Cだけ足りない～. *総合診療* 31 (9) : 1080-1083, 2021
19. 黒田浩一 : 研修医のための微生物レクチャーシリーズ グラム染色所見と培養結果からどう考える? 第13回グラム陽性球菌編<sup>⑬</sup>. *J-IDEO* 5 (3) : 353-363, 2021
20. 早野聡史, 圓尾友梨, 石田景子, 黒田浩一 : 駆け出し感染症内科医の Clinical Questions —調べたことは共有して、みんなで賢くなる— (3). *J-IDEO* 5 (3) : 470-478, 2021
21. 黒田浩一 : 感染性心内膜炎. *臨床雑誌内科* 127 (4) : 730-732, 2021
22. 黒田浩一 : 発熱性好中球減少症. *臨床雑誌内科* 127 (4) : 760, 2021
23. 黒田浩一 : 市中肺炎—COVID-19 流行期でも正しく恐れてより良い診療を目指す. *medicina* 58 (4) : 96-100, 2021
24. 岡 秀樹 : 関節リウマチの分類基準. *リウマチ科* 67 (3) : 262-269, 2022
25. 黒田浩一 : 研修医のための微生物レクチャーシリーズ グラム染色所見と培養結果からどう考える? 第14回グラム陽性球菌編<sup>⑭</sup>. *J-IDEO* 5 (4) : 539-543, 2021

26. 坂口拓夢, 窪田佳史, 西原悠二, 黒田浩一: 駆け出し感染症内科医の Clinical Questions. J-IDEO 5 (4): 557-585, 2021
27. 津山頌章, 早野聡史, 池垣俊吉, 黒田浩一: 駆け出し感染症内科医の Clinical Questions —調べたことは共有して、みんなで賢くなろう— (5). J-IDEO 5 (5): 783-791, 2021
28. 黒田浩一: 感染予防の基礎知識と Q&A —新型コロナウイルスワクチン. 調剤と情報 27 (16): 26-35, 2021
29. 土井朝子: 新型コロナウイルス (SARS-CoV-2) のおさらい—新型コロナウイルスとは、どんなウイルス? 調剤と情報, じほう, 2021年12月号, じほう, 東京, 2021
30. 木原康樹 (監修), 黒田浩一 (編集): 神戸市立医療センター中央市民病院 新型コロナウイルス感染症対策マニュアル, メディカ出版, 大阪, 2021
31. 清水彰彦, 飯島健太, 藤井元輝, 黒田浩一: 駆け出し感染症内科医の Clinical Questions —調べたことは共有して、みんなで賢くなろう— (6). J-IDEO 5 (6): 935-943, 2021
32. 黒田浩一: 研修医のための微生物レクチャーシリーズ グラム染色所見と培養結果からどう考える? 第15回グラム陽性球菌編⑮. J-IDEO 5 (6): 856-861, 2021
33. 黒田浩一: 診断のための補助検査法. 腎と透析 92 (1): 141-146, 2022
34. 黒田浩一: 研修医のための微生物レクチャーシリーズ グラム染色所見と培養結果からどう考える? 第16回グラム陽性桿菌編①. J-IDEO 6 (1): 71-77, 2022
35. 黒田浩一: 新型コロナワクチンの3回目接種. J-IDEO 6 (1): 46-51, 2022
36. 黒田浩一, 関谷紀貴, 出雲雄大, 矢吹 拓, 江原 淳, 織田錬太郎, 小川吉彦, 王 康治, 伊藤雄介, 生方綾史, 松尾裕央, 笠原 敬: 当院の COVID-19 診療体制. J-IDEO 6 (1): 46-51, 2022
37. 長命友梨, 新山 優, 早野聡史, 黒田浩一: 駆け出し感染症内科医の Clinical Questions —調べたことは共有して、みんなで賢くなろう— (7). J-IDEO 6 (1): 162-170, 2022
38. 黒田浩一: 新型コロナウイルス感染症. 検査と技術 50 (2): 88-94, 2022
39. 黒田浩一: かぜに隠れる肺炎を見極める. 呼吸器ジャーナル 70 (1): 50-55, 2022
40. 黒田浩一: 発熱および皮疹を有する患者へどう対応する? 内科 129 (2): 197-202, 2022
41. 黒田浩一: 研修医のための微生物レクチャーシリーズ グラム染色所見と培養結果からどう考える? 第17回グラム陽性桿菌編②. J-IDEO 6 (2): 281-284, 2022
42. 岸田直樹, 黒田浩一, 尾崎治夫, 佐々木淳, 高山義浩, 松島和樹: これからの COVID-19 診療、病院と地域の連携をどうすべきか? J-IDEO 6 (2): 202-221, 2022
43. 岩田健太郎, 倉井華子, 黒田浩一, 坂木晴世, 山田和範, 山本 剛: コロナ禍での感染症内科医の働き方. J-IDEO 6 (2): 222-243, 2022
44. 植田秀樹, 清水彰彦, 坂口拓夢, 黒田浩一: 駆け出し感染症内科医の Clinical Questions —調べたことは共有して、みんなで賢くなろう— (8). J-IDEO 6 (2): 365-372, 2022
45. 志水隼人: 目で見るトレーニング 「NEAE」. medicina, 2022

#### VIII. 1. 30 看護部

1. 永田一真, 谷山裕美, 畑 秀治, 伊藤 翼: 症例① 急性呼吸不全～I型呼吸不全の考え方 その① 酸素療法とハイフローセラピー. これだけ押さえれば大丈夫! 1冊で分かる病棟で行う呼吸管理, 永田一真, 第1版, 学研メディカル秀潤社, 東京, 95-98, 2021
2. 平林亮介, 飯塚瑞恵, 花岡正志, 原田惇平: 症例② 急性呼吸不全～I型呼吸不全の考え方 その② NPPV. これだけ押さえれば大丈夫! 1冊で分かる病棟で行う呼吸管理, 永田一真, 第1版, 学研メディカル秀潤社, 東京, 99-130, 2021
3. 伊藤次郎, 池田理沙, 花岡正志, 若田恭介: 症例③ 急性呼吸不全～II型呼吸不全の考え方 その① 酸素療法. これだけ押さえれば大丈夫! 1冊で分かる病棟で行う呼吸管理, 永田一真, 第1版, 学研メディカル秀潤社, 東京, 131-162, 2021
4. 立川 良, 池田理沙, 花岡正志, 西原浩真: 症例④ 急性呼吸不全～II型呼吸不全の考え方 その② NPPV. これだけ押さえれば大丈夫! 1冊で分かる病棟で行う呼吸管理, 永田一真, 第1版, 学研メディカル秀潤社, 東京, 163-193, 2021

5. 立川 良, 丞々弥生, 石橋一馬, 若田恭介, 下出 優: 症例⑤ 慢性呼吸不全～I型呼吸不全の考え方 酸素療法. これだけ押さえれば大丈夫! 1冊で分かる病棟で行う呼吸管理, 永田一真, 第1版, 学研メディカル秀潤社, 東京, 194-229, 2021
6. 平林亮介, 堀川万由美, 池田有加, 原田惇平: 症例⑥ 慢性呼吸不全～II型呼吸不全の考え方 その① NPPV. これだけ押さえれば大丈夫! 1冊で分かる病棟で行う呼吸管理, 永田一真, 第1版, 学研メディカル秀潤社, 東京, 230-261, 2021
7. 永田一真, 進藤真理那, 山田恭二, 下出 優: 症例⑦ 慢性呼吸不全～II型呼吸不全の考え方 その② NPPV. これだけ押さえれば大丈夫! 1冊で分かる病棟で行う呼吸管理, 永田一真, 第1版, 学研メディカル秀潤社, 東京, 262-290, 2021
8. 永田一真, 森田幸子, 石橋一馬, 西原浩真: 症例⑧ 人工呼吸器離脱の考え方 その① 成功例. これだけ押さえれば大丈夫! 1冊で分かる病棟で行う呼吸管理, 永田一真, 第1版, 学研メディカル秀潤社, 東京, 291-320, 2021
9. 伊藤次郎, 森田幸子, 石橋一馬, 伊藤 翼: 症例⑨ 人工呼吸器離脱の考え方 その② 失敗例. これだけ押さえれば大丈夫! 1冊で分かる病棟で行う呼吸管理, 永田一真, 第1版, 学研メディカル秀潤社, 東京, 321-358, 2021
10. 若林侑起: 特集 ICUのトレンド、その真相を教えます 7. ラダー評価 クリニカルラダー活用の効果はどうか? ICNR 8 (2): 43-47, 2021
11. 新改法子: ICTが徹底的に確認すべし! 新型コロナウイルス対策最重要チェックポイント2. 飛沫・エアロゾルの曝露を防ぐ(気管内挿管・吸引・口腔ケアなど). INFECTION CONTROL 30 (6): 29-34, 2021
12. 若林侑起: 第1特集 業務改善を科学する クオリティーインプループメントの視点から ②客観的疼痛評価スケール導入への試み: 挿管され意思疎通が困難な患者の疼痛評価に対する実態調査. 看護技術 67 (7): 52-58, 2021
13. 若林侑起: 特集 ニガテ克服!こんなにわかりやすい「水・電解質」のキホン 水・電解質を調節する主役“腎臓”. Nursing canvas 9 (9): 29-74, 2021
14. 若林侑起: 特集 やっぱりやめてほしいICUケア. ICNR 8 (3): 49-57, 2021
15. 仲村直子: 特集 心不全療養指導士誕生—よりよい心不全診療のために— 治す 12 禁煙支援の方法. Heart View 25 (10): 63-68, 2021
16. 小倉明子, 奈須聖子, 土井朝子: 新型コロナウイルス感染症の院内アウトブレイクの経過および対策. 日本環境感染学会誌 36 (6): 307-315, 2021, (DOI:<https://doi.org/10.4058/jsei.36.307>)
17. 栗原知己, 若林侑起: 特集 シン・クリティカルケア 6. シン・栄養 重症患者の栄養管理を見直す. ICNR 8 (4): 55-65, 2021
18. 沖浦麻矢: 第1回病棟での活動の場を開拓する: 看護を意味づけ、看護師の実践力を支える. がん看護 27 (1): 56-57, 2022
19. 丸山浩枝: 第三章 事例でみる子どもと家族の看護 15 気管支喘息のある子どもと家族の看護. 小児看護学Ⅱ 小児看護支援論, 改訂第4版, 南江堂, 東京, 258-272, 2022
20. 丸山浩枝: 第三章 事例でみる子どもと家族の看護 24 アトピー性皮膚炎のある子どもと家族の看護. 小児看護学Ⅱ 小児看護支援論, 改訂第4版, 南江堂, 東京, 370-382, 2022
21. 丸山浩枝: 第2部 小児看護技術 第Ⅸ章 日常生活援助技術 3 清潔・衣生活の援助技術. 小児看護学Ⅰ 小児看護学概論・小児看護技術, 改訂第4版, 南江堂, 東京, 442-454, 2022
22. 若林侑起: 特集1 苦手克服!血液ガス分析道場 前編. 月刊ナーシング 42 (2): 12-48, 2022
23. 仲村直子, 北井 豪: 3章 ハートチームによる心臓リハビリ 2. 心臓リハビリにおける患者教育. 心不全の心臓リハビリテーション U 40世代の answer, 谷口達典, 村田 誠, 新保麻衣, 中外医学社, 東京, 116-120, 2022
24. 若林侑起: 特集1 苦手克服!血液ガス分析道場 後編. 月刊ナーシング 42 (3): 12-52, 2022
25. 山守めぐみ, 若林侑起: ICUで働くということ—Chapter7— インシデント. ICNR 9 (1): 45-49, 2022
26. Ishihara I, Inagaki S, Osawa A, Umeda S, Hanafusa Y, Morita S, Maruyama H: Effects of an ethics education program on nurses' moral efficacy in an acute health care facility. Journal of Nursing Management : 1-9, 2022, (DOI:[10.1111/jonm.13579](https://doi.org/10.1111/jonm.13579))

## VIII. 1. 31 薬剤部

1. Tanaka F, Shibatani N, Fujita K, Ikesue H, Yoshimizu S, Muroi N, Kurimoto Y, Hashida T : Polypharmacy-associated potential contraindications of drug prescriptions in patients with primary angle closure disease in a real-world setting. *J Pharm Health Care Sci.* 7 : 17, 2021, (DOI:10.1186/s40780-021-00196-w)
2. Inoue M, Matsumoto K, Tanaka M, Yoshida Y, Satake R, Goto F, Shimada K, Mukai R, Hasegawa S, Suzuki T, Ikesue H, Liao J, Hashida T, Nakamura M : Analysis of chemotherapy-induced peripheral neuropathy using the Japanese Adverse Drug Event Report database. *Sci Rep.* 11 : 11324, 2021, (DOI:10.1038/s41598-021-90848-6)
3. Ikesue H, Doi K, Morimoto M, Hirabatake M, Muroi N, Yamamoto S, Takenobu T, Hashida T : Switching from zoledronic acid to denosumab increases the risk for developing medication-related osteonecrosis of the jaw in patients with bone metastases. *Cancer Chemother Pharmacol.* 87 : 871-877, 2021, (DOI:10.1007/s00280-021-04262-w)
4. Yamashita K, Shimomura Y, Ikesue H, Muroi N, Yoshimoto A, Hashida T : Safety and efficacy evaluation of low-dose trimethoprim-sulfamethoxazole for prophylaxis of *Pneumocystis pneumonia* in HIV uninfected patients undergoing hemodialysis: a retrospective observational study. *BMC Infect Dis.* 21 : 664, 2021, (DOI:10.1186/s12879-021-06374-3)
5. Satake R, Matsumoto K, Tanaka M, Mukai R, Shimada K, Yoshida Y, Inoue M, Hasegawa S, Iguchi K, Ikesue H, Shimizu S, Nishida S, Suzuki A, Hashida T, Nakamura M : Analysis of drug-induced gastrointestinal obstruction and perforation using the Japanese Adverse Drug Event Report Database. *Front Pharmacol.* 12 : 692292, 2021, (DOI:10.3389/fphar.2021.692292)
6. Ogata M, Ama Y, Ogata T, Hirabatake M, Yasui H, Satake H : Direct oral anticoagulants for the treatment of venous thromboembolism in patients with active cancer. *In Vivo.* 35 : 2747-2753, 2021, (DOI:10.21873/invivo.12559)
7. Irie K, Nakagawa A, Fujita H, Tamura R, Eto M, Ikesue H, Muroi N, Fukushima S, Tomii K, Hashida T : Population pharmacokinetics of favipiravir in patients with COVID-19. *CPT: Pharmacometrics & Systems Pharmacology.* 10 : 1161-1170, 2021, (DOI:10.1002/psp4.12685)
8. Ikesue H, Doi K, Morimoto M, Hirabatake M, Muroi N, Yamamoto S, Takenobu T, Hashida T : Risk evaluation of denosumab and zoledronic acid for medication-related osteonecrosis of the jaw in patients with bone metastases: a propensity score-matched analysis. *Support Care Cancer.* 30 : 2341-2348, 2022, (DOI:10.1007/s00520-021-06634-7)
9. Ikesue H, Yamamoto H, Hirabatake M, Hashida T, Chung H, Inokuma T, Muroi N : Risk factors of proteinuria in patients with hepatocellular carcinoma receiving lenvatinib. *Biol Pharm Bull.* 45 : 333-338, 2022, (DOI:10.1248/bpb.b21-00913)
10. Ikesue H, Yamaoka K, Matsumoto A, Hirabatake M, Muroi N, Yamasaki T, Kawakita M, Hashida T : Risk factors of proteinuria and potentially protective effect of renin-angiotensin system inhibitors in patients with renal cell carcinoma receiving axitinib. *Cancer Chemother Pharmacol.* 89 : 833-838, 2022, (DOI:10.1007/s00280-022-04408-4)
11. 田中智也, 蔵田靖子, 高瀬尚武, 樋本繭子, 新免 徹, 檀 和貴, 鍛冶園誠, 正岡康幸, 中本秋彦, 名和秀起, 北村佳久, 池末裕明, 室井延之, 千堂年昭, 三木育子 : ラムシルマブ投与患者における蛋白尿発現のリスク因子に関する検討. *医療薬学* 47 : 250-255, 2021, (DOI:https://doi.org/10.5649/jphcs.47.250)
12. 倉本恵里子, 室井延之, 平島正樹, 平山晴奈, 柴谷直樹, 土井朝子, 栗本康夫, 橋田 亨 : 眼科日帰り手術クリニカルパスの変更に伴う経口第3世代セファロsporin系抗菌薬使用量変化に関する検討. *日本化学療法学会雑誌* 69 : 249-254, 2021
13. 松石邦隆, 福島春子, 大谷恭平, 宮井宏之, 鶴谷 茂, 川村修司, 高橋年道, 桑田美子 : 特集 新型コロナウイルス感染症の流行と高齢者の医療と生活 (1) : 新型コロナウイルス感染症病棟を有する総合病院精神神経科の診療現場におけるコロナ禍の影響と対策 - 職員へのアンケート調査からみえてきたもの -. *老年精神医学雑誌* 32 : 829-836, 2021
14. 濱 宏仁, 平島正樹, 池末裕明, 室井延之, 橋田 亨 : Drug Vial Optimization 導入のための使用期限設定に関する考察. *癌と化学療法* 48 : 1139-1143, 2021

15. 木下 恵, 柴谷直樹, 宮坂萌菜, 大江 泰, 平野達也, 入江 慶, 吉水 聡, 藤原雅史, 栗本康夫, 室井延之: 緑内障患者に対する「緑内障薬剤師外来」の評価. あたらしい眼科 38: 1109-1113, 2021
16. 室井延之: IV. 静脈栄養法 B. 静脈栄養剤の種類と組成, 特徴. 日本臨床栄養代謝学会 JSPEN テキストブック, 一般社団法人日本臨床栄養代謝学会, 南江堂, 東京, 288-294, 2021
17. 室井延之: 臨床薬剤師の育成につなげる病院実務実習とは. 薬学教育 5: 2020-024, 2021, (DOI:10.24489/jjphe.2020-024)
18. 室井延之: ロービジョン患者に対する地域連携: 病院から地域につなぐロービジョンケアと薬剤師の役割. 薬局 72: 2489-2493, 2021
19. 大江 泰: ロービジョン患者における薬剤管理・患者支援の実践ポイント (1) ロービジョン患者から見える薬剤管理. 薬局 72: 2453-2457, 2021
20. 田中郁壮: 緑内障に注意を要する医薬品と代替薬の提案. 薬局 72: 2458-2464, 2021
21. 宮坂萌菜: 点眼剤の基礎知識. 薬局 72: 2466-2472, 2021
22. 柴谷直樹: ロービジョン患者支援のための点眼剤デバイス開発. 薬局 72: 2473-2478, 2021
23. 平野達也: 緑内障薬剤師外来の開設および取り組み. 薬局 72: 2495-2502, 2021
24. 黒山政一, 大谷道輝, 池末裕明, 橋田 亨: Chapter 23 下剤 (便秘薬). 「新・違いが分かる! 同種・同効薬 (下巻)」, 黒山政一, 大谷道輝, 南江堂, 東京, 121-127, 2021
25. 石岡千加史, 元雄良治, 池末裕明, 橋田 亨: 第三章 フォローアップとチーム医療 2. 希少がん・難治がん患者の診療, 心理社会的支援 B. 薬剤師の役割. 希少がん・難治がん診療ハンドブック, 元雄良治, 南江堂, 東京, 205-208, 2021
26. 池末裕明: 抗がん薬の副作用モニタリングと支持療法. 調剤と情報 27: 1999-2004, 2021
27. 大江 泰: 第1章 調剤・監査 【調剤・監査】 1. 抗がん薬の経口剤は懸濁しても問題ないの? 月間薬事 臨時増刊号 1年目薬剤師の強化書 63: 14-17, 2021
28. 田中布貴: 第1章 調剤・監査 【調剤・監査】 2. 粉碎指示がある場合に注意することは? 月間薬事 臨時増刊号 1年目薬剤師の強化書 63: 18-22, 2021
29. 高瀬友貴: 第1章 調剤・監査 【調剤・監査】 3. メトトレキサートが連日服用で処方されていたら? 月間薬事 臨時増刊号 1年目薬剤師の強化書 63: 23-27, 2021
30. 吉野新太郎: 第1章 調剤・監査 【調剤・監査】 4. 検査値の異常!? さてどうする? 月間薬事 臨時増刊号 1年目薬剤師の強化書 63: 28-32, 2021
31. 富田秀明: 第1章 調剤・監査 【調剤・監査】 5. ハイリスク薬は何がハイリスク? 月間薬事 臨時増刊号 1年目薬剤師の強化書 63: 33-36, 2021
32. 尾山将樹: 第1章 調剤・監査 【D I】 10. 病棟で副作用を確認したときの副作用報告はどうする? 月間薬事 臨時増刊号 1年目薬剤師の強化書 63: 58-63, 2021
33. 藤田和美: 第1章 調剤・監査 【D I】 11. 新薬の有効性や安全性についてどのように説明する? 月間薬事 臨時増刊号 1年目薬剤師の強化書 63: 64-69, 2021
34. 森本麻友: 第1章 調剤・監査 【D I】 13. 知っておくと業務に活用できる便利な資材は? 月間薬事 臨時増刊号 1年目薬剤師の強化書 63: 76-79, 2021
35. 長谷川栞: 私の新人時代の成功体験 (失敗から学んだこと) —— 薬剤師3年目から振り返る調剤業務. 月間薬事 臨時増刊号 1年目薬剤師の強化書 63: 80-81, 2021
36. 田中郁壮: 第2章 病棟 【脳神経科】 3. くも膜下出血後の spasm 管理のための薬剤はどう使う? 月間薬事 臨時増刊号 1年目薬剤師の強化書 63: 91-95, 2021
37. 鶴谷 茂: 第2章 病棟 【精神科】 4. せん妄患者への対応は? 月間薬事 臨時増刊号 1年目薬剤師の強化書 63: 96-103, 2021
38. 登 佳寿子: 第2章 病棟 【循環器科】 6. ワルファリンと DOAC の使い分けは? 月間薬事 臨時増刊号 1年目薬剤師の強化書 63: 109-112, 2021
39. 薩摩由香里: 第2章 病棟 【呼吸器科】 7. 気管支喘息患者が「うまく吸えない」と訴える場合に確認すべきことは? 月間薬事 臨時増刊号 1年目薬剤師の強化書 63: 113-119, 2021
40. 木下 恵: 第2章 病棟 【腎臓・泌尿器科】 9. 腹膜透析と血液透析の違いは? 月間薬事 臨時増刊号 1年目薬剤師の強化書 63: 124-127, 2021



41. 田村 亮：第2章 病棟【腎臓・泌尿器科】 10. 持続透析と間欠透析の違いは？ 月間薬事 臨時増刊号 1年目薬剤師の強化書 63：128-134, 2021
42. 増本憲生：第2章 病棟【内分泌・代謝科】 12. 糖尿病患者にSMBGが必要な理由は？ 月間薬事 臨時増刊号 1年目薬剤師の強化書 63：140-143, 2021
43. 増本憲生：第2章 病棟【内分泌・代謝科】 13. シックデイ中の薬物投与の注意点は？ 月間薬事 臨時増刊号 1年目薬剤師の強化書 63：144-148, 2021
44. 大音三枝子：第2章 病棟【整形外科】 14. 鎮痛薬と鎮痛補助薬の違いは？ 鎮痛補助薬の位置づけは？ 月間薬事 臨時増刊号 1年目薬剤師の強化書 63：149-156, 2021
45. 藤井尚子：第2章 病棟【皮膚科】 15. 小児へのステロイド外用剤の指導のポイントは？ 月間薬事 臨時増刊号 1年目薬剤師の強化書 63：157-160, 2021
46. 上田実穂：私の新人時代の成功体験（失敗から学んだこと）——安全な入院医療に繋ぐ初回面談. 月間薬事 臨時増刊号 1年目薬剤師の強化書 63：161, 2021
47. 田村 亮：第2章 病棟【救急・集中治療】 17. 意識障害の評価スケール（JCS, GCS）の使い分けとその活用法は？ 月間薬事 臨時増刊号 1年目薬剤師の強化書 63：166-170, 2021
48. 鎌田里紗：第2章 病棟【救急・集中治療】 18. 急性薬物中毒疑いの患者への対応は？ 月間薬事 臨時増刊号 1年目薬剤師の強化書 63：171-176, 2021
49. 鎌田里紗：第2章 病棟【救急・集中治療】 19. バイタルサインの活用法は？ 月間薬事 臨時増刊号 1年目薬剤師の強化書 63：177-182, 2021
50. 赤松菜摘：第2章 病棟【救急・集中治療】 20. ICUで使用されるオピオイド鎮痛薬と鎮静薬の使い方は？ 月間薬事 臨時増刊号 1年目薬剤師の強化書 63：183-187, 2021
51. 山本晴菜：第2章 病棟【がん】 21. HBV再活性化対策とは？ 月間薬事 臨時増刊号 1年目薬剤師の強化書 63：188-193, 2021
52. 増田義雄：第2章 病棟【がん】 22. 曝露対策のポイントは？ 月間薬事 臨時増刊号 1年目薬剤師の強化書 63：194-198, 2021
53. 平島正樹：第2章 病棟【がん】 23. 抗がん薬治療中の患者の副作用マネジメントで注意すべきことは？ 地域の薬局・医療施設に情報提供すべきことは？ 月間薬事 臨時増刊号 1年目薬剤師の強化書 63：199-204, 2021
54. 池末裕明：第2章 病棟【がん】 24. 免疫関連有害事象（irAE）とは？ 月間薬事 臨時増刊号 1年目薬剤師の強化書 63：205-209, 2021
55. 楠田かおり：第2章 病棟【周術期】 25. 周術期に注意が必要な薬剤は？ 月間薬事 臨時増刊号 1年目薬剤師の強化書 63：210-214, 2021
56. 土肥麻貴子：第2章 病棟【感染症科】 26. バンコマイシン（VCM）の初回投与量はどうか決める？ 月間薬事 臨時増刊号 1年目薬剤師の強化書 63：215-217, 2021
57. 山岡健太：私の新人時代の成功体験——臨床研究から学んだこと. 月間薬事 臨時増刊号 1年目薬剤師の強化書 63：222, 2021
58. 倉本恵里子：第2章 病棟【感染症科】 28. 抗菌薬投与時のアレルギー対策は？ 月間薬事 臨時増刊号 1年目薬剤師の強化書 63：223-228, 2021
59. 住吉佑介：第2章 病棟【輸液・栄養】 29. リフィーディング症候群とは？ 月間薬事 臨時増刊号 1年目薬剤師の強化書 63：229-233, 2021
60. 室井延之：第2章 病棟【輸液・栄養】 31. 経腸栄養と静脈栄養の使い分けは？ 月間薬事 臨時増刊号 1年目薬剤師の強化書 63：239-244, 2021
61. 薩摩由香里：第2章 病棟【終末期医療】 33. オピオイドスイッチングの進め方は？ 月間薬事 臨時増刊号 1年目薬剤師の強化書 63：252-255, 2021
62. 高瀬友貴：私はこうして勉強した——Pharmacist-Scientistを目指して. 月間薬事 臨時増刊号 1年目薬剤師の強化書 63：256-257, 2021
63. 山下花南恵：第3章 連携・研究・薬事関係法規【連携業務】 1. 薬歴には何を残すべき？ 月間薬事 臨時増刊号 1年目薬剤師の強化書 63：258-264, 2021
64. 吉田千恵美：第3章 連携・研究・薬事関係法規【連携業務】 3. 入院支援業務における薬剤師の役割は？ 月間薬事 臨時増刊号 1年目薬剤師の強化書 63：274-277, 2021

65. 三沖大介：第3章 連携・研究・薬事関係法規 【連携業務】 4. 退院支援業務で注意・意識すべきことは？ 月間薬事 臨時増刊号 1年目薬剤師の強化書 63：278-283, 2021
66. 小田稔彦：第3章 連携・研究・薬事関係法規 【研究】 6. 臨床研究の倫理審査を受けるには？ 月間薬事 臨時増刊号 1年目薬剤師の強化書 63：291-297, 2021
67. 高柳信子：第3章 連携・研究・薬事関係法規 【薬事関係法規】 7. 医療費助成のしくみについて説明できる？ 月間薬事 臨時増刊号 1年目薬剤師の強化書 63：298-203, 2021
68. 藤原秀敏：第3章 連携・研究・薬事関係法規 【薬事関係法規】 8. 患者の個人情報を取り扱う際の注意点は？ 月間薬事 臨時増刊号 1年目薬剤師の強化書 63：304-307, 2021
69. 吉田早希：私はこうして勉強した——情熱と学ぶ気持ちを大切に. 月間薬事 臨時増刊号 1年目薬剤師の強化書 63：308-309, 2021
70. 山田清文, 橋田 亨：薬剤師の卒後研修の方向性. 日本病院薬剤師会雑誌 57 (11)：1190-1196, 2021
71. 池末裕明：がん薬物療法の継続が困難になるさまざまなシーン. 薬局 72：3326-3329, 2021
72. 藤原拓俊：手指消毒、物品消毒. 調剤と情報 27：2678-2683, 2021
73. 田村 亮：自宅療養患者への往診対応. 調剤と情報 27：2714-2718, 2021
74. 室井延之, 安田理恵：地域での COVID-19 ワクチンの集団接種への対応. 調剤と情報 27：2719-2723, 2021
75. 室井延之, 橋田 亨：レジデント制度による薬剤師の育成. Pharma-Lead Next. 2：2-5, 2022
76. 奥貞 智：2-3 キホンの薬物療法① (経口薬・インクレチン関連薬). 糖尿病ケアプラス 19：79-84, 2022
77. 池末裕明：処方箋に基づく医薬品の調製 (4) ケミカルハザード. 薬学生のための病院・薬局実務実習テキスト 2022年版, 日本病院薬剤師会近畿ブロック/日本薬剤師会大阪・近畿ブロック, じほう, 東京, 96-94, 2022
78. 池末裕明, 橋田 亨：抗悪性腫瘍薬. 治療薬ハンドブック 2022, 堀 正二, 菅野健太郎, 門脇 孝, 乾 賢一, 林 昌, じほう, 東京, 1017-1139, 2022

#### VIII. 1. 32 臨床検査技術部

1. 鳥居裕太, 山本 剛, 菅沼直生子, 宮川祥治, 簗輪和士, 奈須聖子, 佐々木一朗, 江藤 正明：COVID-19 流行期におけるエアロゾルの発生リスクが高い生理機能検査の運用について—当院の感染対策 (2週間ルール, PPE) について—. 医学検査 70 (3)：535-541, 2021, (DOI:https://doi.org/10.14932/jamt.20-126)
2. Torii Y, Okada T, Tokiwa M, Furukawa Y：Multimodal imaging of right ventricular obstruction due to metastatic cardiac tumour. Eur Heart J Case Rep. 5 (7)：ytab290, 2021, (DOI:10.1093/ehjcr/ytab290)
3. 鳥居裕太, 香原美咲, 岡田大司, 菅沼直生子, 山本 剛, 宮川祥治, 大畑淳子, 則政文子, 山本 駿, 中原千裕, 長野真弥, 井川彩加, 松岡京子, 森元加奈, 古川 裕：右室ストレインが有用であった COVID-19 罹患後の 2 例. 超音波検査技術 47 (3)：260-267, 2022, (DOI:10.11272/jss.350)

#### VIII. 1. 33 放射線技術部

1. Watanabe Y, Mawatari A, Aita K, Sato Y, Wada Y, Nakaoka T, Onoe K, Yamano E, Akamatsu G, Ohnishi A, Shimizu K, Sasaki M, Doi H, Senda M：PET imaging of <sup>11</sup>C-labeled thiamine tetrahydrofurfuryl disulfide, vitamin B<sub>1</sub> derivative: First-in-human study. Biochemical and Biophysical Research Communications 555：7-12, 2021
2. 山本滝人：1.5 装置における AIR<sup>TM</sup> Recon DL の有用性について. GE 社 カスタマーボイス, 2021
3. Zhou D, Nakamura M, Mukumoto N, Tanabe H, Iizuka Y, Yoshimura M, Kokubo M, Matsuo Y, Mizowaki T：Development of AI-driven prediction models to realize real-time tumor tracking during radiotherapy. Radiation Oncology 17：42, 2022, (DOI:10.1186/s13014-022-02012-7)
4. 末岡正輝, 高木治行, 富士原将之, 田ノ岡征雄, 山下幹子, 田邊裕朗, 澤田 晃, 宮崎正義, 岡田 亘, 中原隆太, 小久保雅樹, 山門亨一郎：カウチの異なる放射線治療装置における線量再現性に関する検討. 兵庫医科大学医学会雑誌 46 (2)：101-107, 2022
5. Harada H, Omori S, Mori K, Konno M, Murakami H, Imagumbai T, Fukuda H, Nakamatsu K, Kimura T, Tanabe H, Fujita H, Tatebe H, Fujitaka K, Nishimura Y：Multi-institutional feasibility study of intensity-modulated radiotherapy with chemotherapy for locally advanced non-small cell lung cancer. International Journal of Clinical Oncology. 27：1025-1033, 2022, (DOI:10.1007/s10147-022-02151-7)

#### VII. 1. 34 栄養管理部

1. 岩本昌子, 東別府直紀, 西岡弘晶:当院の特定集中治療室 (ICU) における早期栄養介入管理加算算定の現状. 学会誌 JSPEN 3 : 110-113, 2021

#### VIII. 1. 35 臨床研究推進センター 研究部門 再生医療研究部

1. Morizane A, Takahashi J : Evading the Immune System: Immune Modulation and Immune Matching in Cell Replacement Therapies for Parkinson' s Disease. J Parkinsons Dis. 11 : S167-S172, 2021, (DOI:10.3233/JPD-212608)
2. 森実飛鳥, 高橋 淳 : 5. iPS 細胞を用いたパーキンソン病に対する再生医療. 別冊・医学の歩み 再生医療はどこまで進んだか, 長船健二, 第 1 版, 医歯薬出版, 東京, 29-34, 2021

## VIII. 2 西市民病院

### VIII. 2.1 呼吸器内科

1. Tomioka H, Amimoto H, Fujii H, Katsuyama E, Okuno T, Kawabata Y : Asymmetrical Interstitial Lung Disease Suggested to Be Due to Hypoplasia of the Unilateral Pulmonary Artery: A Case Report with a 20-year Follow-up. *Intern Med* 60 : 1265-1270, 2021
2. Hosoya K, Fujimoto D, Morimoto T, Kumagai T, Tamiya A, Taniguchi Y, Yokoyama T, Ishida T, Matsumoto H, Hirano K, Kominami R, Tomii K, Suzuki H, Hirashima T, Tanaka S, Uchida J, Morita M, Kanazu M, Mori M, Nagata K, Fukuda I, Tamiya M : Clinical factors associated with shorter durable response, and patterns of acquired resistance to first-line pembrolizumab monotherapy in PD-L1-positive non-small-cell lung cancer patients: a retrospective multicenter study. *BMC Cancer* 21 : 346, 2021
3. Yamaguchi T, Yamamoto A, Oki Y, Sakai H, Misu S, Iwata Y, Kaneko M, Sawada K, Oki Y, Mitani Y, Ono K, Ishikawa A : Reliability and Validity of the Japanese Version of the Barthel Index Dyspnea Among Patients with Respiratory Diseases. *Int J Chron Obstruct Pulmon Dis* 16 : 1863-1871, 2021
4. Kondoh Y, Kataoka K, Ando M, Awaya Y, Ichikado K, Kataoka M, Komase Y, Mineshita M, Ohno Y, Okamoto H, Ooki T, Tasaka Y, Tomioka H, Suda T : COVID-19 and acute exacerbation of interstitial lung disease. *Respiratory Investigation* 59 : 675-678, 2021
5. Yoshizumi Y, Tomioka H, Katsuyama E, Kawabata Y : Diffuse Pulmonary Ossification with Connective Tissue Weakness Potentially Due to Vascular Ehlers-Danlos Syndrome. *Intern Med* 60 : 2847-2851, 2021
6. Kondoh Y, Makino S, Ogura T, Suda T, Tomioka H, Amano H, Anraku M, Enomoto N, Fujii T, Fujisawa T, Gono T, Harigai M, Ichiyasu H, Inoue Y, Johkoh T, Kameda H, Kataoka K, Katsumata Y, Kawaguchi Y, Kawakami A, Kitamura H, Kitamura N, Koga T, Kurawana K, Nakamura Y, Nakashima R, Nishioka Y, Nishiyama O, Okamoto M, Sakai F, Sakamoto S, Sato S, Shimizu T, Takayanagi N, Takei R, Takemura T, Takeuchi T, Toyoda Y, Yamada H, Yamakawa H, Yamano Y, Yamasaki Y, Kuwana M : 2020 guide for the diagnosis and treatment of interstitial lung disease associated with connective tissue disease. *Respiratory Investigation* 59 : 709-740, 2021
7. Yamamoto A, Nakamoto H, Yamaguchi T, Sakai H, Kaneko M, Ohnishi S, Nishiuma T, Sawada K, Iwata Y, Osawa S, Ono K, Ishikawa A : Validity of a novel respiratory rate monitor comprising stretchable strain sensors during a 6-min walking test in patients with chronic pulmonary obstructive disease. *Respir Med* 190 : 106675, 2021
8. Niwamoto T, Handa T, Murase Y, Nakatsuka Y, Tanizawa K, Taguchi Y, Tomioka H, Tomii K, Kita H, Uyama M, Tsuchiya M, Emura M, Kawamura T, Arai N, Arita M, Uno K, Yoshizawa A, Uozumi R, Yamaguchi I, Matsuda F, Chin K, Hirai T : Cutaneous T-cell-attracting chemokine as a novel biomarker for predicting prognosis of idiopathic pulmonary fibrosis: a prospective observational study. *Respir Res* 22 : 181, 2021
9. Shirata M, Ito I, Ishida T, Tachibana H, Tanabe N, Konishi S, Oi I, Hamao N, Nishioka K, Matsumoto H, Yasutomo Y, Kadowaki S, Ohnishi H, Tomioka H, Nishimura T, Hasegawa Y, Nakagawa A, Hirai T : Development and validation of a new scoring system for prognostic prediction of community-acquired pneumonia in older adults. *Sci Rep.* 11 : 23878, 2021
10. Oi I, Ito I, Hirabayashi M, Endo K, Emura M, Kojima T, Tsukao H, Tomii K, Nakagawa A, Otsuka K, Akai M, Oi M, Sugita T, Fukui M, Inoue D, Hasegawa Y, Takahashi K, Yasui H, Fujita K, Ishida T, Ito A, Kita H, Kaji Y, Tsuchiya M, Tomioka H, Yamada T, Terada S, Nakaji H, Hamao N, Shirata M, Nishioka K, Yamazoe M, Shiraiishi Y, Ogimoto T, Hosoya K, Ajimizu H, Shima H, Matsumoto H, Tanabe N, Hirai T : Pneumonia Caused by Severe Acute Respiratory Syndrome Coronavirus 2 and Influenza Virus: A Multicenter Comparative Study. *Open Forum Infect Dis.* 8 : ofab282, 2021
11. 富岡洋海 : 薬剤性肺障害. 呼吸器病レジデントマニュアル, 石田 直, 近藤康博, 喜舎場朝雄, 第6版, 医学書院, 東京, 392-397, 2021
12. 富岡洋海 : 薬剤によるサルコイドーシス様反応. 日サ会誌 41 : 35-38, 2021
13. 富岡洋海 : VI章 アレルギー性肺疾患 23 過敏性肺炎. 最新主要文献とガイドラインでみる 呼吸器内科学レビュー 2022-' 23, 総合医学社, 東京, 158-167, 2021

14. 富岡洋海：結核治療薬. Pocket Drugs 2022, 小松康宏, 渡邊裕司, 医学書院, 東京, 763-770, 2022
15. 富岡洋海：MDD 診断の実態とニーズ. 呼吸器内科 41 : 167-171, 2022
16. 大竹康平, 三栖翔吾, 藤川 孝, 酒井英樹, 奥野晃章, 富岡洋海：特発性間質性肺炎患者における運動誘発性低酸素血症が肺高血圧に及ぼす影響 - 肺動脈径拡張による肺高血圧の間接的な評価を用いて -. 理学療法兵庫 27 : 33-34, 2021

#### VIII. 2.2 リウマチ・膠原病内科

1. 田村誠朗, 壺井和幸, 林 響子, 小西弘起, 安部武生, 吉川卓宏, 東 直人, 松井 聖, 名波正義, 原 重雄：ネフローゼ症候群を呈したV型のループス腎炎にポドサイト障害を認めた一例. 臨床リウマチ 33(4) : 338-344, 2021, (DOI:https://doi.org/10.14961/cra.33.338)

#### VIII. 2.3 糖尿病・内分泌内科

1. Takai T, Okada Y, Takebe R, Nakamura T : Vomiting and hyperkalemia are novel clues for emergency room diagnosis of type 1 diabetic ketoacidosis: a retrospective comparison between diabetes types. Diabetology International 13 : 272-279, 2021, (DOI:10.1007/s13340-021-00539-w)

#### VIII. 2.4 総合内科

1. Hamazaki K, Nishigaki T, Kuramoto N, Oh K, Konishi H : Secondary Adrenal Insufficiency After COVID-19 Diagnosed by Insulin Tolerance Test and Corticotropin- Releasing Hormone Test. Cureus. 14 (3) : e23021, 2022, (DOI:10.7759/cureus.23021)
2. 王 康治：当院の COVID-19 診療体制 神戸市立医療センター西市民病院. J-IDEO 6 (1) : 29-30, 2022

#### VIII. 2.5 小児科

1. Iio K, Matsubara K, Miyakoshi C, Ota K, Yamaoka R, Eguchi J, Matsumura O, Okutani T, Ueda I, Nishiyama M : Incidence of Kawasaki disease before and during the COVID-19 pandemic: a retrospective cohort study in Japan. BMJ Paediatrics Open 5 : e001034, 2021, (DOI:https://doi.org/10.1136/bmjpo-2021-001034)
2. Yoshino S, Hiraguchi Y, Tatekawa M, Shingaki T, Kumagai Y, Ebishima Y, Kiyomasu T, Owa K, Suehiro Y, Nagao M, Fujisawa T : Vaccine-induced anaphylaxis in a child with cow's milk allergy: Lactose hydrate was the culprit. J Allergy Clin Immunol Global 1 : 87-89, 2022, (DOI:https://doi.org/10.1016/j.jacig.2022.01.003)

#### VIII. 2.6 外科 (消化器外科・呼吸器外科・乳腺外科・血管外科)

1. 村上哲平, 松井優悟, 多山 葵, 水野良祐, 大越祐介, 本間周作：腹腔鏡下手術を行った大腸憩室炎によるS状結腸膀胱瘻の5例. 日本臨床外科学会雑誌 82 (6) : 1051-1056, 2021, (DOI:https://doi.org/10.3919/jjsa.82.1051)
2. 大越祐介, 坂田龍平, 竹尾正彦, 勝山栄治：左主気管支に伸展した右中葉肺癌肉腫. 胸部外科 74 : 979-982, 2021
3. 調枝治樹, 大越祐介, 竹尾正彦：COVID-19 回復時期に発症した続発性気胸・膿胸の一例. 日本呼吸器外科学会雑誌 36 : 205-209, 2022

#### VIII. 2.7 整形外科

1. 西口 滋, 布施謙三, 藤原弘之, 山根逸郎, 藤田 暁, 相江直哉：TKA 予定患者におけるレントゲンでの動脈石灰化でPAD (末梢動脈疾患) は診断できるか? - 石灰化とABI との関連について -. 日本人工関節学会誌 51 : 123-124, 2021

#### VIII. 2.8 脳神経外科

1. Omura Y, Imamura H, Tani S, Adachi H, Fukumitsu R, Sunohara T, Fukui N, Sasaki N, Fukuda T, Akiyama T, Kajiura S, Shigeyasu M, Asakura K, Horii R, Sakai N : A Damp-and-Push Technique for the Copolymer (Onyx) Embolization of Dural Arteriovenous Fistula. Journal of Stroke and Cerebrovascular Diseases 30 : 105853, 2021, (DOI:10.1016/j.jstrokecerebrovasdis.2021.105853)

## VIII. 2.9 産婦人科

1. Tanabe S, Sugino S, Niiya K, Ichida K, Morishima S : A Case of Incidental Detection of Asymptomatic Bladder Cancer by Transvaginal Ultrasound. *Cureus* 13 (12) : e20451, 2021, (DOI:10.7759/cureus.20451)
2. Tanabe S, Sugino S, Ichida K, Niiya K, Morishima S : Primary Peritoneal Carcinosarcoma With Metastasis to the Umbilicus and Pancreas. *Cureus* 14 (1) : e21309, 2022, (DOI:10.7759/cureus.21309)
3. Tanabe S, Sugino S, Ichida K, Niiya K, Morishima S : A Case of Ovarian Metastasis of Pancreatic Cancer Causing Ovarian Torsion. *Cureus* 14 (1) : e21352, 2022, (DOI:10.7759/cureus.21352)

## VIII. 2.10 リハビリテーション技術部

1. Yamaguchi T, Yamamoto A, Oki Y, Sakai H, Misu S, Iwata Y, Kaneko M, Sawada K, Oki Y, Mitani Y, Ono K, Ishikawa A : Reliability and Validity of the Japanese Version of the Barthel Index Dyspnea Among Patients with Respiratory Diseases. *International Journal of Chronic Obstructive Pulmonary Disease*. 21 (16) : 1863-1871, 2021, (DOI:10.2147/COPD.S313583)
2. Misu S, Asai T, Murata S, Nakamura R, Isa T, Tsuboi Y, Oshima K, Koyama S, Sawa R, Fukumoto Y, Ono R : Association between Abnormal Gait Patterns and an Elevated Degree of Pain after Daily Walking: A Preliminary Study. *Int. J. Environ. Res. Public Health*. 19 (5) : 2842, 2022, (DOI:10.3390/ijerph19052842)
3. 藤川 孝, 齋藤 貴, 近藤 心, 柴田 大, 小野 玲 : 化学療法を受ける高齢悪性リンパ腫患者における身体活動量と運動耐容能の関連性—観察的横断研究. *理学療法兵庫* 27 : 18-23, 2021
4. 藤川 孝, 三栖翔吾, 大竹康平, 酒井英樹, 富岡洋海 : 特発性肺線維症患者における胸椎レベルでの骨格筋量と予後の関係. *理学療法兵庫* 27 : 37-38, 2021
5. 大竹康平, 三栖翔吾, 藤川 孝, 酒井英樹, 奥野晃章, 富岡洋海 : 特発性間質性肺炎患者における運動誘発性低酸素血症が肺高血圧に及ぼす影響—肺動脈径拡張による肺高血圧の間接的な評価を用いて—. *理学療法兵庫* 27 : 33-34, 2021
6. 小森絵美, 三栖翔吾, 浅井 剛, 山本綾子 : 地域在住高齢女性における尿失禁と転倒および転倒恐怖感の関連性. *理学療法兵庫* 27 : 13-17, 2021

## VIII. 3 西神戸医療センター

### VIII. 3.1 総合内科

1. Sweatt AJ, Miyagawa K, Rhodes CJ, Taylor S, Rosario PAD, Hsi A, Haddad F, Spiekerkoetter E, Bental-Roof M, Bland RD, Swietlik EM, Gráf S, Wilkins MR, Morrell NW, Nicolls MR, Rabinovitch M, Zamanian RT : Severe Pulmonary Arterial Hypertension Is Characterized by Increased Neutrophil Elastase and Relative Elafin Deficiency. *Chest*. 160 : 1442-1458, 2021

### VIII. 3.2 脳神経内科

1. 下山佳織, 赤堀元樹, 石尾ゆきこ, 柳原千枝 : 発症時抗アクアポリン4抗体陰性であり、のちに陽性に転じた視神経脊髄炎スペクトラム障害の1例. *臨床神経学* 62 : 351-356, 2022

### VIII. 3.3 糖尿病・内分泌内科

1. Fujiwara Y, Yamane S, Harada N, Ikeguchi-Ogura E, Usui R, Nakamura T, Iwasaki K, Suzuki K, Yabe D, Hayashi Y, Inagaki N : Carbonic anhydrase 8 (CAR8) negatively regulates GLP-1 secretion from enteroendocrine cells in response to long-chain fatty acids. *Am J Physiol Gastrointest Liver Physiol* 320 : G617-G626, 2021
2. Suzuki S, Tone A, Murata T, Nishimura K, Miyamoto Y, Sakane N, Satoh-Asahara N, Toyoda M, Hirota Y, Matsuhisa M, Kuroda A, Kato K, Kouyama R, Miura J, Suganuma A, Tomita T, Noguchi M, Son C, Kasahara M, Ito Y, Kasama S, Hosoda K : Protocol for a Randomized, Crossover Trial to Decrease Time in Hypoglycemia by Combined Intervention of the Usage of Intermittent-Scanning Continuous Glucose Monitoring Device and the Structured Education Regarding its Usage: Effect of Intermittent-Scanning Continuous Glucose Monitoring to Glycemic Control Including Hypoglycemia and Quality of Life of Patients with Type 1 Diabetes Mellitus Study (ISCHIA Study). *Tokai J Exp Clin Med*. 46 (2) : 59-68, 2021
3. Son C, Makino H, Kasahara M, Tanaka T, Nishimura K, Taneda S, Nishimura T, Kasama S, Ogawa Y, Miyamoto Y, Hosoda K : Comparison of efficacy between dipeptidyl peptidase-4 inhibitor and sodium-glucose cotransporter 2 inhibitor on metabolic risk factors in Japanese patients with type 2 diabetes mellitus: Results from the CANTABILE study. *Diabetes Res Clin Pract*. 180 : 109037, 2021

### VIII. 3.4 腎臓内科

1. 垣内優芳, 中田庸介 : 多発血管炎性肉芽腫症の寛解導入期における理学療法. *理学療法兵庫* 27 : 24-28, 2021
2. 中田庸介, 中井雅史, 金丸聰淳, 鳥越和雄 : 腹膜透析カテーテル腹壁固定術 (PWAT) 後に排液困難を来たし小腸癒着を認めた糖尿病性腎臓病の1例. *腎と透析 Vol.91 別冊 腹膜透析* : 150-151, 2021
3. 池内亮介, 田代 結, 小池修平, 宗田 武, 垣田浩子, 塚本達雄, 白石祐介, 伊藤哲之, 岡田卓也 : ドナー腎の腎杯憩室修復後、生体腎移植を施行した1例. *日本臨床腎移植学会雑誌* 9 (1) : 105-108, 2021
4. Akuzawa D, Uchida Y, Ishimura T, Kakita H, Endo T, Matsuzaki N, Terajima H, Tsukamoto T : Polycystic liver disease with lethal abdominal wall rupture: a case report. *Journal of Medical Case Reports* 15 (1) : 421, 2021

### VIII. 3.5 免疫血液内科

1. Hashimoto A, Tanaka Y, Shinzato I : Successful treatment of acute promyelocytic leukemia in a patient undergoing hemodialysis with arsenic trioxide. *Clin Case Rep*. 9 : e04300, 2021
2. Wakita S, Sakaguchi M, Oh I, Kako S, Toya T, Najima Y, Doki N, Kanda J, Kuroda J, Mori S, Satake A, Usuki K, Ueki T, Uoshima N, Kobayashi Y, Kawata E, Tajika K, Nagao Y, Shono K, Shibusawa M, Tadokoro J, Kayamori K, Hagihara M, Uchiyama H, Uchida N, Kubota Y, Kimura S, Nagoshi H, Ichinohe T, Kurosawa S, Motomura S, Hashimoto A, Muto H, Sato E, Ogata M, Mitsuhashi K, Ando J, Marumo A, Omori I, Fujiwara Y, Terada K, Yui S, Arai K, Kitano T, Miyata M, Kurosawa A, Mizoguchi A, Komatsu N, Fukuda T, Ohashi K, Kanda Y, Inokuchi K, Yamaguchi H : Prognostic impact of CEBPA bZIP domain mutation in acute myeloid leukemia. *Blood Adv*. 6 (1) : 238-247, 2021

3. Hashimoto A, Asai S, Tanaka Y, Shinzato I : Epstein-Barr Virus-Positive Adrenal Diffuse Large B-Cell Lymphoma after Treatment for Angioimmunoblastic T-Cell Lymphoma. *EJCRIM (European Journal of Case Reports in Internal Medicine)* 8 (10) : 002533, 2021, (DOI:10.12890/2021\_002533)

#### VIII. 3.6 消化器内科

1. Eguchi T, Tsuji Y, Okada A, Inoue D, Tokumasu H, Iwane K, Nakai Y, Kusaka T, Uenoyama Y, Fujita K, Yokode M, Yamashita Y, Sawai Y, Asada M, Mikami T, Kawanami C, Kudo Y, Yazumi S, Sanuki T, Sakai A, Morita T, Sakuma Y, Uza N, Takada Y, Itani T, Kuriyama K, Matsumura K, Ikeda K, Someda H, Funatsu E, Katsushima S, Kodama Y, Seno H : Reducing the risk of developing walled-off necrosis in patients with acute necrotic collection using recombinant human soluble thrombomodulin. *J Hepatobiliary Pancreat Sci.* 28 (9) : 788-797, 2021

#### VIII. 3.7 精神・神経科

1. 川添文子 : 総合病院で働く心理職の立場から～小児の入院事例を通して～. *Japanese Journal of Child and Adolescent Psychiatry* 62 (4) : 499-503, 2021

#### VIII. 3.8 小児科

1. Iio K, Matsubara K, Miyakoshi C, Ota K, Yamaoka R, Eguchi J, Matsumura O, Okutani T, Ueda I, Nishiyama M : Incidence of Kawasaki disease before and during the COVID-19 pandemic: a retrospective cohort study in Japan. *BMJ Pediatr Open.* 5 : e001034, 2021
2. Washio K, Nakamura M, Sato N, Hori M, Matsubara K, Ogura K, Oda Y, Fukunaga A, Yagami A, Matsunaga K : Anaphylaxis in a pectin- and cashew nut-allergic child caused by a citrus bath. *Allergol Int.* 71 : 155-157, 2022
3. Kitazawa J, Nakadate H, Matsubara K, Takahashi Y, Ishiguro A, Inoue E, Sasahara Y, Fujisawa K, Maeda N, Oka T, Ishii E, Imaizumi M, Platelet Committee of the Japanese Society of Pediatric Hematology/Oncology : Favorable prognosis of vaccine-associated immune thrombocytopenia in children is correlated with young age at vaccination: Retrospective survey of a nationwide disease registry. *Int J Hematol.* 115 : 114-122, 2022
4. Kawasaki Y, Matsubara K, Hori M, Isome K : Liver injury and cytopenia after BNT162b2 COVID-19 vaccination in an adolescent. *Pediatr Int.* 64 : e15178, 2022

#### VIII. 3.9 外科・消化器外科

1. 長田圭司, 飯田 拓, 原田樹幸, 森 彩, 松浦正徒, 中村公治郎, 塩田哲也, 岩崎純治, 伊丹 淳, 京極高久 : 急性胆嚢炎に対する緊急手術例の至適な手術時期と超高齢者での安全性についての検討. *日本消化器外科学会雑誌* 54 (7) : 447-455, 2021, (DOI:https://doi.org/10.5833/jjgs.2020.0010)
2. Harada S, Iida T, Asai S, Nakamura K, Ishihara M, Iwasaki J, Itami A, Kyogoku T : Successful En Bloc Resection of Locally Advanced Pancreatic Tail Cancer with Colonic Perforation Following Neoadjuvant Chemotherapy: A Case Report. *American Journal of Case Reports* 22 : e933226, 2021, (DOI:10.12659/AJCR.933226)
3. Iwasaki J, Iida T, Nagata K, Nakamura K, Itami A, Kyogoku T : Gallbladder cancer spreading into the aberrant cystic duct: First literature report. *International Journal of Surgery Case Reports* 88 : 106443, 2021, (DOI: 10.1016/j.ijscr.2021.106443)
4. 森 彩, 飯田 拓, 岩崎純治, 伊丹 淳, 京極高久, 橋本公夫, 石原美佐 : 胆管狭窄による胆管炎を繰り返した hepatic peribiliary cysts の1切除例. *日本消化器外科学会雑誌* 55 (3) : 174-181, 2021, (DOI:https://doi.org/10.5833/jjgs.2021.0061)
5. 長田圭司, 中村公治郎, 飯田 拓, 岩崎純治, 中西崇雄, 石原美佐, 吉川俊紀, 富松浩隆, 畑 俊行, 松浦正徒, 塩田哲也, 伊丹 淳, 大政 貢, 京極高久 : UFT 投与後に出現した FDG-PET 陽性の限局性胆管周囲線維化の1例. *肝臓* 62 (12) : 806-812, 2021
6. 長田圭司, 中村公治郎, 岩崎純治, 畑 俊行, 伊丹 淳, 京極高久 : 術前の TAE により安全に肝切除を施行した巨大肝左葉血管腫の1例. *臨床外科* 77 (3) : 367-372, 2022, (DOI:https://doi.org/10.11477/mf.1407213666)



7. 長田圭司, 中村公治郎, 塩田哲也, 松浦正徒, 岩崎純治: 腹腔鏡下鼠径ヘルニア修復術後に腹膜閉鎖部の裂隙に小腸が嵌入り腸閉塞をきたした1例. 日本腹部救急医学会雑誌 41 (5): 319-323, 2021, (DOI:[https://doi.org/10.11231/jaem.41.5\\_319](https://doi.org/10.11231/jaem.41.5_319))
8. 京極高久, 岩崎純治, 長田圭司: 急性胆嚢炎の診断と治療. 神戸市立病院紀要 60: 1-8, 2022, (DOI:[https://doi.org/10.32301/kobecityhospital.60.0\\_1](https://doi.org/10.32301/kobecityhospital.60.0_1))

### VIII. 3. 10 乳腺外科

1. Miki M, Takao S, Konishi M, Shigeoka Y, Miyashita M, Suwa H, Miyoshi Y, Hirokaga K, Okuno T, Yamagami K, Imamura M, Murase K, Yanai A, Tanino H: Investigation of a Novel S-1 Administration Schedule for Treating Metastatic and Recurrent Breast Cancer (KBCOG13). ANTICANCER RESEARCH 41: 3121-3126, 2021, (DOI:<https://doi.org/10.21873/anticanres.15096>)
2. 大山友梨, 奥野敏隆, 浅井沙月, 石原美佐: 同側乳房内に浸潤性小葉癌が併存した葉状腫瘍の1例. 日本臨床外科学会雑誌 82 (4): 690-696, 2021, (DOI:<https://doi.org/10.3919/jjsa.82.690>)
3. 大久保ゆうこ, 奥野敏隆, 石原美佐: 骨化生成成分がほぼ全体を占めた乳腺化生癌の1例. 日本臨床外科学会雑誌 82 (12): 2107-2112, 2021

### VIII. 3. 11 脳神経外科

1. Ikeuchi Y, Ashida N, Nishihara M, Hosoda K: Successful multiple burr hole openings for limb-shaking transient ischemic attack due to moyamoya disease: illustrative case. Journal of Neurosurgery: Case Lessons 2 (10), 2021
2. Ikeuchi Y, Ashida N, Nishihara M, Hosoda K: Successful Thrombectomy for Endocarditis-Related Stroke in a Very Young Patient: Illustrative Case. Journal of Neuroendovascular Therapy, cr.2021-0087, 2021
3. Matsuo K, Fujita A, Hosoda K, Tanaka J, Imahori T, Ishii T, Kohta M, Tanaka K, Uozumi Y, Kimura H, Sasayama T, Kohmura E: Potential of machine learning to predict early ischemic events after carotid endarterectomy or stenting: a comparison with surgeon predictions. Neurosurg Rev 45 (1): 607-616, 2022

### VIII. 3. 12 呼吸器外科

1. Hamaji M, Omasa M, Nakanishi T, Nakakura A, Morita S, Miyamoto E, Nakagawa T, Miyahara S, Sonobe M, Takahashi M, Terada Y, Hijiya K, Sumitomo R, Huang CL, Kojima F, Shoji T, Date N, Miyata R, Suga M, Nakanobo R, Kawakami K, Aoyama A, Date H: Lymph node dissection in thymic carcinomas and neuroendocrine carcinomas. Interact Cardiovasc Thorac Surg. 33 (2): 242-249, 2021, (DOI:[10.1093/icvts/ivab079](https://doi.org/10.1093/icvts/ivab079))
2. 甲 貴文, 長田駿一, 徳重康介, 中西崇雄, 本山秀樹, 大政 貢, 桑田陽一郎: N-butyl-2-cyanoacrylate とコイルによる塞栓術が有効であったショックを伴う縦隔型気管支動脈瘤破裂の1例. 気管支学 44 (1): 7-12, 2022, (DOI:[https://doi.org/10.18907/jjsre.44.1\\_7](https://doi.org/10.18907/jjsre.44.1_7))
3. 足立泰志, 坂口泰人, 西岡憲亮, 北岡 文, 平山 寛, 谷崎潤子, 松本和也, 高橋憲一: Two-loop cable car法によってEndobronchial Watanabe Spigotを誘導し気管支瘻孔を治療した術後有癭性MRSA膿胸の1例. 気管支学 43: 426-430, 2021, (DOI:[https://doi.org/10.18907/jjsre.43.4\\_426](https://doi.org/10.18907/jjsre.43.4_426))
4. Kadomatsu Y, Yoshioka H, Shigemitsu K, Nomata Y, Mori S, Hijiya K, Motoyama H, Ichikawa Y, Sueyoshi K, Okasaka T, Miyamoto E, Kobayashi M, Takahashi M, Fujinaga T, Takechi H, Yamagishi H, Takuwa T, Kobayashi J, Sakamoto J, Taniguchi T, Hanaoka N, Kubo Y, Chen-Yoshikawa TF: Multicentre, prospective, observational study investigating the most appropriate surgical option that can prevent the recurrence of primary spontaneous pneumothorax after surgery: the PATCH study, protocol. BMJ Open 11 (12): e052045, 2021, (DOI:[10.1136/bmjopen-2021-052045](https://doi.org/10.1136/bmjopen-2021-052045))
5. 垣内優芳, 大政 貢: 重症筋無力症における拡大胸腺摘出術後の最長発声持続時間の推移: 症例報告. 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会誌 30 (1): 125-127, 2021, (DOI:[https://doi.org/10.15032/jsr.30.1\\_125](https://doi.org/10.15032/jsr.30.1_125))
6. Tokuno J, Chen-Yoshikawa TF, Nakajima D, Aoyama A, Motoyama H, Sato M, Date H: Improved visualization of virtual-assisted lung mapping by indocyanine green. JTCVS Tech 10: 542-549, 2021, (DOI:<https://doi.org/10.1016/j.xjtc.2021.07.019>)

7. 長田圭司, 中村公治郎, 飯田 拓, 岩崎純治, 中西崇雄, 石原美佐, 吉川俊紀, 富松浩隆, 畑 俊行, 松浦正徒, 塩田哲也, 伊丹 淳, 大政 貢, 京極高久: UFT 投与後に出現した FDG-PET 陽性の限局性胆管周囲線維化の 1 例. 肝臓 62 (12): 806-812, 2021, (DOI:https://doi.org/10.2957/kanzo.62.806)
8. Ikeda M, Motoyama H, Sonobe M, Date H: Single-lobe transplantation with contralateral pneumonectomy: Long-term survival. Asian Cardiovasc Thorac Ann. 29 (9): 964-967, 2021, (DOI:10.1177/02184923211044398)

### VIII. 3. 13 皮膚科

1. 織田好子, 鷺尾 健, 水野真由子, 今村真也, 錦織千佳子, 福永 淳: 慢性特発性蕁麻疹患者の末梢血好塩基球はオマリズマブ治療によりどのように変化するか. アレルギー 70 (9): 1196-1199, 2021, (DOI:https://doi.org/10.15036/arerugi.70.1196)
2. 植木結香里, 鷺尾 健, 桑原 咲, 丹羽享子, 錦織千佳子: 結節性紅斑様皮疹を呈したシェーグレン症候群の 1 例. 皮膚の科学 20: 187-191, 2021, (DOI:https://doi.org/10.11340/skinresearch.20.3\_187)
3. 東 裕子, 青山裕美, 中原真希子, 鷺尾 健, 中島喜美子, 田中 了, 鎌田昌洋, 金子 栄, 柴田 彩, 松村由美, 石河 晃, 多田弥生: 第 2 回皮膚科医の勤務状況に関する実態調査報告. 日本皮膚科学会雑誌 131 (4): 655-669, 2021, (DOI:https://doi.org/10.14924/dermatol.131.655)
4. Kitao R, Oda Y, Washio K, Tai Y, Ono R, Nishigori C, Fukunaga A: Lower efficacy of omalizumab in older adults with chronic spontaneous urticaria. J Dermatol, 2022, (https://doi.org/10.1111/1346-8138.16370)
5. Matsumoto Y, Imamura S, Fukumoto A, Lee K, Nishitani N, Oda Y, Washio K, Fukunaga A: Case of oral mite anaphylaxis: Contamination of wheat flour by mites determined by enzyme-linked immunosorbent assay. J Dermatol 49 (2): e59-e60, 2022, (DOI:10.1111/1346-8138.16227)
6. Ohata M, Oda Y, Washio K, Fukunaga A, Nishigori C: Efficacy of additional treatment for chronic spontaneous urticaria refractory to treatment - A single-center retrospective real-world study. J Dermatol 49 (1): e7-e8, 2022, (DOI:10.1111/1346-8138.16183)
7. Washio K, Nakamura M, Sato N, Hori M, Matsubara K, Ogura K, Oda Y, Fukunaga A, Yagami A, Matsunaga K: Anaphylaxis in a pectin- and cashew nut-allergic child caused by a citrus bath. Allergol Int 71 (1): 155-157, 2022, (DOI:10.1016/j.alit.2021.07.006)
8. 鷺尾 健: 【蕁麻疹と蕁麻疹に似た疾患一病型鑑別からはじめよう】(Part2) 刺激誘発型の蕁麻疹 (case7) 非アレルギー性蕁麻疹. Visual Dermatology 20 (6): 581-582, 2021

### VIII. 3. 14 泌尿器科

1. 松川敦紀, 清水洋祐, 請田翔子, 小河孝輔, 宇都宮紀明, 勝嶋浩紀, 浅井沙月, 石原美佐, 橋本公夫, 金丸聰淳: 前立腺癌治療中に尿管転移を認めた 1 例. 泌尿器科紀要 67: 171-176, 2021
2. 中保良太, 清水洋祐, 山口立樹, 請田翔子, 宇都宮紀明, 浅井沙月, 石原美佐, 橋本公夫, 金丸聰淳: 急激な経過をたどった腎原発血管肉腫の 1 例. 泌尿器科紀要 67: 413-417, 2021
3. Uketa S, Shimizu Y, Yamaguchi R, Utsunomiya N, Kanamaru S: Robot-assisted partial nephrectomy via retroperitoneal approach in a patient with horseshoe kidney. IJU Case Rep. 4 (4): 239-242, 2021, (DOI: 10.1002/iju5.12297)
4. 中田庸介, 中井雅史, 金丸聰淳, 鳥越和雄: 腹膜透析カテーテル腹壁固定術 (PWAT) 後に排液困難を来たし小腸癒着を認めた糖尿病性腎臓病の 1 例. 腎と透析 91 別冊: 150-151, 2021

### VIII. 3. 15 耳鼻いんこう科

1. 武田紘子, 蓼原 瞬, 丹生健一: 小児の頬部に生じた結節性筋膜炎の 1 例. 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 93(6): 447-450, 2021, (DOI:https://doi.org/10.11477/mf.1411202720)
2. 藤井大智, 雲井一夫: 外耳道に発症した Mycobacterium massiliense 感染例. 耳鼻咽喉科臨床 115 (3): 209-212, 2022, (DOI:https://doi.org/10.5631/jibirin.115.209)

### VIII. 3. 16 形成外科

1. 松葉啓文, 小熊 孝, 徳原里佳, 岡本貴子: 急性感染性電撃性紫斑病により口唇と下肢に壊死をきたした 1 例. 日形会誌 41: 264-268, 2021

2. 平位恵梨, 野村 正, 林 知子, 橋川和信, 寺師浩人: 外陰部に発生した aggressive angiomyxoma の 1 例. 日形会誌 41: 371-377, 2021
3. 徳原里佳, 小熊 孝, 近藤千沙: 胸鎖乳突筋下に生じた筋間脂肪腫の 1 例. 日形会誌 41: 645-649, 2021

### VIII. 3. 17 放射線診断科

1. 甲 貴文, 長田駿一, 徳重康介, 中西崇雄, 本山秀樹, 大政 貢, 桑田陽一郎: N-butyl-2-cyanoacrylate と コイルによる塞栓術が有効であったショックを伴う縦隔型気管支動脈瘤破裂の 1 例. 気管支学 44: 7-12, 2022, (DOI:[https://doi.org/10.18907/jjsre.44.1\\_7](https://doi.org/10.18907/jjsre.44.1_7))

### VIII. 3. 18 病理診断科

1. 大山友梨, 奥野敏隆, 浅井沙月, 石原美佐: 同側乳房内に浸潤性小葉癌が併存した葉状腫瘍の 1 例. 日本臨床外科学会雑誌 82: 690-696, 2021
2. 松川敦紀, 清水洋祐, 請田翔子, 小河孝輔, 宇都宮紀明, 勝嶋浩紀, 浅井沙月, 石原美佐, 橋本公夫, 金丸聰淳: 前立腺癌治療中に尿管転移を認めた 1 例. 泌尿器科紀要 67: 171-176, 2021
3. 浅井沙月, 清瀬ますみ, 田中康博, 石原美佐, 橋本公夫: 上行結腸癌による肺腫瘍血栓性微小血管症の剖検例. 診断病理 38: 247-254, 2021
4. 中保良太, 清水洋祐, 山口立樹, 請田翔子, 宇都宮紀明, 浅井沙月, 石原美佐, 橋本公夫, 金丸聰淳: 急激な経過をたどった腎原発血管肉腫の 1 例. 泌尿器科紀要 67: 413-417, 2021
5. 長田圭司, 中村公治郎, 飯田 拓, 岩崎純治, 中西崇雄, 石原美佐, 吉川俊紀, 富松浩隆, 畑 俊行, 松浦正徒, 塩田哲也, 伊丹 淳, 大政 貢, 京極高久: UFT 投与後に出現した FDG-PET 陽性の限局性胆管周囲線維化の 1 例. 肝臓 62: 806-812, 2021
6. 大久保ゆうこ, 奥野敏隆, 石原美佐: 骨化成分がほぼ全体を占めた乳腺化生癌の 1 例. 日本臨床外科学会雑誌 82: 2107-2112, 2021

### VIII. 3. 19 歯科口腔外科

1. 平井雄三, 岩城 太, 芝辻豪士: 腹部大動脈瘤による播種性血管内凝固症候群 (DIC) により止血に難渋した舌咬創の 1 例. 日本口腔外科学会雑誌 67 (6): 378-383, 2021, (DOI:<https://doi.org/10.5794/jjoms.67.378>)
2. Hirai Y, Watanabe K, Deguchi T, Ueda K, Hamada K, Tanaka E: Influence of insertion depth on stress distribution in orthodontic miniscrew and the surrounding bone by finite element analysis. Dental Materials Journal 40 (5): 1270-1276, 2021, (DOI:[10.4012/dmj.2020-400](https://doi.org/10.4012/dmj.2020-400))

### VIII. 3. 20 看護部

1. 山田顕子: 看護師の体験から. こころの健康 36 (2): 2-4, 2021
2. 山田顕子: コロナ禍における医療従事者のメンタルヘルス. こころの健康 36 (2): 11-23, 2021
3. 池田清子, 澁谷 幸, 波田彌生, 丹生淳子, 八木哉子, 山尾美希: 第 2 章 3 事例から見るレジリエンスとケアー患者はどのように回復力をつけていくのか. 看護が引き出す回復力 レジリエンスで視点もアプローチも変わる, 池田清子編, 第 1 版, 医学書院, 東京, 42-52, 2021
4. 新井まゆ子: COVID-19 をふまえた感染対策・呼吸管理でナースがおさえておくべきこと全部! 「感染対策」編「感染対策」を再確認! 3 PPE (個人防護具) と感染経路 (接触・飛沫・空気) を再確認. 月刊ナーシング 42 (4): 19-22, 2022
5. 新井まゆ子: COVID-19 をふまえた感染対策・呼吸管理でナースがおさえておくべきこと全部! 「感染対策」編「ケア実施」を再確認! 7 面会制限により見えてきた課題と工夫 神戸市立西神戸医療センターの取り組み. 月刊ナーシング 42 (4): 50-51, 2022
6. 櫻井三希子: 多忙でも取り組める! 患者の心理・認知・身体機能を考慮した排泄ケア Part2 排泄ケアを行うためのアセスメント ②認知・身体機能的側面. 看護技術 68 (4): 11-13, 2022

### VIII. 3. 21 臨床検査技術部

1. 山本 剛：微生物検査危機一髪！（第27回）新型コロナ PCR 危機一髪. J-IDEO 5：712-718, 2021
2. 山本 剛：塗抹検査（グラム染色など）を活用した感染症診療. 感染と消毒 28：60-65, 2021
3. 山本 剛：感染症検査の diagnostic stewardship（DS：診断支援）の実践 - より適切な微生物検査の実現に向けて 検査項目別にみた DS 塗抹検査. 臨床と微生物 48：501-508, 2021
4. 山本 剛：学び直そう！グラム染色 4. 現場での活用 1) 臨床検査技師の立場から. Medical Technology 49：1150-1160, 2021
5. 山本 剛：微生物検査危機一髪！（第28回）誤嚥性肺炎とグラム染色. J-IDEO 5：862-868, 2021
6. 山本 剛：微生物検査危機一髪！（第29回）いまさらきけない微生物検査（1）. J-IDEO 6：66-70, 2022
7. 池町真実, 山本 剛：臨床に役立つ検査結果報告～グラム染色の活用事例から4「推定される菌種や感染症など付加価値を付けて報告」. THE MEDICAL & TEST JOURNAL 1545, 2021
8. 池町真実：【特別企画】突撃！となりの新型コロナウイルス PCR 検査 [前編]. J-IDEO 3：257-259, 2022

### VIII. 3. 22 リハビリテーション技術部

1. 白井裕美子, 前川圭子, 末廣 篤：小児声帯結節と成人声帯結節における臨床所見の比較 - 対比を通して捉えた小児声帯結節の臨床的特徴 - . 音声言語医学 62：215-222, 2021, (DOI:https://doi.org/10.5112/jjlp.62.215)
2. 垣内優芳, 大政 貢：重症筋無力症における拡大胸腺摘出術後の最長発声持続時間の推移：症例報告. 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会誌 30：125-127, 2021, (DOI:https://doi.org/10.15032/jsr.30.1\_125)
3. 垣内優芳, 中田庸介：多発血管炎性肉芽腫症の寛解導入期における理学療法. 理学療法兵庫 27：24-28, 2021

### VIII. 3. 23 臨床工学室

1. 藤井清孝：【院内各領域における医療安全管理の実践】医療機器管理室領域. Clinical Engineering 32 (7)：590-597, 2021

### VIII. 3. 24 感染防止対策室

1. Sweatt AJ, Miyagawa K, Rhodes CJ, Taylor S, Rosario PAD, Hsi A, Haddad F, Spiekerkoetter E, Bental-Roof M, Bland RD, Swietlik EM, Gräf S, Wilkins MR, Morrell NW, Nicolls MR, Rabinovitch M, Zamanian RT：Severe Pulmonary Arterial Hypertension Is Characterized by Increased Neutrophil Elastase and Relative Elafin Deficiency. Chest. 160：1442-1458, 2021
2. Kawasaki Y, Matsubara K, Hori M, Isome K：Liver injury and cytopenia after BNT162b2 COVID-19 vaccination in an adolescent. Pediatr Int. 64：e15178, 2022
3. 池町真実, 山本 剛：臨床に役立つ検査結果報告～グラム染色の活用事例から4「推定される菌種や感染症など付加価値を付けて報告」. THE MEDICAL & TEST JOURNAL 1545, 2021
4. 池町真実：【特別企画】突撃！となりの新型コロナウイルス PCR 検査 [前編]. J-IDEO 3月号：257-259, 2022
5. 新井まゆ子：COVID-19 をふまえた感染対策・呼吸管理でナースがおさえおくべきこと全部！「感染対策」編「感染対策」を再確認！3 PPE（個人防護具）と感染経路（接触・飛沫・空気）を再確認. 月刊ナーシング 42 (4)：19-22, 2022
6. 新井まゆ子：COVID-19 をふまえた感染対策・呼吸管理でナースがおさえおくべきこと全部！「感染対策」編「ケア実施」を再確認！7 面会制限により見えてきた課題と工夫 神戸市立西神戸医療センターの取り組み. 月刊ナーシング 42 (4)：50-51, 2022
7. 新井まゆ子：ほかの施設の経験や取り組みを共有しよう！ICT が遭遇した新型コロナウイルス対応のトラブルとヒヤリハット. インфекションコントロール 31 (1)：46-50, 2022

## VIII. 4 神戸アイセンター病院

### VIII. 4.1 診療部

1. Tanaka F, Shibatani N, Fujita K, Ikesue H, Yoshimizu S, Muroi N, Kurimoto Y, Hashida T : Polypharmacy-associated potential contraindications of drug prescriptions in patients with primary angle closure disease in a real-world setting. *J Pharm Health Care Sci.* 7 (1) : 17, 2021, (DOI:10.1186/s40780-021-00196-w)
2. Maeda T, Sugita S, Kurimoto Y, Takahashi M : Trends of Stem Cell Therapies in Age-Related Macular Degeneration. *J Clin Med.* 10 (8) : 1785, 2021, (DOI:10.3390/jcm10081785)
3. Sakai D, Imai H, Nakamura M : Multiple Intravitreal Liposomal Amphotericin B for a Case of *Candida glabrata* Endophthalmitis. *Case Rep Ophthalmol* 12 (2) : 485-491, 2021, (DOI:10.1159/000511594)
4. Sakai D, Matsumiya W, Kusuvara S, Nakamura M : Factors associated with the development of ocular candidiasis and ocular prognosis with echinocandin therapy for candidemia. *J Ophthalmic Inflamm Infect.* 11 (1) : 17, 2021, (DOI:10.1186/s12348-021-00248-0)
5. Takenaka T, Matsuzaki M, Fujiwara S, Hayashida M, Suyama H, Kawamoto M : Myeloperoxidase anti-neutrophil cytoplasmic antibody positive optic perineuritis after mRNA coronavirus disease-19 vaccine. *QJM: An International Journal of Medicine* 114 (10) : 737-738, 2021, (DOI:10.1093/qjmed/hcab227)
6. Tsunogae M, Yoshimura H, Matsuzaki M, Yokota S, Kawamoto M : Localised chiasmal optic neuritis in neuromyelitis optica spectrum disorder. *Pract Neurol.* 22 (2) : 154-155, 2021, (DOI:10.1136/practneurol-2021-003120)
7. Matsuyama T, Tu HY, Sun J, Hashiguchi T, Akiba R, Sho J, Fujii M, Onishi A, Takahashi M, Mandai M : Genetically engineered stem cell-derived retinal grafts for improved retinal reconstruction after transplantation. *iScience.* 24 (8) : 102866, 2021, (DOI:10.1016/j.isci.2021.102866)
8. Nishida M, Tanaka Y, Tanaka Y, Amaya S, Tanaka N, Uyama H, Masuda T, Onishi A, Sho J, Yokota S, Takahashi M, Mandai M : Human iPSC cell derived RPE strips for secure delivery of graft cells at a target place with minimal surgical invasion. *Sci Rep.* 11 (1) : 2142, 2021
9. Sakai D, Hiramami Y, Nakamura M, Kurimoto Y : Accuracy of Intraocular Lens Power Calculation Formulas in Myopic Eyes with Target Refractions of Emmetropia and Intentional Myopia. *Clinical Ophthalmology* 15 : 4535-4541, 2021, (DOI:https://doi.org/10.2147/OPTH.S342392)
10. Sakai D, Yokota S, Maeda A, Hiramami Y, Nakamura M, Kurimoto Y : Ocular biometry with swept-source optical coherence tomography-based optical biometer in Japanese patients with EYS-related retinitis pigmentosa: a retrospective study. *BMC Ophthalmology* 22 (51), 2022, (https://doi.org/10.1186/s12886-022-02284-3")
11. Motozawa N, Miura T, Ochiai K, Yamamoto M, Horinouchi T, Tsuzuki T, Kanda GN, Ozawa Y, Tsujikawa A, Takahashi K, Takahashi M, Kurimoto Y, Maeda T, Mandai M : Automated evaluation of retinal pigment epithelium disease area in eyes with age-related macular degeneration. *Sci Rep.* 12 (892), 2022, (DOI:10.1038/s41598-022-05006-3)
12. Sakai D, Takagi S, Hiramami Y, Nakamura M, Kurimoto Y : Use of ellipsoid zone width for predicting visual prognosis after cataract surgery in patients with retinitis pigmentosa. *Eye,* 2022, (DOI:10.1038/s41433-021-01878-3)
13. Yamasaki S, Tu HY, Matsuyama T, Horiuchi M, Hashiguchi T, Sho J, Kuwahara A, Kishino A, Kimura T, Takahashi M, Mandai M : A Genetic modification that reduces ON-bipolar cells in hESC-derived retinas enhances functional integration after transplantation. *iScience* 25 (1) : 103657, 2022, (DOI:10.1016/j.isci.2021.103657)
14. Shah SH, Schiapparelli LM, Ma Y, Yokota S, Atkins M, Xia X, Cameron EG, Huang T, Saturday S, Sun CB, Knasel C, Blackshaw S, Yates JR, Cline HT, Goldberg JL : Quantitative transportomics identifies Kif5a as a major regulator of neurodegeneration. *Elife* 11 : e68148, 2022, (DOI:10.7554/eLife.68148)
15. Maeda T, Mandai M, Sugita S, Kime C, Takahashi M : Strategies of pluripotent stem cell-based therapy for retinal degeneration: update and challenges. *Trends Mol Med,* 2022, https://www.cell.com/trends/molecular-medicine/fulltext/S1471-4914 (22) 00053-3
16. 木下 恵, 柴谷直樹, 宮坂萌菜, 大江 泰, 平野達也, 入江 慶, 吉水 聡, 藤原雅史, 栗本康夫, 室井延之 : 緑内障患者に対する緑内障薬剤師外来の評価. *あたらしい眼科* 38 (9) : 1109-1113, 2021

17. 倉本恵里子, 室井延之, 平嶋正樹, 平山晴奈, 柴谷直樹, 土井朝子, 栗本康夫, 橋田 亨: 眼科日帰り手術 クリニカルパスの変更に伴う経口第3世代セファロスポリン系抗菌薬使用量変化に関する検討. 日化療会誌 69 (3): 249-254, 2021
18. 栗本康夫: 原発閉塞隅角病 (PACD) の治療戦略. 日本緑内障学会教育動画コンテンツ, 2021, <https://www.ryokunaisho.jp/member/movie/index.php> (日本緑内障学会ホームページ内)
19. 間宮紀子, 黄 丹, 田保和也, 横田 聡, 仲泊 聡, 平見恭彦, 栗本康夫: ヘイズ量と明るさ知覚ダイナミックレンジの関係. 視覚の科学 42 (3): 48-51, 2021, (DOI:<https://doi.org/10.11432/jpnjvissci.42.48>)
20. 黄 丹, 間宮紀子, 武田佳代, 田保和也, 山本 翠, 横田 聡, 仲泊 聡, 平見恭彦, 栗本康夫: 身体障害者手帳の新旧基準での申請件数の比較. 日本ロービジョン学会誌 21: 68-73, 2021
21. 田保和也, 黄 丹, 間宮紀子, 武田佳代, 山本 翠, 横田 聡, 仲泊 聡, 平見恭彦, 栗本康夫: 神戸アイセンター病院ロービジョン外来開設2年の現状. 日本ロービジョン学会誌 21: 24-28, 2021
22. 前田忠郎: 48. 再生医療. 最新主要文献でみる眼科学レビュー 2021-22, 2021, 第1版, 総合医学社, 東京, 302-307, 2021
23. 吉水 聡, 栗本康夫: 前眼部 OCT で見る隅角 - Anterior chamber angle observed using AS-OCT -. 眼科 63 (8): 725-732, 2021, (DOI:<https://doi.org/10.18888/ga.0000002214>)
24. 山田千佳子, 高橋政代: ロービジョンケアの心構え. 薬局 72 (6): 15-17, 2021
25. 横田 聡: 緑内障および他の神経疾患. 薬局 72 (6): 25-28, 2021
26. 平見恭彦: 加齢黄斑変性. 薬局 72 (6): 33-38, 2021
27. 栗本康夫: 再生医療とロービジョンケア. 薬局 72 (6): 54-58, 2021
28. 大江 泰: ロービジョン患者から見える薬剤管理. 薬局 72 (6): 59-63, 2021
29. 田中郁壮: 緑内障に注意を要する医薬品と代替薬の提案. 薬局 72 (6): 64-70, 2021
30. 宮坂萌菜: 点眼剤の基礎知識. 薬局 72 (6): 72-78, 2021
31. 柴谷直樹: ロービジョン患者支援のための点眼剤デバイス開発. 薬局 72 (6): 95-99, 2021
32. 室井延之: 病院から地域につながるロービジョンケアと薬剤師の役割. 薬局 72 (6): 64-70, 2021
33. 平野達也: 緑内障薬剤師外来の開設. 薬局 72 (6): 64-70, 2021
34. 山本 翠: 視覚補助具と ICT 機器の選び方と使い方. 薬局 72 (6): 111-116, 2021
35. 栗本康夫: 原発閉塞隅角緑内障. 臨床眼科 75 (11): 224-228, 2021, (DOI:<https://doi.org/10.11477/mf.1410214175>)
36. 吉水 聡: チューブシャント手術の適応・手術手技. 臨床眼科 76 (1): 33-39, 2022, (DOI:<https://doi.org/10.11477/mf.1410214265>)
37. 横田 聡: パラリンピックスキー種目 視覚障害の部 アルペンスキー. 日本の眼科 92 (12): 1496-1497, 2021
38. 木内良明, 井上俊洋, 庄司信行, 谷戸正樹, 中村 誠, 石田恭子, 井上賢治, 栗本康夫, 鈴木康之, 陳 進輝, 内藤知子, 本庄 恵, 三木篤也, 山下高明, 赤木忠道, 池田陽子, 臼井 審, 大久保真司, 大鳥安正, 面高宗子, 河嶋瑠美, 齋藤 瞳, 酒井 寛, 澤田 明, 芝 大介, 庄司拓平, 新明康弘, 榎野哲哉, 中元兼二, 新田耕治, 原 岳, 東出朋巳, 松田 彰, 丸山勝彦, 溝上志朗, 横山 悠, 吉水 聡, 井上幸次, 川崎 良, 千崎かしば, 廣岡 行, 宗重雅子, 安田里香: 緑内障診療ガイドライン (第5版). 日眼会誌 126 (2): 85-177, 2022
39. 横田 聡: トライアスロン (WEB版監修). パラスポーツスタートガイド, 2022

# IX. 学 会 報 告

## IX. 学 会 報 告

### IX. 1 中央市民病院

#### IX. 1.1 循環器内科

1. 江原夏彦：出血リスクを考慮した抗血栓療法および最新の構造的な疾患治療。かかりつけ医のための高齢者トータルケアセミナー，Web 開催，2021.4.15
2. 佐野田香：心不全治療中に発症し診断に苦慮した代謝性アシドーシスの一例。第 25 回 BACCHUS，Web 開催，2021.4.17
3. 古川 裕：弁膜症の治療選択と術後の抗血栓治療～弁膜症ガイドライン改訂のポイントも含めて～。第 17 回神戸循環器病診療連携フォーラム Web，Web 開催，2021.4.22
4. 鳥居裕太，谷 知子，北井 豪，岡田大司，菅沼直生子，山本 剛，宮川祥治，井川彩加，藤井礼子，松岡京子，森元加奈，古川 裕：Barlow 病における Mitral Annular Disjunction と心血管イベントの関連。日本心エコー学会第 32 回学術集会，WEB 開催，2021.4.23
5. 北井 豪：シンポジウム 6 心不全診療に心エコー図検査を活かす。日本心エコー学会第 32 回学術集会，WEB 開催，2021.4.24
6. 香原美咲，北井 豪，岡田大司，山本 駿，鳥居裕太，井川彩加，松岡京子，則政文子，長野真弥，中原千裕，大畑淳子，藤井洋子，宮川祥治，菅沼直生子，泉 佑樹，太田光彦，谷 知子，古川 裕：大動脈弁位人工弁機能評価における Doppler velocity index の算出法の検討。日本心エコー学会第 32 回学術集会，WEB 開催，2021.4.24
7. 長野真弥，北井 豪，岡田大司，鳥居裕太，宮川祥治，井川彩加，松岡京子，香原美咲，則政文子，中原千裕，山本 駿，大畑淳子，菅沼直生子，藤井洋子，古川 裕：右胸壁アプローチにて評価可能であった肺動脈内膜肉腫の一例。日本心エコー学会第 32 回学術集会，WEB 開催，2021.4.24
8. 古川 裕：心不全診療における地域連携と新規心不全治療薬。心不全医療ネットワークミーティング～地域ネットワークの重要性～，Web 開催，2021.4.26
9. 豊田俊彬：当院における構造的な疾患治療への取り組み～心房中隔欠損症、卵円孔開存症を中心に～。神戸循環器疾患治療 Web セミナー，Web 開催，2021.5.12
10. 江原夏彦：TAVI 後の PCI テクニック～TAVI 弁の構造を知る。TAVI 時代の PCI，Zoom 開催，2021.5.13
11. 小堀敦志：高齢化社会における心房細動治療～抗凝固薬からアブレーションまで～。養父市医師会学術講演会，Zoom 開催，2021.5.20
12. 井川彩加，北井 豪，鳥居裕太，菅沼直生子，山本 駿，中原千裕，長野真弥，岡田大司，小山忠明，古川裕：再燃をきたした IgG4 関連冠動脈瘤の 1 例。日本超音波医学会第 94 回学術集会，神戸，ハイブリッド開催，2021.5.21
13. 江原夏彦：弁膜症ガイドラインおよび弁膜症患者への至適抗血栓療法について。KTAVI，Zoom 開催，2021.5.21
14. 村井亮介：急性心不全における腎代替療法の適用を考える。第 16 回心不全梁山泊，Teams 開催，2021.5.29
15. 江原夏彦：僧帽弁疾患に対する MitraClip 治療戦略。僧帽弁閉鎖不全症治療 Web 講演会，Web 開催，2021.6.2
16. 岡田大司：経胸壁心エコーでの MR 計測・評価。僧帽弁閉鎖不全症治療 Web 講演会，Web 開催，2021.6.2
17. 岡田大司，浅沼俊彦，山口一人，香川雄三，遠藤昭博，吉富裕之，中谷 敏，田邊一明：3D スペックルトラッキング法を用いた新しい左室充満圧推定。関西心エコーリサーチクラブ，Web 開催，2021.6.5
18. 江原夏彦：心房細動合併 PCI 症例における抗血栓療法。神戸循環器セミナー，神戸，2021.6.10
19. 野口 佑：Fontan 手術後成人期に低酸素血症を来した 1 例。第 31 回大阪木曜カンファレンス，リモート開催，2021.6.10
20. 古川 裕：心不全パンデミックを迎え撃つための地域連携と新規薬物治療。灘区医師会 生涯教育・学術講演会，神戸，2021.6.15
21. 大箭周平，岩田健太郎，北井 豪，中島璃奈，大塚修斗，稲垣優太，阿部貴文，下雅意崇亨，本田明広，幸原伸夫，椿 淳裕，古川 裕：心不全患者における退院時 SPPB が 6 ヶ月以内の全死亡と再入院に及ぼす影響。第 27 回日本心臓リハビリテーション学会学術集会，千葉，ハイブリッド開催，2021.6.19-20



22. 稲垣優太, 岩田健太郎, 北井 豪, 梶月幹太, 大塚脩斗, 阿部貴文, 大箭周平, 下雅意崇亨, 本田明広, 幸原伸夫, 椿 淳裕, 古川 裕: 冠動脈バイパス術患者における術後リハビリテーション遅延と術前呼吸機能の関連. 第 27 回日本心臓リハビリテーション学会学術集会, 千葉, ハイブリッド開催, 2021.6.19-20
23. 舛本慧子, 北井 豪, 加地修一郎, 金 基泰, 江原夏彦, 木下 慎, 古川 裕: 低心拍出症候群に陥った虚血性心筋症に対し Impella CP を鎖骨下動脈より留置し緩徐に心保護薬を導入した一例. 第 27 回日本心臓リハビリテーション学会学術集会, 千葉, ハイブリッド開催, 2021.6.19-20
24. 古川 裕: 当院における AS と MR の治療～弁置換後心房細動症例の抗血栓治療を含めて～. 神戸循環器画像連携講演会, Web 開催, 2021.6.24
25. 江原夏彦: 構造的な疾患への低侵襲治療: Mitraclip, TAVI, Watchman. 循環器疾患連携懇話会, 神戸, 2021.6.24
26. Nakamura T, Takami M, Fukuzawa K, Kikuchi K, Kono H, Kobori A, Sakamoto Y, Watanabe R, Okumura Y, Yoshida A, Yamashita S, Yamashiro K, Kanda T, Masuda M, Yoshitani K, Mine T, Hirayama Y, Adachi K, Hirata K: Incidence and Characteristics of Coronary Artery Spasms During Atrial Fibrillation Ablation Procedures: A Multicenter Analysis. 第 67 回日本不整脈心電学会学術大会, WEB 開催, 2021.7.1
27. 中村悟士, 小堀敦志, 佐々木康博, 朴 美仙, 田中雄己, 杉澤朋弥, 山城悠葵, 中農陽介, 中村 聡, 高岡循子, 橋本早央里, 坂地一朗, 古川 裕: 心房細動アブレーション放射線被ばくに対する透視削減プロトコル改良への取り組み. 第 67 回日本不整脈心電学会学術大会, WEB 開催, 2021.7.1-3
28. 豊田俊彬: ガイドラインを踏まえた冠動脈疾患二次予防～LDL コレステロールへの介入と高トリグリセリド血症～. 残存リスクを考える会, 神戸, Zoom 開催, 2021.7.1
29. Sasaki Y, Kobori A: Efficacy and Safety of Catheter Ablation for Persistent Atrial Fibrillation in Octogenarian Patients. 第 67 回日本不整脈心電学会学術大会, WEB 開催, 2021.7.3
30. 佐野円香, 豊田俊彬, 金 基泰, 滋野 稜, 野口 祐, 宮脇規壽, 三好悠太郎, 舛本慧子, 村井亮介, 岡田大司, 朴 美仙, 佐々木康博, 北井 豪, 小堀敦志, 江原夏彦, 木下 慎, 古川 裕: COVID-19 に合併した治療抵抗性の急性心膜炎の一例. 第 131 回日本循環器学会近畿地方会, WEB 開催, 2021.7.3
31. 江原夏彦: 僧帽弁逆流、左心耳閉鎖に対するカテーテル治療 (Mitraclip, Watchman). Structural Heart Disease Conference, Zoom 開催, 2021.7.7
32. 谷口智彦: TAVI の適応拡大～局所麻酔下で症候性重症 AS を治療する時代へ～. Structural Heart Disease Conference, Zoom 開催, 2021.7.7
33. 江原夏彦: 構造的な疾患へのカテーテル治療の現況 (Mitraclip/TAVI/Watchman) および ARNI への期待. Structural Heart Disease Web Seminar, WEB 開催, 2021.7.8
34. 古川 裕: 心房細動への抗凝固治療における超高齢社会と併存症の問題. 循環器 Conference ～心疾患と抗凝固療法～, 神戸, Zoom 開催, 2021.7.29
35. 古川 裕: 神戸から拡げる地域に根付いた心不全診療連携. 第 6 回神戸心不全ネットワーク, WEB 開催, 2021.8.5
36. 江原夏彦: HBR (High Bleeding Risk) を考慮した冠動脈疾患合併心房細動症例への抗血栓療法. 北大阪不整脈勉強会, 高槻, 2021.8.21
37. 村井亮介: 地域の基幹病院における心不全診療の役割を考える. KURASHIKI HEART EXPERTS MEETING, Teams 開催, 2021.8.31
38. 江原夏彦: 構造的な疾患への低侵襲治療～Mitraclip, TAVI, Watchman～. 神戸循環器懇話会, Zoom 開催, 2021.9.2
39. 古川 裕: 超高齢社会における心不全治療～心房細動の管理と地域連携～. 和歌山循環器セミナー, 和歌山, Zoom 開催, 2021.9.2
40. 江原夏彦: TAVI 後の PCI テクニック～TAVI 弁の構造を知る～. 第 2 回 TAVI 時代の PCI, Zoom 開催, 2021.9.3
41. 下雅意崇亨, 岩田健太郎, 林 美穂, 大橋啓太, 中川裕基, 大塚脩斗, 滝本龍矢, 野崎惇貴, 本田明広, 古川 裕: 高齢急性心不全に対する高頻度運動療法強化介入により短期間に身体機能改善を認めた症例. 第 40 回日本臨床運動療法学会学術集会, 京都, 2021.9.11-12
42. 古川 裕: ランチョンセミナー 超高齢社会における心不全治療～心房細動の管理と地域連携～. 第 3 回 SING Live 研究会, ウェブ開催, 2021.9.11

43. 古川 裕：心不全における高尿酸血症の意味を考える。WEB フォーラム 心不全と高尿酸血症を考える会 in 神戸, Zoom 開催, 2021.9.15
44. 佐野円香, 村井亮介, 岡田大司, 谷口智彦, 金 基泰, 古川 裕：当院における院外心停止に対する体外循環式心肺蘇生 (ECPR) 症例の検討。第 69 回日本心臓病学会学術集会, 米子, ハイブリッド開催, 2021.9.18
45. 長野真弥, 北井 豪, 岡田大司, 鳥居裕太, 小堀敦志, 佐々木康博, 谷 知子, 古川 裕：心房細動に対するカテーテルアブレーション前後における機能性僧帽弁逆流の経時的変化。第 69 回日本心臓病学会学術集会, 米子, ハイブリッド開催, 2021.9.18
46. 古川 裕：心不全～その病態から新規薬物治療まで～。兵庫県保険医協会 薬科部 9 月研究会, 神戸, 2021.9.18
47. 小西正紹, 坂賢一郎, 鍵山暢之, 斎藤 洋, 斎藤和也, 小笠原由紀, 前川恵美, 北井 豪, 百村伸一, 田村功一, 木村一雄, 神谷健太郎, 末永祐哉：高齢心不全患者に適した心臓リハビリテーションとは FRAGILE-HF 研究からの考察。第 69 回日本心臓病学会学術集会, 米子, ハイブリッド開催, 2021.9.19
48. 石倉正大, 佐々木康博, 小堀敦志, 古川 裕：Coherent map で観察される心房間伝導と右側肺静脈隔離ラインとの関連性。カテーテルアブレーション関連秋季大会 2021, WEB 開催, 2021.9.23-25
49. 古川 裕：心不全治療の現状～地域連携の取り組みと新規薬物治療～。STOP 循環器病 2021, WEB 開催, 2021.9.27
50. 江原夏彦：構造的疾患へのカテーテル治療の適応拡大：低リスク患者への TAVI、経皮的僧帽弁クリップ術、左心耳閉鎖治療など。Kobe Heart Conference 2021, Zoom 開催, 2021.9.29
51. Miyawaki N, Murai R, Ishikura M, Okada T, Toyota T, Sasaki Y, Taniguchi T, Kim K, Kobori A, Ehara N, Kinoshita M, Furukawa Y：Clinical characteristics and impact of long-term outcome of iron deficiency in patient with acute decompensated heart failure. 第 25 回日本心不全学会学術集会, WEB 開催, 2021.10.1-3
52. 村井亮介：COVID19 パンデミックの心不全診療の現場を振り返る。U40 心不全ネットワーク企画 5 <with- コロナ時代の心不全を振り返る>。第 25 回日本心不全学会学術集会, WEB 開催, 2021.10.2
53. 谷口智彦, 千原英夫, 阿河祐二, 波多野武人, 石津賢一, 藤岡慎平, 林 昌臣, 川口朋宏, 磯谷彰宏, 白井伸一, 安藤献児：術前 CAG で脳梗塞を発症した重症大動脈弁狭窄症患者に cerebral embolic protection のもと TAVI を施行した一例。第 37 回日本心血管インターベンション治療学会近畿地方会, WEB 開催, 2021.10.9
54. 野口 祐, 江原夏彦：右冠動脈入口部に高度狭窄を有する重症大動脈弁狭窄症に対して TAVI を施行した一例。第 37 回日本心血管インターベンション治療学会近畿地方会, WEB 開催, 2021.10.9
55. 川本篤彦, 藤田靖之, 木下 慎, 古川 裕, 田口明彦, 坂井千秋, 坂井信幸, 新倉隆宏, 黒田良祐：CD34 陽性細胞移植による血管再生治療。第 62 回日本脈管学会総会, 札幌, ハイブリッド開催, 2021.10.15
56. 村井亮介：当院の腫瘍循環器外来の役割とがん診療科との連携。港島腫瘍循環器セミナー 2021, Zoom 開催, 2021.10.27
57. 宮脇規壽：当院のがん関連血栓塞栓症と抗凝固療法。港島腫瘍循環器セミナー 2021, Zoom 開催, 2021.10.27
58. 江原夏彦：TAVI 弁留置直後に発症した LMT 閉塞。第 7 回 Pan-Pacific Primary Angioplasty Conference 2021 (PAC21), WEB 開催, 2021.11.12-13
59. Miyawaki N, Ishikura M, Murai M, Okada T, Toyota T, Sasaki Y, Taniguchi T, Kim K, Kobori A, Ehara N, Kinoshita M, Furukawa Y：The Impact of Iron Deficiency on Long-Term Outcomes in Patients with Acute Decompensated Heart Failure. American Heart Association Scientific Sessions 2021 (AHA21), Virtual Meeting, 2021.11.13-15
60. 古川 裕：超高齢社会における心不全地域連携～心房細動の管理と地域連携～。NAGARA 循環器病診療連携の会, Zoom 開催, 2021.11.20
61. 古川 裕：心不全診療の現状と課題～地域連携と薬物治療の位置づけ～。ARNI Web Live Ainter Symposium 2021, WEB 開催, 2021.11.25
62. 小堀敦志：持続性心房細動に対する Cryoballoon Ablation ～当院における治療経験から～。Cryo Summit in 奈良 2nd, Zoom 開催, 2021.11.26
63. Taniguchi T：Management of asymptomatic patients with severe AS: Insights from the CURRENT AS Registry. 51st Annual Scientific Meeting of the Korean Society of Echocardiography (KSE 2021), Seoul, Virtual, 2021.11.27-28

64. 谷口智彦：大動脈弁狭窄症アップグレード～人と差がつく診方と現場で役立つポイント～. 第6回 Cardiovascular Expert Web Seminar From Kobe, オンライン開催, 2021.11.29
65. 古川 裕：心不全地域連携と薬物治療における最近の話題. 心不全治療 forum, リモート開催, 2021.12.2
66. 江原夏彦：ランチョンセミナー3 TAVIの最新知見および弁膜症術後抗凝固療法について. 第119回日本循環器学会四国地方会, WEB開催, 2021.12.4
67. 村井亮介：心不全と心房細動を再考する. 若手循環器内科医のためのWebセミナー in 阪神, Zoom開催, 2021.12.10
68. 西浦直紀：冠動脈疾患合併症の心房細動患者に対するアブレーション後に頸部仮性動脈瘤を生じた1例. 若手循環器内科医のためのWebセミナー in 阪神, Zoom開催, 2021.12.10
69. 野口 佑, 村井亮介, 金尾昌太郎, 宮越千智, 林 賢, 一柳知宏, 中村栞奈, 佐野円香, 宮脇規壽, 西浦直紀, 石倉正大, 岡田大司, 豊田俊彬, 佐々木康博, 谷口智彦, 金 基泰, 小堀敦志, 江原夏彦, 木下 慎, 古川 裕：Fontan術後成人期に亜急性の低酸素血症を来し鑑別に苦慮した1例. 第132回日本循環器学会近畿地方会, WEB開催, 2021.12.11
70. 一柳知宏, 金 基泰, 中村栞奈, 野口 佑, 佐野円香, 宮脇規壽, 西浦直紀, 村井亮介, 石倉正大, 岡田大司, 豊田俊彬, 佐々木康博, 谷口智彦, 小堀敦志, 江原夏彦, 木下 慎, 古川 裕, 清水祐里, 原 重雄：繰り返す失神を契機に診断に至ったATTR心アミロイドーシスの1例. 第132回日本循環器学会近畿地方会, WEB開催, 2021.12.11
71. 石倉正大, 小堀敦志, 佐々木康博, 村井亮介, 岡田大司, 豊田俊彬, 谷口智彦, 金 基泰, 江原夏彦, 木下 慎, 古川 裕：嚔下誘発性心房頻拍に対してカテーテルアブレーションが有効であった一例. 第132回日本循環器学会近畿地方会, WEB開催, 2021.12.11
72. 中村栞奈, 金 基泰, 一柳知宏, 佐野円香, 野口 祐, 西浦直紀, 宮脇規壽, 石倉正大, 村井亮介, 岡田大司, 豊田俊彬, 佐々木康博, 谷口智彦, 小堀敦志, 江原夏彦, 木下 慎, 古川 裕：滲出性収縮性心膜炎への移行を観察できた急性心膜炎の一例. 第132回日本循環器学会近畿地方会, WEB開催, 2021.12.11
73. 古川 裕：心不全診療における最近の話題：地域連携と薬物治療. Heart Failure Expert Meeting, Zoom開催, 2021.12.15
74. 金 基泰：心原性ショックに対する機械的循環補助を用いた治療戦略と新規心不全治療薬. 第6回心不全診療と連携を考える会, リモート開催, 2021.12.16
75. 小堀敦志：心房細動診療 up-to-Date アブレーションと抗凝固療法. イグザレト WEBカンファレンス, リモート開催, 2021.12.16
76. 古川 裕：心不全診療 update：地域連携と新規治療薬. Heart Failure New Wave, 神戸, Zoom開催, 2022.1.27
77. 滋野 稔, 江原夏彦, 古川 裕, 木下 慎, 金 基泰, 谷口智彦, 豊田俊彬, 岡田大司, 村井亮介, 石倉正大：人工弁機能不全に対する経カテーテル大動脈弁置換術において人工弁通過に難渋した一例. 第38回日本心血管インターベンション治療学会近畿地方会, WEB開催, 2022.2.19
78. 小堀敦志：心房細動治療の新たなオプション～経カテーテル左心耳閉鎖術～. AF Update Seminar, Zoom開催, 2022.2.24
79. 佐々木康博：当院における心房細動アブレーション. AF Update Seminar, Zoom開催, 2022.2.24
80. 古川 裕：超高齢社会における心不全診療のトピックス～地域連携、心房細動の管理から新規治療薬まで～. バイエル循環器フォーラム in 山梨, Web開催, 2022.3.3
81. 古川 裕：心不全診療における最近の話題：地域連携と薬物治療. 島田市 WEB学術講演会, WEB開催, 2022.3.10
82. Kinoshita M, Nakamura K, Koyama T, Furukawa Y：Current Status and Future Perspectives of Endovascular Aneurysm Repair (EVAR) for Abdominal Aortic Aneurysm (AAA). 第86回日本循環器学会学術集会, WEB開催, 2022.3.11-13
83. 谷口智彦：The Impact of Age on Survival of Patients Undergoing Surgical Aortic Valve Replacement: Insights from the CURRENT AS Registry. 第86回日本循環器学会学術集会, WEB開催, 2022.3.11-13
84. Sasaki Y, Kobori A：Anatomical Characteristics of Successful Left Atrial Posterior Wall Isolation by the Cryoballoon Application for Persistent Atrial Fibrillation. 第86回日本循環器学会学術集会, WEB開催, 2022.3.11-13

85. Okada T, Kobori A, Sano M, Ishikura M, Murai R, Toyota T, Sasaki Y, Taniguchi T, Kim K, Ehara N, Kinoshita M, Tani T, Furukawa Y : The Relation between Left Atrial Appendage Flow Velocity and the HFA-PEFF Score during Sinus Rhythm in Patients with Atrial Fibrillation. 第 86 回日本循環器学会学術集会, WEB 開催, 2022.3.11-13
86. 石倉正大, 小堀敦志, 佐々木康博, 村井亮介, 岡田大司, 豊田俊彬, 谷口智彦, 金 基泰, 江原夏彦, 木下 慎, 古川 裕 : Comparison of Success Rate and Durability of the Left Atrial Roof and Bottom Line Ablation Using Cryoballoon vs. Radiofrequency Catheter. 第 86 回日本循環器学会学術集会, WEB 開催, 2022.3.11-13
87. 宮脇規壽, 村井亮介, 河野裕之, 石倉正大, 岡田大司, 豊田俊彬, 佐々木康博, 谷口智彦, 金 基泰, 北井 豪, 小堀敦志, 江原夏彦, 木下 慎, 古川 裕 : Clinical Significance of Urinary Sodium Concentration and Urine Osmolality Measurements in Patients with Acute Heart Failure. 第 86 回日本循環器学会学術集会, WEB 開催, 2022.3.11-13
88. Sano M, Toyota T, Morimoto T, Noguchi Y, Shigeno R, Shibamori Y, Miyawaki N, Nishiura N, Ishikura M, Murai R, Okada T, Sasaki Y, Taniguchi Y, Kim K, Kobori A, Ehara N, Kinoshita M, Doi A, Tomi K, Kihara Y, Furukawa Y : Exploratory Analysis for Prognosis Prediction Methods Using Cardiac Biomarkers for Coronavirus Disease 2019. 第 86 回日本循環器学会学術集会, WEB 開催, 2022.3.11-13
89. 鳥居裕太, 谷 知子, 岡田大司, 菅沼直生子, 宮川祥治, 上野菜美子, 大畑淳子, 山本 駿, 中原千裕, 香原美咲, 長野真弥, 井川彩加, 岸中日幸, 松岡京子, 古川 裕 : Barlow 病における僧帽弁流・僧帽弁合体形態と心血管イベントの関連. 第 86 回日本循環器学会学術集会, WEB 開催, 2022.3.11-13
90. Pak M, Hattori T, Ishikura M, Yamasaki T, Sasaki Y, Kakita K, Kobori A : The Initial Experience of the New Visually Guided Laser Balloon Ablation System for Patients with Atrial Fibrillation in Japan. 第 86 回日本循環器学会学術集会, WEB 開催, 2022.3.11-13
91. 三宅 誠, 藤田知之, 小山忠明, 田中秀和, 安藤献児, 小宮達彦, 出雲昌樹, 川合宏哉, 江石清行, 吉田 清, 木村 剛, 縄田隆三, 竹上未紗, 大林祐樹, 北井 豪, 天野雅史, 田村俊寛, 西村邦宏, 古川 裕, 泉 知里 : Comparison of Direct Oral Anticoagulants and Warfarin in Atrial Fibrillation Patients with an Aortic Bioprosthetic Valve. 第 86 回日本循環器学会学術集会, WEB 開催, 2022.3.11-13
92. Yamashita S, Takahashi Y, Nitta J, Kobori A, Sakamoto Y, Nagata Y, Tanimoto K, Matsuo S, Morita N, Satomi K, Inaba O, Murata K, Sasaki Y, Yoshimoto D, Kaneko M, Tanimoto Y, Isogai R, Goya M, Sasano T, Yamane T : Clinical Outcome of Catheter Ablation for Atrial Fibrillation: Comparison between Alcohol Drinker and Non-Drinker Patients. 第 86 回日本循環器学会学術集会, WEB 開催, 2022.3.11-13
93. Misumi K, Matsue Y, Nogi K, Dotare T, Sunayama T, Maeda D, Kagiya N, Kitai T, Ohishi S, Akiyama E, Suzuki S, Yamamoto M, Kida K, Okumura T, Nogi M, Ishihara S, Ueda T, Kawakami R, Saito Y, Minamino T : Derivation and Validation of Machine Learningbased Risk Prediction Model for In-hospital Mortality in Patients with Acute Heart Failure. 第 86 回日本循環器学会学術集会, WEB 開催, 2022.3.11-13
94. Kitakata H, Kohsaka S, Kuroda S, Nomura A, Kitai T, Yonetsu T, Torii S, Matsue Y, Matsumoto S : Inflammatory and Hypercoagulable Biomarkers and Clinical Outcomes in COVID-19 Patients. 第 86 回日本循環器学会学術集会, WEB 開催, 2022.3.11-13
95. Takahashi Y, Nitta J, Kobori A, Sakamoto Y, Nagata Y, Tanimoto K, Matsuo S, Yamane T, Morita N, Satomi K, Inaba O, Murata K, Sasaki Y, Yoshimoto D, Kaneko M, Tanimoto Y, Isogai R, Yamashita S, Goya M, Sasano T : Efficacy of beyond PVI Ablation Strategy for Persistent and Longstanding Persistent Atrial Fibrillation. 第 86 回日本循環器学会学術集会, WEB 開催, 2022.3.11-13
96. Murata K, Takahashi Y, Inaba O, Nitta J, Kobori A, Sakamoto Y, Nagata Y, Tanimoto K, Matsuo S, Yamane T, Morita N, Satomi K, Sasaki Y, Yoshimoto D, Kaneko M, Tanimoto Y, Isogai R, Yamashita S, Goya M, Sasano T : Efficacy of Left Atrial Posterior Wall Isolation for Non-Paroxysmal Atrial Fibrillation Using Lesion Size Assessment Module. 第 86 回日本循環器学会学術集会, WEB 開催, 2022.3.11-13
97. Kimura M, Kobori A, Nitta J, Hirao K, Shizuta S, Kurita T, Okishige K, Kumagai K, Koyama J, Hiroshima K, Inaba O, Goya M, Yamauchi Y, Kueffer FJ, Becker D, Okumura K : 2-Year Outcome of Cryoballoon Ablation for Paroxysmal Atrial Fibrillation from the Japan Cryo-AF Registry. 第 86 回日本循環器学会学術集会, WEB 開催, 2022.3.11-13

98. Dotare T, Maeda D, Matsue Y, Sunayama T, Iso T, Kida K, Kitai T, Kagiya N, Yamaguchi T, Okumura T, Mizuno A, Ohishi S, Inuzuka Y, Akiyama E, Suzuki S, Yamamoto M, Minamino T : Prognostic Implication of Early Drop in Systolic Blood Pressure during the First 48 Hours in Patients with Acute Heart Failure. 第 86 回日本循環器学会学術集会, WEB 開催, 2022.3.11-13
99. 古川 裕: 超高齢社会における心不全診療のトピックス～地域連携、心房細動の管理から新規治療薬まで～. 富士循環器疾患医療連携 Web カンファレンス, Web 開催, 2022.3.17
100. 古川 裕: 新規心不全治療薬の位置づけを考える～SGLT2 阻害薬を中心に～. 二次救急輪番制専門部会循環器疾患の会, オンライン開催, 2022.3.19

## IX. 1.2 糖尿病・内分泌内科

1. 岩倉敏夫: 備えあれば憂いなし ～無自覚性低血糖から考える治療戦略～. Diabetes Online Seminar, 東京, WEB 開催, 2021.4.6
2. 岩倉敏夫: 備えあれば憂いなし ～重症低血糖を防ぐためにすべきこと～. 重症低血糖を考える会, 姫路, WEB 開催, 2021.4.8
3. 岩倉敏夫: 備えあれば憂いなし ～無自覚性低血糖から考える治療戦略～. Severe Hypoglycemia Online Meeting, 香川, WEB 開催, 2021.4.9
4. 岩倉敏夫: 備えあれば憂いなし ～重症低血糖を防ぐためにすべきこと～. Nasal Glucagon Online Seminar, 大阪, WEB 開催, 2021.4.16
5. 岩倉敏夫: 備えあれば憂いなし ～無自覚性低血糖から考える治療選択～. 備えの大切さ ～重症低血糖への新たな備え～, 豊田, WEB 開催, 2021.4.21
6. 大久保万理江, 籀谷雄二, 藤本寛太, 岩倉敏夫, 松岡直樹, 嶋田有里, 富井啓介: ペンブロリズマブ投与後に続発性副腎皮質機能低下症と 1 型糖尿病を発症した 1 例. 第 94 回日本内分泌学会学術総会, バーチャル開催, 2021.4.22
7. 澤井瑠一, 浜松圭太, 井上祥花, 井上愛子, 岡崎恭子, 西澤 衡, 村部浩之, 横田敏彦: アドレナリン優位型褐色細胞腫・パラガングリオーマではクロニジン抑制試験の感度が低く、一部で奇異性上昇を呈する. 第 94 回日本内分泌学会学術総会, バーチャル開催, 2021.4.22
8. 井上祥花, 藤本寛太, 長谷部雅士, 大久保万理江, 籀谷雄二, 岩倉敏夫, 松岡直樹, 濱本文美, 竹林慎治: 外科的切除が可能だった直腸癌甲状腺転移の 1 例. 第 94 回日本内分泌学会学術総会, バーチャル開催, 2021.4.22
9. 岩倉敏夫: 備えあれば憂いなし ～重症低血糖を防ぐためにすべきこと～. 重症低血糖について考える会, 京都, WEB 開催, 2021.4.23
10. 大久保万理江, 伯田琢郎, 藤本寛太, 籀谷雄二, 岩倉敏夫, 松岡直樹: 自己免疫性脳炎を合併した多腺性自己免疫症候群 3 型 (APS3 型) の 1 例. 第 94 回日本内分泌学会学術総会, バーチャル開催, 2021.4.24
11. 岩倉敏夫: 備えあれば憂いなし ～無自覚性低血糖から考える治療戦略～. Severe Hypoglycemia Online Meeting, 秋田, WEB 開催, 2021.4.27
12. 岩倉敏夫: SGLT2 阻害薬による食行動への影響を考慮した栄養指導法を模索する. T2DM Web セミナー～糖尿病治療を再考する～, 明石, Web 開催, 2021.5.13
13. 岩倉敏夫: 備えあれば憂いなし ～無自覚性低血糖から考える治療戦略～. ～糖尿病診療における低血糖管理を考える～, 成田, Web 開催, 2021.5.14
14. 岩倉敏夫: 備えあれば憂いなし ～無自覚性低血糖から考える治療戦略～. Diabetes Web Forum ～重症低血糖リスクから患者を守る～, 西宮, Web 開催, 2021.5.15
15. 岩倉敏夫: 糖尿病治療に伴う重症低血糖の予防と対処法. 第 64 回日本糖尿病学会年次学術集会, WEB 開催, 2021.5.22
16. 大久保万理江, 籀谷雄二, 藤本寛太, 岩倉敏夫, 松岡直樹, 嶋田有里, 富井啓介: ペンブロリズマブ投与後に続発性副腎皮質機能低下症と 1 型糖尿病を発症した 1 例. 第 64 回日本糖尿病学会年次学術集会, Web 開催, 2021.5.22
17. 藤島雄幸, 松岡直樹, 岩倉敏夫, 籀谷雄二, 藤本寛太, 大久保万理江: COVID-19 流行前後における糖尿病外来患者の血糖コントロールに影響する因子に関する後ろ向き観察研究. 第 64 回日本糖尿病学会年次学術集会, Web 開催, 2021.5.22

18. 岩倉敏夫, 真弓俊彦: なるほど! 低血糖 救急医療者のための知識と対処法. 第 24 回日本臨床救急医学会 総会・学術集会, オンライン開催, 2021.6.12
19. 籾谷雄二: 抗 PD-1 阻害薬投与後に続発性副腎皮質機能低下症と 1 型糖尿病を発症した 1 例. 神戸 irAE 対策セミナー, WEB 開催, 2021.6.14
20. 岩倉敏夫: 備えあれば憂いなし ~重症低血糖を防ぐためにすべきこと~. 糖尿病患者の低血糖管理を考える会 Nasal Glucagon Online Seminar, 神奈川, 2021.6.18
21. 岩倉敏夫: 備えあれば憂いなし ~重症低血糖を防ぐためにすべきこと~. Nasal Glucagon Online Conference, 広島, 2021.6.25
22. 岩倉敏夫: 備えあれば憂いなし ~無自覚性低血糖から考える治療戦略~. 2 型糖尿病と低血糖を考える会, 群馬, WEB 開催, 2021.7.27
23. 岩倉敏夫: GLP-1 受容体作動薬を活かしたコロナ禍での在宅血糖管理. 在宅血糖管理 WEB セミナー, 神奈川, WEB 開催, 2021.7.30
24. 岩倉敏夫: GLP-1 受容体作動薬を活かしたコロナ禍での在宅血糖管理. GLP-1 受容体作動薬 Online Seminar in 神戸, 神戸, WEB 開催, 2021.9.1
25. 藤本寛太, 藤島雄幸, 大久保万理江, 籾谷雄二, 岩倉敏夫, 松岡直樹: 診断から長期経過して治療を行った褐色細胞腫多発転移の 1 例. 第 99 回京都内分泌同好会, オンライン開催, 2021.9.4
26. 豊田紗和子, 増本憲生, 土肥麻貴子, 入江 慶, 奥貞 智, 室井延之, 松岡直樹, 橋田 亨: SGLT2 阻害薬が術後アシドーシスに与える影響. 第 9 回日本くすりと糖尿病学会学術集会, Web 開催, 2021.9.11
27. 藤島雄幸, 籾谷雄二, 大久保万理江, 藤本寛太, 岩倉敏夫, 松岡直樹: 正常血糖糖尿病ケトアシドーシスを発症したパセドウ病合併 2 型糖尿病の 1 例. 日本内科学会第 233 回近畿地方会, web 開催, 2021.9.11
28. 藤島雄幸, 籾谷雄二, 大久保万理江, 藤本寛太, 岩倉敏夫, 松岡直樹: 正常血糖糖尿病ケトアシドーシスを発症したパセドウ病合併 2 型糖尿病の 1 例. 第 114 回神戸甲状腺研究会, 神戸, 2021.9.11
29. 籾谷雄二: 当院における RAI 療法の現状について. 甲状腺癌 web カンファレンス in 播磨, WEB 開催, 2021.9.14
30. 岩倉敏夫: 備えあれば憂いなし ~重症低血糖を防ぐためにすべきこと~. Oita Network Conference, 大分, WEB 開催, 2021.9.15
31. 岩倉敏夫: GLP-1 受容体作動薬に期待するコロナ禍での糖尿病治療戦略. Diabetes & Incretin Seminar ~ Real World Findin ~, 東京, WEB 開催, 2021.10.14
32. 岩倉敏夫: GLP-1 受容体作動薬を用いたコロナ禍での糖尿病治療戦略. GLP-1 Online Seminar WEB, 大阪, 2021.10.21
33. 澤井瑠一, 藤本寛太, 藤島雄幸, 大久保万理江, 籾谷雄二, 岩倉敏夫, 松岡直樹: 肥満を伴う抗 GAD 抗体強陽性糖尿病の 1 例. 日本糖尿病学会中国四国地方会第 59 回総会, 岡山, ハイブリッド開催, 2021.10.23
34. 岩倉敏夫: GLP-1 受容体作動薬を活かしたコロナ禍での糖尿病治療戦略. 第 155 回糖尿病教育学習研究会(トップセミナー) 第 194 回 I I D E S 糖尿病研究会 第 129 回 C D E 兵庫県連合会研究会, 神戸, ハイブリッド開催, 2021.10.23
35. 岩倉敏夫: GLP-1 製剤を活かしたコロナ禍での在宅血糖管理. Diabetes & Incretin Seminar in Fukuyama WEB, 福山, 2021.10.28
36. 岩倉敏夫: コーチングを活用した個別化した糖尿病診療の試み. 糖尿病治療を考える会, 神戸, WEB 開催, 2021.10.29
37. 藤本寛太: 糖尿病初診時の対応これだけ~注射製剤をいつ, どう使う~. Diabetes Future Risk Management Forum, 神戸, 2021.11.2
38. 大久保万理江: 「外来でのソリクア導入」. Diabetes Trial case Conference, 神戸, Web 開催, 2021.11.9
39. 岩倉敏夫: 備えあれば憂いなし ~重症低血糖を防ぐためにすべきこと~. -オンライン講演会- 糖尿病患者の低血糖を考える会, 高知, WEB 開催, 2021.11.12
40. 岩倉敏夫: GLP-1 製剤を活かしたコロナ禍での在宅血糖管理. Incretin Web Seminar -GLP-1 受容体作動薬を活用する-, 明石, WEB 開催, 2021.11.18
41. 藤本寛太, 藤島雄幸, 大久保万理江, 籾谷雄二, 岩倉敏夫, 松岡直樹: レボチロキシン大量服用による甲状腺中毒症の 1 例. 第 64 回日本甲状腺学会学術集会, 東京, ハイブリッド開催, 2021.11.18

42. 岩倉敏夫：どうする？糖尿病患者の脂質管理～脂質管理の重要性と Clinical Inertia ～. 脂質管理を考える会, 神戸, WEB 開催, 2021.11.25
43. 澤井瑠一, 藤本寛太, 藤島雄幸, 大久保万理江, 籾谷雄二, 岩倉敏夫, 松岡直樹, 安本眞美, 山村彰吾, 高橋加奈, 原 重雄：内科的治療を行った ACTH 産生嗅神経芽細胞腫の 1 例. 第 31 回臨床内分泌代謝 Update, 大阪, ハイブリッド開催, 2021.11.26
44. 岩倉敏夫：今そこにある危機～重症低血糖のリスクマネージメント～. 第 5 回兵庫県中央縦断マルチケアフォーラム, 神戸, 2021.11.27
45. 岩倉敏夫：COVID-19 に振り回されない新しい糖尿病診療を模索する. Diabetes Relationship Seminar in Kobe, 神戸, 2021.11.30
46. 岩倉敏夫：備えあれば憂いなし ～重症低血糖と関連する 2 つの低血糖～. 点鼻グルカゴン Web ストーリーミング講演会, WEB 開催, 2021.12.9
47. 岩倉敏夫：コロナ禍に求められる在宅血糖管理. Clinical Diabetes ZOOM Conference, 神戸, 2021.12.14
48. 岩倉敏夫：GLP1 製剤を活かしたコロナ禍での糖尿病治療ストラテジー. Diabetes & Incretin Seminar in 東播, 加古川, WEB 開催, 2021.12.16
49. 藤本寛太, 藤島雄幸, 大久保万理江, 籾谷雄二, 岩倉敏夫, 松岡直樹：レボチロキシン大量服用による甲状腺中毒症の 1 例. 第 43 回京都甲状腺研究会, Web 開催, 2022.1.22
50. 大久保万理江：糖尿病の治療薬. 糖尿病医薬連携セミナー in ポートアイランド, 神戸, Web 開催, 2022.1.25
51. 岩倉敏夫：コロナ禍で求められる糖尿病患者の在宅血糖管理. 真壁医師会学術講演会～ Diabetes & Incretin Seminar ～, 真壁, WEB 開催, 2022.2.8
52. 岩倉敏夫：SU薬が糖尿病治療にもたらしたもの～この 30 年を振り返って～. 第 15 回糖尿病臨床フォーラム, 大阪, WEB 開催, 2022.2.12
53. 藤島雄幸, 籾谷雄二, 大久保万理江, 藤本寛太, 岩倉敏夫, 松岡直樹：正常血糖糖尿病ケトアシドーシスを発症したバセドウ病合併 2 型糖尿病の 1 例. 第 15 回糖尿病臨床フォーラム, Web 開催, 2022.2.12
54. 大久保万理江：外来でのソリクア導入. Sanofi Diabetes 1Day Webinar Nationwide session, 神戸, Web 開催, 2022.2.18
55. 岩倉敏夫：備えあれば憂いなし ～重症低血糖と関連する 2 つの低血糖～. 低血糖管理について考える会, 大津, WEB 開催, 2022.3.2
56. 岩倉敏夫：GLP-1 製剤を活かしたコロナ禍での在宅血糖管理. トルリシティ WEB 講演会, WEB 開催, 2022.3.4
57. 岩倉敏夫：備えあれば憂いなし ～重症低血糖と関連する 2 つの低血糖～. Hypoglycemia Treatment Online Seminar, 東京, 2022.3.10
58. 藤島雄幸, 籾谷雄二, 大久保万理江, 藤本寛太, 岩倉敏夫, 松岡直樹：本態性血小板血症の関与が疑われた両側副腎梗塞の 1 例. 第 100 回京都内分泌同好会, Web 開催, 2022.3.12
59. 藤本寛太：注射にする？飲み薬にする？～ GLP-1 製剤を安全に使う～. 腎と糖尿病 WEB Conference, 神戸, 2022.3.14
60. 岩倉敏夫：コーチングを活用した糖尿病患者へのアプローチ ～コーチングが糖尿病診療を変える～. 糖尿病コーチング スキルアップ Web セミナー, 神戸, 2022.3.19
61. 岩倉敏夫：GLP-1 受容体作動薬を活かしたコロナ禍での糖尿病治療ストラテジー. Diabetes & Incretin Seminar in Okayama, WEB 開催, 2022.3.23
62. 岩倉敏夫：新型コロナウイルス感染症に振り回されない糖尿病診療 ～ GLP-1 製剤を活かした血糖管理～. Diabetes & Incretin Seminar in 兵庫, 神戸, WEB 開催, 2022.3.24
63. 岩倉敏夫：どうなる糖尿病注射薬～インスリン治療及び GLP-1 受容体作動薬の未来を考える～. Diabetes Update Meeting, 大阪, 2022.3.26

### IX. 1.3 腎臓内科

1. 吉本明弘：SDM 実践について～ with コロナ時代の腎代替療法を考える～. これからの腎代替療法を再考する会, 神戸, 2021.4.3

2. 吉本明弘：With コロナ時代のCKD診療における腎性貧血の診断と治療の重要性. 丹波市医師会学術講演会, 丹波, 2021.4.15
3. 吉本明弘：with コロナ時代のCKDの病診連携を考える. CKD地域連携セミナー IN HYOGO, 神戸, 2021.5.15
4. 吉本明弘：コロナ禍におけるCKD診療～腎性貧血治療の新たな戦略～. 芦屋市医師会学術講演会, 芦屋, 2021.5.20
5. 吉本明弘：with コロナ時代のCKD診療～新しい腎性貧血治療について～. 第9回兵庫県腎不全看護研究会, オンライン開催, 2021.5.27
6. 吉本明弘：新型コロナウイルス感染症と自然災害の複合災害に備える～透析療法の新たな形～ 当院におけるCOVID-19への対応～第1波を振り返って～. 第66回日本透析医学会学術集会・総会, 横浜, ハイブリッド開催, 2021.6.4
7. 吉本明弘：CKD診療における電解質管理と病診連携～高カリウム血症の診断と治療を中心に～. ～LOKELMA Week～, 神戸, 2021.6.11
8. 吉本明弘：保存期腎不全患者の管理における腎性貧血の重要性～新しい治療薬への期待～. マスレッド expert meeting, 神戸, 2021.7.8
9. 吉本明弘：コロナ禍におけるCKD診療～腎性貧血の治療を再考する～. 保存期CKD-MBDと腎性貧血管理を考える会, 神戸, 2021.7.9
10. 能登理央：“ミニ腎臓”の作製と臨床応用の可能性. 神戸腎臓病診療を考える会, 神戸, 2021.7.29
11. 吉本明弘：CKD診療における新たな貧血治療. 第9回神戸電解質サミット, 神戸, 2021.7.30
12. 吉本明弘：CKD診療における心腎連関～貧血管理の重要性～. 腎性貧血 New Frontier in 神戸, 神戸, 2021.8.5
13. 吉本明弘：CKD患者における心腎連関と電解質管理. 高カリウム血症 Webカンファレンス, 神戸, 2021.8.19
14. 吉本明弘：腎から全身を診る～CKD診療のポイントと新たな治療戦略～. 須磨区医師会学術講演会, 神戸, 2021.9.16
15. 吉本明弘：with コロナ時代のCKD診療～当院での第1波を振り返って～. 腹膜透析ミーティング, 神戸, 2021.10.14
16. 大崎啓介：コロナ禍でのCKD診療. 第193回神戸西ブロック薬学研修会, 神戸, 2021.10.16
17. 吉本明弘：糖尿病性腎臓病の病態を考慮した糖尿病治療～地域連携で透析導入を防ぐには～, 糖尿病治療でSGLT2阻害剤を使いこなすには, ～地域連携を通して～, 神戸, 2021.11.8
18. 能登理央：ヒトiPS細胞から分化誘導した3次元腎臓の組織構造と臨床応用. 腎性貧血治療のUPDATE2021, 神戸, 2021.11.12
19. 吉本明弘：With コロナ時代の慢性腎臓病診療～新たな治療戦略を含めて～. 養父市医師会学術講演会, 養父, 2021.11.18
20. 吉本明弘：ADPKD治療経験と新たなスクリーニング. 明石医師会透析医会 学術講演会, 明石, 2021.11.20
21. 大崎啓介：腎性貧血の新たな治療戦略. 腎性貧血治療 Up to Date, 神戸, 2021.12.3
22. 吉本明弘：慢性腎臓病の治療における血圧管理の重要性～新たな治療戦略への期待～. 高砂市医師会学術講演会, 高砂, 2021.12.9
23. 吉本明弘：腎から全身を診る～慢性腎臓病の新たな治療戦略とチーム医療～. 兵庫県病院薬剤師会東西神戸支部合同学術講演会, WEB開催, 2021.12.16
24. 吉本明弘：CKD診療における腎性貧血の診断と治療の重要性～新たな治療戦略を含めて～. CKD薬薬連携Webセミナー in 東神戸, 神戸, 2021.12.22
25. 吉本明弘：慢性腎臓病における最新治療～貧血を含めた全身管理について～. 神戸腎臓病診療を考える会, 神戸, 2022.1.27
26. 大崎啓介：コロナ禍のCKD診療. 神戸腎疾患 Meeting, 2022.1.29
27. 吉本明弘：CKD診療における臓器連関の重要性～腎性貧血の新たな治療への期待～. 心腎連関を考慮した診断と治療を考える会, 2022.2.10
28. 吉本明弘：慢性腎臓病治療における血圧管理～新たな薬物への期待～. 高血圧を心不全治療について考える会, 神戸, 2022.3.24



#### IX. 1.4 脳神経内科

1. 吉村 元, 田中智貴, 福岡一樹, 小野塚大介, 西村邦宏, 川本未知, 幸原伸夫, 猪原匡司, the PROPOSE study investigators: 脳卒中後てんかん患者の発症1年後の予後: 発作再発との関連 One-year outcomes of post-stroke epilepsy patients: an association with seizure recurrence. 第62回日本神経学会学術大会, 京都, ハイブリッド開催, 2021.5.20
2. 川本未知: 「断らない救急日本一?!」病院の働き方改革. 第62回日本神経学会学術大会, 京都, ハイブリッド開催, 2021.5.20
3. 吉村 元: 教育コース14: 脳神経内科医に必要なニューロモニタリングの進歩 脳波モニタリングの実際. 第62回日本神経学会学術大会, 京都, ハイブリッド開催, 2021.5.21
4. 尾原信行: 脳卒中で困らない街 神戸を目指して. 第40回兵庫脳卒中研究会, 2021.5.27
5. 尾原信行, 高杉純司, 前川嵩太, 藤原 悟, 岡田大司, 豊田俊彬, 川本未知, 坂井信幸: 循環器専門医と行う経食道心臓超音波検査. 第40回日本脳神経超音波学会総会・第24回日本栓子検出と治療学会(合同開催), WEB開催, 2021.6.4
6. 石井淳子: パーキンソン病の薬物治療と薬剤師への期待. 第22回大学-医療連携講演会, 神戸, 2021.6.7
7. 比谷里美, 藤原 悟, 田中郁壮, 片上隆史, 石山浩之, 川本未知: 当院での難治性CIDPに対する免疫グロブリンでの治療戦略. CIDP ここが知りたい, 2021.6.10
8. 片上隆史, 藤原 悟, 太田和馬, 小泉直史, 竹中友洋, 下山佳織, 比谷里美, 乾 涼磨, 木村正夢嶺, 前川嵩太, 高杉純司, 石井淳子, 尾原信行, 吉村 元, 幸原伸夫, 原 重雄, 川本未知: 特徴的な画像所見を呈し脳生検を行った自己免疫性 glial fibrillary acidic protein (GFAP) アストロサイトパチーの一例. 第60回亀山正邦記念神経懇話会 (KSK), WEB開催, 2021.6.12
9. 片上隆史, 藤原 悟, 太田和馬, 小泉直史, 竹中友洋, 下山佳織, 比谷里美, 乾 涼磨, 木村正夢嶺, 前川嵩太, 高杉純司, 石井淳子, 尾原信行, 吉村 元, 幸原伸夫, 原 重雄, 川本未知: 特徴的な画像所見を呈し脳生検を行った自己免疫性 glial fibrillary acidic protein (GFAP) アストロサイトパチーの一例. 日本神経学会第119回近畿地方会, 天理, WEB開催, 2021.6.26
10. 藤原 悟, 太田和馬, 竹中友洋, 小泉直史, 下山佳織, 比谷里美, 乾 涼磨, 片上隆史, 木村正夢嶺, 前川嵩太, 石井淳子, 高杉純司, 尾原信行, 吉村 元, 幸原伸夫, 川本未知: 当院における SMA 診療とヌシネルセン治療経験. 京都 SMA Update seminar, 京都, 2021.7.9
11. 尾原信行, 今村博敏, 前川嵩太, 藤原 悟, 高杉純司, 乾 涼磨, 春原 匡, 福光 龍, 後藤正憲, 小柳正臣, 川本未知, 坂井信幸: 緊急 CASPER in PRECISE の3例. 第60回近畿脳神経血管内手術法ワークショップ(令和3年夏), 田辺, 2021.7.16
12. 下山佳織, 吉村 元, 前川嵩太, 太田和馬, 竹中友洋, 小泉直史, 比谷里美, 乾 涼磨, 片上隆史, 木村正夢嶺, 藤原 悟, 高杉純司, 石井淳子, 尾原信行, 幸原伸夫, 川本未知: 外傷歴なく皮質性くも膜下出血ののちに硬膜下血腫を生じた48歳女性. 第82回兵庫神経内科研究会, 2021.9.10
13. 小久保結未, 片上隆史, 石井淳子, 幸原伸夫, 川本未知: Fusobacterium 属による膿瘍と血栓性静脈炎を伴う眼窩蜂窩織炎に対し保存的加療が奏功した1例. 日本内科学会第233回近畿地方会, WEB開催, 2021.9.11
14. 藤原 悟: 免疫チェックポイント阻害剤投与時に求められる対処法〜神経障害編〜. irAE アトラス in Kobe, 2021.9.16
15. 吉村 元: てんかん専門医の立場から脳卒中後てんかんの課題. 第54回日本てんかん学会, 名古屋, ハイブリッド開催, 2021.9.23
16. 比谷里美, 藤原 悟, 中川 淳, 大村佳大, 原 重雄, 片上隆史, 木村正夢嶺, 黒田健仁, 角替麻里絵, 石山浩之, 前川嵩太, 村上泰隆, 石井淳子, 尾原信行, 吉村 元, 幸原伸夫, 川本未知: 脳生検で診断し放射線治療が奏功した肺腺癌粟粒脳転移 (Miliary metastasis) の一例. 第22回日本神経病理学会近畿地方会, WEB開催, 2021.10.9
17. 比谷里美, 村上泰隆, 清水祐里, 原 重雄, 片上隆史, 乾 涼磨, 木村正夢嶺, 黒田健仁, 角替麻里絵, 石山浩之, 前川嵩太, 藤原 悟, 石井淳子, 尾原信行, 吉村 元, 幸原伸夫, 川本未知: 典型的な白質変化を伴わず皮質および髄軟膜血管に限局した血管炎所見を呈した肉芽腫形成を伴う脳アミロイド関連血管炎の一例. 第22回日本神経病理学会近畿地方会, WEB開催, 2021.10.9

18. 松崎光博, 角替麻里絵, 横田 聡, 吉村 元, 川本未知, 栗本康夫: 抗アクアポリン4抗体陽性視神経炎に対し免疫グロブリン大量静注療法を施行した2例. 第75回日本臨床眼科学会, 福岡, ハイブリッド開催, 2021.10.28
19. 川本未知: COVID-19の神経症状と予後. 第39回日本神経治療学会学術集会, 津, ハイブリッド開催, 2021.10.28
20. 川本未知: 神戸市における第4波の教訓. 墨田区医師会講演会, 東京, 2021.10.28
21. 吉村 元: 急性症候性発作・てんかん重積状態時のプロトコール. 第39回日本神経治療学会学術集会, 津, ハイブリッド開催, 2021.10.30
22. 比谷里美, 藤原 悟, 田中郁壮, 太田和馬, 小泉直史, 竹中友洋, 下山佳織, 乾 涼磨, 片上隆史, 木村正夢嶺, 前川嵩太, 高杉純司, 石井淳子, 尾原信行, 吉村 元, 幸原伸夫, 川本未知: IVIgからSCIgへ移行し症状安定を得た高用量IgGの慢性炎症性脱髄性多発神経炎の1例. 第39回日本神経治療学会学術集会, 津, ハイブリッド開催, 2021.10.30
23. 小泉直史, 前川嵩太, 石井淳子, 太田和馬, 竹中友洋, 下山佳織, 比谷里美, 山根俊之, 乾 涼磨, 片上隆史, 木村正夢嶺, 藤原 悟, 高杉純司, 尾原信行, 吉村 元, 幸原伸夫, 川本未知: COVID-19罹患後高次機能障害をきたした一例. 第6回神戸 Neuro Functional Imaging Conference, WEB開催, 2021.11.12
24. 藤原 悟, 太田和馬, 竹中友洋, 小泉直史, 下山佳織, 比谷里美, 乾 涼磨, 片上隆史, 木村正夢嶺, 前川嵩太, 石井淳子, 高杉純司, 尾原信行, 吉村 元, 幸原伸夫, 川本未知: ヌシネルセン髄注の投与間隔遵守の重要性について. SMA Forum 2021, 2021.11.20
25. Ohara N, Yamagami H, Imamura H, Sakai N, Hirano T, Hashimoto Y, Ogasawara K, Miyamoto S: Impact of COVID-19 on Mechanical Thrombectomy at Primary Stroke Centers in Japan (新型コロナウイルス感染症が機械的血栓回収療法実施件数に与えた影響(全国調査)). 第37回NPO法人日本脳神経血管内治療学会学術集会(JSNET2021), 福岡, ハイブリッド開催, 2021.11.25
26. Fujiwara S, Uchida K, Ohara N, Imamura H, Sakai N, Morimoto T: Association between Anemia on Admission and Clinical Outcomes of Acute Large Vessel Occlusion. 第37回NPO法人日本脳神経血管内治療学会学術集会(JSNET2021), 福岡, ハイブリッド開催, 2021.11.25
27. 乾 涼磨, 藤原 悟, 尾原信行, 今村博敏, 木村正夢嶺, 前川嵩太, 高杉純司, 福光 龍, 後藤正憲, 小柳正臣, 川本未知, 坂井信幸: 後方循環系LVOにおけるプレホスピタル診療の現状と課題. 第37回NPO法人日本脳神経血管内治療学会学術集会(JSNET2021), 福岡, ハイブリッド開催, 2021.11.26
28. 松崎光博, 前川嵩太, 角替麻里絵, 横田 聡, 川本未知, 栗本康夫: 慢性進行性抗アクアポリン4抗体陽性視神経炎に対しエクリズマブが有効であった1例. 第3回兵庫県眼科医会・2大学合同オープンカンファレンス, 神戸, ハイブリッド開催, 2021.11.27
29. 佐藤悠城, 藤原 悟, 田代隼基, 貴志亮太, 世利佳滉, 遠藤 慧, 横田 真, 白川千種, 嶋田有里, 島 佑介, 平林亮介, 永田一真, 中川 淳, 立川 良, 富井啓介: 傍腫瘍性神経症候群を有する肺小細胞癌の臨床背景と治療経過の検討. 第62回日本肺癌学会学術集会, 横浜, ハイブリッド開催, 2021.11.28
30. 尾原信行: 脳梗塞患者に対する抗凝固療法. MASTER CLASS New Era, 2021.11.30
31. 比谷里美, 藤原 悟, 田中郁壮, 川本未知: 当院での難治性CIDPに対する免疫グロブリンでの治療戦略. 和歌山CIDP免疫治療セミナー, 2021.12.6
32. 小泉直史, 高杉純司, 尾原信行, 岡 秀樹, 山下大祐, 太田和馬, 竹中友洋, 下山佳織, 比谷里美, 山根俊之, 乾 涼磨, 片上隆史, 木村正夢嶺, 前川嵩太, 藤原 悟, 石井淳子, 吉村 元, 幸原伸夫, 川本未知: 血管壁イメージングMRIとPET-CTが診断に有用であった非典型的巨細胞性動脈炎(GCA)に伴う脳梗塞の一例. 日本神経学会第120回近畿地方会, 大阪, 2021.12.11
33. 竹中友洋, 藤原 悟, 松崎光博, 太田和馬, 小泉直史, 山根俊之, 下山佳織, 比谷里美, 片上隆史, 乾 涼磨, 木村正夢嶺, 前川嵩太, 石井淳子, 高杉純司, 尾原信行, 吉村 元, 幸原伸夫, 川本未知: m-RNA COVID-19ワクチン接種後に発症した視神経周囲炎の一例. 日本神経学会第120回近畿地方会, 大阪, 2021.12.11
34. 吉村 元: 神経救急疾患における臨床神経生理. 第51回日本臨床神経生理学会学術大会, 仙台, ハイブリッド開催, 2021.12.16
35. 松崎光博, 前川嵩太, 角替麻里絵, 横田 聡, 川本未知, 栗本康夫: 慢性進行性抗アクアポリン4抗体陽性視神経炎に対しエクリズマブが有効であった1例. 第59回日本神経眼科学会総会, 東京, ハイブリッド開催, 2021.12.17

36. 比谷里美, 藤原 悟, 田中郁壮, 太田和馬, 小泉直史, 竹中友洋, 下山佳織, 乾 涼磨, 片上隆史, 木村正夢嶺, 前川嵩太, 高杉純司, 石井淳子, 尾原信行, 吉村 元, 幸原伸夫, 川本未知: IVIg から SCIg へ移行し症状安定を得た高用量 IgG 依存性の慢性炎症性脱髄性多発神経炎の一例. 第 61 回亀山正邦記念神経懇話会 (KSK), 京都, 2021.12.19
37. 藤原 悟: 脳神経内科医と脳神経血管内治療専門医〜二刀流を目指して〜いまさら聞けない知識整理も含めて. 次世代を見据えた Web セミナー in 神戸, 神戸, 2021.12.20
38. 尾原信行, 今村博敏, 太田和馬, 竹中友洋, 比谷里美, 下山佳織, 乾 涼磨, 片上隆史, 小泉直史, 木村正夢嶺, 藤原 悟, 前川嵩太, 石井淳子, 高杉純司, 福光 龍, 吉村 元, 後藤正憲, 小柳正臣, 川本未知, 坂井信幸: COVID-19 時代の脳卒中診療 第一種感染症指定病院と総合脳卒中センターの両立. STROKE2022, WEB 開催, 2022.2.2
39. 川本未知: パーキンソン病の薬物療法. お家で聴ける! パーキンソン病 WEB 市民公開講座 in 兵庫, WEB 開催, 2022.2.6
40. 川本未知: COVID-19 における高次機能障害と画像所見. 第 41 回日本画像医学会, オンライン開催, 2022.2.19
41. 下山佳織, 吉村 元, 前川嵩太, 太田和馬, 竹中友洋, 小泉直史, 比谷里美, 乾 涼磨, 片上隆史, 木村正夢嶺, 藤原 悟, 高杉純司, 石井淳子, 尾原信行, 幸原伸夫, 川本未知: 皮質性くも膜下出血と硬膜下血腫を合併した脳静脈血栓症の一例. 日本神経学会第 121 回近畿地方会, 大阪, 2022.3.6
42. 高杉純司, 尾原信行, 乾 涼磨, 木村正夢嶺, 藤原 悟, 前川嵩太, 春原 匡, 福光 龍, 後藤正憲, 小柳正臣, 今村博敏, 川本未知, 坂井信幸: 閉塞部断端性状が機械的血栓回収療法の治療手技に及ぼす影響. STROKE2022, 大阪, WEB 開催, 2022.3.17
43. 尾原信行, 今村博敏, 足立秀光, 原 淑恵, 細田弘吉, 木村英仁, 桑山一行, 溝脇 卓, 本岡康彦, 中嶋千也, 篠田成英, 高本 剛, 上野 泰, 山浦生也, 柳原千枝, 吉田泰久, 川本未知, 坂井信幸: 新型コロナウイルス感染症流行期における神戸市の脳卒中医療体制 (年間報告) Stroke Systems of Care during the COVID-19 Epidemic in Kobe City (Annual report). STROKE2022, 大阪, WEB 開催, 2022.3.17
44. 乾 涼磨, 藤原 悟, 尾原信行, 太田和馬, 竹中友洋, 下山佳織, 比谷里美, 片上隆史, 木村正夢嶺, 小泉直史, 前川嵩太, 石井淳子, 高杉純司, 福光 龍, 吉村 元, 後藤正憲, 小柳正臣, 今村博敏, 川本未知, 坂井信幸: 痙攣様運動を初発症状とし緊急再開通治療を要した脳底動脈閉塞例の特徴. STROKE2022, 大阪, WEB 開催, 2022.3.17
45. 藤原 悟, 黒田健仁, 乾 涼磨, 松岡由典, 尾原信行, 今村博敏, 山本洋介, 有吉孝一, 幸原伸夫, 川本未知, 坂井信幸: 緊急血管内治療時代の最適なプレホスピタル診療体制の考察: 病院前通知の効果と LVO スケールの限界. STROKE2022, 大阪, WEB 開催, 2022.3.17

## IX. 1.5 消化器内科

1. 秋山慎介: 胃粘膜下腫瘍に対する腹腔鏡内視鏡合同手術の有用性. 第 107 回日本消化器病学会総会, 東京, Web 開催, 2021.4.15
2. 丹家元祥: 当院の膵管癌診療における初期症状についての検討. 第 107 回日本消化器病学会総会, 東京, Web 開催, 2021.4.15
3. 鄭 浩柄: 当院における慢性肝疾患マネジメントについて. 第 42 回神戸肝疾患カンファレンス, 神戸, Web 開催, 2021.4.24
4. 唐渡修一郎, 細谷和也, 猪熊哲朗: 消化管原発濾胞性リンパ腫の治療、予後についての検討. 第 101 回日本消化器内視鏡学会総会, 広島, Web 開催, 2021.5.14
5. 秋山慎介, 細谷和也, 猪熊哲朗: 表在性非乳頭部十二指腸上皮性腫瘍に対する EMR、UEMR の現状と課題. 第 101 回日本消化器内視鏡学会総会, 広島, Web 開催, 2021.5.14
6. 上田智也, 細谷和也, 安藤徳晃: 胃 ESD 後出血の予測因子に関する検討. 第 101 回日本消化器内視鏡学会総会, 広島, Web 開催, 2021.5.15
7. 藪内洋平, 滝沢耕平, 小野裕之: 穹窿部病変における ESD の現状と課題. 第 101 回日本消化器内視鏡学会総会, 広島, Web 開催, 2021.5.15
8. 長尾宗一郎, 谷口洋平, 安藤徳晃, 竜野稜子, 唐渡修一郎, 橋本航太, 田中由香里, 大久保佑樹, 秋山慎介, 細谷和也, 丹家元祥, 和田将弥, 占野尚人, 森田周子, 井上聡子, 鄭 浩柄, 猪熊哲朗: 当院における電気水圧衝撃破碎術 (EHL) の検討. 第 101 回日本消化器内視鏡学会総会, 広島, Web 開催, 2021.5.16

9. 細谷和也, 森田周子, 猪熊哲朗: 85歳以上の超高齢者に対する胃 ESD の短期成績及び長期成績の検討. 第 101 回日本消化器内視鏡学会総会, 広島, Web 開催, 2021.5.16
10. 鄭 浩柄: 肝 reactive lymphoid hyperplasia の 7 症例 - 長期自然経過を含めた報告 -. 第 57 回日本肝臓学会総会, 札幌, Web 開催, 2021.6.18
11. 秋山慎介: 術前の遠位胆管狭窄に対するドレナージ. 兵庫県胆膵内視鏡臨床ワークショップ, Web 開催, 2021.6.23
12. 唐渡修一郎, 細谷和也, 猪熊哲朗, 山下大祐, 原 重雄: (追加発言 1) 当院において Cold snare polypectomy 後病理学的に癌と診断された 11 病変についての検討. 第 106 回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会, 大阪, Web 開催, 2021.7.10
13. 安藤徳晃, 森田周子, 細谷和也, 猪熊哲朗: 高齢者に対する早期胃癌内視鏡的粘膜下層剥離術 (ESD) の検討 - 機能評価の側面から -. 第 106 回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会, 大阪, Web 開催, 2021.7.10
14. 上田智也, 細谷和也, 安藤徳晃, 竜野稜子, 唐渡修一郎, 長尾宗一郎, 秋山慎介, 丹家元祥, 和田将弥, 森田周子, 井上聡子, 鄭 浩柄, 猪熊哲朗: 十二指腸穿孔による消化管出血を契機に診断し得た解離性肝動脈瘤の一例. 第 106 回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会, 大阪, Web 開催, 2021.7.10
15. 森久芳樹, 井上聡子, 安藤徳晃, 竜野稜子, 上田智也, 唐渡修一郎, 長尾宗一郎, 田中由香里, 大久保佑樹, 秋山慎介, 細谷和也, 丹家元祥, 谷口洋平, 和田将弥, 森田周子, 占野尚人, 鄭 浩柄, 猪熊哲朗: 当院で経験した腸管 AVM9 例に対する内視鏡的考察. 第 106 回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会, 大阪, Web 開催, 2021.7.10
16. 秋山慎介, 谷口洋平, 丹家元祥, 和田将弥, 猪熊哲朗: (追加発言 1) ERCP 関連手技に伴う難治性出血、穿孔に対する OTSC の使用経験. 第 106 回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会, 大阪, Web 開催, 2021.7.10
17. 上田智也, 細谷和也, 籾内洋平, 森田周子: 症例提示. 第 2 回十二指腸勉強会, Web 開催, 2021.8.6
18. 鄭 浩柄, 和田将弥, 猪熊哲朗: 増加しつつあるメタボ肝癌の臨床的特徴について. 日本消化器病学会近畿支部第 115 回例会, Web 開催, 2021.9.18
19. 上田智也, 籾内洋平, 田中晃輔, 森久芳樹, 安藤徳晃, 小林拓哉, 下山雅之, 唐渡修一郎, 秋山慎介, 細谷和也, 丹家元祥, 和田将弥, 森田周子, 井上聡子, 鄭 浩柄, 猪熊哲朗, 山下大祐: 長期にわたり食道癌との鑑別に苦慮した食道 epidermization の一例. 日本消化器病学会近畿支部第 115 回例会, Web 開催, 2021.9.18
20. 下山雅之, 細谷和也, 田中晃輔, 森久芳樹, 安藤徳晃, 小林拓哉, 上田智也, 唐渡修一郎, 秋山慎介, 丹家元祥, 籾内洋平, 和田将弥, 森田周子, 井上聡子, 鄭 浩柄, 猪熊哲朗, 山下大祐: 術前に診断可能であった早期胃神経内分泌癌の 1 例. 日本消化器病学会近畿支部第 115 回例会, Web 開催, 2021.9.18
21. 唐渡修一郎, 細谷和也, 田中晃輔, 森久芳樹, 安藤徳晃, 小林拓哉, 上田智也, 下山雅之, 秋山慎介, 丹家元祥, 籾内洋平, 和田将弥, 森田周子, 井上聡子, 鄭 浩柄, 猪熊哲朗: 長期経過観察中に形質転化を来した治療介入に至った消化管濾胞性リンパ腫の 1 例. 日本消化器病学会近畿支部第 115 回例会, Web 開催, 2021.9.18
22. 森久芳樹, 丹家元祥, 田中晃輔, 安藤徳晃, 竜野稜子, 上田智也, 唐渡修一郎, 長尾宗一郎, 秋山慎介, 細谷和也, 籾内洋平, 和田将弥, 森田周子, 井上聡子, 鄭 浩柄, 猪熊哲朗: 妊娠中に高 TG 血症を原因とする急性膵炎を発症した 1 例. 日本消化器病学会近畿支部第 115 回例会, Web 開催, 2021.9.18
23. 小林拓哉, 秋山慎介, 田中晃輔, 森久芳樹, 安藤徳晃, 上田智也, 下山雅之, 唐渡修一郎, 細谷和也, 丹家元祥, 籾内洋平, 和田将弥, 森田周子, 井上聡子, 鄭 浩柄, 猪熊哲朗: 術後診断目的に施行した EUS-FNA 後に needle tract seeding をきたした膵体尾部癌の 1 例. 日本消化器病学会近畿支部第 115 回例会, Web 開催, 2021.9.18
24. 安藤徳晃, 和田将弥, 田中晃輔, 森久芳樹, 小林拓哉, 上田智也, 下山雅之, 唐渡修一郎, 秋山慎介, 細谷和也, 丹家元祥, 籾内洋平, 森田周子, 井上聡子, 鄭 浩柄, 猪熊哲朗, 貝原 聡, 清水祐里, 原 重雄: 18 年の経過で悪性転化した粘液性嚢胞腫瘍の一例. 日本消化器病学会近畿支部第 115 回例会, Web 開催, 2021.9.18
25. 今村大智, 井上聡子, 田中晃輔, 森久芳樹, 安藤徳晃, 小林拓哉, 竜野稜子, 上田智也, 下山雅之, 唐渡修一郎, 長尾宗一郎, 秋山慎介, 細谷和也, 丹家元祥, 籾内洋平, 和田将弥, 森田周子, 鄭 浩柄, 猪熊哲朗, 清水祐里: 強い腹痛で発症した IgA 血管炎の一例. 日本消化器病学会近畿支部第 115 回例会, Web 開催, 2021.9.18
26. 田中晃輔, 鄭 浩柄, 森久芳樹, 安藤徳晃, 小林拓哉, 上田智也, 下山雅之, 唐渡修一郎, 秋山慎介, 細谷和也, 丹家元祥, 籾内洋平, 和田将弥, 森田周子, 井上聡子, 猪熊哲朗: ステロイド単独投与にて再活性化を認めた HBV 既往感染例の報告. 日本消化器病学会近畿支部第 115 回例会, Web 開催, 2021.9.18

27. 藪内洋平：早期胃癌における cUL と pUL の乖離について. 消化器最新 TOPICS WEB 講演会, Web 開催, 2021.10.7
28. 長尾宗一郎, 細谷和也, 森田周子, 占野尚人, 山下大祐, 原 重雄, 猪熊哲朗：10 mm以下の表面型大腸腫瘍に対する UEMR の有用性・安全性についての検討. JDDW2021 KOBE, 神戸, Web 開催, 2021.11.4
29. Hosotani K, Imai K, Hotta K：Optimized optical stratification by JNET classification with chromoendoscopy for colorectal lesions ?10 mm. JDDW2021KOBE, Kobe, Hybrid, 2021.11.5
30. 丹家元祥, 秋山慎介, 谷口洋平, 和田将弥, 猪熊哲朗：当院の膵管癌診療における PET についての検討. JDDW2021KOBE, 神戸, Web 開催, 2021.11.6
31. 井上聡子：オルメサルタン関連スプルー様腸疾患 3 例の報告. 第 59 回日本小腸学会学術集会, 東京, 2021.11.27
32. 秋山慎介, 丹家元祥, 和田将弥, 猪熊哲朗：膵癌による遠位胆管狭窄に対する術前胆道ドレナージの検討. 第 107 回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会, 神戸, ハイブリッド開催, 2021.12.11
33. 上田智也, 細谷和也, 藪内洋平, 森田周子, 猪熊哲朗：胃 ESD 後発見胃癌の臨床病理学的特徴に関する検討. 第 107 回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会, 神戸, ハイブリッド開催, 2021.12.11
34. 藪内洋平, 細谷和也, 森田周子, 猪熊哲朗：Sessile serrated lesion に対する酢酸散布後 NBI 観察下での Underwater EMR の可能性. 第 107 回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会, 神戸, ハイブリッド開催, 2021.12.11
35. 丹家元祥, 秋山慎介, 和田将弥, 猪熊哲朗：当院における治療困難な胆管結石に対する胆道鏡下電気水圧衝撃波結石破碎術 (EHL) の使用経験. 第 107 回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会, 神戸, ハイブリッド開催, 2021.12.11
36. 井上聡子, 細谷和也, 猪熊哲朗：カプセル内視鏡がクローン病診療に果たす役割. 第 107 回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会, 神戸, ハイブリッド開催, 2021.12.11
37. 細谷和也, 藪内洋平, 森田周子, 猪熊哲朗：10mm 未満の非有茎性大腸腫瘍に対する Underwater EMR と Conventional EMR の短期成績の比較. 第 107 回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会, 神戸, ハイブリッド開催, 2021.12.11
38. 森久芳樹, 井上聡子, 田中晃輔, 安藤徳晃, 小林拓哉, 上田智也, 下山雅之, 唐渡修一郎, 秋山慎介, 細谷和也, 丹家元祥, 藪内洋平, 和田将弥, 森田周子, 鄭 浩柄, 猪熊哲朗, 原 重雄：消化管出血を契機に診断に至った irAE 胃炎・十二指腸の 1 例. 第 107 回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会, 神戸, ハイブリッド開催, 2021.12.11
39. 安藤徳晃, 丹家元祥, 田中晃輔, 森久芳樹, 上田智也, 唐渡修一郎, 長尾宗一郎, 秋山慎介, 細谷和也, 藪内洋平, 和田将弥, 森田周子, 井上聡子, 鄭 浩柄, 猪熊哲朗：当院で経験した二次性大動脈十二指腸瘻. 第 107 回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会, 神戸, ハイブリッド開催, 2021.12.11
40. 唐渡修一郎, 藪内洋平, 田中晃輔, 森久芳樹, 安藤徳晃, 小林拓哉, 上田智也, 下山雅之, 秋山慎介, 細谷和也, 丹家元祥, 和田将弥, 森田周子, 井上聡子, 鄭 浩柄, 猪熊哲朗：虫垂開口部に存在する腫瘍に対して Underwater EMR で一括切除を得た 1 例. 第 107 回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会, 神戸, ハイブリッド開催, 2021.12.11
41. 小林拓哉, 丹家元祥, 田中晃輔, 森久芳樹, 安藤徳晃, 上田智也, 下山雅之, 唐渡修一郎, 秋山慎介, 細谷和也, 藪内洋平, 和田将弥, 森田周子, 井上聡子, 鄭 浩柄, 猪熊哲朗：EUS-FNA にて乳腺葉状腫瘍膵転移の確定診断に至った一例. 第 107 回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会, 神戸, ハイブリッド開催, 2021.12.11
42. 田中晃輔, 藪内洋平, 森久芳樹, 安藤徳晃, 小林拓哉, 上田智也, 下山雅之, 唐渡修一郎, 秋山慎介, 細谷和也, 丹家元祥, 和田将弥, 森田周子, 井上聡子, 鄭 浩柄, 猪熊哲朗, 山下大祐：当院で経験した乳癌胃転移の 4 例. 第 107 回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会, 神戸, ハイブリッド開催, 2021.12.11
43. 森田周子：神戸市における対策型内視鏡検診. 令和 3 年度第 2 回神戸市胃内視鏡検診精度管理講習会, 神戸, Web 開催, 2021.12.23
44. 森久芳樹, 井上聡子, 田中晃輔, 安藤徳晃, 竜野稜子, 上田智也, 唐渡修一郎, 長尾宗一郎, 秋山慎介, 細谷和也, 丹家元祥, 藪内洋平, 和田将弥, 森田周子, 鄭 浩柄, 猪熊哲朗：当院で経験した腸管 AVMS 例に対する内視鏡的考察. 第 6 回京大消化器内科学術検討会・同門会, Web 開催, 2022.1.22
45. 森田周子, 細谷和也, 藪内洋平, 山下大祐, 原 重雄：病変の硬さから深達度診断に迷った 1 例. 第 83 回食道色素研究会, Web 開催, 2022.1.29

46. 秋山慎介, 丹家元祥, 和田将弥, 猪熊哲朗: 膵体尾部癌術前の EUS-FNAB に伴う needle tract seeding と予後に関する検討. 日本消化器病学会近畿支部第 116 回例会, 大阪, Web 開催, 2022.2.5
47. 安藤徳晃, 藪内洋平, 細谷和也, 猪熊哲朗: COVID-19 陽性患者における消化管出血の現状. 日本消化器病学会近畿支部第 116 回例会, 大阪, Web 開催, 2022.2.5
48. 森久芳樹, 細谷和也, 田中晃輔, 安藤徳晃, 上田智也, 唐渡修一郎, 長尾宗一郎, 秋山慎介, 丹家元祥, 藪内洋平, 和田将弥, 森田周子, 井上聡子, 鄭 浩柄, 猪熊哲朗: 大腸憩室出血に対する内視鏡的止血難渋例の検討. 日本消化器病学会近畿支部第 116 回例会, 大阪, Web 開催, 2022.2.5
49. 森田周子, 細谷和也, 藪内洋平, 猪熊哲朗, 山村彰吾, 松本俊彦, 永井宏樹, 安井久晃: 当院における食道癌に対する Nivolumab 投与症例の検討. 日本消化器病学会近畿支部第 116 回例会, 大阪, Web 開催, 2022.2.5
50. 高折克至, 井上聡子, 田中晃輔, 森久芳樹, 安藤徳晃, 竜野稜子, 上田智也, 唐渡修一郎, 長尾宗一郎, 秋山慎介, 細谷和也, 丹家元祥, 藪内洋平, 和田将弥, 森田周子, 鄭 浩柄, 有菌茂樹, 山下大祐, 原 重雄, 猪熊哲朗: 特異な形態を示し術前診断が困難であった小腸 GIST の一例. 日本消化器病学会近畿支部第 116 回例会, 大阪, Web 開催, 2022.2.5
51. 押川大介, 井上聡子, 田中晃輔, 森久芳樹, 竜野稜子, 安藤徳晃, 上田智也, 唐渡修一郎, 長尾宗一郎, 秋山慎介, 細谷和也, 丹家元祥, 藪内洋平, 和田将弥, 森田周子, 鄭 浩柄, 猪熊哲朗: 慢性特発性偽性腸閉塞に対する PEG-J を用いた減圧療法の経験. 日本消化器病学会近畿支部第 116 回例会, 大阪, Web 開催, 2022.2.5
52. 唐渡修一郎, 鄭 浩柄, 田中晃輔, 森久芳樹, 安藤徳晃, 上田智也, 長尾宗一郎, 秋山慎介, 細谷和也, 丹家元祥, 藪内洋平, 和田将弥, 森田周子, 井上聡子, 猪熊哲朗, 山下大祐, 原 重雄: 直接作用型抗ウイルス薬による C 型慢性肝炎治療後に自己免疫性肝炎および原発性硬化性胆管炎を発症した 1 例. 日本消化器病学会近畿支部第 116 回例会, 大阪, Web 開催, 2022.2.5
53. 長尾宗一郎, 丹家元祥, 田中晃輔, 森久芳樹, 安藤徳晃, 上田智也, 唐渡修一郎, 秋山慎介, 細谷和也, 藪内洋平, 和田将弥, 森田周子, 井上聡子, 鄭 浩柄, 清水祐里, 山下大祐, 原 重雄, 猪熊哲朗: 内視鏡的に治療し得た gangliocytic paraganglioma の一例. 日本消化器病学会近畿支部第 116 回例会, 大阪, Web 開催, 2022.2.5
54. 上田智也, 和田将弥, 田中晃輔, 森久芳樹, 安藤徳晃, 唐渡修一郎, 長尾宗一郎, 秋山慎介, 細谷和也, 丹家元祥, 藪内洋平, 森田周子, 井上聡子, 鄭 浩柄, 猪熊哲朗, 山下大祐, 原 重雄: 急性胆管炎を契機に診断に至った膵 Leiomyoma の一例. 日本消化器病学会近畿支部第 116 回例会, 大阪, Web 開催, 2022.2.5
55. 田中晃輔, 細谷和也, 森久芳樹, 安藤徳晃, 竜野稜子, 上田智也, 唐渡修一郎, 長尾宗一郎, 秋山慎介, 丹家元祥, 藪内洋平, 和田将弥, 森田周子, 井上聡子, 鄭 浩柄, 猪熊哲朗, 清水祐里, 山下大祐, 原 重雄: 虫垂原発 MALT リンパ腫の一例. 日本消化器病学会近畿支部第 116 回例会, 大阪, Web 開催, 2022.2.5
56. 長尾宗一郎: 肝内で出血しているのでコンサルトさせていただきました! 第 3 回 Young Gastroenterologist Lively Talk, Web 開催, 2022.3.25

## IX. 1.6 呼吸器内科

1. Miura S, Hsia TC, Hung JY, Jung HA, Shih JY, Yang TY, Park CK, Lee SH, Okamoto T, Ahn HK, Lee YC, Sato Y, Lee SS, Mascaux C, Daoud H, Marten A, Popat S: UpSwinG: real-world, non-interventional cohort study on TKI activity in patients (pts) with EGFR mutation-positive (EGFRm+) NSCLC with uncommon mutations. AACR 2021, web, 2021.4.9
2. 大久保万理江, 籀谷雄二, 藤本寛太, 岩倉敏夫, 松岡直樹, 嶋田有里, 富井啓介: ペンブロリズマブ投与後に続発性副腎皮質機能低下症と 1 型糖尿病を発症した 1 例. 第 94 回日本内分泌学会学術総会, Web 開催, 2021.4.22
3. 嶋田有里, 佐藤悠城, 井手裕之, 遠藤 慧, 増野祿紀, 十三且也, 島 佑介, 白川千種, 大崎 恵, 松梨敦史, 平林亮介, 永田一真, 中川 淳, 立川 良, 吉田篤史, 富井啓介: 新型コロナウイルス感染症と抗瘍剤による薬剤性肺障害の臨床的、画像的特徴の比較検討. 第 61 回日本呼吸器学会学術講演会, 東京, ハイブリッド開催, 2021.4.24
4. 平林亮介, 下雅意崇亨, 井手裕之, 遠藤 慧, 十三且也, 増野祿紀, 神戸寛史, 島 佑介, 白川千種, 大崎 恵, 松梨敦史, 佐藤悠城, 永田一真, 中川 淳, 立川 良, 西原浩真, 横山瑠奈, 山田莞爾, 伊藤 翼, 岩田健太郎, 富井啓介: 重症 COVID-19 肺炎患者の退院後身体機能と QOL スコアの推移. 第 61 回日本呼吸器学会学術講演会, 東京, ハイブリッド開催, 2021.4.24

5. 白川千種, 立川 良, 井手裕之, 遠藤 慧, 十三且也, 増野祿紀, 島 佑介, 嶋田有里, 松梨敦史, 平林亮介, 佐藤悠城, 永田一真, 中川 淳, 富井啓介: COVID-19 罹患後の QOL の追跡研究. 第 62 回日本呼吸器学会学術講演会, 京都, ハイブリッド開催, 2021.4.24
6. 遠藤 慧, 立川 良, 井手裕之, 十三且也, 増野祿紀, 嶋田有里, 白川千種, 松梨敦史, 大崎 惠, 平林亮介, 佐藤悠城, 永田一真, 中川 淳, 富井啓介: COVID-19 の第 1 波と第 2 波についての比較検討. 第 61 回日本呼吸器学会学術講演会, 東京, ハイブリッド開催, 2021.4.24
7. 富井啓介: Year Review in Assembly (呼吸管理部会). 第 61 回日本呼吸器学会学術講演会, 東京, ハイブリッド開催, 2021.4.25
8. 大久保万理江, 籾谷雄二, 藤本寛太, 岩倉敏夫, 松岡直樹, 嶋田有里, 富井啓介: ペンブロリズマブ投与後に続発性副腎皮質機能低下症と 1 型糖尿病を発症した 1 例. 第 64 回日本糖尿病学会年次学術集会, Web 開催, 2021.5.22
9. Hayashi H, Sugawara S, Fukuda Y, Sato Y, Miura S, Ota K, Ozawa Y, Hara S, Tanizaki J, Azuma K, Omori S, Tachihara M, Nishino K, Hosokawa S, Chiba Y, Haratani K, Sakai K, Nishio K, Yamamoto N, Nakagawa K: A randomized phase II study comparing nivolumab (NIVO) with carboplatin-pemetrexed (CbPEM) for patients (pts) with EGFR mutation-positive non-small cell lung cancer (NSCLC) who acquire resistance to tyrosine kinase inhibitors (TKIs) not due to a secondary T790M mutation (WJOG8515L). ASCO2021, Chicago, America, 2021.6.4
10. Miura S, Hsia TC, Hung JY, Jung HA, Shih JY, Park CK, Lee SH, Okamoto T, Ahn HK, Lee YC, Sato Y, Lee SS, Mascaux C, Daoud H, Maerten A, Popat S: Activity of epidermal growth factor receptor tyrosine kinase inhibitors (EGFR TKIs) in patients (pts) with NSCLC with uncommon EGFR mutations: A real-world cohort study (UpSwinG). ASCO2021, Chicago, America, 2021.6.4
11. 嶋田有里, 立川 良, 井手裕之, 遠藤 慧, 増野祿紀, 十三且也, 島 佑介, 白川千種, 大崎 惠, 松梨敦史, 平林亮介, 佐藤悠城, 永田一真, 中川 淳, 富井啓介: 免疫チェックポイント阻害薬の投与により IPAF が顕在化した肺腺癌の一例. 第 127 回日本結核・非結核性抗酸菌症学会近畿支部学会 第 97 回日本呼吸器学会近畿地方会 合同学会, WEB 開催, 2021.7.10
12. 白川千種, 立川 良, 貴志亮太, 田代準基, 世利佳滉, 島 佑介, 嶋田有里, 平林亮介, 佐藤悠城, 永田一真, 中川 淳, 富井啓介, 梨 正典: 濾胞性リンパ腫の治療後に口腔扁平苔癬を伴って閉塞性細気管支炎を発症した一例. 第 127 回日本結核・非結核性抗酸菌症学会近畿支部学会 第 97 回日本呼吸器学会近畿地方会 合同学会, Web 開催, 2021.7.10
13. 遠藤 慧, 平林亮介, 白川千種, 嶋田有里, 島 佑介, 横田 真, 佐藤悠城, 永田一真, 中川 淳, 立川 良, 富井啓介: 右下葉肺腺癌の治療中に急性肺炎により死亡し TS-1 による薬剤性肺炎が疑われた 1 例. 第 127 回日本結核・非結核性抗酸菌症学会近畿支部学会 第 97 回日本呼吸器学会近畿地方会 合同学会, Web 開催, 2021.7.10
14. 嶋田有里, 佐藤悠城, 貴志亮太, 田代準基, 世利佳滉, 島 佑介, 白川千種, 横田 真, 平林亮介, 永田一真, 中川 淳, 立川 良, 小久保雅樹, 富井啓介: 化学放射線療法を施行した COVID-19 感染後肺障害を有する肺扁平上皮癌の一例. 第 114 回日本肺癌学会関西支部学術集会, オンライン開催, 2021.7.17
15. 横田 真, 平林亮介, 木村正夢嶺, 藤原 悟, 小久保雅樹, 島 佑介, 白川千種, 嶋田有里, 佐藤悠城, 永田一真, 中川 淳, 立川 良, 富井啓介: デュルバルマブによる髄膜脳炎が疑われた抗 AMPA 受容体抗体陽性の肺腺癌の一例. 第 114 回日本肺癌学会関西支部学術集会, オンライン開催, 2021.7.17
16. 立川 良, 佐藤悠城, 永田一真, 中川 淳, 平林亮介, 富井啓介, 金森真紀, 川本未知, 土井朝子, 鎌田里紗, 高瀬友貴, 田村 亮, 富田秀明, 登 佳寿子, 増本憲生, 三沖大介, 藤原秀敏, 児島雅美, 橋本真理子, 米谷久美子, 松永京子, 阿部祐也: 神戸市 COVID-19 自宅待機者に対する訪問診療の取り組み. 日本医療マネジメント学会 第 15 回兵庫支部学術集会, Web 開催, 2021.8.16
17. Sato Y, Ikeda S, Kato T, Kenmotsu H, Ogura T, Hino A, Harada T, Kubota K, Tokito T, Okamoto I, Furuya N, Yokoyama T, Hosokawa S, Iwasawa T, Kasajima R, Miyagi Y, Misumi T, Yamanaka T, Okamoto H: Final Analysis of TORG1936/AMBITIOUS: Phase II study of atezolizumab for pretreated non-small cell lung cancer with idiopathic interstitial pneumonia. ESMO2021, Paris, France, Virtual, 2021.9.17

18. Kenmotsu H, Wakuda K, Mori K, Kato T, Sugawara S, Kirita K, Okamoto I, Azuma K, Nishino K, Teraoka S, Koyama R, Masuda K, Hayashi H, Toyozawa R, Miura S, Sato Y, Nakagawa K, Yamamoto N, Takahashi T : Primary results of a randomized phase II study of osimertinib plus bevacizumab versus osimertinib monotherapy for untreated patients with non-squamous non-small-cell lung cancer harboring EGFR mutations; WJOG9717L study. ESMO2021, Paris, France, Virtual, 2021.9.18
19. 立川 良 : 睡眠時無呼吸症候群と生活習慣病. 日本睡眠学会第 46 回定期学術集会, 福岡, ハイブリッド開催, 2021.9.24
20. 比谷里美, 藤原 悟, 中川 淳, 大村佳大, 原 重雄, 片上隆史, 木村正夢嶺, 黒田健仁, 角替麻里絵, 石山浩之, 前川嵩太, 村上泰隆, 石井淳子, 尾原信行, 吉村 元, 幸原伸夫, 川本未知 : 脳生検で診断し放射線治療が奏功した肺腺癌粟粒脳転移 (Miliary metastasis) の一例. 第 22 回日本神経病理学会近畿地方会, WEB 開催, 2021.10.9
21. 嶋田有里, 富井啓介 : COVID-19 肺炎軽快後に器質化肺炎、肺血栓塞栓症を発症した一例. 東京びまん性肺疾患研究会, オンライン開催, 2021.10.23
22. 世利佳滉, 佐藤悠城, 松林 彩, 西野彰悟, 田代隼基, 貴志亮太, 白川千種, 島 佑介, 嶋田有里, 平林亮介, 永田一真, 中川 淳, 立川 良, 原 重雄, 富井啓介 : 両肺びまん性小粒状影と肉芽腫性病変を呈したオラパリブによる薬剤性肺障害の一例. 第 41 回日本サルコイドーシス/肉芽腫性疾患学会総会, 豊中, ハイブリッド開催, 2021.10.30
23. 立川 良, 岩田健太郎, 北井 豪 : 情報通信技術を活用した在宅リハビリテーションの実際と課題. 第 31 回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会, 高松, ハイブリッド開催, 2021.11.12
24. 立川 良 : 緩和的視点から呼吸困難・呼吸苦を考える. 第 31 回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会, 高松, ハイブリッド開催, 2021.11.12
25. 立川 良 : 間質性肺疾患患者を支えるチーム治療. 第 31 回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会, 高松, ハイブリッド開催, 2021.11.13
26. Tachikawa R : Palliative care in respiratory diseases (symposium) Summary: management of dyspnea. The 25th Congress of the Asian Pacific Society of Respiriology, 京都, 2021.11.21
27. 谷口善彦, 田宮朗裕, 藤本大智, 田宮基裕, 佐藤悠城, 横井 崇, 福田 泰, 内田純二, 秦 明登, 松本啓孝, 日野 葵, 金津正樹, 原 聡志, 杉本武哉, 小久保雅樹 : CRT 後に Grade1 放射線肺臓炎を有する患者へのデュルバルマブの安全性、有効性を検討する多施設前向き観察研究. 第 62 回日本肺癌学会学術集会, 横浜, ハイブリッド開催, 2021.11.26
28. 久保田馨, 池田 慧, 加藤晃史, 釧持広知, 齋藤 合, 小倉高志, 佐藤悠城, 原田敏之, 時任高章, 岡本 勇, 古屋直樹, 横山俊秀, 細川 忍, 岩澤多恵, 笠島理加, 宮城洋平, 三角俊裕, 岡本浩明 : 間質性肺炎を合併した非小細胞肺癌に対するアテゾリズマブの第 II 相試験 : TORG1936/AMBITIOUS 最終解析. 第 62 回日本肺癌学会学術集会, 横浜, ハイブリッド開催, 2021.11.26
29. 谷口善彦, 田宮朗裕, 藤本大智, 田宮基裕, 佐藤悠城, 横井 崇, 福田 泰, 内田純二, 秦 明登, 松本啓孝, 日野 葵, 金津正樹, 原 聡志, 杉本武哉, 小久保雅樹 : CRT 後に Grade1 放射線肺臓炎を有する患者へのデュルバルマブの安全性、有効性を検討する多施設前向き観察研究. 第 62 回日本肺癌学会学術集会, 横浜, ハイブリッド開催, 2021.11.26
30. 和久田一茂, 藤本大智, 森本 剛, 佐藤悠城, 浦田佳子, 横山俊秀, 田宮基裕, 平岡亮太, 坂田能彦, 岩澤俊一郎, 谷口善彦, 金津正樹, 宮内栄作, 三浦 理, 池田英樹, 矢内正晶, 四方田真紀子, 森永亮太郎, 山本信之 : EGFR 変異陽性肺癌患者における組織転化の多施設後ろ向き調査 (HISTORIC study). 第 62 回日本肺癌学会学術集会, 横浜, ハイブリッド開催, 2021.11.27
31. 高森信吉, 赤松弘朗, 寺岡俊輔, 林 秀敏, 三浦 理, 秦 明登, 戸井之裕, 白石祥理, 豆鞆伸昭, 佐藤悠城, 古屋直樹, 洪 泰浩, 山本信之, 中川和彦 : ICI が有効であった進行・再発非小細胞肺癌に対するニボルマブの第 II 相試験 (WJOG9616L). 第 62 回日本肺癌学会学術集会, 横浜, ハイブリッド開催, 2021.11.27
32. 佐藤悠城, 藤原 悟, 田代隼基, 貴志亮太, 世利佳滉, 遠藤 慧, 横田 真, 白川千種, 嶋田有里, 島 佑介, 平林亮介, 永田一真, 中川 淳, 立川 良, 富井啓介 : 傍腫瘍性神経症候群を有する肺小細胞癌の臨床背景と治療経過の検討. 第 62 回日本肺癌学会学術集会, 横浜, ハイブリッド開催, 2021.11.28



33. 上村剛大, 釦持広知, 福田悟史, 宮脇太一, 羽間大祐, 神戸寛史, 寺岡俊輔, 松尾規和, 山口哲平, 益田 武, 横山俊秀, 大坪孝平, 橋本大哉, 山本信之, 中川和彦: Singleplex 検査で遺伝子異常未検出の非扁平上皮非小細胞肺癌を対象とする血漿の cell free DNA を用いた Guardant360 による Multiplex 遺伝子解析に関する前向き観察研究: WJOG13620L/STARLIGHT. 第 62 回日本肺癌学会学術集会, 横浜, ハイブリッド開催, 2021.11.28
34. 福田 泰, 林 秀敏, 菅原俊一, 佐藤悠城, 三浦 理, 大田恵一, 小澤雄一, 原 聡志, 谷崎潤子, 東 公一, 大森翔太, 立原素子, 西野和美, 別所昭宏, 原谷浩司, 坂井和子, 西尾和人, 山本信之, 中川和彦: 耐性化した EGFR 遺伝子変異陽性非小細胞肺癌に対する Nivolumab と CBDCA+PEM の第 2 相比較臨床試験 (WJOG8515L). 第 62 回日本肺癌学会学術集会, 横浜, ハイブリッド開催, 2021.11.28
35. 岩倉敏夫: 備えあれば憂いなし～重症低血糖と関連する 2 つの低血糖～. 点鼻グルカゴン Web ストーリーミング講演会, WEB 開催, 2021.12.9
36. 嶋田有里, 平林亮介, 貴志亮太, 田代隼基, 岩林正明, 遠藤 慧, 世利佳澁, 島 佑介, 白川千種, 佐藤悠城, 永田一真, 中川 淳, 立川 良, 甲 貴文, 川端智也, 黒田浩一, 高橋 豊, 片岡和哉, 富井啓介: 内科的、外科的加療でコントロールできた CAM 耐性の MAC 症による胸膜炎、皮下膿瘍の一例. 第 128 回日本結核・非結核性抗酸菌症学会近畿支部学会 第 98 回日本呼吸器学会近畿地方会 合同学会, WEB 開催, 2021.12.11
37. 嶋田有里, 永田一真, 貴志亮太, 田代隼基, 岩林正明, 遠藤 慧, 世利佳澁, 島 佑介, 白川千種, 平林亮介, 佐藤悠城, 中川 淳, 立川 良, 富井啓介: COVID-19 肺炎軽快後に器質化肺炎の再燃と鑑別を要した肺血栓塞栓症の 2 例. 第 128 回日本結核・非結核性抗酸菌症学会近畿支部学会 第 98 回日本呼吸器学会近畿地方会 合同学会, WEB 開催, 2021.12.11
38. 貴志亮太, 立川 良, 嶋田有里, 田代隼基, 世利佳澁, 遠藤 慧, 岩林正明, 白川千種, 島 佑介, 平林亮介, 佐藤悠城, 永田一真, 中川 淳, 山下大祐, 原 重雄, 富井啓介: 両肺びまん性粒状影を呈し、類上皮細胞性肉芽腫と好酸球浸潤を認めたイマチニブによる薬剤性肺炎の 1 例. 第 128 回日本結核・非結核性抗酸菌症学会近畿支部学会 第 98 回日本呼吸器学会近畿地方会 合同学会, WEB 開催, 2021.12.11
39. 世利佳澁, 佐藤悠城, 松林 彩, 西野彰悟, 田代隼基, 貴志亮太, 白川千種, 島 佑介, 嶋田有里, 平林亮介, 永田一真, 中川 淳, 立川 良, 原 重雄, 富井啓介: 両肺びまん性小粒状影と肉芽腫性病変を呈した、オラパリブによる薬剤性肺障害の一例. 第 128 回日本結核・非結核性抗酸菌症学会近畿支部学会 第 98 回日本呼吸器学会近畿地方会 合同学会, web 開催, 2021.12.11
40. 島 佑介, 永田一真, 貴志亮太, 田代隼基, 岩林正明, 世利佳澁, 遠藤 慧, 白川千種, 嶋田有里, 平林亮介, 佐藤悠城, 中川 淳, 立川 良, 富井啓介: 膿胸に対する胸腔洗浄中に空気塞栓を起こし CPA となった一例. 第 128 回日本結核・非結核性抗酸菌症学会近畿支部学会 第 98 回日本呼吸器学会近畿地方会 合同学会, Web 開催, 2021.12.11
41. 島 佑介, 嶋田有里, 益田隆広, 佐藤悠城, 貴志亮太, 田代隼基, 岩林正明, 世利佳澁, 遠藤 慧, 白川千種, 平林亮介, 永田一真, 中川 淳, 立川 良, 多田公英, 富井啓介: 肺血栓塞栓症に緑膿菌感染が合併し肺巨大空洞を形成した一例. 第 128 回日本結核・非結核性抗酸菌症学会近畿支部学会 第 98 回日本呼吸器学会近畿地方会 合同学会, Web 開催, 2021.12.11
42. 白川千種, 立川 良, 貴志亮太, 田代隼基, 世利佳澁, 島 佑介, 嶋田有里, 平林亮介, 佐藤悠城, 永田一真, 中川 淳, 富井啓介: 大柴胡湯による薬剤性肺炎が既往にあり、COVID-19 の流行下で防風通聖散による薬剤性肺炎を発症した一例. 第 128 回日本結核・非結核性抗酸菌症学会近畿支部学会 第 98 回日本呼吸器学会近畿地方会 合同学会, Web 開催, 2021.12.11
43. 遠藤 慧, 立川 良, 嶋田有里, 白川千種, 平林亮介, 佐藤悠城, 永田一真, 中川 淳, 富井啓介, 富岡洋海, 金子正博, 藤井 宏: COVID-19 との鑑別を要した漢方薬による薬剤性肺炎の 2 例. 第 128 回日本結核・非結核性抗酸菌症学会近畿支部学会 第 98 回日本呼吸器学会近畿地方会 合同学会, Web 開催, 2021.12.11
44. 田代隼基, 立川 良, 貴志亮太, 岩林正明, 遠藤 慧, 世利佳澁, 白川千種, 嶋田有里, 島 佑介, 平林亮介, 佐藤悠城, 永田一真, 中川 淳, 富井啓介: 練炭煙吸入後にびまん性細気管支炎を発症し、小葉中心性病変と混合性換気障害が残存した一例. 第 128 回日本結核・非結核性抗酸菌症学会近畿支部学会 第 98 回日本呼吸器学会近畿地方会 合同学会, Web 開催, 2021.12.11
45. 甲 貴文, 瀬尾龍太郎, 山下大祐, 原 重雄, 富井啓介, 高山昌和, 鉄本啓介, 齊藤正男, 浜川博司, 高橋 豊: 重症 COVID-19 症例における圧傷害 (barotrauma) の臨床的意義. 第 50 回京都大学呼吸器外科教室同門会冬期研究会, 京都, 2022.2.19

46. 高山昌和, 浜川博司, 鉄本啓介, 甲 貴文, 齊藤正男, 高橋 豊, 中川 敦, 清水祐里, 原 重雄: 免疫チェックポイント阻害薬を含む化学放射線療法後に再度増大を来した肺癌原発巣に手術を行った一例. 第115回日本肺癌学会関西支部学術集会, オンライン開催, 2022.3.5

## IX. 1.7 血液内科

1. 永井雄也: 新規NK細胞治療の開発を目指して“CD38 ノックアウトNK細胞による抗CD38モノクローナル抗体を介したADCC活性の増強”. 8th京都血液フォーラム, 京都, 2021.4.24
2. 松本絢子, 下村良充, 上條公守, 和田典也, 吉岡 聡, 松下章子, 石川隆之: 免疫チェックポイント阻害薬による血小板減少を来した二例. 第115回近畿血液学地方会, WEB開催, 2021.6.5
3. 吉岡 聡: Case Discussion\_初発移植非適応多発性骨髄腫. Janssen Myeloma Forum 二部会 in 兵庫四国, WEB開催, 2021.6.9
4. 上條公守, 和田典也, 下村良充, 吉岡 聡, 松下章子, 石川隆之: 体動困難のために救急搬送となりビタミンB12欠乏症の診断に至った1例. 日本内科学会第232回近畿地方会, WEB開催, 2021.6.26
5. 中川大志: CAR-T療法後に遷延する血球減少を併発したDLBCLの2症例. 第15回Meet the Hematologists, WEB開催, 2021.7.3
6. 吉岡 聡: キムリア診療のマネージメントー紹介施設の立場からー. Hematology Seminar in Hyogo, WEB開催, 2021.7.16
7. 米谷 昇: 当施設におけるCAR-T細胞療法の現状. Novartis CAR-T Web Seminar, WEB開催, 2021.7.21
8. 吉岡 聡: 本態性血小板血症のマネージメント. Takeda Hematology Web Seminar in Hyogo, WEB開催, 2021.8.4
9. 石川隆之: B細胞腫瘍の新たな治療戦略. B細胞セミナー in SHIZUOKA, WEB開催, 2021.9.17
10. 山下大祐, 吉本明弘, 石川隆之, 原 重雄: A clinicopathological analysis of primary renal lymphoma diagnosed by kidney biopsy. 第83回日本血液学会学術集会, WEB開催, 2021.9.23
11. 越智陽太郎, 吉田健一, 南谷泰仁, 佐々木光, 三谷絹子, 細谷紀子, 平本展大, 石川隆之, 大屋敷一馬, 高橋直人, 高久智生, 土屋 俊, 兼村信宏, 中村信彦, 上田恭典, 吉原 哲, 塩澤裕介, 趙 蘭英, 竹田淳恵, 綿谷陽作, 奥田瑠璃花, 牧島秀樹, 白石友一, 千葉健一, 田中洋子, 真田 昌, 高折晃史, 宮野 悟, Shih LY, 小川誠司: Clonal evolution and clinical impact of genetic lesions in blast crisis of chronic myeloid leukemia. 第83回日本血液学会学術集会, WEB開催, 2021.9.23
12. 家村知樹, 石川隆之, 高折晃史, KSCTG: The safety and efficacy of two step-dose adjusted busulfan in a pretransplant conditioning regimen. 第83回日本血液学会学術集会, WEB開催, 2021.9.23
13. 西久保雅司, 平本展大, 井本寛東, 山本隆介, 下村良充, 丸岡隼人, 石川隆之: Patient's characteristics and molecular MRD status and outcome in NPM1-mutated AML. 第83回日本血液学会学術集会, WEB開催, 2021.9.23
14. 南谷泰仁, Tobiasson M, 佐藤信也, Bernard E, 大竹茂樹, 竹田淳恵, 趙 蘭英, 日下部学, 柴田悠平, 中村信彦, 渡邊瑞希, 平本展大, 塩澤裕介, 白石友一, 牧島秀樹, 中川正宏, 田口正剛, 木口 亨, 大屋敷一馬, 石川隆之, 高折晃史, 鶴見 寿, 笠原千嗣, 千葉 滋, 直江知樹, 宮野 悟, Papaemanuil E, 宮崎泰司, Lindberg E, 小川誠司: Post-azacitidine clone size predicts long-term clinical outcome of patients with MDS and AML. 第83回日本血液学会学術集会, WEB開催, 2021.9.23
15. 竹田淳恵, 吉田健一, 依田成玄, 南谷泰仁, Shih LY, 越智陽太郎, 白石友一, Kerr C, 永田安伸, 北野俊行, 半下石明, 石山 謙, 鶴見 寿, 宮崎泰司, 平本展大, 石川隆之, 中川正宏, 高折晃史, 千葉 滋, 中澤英之, Kuo MC, 片岡圭亮, 佐伯龍之介, 真田 昌, 臼杵憲祐, 宮脇修一, 宮野 悟, Maciejewski J, 牧島秀樹, 小川誠司: EPOR/JAK/STAT pathway is a promising therapeutic target in acute erythroid leukemia. 第83回日本血液学会学術集会, WEB開催, 2021.9.24
16. 和田典也, 下村良充, 藪下知宏, 山下大祐, 大野 彩, 井本寛東, 丸岡隼人, 原 重雄, 石川隆之: CD38 expression is an important prognostic marker in diffuse large B-cell lymphoma. 第83回日本血液学会学術集会, WEB開催, 2021.9.24
17. 上條公守, 下村良充, 岡田直樹, 和田典也, 西久保雅司, 井本寛東, 山本隆介, 平本展大, 吉岡 聡, 米谷昇, 松下章子, 山下大祐, 原 重雄, 石川隆之: Clinical characteristics and outcomes of duodenal-type follicular lymphoma: a single center analysis. 第83回日本血液学会学術集会, WEB開催, 2021.9.25

18. 福島健太郎, 白鳥聡一, 大西 康, 土岐典子, 後藤辰徳, 岡田昌也, 中前博久, 前田嘉信, 加藤光次, 石川隆之, 近藤忠一, 豊崎誠子, 池田宇次, 谷口修一, 岩本章子, 島田文香, Stefanelli T, Hollaender N, 豊嶋崇徳: Ruxolitinib vs best available therapy in steroid-refractory cGvHD: REACH3 in Japanese patients. 第 83 回日本血液学会学術集会, WEB 開催, 2021.9.25
19. 久保茂世, 中川大志, 上條公守, 下村良充, 山本隆介, 永井雄也, 平本展大, 吉岡 聡, 米谷 昇, 石川隆之: 当院の急性骨髄性白血病に対するベネトクラクス+アザシチジンの使用経験. 第 116 回近畿血液学地方会, WEB 開催, 2021.11.27
20. 山田智彦, 平本展大, 山本隆介, 米谷 昇, 石川隆之: クローン性造血に由来した芽球性形質細胞様樹状細胞腫瘍と骨髄異形成症候群を合併した一例. 第 116 回近畿血液学地方会, WEB 開催, 2021.11.27
21. 光行智司, 西久保雅司, 岡田直樹, 井本寛東, 山本隆介, 平本展大, 石川隆之, 山下大祐, 丸岡隼人: 抗 MAG 抗体関連ニューロパチーを合併した MYD88 変異陽性の DLBCL. 第 116 回近畿血液学地方会, WEB 開催, 2021.11.27
22. 馬場晟弥, 中川大志, 久保茂世, 上條公守, 下村良充, 永井雄也, 吉岡 聡, 石川隆之: エルトロンボバグが奏功した COVID-19 に伴う免疫性血小板減少症. 日本内科学会第 234 回近畿地方会, WEB 開催, 2021.12.4
23. 石川隆之: DLBCL の治療戦略とポライビーの位置づけ. 近畿ブロック Oncology Pharmacist Community Forum 2021, WEB 開催, 2021.12.4
24. Bernard E, Tuechler H, Greenberg PL, Hasserjian RP, Ossa JA, Nannya Y, Devlin SM, Creignou M, Pinel P, Monnier L, Medina-Martinez JS, Werner Y, Jädersten M, Germing U, Sanz G, Van de Loosdrecht AA, Kosmider O, Follo MY, Thol FR, Zamora L, Pinheiro RF, Pellagatti A, Elias H, Haase D, Ganster C, Ades L, Tobiasson M, Della Porta MG, Takaori-Kondo A, Ishikawa T, Chiba S, Kasahara S, Miyazaki Y, Fenaux P, Belickova M, Savona MR, Klimek VM, Santos FPS, Boulwood J, Kotsianidis I, Santini V, Solé F, Platzbecker U, Heuser M, Valent P, Ohyashiki K, Finelli C, Voso MT, Shih LY, Fontenay M, Jansen JH, Cervera J, Gattermann N, Ebert BL, Bejar R, Malcovati L, Cazzola M, Ogawa S, Hellström-Lindberg E, Papaemmanuil E: Molecular International Prognosis Scoring System for Myelodysplastic Syndromes. 62nd Annual Meeting and Exposition of American Society of Hematology, WEB, 2021.12.11
25. Suzuki K, Sekiguchi N, Rai S, Munakata W, Handa H, Shibayama H, Endo T, Terui Y, Iwaki N, Fukuhara N, Tatetsu H, Iida S, Ishikawa T, Iguchi D, Izutsu K: Two-Year Follow-up Data of Phase II Study of Tirabrutinib, a Second-Generation Bruton's Tyrosine Kinase Inhibitor, in Patients with Treatment-Naïve or Relapsed/Refractory Waldenström's Macroglobulinemia. 62nd Annual Meeting and Exposition of American Society of Hematology, WEB, 2021.12.11
26. Shimomura Y, Sobue T, Hirabayashi S, Kondo T, Mizuno S, Kanda J, Fujino T, Kataoka K, Uchida N, Eto T, Miyakoshi S, Tanaka M, Kawakita T, Yokoyama H, Doki N, Harada K, Wake A, Ota S, Takada S, Takahashi S, Kimura T, Onizuka M, Fukuda T, Atsuta Y, Yanada M: Comparing Single Cord Blood Transplantation and Matched Related Donor Transplantation in Non-Remission Acute Myeloid Leukemia. 62nd Annual Meeting and Exposition of American Society of Hematology, WEB, 2021.12.11
27. Wada F, Kanda J, Yoshioka S, Ishikawa T, Akasaka T, Ueda Y, Hirata H, Arai Y, Yago K, Anzai N, Watanabe M, Ikeda T, Yonezawa A, Imada K, Itoh M, Kitano T, Takeoka T, Hishizawa M, Nohgawa M, Arima N, Asagoe K, Kondo T, Takaori-Kondo A: Single Cord Blood Transplantation Versus HLA-Haploidentical Related Donor Transplantation Using Post-Transplant Cyclophosphamide in Patients with Hematological Malignancies. 62nd Annual Meeting and Exposition of American Society of Hematology, WEB, 2021.12.12
28. Takeda J, Yoshida K, Nakagawa MM, Nannya Y, Yoda A, Morishita D, Saiki R, Chiba K, Tanaka H, Shiraiishi Y, Kuo MC, Kerr CM, Nagata Y, Hiramoto N, Hangaiishi A, Nakazawa H, Ishiyama K, Miyano S, Chiba S, Miyazaki Y, Kitano T, Usuki K, Sezaki N, Tsurumi H, Miyawaki S, Maciejewski JP, Ishikawa T, Ohyashiki K, Ganser A, Heuser M, Thol FR, Shih LY, Takaori-Kondo A, Makishima H, Ogawa S: EPOR/JAK/STAT Signaling Pathway As Therapeutic Target of Acute Erythroid Leukemia. 62nd Annual Meeting and Exposition of American Society of Hematology, WEB, 2021.12.13

29. Kurosawa S, Shimomura Y, Itonaga H, Najima Y, Kobayashi T, Ozawa Y, Kanda Y, Kako S, Kawakita T, Matsuoka KI, Maruyama Y, Ota S, Nakazawa H, Imada K, Kimura T, Kanda J, Fukuda T, Atsuta Y, Ishiyama K : Comparison of Myeloablative Versus Reduced-Intensity Fludarabine/Busulfan Regimen in Patients with Myelodysplastic Syndrome Undergoing Allogeneic Hematopoietic Stem Cell Transplantation. 62nd Annual Meeting and Exposition of American Society of Hematology, WEB, 2021.12.13
30. 石川隆之：濾胞性リンパ腫治療現場における混迷と光明. 京の会 2022 濾胞性リンパ腫, WEB 開催, 2022.1.25
31. 吉岡 聡：再発・難治性多発性骨髄腫に対する治療選択－DKd 療法と DPd 療法の使いどころ－. Hematology Seminar in Hyogo, WEB 開催, 2022.3.10
32. Kamijo K, Shimomura Y, Shinohara A, Kondo E, Kim SW, Ara T, Mizuno I, Eto T, Nakazawa H, Matsuoka KI, Iida S, Onizuka M, Fukuda T, Atsuta Y, Ishikawa T : Comparison of Busulfan-based Myeloablative versus Reduced-Intensity Conditioning Regimens in Allogeneic Stem Cell Transplantation Recipients with non-Hodgkin Lymphoma. 48th annual meeting of European Society for Blood and Marrow Transplantation (EBMT), WEB, 2022.3.23

## IX. 1.8 腫瘍内科

1. Sunakawa Y, Yuki S, Shiozawa M, Masuishi T, Nishina T, Yasui H, Ohta T, Takahashi N, Satake H, Kanazawa A, Goto M, Bando H, Taniguchi H, Okugawa Y, Yamazaki K, Ebi H, Abe Y, Nomura S, Asano C, Yoshino T : Profiling plasma angiogenesis factors after use of biologics in metastatic colorectal cancer (mCRC): Update results from GI-SCREEN CRC Ukit study. 2021 ASCO Annual Meeting I, web 開催, 2021.6.4-8, (DOI:10.1200/JCO.2021.39.15\_suppl.3529)
2. Bando H, Nakamura Y, Taniguchi H, Shiozawa M, Yasui H, Esaki T, Ohta T, Denda T, Satoh T, Yamazaki K, Sunakawa Y, Kato T, Goto M, Yuki S, Nishina T, Oki E, Shinozaki E, Matsuhashi N, Hata M, Yoshino T : Impact of a metastatic site on circulating tumor DNA (ctDNA) analysis in patients (pts) with metastatic colorectal cancer (mCRC). 2021 ASCO Annual Meeting I, web開催, 2021.6.4-8, (DOI:10.1200/JCO.2021.39.15\_suppl.3554)
3. Kito Y, Inoue E, Akamaru Y, Takahashi M, Matsuyama J, Yabusaki H, Makiyama A, Suzuki T, Tsuda M, Yasui H, Hirabayashi N, Takeno A, Kawakami H, Okuda H, Yoshioka T, Kawada J, Koderia Y, Ichikawa W, Fujii M, Sunakawa Y : Survival analysis by tumor response from real-world data in advanced gastric cancer treated with nivolumab: The DELIVER trial (JACCRO GC-08). 2021 ASCO Annual Meeting I, web 開催, 2021.6.4-8, (DOI:10.1200/JCO.2021.39.15\_suppl.4044)
4. Matsumoto T, Ikoma T, Nagai H, Yasui H : Clinical usefulness of next generation sequencing by liquid biopsy for advanced gastric cancer. ESMO WORLD CONGRESS ON GASTROINTESTINAL CANCER (ESMO-GI) 2021, Virtual, 2021.6.30-7.3, (DOI:https://doi.org/10.1016/j.annonc.2021.05.201)
5. 加藤大典, 武部沙也香, 常盤麻里子, 山下大祐, 原 重雄, 安井久晃：初期研修期間中の乳腺外科ローテーションにおける教育の工夫. 第 29 回日本乳癌学会学術総会, 横浜, ハイブリッド開催, 2021.7.2
6. Yuki S, Taniguchi H, Masuishi T, Shiozawa M, Bando H, Yamazaki K, Nishina T, Yasui H, Denda T, Sunakawa Y, Satake H, Yoshida K, Kanazawa A, Oki E, Okugawa Y, Ebi H, Abe Y, Nomura S, Asano C, Yoshino T : Impact of plasma angiogenesis factors on the efficacy of 2nd-line chemotherapy combined with biologics in metastatic colorectal cancer (mCRC): Early efficacy results from GI-SCREEN CRC Ukit study. ESMO CONGRESS 2021, virtual, 2021.9.16, (DOI:https://doi.org/10.1016/j.annonc.2021.08.984)
7. Sawada K, Yamashita R, Horasawa S, Yoshikawa A, Fujisawa T, Nakamura Y, Taniguchi H, Hosokawa M, Kodama T, Kadowaki S, Kato K, Satoh T, Komatsu Y, Shiota M, Yasui H, Yamazaki K, Yoshino T : Gut microbiota and efficacy of immune-checkpoint inhibitors (ICIs) in patients (pts) with advanced solid tumor: SCRUM-Japan MONSTAR-SCREEN. ESMO CONGRESS 2021, virtual, 2021.9.17, (DOI:https://doi.org/10.1016/j.annonc.2021.08.340)
8. 生駒龍興, 佐竹悠良, 松本俊彦, 朴 将源, 柴田伸弘, 高谷昌宏, 島田貴信, 津村剛彦, 永井宏樹, 安井久晃：進行再発食道癌に対するニボルマブ単剤療法での予後予測因子に関する多施設共同研究. 第 75 回日本食道学会学術集会, 東京, ハイブリッド開催, 2021.9.23-24

9. 河村美由紀, 松本光史, 森田充紀, 境 秀樹, 尾上琢磨, 浦川優作, 菅原宏美, 植野さやか, 須藤 保 : がん遺伝子パネル検査における PGPV と遺伝学的支援の重要性について. 第 80 回日本癌学会学術総会, 横浜, ハイブリッド開催, 2021.9.30
10. 坂東英明, 中村能章, 谷口浩也, 塩澤 学, 安井久晃, 江崎泰斗, 傳田忠道, 佐藤太郎, 砂川 優, 吉野孝之 : 切除不能・再発大腸がん症例の血中循環腫瘍 DNA 検出における転移巣の意義. 第 80 回日本癌学会学術総会, 横浜, ハイブリッド開催, 2021.10.1
11. 浦川優作, 二川摩周, 十川麗美, 加藤英美乃, 植野さやか, 河内麻里子, 山本英喜, 平沢 晃 : 遺伝情報の診療録の取り扱いに関する課題. 第 80 回日本癌学会学術総会, 横浜, ハイブリッド開催, 2021.10.2
12. 浦川優作 : (教育セッション 8) 遺伝カウンセリング/ゲノムカウンセリング. 日本人類遺伝学会第 66 回大会 第 28 回日本遺伝子診療学会大会 合同開催, 横浜, ハイブリッド開催, 2021.10.15
13. 坂東英明, 中村能章, 谷口浩也, 塩澤 学, 安井久晃, 江崎泰斗, 太田高志, 傳田忠道, 佐藤太郎, 山崎健太郎, 砂川 優, 加藤健志, 後藤昌弘, 畑 昌幸, 吉野孝之 : 切除不能・再発大腸がん症例の血中循環腫瘍 DNA 検出における転移巣の意義. 第 59 回癌治療学会学術集会, 横浜, ハイブリッド開催, 2021.10.22
14. 中村能章, 岡本 渉, 傳田忠道, 仁科智裕, 小松嘉人, 安井久晃, 江崎泰斗, 土井綾子, 上野 誠, 篠崎英司, 松橋延壽, 坂東英明, 野村尚吾, 赤木 究, 吉野孝之 : 進行固形がんにおける血漿マイクロサテライト不安定性検査の臨床的妥当性および有用性. 第 59 回癌治療学会学術集会, 横浜, ハイブリッド開催, 2021.10.22
15. 城後友望子, 中村能章, 設楽紘平, 坂東英明, 安井久晃, 江崎泰斗, 寺澤哲志, 佐藤太郎, 篠崎英司, 仁科智裕, 小倉 孝, 小松嘉人, 谷口浩也, 藤井誠志, 吉野孝之 : 胃癌の血中循環腫瘍 DNA における FGFR2 増幅及び FGFR 阻害薬に対する治療効果の検討. 第 59 回癌治療学会学術集会, 横浜, ハイブリッド開催, 2021.10.22
16. 洞澤智至, 澤田憲太郎, 山下理宇, 藤澤孝夫, 吉河 歩, 中村能章, 谷口浩也, 門脇重憲, 加藤 健, 佐藤太郎, 小松嘉人, 沖 英二, 安井久晃, 山崎健太郎, 吉野孝之 : 進行性固形癌患者における腸内細菌叢と免疫チェックポイント阻害剤の有効性. 第 59 回癌治療学会学術集会, 横浜, ハイブリッド開催, 2021.10.23
17. Satake H, Tsuji A, Tanaka C, Takahashi T, Wakamura K, Yoshida T, Murata K, Shindo Y, Ishikawa Y, Konishi K, Kochi M, Sagawa T, Kotaka M, Kubota Y, Sunakawa Y, Sekikawa T, Nakamura M, Takeuchi M, Ichikawa W, Fujii M : Tumor response of FOLFOXIRI plus cetuximab versus bevacizumab in RAS wild-type metastatic colorectal cancer: The subgroup-analysis of DEEPER trial (JACCRO CC-13). 2022 ASCO Gastrointestinal Cancers Symposium, web 開催, 2022.1.20-22, (DOI:10.1200/JCO.2022.40.4\_suppl.109)
18. Wainberg ZA, Shitara K, Van Cutsem E, Wyrwicz L, Lee KW, Kudaba I, Garrido M, Chung HC, Lee J, Castro-Salguero HR, Mansoor W, Braghiroli MI, Karaseva N, Goekkurt E, Satake H, Chao J, Kher U, Shah S, Bhagia P, Tabernero J : Pembrolizumab with or without chemotherapy versus chemotherapy alone for patients with PD-L1-positive advanced gastric or gastroesophageal junction adenocarcinoma: Update from the phase 3 KEYNOTE-062 trial. 2022 ASCO Gastrointestinal Cancers Symposium, web 開催, 2022.1.20-22, (DOI:10.1200/JCO.2022.40.4\_suppl.243)
19. Hirata K, Hamamoto Y, Shoji H, Hara H, Kondoh C, Yasui H, Kajiwara T, Baba E, Ando T, Sugimoto N, Okano N, Kawakami H, Katsuya H, Nagase M, Moriwaki T, Yoshimura K, Ando M, Yamazaki K, Hironaka S, Muro K : A randomized phase II trial of paclitaxel plus ramucirumab versus nab-paclitaxel plus ramucirumab for gastric cancer with peritoneal dissemination refractory to first-line therapy (WJOG10617G/P-SELECT). 2022 ASCO Gastrointestinal Cancers Symposium, web 開催, 2022.1.20-22, (DOI:10.1200/JCO.2022.40.4\_suppl.280)
20. Omori T, Sakai D, Fumita S, Fujita J, Kawabata R, Matsuyama J, Yasui H, Hirao M, Kawase T, Kishi K, Taniguchi H, Miyazaki Y, Miura T, Miyake A, Kurokawa Y, Yamasaki M, Yamada T, Satoh T, Eguchi H, Doki Y : Effectiveness of third- or later-line therapy in patients with HER2-positive advanced gastric cancer: Results from an observational retrospective study in Japan. 2022 ASCO Gastrointestinal Cancers Symposium, web開催, 2022.1.21, (DOI:10.1200/JCO.2022.40.4\_suppl.277)
21. Uehara H, Ota M, Matsuda Y, Tsutsumi S, Kusumoto T, Yasui H, Ubukata Y, Yamaguchi S, Orita H, Horie Y, Kakizoe S, Shimokawa M, Oki E, Kakeji Y, Saeki H, Mori M : Efficacy and safety of neoadjuvant chemotherapy for locally advanced gastric cancer in elderly patients: A phase II trial (KSCC1801). 2022 ASCO Gastrointestinal Cancers Symposium, web 開催, 2022.1.21, (DOI:10.1200/JCO.2022.40.4\_suppl.254)

22. 森田周子, 細谷和也, 藪内洋平, 猪熊哲朗, 山村彰吾, 松本俊彦, 永井宏樹, 安井久晃: 当院における食道癌に対する Nivolumab 投与症例の検討. 日本消化器病学会近畿支部会第 116 回例会, 大阪, ハイブリッド開催, 2022.2.5
23. 松本俊彦: (ランチョンセミナー 5) 変わる、令和の胃癌化学療法～一次治療と後方治療を中心に～. 日本消化器病学会近畿支部会第 116 回例会, 大阪, ハイブリッド開催, 2022.2.5
24. 松本俊彦, 山村彰吾, 永井宏樹, 安井久晃: Outcome of Comprehensive Genome Profiling (CGP) for cancer patients: Current status and issues. 第 19 回日本臨床腫瘍学会学術集会, 京都, ハイブリッド開催, 2022.2.17
25. 安井久晃: 原発不明がんの診断～腫瘍内科医が果たすべき役割とは～ (イブニングセミナー A). 第 19 回日本臨床腫瘍学会学術集会, 京都, ハイブリッド開催, 2022.2.17
26. 佐川 保, 辻 晃仁, 佐竹悠良, 中村将人, 砂川 優, 是久翔太郎, 松浦正徒, 湯浅康弘, 峯 孝志, 永野浩昭, 重安邦俊, 金城達也, 小高雅人, 奥山浩之, 久保田祐太郎, 東風 貢, 舛石俊樹, 竹内正弘, 市川度, 藤井雅志: 抗 EGFR 抗体薬併用化学療法に不応 / 不耐となった進行再発大腸癌患者に対する 2 次治療: FOLFIRI/ラムシルマブ併用療法の第 II 相試験: JACCRO CC-16. 第 19 回日本臨床腫瘍学会学術集会, 京都, ハイブリッド開催, 2022.2.17
27. 生駒龍興, 松本俊彦, 岡崎右京, 栗岡勇輔, 山村彰吾, 永井宏樹, 安井久晃, 土井恵太郎, 島田貴信, 紙屋熙紀, 佃 頌敏, 木村佳人, 澤井勇悟, 浅田全範, 丸澤宏之, 中島研郎, 森 章, 金谷誠一郎, 津村剛彦: Multicenter retrospective study of first-line to second-line chemotherapy in unresectable pancreatic cancer. 第 19 回日本臨床腫瘍学会学術集会, 京都, ハイブリッド開催, 2022.2.18
28. Yamazaki K, Yuki S, Taniguchi H, Bando H, Sunakawa Y, Shiozawa M, Yasui H, Takahashi N, Satake H, Matsushashi N, Kanazawa A, Horita Y, Goto M, Okano N, Yamashita K, Tsuji A, Ebi H, Abe Y, Nomura S, Yoshino T: Impact of plasma VEGF-A, VEGF-D and PlGF on the efficacy of 2nd-line chemotherapy combined with biologics in mCRC. 第 19 回日本臨床腫瘍学会学術集会, 京都, ハイブリッド開催, 2022.2.19
29. 安井久晃: (教育セミナー 3) 抗がん薬曝露対策について看護師は何を知っておくべきか. 第 36 回日本がん看護学会学術集会, 横浜, ハイブリッド開催, 2022.2.19
30. 山下範之, 浦川優作, 河内麻里子, 加藤英美乃, 平沢 晃: 遺伝性腫瘍家系図のデータ標準化に向けたデータ定義およびツールの研究・開発. 情報処理学会 第 84 回全国大会 ～変わる社会と情報処理～, 松山, ハイブリッド開催, 2022.3.3
31. Sakai D, Omori T, Fumita S, Fujita J, Kawabata R, Matsuyama J, Yasui H, Hirao M, Kawase T, Kishi K, Taniguchi H, Miyazaki Y, Miura T, Miyake A, Kurokawa Y, Yamasaki M, Yamada T, Satoh T, Eguchi H, Doki Y: Effectiveness of 3L+ therapy in HER+ advanced gastric cancer: retrospective study in Japan. 第 94 回日本胃癌学会総会, 横浜, ハイブリッド開催, 2022.3.3
32. Matsumoto T, Kawai T, Hori S, Matsumoto Y: Real world date of FTD/TPI for advanced gastric cancer. 第 94 回日本胃癌学会総会, 横浜, ハイブリッド開催, 2022.3.3
33. Matsuda Y, Ota M, Uehara H, Tsutsumi S, Kusumoto T, Yasui H, Ubukata Y, Yamaguchi S, Orita H, Izawa N, Kakizoe S, Shimokawa M, Kakeji Y, Oki E, Saeki H, Mori M: Phase II study of neoadjuvant chemotherapy for locally advanced gastric cancer in elderly patients. 第 94 回日本胃癌学会総会, 横浜, ハイブリッド開催, 2022.3.4
34. Hirata K, Hamamoto Y, Shoji H, Hara H, Kondoh C, Yasui H, Kajiwara T, Baba E, Ando T, Sugimoto N, Okano N, Kawakami H, Katsuya H, Nagase M, Moriwaki T, Yoshimura K, Ando M, Yamazaki K, Hironaka S, Muro K: Phase II trial of RAM combined with PTX vs nab-PTX for gastric cancer with peritoneal dissemination. 第 94 回日本胃癌学会総会, 横浜, ハイブリッド開催, 2022.3.4
35. 浦川優作: (教育講演 3) AYA がんと遺伝性腫瘍. 第 4 回 AYA がんの医療と支援のあり方研究会学術集会, WEB 開催, 2022.3.20-21

#### IX. 1.9 膠原病・リウマチ内科

1. 岡 秀樹, 住友秀次, 志水隼人, 金森真紀, 大村浩一郎, 西岡弘晶: 20 年以上安定していた抗 ARS 抗体症候群が肺高血圧症と間質性肺炎で再燃し、膀胱癌が契機と考えられた 1 例. 第 65 回日本リウマチ学会総会・学術集会, Web 開催, 2021.4.26-28

2. 岡 秀樹, 住友秀次, 志水隼人, 山下大祐, 西岡弘晶, 大村浩一郎: IgG4 関連疾患による大動脈瘤が十二指腸大動脈瘤をきたした 1 例. 第 30 回日本リウマチ学会近畿支部学術集会, Web 開催, 2021.9.4
3. 大村浩一郎: 特別企画 1 “どう治療する? 専門医の治療戦略” 間違いだらけの全身性エリテマトーデス治療戦略. 第 30 回日本リウマチ学会近畿支部学術集会, Web 開催, 2021.9.4
4. 住友秀次, 志水隼人, 岡 秀樹, 金森真紀, 藤田将平, 貝田 航, 山本 大, 黒田浩一, 蓮池俊和, 土井朝子, 西岡弘晶, 大村浩一郎: シンポジウム 8 「新型コロナウイルス感染症の感染拡大時の関節リウマチ診療〜この 1 年を振り返って〜」 「当院における COVID-19 診療と、膠原病・リウマチ性疾患への影響」. 第 36 回日本臨床リウマチ学会, 富山, 2021.12.19

#### IX. 1. 10 緩和ケア内科

1. 梅田節子, 西本哲郎, 弦牧知佳, 中岡ミチル, 岩田奈美, 競 晴香, 今道富美子, 大音三枝子, 小久保雅紀: 新型コロナウイルス感染症に対するがん患者の不安と対処について. 第 26 回日本緩和医療学会学術大会, 横浜, ハイブリッド開催, 2021.6.18
2. 崎山明香, 西本哲郎, 吉岡信也: 患者さんの葛藤に寄り添い意思決定を支えた終末期若年子宮頸癌患者の 1 事例. 第 63 回日本婦人科腫瘍学会学術講演会, 大阪, ハイブリッド開催, 2021.7.16
3. 西本哲郎: 会長企画 座談会 がん患者の在宅緩和ケアについて ―現状と今後を考える―. 日本緩和医療学会第 3 回関西支部学術大会, Web 開催, 2021.11.21

#### IX. 1. 11 精神・神経科

1. 大谷恭平: コロナ禍とサイコオンコロジー. 日本サイコオンコロジー学会 精神腫瘍医コース, WEB 開催, 2021.6.27
2. 三浦敦美, 宮井宏之, 大谷恭平, 福島春子, 松石邦隆: コロナ禍でうつ病を発症し飛び降り自殺企図に至った一例. 第 12 回兵庫県総合病院精神医学会学術講演会, WEB 開催, 2021.9.11
3. Otani K, Miura A, Fukushima H, Miyai H, Matsuishi K: A case of prolonged cognitive decline even after recovery from COVID-19 pneumonia. Regional IPA/JPS Meeting, Virtual, 2021.9.16-18
4. 大谷恭平: 神戸市における精神科医からみた COVID-19 パンデミックによるがん治療への影響. 第 34 回日本サイコオンコロジー学会総会, WEB 開催, 2021.9.18-19
5. 福島春子, 川村修司, 鶴谷 茂, 高橋年道, 茂木香織, 宮井宏之, 大谷恭平, 松石邦隆: 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) 流行が医療従事者に与えた心理的影響. 第 117 回日本精神神経学会学術総会, 京都, ハイブリッド開催, 2021.9.19-21
6. Otani K, Mogi K, Miura A, Fukushima H, Miyai H, Matsuishi K: Hyponatremia secondary to kidney injury after long-term lithium therapy during COVID-19 pandemic. 34th ECNP Congress, Lisbon, Hybrid, 2021.10.2-5
7. 大谷恭平: コロナ禍とサイコオンコロジー. 日本サイコオンコロジー学会 精神腫瘍医コース, web 開催, 2021.11.14
8. 松石邦隆, 福島春子, 大谷恭平, 川村修司: COVID-19 感染症の院内感染を通じて医療従事者が受けた心理的影響. 第 34 回日本総合病院精神医学会, WEB 開催, 2021.11.19-20
9. 大谷恭平: COVID-19 医療最前線でのサイコオンコロジー. 第 14 回関西サイコオンコロジー研究会, web 開催, 2021.11.27
10. 三浦敦美, 宮井宏之, 大谷恭平, 福島春子, 松石邦隆, 太田和馬, 木村正夢嶺: 重症 COVID-19 の回復直後から性的異常行動を認めた一例. 第 129 回近畿精神神経学会, 枚方, 2022.3.12
11. 古庄裕也, 三浦敦美, 宮井宏之, 大谷恭平, 福島春子, 松石邦隆: 長年未治療であったために統合失調症との鑑別を要した甲状腺機能低下症の一例. 第 129 回近畿精神神経学会, 枚方, 2022.3.12

#### IX. 1. 12 小児科・新生児科

1. 木村 碧, 阿部真也, 城戸拓海, 京野由紀, 吉田阿寿美, 仲宗根瑠花, 菅秀太郎, 福嶋祥代, 芦名満理子, 西田浩輔, 藤岡一路, 木村真希, 河野誠司, 飯島一誠: 神戸大学医学部附属病院研修医を対象とした新生児科に関するアンケート調査〜NICU 研修中にどのような教育的対応が必要か〜. 第 124 回日本小児科学会学術集会, 京都, ハイブリッド開催, 2021.4.17

2. 真鍋修司, 岡藤郁夫, 渡邊 悠, 佐伯 玲, 高端裕人, 李 崇至, 奥立大樹, 大岩香梨, 伊藤 環, 田中 悠, 小林由典, 鶴田 悟: 難治性のアトピー性皮膚炎から高 IgE 症候群と診断した一例. 第 283 回日本小児科学会兵庫県地方会, ZOOM 開催, 2021.5.15
3. 福田明子, 大竹正悟, 木村 誠, 夏木 茜, 石田明人, 笠井正志: 急患センターにおける経口広域抗菌薬採用中止から見えた狭域抗菌薬適正使用の課題. 第 283 回日本小児科学会兵庫県地方会, Zoom 開催, 2021.5.15
4. 小林由典, 伊藤晋一郎, 鶴田 悟: 神戸市立医療センター中央市民病院 当院でのピガバトリン投与例における網膜電図検査実施時の鎮静方法の変遷について. 第 63 回日本小児神経学会学術集会, WEB 開催, 2021.5.27
5. 堀野智史, 平瀬敏志, 小池由美, 貝沼圭吾, 安富素子, 杉山晃子, 服部希世子, 中森知毅, 平山修久, 木作尚子, 岡藤郁夫, 長岡 徹, 伊藤靖典, 三浦克志, 藤澤隆夫, 小林茂俊: 行政における災害時の「アレルギー疾患対応の経験」に関するアンケート調査. 第 70 回日本アレルギー学会学術大会, 横浜, ハイブリッド開催, 2021.10.8
6. 李 崇至, 岡藤郁夫, 奥立大樹, 大岩香梨, 伊藤 環, 鶴田 悟: 加熱全卵粉末を用いた食物負荷試験について. 第 70 回日本アレルギー学会学術大会, 横浜, ハイブリッド開催, 2021.10.9
7. 高岡有理, 前田晃宏, 中農昌子, 平口雪子, 濱田匡章, 竹村 豊, 川上智子, 岡藤郁夫, 高橋享子, 亀田 誠: COVID-19 流行下における緊急事態宣言がアレルギー疾患に与えた影響についてのアンケート調査. 第 58 回日本小児アレルギー学会学術大会, 横浜, ハイブリッド開催, 2021.11.13
8. 山根徹也, 田中 悠, 木村 碧, 中田 悠, 二宮 涼, 李 崇至, 奥立大樹, 伊藤 環, 林 賢, 青田千恵, 山本 茜, 宮越千智, 小林由典, 菅原勝美, 岡藤郁夫, 鶴田 悟: 黒色便から IgA 血管炎と診断した一例. 第 285 回日本小児科学会兵庫県地方会, Zoom 開催, 2022.2.5
9. 木村 碧, 鶴田 悟, 山根徹也, 二宮 涼, 李 崇至, 田中 悠, 青田千恵, 宮越千智, 小林由典, 岡藤郁夫: ダニおよびスギ花粉に対する舌下免疫療法との関連が疑われた好酸球性食道炎の 1 例. 第 35 回近畿小児科学会, オンライン開催, 2022.2.27
10. 林 賢, 田中敏克, 三木康暢, 松岡道生, 亀井直哉, 小川禎治, 富永健太, 城戸佐知子, 鶴田 悟: 血栓弁に対して組織プラスミノゲン活性化因子 (t-PA) が奏功した 4 小児例. 第 49 回日本集中治療医学会学術集会, WEB 開催, 2022.3.18

## IX. 1. 13 皮膚科

1. 那須 愛, 塩入桃子, 望月亮佐, 田井志正, 小倉香奈子, 長野 徹: 良性対称性脂肪腫症の 1 例. 日本皮膚科学会第 485 回大阪地方会, WEB 開催, 2021.5.22
2. 望月亮佐, 那須 愛, 中村 彩, 小坂博志, 田井志正, 長野 徹: Vertebral vein system を介した脳転移が生じたと考えられた乳房外 Paget 癌の 1 例. 第 120 回日本皮膚科学会総会, 横浜, ハイブリッド開催, 2021.6.10
3. 田中彰浩, 那須 愛, 望月亮佐, 古岡慶子, 中村 彩, 藤井翔太郎, 長野 徹: 血管拡張性肉芽腫様外観を呈した爪下外骨腫の 1 例. 第 120 回日本皮膚科学会総会, 横浜, ハイブリッド開催, 2021.6.11
4. 那須 愛, 望月亮佐, 中村 彩, 田井志正, 長野 徹, 田中彰浩: 偏食による壊血病の 1 例. 第 120 回日本皮膚科学会総会, 横浜, ハイブリッド開催, 2021.6.12
5. 望月亮佐, 那須 愛, 中村 彩, 田井志正, 長野 徹: 転移性乳房外 Paget 癌に対して化学療法を施行した 3 例. 第 37 回日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会, 松本, ハイブリッド開催, 2021.7.9
6. 塩入桃子, 那須 愛, 望月亮佐, 田井志正, 小倉香奈子, 長野 徹, 中村 彩: コチニール色素による I 型アレルギーの 1 例. 第 114 回近畿皮膚科集談会, WEB 開催, 2021.7.11
7. 塩入桃子, 那須 愛, 望月亮佐, 田井志正, 小倉香奈子, 長野 徹: 皮膚浸潤を生じた多発性骨髄腫の 1 例. 日本皮膚科学会第 487 回大阪地方大会, WEB 開催, 2021.10.2
8. 塩入桃子, 那須 愛, 望月亮佐, 田井志正, 小倉香奈子, 長野 徹: レナリドミドによる血管性浮腫の 1 例. 第 72 回日本皮膚科学会中部支部学術大会, 奈良, 2021.11.20
9. 那須 愛, 塩入桃子, 望月亮佐, 田井志正, 小倉香奈子, 長野 徹: 治療に難渋したアパルタミドによる薬剤性過敏症候群の 1 例. 第 72 回日本皮膚科学会中部支部学術大会, 奈良, 2021.11.21



10. 田井志正, 塩入桃子, 那須 愛, 望月亮佐, 小倉香奈子, 長野 徹: 後頭部に巨大嚢腫を呈した高 IgE 血症の 1 例. 第 51 回日本皮膚免疫アレルギー学会総会学術大会, 横浜, 2021.11.26
11. 那須 愛, 塩入桃子, 望月亮佐, 田井志正, 小倉香奈子, 長野 徹: 皮膚筋炎様の非定型疹を伴った成人 Still 病の一例. 第 51 回日本皮膚免疫アレルギー学会総会学術大会, 横浜, 2021.11.27
12. 塩入桃子, 那須 愛, 望月亮佐, 田井志正, 小倉香奈子, 長野 徹: 連環状秕糠疹の 1 例. 日本皮膚科学会第 489 回大阪地方会, WEB 開催, 2022.2.5
13. 望月亮佐, 塩入桃子, 長尾 愛, 田井志正, 小倉香奈子, 長野 徹: Tazobactam/piperacillin による接触蕁麻疹症候群の 1 例. 日本皮膚科学会第 490 回大阪地方会, WEB 開催, 2022.3.5

#### IX. 1. 14 外科・移植外科

1. 喜多亮介, 松田正太郎, 河原林卓馬, 鷺見季彦, 岩城謙太郎, 大嶋野歩, 北村好史, 近藤正人, 橋田裕毅, 瓜生原健嗣, 小林裕之, 貝原 聡: 膵臓癌に対する EUS での腫瘍径の術前評価に対する検討. 第 121 回日本外科学会定期学術集会, Web 開催, 2021.4.8
2. 橋田裕毅, 喜多亮介, 大嶋野歩, 北村好史, 近藤正人, 瓜生原健嗣, 小林裕之, 貝原 聡: 超高齢者大腸癌に対する腹腔鏡下大腸手術の有用性. 第 121 回日本外科学会定期学術集会, Web 開催, 2021.4.10
3. 岩城謙太郎, 貝原 聡, 松田正太郎, 鷺見季彦, 河原林卓馬, 神部宏幸, 原田樹幸, 山下徳之, 喜多亮介, 北村好史, 大嶋野歩, 近藤正人, 橋田裕毅, 小林裕之, 瓜生原健嗣: RAS 遺伝子変異の大腸癌肝転移切除後肝局所再発への影響. 第 121 回日本外科学会定期学術集会, Web 開催, 2021.4.10
4. 岩城謙太郎, 貝原 聡, 北村好史, 瓜生原健嗣: Pancreaticoduodenectomy for pancreatic head cancer with celiac artery compression by median arcuate ligament; report of two cases. 第 33 回日本肝胆膵外科学会学術集会, WEB 開催, 2021.6.2-3
5. 北村好史, 貝原 聡, 岩城謙太郎, 喜多亮介, 瓜生原健嗣: Outcomes and prognostic factors in patients with peripheral mass-forming type of intrahepatic cholangiocarcinoma. 第 33 回日本肝胆膵外科学会学術集会, WEB 開催, 2021.6.2-3
6. Hashida H, Satake H, Tanioka H, Mityake Y, Yoshioka S, Watanabe T, Matsuura M, Kyogoku T, Inukai M, Kotake T, Okita Y, Hatachi Y, Yasui H, Kotaka M, Kato T, Kaihara S, Tsuji A: Final results of hepatectomy followed by adjuvant chemotherapy with 3-month capecitabine plus oxaliplatin for colorectal cancer liver metastases: a multicenter phase 2 study. ESMO World GI 2021, Web, 2021.6.30-7.3
7. 小林裕之, 近藤正人, 大嶋野歩, 喜多亮介, 岩城謙太郎, 神部宏幸, 河原林卓馬, 鷺見季彦, 松田正太郎, 貝原 聡: Esophageal cancer surgery to prevent recurrent nerve palsy based on neural monitoring findings. 第 76 回日本消化器外科学会総会, 京都, ハイブリッド開催, 2021.7.8
8. 近藤正人, 松田正太郎, 河原林卓馬, 鷺見季彦, 岩城謙太郎, 喜多亮介, 大嶋野歩, 北村好史, 小林裕之, 瓜生原健嗣, 貝原 聡: The future in transition for robotic surgery in gastric cancer. 第 76 回日本消化器外科学会総会, 京都, ハイブリッド開催, 2021.7.8
9. 橋田裕毅, 近藤正人, 喜多亮介, 岩城謙太郎, 大嶋野歩, 河原林卓馬, 鷺見季彦, 松田正太郎, 小林裕之, 貝原 聡: 脾彎曲部結腸癌に対する 4 方向アプローチによる腹腔鏡手術の定型化. 第 76 回日本消化器外科学会総会, 京都, ハイブリッド開催, 2021.7.8
10. 喜多亮介, 中尾 海, 中野辰哉, 松田正太郎, 河原林卓馬, 岩城謙太郎, 大嶋野歩, 北村好史, 近藤正人, 橋田裕毅, 瓜生原健嗣, 小林裕之, 貝原 聡: Introduction of laparoscopic distal pancreatectomy for pancreatic ductal adenocarcinoma and innovations in the surgical field development. 第 76 回日本消化器外科学会総会, 京都, ハイブリッド開催, 2021.7.8
11. 岩城謙太郎, 貝原 聡, 松田正太郎, 鷺見季彦, 河原林卓馬, 神部宏幸, 原田樹幸, 山下徳之, 喜多亮介, 北村好史, 大嶋野歩, 近藤正人, 橋田裕毅, 小林裕之, 瓜生原健嗣: Appropriate Resection of Colorectal Liver Metastasis Based on the RAS Mutation. 第 76 回日本消化器外科学会総会, 京都, ハイブリッド開催, 2021.7.9
12. 河原林卓馬, 小林裕之, 中野辰哉, 中尾 海, 松田正太郎, 鷺見季彦, 岩城謙太郎, 喜多亮介, 大嶋野歩, 北村好史, 近藤正人, 橋田裕毅, 瓜生原健嗣, 貝原 聡: Does intravenous glucagon injection reduce postoperative anastomotic leakage for esophageal cancer? 第 76 回日本消化器外科学会総会, 京都, ハイブリッド開催, 2021.7.9

13. 松田正太郎, 橋田裕毅, 河原林卓馬, 鷺見季彦, 岩城謙太郎, 喜多亮介, 大嶋野歩, 近藤正人, 貝原 聡 : 直腸脱に対する腹腔鏡下直腸固定術 (Wells 変法). 第 76 回日本消化器外科学会総会, 京都, ハイブリッド開催, 2021.7.9
14. 岩城謙太郎, 北村好史, 中尾 海, 中野辰哉, 松田正太郎, 鷺見季彦, 花畑祐輔, 喜多亮介, 大嶋野歩, 近藤正人, 橋田裕毅, 小林裕之, 瓜生原健嗣, 貝原 聡 : 胃切除既往を有する患者に対する腓体尾部切除後の残胃血流障害の経験. 第 48 回日本痔切研究会, Web 開催, 2021.8.27
15. 喜多亮介, 岩城謙太郎, 北村好史, 近藤正人, 瓜生原健嗣, 貝原 聡 : 腓癌に対する腹腔鏡下尾側腓切除術の導入と治療成績. 第 48 回日本痔切研究会, Web 開催, 2021.8.27-28
16. 小林裕之, 松田正太郎, 岩城謙太郎, 吉田一史, 小山忠明, 貝原 聡 : ECMO 導入下に食道切除を施行した大動脈食道瘻の一例. 第 75 回日本食道学会学術集会, 東京, ハイブリッド開催, 2021.9.23-24
17. Kita R, Kobayashi H, Kondo M, Kaihara S : Efficacy of gastric tube extension by glucagon administration in esophagectomy. 第 75 回日本食道学会学術集会, 東京, ハイブリッド開催, 2021.9.24
18. 小林裕之, 岩城謙太郎, 鷺見季彦, 花畑祐輔, 松田正太郎, 中尾 海, 中野辰哉, 瓜生原健嗣, 橋田裕毅, 近藤正人, 大嶋野歩, 北村好史, 喜多亮介, 貝原 聡 : 反回神経麻痺のない食道癌上縦隔リンパ節郭清手技. 第 34 回近畿内視鏡外科研究会, web 開催, 2021.9.25
19. 橋田裕毅, 大嶋野歩, 松田正太郎, 鷺見季彦, 河原林卓馬, 岩城謙太郎, 喜多亮介, 北村好史, 近藤正人, 瓜生原健嗣, 小林裕之, 貝原 聡 : 超高齢者大腸癌に対する外科治療. 第 19 回日本消化器外科学会大会 (JDDW), 神戸, ハイブリッド開催, 2021.11.4-7
20. 近藤正人, 喜多亮介, 小林裕之, 貝原 聡 : 高齢者胃癌に対する術式選択の工夫と周術期メディカルスタッフとの連携. 第 51 回胃外科・術後障害研究会, Web 開催, 2021.11.11-12
21. 橋田裕毅, 大嶋野歩, 近藤正人, 喜多亮介, 小林裕之, 貝原 聡 : 超高齢者大腸癌に対する腹腔鏡手術の有用性. 第 76 回日本大腸肛門病学会学術集会, 広島, ハイブリッド開催, 2021.11.12
22. 岩城謙太郎, 中尾 海, 中野辰哉, 喜多亮介, 貝原 聡 : 大腸癌肝転移に対する肝切除の至適術式を探る～腫瘍に接するグリソンと肝静脈の温存に注目して～. 第 83 回日本臨床外科学会総会, 東京, ハイブリッド開催, 2021.11.18
23. 喜多亮介, 中尾 海, 中野辰哉, 松田正太郎, 河原林卓馬, 岩城謙太郎, 大嶋野歩, 北村好史, 近藤正人, 橋田裕毅, 瓜生原健嗣, 小林裕之, 貝原 聡 : 教育の立場に立ち始めた若手外科医からの教育に対する提言. 第 83 回日本臨床外科学会総会, 東京, ハイブリッド開催, 2021.11.18-20
24. 中尾 海, 喜多亮介, 中野辰哉, 松田正太郎, 鷺見季彦, 花畑祐輔, 岩城謙太郎, 大嶋野歩, 北村好史, 近藤正人, 橋田裕毅, 瓜生原健嗣, 小林裕之, 貝原 聡, 清水祐里, 原 重雄 : S 状結腸癌術後にリンパ節転移を伴う小腸転移を来した 1 例. 第 83 回日本臨床外科学会総会, 東京, ハイブリッド開催, 2021.11.18-20
25. 喜多亮介, 水本素子, 貝原 聡 : 緊急手術症例に対するパス適応の妥当性に関する検討. 第 21 回日本クリニカルパス学会学術集会, 山形, ハイブリッド開催, 2021.11.26-27
26. 岩城謙太郎, 北村好史, 中尾 海, 中野辰哉, 松田正太郎, 鷺見季彦, 花畑祐輔, 喜多亮介, 大嶋野歩, 近藤正人, 橋田裕毅, 小林裕之, 瓜生原健嗣, 貝原 聡 : 腹腔鏡下大腸・肝同時切除術の手術の工夫と成績. 第 34 回日本内視鏡外科学会総会, 神戸, ハイブリッド開催, 2021.12.3
27. 喜多亮介, 中尾 海, 中野辰哉, 松田正太郎, 河原林卓馬, 岩城謙太郎, 大嶋野歩, 北村好史, 近藤正人, 橋田裕毅, 瓜生原健嗣, 小林裕之, 貝原 聡 : 結腸体腔似吻合の導入とその短期治療成績. 第 34 回日本内視鏡外科学会総会, 神戸, ハイブリッド開催, 2021.12.3
28. 小林裕之, 近藤正人, 喜多亮介, 河原林卓馬, 鷺見季彦, 花畑祐輔, 松田正太郎, 中尾 海, 中野辰哉, 瓜生原健嗣, 橋田裕毅, 北村好史, 大嶋野歩, 岩城謙太郎, 貝原 聡 : 当院でのロボット支援食道切除術の定型化と短期治療成績. 第 34 回日本内視鏡外科学会総会, 神戸, ハイブリッド開催, 2021.12.3
29. 近藤正人, 中野辰哉, 中尾 海, 松田正太郎, 鷺見季彦, 河原林卓馬, 岩城謙太郎, 喜多亮介, 大嶋野歩, 北村好史, 橋田裕毅, 瓜生原健嗣, 小林裕之, 貝原 聡 : ロボット消化管手術における外科専攻医の教育意欲向上の維持をいかにはかるか. 第 34 回日本内視鏡外科学会総会, 神戸, ハイブリッド開催, 2021.12.3
30. 中尾 海, 喜多亮介, 中野辰哉, 松田正太郎, 鷺見季彦, 花畑祐輔, 岩城謙太郎, 大嶋野歩, 北村好史, 近藤正人, 橋田裕毅, 瓜生原健嗣, 小林裕之, 貝原 聡 : 左側大腸癌イレウスに対する bridge to surgery のための減圧法の検討. 第 34 回日本内視鏡外科学会総会, 神戸, ハイブリッド開催, 2021.12.3

31. 橋田裕毅, 大嶋野歩, 松田正太郎, 河原林卓馬, 鷺見季彦, 岩城謙太郎, 喜多亮介, 近藤正人, 小林裕之, 貝原 聡: 脾彎曲部結腸癌に対する内側アプローチを中心とした腹腔鏡下左側結腸切除術. 第 34 回日本内視鏡外科学会総会, 神戸, ハイブリッド開催, 2021.12.3
32. 松田正太郎, 喜多亮介, 河原林卓馬, 鷺見季彦, 岩城謙太郎, 大嶋野歩, 北村好史, 近藤正人, 橋田裕毅, 瓜生原健嗣, 小林裕之, 貝原 聡: 膵癌に対する腹腔鏡下尾側膵切除術の導入と短期治療成績. 第 34 回日本内視鏡外科学会総会, 神戸, ハイブリッド開催, 2021.12.4

#### IX. 1. 15 乳腺外科

1. 中村有輝, 高田正泰, 今村美智子, 樋上明音, 何 佳曦, 藤野麻琴, 中川梨恵, 稲垣有希子, 松本純明, 河口浩介, 川島雅央, 鈴木栄治, 戸井雅和: Medical Imaging Projection System を用いた乳癌センチネルリンパ節生検の有用性. 第 59 回日本癌治療学会学術集会, 横浜, ハイブリッド開催, 2021.10.22

#### IX. 1. 16 心臓血管外科

1. 堀 祥昌, 鎌田賢昇, 若見達人, 吉田壮志, 吉田一史, 中村 健, 石上雅之助, 坪田秀樹, 小山忠明: 創部感染リスクの高い接合部型表皮水疱症患者に右小開胸完全内視鏡下僧帽弁形成術・大動脈弁置換術 (PERCEVAL) を施行した一例. 第 64 回関西胸部外科学会学術集会, WEB 開催, 2021.6.17-19
2. 若見達人, 鎌田賢昇, 堀 祥昌, 吉田壮志, 吉田一史, 中村 健, 石上雅之助, 坪田秀樹, 小山忠明: 妊娠 30 週で発症した急性 A 型大動脈解離に対し緊急帝王切開、子宮全摘に引き続いて人工血管置換術を行い母子共に救命し得た 1 手術例. 第 131 回日本循環器学会近畿地方会, Web 開催, 2021.7.3
3. 堀 祥昌, 鎌田賢昇, 若見達人, 吉田壮志, 吉田一史, 中村 健, 石上雅之助, 坪田秀樹, 小山忠明: 胸腹部大動脈置換術施行後の脊髄梗塞に対し、高灌流圧維持中に PRES (posterior reversible encephalopathy syndrome: 可逆性後頭葉白質脳症) を発症し、血圧管理に難渋した一例. 第 131 回日本循環器学会近畿地方会, Web 開催, 2021.7.3
4. 吉田一史, 堀 祥昌, 若見達人, 吉田壮志, 小泉滋樹, 中村 健, 坪田秀樹, 石上雅之助, 小山忠明: 低左心機能 (EF<35%) 症例に対する OPCAB の治療成績. 第 26 回日本冠動脈外科学会学術大会, 山口, ハイブリッド開催, 2021.7.15-16
5. 坪田秀樹, 堀 祥昌, 若見達人, 吉田壮志, 吉田一史, 小泉滋樹, 中村 健, 石上雅之助, 小山忠明: 遊離グラフトとしての右胃大網動脈: in situ graft との比較. 第 26 回日本冠動脈外科学会学術大会, 山口, ハイブリッド開催, 2021.7.15
6. 若見達人, 鎌田賢昇, 堀 祥昌, 吉田壮志, 吉田一史, 中村 健, 石上雅之助, 坪田秀樹, 小山忠明: EF10% の急性心不全に対し冠動脈バイパス術、ELIET、左室からの chordal cutting を行い著しい臨床症状の改善が得られた 1 手術症例. 第 26 回日本冠動脈外科学会学術大会, 山口, ハイブリッド開催, 2021.7.15
7. 吉田一史, 堀 祥昌, 若見達人, 吉田壮志, 小泉滋樹, 中村 健, 坪田秀樹, 石上雅之助, 小山忠明: 低左心機能 (EF<35%) 症例に対する OPCAB と ONCAB の遠隔成績. 第 74 回日本胸部外科学会定期学術集会, 東京, 2021.10.31-11.3
8. 坪田秀樹, 堀 祥昌, 若見達人, 吉田壮志, 吉田一史, 小泉滋樹, 中村 健, 塩見紘樹, 石上雅之助, 森本 剛, 木村 剛, 小山忠明: 左冠動脈領域に吻合した右内胸動脈グラフトと橈骨動脈グラフトの遠隔成績: CREDO - Kyoto registry Cohort 3 より. 第 74 回日本胸部外科学会定期学術集会, 東京, 2021.11.1
9. 小山忠明, 鎌田賢昇, 堀 祥昌, 若見達人, 吉田壮志, 吉田一史, 中村 健, 石上雅之助, 坪田秀樹: オフポンプバイパスを第一選択とする戦略での On pump beating CABG の位置付け. 第 74 回日本胸部外科学会定期学術集会, 東京, 2021.11.2
10. 石上雅之助, 鎌田賢昇, 堀 祥昌, 若見達人, 吉田壮志, 吉田一史, 中村 健, 坪田秀樹, 小山忠明: 機能的僧帽弁逆流に対する自己心膜による後尖拡大を用いた僧帽弁形成術の中期遠隔成績. 第 52 回日本心臓血管外科学会学術総会, 横浜, ハイブリッド開催, 2022.3.3
11. 吉田一史, 鎌田賢昇, 堀 祥昌, 若見達人, 吉田壮志, 中村 健, 坪田秀樹, 石上雅之助, 小山忠明: 心房性機能的僧帽弁閉鎖不全症において僧帽弁輪形成術のみで長期の逆流制御は可能か. 第 52 回日本心臓血管外科学会学術総会, 横浜, ハイブリッド開催, 2022.3.4

12. 小山忠明, 鎌田賢昇, 堀 祥昌, 若見達人, 吉田壮志, 吉田一史, 中村 健, 石上雅之助, 坪田秀樹: 真性胸部大動脈瘤に対する Frozen elephant trunk を用いた弓部置換の優位性と注意点. 第 52 回日本心臓血管外科学会学術総会, 横浜, ハイブリッド開催, 2022.3.4
13. 堀 祥昌, 鎌田賢昇, 若見達人, 吉田壮志, 吉田一史, 中村 健, 石上雅之助, 坪田秀樹, 小山忠明: 馬蹄腎を合併した腹部大動脈瘤に対する EVAR の一例. 第 35 回日本血管外科学会近畿地方会, Web 開催, 2022.3.21

#### IX. 1. 17 呼吸器外科

1. 甲 貴文, 浜川博司, 印藤貴士, 宍戸 裕, 原 重雄, 高橋 豊: 胸腔内穿破を来した縦隔奇形種の 3 例. 第 38 回日本呼吸器外科学会学術集会, 長崎, ハイブリッド開催, 2021.5.20
2. 浜川博司: Uniportal VATS は、標準術式になり得るか? 第 38 回日本呼吸器外科学会学術集会, 長崎, ハイブリッド開催, 2021.5.20
3. 嶋田有里, 平林亮介, 貴志亮太, 田代隼基, 岩林正明, 遠藤 慧, 世利佳滉, 島 佑介, 白川千種, 佐藤悠城, 永田一真, 中川 淳, 立川 良, 甲 貴文, 川端智也, 黒田浩一, 高橋 豊, 片岡和哉, 富井啓介: 内科的、外科的加療でコントロールできた CAM 耐性の MAC 症による胸膜炎、皮下膿瘍の一例. 第 128 回日本結核・非結核性抗酸菌症学会近畿支部学会 第 98 回日本呼吸器学会近畿地方会 合同学会, WEB 開催, 2021.12.11
4. 甲 貴文, 高山昌和, 鉄本啓介, 齊藤正男, 浜川博司, 清水祐里, 原 重雄, 高橋 豊: COVID-19 関連間質性肺炎に合併した続発性気胸の 1 例. 第 128 回日本結核・非結核性抗酸菌症学会近畿支部学会 第 98 回日本呼吸器学会近畿地方会 合同学会, WEB 開催, 2021.12.11
5. 甲 貴文, 瀬尾龍太郎, 山下大祐, 原 重雄, 富井啓介, 高山昌和, 鉄本啓介, 齊藤正男, 浜川博司, 高橋 豊: 重症 COVID-19 症例における圧傷害 (barotrauma) の臨床的意義. 第 50 回京都大学呼吸器外科教室同門会冬期研究会, 京都, 2022.2.19
6. 高山昌和, 浜川博司, 鉄本啓介, 甲 貴文, 斎藤正男, 高橋 豊, 中川 敦, 清水祐里, 原 重雄: 免疫チェックポイント阻害薬を含む化学放射線療法後に再度増大を来した肺癌原発巣に手術を行った一例. 第 115 回日本肺癌学会関西支部学術集会, オンライン開催, 2022.3.5

#### IX. 1. 18 脳神経外科

1. 今村博敏, 坂井信幸: (特別講演) Pipeline の経験 @KCGH. Pipeline Shield user' s Meeting, 神戸, 2021.4.16
2. 後藤正憲: 大動脈解離による総頸動脈閉塞に対して急性期血行再建術を行った 3 例. 第 8 回日本心血管脳卒中学会学術集会, 吹田, ハイブリッド開催, 2021.4.17
3. 重安将志: 脳血管領域での血小板機能検査. 第 8 回日本心血管脳卒中学会学術集会, 吹田, ハイブリッド開催, 2021.4.17
4. 坂井信幸, 今村博敏, 後藤正憲, 福光 龍, 春原 匡, 松本 調, 福井伸行, 呉 浩一: (特別講演) Pipeline Emolization Device- 最新の知見と経験. Flow Diverter Web Conferende in Ehime, 松山, 2021.4.21
5. IMAMURA H, SAKAI N: (レクチャー) PulseRider Assisted Coil Embolization. PulseRider Roundtable, WEB 開催, 2021.4.22
6. 坂井信幸, 坂井千秋, 松丸祐司, 大石英則, 根木宏明, 神山信也, 滝川知司, 小林繁樹, 石井 暁, 今村博敏: 新たな治療デバイス導入で可能となる脳動脈瘤治療. 第 30 回脳神経外科手術と機器学会 (CNTT2021), WEB 開催, 2021.4.23
7. 坂井信幸: (特別講演) Target10 周年、コイル塞栓術の歩みと今後の展望. Target 10 years Anniversary Webinar, WEB 開催, 2021.4.26
8. 今村博敏, 尾原信行, 川本未知, 坂井信幸: (講演) COVID-19 と脳卒中診療. KCGH STROKE フォーラム 2021, 神戸, 2021.4.27
9. 坂井信幸, 今村博敏, 小柳正臣, 後藤正憲, 福光 龍, 春原 匡, 福井伸行, 高野裕樹, 春山裕典, 尾原信行, 藤原 悟, 前川嵩太, 高杉純司: Penumbra System for treatment of neurovascular occlusions. JET2021, 大阪, WEB 開催, 2021.5.1

10. 今村博敏, 坂井信幸 : (特別講演) 私の考えるコイル塞栓術の歩みと現在. BASICS + plus, WEB 開催, 2021.5.7
11. 今村博敏, 小柳正臣, 後藤正憲, 福光 龍, 春原 匡, 福井伸行, 高野裕樹, 呉 浩一, 春山裕典, 梶浦晋司, 重安将志, 寺西匡邦, 朝倉健登, 堀井 亮, 棕本悠嗣, 西井陸大, 山元康弘, 坂井千秋, 坂井信幸 : PulseRider を活かすコイル塞栓テクニック. 第 41 回日本脳神経外科コンgres総会, 横浜, WEB 開催, 2021.5.16
12. 今村博敏, 坂井信幸 : (講演) 最新の脳卒中治療について. 興和株式会社 社内研修会, 神戸, 2021.5.17
13. Sakai N, Imamura H, Sakai C, Koyanagi M, Goto M, Fukumitsu R, Sunohara T, Fukui N, Takano H, Haruyama H : Flow diverter treatment for recurrence after stent assisted coil embolization of intracranial aneurysms. 5th Bi-Neurovascular Symposium, Busan, WEB, 2021.5.29
14. 呉 浩一, 後藤正憲, 今村博敏, 小柳正臣, 福光 龍, 春原 匡, 福井伸行, 高野裕樹, 春山裕典, 梶浦晋司, 重安将志, 寺西邦匡, 堀井 亮, 朝倉健登, 棕本悠嗣, 山元康弘, 西井陸大, 川出智大, 坂井千秋, 坂井信幸 : (オーラル) COVID-19 と脳卒中診療. 5 病院合同カンファレンス, 神戸, WEB 開催, 2021.5.31
15. 坂井信幸 : (講演) 我が国の CAS 承認前からこれまでの歩み、今後 CAS をどう活用するか. Cordis/ Cardinal Health WEBINAR, WEB 開催, 2021.6.17
16. Sakai N, Imamura H, Ohara N, Sakai C, Minematsu K, Hasegawa Y, Hyodo A, Iihara K, Ogasawara K : (レクチャー) Intracranial artery Stenosis : Japan Wingspan PMS 1 year study. 10th Pujiang Conference of Cerebral Vascular Disease, Shanghai, WEB, 2021.6.18
17. 今村博敏, 小柳正臣, 後藤正憲, 尾原信行, 福光 龍, 春原 匡, 福井伸行, 高野裕樹, 高杉純司, 藤原 悟, 前川嵩太, 呉 浩一, 春山裕典, 梶浦晋司, 重安将志, 寺西邦匡, 朝倉健登, 堀井 亮, 棕本悠嗣, 西井陸大, 山元康弘, 川出智大, 坂井信幸 : EmboVac 登場! Embo Family に加わる新たな選択肢. 脳血管内治療ブラッシュアップセミナー 2021, 神戸, WEB 開催, 2021.6.25
18. 坂井信幸, 今村博敏, 坂井千秋, 後藤正憲, 福光 龍, 春原 匡, 松本 調, 福井伸行, 大村佳大, 秋山智明, 福田竜丸, 梶浦晋司, 重安将志, 朝倉健登, 堀井 亮, 棕本悠嗣, 西井陸大, 山元康弘, 尾原信行, 藤原 悟, 村上泰隆, 前川嵩太, 石山浩之, 黒田建仁, CASPER 治験関係者 : 無症候性頸動脈狭窄症に対するステント留置術 (新デバイス CASPER の紹介も含めて). 第 30 回日本脳ドック学会総会, 伊勢, WEB 開催, 2021.6.26
19. 坂井信幸, 石井 暁, 大石英則, 清末一路, 佐藤 徹, 中瀬裕之, 東登志夫, 藤中俊之, 松丸祐司, 三村秀文, 今村博敏, 坂井千秋 : 脳神経領域における NBCA の承認と適正使用指針について. 第 27 回日本血管内治療学会学術総会, 大阪, ハイブリッド開催, 2021.7.10
20. 今村博敏, 坂井信幸 : (講師) PulseRider 研修会. PulseRider 研修会, 横浜, 2021.7.11
21. 重安将志 : (オーラル) くも膜下出血に合併したたこつぼ型心筋症、急性心筋梗塞に関する検討. 循環器合同カンファレンス, 神戸, 2021.7.14
22. 今村博敏, 小柳正臣, 後藤正憲, 福光 龍, 春原 匡, 福井伸行, 高野裕樹, 呉 浩一, 春山裕典, 梶浦晋司, 重安将志, 寺西邦匡, 朝倉健登, 堀井 亮, 棕本悠嗣, 西井陸大, 山元康弘, 川出智大, 坂井千秋, 坂井信幸 : (講演) Stent,FD の活用は IC-Pcom 瘤の治療成績を向上させるか? 脳血管外科フォーラム 2021 Summer, 吹田, WEB 開催, 2021.7.23
23. 今村博敏, 坂井信幸 : (シンポジウム) 62F lt. IC-CS aneurysm. NVCV Summer Forum 2021, 吹田, 2021.7.23
24. 坂井信幸 : (ランチョンセミナー) 脳卒中治療医のキャリアパスとしての脳血管内治療専門医制度. 脳血管外科フォーラム 2021 Summer, 吹田, ハイブリッド開催, 2021.7.23
25. 後藤正憲, 今村博敏, 小柳正臣, 福光 龍, 春原 匡, 福井伸行, 高野裕樹, 呉 浩一, 春山裕典, 梶浦晋司, 重安将志, 寺西邦匡, 朝倉健登, 堀井 亮, 棕本悠嗣, 西井陸大, 山元康弘, 川出智大, 坂井千秋, 坂井信幸 : (オーラル) 破裂前交通動脈瘤の治療. 第 1 回西日本エリア脳血管内治療研究会, WEB 開催, 2021.7.26
26. 寺西邦匡, 今村博敏, 後藤正憲, 福光 龍, 小柳正臣, 春原 匡, 福井伸行, 高野裕樹, 呉 浩一, 春山裕典, 梶浦晋司, 重安将志, 堀井 亮, 朝倉健登, 棕本悠嗣, 山元康弘, 西井陸大, 川出智大, 坂井千秋, 坂井信幸 : (オーラル) 当院でのペランパネル使用経験. 脳神経外科セミナー in 兵庫, WEB 開催, 2021.7.30
27. 今村博敏, 坂井信幸 : (レクチャー) 動脈瘤 2. BSNET-TC 2021, WEB 開催, 2021.7.31
28. 坂井信幸, 今村博敏, 小柳正臣, 後藤正憲, 福光 龍, 春原 匡, 福井伸行, 高野裕樹, 春山裕典, 呉 浩一, 梶浦晋司, 重安将志, 朝倉健登, 堀井 亮, 棕本悠嗣, 西井陸大, 山元康弘, 寺西邦匡, 川出智大, 坂井千秋, 尾原信行, 藤原 悟, 前川嵩太 : (特別講演) Tron FX の開発の経緯と今後の展望. 第 2 回日本脳神経内科血管治療研究会学術集会, 大阪, 2021.8.22

29. 坂井信幸, 今村博敏, 小柳正臣, 後藤正憲, 福光 龍, 春原 匡, 福井伸行, 高野裕樹, 春山裕典, 吳 浩一, 梶浦晋司, 重安将志, 朝倉健登, 堀井 亮, 椛本悠嗣, 西井陸大, 山元康弘, 寺西邦匡, 川出智大, 坂井千秋, 尾原信行, 藤原 悟, 前川嵩太, 飯原弘二, 小笠原邦昭, 長谷川泰弘, 兵頭明夫, 峰松一夫: 頭蓋内動脈狭窄における脳血管内治療: up date. 第 39 回 The Mt.Fuji Workshop on CVD, 仙台, WEB 開催, 2021.8.28
30. 今村博敏, 小柳正臣, 後藤正憲, 福光 龍, 春原 匡, 福井伸行, 高野裕樹, 吳 浩一, 春山裕典, 梶浦晋司, 重安将志, 寺西邦匡, 朝倉健登, 堀井 亮, 椛本悠嗣, 西井陸大, 山元康弘, 川出智大, 坂井千秋, 坂井信幸: (セミナー) コイルで治療すべき動脈瘤症例. Neurosurgery Kinki 2021 Autumn Meeting, WEB 開催, 2021.9.4
31. 今村博敏, 小柳正臣, 後藤正憲, 福光 龍, 春原 匡, 福井伸行, 高野裕樹, 吳 浩一, 春山裕典, 梶浦晋司, 重安将志, 寺西邦匡, 朝倉健登, 堀井 亮, 椛本悠嗣, 西井陸大, 山元康弘, 川出智大, 坂井千秋, 坂井信幸: (オーラル) 血管内治療の新しい adjunctive technique. Neurosurgery Kinki 2021 Autumn Meeting, WEB 開催, 2021.9.4
32. 今村博敏, 坂井信幸: (特別講演) Hybrid OR を使用した one-stop hemorrhagic stroke management. Expert Web Seminar in 旭川, 旭川, 2021.10.5
33. 今村博敏: (パネラー) 「Venture」の使用経験. マイクロガイドワイヤ「Venture」座談会, 神戸, 2021.10.9
34. 今村博敏, 坂井信幸: (レクチャー) CERENOVUS Hands-on Seminar. CERENOVUS Hands-on Seminar, 横浜, 2021.10.10
35. 今村博敏, 坂井信幸: (講師) 脳動脈瘤の診断・治療. 第一三共株式会社 社内研修, 神戸, 2021.10.13
36. 今村博敏, 小柳正臣, 後藤正憲, 福光 龍, 春原 匡, 福井伸行, 高野裕樹, 吳 浩一, 春山裕典, 梶浦晋司, 重安将志, 寺西邦匡, 朝倉健登, 堀井 亮, 椛本悠嗣, 西井陸大, 山元康弘, 川出智大, 坂井千秋, 坂井信幸: (特別講演) Azurion での動脈瘤治療. Philips Neuro Suite Users Summit 2021, 大阪, 2021.10.16
37. 後藤正憲, 今村博敏, 小柳正臣, 福光 龍, 春原 匡, 福井伸行, 高野裕樹, 吳 浩一, 春山裕典, 梶浦晋司, 重安将志, 寺西邦匡, 朝倉健登, 堀井 亮, 椛本悠嗣, 西井陸大, 山元康弘, 川出智大, 坂井千秋, 坂井信幸: (セッション) マーカーツールの使い方. Philips Live! Neuro Suite Users Summit, WEB 開催, 2021.10.16
38. 坂井信幸, 今村博敏, 足立秀光, 浅井克則, 小柳正臣, 後藤正憲, 福光 龍, 福井伸行, 高野裕樹, 春山裕典, 吳 浩一, 梶浦晋司, 重安将志, 朝倉健登, 堀井 亮, 椛本悠嗣, 西井陸大, 山元康弘, 寺西邦匡, 川出智大, 坂井千秋: (講演) 神戸市立医療センター中央市民病院における Philips Angiosystem を用いた学術活動の取り組み. Philips Neuro Users Summit 2021, 大阪, 2021.10.16
39. Sakai N, Imamura H, Sakai C, Koyanagi M, Goto M, Fukumitsu R, Sunohara T, Fukui N, Takano H, Haruyama H: (レクチャー) Flow diverter treatment for recurrence after stent assisted coil embolization of intracranial aneurysms. East Asian Conference on Neurointervention 2021, Shanghai, WEB, 2021.10.23
40. 重安将志, 今村博敏, 小柳正臣, 後藤正憲, 福光 龍, 春原 匡, 福井伸行, 高野裕樹, 春山裕典, 吳 浩一, 梶浦晋司, 寺西邦匡, 朝倉健登, 堀井 亮, 椛本悠嗣, 山元康弘, 西井陸大, 川出智大, 坂井千秋, 坂井信幸: AneurysmFlow による Flow diverter 留置後の動脈瘤閉塞率の検討. 一般社団法人 日本脳神経外科学会 第 80 回学術総会, 横浜, WEB 開催, 2021.10.27
41. 後藤正憲, 今村博敏, 小柳正臣, 福光 龍, 春原 匡, 福井伸行, 高野裕樹, 吳 浩一, 春山裕典, 梶浦晋司, 重安将志, 寺西邦匡, 朝倉健登, 堀井 亮, 椛本悠嗣, 西井陸大, 山元康弘, 川出智大, 坂井千秋, 坂井信幸: 中型内頸動脈瘤に対する flow diverter を用いた治療成績. 一般社団法人 日本脳神経外科学会 第 80 回学術総会, 横浜, WEB 開催, 2021.10.27
42. 今村博敏, 小柳正臣, 後藤正憲, 福光 龍, 春原 匡, 福井伸行, 高野裕樹, 吳 浩一, 春山裕典, 梶浦晋司, 重安将志, 寺西邦匡, 朝倉健登, 堀井 亮, 椛本悠嗣, 西井陸大, 山元康弘, 川出智大, 坂井信幸: 進化する Solitaire ~ Solitaire™ X & Phenom™ 21 ~. 一般社団法人 日本脳神経外科学会 第 80 回学術総会, 横浜, WEB 開催, 2021.10.27
43. 春原 匡, 今村博敏, 小柳正臣, 後藤正憲, 福光 龍, 福井伸行, 高野裕樹, 吳 浩一, 春山裕典, 梶浦晋司, 重安将志, 寺西邦匡, 堀井 亮, 朝倉健登, 椛本悠嗣, 山元康弘, 西井陸大, 川出智大, 坂井千秋, 坂井信幸: (ポスター) Pipeline Embolization Device の size の転帰に与える影響の検討. 一般社団法人 日本脳神経外科学会 第 80 回学術総会, 横浜, WEB 開催, 2021.10.27

44. 寺西邦匡, 福光 龍, 今村博敏, 後藤正憲, 小柳正臣, 春原 匡, 福井伸行, 高野裕樹, 吳 浩一, 春山裕典, 梶浦晋司, 重安将志, 堀井 亮, 朝倉健登, 椛本悠嗣, 山元康弘, 西井陸大, 川出智大, 坂井千秋, 坂井信幸: (ポスター) 前大脳動脈遠位部動脈瘤に対するマイクロカテーテルアクセス. 一般社団法人 日本脳神経外科学会 第 80 回学術総会, 横浜, WEB 開催, 2021.10.27
45. 福光 龍, 今村博敏, 小柳正臣, 後藤正憲, 春原 匡, 福井伸行, 高野裕樹, 春山裕典, 吳 浩一, 梶浦晋司, 重安将志, 寺西邦匡, 朝倉健登, 堀井 亮, 椛本悠嗣, 山元康弘, 西井陸大, 川出智大, 坂井千秋, 坂井信幸: 内頸動脈より末梢の未破裂大型動脈瘤に対するコイル塞栓術の治療成績. 一般社団法人 日本脳神経外科学会 第 80 回学術総会, 横浜, WEB 開催, 2021.10.28
46. 高野裕樹, 今村博敏, 小柳正臣, 後藤正憲, 福光 龍, 春原 匡, 福井伸行, 春山裕典, 吳 浩一, 梶浦晋司, 重安将志, 寺西邦匡, 堀井 亮, 朝倉健登, 椛本悠嗣, 山元康弘, 西井陸大, 川出智大, 坂井千秋, 坂井信幸: 後方循環主幹動脈閉塞に対する急性期血行再建術の治療成績の検討. 一般社団法人 日本脳神経外科学会 第 80 回学術総会, 横浜, WEB 開催, 2021.10.28
47. 吳 浩一, 後藤正憲, 今村博敏, 小柳正臣, 福光 龍, 春原 匡, 福井伸行, 高野裕樹, 春山裕典, 梶浦晋司, 重安将志, 寺西邦匡, 堀井 亮, 朝倉健登, 椛本悠嗣, 山元康弘, 西井陸大, 川出智大, 坂井千秋, 坂井信幸: 最近 10 年間の旅行者が発症した脳卒中及び頭部外傷の市内発症者との比較検討. 一般社団法人 日本脳神経外科学会 第 80 回学術総会, 横浜, WEB 開催, 2021.10.29
48. 今村博敏, 小柳正臣, 後藤正憲, 福光 龍, 春原 匡, 福井伸行, 高野裕樹, 吳 浩一, 春山裕典, 梶浦晋司, 重安将志, 寺西邦匡, 朝倉健登, 堀井 亮, 椛本悠嗣, 西井陸大, 山元康弘, 川出智大, 坂井千秋, 坂井信幸: 分岐部ワイドネック型脳動脈瘤に対する血管内治療における新たな治療戦略. 一般社団法人 日本脳神経外科学会 第 80 回学術総会, 横浜, WEB 開催, 2021.10.29
49. 春山裕典, 今村博敏, 小柳正臣, 後藤正憲, 福光 龍, 春原 匡, 福井伸行, 高野裕樹, 吳 浩一, 梶浦晋司, 重安将志, 寺西邦匡, 朝倉健登, 堀井 亮, 椛本悠嗣, 西井陸大, 山元康弘, 川出智大, 坂井千秋, 坂井信幸: Micro-mesh stent CASPER Rx の初期使用成績. 一般社団法人 日本脳神経外科学会 第 80 回学術総会, 横浜, WEB 開催, 2021.10.29
50. 今村博敏, 尾原信行, 春山裕典, 坂井信幸: (講演) CASPER Rx で頸動脈狭窄症を治療した経験と実績～発売から 1 年間で変化した CAS の治療戦略～. CASPER Rx 発売 1 周年記念講演会, WEB 開催, 2021.11.4
51. Sakai N, Imamura H, Koyanagi M, Goto M, Fukumitsu R, Sunohara T, Fukui N, Takano H, Haruyaa H, Ohara N, Fujiwara S, Maekawa K: (レクチャー) Performance of small diameter stent retriever. Collaterals 2021, Los Angeles, WEB, 2021.11.4
52. 今村博敏, 小柳正臣, 後藤正憲, 福光 龍, 春原 匡, 福井伸行, 高野裕樹, 吳 浩一, 春山裕典, 梶浦晋司, 重安将志, 寺西邦匡, 朝倉健登, 堀井 亮, 椛本悠嗣, 西井陸大, 山元康弘, 川出智大, 坂井千秋, 坂井信幸: (講演) 新規デバイスを使った脳動脈瘤治療. 第 37 回 NPO 法人日本脳神経血管内治療学会学術集会 (JSNET2021) Continuing Education Program (CEP), 福岡, WEB 開催, 2021.11.25
53. 福光 龍, 今村博敏, 小柳正臣, 後藤正憲, 春原 匡, 福井伸行, 高野裕樹, 春山裕典, 吳 浩一, 梶浦晋司, 重安将志, 寺西邦匡, 朝倉健登, 堀井 亮, 椛本悠嗣, 山元康弘, 西井陸大, 川出智大, 坂井千秋, 坂井信幸: (ポスター) 内頸動脈より末梢の未破裂大型動脈瘤に対するコイル塞栓術の治療成績. 第 37 回 NPO 法人日本脳神経血管内治療学会学術集会 (JSNET2021), 福岡, WEB 開催, 2021.11.25
54. 吳 浩一, 後藤正憲, 今村博敏, 小柳正臣, 福光 龍, 春原 匡, 福井伸行, 高野裕樹, 春山裕典, 梶浦晋司, 重安将志, 寺西邦匡, 堀井 亮, 朝倉健登, 椛本悠嗣, 山元康弘, 西井陸大, 川出智大, 坂井千秋, 坂井信幸: (ポスター) 90 歳以上の超高齢者に対して Stent Retriever を用いた機械的血栓回収術の治療成績. 第 37 回 NPO 法人日本脳神経血管内治療学会学術集会 (JSNET2021), 福岡, WEB 開催, 2021.11.25
55. 寺西邦匡, 福光 龍, 今村博敏, 後藤正憲, 小柳正臣, 春原 匡, 福井伸行, 高野裕樹, 吳 浩一, 春山裕典, 梶浦晋司, 重安将志, 堀井 亮, 朝倉健登, 椛本悠嗣, 山元康弘, 西井陸大, 川出智大, 坂井千秋, 坂井信幸: 前大脳動脈遠位部動脈瘤に対するマイクロカテーテルアクセス. 第 37 回 NPO 法人日本脳神経血管内治療学会学術集会 (JSNET2021) (オーラル), 福岡, WEB 開催, 2021.11.25
56. 春原 匡, 今村博敏, 小柳正臣, 後藤正憲, 福光 龍, 福井伸行, 高野裕樹, 吳 浩一, 春山裕典, 梶浦晋司, 重安将志, 寺西邦匡, 堀井 亮, 朝倉健登, 椛本悠嗣, 山元康弘, 西井陸大, 川出智大, 坂井千秋, 坂井信幸: (ポスター) Pipeline Embolization Device の size が転帰に与える影響の検討. 第 37 回 NPO 法人日本脳神経血管内治療学会学術集会 (JSNET2021), 福岡, WEB 開催, 2021.11.25

57. 春山裕典, 今村博敏, 小柳正臣, 後藤正憲, 福光 龍, 春原 匡, 福井伸行, 高野裕樹, 吳 浩一, 梶浦晋司, 重安将志, 寺西邦匡, 朝倉健登, 堀井 亮, 椛本悠嗣, 西井陸大, 山元康弘, 川出智大, 坂井千秋, 坂井信幸: (ポスター) Micro-mesh stent CASPER Rx の初期使用経験. 第 37 回日本脳神経血管内治療学会学術集会, 福岡, WEB 開催, 2021.11.25-27
58. Goto M, Imamura H, Koyanagi M, Fukumitsu R, Sunohara T, Fukui N, Takano Y, Go K, Haruyama H, Kajiura S, Shigeyasu M, Teranishi K, Asakura K, Horii R, Naramoto Y, Nishii R, Yamamoto Y, Kawade S, Sakai C, Sakai N: (シンポジウム) Clinical outcome of endovascular treatment for medium sized internal carotid artery aneurysm. 第 37 回 NPO 法人日本脳神経血管内治療学会学術集会 (JSNET2021), 福岡, WEB 開催, 2021.11.26
59. 今村博敏, 小柳正臣, 後藤正憲, 福光 龍, 春原 匡, 福井伸行, 高野裕樹, 吳 浩一, 春山裕典, 梶浦晋司, 重安将志, 寺西邦匡, 朝倉健登, 堀井 亮, 椛本悠嗣, 西井陸大, 山元康弘, 川出智大, 坂井信幸: Target & Atlas ~ Adjunctive technique を極める ~. 第 37 回 NPO 法人日本脳神経血管内治療学会学術集会 (JSNET2021), 福岡, WEB 開催, 2021.11.26
60. 今村博敏, 小柳正臣, 後藤正憲, 尾原信行, 福光 龍, 春原 匡, 福井伸行, 高杉純司, 高野裕樹, 藤原 悟, 前川嵩太, 吳 浩一, 春山裕典, 梶浦晋司, 木村正夢嶺, 重安将志, 寺西邦匡, 朝倉健登, 堀井 亮, 椛本悠嗣, 西井陸大, 山元康弘, 川出智大, 坂井信幸: Solitaire™ X シリーズの新たな有用性. 第 37 回 NPO 法人日本脳神経血管内治療学会学術集会 (JSNET2021) (セミナー), 福岡, WEB 開催, 2021.11.26
61. Imamura H, Koyanagi K, Goto M, Fukumitsu R, Sunohara T, Fukui N, Takano Y, Go K, Haruyama H, Kajiura S, Shigeyasu M, Teranishi K, Asakura K, Horii R, Naramoto Y, Nishii R, Yamamoto Y, Kawade S, Sakai C, Sakai N: (シンポジウム) Initial experience with PulseRider and W-EB for bifurcation cerebral aneurysms. 第 37 回 NPO 法人日本脳神経血管内治療学会学術集会 (JSNET2021), 福岡, WEB 開催, 2021.11.26
62. Takano Y, Imamura H, Koyanagi M, Goto M, Fukumitsu R, Sunohara T, Fukui N, Haruyama H, Go K, Kajiura S, Shigeyasu M, Teranishi K, Horii R, Asakura K, Naramoto Y, Yamamoto Y, Nishii R, Kawade S, Sakai C, Sakai N: (シンポジウム) A clinical analysis of mechanical thrombectomy for posterior circulation occlusion. 第 37 回 NPO 法人日本脳神経血管内治療学会学術集会 (JSNET2021), 福岡, WEB 開催, 2021.11.26
63. 坂井信幸, 坂井千秋, 今村博敏, 小柳正臣, 後藤正憲, 福光 龍, 春原 匡, 福井伸行, 高野裕樹, 春山裕典, 吳 浩一, 梶浦晋司, 重安将志, 朝倉健登, 堀井 亮, 椛本悠嗣, 西井陸大, 山元康弘, 寺西邦匡, 川出智大, 坂井千秋, 尾原信行, 藤原 悟, 前川嵩太: 出口戦略を見据えた機器開発. 第 37 回 NPO 法人日本脳神経血管内治療学会学術集会 (JSNET2021), 福岡, WEB 開催, 2021.11.26
64. 坂井信幸: 理事長講演 行ったこと、行っていること、行えなかったこと. 第 37 回 NPO 法人日本脳神経血管内治療学会学術集会 (JSNET2021), 福岡, WEB 開催, 2021.11.26
65. 今村博敏, 小柳正臣, 後藤正憲, 福光 龍, 春原 匡, 福井伸行, 高野裕樹, 吳 浩一, 春山裕典, 梶浦晋司, 重安将志, 寺西邦匡, 朝倉健登, 堀井 亮, 椛本悠嗣, 西井陸大, 山元康弘, 川出智大, 坂井信幸: 進化する脳血管内治療に役立つ Azurion 2nd Generation の機能. 第 37 回 NPO 法人日本脳神経血管内治療学会学術集会 (JSNET2021), 福岡, WEB 開催, 2021.11.27
66. 今村博敏, 小柳正臣, 後藤正憲, 福光 龍, 春原 匡, 福井伸行, 高野裕樹, 吳 浩一, 春山裕典, 梶浦晋司, 重安将志, 寺西邦匡, 朝倉健登, 堀井 亮, 椛本悠嗣, 西井陸大, 山元康弘, 川出智大, 坂井信幸: (特別講演) 脳血管内治療の今と未来. 第 4 回 KANEKA 社内 Web 講演会, WEB 開催, 2021.12.23
67. 福光 龍, 今村博敏, 重安将志, 小柳正臣, 後藤正憲, 春原 匡, 福井伸行, 高野裕樹, 春山裕典, 吳 浩一, 梶浦晋司, 寺西邦匡, 朝倉健登, 堀井 亮, 椛本悠嗣, 山元康弘, 西井陸大, 川出智大, 坂井千秋, 坂井信幸: AVM 塞栓中に対側 PCA 閉塞をきたし、再開通療法を行った 1 例. 第 61 回近畿脳神経血管内手術法ワークショップ, WEB 開催, 2022.1.8
68. 今村博敏, 小柳正臣, 後藤正憲, 尾原信行, 福光 龍, 春原 匡, 福井伸行, 高杉純司, 高野裕樹, 藤原 悟, 前川嵩太, 吳 浩一, 春山裕典, 梶浦晋司, 重安将志, 寺西邦匡, 朝倉健登, 堀井 亮, 椛本悠嗣, 西井陸大, 山元康弘, 川出智大, 坂井千秋, 坂井信幸: Angioplasty and stenting for intracranial artery stenosis - 過去の失敗を振り返って -. 第 61 回近畿脳神経血管内手術法ワークショップ, WEB 開催, 2022.1.8
69. 今村博敏, 小柳正臣, 後藤正憲, 福光 龍, 春原 匡, 福井伸行, 高野裕樹, 吳 浩一, 春山裕典, 梶浦晋司, 重安将志, 寺西邦匡, 朝倉健登, 堀井 亮, 椛本悠嗣, 西井陸大, 樋上真之, 山元康弘, 川出智大, 坂井千秋, 坂井信幸: (シンポジウム) MCA 動脈瘤に対する新規デバイスを用いた塞栓術の pros and cons. 脳血管外科フォーラム 2022 Winter, 吹田, ハイブリッド開催, 2022.1.15



70. 今村博敏, 坂井信幸: (特別講演) 再開通療法の未来~薬物療法も含めて~. Stroke Up to Date - 非心原性脳梗塞治療の新展開 -, 高松, 2022.1.21
71. 今村博敏, 坂井信幸: (講演) 日本人のCYP遺伝子多型とどう対峙するか? Stroke Expert Meeting エフィエントを日常臨床にどう生かすか? 福岡, 2022.1.22
72. 今村博敏, 坂井信幸: (特別講演) Pipeline リモート総合討論. Pipeline リモート総合討論, WEB開催, 2022.1.25
73. 坂井信幸: (特別講演) 脳動脈瘤に対する血管内治療、来し方行く末. 第1回広島脳血管内手術研究会, WEB開催, 2022.1.26
74. 今村博敏, 小柳正臣, 後藤正憲, 尾原信行, 福光 龍, 春原 匡, 福井伸行, 高杉純司, 高野裕樹, 藤原 悟, 前川嵩太, 呉 浩一, 春山裕典, 梶浦晋司, 木村正夢嶺, 重安将志, 寺西邦匡, 朝倉健登, 堀井 亮, 榛本悠嗣, 西井陸大, 山元康弘, 川出智大, 坂井信幸: (特別講演) Tron FX IIを使用したAIS治療経験~出血性合併症リスクを考える~. Successful Acute ischemic stroke For Eurovascular, WEB開催, 2022.1.28
75. 今村博敏, 坂井信幸: (講演) 日本人のCYP遺伝子多型とどう対峙するか? Stroke Expert Meeting エフィエントを日常臨床にどう生かすか? 大阪, 2022.1.29
76. 今村博敏, 坂井信幸: (特別講演) エフィエントを実臨床にどう生かすか? EVT Special Conference, WEB開催, 2022.1.31
77. 呉 浩一, 後藤正憲, 今村博敏, 小柳正臣, 福光 龍, 春原 匡, 福井伸行, 高野裕樹, 春山裕典, 梶浦晋司, 重安将志, 寺西邦匡, 堀井 亮, 朝倉健登, 榛本悠嗣, 山元康弘, 西井陸大, 川出智大, 坂井千秋, 坂井信幸: (ポスター) 最近10年間の旅行者が発症した脳卒中及び頭部外傷の市内発症者と比較検討. STROKE2022, 大阪, WEB開催, 2022.2.2
78. 高野裕樹, 今村博敏, 小柳正臣, 後藤正憲, 福光 龍, 春原 匡, 福井伸行, 春山裕典, 呉 浩一, 梶浦晋司, 重安将志, 寺西邦匡, 堀井 亮, 朝倉健登, 榛本悠嗣, 山元康弘, 西井陸大, 川出智大, 坂井千秋, 坂井信幸: (オーラル) 後方循環主幹動脈閉塞に対する急性期血行再建術の治療成績の検討. STROKE2022, 大阪, WEB開催, 2022.2.2
79. 春原 匡: (講演3) パーキンソン病の手術療法. お家で聴ける! パーキンソン病WEB市民公開講座 in 兵庫, WEB開催, 2022.2.6
80. 後藤正憲, 今村博敏, 小柳正臣, 福光 龍, 春原 匡, 福井伸行, 高野裕樹, 呉 浩一, 春山裕典, 梶浦晋司, 重安将志, 寺西邦匡, 朝倉健登, 堀井 亮, 榛本悠嗣, 西井陸大, 山元康弘, 川出智大, 坂井千秋, 坂井信幸: 近位中型内頸動脈瘤に対する血管内治療成績. STROKE2022, WEB開催, 2022.2.9
81. 福光 龍, 重安将志, 小柳正臣, 太田剛史, 後藤正憲, 春原 匡, 福井伸行, 高野裕樹, 春山裕典, 呉 浩一, 梶浦晋司, 寺西邦匡, 朝倉健登, 堀井 亮, 榛本悠嗣, 山元康弘, 西井陸大, 樋上真之, 川出智大, 坂井千秋, 坂井信幸, 川端智也, 池田実香: (オーラル) 頭蓋内内頸動脈の偏位を伴い、ハイブリッド手術室で異物除去を行った穿通性外傷の一例. 第45回日本脳神経外傷学会, 橿原, WEB開催, 2022.2.25
82. 今村博敏, 小柳正臣, 後藤正憲, 福光 龍, 春原 匡, 福井伸行, 高野裕樹, 呉 浩一, 春山裕典, 梶浦晋司, 重安将志, 寺西邦匡, 朝倉健登, 堀井 亮, 榛本悠嗣, 西井陸大, 山元康弘, 川出智大, 坂井信幸: (ポスター) 難治性慢性硬膜下血腫に対する血管内治療. 第45回日本脳神経外傷学会, 橿原, WEB開催, 2022.2.25-3.18
83. 坂井信幸: 実例が出てきた日本発の治療デバイス、ソフトウェア、手術ロボット. AMED次世代医療機器連携拠点整備等事業2021年度関東3拠点合同シンポジウム「世界にとびだせ! 日本発の医療機器」, WEB開催, 2022.3.4
84. 坂井信幸, 尾原信行, 今村博敏: (基調講演) シームレス医療の重要性が増した脳卒中医療. Stroke Conference「地域医療を考える」, WEB開催, 2022.3.15
85. 重安将志, 今村博敏, 小柳正臣, 後藤正憲, 福光 龍, 春原 匡, 福井伸行, 高野裕樹, 春山裕典, 呉 浩一, 梶浦晋司, 寺西邦匡, 朝倉健登, 堀井 亮, 榛本悠嗣, 山元康弘, 西井陸大, 川出智大, 坂井千秋, 坂井信幸: (オーラル) Flow diverter留置後の動脈瘤閉塞予測に関するMAFA ratioの有用性. 第51回日本脳卒中の外科学会学術集会, 大阪, WEB開催, 2022.3.17
86. 福光 龍, 今村博敏, 小柳正臣, 後藤正憲, 春原 匡, 福井伸行, 高野裕樹, 春山裕典, 呉 浩一, 梶浦晋司, 重安将志, 寺西邦匡, 朝倉健登, 堀井 亮, 榛本悠嗣, 山元康弘, 西井陸大, 川出智大, 坂井千秋, 坂井信幸: (ポスター) 内頸動脈より末梢の未破裂大型動脈瘤に対するコイル塞栓術の治療成績. STROKE2022, 大阪, WEB開催, 2022.3.17

87. 寺西邦匡, 福光 龍, 今村博敏, 後藤正憲, 小柳正臣, 春原 匡, 福井伸行, 高野裕樹, 吳 浩一, 春山裕典, 梶浦晋司, 重安将志, 堀井 亮, 朝倉健登, 棕本悠嗣, 山元康弘, 西井陸大, 川出智大, 坂井千秋, 坂井信幸: (ポスター) 前大脳動脈遠位部動脈瘤に対するマイクロカテーテルアクセス. STROKE2022, 大阪, WEB 開催, 2022.3.17
88. 春原 匡, 今村博敏, 小柳正臣, 後藤正憲, 福光 龍, 福井伸行, 高野裕樹, 吳 浩一, 春山裕典, 梶浦晋司, 重安将志, 寺西邦匡, 堀井 亮, 朝倉健登, 棕本悠嗣, 山元康弘, 西井陸大, 川出智大, 坂井千秋, 坂井信幸: (ポスター) Pipeline Embolization Device の size が転帰に与える影響の検討. 第 51 回日本脳卒中の外科学会学術集会, 大阪, WEB 開催, 2022.3.17
89. 坂井信幸, 齊藤延人, 橋本洋一郎, 小笠原邦昭, 宮本 享, 富永悌二, 平野照之, 山上 宏, 吉本武史, 今村博敏, 坂井千秋, 尾原信行: 日本脳卒中学会・日本循環器学会合同企画「第一次脳卒中と循環器病克服五カ年計画の総括」脳卒中センターの整備と年次報告、学会調査を用いた疫学解析とその意義. STROKE2022, 大阪, WEB 開催, 2022.3.20
90. 坂井信幸, 井上 学, 工藤興亮, 佐々木真理, 橋本洋一郎, 今村博敏, 坂井千秋, 尾原信行: 卒中 WLS4「脳卒中と診療報酬」血管内治療デバイスと医用画像解析ソフトの診療報酬. STROKE2022, 大阪, WEB 開催, 2022.3.30

## IX. 1. 19 整形外科

1. 原田崇史, 藤田俊史, 安田 義: 成人の上腕骨遠位端骨折に対する double plate 固定の治療成績. 第 136 回中部日本整形外科災害外科学会学術集会, WEB 開催, 2021.4.9
2. 田中 敦, 大西英次郎, 加藤 怜, 橋村卓実, 藤田俊史, 安田 義: 頸椎骨折に対する頸椎前方固定術における術後再挿管を要した症例の検討. 第 136 回中部日本整形外科災害外科学会学術集会, WEB 開催, 2021.4.9-10
3. 太田悟司, 安田 義, 藤田俊史, 末吉達也, 松永一宏: 局所陰圧閉鎖療法を適切に用いて下腿開放骨折治療における深部感染を減少させる取り組み. 第 136 回中部日本整形外科災害外科学会学術集会, WEB 開催, 2021.4.9-10
4. 加藤 怜, 大西英次郎, 橋村卓実, 安田 義: 頭蓋内より腰仙椎硬膜内に転移したと思われる脊索腫の 1 例. 第 136 回中部日本整形外科災害外科学会学術集会, WEB 開催, 2021.4.9-10
5. 大西英次郎: 下位腰椎から仙骨の病変による神経障害性疼痛の診断と治療. 第 1 回整形外科疾患セミナー, 神戸, 2021.4.13
6. 田中 敦: 神戸市の病診連携について. 第 1 回整形外科疾患セミナー, 神戸, 2021.4.13
7. 藤田俊史, 塚本義博, 橋村卓実, 松永一宏, 宮本哲也, 安田 義: コロナ禍における切斷 (肢) 治療の検証. 第 64 回日本手外科学会学術集会, 長崎, ハイブリッド開催, 2021.4.22-23
8. 宮本哲也, 藤田俊史, 安田 義, 大西英次郎, 太田悟司, 塚本義博, 山下伸之輔, 橋村卓実, 松永一宏, 加藤 怜, 原田崇史, 田中 敦, 長田篤史, 和田晃大: 前腕骨骨折に対する conventional screw によるプレート固定後の再骨折、骨萎縮の予防に対する有用性. 第 64 回日本手外科学会学術集会, 長崎, ハイブリッド開催, 2021.4.22-23
9. 橋村卓実, 大西英次郎, 田中 敦, 宮本哲也: 外傷性胸腰椎椎体骨折に対する短椎間後方固定術の成績不良因子の検討. 第 50 回日本脊椎脊髄病学会学術集会, 京都, ハイブリッド開催, 2021.4.22
10. 橋村卓実, 大西英次郎, 田中 敦, 宮本哲也: 頸椎前方固定術におけるスクリュー付きケージ単独法と腸骨移植プレート固定法の比較. 第 50 回日本脊椎脊髄病学会学術集会, 京都, ハイブリッド開催, 2021.4.23
11. 大西英次郎, 橋村卓実, 長田篤史, 宮本哲也, 田中 敦, 原田崇史, 加藤 怜, 松永一宏, 塚本義博, 藤田俊史, 太田悟司, 安田 義: 転移性脊椎腫瘍に対する術前腫瘍塞栓術の有効性と合併症一塞栓術後麻痺発生の危険性について. 第 50 回日本脊椎脊髄病学会学術集会, 京都, ハイブリッド開催, 2021.4.23
12. Yasuda T: Characterization of Bone Turnover Markers in the Early Stage of Rapidly Destructive Coxopathy. 第 65 回日本リウマチ学会総会・学術集会, WEB 開催, 2021.4.26-28
13. 山下伸之輔: 大腿骨偽関節の一例. Teikyo Trauma Talk, WEB 開催, 2021.5.8
14. 藤田俊史: 継続可能な重症四肢外傷再建医療を目指して. 第 4 回オープンボーンカンファレンス特別講演会, WEB 開催, 2021.5.15

15. 長田篤史, 宮本哲也, 和田晃大, 加藤 怜, 田中 敦, 原田崇史, 松永一宏, 橋村卓実, 山下伸之輔, 塚本義博, 太田悟司, 藤田俊史, 大西英次郎, 安田 義: 骨癒合まで2年半を要した大腿骨顆上開放骨折の1例. 第4回オープンボーンカンファレンス特別講演会, WEB開催, 2021.5.15
16. 本田新太郎, 安田 義, 清水孝彬, 松田秀一: 高齢者脆弱性骨盤骨折の重症度に sarcopenia が与える影響. 第94回日本整形外科学会学術総会, 東京, ハイブリッド開催, 2021.5.20-21
17. 山下伸之輔, 鈴木 卓, 乾 貴博, 松井健太郎, 宮本英明, 中山雄平, 本田哲史, 石井桂輔, 黒住健人, 渡部欣忍, 河野博隆: 脛骨骨幹部骨折髓内釘固定後に腓骨の相対的長さは変わるのか. 第94回日本整形外科学会学術総会, 東京, ハイブリッド開催, 2021.5.20-21
18. 太田悟司, 安田 義, 藤田俊史, 塚本義博, 加藤 怜: 両側下腿開放骨折 Gustilo III B の1例. 第1回兵庫重度四肢外傷「Peer Review Web Meeting」, Zoom開催, 2021.5.29
19. 長田篤史, 宮本哲也, 和田晃大, 加藤 怜, 田中 敦, 原田崇史, 松永一宏, 橋村卓実, 山下伸之輔, 塚本義博, 太田悟司, 藤田俊史, 大西英次郎, 安田 義: 広範囲骨欠損を伴う下腿開放骨折の一例. 第12回京都大学外傷研究会, 大阪, 2021.6.5
20. 安田 義: 急速破壊型股関節症発症早期における病態解明. 第13回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会 第47回日本整形外科スポーツ医学会学術集会, Web開催, 2021.6.19
21. 塚本義博: 関節リウマチ側部病変の手術治療. 第13回東神戸リウマチ性疾患連携の会, 神戸, 2021.6.24
22. 太田悟司, 安田 義, 山下伸之輔: 高齢者寛骨臼骨折に対して Harrington technique を用いた一期的THAの報告. 第47回日本骨折治療学会学術集会, 神戸, ハイブリッド開催, 2021.7.2
23. 山下伸之輔, 鈴木 卓, 乾 貴博, 中山雄平, 松井健太郎, 石井桂輔, 黒住健人, 渡部欣忍, 河野博隆: 寛骨臼両柱骨折には後壁様の後柱骨片が高頻度に合併する. 第47回日本骨折治療学会学術集会, 神戸, ハイブリッド開催, 2021.7.2
24. 山下伸之輔, 長田篤史, 宮本哲也, 和田晃大, 加藤 怜, 田中 敦, 原田崇史, 松永一宏, 橋村卓実, 塚本義博, 太田悟司, 藤田俊史, 大西英次郎, 安田 義: 大腿骨遠位骨幹部骨折 Infra-isthmal fracture の偽関節症例. 第7回オープンボーンカンファレンス症例検討会, 神戸, 2021.8.20
25. 塚本義博, 安田 義: 外傷性広範囲前足部壊死に対して軟部組織再建を要した1例. 第35回日本靴医学会学術集会, Web開催, 2021.9.3
26. 宮本哲也, 長田篤史, 和田晃大, 加藤 怜, 田中 敦, 原田崇史, 松永一宏, 橋村卓実, 山下伸之輔, 塚本義博, 太田悟司, 藤田俊史, 大西英次郎, 安田 義: 大腿骨遠位関節内骨折に対して人工膝関節置換術を行った一例. 第57回兵庫県膝関節研究会, 神戸, 2021.9.4
27. 安田 義, 藤田 暁: 投球、腕相撲による上腕骨螺旋骨折と骨皮質厚との関連性. 第76回日本体力医学会大会, オンライン開催, 2021.9.17-19
28. 田中 敦, 大西英次郎, 橋村卓実: 頸椎・頸髄損傷に対して頸椎前方固定術を行った後、再挿管を要した症例の検討. 第30回日本脊椎インストゥルメンテーション学会, 名古屋, ハイブリッド開催, 2021.10.1-2
29. 田中 敦, 大西英次郎, 橋村卓実: 既存圧迫骨折椎体の隣接椎間にLIFケージを挿入したが椎体骨折のため再手術を要した一症例. 第30回日本脊椎インストゥルメンテーション学会, 名古屋, ハイブリッド開催, 2021.10.1-2
30. 宮本哲也, 長田篤史, 和田晃大, 加藤 怜, 田中 敦, 原田崇史, 松永一宏, 橋村卓実, 山下伸之輔, 塚本義博, 太田悟司, 藤田俊史, 大西英次郎, 安田 義: 前腕骨プレート固定後再骨折症例. 第33回兵庫県骨折治療研究会, 神戸, 2021.10.2
31. 和田晃大, 安田 義, 太田悟司, 原田崇史, 加藤 怜, 宮本哲也: 化膿性胸鎖関節炎に対して郭清術を施行した2例. 第137回中部日本整形外科災害外科学会・学術集会, WEB開催, 2021.10.8-9
32. 原田崇史, 藤田俊史, 塚本義博, 藤田 暁, 安田 義: 上腕骨顆上骨折の術後に生じた亜急性尺骨神経障害に対して神経剥離術を行った1例. 第137回中部日本整形外科災害外科学会・学術集会, WEB開催, 2021.10.8-9
33. 安田 義: 急速破壊型股関節症発症早期における骨代謝マーカーと骨破壊との関連性に関する検討. 第23回日本骨粗鬆症学会 / 第39回日本骨代謝学会学術集会, WEB開催, 2021.10.8-10
34. 橋村卓実: 上肢における神経障害性疼痛の実臨床. 第2回整形外科疾患セミナー, 神戸, 2021.10.26
35. 原田崇史: 前腕骨折の術後に尺骨神経害を呈した1例. 第2回整形外科疾患セミナー, 神戸, 2021.10.26

36. 安田 義：急速破壊型股関節症の早期診断方法の確立. 第31回股関節研究セミナー, WEB開催, 2021.10.28
37. 藤田俊史, 矢島優磨, 柴田久美子: Lower trapezius muscle transfer for repetitive shoulder dislocation with cervical myelopathy, a case report. 第48回日本肩関節学会, 名古屋, ハイブリッド開催, 2021.10.29
38. 藤田俊史, 塚本義博, 橋村卓実, 安田 義, 池口良輔: 下腿/足関節部の重度外傷に対し前脛骨動脈を吻合血管とする再建術の注意点. 第48回マイクロサージャリー学会学術集会, つくば, 2021.12.3
39. 原田崇史, 長田篤史, 宮本哲也, 和田晃大, 加藤 怜, 田中 敦, 松永一宏, 橋村卓実, 山下伸之輔, 塚本義博, 太田悟司, 藤田俊史, 大西英次郎, 安田 義: 股関節脱臼骨折に合併した大腿骨頭骨折の1例. 第8回オープンボーンカンファレンス症例検討会, 神戸, 2021.12.11
40. 山下伸之輔, 加藤 怜, 長田篤史, 宮本哲也, 田中 敦, 原田崇史, 松永一宏, 橋村卓実, 塚本義博, 太田悟司, 藤田俊史, 大西英次郎, 安田 義: 大腿骨骨幹部骨折偽関節の1例. 第13回京都大学外傷研究会, 大阪, 2022.2.19
41. 田中 敦, 安田 義, 太田悟史, 藤田俊史, 山下伸之輔, 塚本義博: 大腿骨逆行性ネイル挿入下の大腿骨頸基部骨折に対してネイルの切断と再挿入し, BHAを行った一例. 第25回兵庫股関節研究会, 神戸, 2022.2.19
42. 塚本義博, 安田 義, 太田悟史, 藤田俊史, 山下伸之輔: 化膿性股関節炎の鑑別に股関節鏡を要した1例. 第25回兵庫股関節研究会, 神戸, 2022.2.19
43. 太田悟司, 安田 義: 高齢者寛骨臼骨折に対してHarrington techniqueを用いた一期的THAの報告. 第52回日本人工関節学会, 京都, 2022.2.25-26
44. 安田 義, 松永一宏, 橋村卓実, 山下伸之輔, 塚本義博, 太田悟史, 藤田俊史, 大西英次郎: 変形性関節症に対する人工膝関節置換術後の歩行能力と患肢の術前筋組成との関連. 第52回日本人工関節学会, 京都, 2022.2.25
45. 皐月幹太, 岩田健太郎, 鈴木謙太郎, 高村大祐, 矢嶋優磨, 幸原伸夫, 安田 義: 人工膝関節全置換術前の握力と術後3ヶ月の歩行能力との関連. 第52回日本人工関節学会, 京都, 2022.2.26
46. 鈴木謙太郎, 岩田健太郎, 皐月幹太, 高村大祐, 矢嶋優磨, 本田明弘, 幸原伸夫, 安田 義: 人工膝関節全置換術前の四肢筋量体重比が術後3ヶ月の運動機能に及ぼす影響. 第52回日本人工関節学会, 京都, 2022.2.26
47. 山下伸之輔: 粉碎の強い脛骨プラトー骨折の症例. Teikyo Orthopedic Trauma Talk, WEB開催, 2022.2.26
48. 新倉隆宏, 福井友章, 大江啓介, 安田 義, 渡部欣忍, 田島吾郎, 土井田稔, 山本哲司, 川本篤彦, 黒田良祐: 自家CD34陽性細胞移植による難治性骨折治療—医師主導治験の報告—. 第21回日本再生医療学会総会, WEB開催, 2022.3.19

## IX. 1. 20 形成外科

1. 川端智也, 池田実香, 松添晴加, 片岡和哉: 眼窩骨折で用いた吸収性プレートの生体内での強度についての検討. 第64回日本形成外科学会総会・学術集会, 東京, ハイブリッド開催, 2021.4.15
2. 片岡和哉, 川端智也, 松添晴加, 池田実香, 七 也, 高橋夏子: 骨性合指症分離後の骨断面への植皮にアルカリ処理ゼラチン含有コラーゲン使用人工皮膚を用いた治療経験. 第64回日本手外科学会学術集会, 長崎, ハイブリッド開催, 2021.4.22
3. 松添晴加, 片岡和哉, 池田実香, 川端智也, 岡 俊吾, 山下大祐, 原 重雄: 頬部に生じた木村病の一例. 第128回関西形成外科学会学術集会, 和歌山, 2021.7.11
4. 池田実香, 松添晴加, 内藤素子, 川端智也, 岡 俊吾, 片岡和哉, 武尾 真, 辻 孝: ケロイドモデル動物の構築(第3報). 第30回日本形成外科学会基礎学術集会, 東京, 2021.10.7
5. 松添晴加, 池田実香, 内藤素子, 岡 俊吾, 川端智也, 片岡和哉, 武尾 真, 辻 孝: ケロイドにおける神経関連タンパクの発現. 第30回日本形成外科学会基礎学術集会, 東京, 2021.10.7
6. 嶋田有里, 平林亮介, 貴志亮太, 田代隼基, 岩林正明, 遠藤 慧, 世利佳滉, 島 佑介, 白川千種, 佐藤悠城, 永田一真, 中川 淳, 立川 良, 甲 貴文, 川端智也, 黒田浩一, 高橋 豊, 片岡和哉, 富井啓介: 内科的、外科的加療でコントロールできたCAM耐性のMAC症による胸膜炎、皮下膿瘍の一例. 第128回日本結核・非結核性抗酸菌症学会近畿支部学会 第98回日本呼吸器学会近畿地方会 合同学会, WEB開催, 2021.12.11

- 岡 俊吾, 池田実香, 松添晴加, 川端智也, 片岡和哉: 熱傷におけるアクアセル Ag アドバンテージ®の使用経験. 第 30 回日本熱傷学会近畿地方会, 京都, 2022.1.22

## IX. 1. 21 産婦人科

- 今竹ひかる, 田邊更衣子, 荻野敦子, 山添紗恵子, 崎山明香, 松林 彩, 川田悦子, 林 信孝, 小山瑠梨子, 大竹紀子, 青木卓哉, 吉岡信也: 胎盤が子宮中隔に付着していた不全中隔子宮妊娠の一例. 第 73 回日本産科婦人科学会学術講演会, 新潟, WEB 開催, 2021.4.22-25
- 前田振一郎: コロナ下での医療他について. 東京大学教養学部 全学自由研究ゼミナール 法と社会と人権ゼミ, WEB 開催, 2021.5.12
- 前田振一郎, 松林 彩, 今竹ひかる, 荻野敦子, 中村充宏, 小池彩美, 山添紗恵子, 崎山明香, 川田悦子, 林 信孝, 田邊更衣子, 小山瑠梨子, 大竹紀子, 青木卓哉, 吉岡信也: 糖尿病を背景にもち、妊娠中に急性膵炎を発症して緊急帝王切開術を要した 2 例. 第 57 回日本周産期・新生児医学会学術集会, 宮崎, ハイブリッド開催, 2021.7.11-13
- 松林 彩, 川崎 薫, 奥立みなみ, 小池彩美, 中村充宏, 山添紗恵子, 崎山明香, 川田悦子, 林 信孝, 田邊更衣子, 小山瑠梨子, 大竹紀子, 青木卓哉, 吉岡信也: 胞状奇胎除去術に対する手動真空吸引法 (MVA) の有効性と安全性についての検討. 第 57 回日本周産期・新生児医学会学術集会, 宮崎, ハイブリッド開催, 2021.7.11-13
- 山添紗恵子, 田辺優理子, 水野友香子, 今竹ひかる, 前田振一郎, 荻野敦子, 中村充宏, 小池彩美, 崎山明香, 松林 彩, 川田悦子, 林 信孝, 田邊更衣子, 小山瑠梨子, 大竹紀子, 青木卓哉, 吉岡信也: 当院で術中に開腹へ術式変更を行った婦人科悪性腫瘍手術に関する検討. 第 63 回日本婦人科腫瘍学会学術講演会, 大阪, ハイブリッド開催, 2021.7.16
- 吉岡信也: 新型コロナウイルス感染症の院内感染対策. 第 95 回兵庫県産科婦人科学会学術集会, 神戸, ハイブリッド開催, 2021.8.1
- 田辺優理子, 松林 彩, 水野友香子, 荻野敦子, 前田振一郎, 奥立みなみ, 中村充宏, 小池彩美, 山添紗恵子, 崎山明香, 川田悦子, 林 信孝, 田邊更衣子, 小山瑠梨子, 大竹紀子, 青木卓哉, 吉岡信也: 治療方針に苦慮した妊娠中の漿膜下筋腫捻転の 1 例.
- 川田悦子, 崎山明香, 谷村昌哉, 佐藤晋平, 田辺優理子, 畑山裕生, 水野友香子, 荻野敦子, 前田振一郎, 奥立みなみ, 小池彩美, 中村充宏, 山添紗恵子, 松林 彩, 林 信孝, 田邊更衣子, 小山瑠梨子, 大竹紀子, 青木卓哉, 吉岡信也: 当院での子宮頸管ペッサリーによる切迫流早産の管理. 第 14 回温知会サマールニカルフォーラム, 京都, ハイブリッド開催, 2021.8.1
- 小池彩美, 前田振一郎, 奥立みなみ, 中村充宏, 山添紗恵子, 崎山明日, 松林 彩, 川田悦子, 林 信孝, 田邊更衣子, 小山瑠梨子, 大竹紀子, 青木卓哉, 吉岡信也: 成熟嚢胞性奇形腫における腹腔鏡下卵巣嚢腫摘出術の術中破綻が与える影響. 第 61 回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会, WEB 開催, 2021.9.11-13
- 中村充宏, 小山瑠梨子, 谷村昌哉, 佐藤晋平, 田辺優理子, 畑山裕生, 水野由香子, 荻野敦子, 前田振一郎, 奥立みなみ, 小池彩美, 山添紗恵子, 崎山明香, 松林 彩, 川田悦子, 林 信孝, 田邊更衣子, 大竹紀子, 青木卓哉, 吉岡信也: 卵巣茎捻転に対し捻転解除後に再発予防のため腹腔鏡下卵巣固有靭帯縫縮術を施行した 3 例. 第 61 回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会, WEB 開催, 2021.9.11-13
- 吉岡信也: 産科婦人科内視鏡技術認定医 (腹腔鏡) 取得に向けた施設としての取り組み. 第 145 回近畿産科婦人科学会学術集会, 神戸, ハイブリッド開催, 2021.10.24
- 谷村昌哉, 林 信孝, 佐藤晋平, 畑山裕生, 田辺優理子, 水野友香子, 荻野敦子, 前田 振一郎, 奥立みなみ, 中村充宏, 小池彩美, 山添紗恵子, 崎山明香, 松林 彩, 川田悦子, 小山瑠梨子, 田邊更衣子, 大竹紀子, 青木卓哉, 吉岡信也: 当科における初発卵巣癌に対する PARP 阻害薬による維持療法の経験. 第 145 回近畿産科婦人科学会学術集会, 神戸, ハイブリッド開催, 2021.10.24
- 吉岡信也: 治療に難渋する婦人科悪性腫瘍における Pembrolizumab の光明. Gynecological Cancer Live Conference, WEB 開催, 2021.10.29
- 小山瑠梨子: 子宮筋腫・子宮内膜症の治療～レルミナという新たな治療選択肢をえて～. あすか製薬株式会社 産婦人科セミナー, WEB 開催, 2022.1.27

15. 吉岡信也, 前田振一郎, 谷村昌哉, 畑山裕生, 佐藤晋平, 田辺優理子, 荻野敦子, 奥立みなみ, 中村充宏, 小池彩美, 山添紗恵子, 崎山明香, 松林 彩, 川田悦子, 林 信孝, 田邊更衣子, 小山瑠梨子, 大竹紀子, 青木卓哉: ロボット支援下子宮体癌手術で術野外の手術操作によると思われる小腸穿孔を来し、緊急開腹小腸部分切除術を要した1例. 第10回日本婦人科ロボット手術学会, WEB開催, 2022.1.30
16. 林 信孝: 当院における卵巣がんに対する薬物療法～ Niraparib の使用経験を含めて～. Ovarian Cancer Web Seminar in Hyogo, WEB開催, 2022.1.31
17. 吉岡信也: 当院における卵巣癌治療の経験ー骨髄抑制の対応についてー. Ovarian Cancer Expert Web Seminar, WEB開催, 2022.2.7
18. 吉岡信也: 市中病院での COVID-19 の受け入れと院内感染対策. 京都府医師会母体保護法指定医師研修会, 京都, ハイブリッド開催, 2022.2.12
19. 前田振一郎, 中村充宏, 谷村昌哉, 佐藤晋平, 畑山裕生, 田辺優理子, 荻野敦子, 奥立みなみ, 小池彩美, 山添紗恵子, 崎山明香, 松林 彩, 川田悦子, 林 信孝, 小山瑠梨子, 田邊更衣子, 大竹紀子, 青木卓哉, 吉岡信也: 子宮全摘術既往の巨大卵巣腫瘍の一例. 第21回産婦人科手術療法・周術期研究会, 京都, ハイブリッド開催, 2022.3.18
20. 林 信孝: 当院へご紹介頂いた症例のその後. 英ウィメンズクリックドクター勉強会 2021, 神戸, 2022.3.30

## IX. 1. 22 泌尿器科

1. 国分英利, 神戸貴成, 峯 佑太, 萩本裕樹, 服部悠斗, 阿部陽平, 堤 尚史, 山崎俊成, 川喜田睦司: 腎癌に対する IO + TKI 療法の初期経験. 第6回泌尿器科腫瘍 Up to Date, 神戸, ハイブリッド開催, 2021.4.17
2. 山崎俊成: 進行性腎細胞癌の全身治療の変遷と現況. MSD 株式会社 社内研修会, 2021.4.27
3. パネリスト: エキスパートが考える症例に応じたベストレジメン. RCC Hybrid Web Seminar, 2021.5.11
4. 川喜田睦司: ザイティガによる前立腺癌の治療. 日本新薬・ヤンセン社内勉強会, 神戸, ハイブリッド開催, 2021.5.20
5. 川喜田睦司: 腎部分切除術の変遷: 私の選択. 第2回中国地区泌尿器臨床課題研究会, 山口, 神戸, 熊本, ハイブリッド開催, 2021.6.12
6. 山崎俊成: ワークショップー腎癌の治療戦略ー 腎がんに対する分子標的治療の現状と展望. 第81回兵庫県泌尿器科医会, 2021.6.26
7. 山崎俊成: 腎細胞癌治療の現状と展望. カボメティクス発売1周年記念講演会, 2021.6.28
8. 川喜田睦司: スポンサードレクチャー Vol.3 ～泌尿器腹腔鏡手術手技の向上を目指して～. Enseal X1 Ethicon Kobe Urologic Laparoscopy Seminar (EKULS), 神戸, ハイブリッド開催, 2021.7.10
9. 川喜田睦司: 進化する泌尿器科周術期管理. 泌尿器外科 WEB セミナー in 兵庫, 神戸, Web開催, 2021.7.13
10. 川喜田睦司: 前立腺癌の治療. アステラス社内勉強会, 神戸, 2021.7.15
11. 山崎俊成: 腎癌に対する手術療法再考: ロボット支援腎部分切除術. RCC Hybrid Web Seminar Area WEB セミナー, 2021.8.25
12. 村田詩織, 井上幸治, 牧田哲幸, 鈴木一生, 久保田聖史, 土肥洋一郎, 杉野善雄, 川喜田睦司: 経膈尿道針生検によって診断し得た IgG4 関連疾患の2例. 第86回日本泌尿器科学会東部総会, Web開催, 2021.9.3
13. 峯 佑太, 神戸貴成, 萩本裕樹, 山口立樹, 村田詩織, 国分英利, 牧田哲幸, 鈴木一生, 服部悠斗, 阿部陽平, 久保田聖史, 堤 尚史, 白石裕介, 山崎俊成, 川喜田睦司: フルニエ壊疽の治療経過に関する検討. 第86回日本泌尿器科学会東部総会, Web開催, 2021.9.3
14. 堤 尚史, 神戸貴成, 峯 佑太, 萩本裕樹, 国分英利, 服部悠斗, 阿部陽平, 山崎俊成, 川喜田睦司: 当院における前立腺肥大症 (BPH) 手術後のロボット支援下前立腺摘除術 (RARP) を行った13例の検討. 第86回日本泌尿器科学会東部総会, Web開催, 2021.9.3
15. 山崎俊成: 進行性腎細胞がんに対する複合免疫療法の役割. MSD Oncology インターネット講演会, 2021.9.6
16. Takeda M, Akamatsu S, Yamasaki T, Fukui T, Haitani T, Sakamoto H, Goto T, Sawada A, Ueda K, Kobayashi T, Ogawa O: PD49-06 Extracellular vesicles secreted by bone tropic renal cell carcinoma induce angiogenesis in bone marrow with potential to facilitate bone metastasis. AUA 2021 Annual Meeting, Virtual, 2021.9.12

17. Kubota M, Matsuoka T, Hagimoto H, Kokubun H, Mine Y, Murata S, Abe Y, Yamasaki T, Kawakita M : PD61-12 Impact of continued perioperative anticoagulant therapy on bleeding outcomes following robot-assisted radical prostatectomy. AUA 2021 Annual Meeting, Virtual, 2021.9.13
18. 川喜田睦司：前立腺癌などの手術療法. 第18回信州泌尿器手術ビデオディスカッション, Web開催, 2021.9.25
19. 萩本裕樹, 神戸貴成, 峯 佑太, 国分英利, 服部悠斗, 阿部陽平, 堤 尚史, 山崎俊成, 川喜田睦司：後腹膜鏡下腎尿管全摘術後のドレーン留置の必要性についての検討. 第71回日本泌尿器科学会中部総会, 名古屋, ハイブリッド開催, 2021.10.8
20. 山崎俊成, 久保田聖史, 神戸貴成, 峯 佑太, 萩本裕樹, 村田詩織, 国分英利, 阿部陽平, 服部悠斗, 堤 尚史, 川喜田睦司：シンポジウム15「ロボット時代の尿路変向術 ～理想的な術式の確立を目指して～」RARC/ICUDの術式標準化と周術期管理. 第71回日本泌尿器科学会中部総会, 名古屋, ハイブリッド開催, 2021.10.9
21. 川喜田睦司：ラパロ・ロボットあれこれ. Meet the Experts in Shizuoka, 静岡, Web開催, 2021.10.20
22. 川喜田睦司, 山崎俊成, 堤 尚史, 阿部陽平, 服部悠斗, 国分英利, 萩本裕樹, 峯 佑太, 神戸貴成, 石川英二：当病院での診療成績について. 第20回港島泌尿器科病院診療所交流会(灘・東灘・垂水・西・長田), 神戸, ハイブリッド開催, 2021.10.21
23. 山崎俊成, 神戸貴成, 峯 佑太, 萩本裕樹, 国分英利, 服部悠斗, 阿部陽平, 堤 尚史, 川喜田睦司：IO時代に1次治療を開始した進行性腎細胞癌の治療成績. 日本泌尿器腫瘍学会第7回学術集会, 横浜, ハイブリッド開催, 2021.10.23
24. 川喜田睦司：私のRARPすべて見せます～ELND・NS. TAR・ヘルニア防止～. AstraZeneca Urological TV Seminar, 神戸, Web開催, 2021.10.26
25. 川喜田睦司：LEGENDの軌跡. 第5回ゼロコン+シアター URONOWA, 神戸, Web開催, 2021.11.2
26. 国分英利, 神戸貴成, 峯 佑太, 萩本裕樹, 服部悠斗, 阿部陽平, 堤 尚史, 山崎俊成, 川喜田睦司：カバジタキセルにペグフィルグラスチムを併用した発熱性好中球減少症の予防効果の検討. 第73回西日本泌尿器科学会総会, 宮崎, ハイブリッド開催, 2021.11.4-6
27. 服部悠斗, 神戸貴成, 峯 佑太, 萩本裕樹, 国分英利, 阿部陽平, 堤 尚史, 山崎俊成, 川喜田睦司：腎洞突出がRAPNの手術難易度に与える影響についての検討. 第73回西日本泌尿器科学会総会, 宮崎, ハイブリッド開催, 2021.11.4-6
28. 阿部陽平, 神戸貴成, 峯 佑太, 萩本裕樹, 国分英利, 服部悠斗, 堤 尚史, 山崎俊成, 川喜田睦司：ロボット支援腹腔鏡下腎部分切除術(RAPN)と腹腔鏡下腎部分切除術(LPN)における術後腎実体積及び機能の検討. 第73回西日本泌尿器科学会総会, 宮崎, ハイブリッド開催, 2021.11.4-6
29. 川喜田睦司, 国分英利, 土肥洋一郎：Pringle法併用腹腔鏡下「完全一塊」根治的腎・下大静脈内腫瘍血栓摘除術. 第35回日本泌尿器内視鏡学会総会, 横浜, ハイブリッド開催, 2021.11.11
30. 山崎俊成, 川喜田睦司：ワークショップ1 高難度症例に対するロボット支援腎部分切除術：症例から学ぶ「腎洞埋没型および不整突出型腎癌に対するRAPN」. 第35回日本泌尿器内視鏡学会総会, 横浜, ハイブリッド開催, 2021.11.11
31. 寺地敏郎, 岩村正嗣, 中川 健, 繁田正信, 川喜田睦司, 小林泰之, 槇山和秀, 河内明宏, 松田公志, 金山博臣：JSE活動報告 インドネシア泌尿器腹腔鏡手術普及促進事業報告. 第35回日本泌尿器内視鏡学会総会, 横浜, ハイブリッド開催, 2021.11.11
32. 峯 佑太, 神戸貴成, 萩本裕樹, 国分英利, 服部悠斗, 阿部陽平, 久保田聖史, 堤 尚史, 山崎俊成, 川喜田睦司：下大静脈後尿管に対するロボット支援腹腔鏡下腎盂形成術. 第35回日本泌尿器内視鏡学会総会, 横浜, ハイブリッド開催, 2021.11.11
33. 国分英利, 神戸貴成, 峯 佑太, 萩本裕樹, 服部悠斗, 阿部陽平, 堤 尚史, 山崎俊成, 川喜田睦司：ロボット支援前立腺全摘除術における前立腺前面脂肪組織内リンパ節の検出予測因子. 第35回日本泌尿器内視鏡学会総会, 横浜, ハイブリッド開催, 2021.11.11
34. 阿部陽平, 神戸貴成, 峯 佑太, 萩本裕樹, 国分英利, 服部悠斗, 堤 尚史, 山崎俊成, 川喜田睦司：T1a/T1bにおけるロボット支援腎部分切除術(RAPN)後の腎実体積及び機能の検討. 第35回日本泌尿器内視鏡学会総会, 横浜, ハイブリッド開催, 2021.11.11

35. 神戸貴成, 山崎俊成, 峯 佑太, 萩本裕樹, 国分英利, 服部悠斗, 阿部陽平, 久保田聖史, 堤 尚史, 川喜田睦司: 無阻血腎実質無縫合の体腔鏡下/ロボット支援下腎部分切除術における周術期成績の比較. 第35回日本泌尿器内視鏡学会総会, 横浜, ハイブリッド開催, 2021.11.11
36. 川喜田睦司, 雑賀隆史, 土谷順彦, 橋根勝義: 第2部ディスカッション Merck & Pfizer. GU Oncology Internet Symposium, 神戸, 山形, 松山, Web開催, 2021.11.24
37. 山崎俊成: 腎細胞がんにおける発生的な知見の臨床応用を考える. GU メディカルセミナー Renal cell carcinoma carcinogenesis, 2021.11.28
38. 川喜田睦司: 肝静脈を超える腫瘍血栓に対する Pringle 法併用腹腔鏡下「完全一塊」根治的腎・下大静脈内腫瘍血栓摘除術. 第34回日本内視鏡外科学会総会, 神戸, ハイブリッド開催, 2021.12.3
39. 堤 尚史, 峯 佑太, 萩本裕樹, 村田詩織, 国分英利, 阿部陽平, 久保田聖史, 河野有香, 松岡崇志, 山崎俊成, 川喜田睦司: 当院における HoLEP 後に認めた偶発前立腺癌(病期 A)患者の長期経過についての検討. 第109回日本泌尿器科学会総会 (JUA2021), 横浜, 2021.12.8
40. 阿部陽平, 峯 佑太, 萩本裕樹, 山口立樹, 国分英利, 村田詩織, 牧田哲幸, 久保田聖史, 堤 尚史, 山崎俊成, 川喜田睦司: 腹腔鏡下腎部分切除術 (LPN) による患側分腎機能低下は腎体積減少と相関する. 第109回日本泌尿器科学会総会 (JUA2021), 横浜, 2021.12.8
41. 山崎俊成, 峯 佑太, 萩本裕樹, 村田詩織, 国分英利, 阿部陽平, 久保田聖史, 堤 尚史, 川喜田睦司: 体腔鏡下手術時代に根治手術を施行した腎癌 pT3a 症例の再発・転移に関する検討. 第109回日本泌尿器科学会総会 (JUA2021), 横浜, 2021.12.8
42. 峯 佑太, 神戸貴成, 萩本裕樹, 山口立樹, 菊谷詩織, 国分英利, 牧田哲幸, 服部悠斗, 阿部陽平, 久保田聖史, 堤 尚史, 山崎俊成, 川喜田睦司: 結石性腎盂腎炎による敗血症性ショック患者における結石治療の検討. 第109回日本泌尿器科学会総会 (JUA2021), 横浜, 2021.12.8
43. 萩本裕樹, 峯 佑太, 村田詩織, 国分英利, 阿部陽平, 久保田聖史, 堤 尚史, 山崎俊成, 川喜田睦司: 抗血小板薬/凝固薬の内服継続下での経直腸前立腺生検の出血に関する安全性の検討. 第109回日本泌尿器科学会総会 (JUA2021), 横浜, 2021.12.8
44. 久保田聖史, 川喜田睦司: シンポジウム 34 ロボット支援腎部分切除術の今後の展開: 腎機能温存最大化を目指して 腎実質縫合を最小化したロボット支援腎部分切除術. 第109回日本泌尿器科学会総会 (JUA2021), 横浜, 2021.12.9
45. 国分英利, 鈴木一生, 峯 佑太, 萩本裕樹, 山口立樹, 村田詩織, 阿部陽平, 久保田聖史, 土肥洋一郎, 堤 尚史, 井上幸治, 山崎俊成, 川喜田睦司: 前立腺癌ホルモン治療が代謝系に及ぼす影響の検討. 第109回日本泌尿器科学会総会 (JUA2021), 横浜, 2021.12.9
46. 村田詩織, 神戸貴成, 峯 佑太, 萩本裕樹, 山口立樹, 国分英利, 牧田哲幸, 阿部陽平, 久保田聖史, 土肥洋一郎, 堤 尚史, 井上幸治, 山崎俊成, 川喜田睦司: 腹膜外アプローチによるロボット支援前立腺全摘除術: 経腹アプローチとの比較検討. 第109回日本泌尿器科学会総会 (JUA2021), 横浜, 2021.12.9
47. 松山豪泰, 井上啓史, 藤本清秀, 小山政史, 三宅秀明, 東 治人, 西山博之, 篠原信雄, 大山 力, 三井貴彦, 溝上 敦, 久米春樹, 川喜田睦司: 高リスク筋層非浸潤性膀胱がんに対する PDD-TUR による残存腫瘍減少効果の検討—BRIGHT study 解析結果報告—. 第109回日本泌尿器科学会総会 (JUA2021), 横浜, 2021.12.9
48. 神戸貴成, 山崎俊成, 峯 佑太, 萩本裕樹, 村田詩織, 国分英利, 阿部陽平, 久保田聖史, 堤 尚史, 川喜田睦司: 無阻血・腎実質無縫合の体腔鏡下ならびにロボット支援下腎部分切除術の周術期成績. 第109回日本泌尿器科学会総会 (JUA2021), 横浜, 2021.12.9
49. 賀本敏行, 松本力哉, 溝上 敦, 三宅秀明, 上村博司, 松山豪泰, 仲村和芳, 齋藤一隆, 川喜田睦司, 竹下英毅, 伊藤美紅, 植村天受, 藤本清秀: 日本の高リスク転移性ホルモン療法感受性前立腺癌患者の臨床転帰を観察するレジストリ試験(J-ROCK 試験): 18か月時点での中間報告. 第109回日本泌尿器科学会総会 (JUA2021), 横浜, 2021.12.9
50. 阿部陽平, 神戸貴成, 峯 佑太, 萩本裕樹, 国分英利, 服部悠斗, 堤 尚史, 山崎俊成, 川喜田睦司: 当院におけるイピニボの使用経験. RCC Web Live Seminar, 大阪, Web開催, 2021.12.14
51. 川喜田睦司: 腹腔鏡手術. 第6回日本泌尿器科学会ウインターセミナー 2022, 神戸, ハイブリッド開催, 2022.1.22
52. 川喜田睦司: シンポジウム I 尿路変向術式のポイント 体腔内新膀胱造設術. 第39回泌尿器科手術研究会, 和歌山, ハイブリッド開催, 2022.1.29



53. 川喜田睦司：泌尿器科医が伝える CIC の重要性. コロプラストコンチネンスケアオンデマンドセミナー第 1 回, 神戸, Web 開催, 2022.2.7
54. 神戸貴成, 峯 佑太, 萩本裕樹, 国分英利, 服部悠斗, 阿部陽平, 堤 尚史, 山崎俊成, 川喜田睦司：後腹膜腫瘍の 1 例. 兵庫・岡山 RCC 講演会, 神戸, ハイブリッド開催, 2022.2.19
55. 川喜田睦司：領域別シンポジウム 7「前立腺」 RARP 術式の工夫. 第 14 回日本ロボット外科学会学術集会, Web 開催, 2022.2.27
56. 川喜田睦司：私のロボット支援手術～ RARC を中心に～. 東北泌尿器科手術手技セミナー, 仙台, 神戸, Web 開催, 2022.3.12
57. 川喜田睦司, 山崎俊成, 堤 尚史, 阿部陽平, 服部悠斗, 国分英利, 萩本裕樹, 峯 佑太, 神戸貴成, 藤原佑, 石川英二：当病院での診療成績について. 第 21 回港島泌尿器科病院診療所交流会 (明石・芦屋・淡路・西宮・三田・兵庫・中央), 神戸, ハイブリッド開催, 2022.3.24
58. 服部悠斗：当院におけるリムパーザの初期使用経験. 第 21 回港島泌尿器科病院診療所交流会 (明石・芦屋・淡路・西宮・三田・兵庫・中央), 神戸, ハイブリッド開催, 2022.3.24

## IX. 1. 23 耳鼻咽喉科

1. 山崎博司：(学術セミナー) 残存聴力活用型人工内耳 (EAS) と人工内耳のシームレス化に向けて. 第 122 回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会, 京都, ハイブリッド開催, 2021.5.13
2. 山崎博司, 内藤 泰, 藤原敬三, 篠原尚吾, 竹林慎治, 濱口清海, 道田哲彦, 池永 直, 戸部陽太, 濱本文美, 安本眞美：当院の EAS 症例における残存聴力の長期経過. 第 122 回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会, 京都, ハイブリッド開催, 2021.5.13
3. 内藤 泰：(パネルディスカッション/パネリスト) 耳科領域のサブスペシャリティ選択について. 第 122 回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会, 京都, ハイブリッド開催, 2021.5.15
4. 山崎博司：(手術実技研修・インストラクター) 人工内耳. 第 122 回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会, 京都, ハイブリッド開催, 2021.5.15
5. 大江健吾, 山崎博司, 平塚康之, 渡邊佳紀, 吉田尚生, 草野純子, 田口敦士, 岡村佳奈, 田中千智, 藤川詩織：外耳・中耳奇形を認めた Fraser 症候群の一例. 第 122 回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会, 京都, ハイブリッド開催, 2021.5.15
6. 山崎博司：人工内耳装用者における聴覚関連脳機能検査. 神戸市立医療センター中央市民病院 部長会, 神戸, 2021.5.28
7. 諸頭三郎：(講演) 人工内耳小児のマッピング. 第三回コクレア プロフェッショナルウェビナー, WEB 開催, 2021.6.4
8. 諸頭三郎：(講演) 学校生活と人工内耳のトラブル. 兵庫県立こばと聴覚支援学校職員研修会, 西宮, 2021.6.15
9. 諸頭三郎：(講演) 内耳・内耳道奇形小児の人工内耳医療—マッピングを中心に. 日本コクレア社人工内耳マッピング研修会, 博多, 2021.6.26
10. 安本眞美, 藤原敬三, 山崎博司, 道田哲彦, 篠原尚吾, 濱口清海, 池永 直, 戸部陽太, 濱本文美, 上田啓史, 山元智子, 諸頭三郎, 山崎朋子, 玉谷輪子, 藤井直子, 前川圭子, 内藤 泰：人工内耳を長期装用している後期高齢者の検討. 第 196 回日耳鼻兵庫県地方部会 (耳鼻咽喉科・頭頸部外科学会), 神戸, ハイブリッド開催, 2021.7.11
11. 内藤 泰：(講演 1) きこえと脳のはたらき. NHK カルチャー きこえの市民公開講座 人工内耳医療～補聴器でもききとりにくい方へ～, 神戸, 2021.7.24
12. 藤井直子：(講演 2) 成人の人工内耳—きこえとりハビリテーション—. NHK カルチャー きこえの市民公開講座 人工内耳医療～補聴器でもききとりにくい方へ～, 神戸, 2021.7.24
13. 諸頭三郎：人工内耳装用児のインクルージョン—保育所. 幼稚園に伝えておくこと—. 神戸難聴サロン, 神戸市, WEB, 2021.7.27
14. 山崎博司：難聴の原因と人工内耳の適応. 第 23 回 Web 神戸難聴サロン, 神戸, 2021.9.28
15. 前川圭子：(イブニングセミナー) professional singer の音声障害に対する音声治療. 第 66 回日本音声言語医学会総会・学術講演会, WEB 開催, 2021.10.8

16. 藤原敬三, 上田啓史, 安本眞美, 戸部陽太, 道田哲彦, 山崎博司, 瀧口清海, 内藤 泰: 当科における小児真珠腫症例の検討. 第31回日本耳科学会総会・学術講演会, 東京, ハイブリッド開催, 2021.10.14
17. 安本眞美, 藤原敬三, 山崎博司, 瀧口清海, 道田哲彦, 戸部陽太, 上田啓史, 内藤 泰: 人工内耳を長期装着している後期高齢者の検討. 第31回日本耳科学会総会・学術講演会, 東京, ハイブリッド開催, 2021.10.14
18. 戸部陽太, 山崎博司, 内藤 泰, 瀧口清海, 道田哲彦, 安本眞美, 上田啓史: 人工内耳術前に鼓膜換気チューブ留置術を施行した乳幼児例の検討. 第31回日本耳科学会総会・学術講演会, 東京, ハイブリッド開催, 2021.10.14
19. 上田啓史, 山崎博司, 藤原敬三, 瀧口清海, 道田哲彦, 戸部陽太, 安本眞美, 内藤 泰: 後天的に高位裂開性頸静脈球が形成された小児の1例. 第31回日本耳科学会総会・学術講演会, 東京, ハイブリッド開催, 2021.10.14
20. 山崎博司: (シンポジウム/シンポジスト) 包括的な聴覚関連他覚的検査を用いた次世代の人工内耳医療の開発を目指して. 第31回日本耳科学会総会・学術講演会, 東京, ハイブリッド開催, 2021.10.15
21. 山崎博司: (ランチョンセミナー) コクレア人工内耳の電極ポートフォリオ 電極選択の悩み解消セミナー. 第31回日本耳科学会総会・学術講演会, 東京, ハイブリッド開催, 2021.10.15
22. 山崎朋子: (ランチョンセミナー) 人工内耳～候補患者の適応評価とカウンセリング～. 第66回日本聴覚医学会総会・学術講演会, 東京, ハイブリッド開催, 2021.10.21
23. 内藤 泰, 藤原敬三, 山崎博司, 諸頭三郎, 山崎朋子, 玉谷輪子, 藤井直子, 宇佐美真一, 茂木英明, 森 壽子: 先天性高度難聴小児のコミュニケーションモードと脳機能. 第66回日本聴覚医学会総会・学術講演会, 東京, ハイブリッド開催, 2021.10.21
24. 玉谷輪子, 山崎博司, 山崎朋子, 藤井直子, 諸頭三郎, 藤原敬三, 内藤 泰: Custom Sound<sup>®</sup> Pro を使用した人工内耳の患者在宅遠隔マッピング. 第66回日本聴覚医学会総会・学術講演会, 東京, ハイブリッド開催, 2021.10.22
25. 諸頭三郎: 人工内耳小児や軽・中等度難聴児の課題～学童期以降の聞こえと教科学習について～. 姫路聴覚特別支援学校と東播地区難聴学級担当者会議, 姫路, 2021.11.19
26. 諸頭三郎: 聴神経形成不全小児のマッピング. 日本コクレア第4回プロフェッショナルウェビナー, 大阪, リモート, 2021.11.27
27. 安本眞美: 人工内耳を長期装着している後期高齢者の検討. 第39回京都耳鼻咽喉科研究会, 京都, 2021.12.4
28. 内藤 泰: (ワーキンググループ報告) 耳科領域. 第39回京都耳鼻咽喉科研究会, 京都, 2021.12.4
29. 前川圭子: 音声治療について. 第17回神戸市立医療センター中央市民病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 地域合同カンファレンス, WEB開催, 2021.12.9
30. 内藤 泰: 総合聴覚センターの創設とその役割. 第17回神戸市立医療センター中央市民病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 地域合同カンファレンス, WEB開催, 2021.12.9
31. Naito Y, Fujiwara K, Yamazaki H, Moroto S, Yamazaki T, Tamaya R, Fujii N, Usami S, Moteki H, Mori T: Cortical network for speech reading in prelingually deafened children develops differently depending on their primary communication mode. The 13th Asia pacific symposium on cochlear implantation and related sciences, virtual on-line, 2021.12.9
32. Yamazaki H: (Symposium) Objective Measurements of Auditory Nerve Responses in CI Children with Inner Ear Malformations. The 13th Asia pacific symposium on cochlear implantation and related sciences, virtual on-line, 2021.12.9
33. Yamazaki H, Naito Y, Moroto S, Yamazaki T, Tamaya R, Fujii N: Measurement of auditory cortical responses using fNIRS in CI children with inner ear malformations. The 13th Asia pacific symposium on cochlear implantation and related sciences, virtual on-line, 2021.12.9
34. Naito Y, Yamazaki H, Fujiwara K, Moroto S, Yamazaki T, Tamaya R, Fujii N, Shinohara S: (Symposium) Predicting outcomes in children - including need for early intervention. The 13th Asia pacific symposium on cochlear implantation and related sciences, virtual on-line, 2021.12.10

35. 藤原敬三, 内藤 泰, 篠原尚吾, 瀨口清海, 山崎博司, 道田哲彦, 池永 直, 戸部陽太, 濱本文美, 安本眞美, 上田啓史, 山元智子: 鼓膜穿孔に対する手術治療について. 第 197 回日耳鼻兵庫県地方部会 (耳鼻咽喉科・頭頸部外科学会), 西宮, ハイブリッド開催, 2021.12.12
36. 内藤 泰, 山崎博司, 藤原敬三, 諸頭三郎, 山崎朋子, 玉谷輪子, 藤井直子: 人工内耳小児のコミュニケーションモード選択. 第 197 回日耳鼻兵庫県地方部会 (耳鼻咽喉科・頭頸部外科学会), 西宮, ハイブリッド開催, 2021.12.12
37. 前川圭子: (講演) ことばの発達に対する支援. 袋井市子ども早期療育支援センター 職員研修会, 袋井, 2021.12.22
38. 山崎朋子: (講話) 人工内耳装用児の学校生活と受験～中高生に向けて～. 神戸難聴患者サロン, オンライン開催, 2022.2.22

#### IX. 1. 24 頭頸部外科

1. 戸部陽太, 篠原尚吾, 竹林慎治, 瀨口清海, 道田哲彦, 齊田浩二, 水野敬介, 藤原敬三, 内藤 泰: 術前画像で頸部神経原性腫瘍を疑い経過観察を選択した 9 症例の検討. 第 38 回京都耳鼻咽喉科研究会, ハイブリッド開催, 2021.4.3
2. 井上祥花, 藤本寛太, 長谷部雅士, 大久保万理江, 篠谷雄二, 岩倉敏夫, 松岡直樹, 濱本文美, 竹林慎治: 外科的切除が可能だった直腸癌甲状腺転移の 1 例. 第 94 回日本内分泌学会学術総会, バーチャル開催, 2021.4.22
3. 堀 龍介, 児嶋 剛, 大槻周也, 篠原尚吾, 大森孝一: ニボルマブ投与中止後の追加治療の検討. 第 122 回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会, 京都, ハイブリッド開催, 2021.5.13
4. 濱本文美, 竹林慎治, 安本眞美, 戸部陽太, 池永 直, 道田哲彦, 瀨口清海, 山崎博司, 藤原敬三, 内藤 泰, 山下大祐, 原 重雄, 篠原尚吾: 鼻腔および喉頭に病変を来した IgG4 関連疾患の 1 例. 第 122 回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会, 京都, ハイブリッド開催, 2021.5.15
5. 道田哲彦, 篠原尚吾, 安本眞美, 濱本文美, 戸部陽太, 池永 直, 山崎博司, 瀨口清海, 竹林慎治, 藤原敬三, 内藤 泰, 原 重雄: 口腔癌皮弁再建術後に皮弁上に発癌した 2 症例. 第 122 回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会, 京都, ハイブリッド開催, 2021.5.15
6. 竹林慎治, 篠原尚吾, 濱本文美, 安本眞美, 戸部陽太, 池永 直, 道田哲彦, 山崎博司, 瀨口清海, 藤原敬三, 内藤 泰: 甲状腺腫瘍における気道確保の検討. 第 122 回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会, 京都, ハイブリッド開催, 2021.5.15
7. 瀨口清海, 篠原尚吾, 竹林慎治, 道田哲彦, 池永 直, 戸部陽太, 安本眞美, 濱本文美: 頭頸部癌化学放射線療法後に撮像した PET-CT による予後予測の検討. 第 122 回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会, 京都, ハイブリッド開催, 2021.5.15
8. 篠原尚吾, 原田博之, 菊地正弘, 玉木久信, 瀨口清海, 安里 亮, 堀 龍介, 本多啓吾, 辻村隆司, 隈部洋平, 市丸和之, 木谷芳晴, 牛呂幸司, 大森孝一: 頬粘膜癌の臨床的検討—多施設後方視研究の口腔癌データベースから—. 第 45 回日本頭頸部癌学会, 浦安, ハイブリッド開催, 2021.6.17
9. 水田匡信, 篠原尚吾, 菊地正弘, 岸本 曜, 安里 亮, 玉木久信, 堀 龍介, 児嶋 剛, 辻村隆司, 本多啓吾, 原田博之, 隈部洋平, 木谷芳晴, 市丸和之, 牛呂幸司, 大森孝一: リンパ節転移節外浸潤を認めない切除断端陰性の口腔癌における術後放射線療法の要否. 第 45 回日本頭頸部癌学会, 浦安, ハイブリッド開催, 2021.6.17
10. 道田哲彦, 篠原尚吾, 竹林慎治, 瀨口清海, 池永 直, 戸部陽太, 安本眞美, 濱本文美, 原 重雄: 頬部に発生した線維肉腫成分を伴う隆起性皮膚線維肉腫の一例. 第 45 回日本頭頸部癌学会, 浦安, ハイブリッド開催, 2021.6.17
11. 北村守正, 渡邊佳紀, 篠原尚吾, 隈部洋平, 前谷俊樹, 原田博之, 玉木久信, 安里 亮, 堀 龍介, 本多啓吾, 水田匡信, 大森孝一: 切除不能甲状腺癌に対するレンバチニブの効果に関する多施設共同後方視的研究. 第 45 回日本頭頸部癌学会, 浦安, ハイブリッド開催, 2021.6.17
12. 安本眞美, 篠原尚吾, 竹林慎治, 瀨口清海, 道田哲彦, 池永 直, 戸部陽太, 濱本文美: 組織内照射治療後 20 年以上経過し、照射野に再び発生した舌癌の 2 症例. 第 45 回日本頭頸部癌学会, 浦安, ハイブリッド開催, 2021.6.17

13. 竹林慎治, 篠原尚吾, 安本眞美, 濱本文美, 池永 直, 道田哲彦, 瀧口清海: 体幹部原発癌から頸部リンパ節に転移した症例の予後. 第 45 回日本頭頸部癌学会, 浦安, ハイブリッド開催, 2021.6.17
14. 池永 直, 篠原尚吾, 竹林慎治, 瀧口清海, 道田哲彦, 戸部陽太, 濱本文美, 安本眞美: 当院における口蓋小唾液腺腫瘍の検討. 第 45 回日本頭頸部癌学会, 浦安, ハイブリッド開催, 2021.6.17
15. 戸部陽太, 篠原尚吾, 竹林慎治, 濱本文美, 道田哲彦, 池永 直, 安本眞美, 濱本文美: 頭頸部癌に対する化学放射線治療後骨髄異形成症候群を合併し頸部感染治療に難渋した症例. 第 45 回日本頭頸部癌学会, 浦安, ハイブリッド開催, 2021.6.17
16. 金沢佑治, 菊地正弘, 篠原尚吾: 甲状腺への転移を契機に判明した大腸原発 Mixed neuroendocrine-non-neuroendocrine neoplasm (MiNEN) 例. 第 45 回日本頭頸部癌学会, 浦安, ハイブリッド開催, 2021.6.17
17. 菊地正弘, 原田博之, 安里 亮, 玉木久信, 堀 龍介, 本多啓吾, 辻村隆司, 隈部洋平, 篠原尚吾, 大森孝一: 口腔癌における健側頸部潜在的リンパ節転移の多施設共同後方視的研究. 第 45 回日本頭頸部癌学会, 浦安, ハイブリッド開催, 2021.6.18
18. 濱本文美, 篠原尚吾, 上田啓史, 山元智子, 安本眞美, 戸部陽太, 池永 直, 道田哲彦, 瀧口清海, 山崎博司, 藤原敬三, 内藤 泰, 山下大祐, 原 重雄: 放射線照射後 30 年で遅発性放射線性喉頭壊死を来した一例. 第 196 回日耳鼻兵庫県地方部会 (耳鼻咽喉科・頭頸部外科学会), 神戸, ハイブリッド開催, 2021.7.11
19. 道田哲彦, 篠原尚吾, 瀧口清海, 安本眞美: 当院で初回手術を行った甲状腺髄様癌 4 例. 第 54 回日本内分秘外科学会学術大会, WEB 開催, 2021.10.28
20. 安本眞美, 篠原尚吾, 瀧口清海, 道田哲彦, 永井宏樹: Lenvatinib 投与にて長期生存を得ている、頸動脈浸潤及び頸椎転移による下肢麻痺を伴う甲状腺未分化癌の一例. 第 54 回日本内分秘外科学会学術大会, WEB 開催, 2021.10.28
21. 岡本龍郎, 杉尾賢二, 眞庭謙昌, 藤也寸志, 岡田守人, 山下 拓, 篠原尚吾, 吉野一郎, 千田雅之, 桑野博行, 塩谷彰浩: 降下性壊死性縦隔炎に関する多施設観察研究. 第 72 回日本気管食道科学会総会ならびに学術講演会, WEB 開催, 2021.11.11
22. 山元智子, 篠原尚吾, 上田啓史, 安本眞美, 濱本文美, 戸部陽太, 池永 直, 道田哲彦, 山崎博司, 瀧口清海, 藤原敬三, 内藤 泰, 浅香葉子, 瀬尾龍太郎, 柳井真知: 当院で気管切開を施行した COVID-19 症例 41 例の検討 - 特に第 4 波の影響について -. 第 72 回日本気管食道科学会総会ならびに学術講演会, WEB 開催, 2021.11.11
23. 澤井瑠一, 藤本寛太, 藤島雄幸, 大久保万理江, 簗谷雄二, 岩倉敏夫, 松岡直樹, 安本眞美, 山村彰吾, 高橋加奈, 原 重雄: 内科的治療を行った ACTH 産生嗅神経芽細胞腫の 1 例. 第 31 回臨床内分分泌代謝 Update, 大阪, ハイブリッド開催, 2021.11.26
24. 濱本文美: 鼻腔および喉頭に病変を来した IgG4 関連疾患の 1 例. 第 39 回京都耳鼻咽喉科研究会, 京都, 2021.12.4
25. 篠原尚吾: 頭頸部領域 (ワーキンググループ報告). 第 39 回京都耳鼻咽喉科研究会, 京都, 2021.12.4
26. 池永 直, 戸部陽太, 安本眞美, 濱本文美, 上田啓史, 山元智子: 症例報告. 第 17 回神戸市立医療センター中央市民病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 地域合同カンファレンス, WEB 開催, 2021.12.9
27. 篠原尚吾: 当科の現状とスタッフ紹介. 第 17 回神戸市立医療センター中央市民病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 地域合同カンファレンス, WEB 開催, 2021.12.9
28. 安本眞美, 篠原尚吾, 内藤 泰, 藤原敬三, 瀧口清海, 山崎博司, 道田哲彦, 池永 直, 戸部陽太, 濱本文美, 上田啓史, 山元智子: 水様性鼻汁を契機に受診した特発性髄液鼻漏の一例. 第 197 回日耳鼻兵庫県地方部会 (耳鼻咽喉科・頭頸部外科学会), 西宮, 2021.12.12
29. 濱本文美, 上田啓史, 山元智子, 安本眞美, 戸部陽太, 池永 直, 道田哲彦, 瀧口清海, 山崎博司, 藤原敬三, 内藤 泰, 篠原尚吾: 進行肺癌と早期喉頭癌を合併し治療方針に検討を要した 1 例. 第 197 回日耳鼻兵庫県地方部会 (耳鼻咽喉科・頭頸部外科学会), 西宮, 2021.12.12
30. 道田哲彦, 篠原尚吾, 上田啓史, 濱本文美, 安本眞美, 瀧口清海: 摘出に難渋した頸動脈小体腫瘍の一例. 第 31 回日本頭頸部外科学会総会ならびに学術講演会, 大阪, ハイブリッド開催, 2022.3.3
31. 濱本文美, 上田啓史, 安本眞美, 道田哲彦, 瀧口清海, 篠原尚吾: 木片異物が眼窩内側壁から頭蓋内に達した穿通外傷の一例. 第 31 回日本頭頸部外科学会総会ならびに学術講演会, 大阪, ハイブリッド開催, 2022.3.4

32. 安本眞美, 篠原尚吾, 瀧口清海, 道田哲彦, 濱本文美, 上田啓史: 段階的な外科的切除を要した良性対称性脂肪腫症の1例. 第31回日本頭頸部外科学会総会ならびに学術講演会, 大阪, ハイブリッド開催, 2022.3.4
33. 上田啓史, 瀧口清海, 道田哲彦, 濱本文美, 安本眞美, 篠原尚吾: 残存甲状腺切除術を施行した甲状腺癌の検討. 第31回日本頭頸部外科学会総会ならびに学術講演会, 大阪, ハイブリッド開催, 2022.3.4

## IX. 1. 25 麻酔科

1. 山下 博, 美馬裕之: 腹腔鏡下手術中のデクスメトミジン先行投与による術後鎮痛効果. 日本麻酔科学会第68回学術集会, WEB開催, 2021.6.3
2. 東別府直紀, 柚木一馬, 下藪崇宏, 美馬裕之: 手術室内でエアロゾルを受けにくい場所はどこか? 日本麻酔科学会第68回学術集会, WEB開催, 2021.6.3
3. 宮本将太, 植田浩司, 下藪崇宏: 甲状腺クリーゼを発症し、診断に難渋した一例について. 日本集中治療医学会第5回関西支部学術集会, WEB開催, 2021.7.24
4. 穆 慧麗, 占部大地, 宮脇郁子, 美馬裕之: 下行大動脈感染による大動脈食道瘻 (AEF) に対する食道抜去術において、体外式膜式人工肺 (VV-ECMO) を用いて呼吸管理を行った1例. 日本麻酔科学会第67回関西支部学術集会, WEB開催, 2021.9.4
5. 三宅悠介, 宮脇郁子, 東別府直紀, 美馬裕之: 先天性パラミオトニア患者の帝王切開における麻酔経験. 日本麻酔科学会第67回関西支部学術集会, WEB開催, 2021.9.4
6. 宮沢嘉英, 占部大地, 東別府直紀, 美馬裕之: 最重症持続型喘息患者に対する子宮鏡下内膜搔爬術を脊髄くも膜下麻酔で管理した1例. 日本麻酔科学会第67回関西支部学術集会, WEB開催, 2021.9.4
7. 野原静華, 柚木一馬, 美馬裕之: 右上葉選択換気中に右上葉を損傷し上下二肺葉換気に変更し安全に管理しえた一例. 日本麻酔科学会第67回関西支部学術集会, WEB開催, 2021.9.4
8. 松本絢子, 河本 怜, 宮脇郁子, 穆 慧麗, 美馬裕之: 急性重症周産期心筋症合併の高度肥満妊婦に対して体外循環待機下で緊急帝王切開を施行した一例. 日本麻酔科学会第67回関西支部学術集会, WEB開催, 2021.9.4
9. 馬淵彰悟, 宮脇郁子, 美馬裕之: 術前の慎重な麻酔計画により安全に施行し得た全身性肥満細胞症患者に対する全身麻酔下腹腔鏡下胆嚢摘出術の一例. 日本麻酔科学会第67回関西支部学術集会, WEB開催, 2021.9.4
10. 岡口千夏, 宮脇郁子, 美馬裕之: COVID-19患者の気管切開における手術室で麻酔管理. 日本麻酔科学会第67回関西支部学術集会, WEB開催, 2021.9.4
11. 馬淵彰悟, 宮脇郁子, 美馬裕之: 急性の右心不全に至り、VA-ECMOにより救命し得た術中脂肪塞栓症候群の一例. 日本心臓血管麻酔学会第26回学術大会, オンライン開催, 2021.10.23
12. 西垣春菜, 宮脇郁子, 美馬裕之: MitraClip術中に冠動脈空気塞栓症を疑う一過性心機能低下をきたした一例. 日本心臓血管麻酔学会第26回学術大会, オンライン開催, 2021.10.23
13. 嶋津義人, 宮脇郁子, 美馬裕之: セフトリアキソンによる遷延するアナフィラキシーショックをきたし、Kounis症候群が疑われた一例. 日本心臓血管麻酔学会第26回学術大会, オンライン開催, 2021.10.23
14. 野原静華, 柚木一馬, 美馬裕之: 硬膜外麻酔併用脊髄くも膜下麻酔で管理を行った閉塞性肥大型心筋症合併妊婦に対する緊急帝王切開術の一例. 日本心臓血管麻酔学会第26回学術大会, オンライン開催, 2021.10.23
15. 砂田大賀, 宮脇郁子, 河本 怜, 美馬裕之: 透析患者において偶発的に診断された calcified amorphous tumor の2症例. 日本心臓血管麻酔学会第26回学術大会, オンライン開催, 2021.10.23
16. 伊藤次郎, 瀬尾龍太郎, 大内謙二郎, 野浪 豪, 三好祐輔, 建部将夫, 土田高裕, 嶋田博樹, 宮本将太, 有吉孝一: 神戸市における COVID-19 挿管人工呼吸症例 197 例の退院時転帰: 単施設観察研究. 第49回日本集中治療医学会学術集会, WEB開催, 2022.3.18
17. 三好祐輔, 伊藤次郎, 大内謙二郎, 野浪 豪, 建部将夫, 土田高裕, 嶋田博樹, 宮本将太, 有吉孝一, 美馬裕之: COVID-19 パンデミック前後での非 COVID-19 重症患者の転帰の比較検討. 第49回日本集中治療医学会学術集会, WEB開催, 2022.3.19
18. 嶋田博樹, 瀬尾龍太郎, 井本寛東, 蓮池俊和, 有吉孝一, 美馬裕之: 二次性血球貪食性リンパ組織球症を合併した重症 COVID-19 の2症例. 第49回日本集中治療医学会学術集会, WEB開催, 2022.3.19

## IX. 1. 26 歯科口腔外科

1. 梨 正典, 竹信俊彦: G1-37 周術期口腔機能管理を介した地域連携システムの構築と評価. 第 18 回日本口腔ケア学会総会・学術大会 第 1 回国際口腔ケア学会総会・学術大会 合同会議, 東京, 2021.4.17-18
2. 松下優希, 山本信祐, 尾古玲佳, 甲斐彩華, 梨 正典, 前田圭吾, 谷池直樹, 山下大祐, 竹信俊彦: P-症例-51 上顎に発生した石灰化歯原性嚢胞の 1 例. 第 75 回 NPO 法人日本口腔科学会学術集会, 大阪, ハイブリッド開催, 2021.5.12-14
3. 前田圭吾, 平井雄三, 山本信祐, 谷池直樹, 竹信俊彦: P-臨床-29 感染性心内膜炎患者の血液培養から分離された口腔内細菌についての検討. 第 75 回 NPO 法人日本口腔科学会学術集会, 大阪, ハイブリッド開催, 2021.5.12-14
4. 池末裕明, 土居晃平, 森本麻友, 平島正樹, 室井延之, 山本信祐, 竹信俊彦, 橋田 亨: P-07 デノスマブおよびゾレドロン酸投与患者における顎骨壊死発現リスクの評価: 傾向スコアマッチング解析. 第 13 回日本がん薬剤学会学術大会, 松山, Web 開催, 2021.5.29
5. 竹信俊彦: 開咬症例における顎矯正手術 - 上顎に対する対応 (Le Fort I 骨切り術, 前歯部歯槽骨切り術). 第 31 回日本顎変形症学会総会・学術大会・第 17 回教育研修会, WEB 開催, 2021.6.11
6. 竹信俊彦: シンポジウム 3 感染症流行期における顎変形症治療の現状と課題-神戸市立医療センター中央市民病院における COVID-19 対策の取り組み. 第 31 回日本顎変形症学会総会・学術大会, 仙台, ハイブリッド開催, 2021.6.12
7. 松下優希, 前田圭吾, 尾古玲佳, 甲斐彩華, 梨 正典, 山本信祐, 谷池直樹, 山下大祐, 竹信俊彦: 口演-18 上顎に発生した歯根吸収を伴う腺腫様歯原性腫瘍の 1 例. 第 52 回 (公社) 日本口腔外科学会近畿支部学術集会, Web 開催, 2021.7.3
8. Yamamoto S, Nashi M, Maeda K, Taniike N, Takenobu T: Application of an open position splint integrated with a reference frame and registration markers for mandibular navigation surgery. 25th Congress of the European Association for Cranio Maxillo Facial Surgery, Virtual event, 2021.7.14-16
9. 谷池直樹, 竹信俊彦, 前田圭吾, 山本信祐: 観血的整復固定術を施行した萎縮下顎骨骨体部骨折の 4 例. 第 22 回日本口腔顎顔面外傷学会総会・学術大会, WEB 開催, 2021.8.2-15
10. 竹信俊彦: シンポジウム COVID-19 High Volume Center での歯科口腔外科診療~わたしたちの対応~④神戸市立医療センター中央市民病院での対応. (一社) 日本口腔感染症学会第 30 回記念学術大会・総会, 神戸, 2021.10.31
11. 甲斐彩華, 谷池直樹, 河村隆昇, 長尾有里香, 松下優希, 尾古玲佳, 梨 正典, 前田圭吾, 山本信祐, 竹信俊彦: 7. 歯性感染症の治療中に脳梗塞を発症した 1 例. (一社) 日本口腔感染症学会第 30 回記念学術大会・総会, 神戸, 2021.10.31
12. 山本信祐, 松下優希, 尾古玲佳, 甲斐彩華, 梨 正典, 前田圭吾, 谷池直樹, 原 重雄, 宇佐美悠, 竹信俊彦: P38-02) ナビゲーション手術が有用であった下顎の歯原性粘液腫; 症例報告. 第 66 回公益社団法人日本口腔外科学会総会・学術大会, 千葉, ハイブリッド開催, 2021.11.12-14
13. 松下優希, 梨 正典, 尾古玲佳, 甲斐彩華, 前田圭吾, 山本信祐, 谷池直樹, 山下大祐, 竹信俊彦: P25-03) 顎関節に発生し滑膜性軟骨腫瘍と併存したピロリン酸カルシウム結晶沈着症の 1 例. 第 66 回公益社団法人日本口腔外科学会総会・学術大会, 千葉, ハイブリッド開催, 2021.11.12-14
14. 梨 正典, 山本信祐, 尾古玲佳, 甲斐彩華, 前田圭吾, 谷池直樹, 竹信俊彦: P47-02) 口腔扁平苔癬に併発した閉塞性細気管支炎の 1 例. 第 66 回公益社団法人日本口腔外科学会総会・学術大会, 千葉, ハイブリッド開催, 2021.11.12-14
15. Yamamoto S, Nashi M, Maeda K, Taniike N, Hara S, Takenobu T: Navigation-assisted transoral resection of a mandibular odontogenic myxoma. ANZAOMS 2021 Hybrid Annual Scientific Meeting, Hybrid, 2021.11.12-13
16. 竹信俊彦: シンポジウム 5 「新型コロナウイルス (COVID-19) 対策の現状とこれから」 感染流行期における口腔外科手術の現状と課題-神戸市立医療センター中央市民病院における COVID-19 対策の取り組み-. 第 66 回公益社団法人日本口腔外科学会総会・学術大会, 千葉, ハイブリッド開催, 2021.11.13

## IX. 1. 27 病理診断科

1. 高橋加奈, 山口貴子, 西野彰悟, 清水祐里, 山下大祐, 細谷和也, 猪熊哲朗, 岸本光夫, 原 重雄: 腺窩上皮の過形成ならびに微小粘膜内癌を伴った十二指腸異所性胃粘膜の一例. 第 110 回日本病理学会総会, 東京, ハイブリッド開催, 2021.4.22

2. 山口貴子, 高橋加奈, 西野彰悟, 清水祐里, 山下大祐, 国分英利, 川喜田睦司, 原 重雄: 腎臓に発生した Glomus tumor of uncertain malignant potential の一例. 第 110 回日本病理学会総会, 東京, ハイブリッド開催, 2021.4.22
3. 澤井瑠一, 藤本寛太, 藤島雄幸, 大久保万理江, 籾谷雄二, 岩倉敏夫, 松岡直樹, 安本眞美, 山村彰吾, 高橋加奈, 原 重雄: 内科的治療を行った ACTH 産生嗅神経芽細胞腫の 1 例. 第 94 回日本内分泌学会学術総会, バーチャル開催, 2021.4.22
4. 松下優希, 山本信祐, 尾古怜佳, 甲斐彩華, 梨 正典, 前田圭吾, 谷池直樹, 山下大祐, 竹信俊彦: 上顎に発生した石灰化歯原性嚢胞の 1 例. 第 75 回 NPO 法人日本口腔科学会学術集会, 大阪, 2021.5.12
5. 長尾宗一郎, 細谷和也, 森田周子, 占野尚人, 山下大祐, 原 重雄, 猪熊哲朗: 10mm 以下の表面型大腸腫瘍に対する UEMR の有用性・安全性についての検討. 第 101 回日本消化器内視鏡学会総会, 広島, ハイブリッド開催, 2021.5.14
6. 濱本文美, 竹林慎治, 安本眞美, 戸部陽太, 池永 直, 道田哲彦, 浜口清海, 山崎博司, 藤原敬三, 内藤 泰, 山下大祐, 原 重雄, 篠原尚吾: 鼻腔および喉頭に病変を来した IgG4 関連疾患の 1 例. 第 122 回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会, 京都, ハイブリッド開催, 2021.5.15
7. 甲 貴文, 浜川博司, 印藤貴士, 宍戸 裕, 原 重雄, 高橋 豊: 胸腔内穿破を来した縦隔奇形腫の 3 例. 第 38 回日本呼吸器外科学会学術集会, WEB 開催, 2021.5.20
8. 原 重雄: 腎病理 CME 系統的腎病理教育シリーズ: 係蹄上皮細胞障害を考える 様々な糸球体腎炎・腎症にみる係蹄上皮細胞障害. 第 64 回日本腎臓学会学術総会, 横浜, ハイブリッド開催, 2021.6.18
9. 加藤大典, 武部沙也香, 常盤麻里子, 山下大祐, 原 重雄, 安井久晃: 初期研修期間中の乳腺外科ローテーションにおける教育の工夫. 第 29 回日本乳癌学会学術総会, 横浜, ハイブリッド開催, 2021.7.1
10. 大久保ゆうこ, 加藤大典, 山下大祐, 常盤麻里子, 武部沙也香, 原 重雄: カペシタビン投与について判断に迷った basal phenotype Triple Negative 乳癌の一例. 第 29 回日本乳癌学会学術総会, 横浜, ハイブリッド開催, 2021.7.1
11. 大山友梨, 加藤大典, 山下大祐, 武部沙也香, 常盤麻里子, 原 重雄: Molecular apocrine carcinoma 16 例の臨床病理学的検討. 第 29 回日本乳癌学会学術総会, 横浜, ハイブリッド開催, 2021.7.1
12. 唐渡修一郎, 細谷和也, 猪熊哲朗, 山下大祐, 原 重雄: 下部消化管腫瘍性病変に対する内視鏡的切除方法の戦略 (追加発言 1) 当院において Cold snare polypectomy 後病理学的に癌と診断された 11 病変についての検討. 第 106 回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会, 大阪, ハイブリッド開催, 2021.7.10
13. 玉木明子, 丸岡隼人, 堀 洋輔, 井上史江, 山下大祐, 原 重雄: Liquid-based cytology (LBC) を応用した急性白血病のスクリーニング. 第 22 回日本検査血液学会学術集会, Web 開催, 2021.9.11
14. 物部真恵, 丸岡隼人, 大山幸永, 大野 彩, 姫野真由子, 白石祐美, 平本展大, 山下大祐: Digital PCR 法による RHOA G17V 検出法の確立. 第 22 回日本検査血液学会学術集会, Web 開催, 2021.9.11
15. 下山雅之, 細谷和也, 山下大祐, 田中晃輔, 森久芳樹, 安藤徳晃, 小林拓哉, 上田智也, 唐渡修一郎, 秋山慎介, 丹家元祥, 藪内洋平, 和田将弥, 森田周子, 井上聡子, 鄭 浩柄, 猪熊哲朗: 術前に診断可能であった早期胃神経内分泌癌の 1 例. 日本消化器病学会近畿支部第 115 回例会, WEB 開催, 2021.9.18
16. 上田智也, 藪内洋平, 田中晃輔, 森久芳樹, 安藤徳晃, 小林拓哉, 唐渡修一郎, 下山雅之, 秋山慎介, 細谷和也, 丹家元祥, 和田将弥, 森田周子, 井上聡子, 鄭 浩柄, 猪熊哲朗, 山下大祐: 長期にわたり食道癌との鑑別に苦慮した食道 epidermization の一例. 日本消化器病学会近畿支部第 115 回例会, WEB 開催, 2021.9.18
17. 山下大祐, 吉本明弘, 石川隆之, 原 重雄: A clinicopathological analysis of primary renal lymphoma diagnosed by kidney biopsy. 第 83 回日本血液学会学術集会, Web 開催, 2021.9.23
18. 力武隼平, 垣内誠司, 秋山寛明, 松葉裕之, 高樹郁真, 大谷恭子, 稲葉真由美, 原 重雄, 富田弘道, 岩田暢子: MIDD が原因の MGRS に対して CyBorD 療法と引き続き自家末梢血幹細胞移植が奏効し、腎機能温存に成功した一例. 第 83 回日本血液学会学術集会, Web 開催, 2021.9.23
19. 和田典也, 下村良充, 藪下知宏, 山下大祐, 大野 彩, 井本寛東, 丸岡隼人, 原 重雄, 石川隆之: CD38 expression is an important prognostic marker in diffuse large B-cell lymphoma. 第 83 回日本血液学会学術集会, Web 開催, 2021.9.24
20. 上條公守, 下村良充, 岡田直樹, 和田典也, 西久保雅司, 井本寛東, 山本隆介, 平本展大, 吉岡 聡, 米谷昇, 松下章子, 山下大祐, 原 重雄, 石川隆之: Clinical characteristics and outcomes of duodenal-type follicular lymphoma: a single center analysis. 第 83 回日本血液学会学術集会, Web 開催, 2021.9.25

21. 曾山弘敏, 西尾美希, 増田隆明, 三森功士, 原 重雄, 前濱朝彦, 福本 巧, 鈴木 聡: Basal like 乳癌における Hippo 経路の役割. 第 80 回日本癌学会学術総会, 横浜, ハイブリッド開催, 2021.10.1
22. 世利佳滉, 佐藤悠城, 松林 彩, 田代隼基, 貴志亮太, 白川千種, 島 佑介, 嶋田有里, 平林亮介, 永田一真, 中川 淳, 立川 良, 原 重雄, 富井啓介: 両肺びまん性小粒状影と肉芽腫性病変を呈した、オラパリブによる薬剤性肺障害の一例. 第 41 回日本サルコイドーシス / 肉芽腫性疾患学会総会, 豊中, ハイブリッド開催, 2021.10.29
23. 清水祐里, 高橋加奈, 山口貴子, 西野彰悟, 山下大祐, 松林 彩, 吉岡信也, 萩本裕樹, 川喜田睦司, 原 重雄: Pagetoid spread を示した外陰部転移性尿路上皮癌の一例. 第 67 回日本病理学会秋期特別総会, 岡山, WEB 開催, 2021.11.4
24. 西野彰悟, 高橋加奈, 山口貴子, 清水祐里, 山下大祐, 中村充宏, 吉岡信也, 孝橋賢一, 廣瀬隆則, 原 重雄: 子宮体部に発生した胞巣型横紋筋肉腫の一例. 第 67 回日本病理学会秋期特別総会, 岡山, WEB 開催, 2021.11.4
25. 中山友理香, 尾松雅仁, 井本秀志, 玉木明子, 田代章人, 宮川祥治, 高田明歩, 山下大祐, 原 重雄: 膣頸部細胞診を契機に発見された転移性尿路上皮癌 2 例. 第 60 回日本臨床細胞学会秋期大会, 米子, ハイブリッド開催, 2021.11.20
26. 森久芳樹, 井上聡子, 田中晃輔, 安藤徳晃, 小林拓哉, 上田智也, 唐渡修一郎, 下山雅之, 秋山慎介, 細谷和也, 丹家元祥, 藪内洋平, 和田将弥, 森田周子, 鄭 浩柄, 原 重雄, 猪熊哲朗: 消化管出血を契機に診断に至った irAE 胃炎・十二指腸炎の 1 例. 第 107 回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会, 神戸, ハイブリッド開催, 2021.12.11
27. 田中晃輔, 藪内洋平, 森久芳樹, 小林拓哉, 安藤徳晃, 下山雅之, 唐渡修一郎, 上田智也, 秋山慎介, 細谷和也, 丹家元祥, 和田将弥, 森田周子, 井上聡子, 鄭 浩柄, 猪熊哲朗, 山下大祐: 当院で経験した乳癌胃転移の 4 例. 第 107 回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会, 神戸, ハイブリッド開催, 2021.12.11
28. 原 重雄: 移植腎病理セミナー 「慢性活動性拒絶反応の病理像」. 第 55 回日本臨床腎移植学会, WEB 開催, 2022.2.23
29. 原 重雄: シンポジウム 8 「腎移植後の TMA について病理・リスク因子・臨床像」 移植後 TMA の病理. 第 55 回日本臨床腎移植学会, WEB 開催, 2022.2.24

## IX. 1. 28 放射線診断科

1. 岡祥次郎, 安藤沙耶, 吉田篤史, 藤本順平, 山本有香, 光野重芝, 尾上宏治, 渡部正雄, 有菌茂樹, 金尾昌太郎, 中村 健, 大西康之, 上田浩之, 石蔵礼一: Two cases of late complication after the use of NBCA in vascular embolization. 第 50 回日本 IVR 学会総会, Web 開催, 2021.5.20-22
2. Watanabe M, Nakamoto Y, Yuge S, Kidera E, Otani T, Kitaguchi K, Kato A, Kawai-Miyake K, Fushimi Y, Ishimori T, Saga T, Nakajima A, Yoshimura M, Kikuchi M, Kitamura M, Ohno K, Togashi K: A novel application of a flexible PET scanner combined with 3T MRI using non-local means reconstruction: Qualitative and quantitative comparison between the flexible PET and whole-body PET/CT. Society of Nuclear Medicine and Molecular Imaging 2021 Virtual Annual Meeting, Virtual, 2021.6.11-15
3. 安藤久美子, 石蔵礼一, 山本有香, 藤本順平, 岡祥次郎, 吉田篤史, 伊藤 環, 小林由典, 安藤沙耶: 足趾に発生した microgeodic disease の一例. 第 57 回日本小児放射線学会学術集会, さいたま, ハイブリッド開催, 2021.6.12
4. 石川 翔, 安藤久美子, 吉田篤史, 岡祥次郎, 藤本順平, 山本有香, 光野重芝, 尾上宏治, 渡部正雄, 有菌茂樹, 菅 剛, 金尾昌太郎, 石蔵礼一, 片上隆史, 川本未知: 広範な可逆性脊髄病変を認めた Wernicke 脳症の一例. 日本医学放射線学会第 328 回関西地方会, 大阪, ハイブリッド開催, 2021.6.26
5. 堂畑慶之, 岡祥次郎, 光野重芝, 石川 翔, 吉田篤史, 藤本順平, 山本有香, 尾上宏治, 渡部正雄, 有菌茂樹, 菅 剛, 金尾昌太郎, 安藤久美子, 石蔵礼一, 萩本裕樹, 山下大祐, 原 重雄: 膀胱内巨大 fungus ball の一例. 日本医学放射線学会第 328 回関西地方会, 大阪, ハイブリッド開催, 2021.6.26
6. 吉田篤史, 安藤久美子, 石蔵礼一, 石川 翔, 岡祥次郎, 藤本順平, 山本有香, 光野重芝, 尾上宏治, 渡部正雄, 有菌茂樹, 菅 剛, 金尾昌太郎: 亜急性に進行する抑鬱・幻視・幻覚で発症した 50 代女性. 第 41 回神経放射線ワークショップ, Web 開催, 2021.7.1-3



7. 吉田篤史, 安藤久美子, 石蔵礼一, 石川 翔, 岡祥次郎, 藤本順平, 山本有香, 光野重芝, 尾上宏治, 渡部正雄, 有菌茂樹, 菅 剛, 金尾昌太郎: 亜急性に進行する抑鬱、幻視、幻覚で発症した GFAP アストロサイトパチーの一例. 第 329 回関西 NR 勉強会学術講演会, Web 開催, 2021.7.10
8. 岡祥次郎, 石川 翔, 吉田篤史, 藤本順平, 山本有香, 光野重芝, 尾上宏治, 渡部正雄, 有菌茂樹, 菅 剛, 金尾昌太郎, 安藤久美子, 石蔵礼一: OnControl Powered Bone Access System を用いた経皮的骨生検の初期経験. 第 69 回関西 IVR 研究会, WEB 開催, 2021.7.24
9. 安藤久美子: 1.5T 装置におけるディープラーニング画像再構成のインパクト. JSMRM2021 第 49 回日本磁気共鳴医学会大会, 横浜, ハイブリッド開催, 2021.9.11
10. 石川 翔, 安藤久美子, 吉田篤史, 岡祥次郎, 藤本順平, 山本有香, 光野重芝, 尾上宏治, 渡部正雄, 有菌茂樹, 菅 剛, 金尾昌太郎, 石蔵礼一, 藤本寛太, 篠谷雄二, 松岡直樹: 甲状腺穿刺後に急速に甲状腺腫大が出現した一例. 第 34 回頭頸部放射線研究会, Web 開催, 2021.9.18
11. Watanabe M, Ashida R, Miyakoshi C, Ishikawa S, Yoshida A, Oka S, Fujimoto J, Yamamoto Y, Kohno S, Onoue K, Arizono S, Suga T, Kanao S, Ando K, Ishikura R: Retrospective prognostic investigation using harmonized radiomic FDG PET features acquired by multiple scanners in the cohort of pancreatic cancer who underwent complete surgery. World Molecular Imaging Congress Virtual 2021, Virtual, 2021.10.5-8
12. 渡部正雄, 芦田 良, 宮越千智, 山本有香, 光野重芝, 尾上宏治, 有菌茂樹, 菅 剛, 金尾昌太郎, 安藤久美子, 石蔵礼一: 膵癌の完全切除症例での、標準化したテクスチャー解析手法を用いた予後予測について. 第 61 回日本核医学会学術総会, 名古屋, 2021.11.4
13. 森田 蓮, 安藤沙耶, 石川 翔, 尾上宏治, 藤田大輔, 安藤久美子, 石蔵礼一, 小橋昌司: 3D CNN を用いた小児脳 CT 画像からの脳成長年齢推定研究. 第 15 回小児神経放射線研究会, Web 開催, 2021.11.6
14. 岡祥次郎, 木村弘之, 石川 翔, 吉田篤史, 藤本順平, 山本有香, 光野重芝, 尾上宏治, 渡部正雄, 有菌茂樹, 菅 剛, 金尾昌太郎, 安藤久美子, 石蔵礼一: 異なる部位に出血を繰り返した NF1 の一例. 第 27 回兵庫県 IVR 懇話会, 神戸, 2021.11.20
15. 岡祥次郎: 2021 年最も印象に残った CASE. EVT Conference 2022, 大阪, 2022.1.28
16. 安藤久美子: 研修医に知って欲しい小児中枢神経感染症と急性脳症. 第 19 回日本小児放射線学会教育セミナー, web 開催, 2022.2.5-3.4
17. 金尾昌太郎: 乳癌術前 MRI の読影法. 第 31 回日本乳癌画像研究会, WEB 開催, 2022.2.6
18. 森田 蓮, 安藤沙耶, 石川 翔, 藤田大輔, 尾上宏治, 安藤久美子, 石蔵礼一, 小橋昌司: 小児脳 CT 画像を用いた AI 画像診断. 第 51 回日本神経放射線学会, 東京, ハイブリッド開催, 2022.2.18
19. 石川 翔, 安藤久美子, 岡祥次郎, 吉田篤史, 藤本順平, 山本有香, 光野重芝, 有菌茂樹, 石蔵礼一, 片上隆史, 川本未知, 尾上宏治, 渡部正雄, 菅 剛, 金尾昌太郎: 広範な可逆性脊髄病変を伴った Wernicke 脳症の一例. 第 51 回日本神経放射線学会, 東京, ハイブリッド開催, 2022.2.18-19
20. 安藤久美子: COVID-19 に伴う中枢神経合併症: 神経放射線科医の立場から. 第 41 回日本画像医学会, オンライン開催, 2022.2.19
21. 藤本順平, 金尾昌太郎: 乳房 MRI 読影のピットフォール. 第 16 回関西乳房 MRI 勉強会, Web 開催, 2022.2.26

## IX. 1. 29 放射線治療科

1. Shintani T, Kishi N, Matsuo Y, Ogura M, Mitsuyoshi T, Araki N, Itasaka S, Okumura S, Nakamatsu K, Mizowaki T: Risk factor of symptomatic radiation pneumonitis in non-small cell lung cancer patients treated with concurrent chemoradiotherapy and consolidation durvalumab. 第 80 回日本医学放射線学会総会, 横浜, ハイブリッド開催, 2021.4.16
2. Zhou D, Nakamura M, Mukumoto N, Tanabe H, Iizuka Y, Yoshimura M, Kokubo M, Matsuo Y, Mizowaki T: Development of AI-based Prediction Models in Real-time Tumor Tracking Radiotherapy. 第 121 回日本医学物理学学会学術大会, 横浜, ハイブリッド開催, 2021.4.17
3. 嶋田有里, 佐藤悠城, 貴志亮太, 田代隼基, 世利佳滉, 島 佑介, 白川千種, 横田 真, 平林亮介, 永田一真, 中川 淳, 立川 良, 富井啓介, 小久保雅樹: 化学放射線療法を施行した COVID-19 感染後肺障害を有する肺扁平上皮癌の一例. 第 114 回日本肺癌学会関西支部学術集会, オンライン開催, 2021.7.17

4. 横田 真, 平林亮介, 木村正夢嶺, 藤原 悟, 小久保雅樹, 島 佑介, 白川千種, 嶋田有里, 佐藤悠城, 永田一真, 中川 淳, 立川 良, 富井啓介: デュルバルマブによる髄膜脳炎が疑われた抗 AMPA 受容体抗体陽性の肺腺癌の一例. 第 114 回日本肺癌学会関西支部学術集会, オンライン開催, 2021.7.17
5. Iwai T, Okabayashi S, Yamashita M, Ashida R, Mitsuyoshi T, Imagunbai T, Kokubo M: Clinical outcomes of scalp angiosarcoma treated with intensity-modulated radiotherapy. 40th European Society of Radiation Oncology (ESTRO 2021), Madrid, 2021.8.27
6. Watanabe M, Ashida R, Miyakoshi C, Ishikawa S, Yoshida A, Oka S, Fujimoto J, Yamamoto Y, Kohno S, Onoue K, Arizono S, Suga T, Kanao S, Ando K, Ishikura R: Retrospective prognostic investigation using harmonized radiomic FDG PET features acquired by multiple scanners in the cohort of pancreatic cancer who underwent complete surgery. World Molecular Imaging Congress 2021 (WMIC 2021), Virtual, 2021.10.6
7. Kito S, Mukumoto N, Nakamura M, Tanabe H, Karasawa K, Kokubo M, Sakamoto T, Iizuka Y, Yoshimura M, Matsuo Y, Hiraoka M, Mizowaki T: Theoretical calculation of population-based margins in fiducial marker-based real-time tumor tracking. 2021 American Society for Radiation Oncology (ASTRO) 63rd Annual Meeting, Chicago, Hybrid, 2021.10.24
8. 渡部正雄, 芦田 良, 宮越千智, 山本有香, 光野重芝, 尾上宏治, 有菌茂樹, 菅 剛, 金尾昌太郎, 安藤久美子, 石蔵礼一: 膵癌の完全切除症例での、標準化したテクスチャー解析手法を用いた予後予測について. 第 61 回日本核医学会学術総会, 名古屋, 2021.11.4
9. 岩井貴寛, 岡林 俊, 芦田 良, 光吉隆真, 今輩倍敏行, 小久保雅樹: 当院における頭皮血管肉腫に対する強度変調放射線治療 (IMRT) の検討. 日本放射線腫瘍学会第 34 回学術大会, オンライン開催, 2021.11.12
10. 木藤哲史, 椋本宜学, 中村光宏, 田邊裕朗, 唐澤克之, 小久保雅樹, 坂本隆吏, 飯塚裕介, 吉村通央, 松尾幸憲, 平岡真寛, 溝脇尚志: 呼吸性移動パターンの非対称性を考慮した CTV に対する幾何学的マージンの算定. 日本放射線腫瘍学会第 34 回学術大会, オンライン開催, 2021.11.12
11. 岡林 俊, 今輩倍敏行, 岩井貴寛, 芦田 良, 光吉隆真, 小久保雅樹: 全身照射における線量分割の検討. 日本放射線腫瘍学会第 34 回学術大会, オンライン開催, 2021.11.12
12. 光吉隆真, 岡林 俊, 岩井貴寛, 芦田 良, 今輩倍敏行, 小久保雅樹: 転移性脊椎腫瘍に対する定位放射線治療の初期臨床経験. 日本放射線腫瘍学会第 34 回学術大会, オンライン開催, 2021.11.12
13. 小川彩加, 吉村通央, 芦田 良, 増井俊彦, 穴澤貴行, 長井和之, 小野幸果, 中村清直, 溝脇尚志: 切除可能境界膵癌に対する術前化学療法併用寡分割 IMRT の病理学的奏効率について. 日本放射線腫瘍学会第 34 回学術大会, オンライン開催, 2021.11.12
14. 津藤真司, 辻野佳世子, 立原素子, 小久保雅樹, 石原武明, 池田裕子, 淡河恵津世, 國武直信, 小平 毅, 塩山善之, 中村聡明, 中松清志, 野田泰孝, 三輪弥沙子, 西村恭昌: III 期非小細胞肺癌臨床試験 (WJOG11619L) における放射線治療計画ダミーラン. 日本放射線腫瘍学会第 34 回学術大会, オンライン開催, 2021.11.12
15. 谷口善彦, 田宮朗裕, 藤本大智, 田宮基裕, 佐藤悠城, 横井 崇, 福田 泰, 内田純二, 秦 明登, 松本啓孝, 日野 葵, 金津正樹, 原 聡志, 杉本武哉, 小久保雅樹: CRT 後に Grade1 放射線肺臓炎を有する患者に対するイミフィンジの安全性、有効性を検討する多施設前向き観察研究. 第 62 回日本肺癌学会学術集会, 横浜, ハイブリッド開催, 2021.11.26
16. Adachi T, Nakamura M, Karasawa K, Kokubo M, Sakamoto T, Matsuo Y, Hiraoka M, Mizowaki T: Radiomic prediction of distant metastasis after dynamic tumor tracking stereotactic body radiation therapy for non-small cell lung cancer: a multi-institutional analysis. The 21st Asia-Oceania Congress of Medical Physics, Virtual, 2021.12.10
17. Iizuka Y, Hiraoka M, Kokubo M, Sakamoto T, Karasawa K, Murofushi K, Nakamura M, Matsuo Y, Morita S, Inokuchi H, Mizowaki T: Clinical results of dynamic tumor-tracking stereotactic body radiotherapy with real-time monitoring for liver tumors using a gimbal-mounted linac: a multi-institutional phase II study. 2022 ASCO Gastrointestinal Cancers Symposium, San Francisco, Hybrid, 2022.1.22
18. 末岡正輝, 光吉隆真, 山下幹子, 田邊裕朗, 小久保雅樹: 転移性脊椎腫瘍の定位放射線治療. 第 3 回兵庫の放射線治療の未来をかたる会, Web 開催, 2022.3.19
19. 岡林 俊, 岩井貴寛, 芦田 良, 光吉隆真, 今輩倍敏行, 小久保雅樹: 当院の膵臓癌の放射線治療成績. 第 52 回京都放射線腫瘍研究会, オンライン開催, 2022.3.19

20. 岸 徳子, 松尾幸憲, 新谷 堯, 小倉昌和, 光吉隆真, 荒木則雄, 藤井康太, 奥村節子, 中松清志, 岸 高宏, 熱田智子, 坂本隆史, 大津修二, 片桐幸大, 榎林正流, 藤代早月, 飯塚裕介, 溝脇尚志: III 期非小細胞肺癌に対する CCRT+consolidation durvalumab 後の再発形式と無増悪生存期間の検討. 第 52 回京都放射線腫瘍研究会, オンライン開催, 2022.3.19

## IX. 1. 30 救急科

1. 瀬尾龍太郎: VI パネルディスカッション (耳鼻咽喉科領域講習) 新型コロナウイルス感染症への対応. 第 122 回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会, 京都, Web 開催, 2021.5.13
2. 栗田聖也, 許 智栄, 有吉孝一: クリニックから救命センターへの転送は妥当か? コロナ禍中に紹介された高齢患者の検討. 第 12 回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会, Web 開催, 2021.5.22
3. 藤本 稜, 許 智栄, 柳井真知, 有吉孝一: ACP in ER. コロナ禍でどう変わったか. ACP in ER. How it has changed in Coronavirus crisis. 第 12 回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会, Web 開催, 2021.5.22
4. 水 大介: 座長 一般演題 22 「緊急度判定/マスキング・大規模スポーツイベント」. 第 24 回日本臨床救急医学会総会・学術集会, Web 開催, 2021.6.10-12
5. 有吉孝一: 座長 一般演題 63 「その他 3」. 第 24 回日本臨床救急医学会総会・学術集会, web 開催, 2021.6.10-12
6. 瀬尾龍太郎: 合同シンポジウム 11 重症 COVID-19 患者の全身管理. 第 58 回日本リハビリテーション医学会学術集会, 京都, ハイブリッド開催, 2021.6.10
7. 大西理史, 寺本昇生, 松岡由典, 水 大介, 有吉孝一, 林 卓郎, 黒澤寛史: 重症多発外傷症例から考える地域をあげた小児救急診療体制 -ER 型救命救急センターと小児専門病院の連携-. 第 34 回日本小児救急医学会学術集会, 奈良, Web 開催, 2021.6.18-20
8. 有吉孝一, 浮山越史: 座長 ワークショップ 3 「小児救急・小児科医ではないですがそれが何か」. 第 34 回日本小児救急医学会学術集会, 奈良, ハイブリッド開催, 2021.6.20
9. 瀬尾龍太郎: シンポジウム 16 COVID-19 の重症例の臨床像とその管理. 第 21 回日本抗加齢学会総会, 京都, ハイブリッド開催, 2021.6.26
10. 瀬尾龍太郎: 教育講演初級 9 人工呼吸をグラフィックで理解する! 【初級編】. 第 43 回日本呼吸療法医学会学術集会, 横浜, ハイブリッド開催, 2021.7.4
11. 瀬尾龍太郎: 教育講演中級 9 人工呼吸をグラフィックで理解する! 【中級編】. 第 43 回日本呼吸療法医学会学術集会, 横浜, ハイブリッド開催, 2021.7.4
12. 瀬尾龍太郎: 薬剤師セッション 敗血症におけるケア移行. 日本集中治療医学会第 5 回関西支部学術集会, Web 開催, 2021.7.24
13. 有吉孝一: 座長 一般演題① 「COVID-19」. 第 16 回日本病院前救急診療医学会総会・学術集会, 八戸, 2021.11.6
14. 栗田聖也, 柳井真知, 瀬尾龍太郎, 有吉孝一: コロナと肥満 重症 COVID-19 の死亡率と肥満についての検討. 第 49 回日本救急医学会総会・学術集会, 東京, 2021.11.21
15. 河合嘉一, 柳井真知, 松岡太郎, 有吉孝一: COVID-19 流行に伴う六甲山系で発生した救急搬送症例の変化. 第 49 回日本救急医学会総会・学術集会, 東京, 2021.11.21
16. 佐々木朗, 柳井真知, 有吉孝一, 落合秀信: 救急外来における敗血症 1 時間バンドルの有効性の検討. 第 49 回日本救急医学会総会・学術集会, 東京, 2021.11.21
17. 西田晴香, 松岡由典, 有吉孝一, 水 大介: ER における胸腔ドレーン挿入とその合併症. 第 49 回日本救急医学会総会・学術集会, 東京, 2021.11.21
18. 浪方 悠, 水 大介, 有吉孝一: ER 医の COVID-19 評価の妥当性. 第 49 回日本救急医学会総会・学術集会, 東京, 2021.11.21
19. 許 智栄, 関口健二, 狩野恵彦, 松岡由典, 田川哲也, 柳井真知, 有吉孝一: ER における Rapid Palliative Care Approach: より良いゴール設定を目指して. 第 49 回日本救急医学会総会・学術集会, 東京, 2021.11.22
20. 田中淳仁, 許 智栄, 松岡由典, 有吉孝一: 重症救急患者におけるプレホスピタルでのフレイル評価と 24 時間以内救命処置中断. 第 49 回日本救急医学会総会・学術集会, 東京, 2021.11.22
21. 柳井真知, 佐々木朗, 有吉孝一: COVID-19 時代の敗血症 1 時間バンドル. 第 49 回日本救急医学会総会・学術集会, 東京, 2021.11.22

22. 高橋毅史, 松岡由典, 有吉孝一: 菌血症診療における全身造影 CT 検査の臨床的意義. 第 49 回日本救急医学会総会・学術集会, 東京, 2021.11.22
23. 出口美義, 土手 尚, 齋藤隆介, 田中 茂, 渥美生弘: 悪性症候群との鑑別が困難であった悪性カタトニアの一例. 第 49 回日本救急医学会総会・学術集会, 東京, 2021.11.22
24. 木下裕規, 許 智栄, 松岡由典, 有吉孝一: ER を受診した重症高齢者の Clinical Frailty Scale と 30 日死亡率の関連性. 第 49 回日本救急医学会総会・学術集会, 東京, 2021.11.22
25. 坂谷朋子, 水 大介, 有吉孝一: ER 体制による働き方改革の実現. 第 49 回日本救急医学会総会・学術集会, 東京, 2021.11.22
26. 大西理史, 松岡由典, 水 大介, 有吉孝一: 当救命救急センターにおけるドクターカーと地域小児救急診療. 第 49 回日本救急医学会総会・学術集会, 東京, 2021.11.22
27. 伊禮奏子, 前田重信, 茂見 瞭, 田中惇也, 狩野謙一, 東 裕之, 林 実, 永井秀哉, 瀬良 誠, 谷崎眞輔, 石田 浩: 塩化ビニル管切断作業で塩素系ガスによる肺障害を呈した一例. 第 49 回日本救急医学会総会・学術集会, 東京, 2021.11.22
28. 寺本昇生, 有吉孝一, 野浪 豪: COVID-19 患者への院内急変対応. 第 49 回日本救急医学会総会・学術集会, 東京, 2021.11.23
29. 有吉孝一: 座長 ミニオーラル 60 中枢神経①. 第 49 回日本救急医学会総会・学術集会, 東京, 2021.11.23
30. 浅香葉子, 瀬尾龍太郎, 野浪 豪, 大内謙二郎, 神谷侑画, 柳井真知, 有吉孝一: COVID-19 に対するハイフローネーザルカニュラの装着後の予後. 第 49 回日本救急医学会総会・学術集会, 東京, 2021.11.23
31. 木下裕規: 座長 講演 47 その他外傷. 第 49 回日本救急医学会総会・学術集会, 東京, 2021.11.23
32. 野浪 豪, 瀬尾龍太郎, 浅香葉子, 伊藤次郎, 建部将夫, 有吉孝一: 地域で患者の集約化を行った当院の重症 COVID-19 患者の治療経験. 第 49 回日本救急医学会総会・学術集会, 東京, 2021.11.23
33. 水 大介, 有吉孝一, 蓮池俊和, 土井朝子: ER での感染対策～コロナ診療と通常救急の両立のために～. 第 49 回日本救急医学会総会・学術集会, 東京, 2021.11.23
34. 藤本 稔, 許 智栄, 松岡由典, 柳井真知, 有吉孝一: シンポジウム 17 【Challenge to Change】救急医療における終末期医療 ACP in ER. 救急外来での ACP に関する研究. 第 49 回日本救急医学会総会・学術集会, 東京, 2021.11.23
35. 出田健人, 有吉孝一, 許 智栄, 水 大介, 松岡由典: シンポジウム 20 【Challenge to Change】救急医を目指す君たちから～新世代が描く魅力ある専門研修と救急科専門医～ 救急科専攻医とアカデミックキャリア～これからの救急科専門研修を考える～. 第 49 回日本救急医学会総会・学術集会, 東京, 2021.11.23
36. 小平 博, 杉町正光, 平林弘久, 有吉孝一, 中山伸一, 岡本貴大, 足立光平: コロナ禍における県内合同防災訓練で見えてきた課題. 第 27 回日本災害医学会総会・学術集会, 広島, ハイブリッド開催, 2022.3.4
37. 小平 博, 杉町正光, 平林弘久, 有吉孝一, 中山伸一, 岡本貴大, 足立光平: 災害急性期より避難所の活動を JMAT と JRAT が協働しておこなう意義～兵庫県防災訓練から得られた知見～. 第 27 回日本災害医学会総会・学術集会, 広島, ハイブリッド開催, 2022.3.4
38. 有吉孝一: 座長 一般演題 口演 26 新型コロナウイルス 5. 第 27 回日本災害医学会総会・学術集会, 広島, ハイブリッド開催, 2022.3.5
39. 杉澤朋弥, 有吉孝一, 尾川華子, 西原浩真, 田代章人: 院内ロジスティクスの育成と能力向上に向けた取り組みについて. 第 27 回日本災害医学会総会・学術集会, 広島, ハイブリッド開催, 2022.3.5
40. 水 大介, 瀬尾龍太郎, 有吉孝一: 高齢者重症感染症に対する shock index の変化と短期予後との関連. 第 49 回日本集中治療医学会学術集会, Web 開催, 2022.3.18
41. 浪方 悠, 松岡由典, 伊藤次郎, 瀬尾龍太郎, 大内謙二郎, 西田晴香, 有吉孝一: 時間外 ICU 入室と院内死亡割合との関連性: JIPAD を用いた多施設レジストリ. 第 49 回日本集中治療医学会学術集会, Web 開催, 2022.3.18
42. 伊藤次郎, 瀬尾龍太郎, 大内謙二郎, 野浪 豪, 三好祐輔, 建部将夫, 土田高裕, 嶋田博樹, 宮本将太, 有吉孝一: 神戸市における COVID-19 挿管人工呼吸症例 197 例の退院時転帰: 単施設観察研究. 第 49 回日本集中治療医学会学術集会, Web 開催, 2022.3.18

43. 三好祐輔, 伊藤次郎, 大内謙二郎, 野浪 豪, 建部将夫, 土田高裕, 嶋田博樹, 宮本将太, 有吉孝一, 美馬裕之: COVID-19 パンデミック前後での非 COVID-19 重症患者の転帰の比較検討. 第 49 回日本集中治療医学会学術集会, Web 開催, 2022.3.19
44. 西田晴香, 伊藤次郎, 瀬尾龍太郎, 浪方 悠, 有吉孝一: 気胸と縦隔気腫を併発した重症 COVID-19 患者の臨床的特徴と転帰: 単施設記述研究. 第 49 回日本集中治療医学会学術集会, Web 開催, 2022.3.19
45. 嶋田博樹, 瀬尾龍太郎, 井本寛東, 蓮池俊和, 有吉孝一, 美馬裕之: 二次性血球貪食性リンパ組織球症を併発した重症 COVID-19 の 2 症例. 第 49 回日本集中治療医学会学術集会, Web 開催, 2022.3.19
46. 濱本実也, 津田泰伸, 森安恵実, 櫻本秀明, 栗原知己, 中田 諭, 西村祐枝, 立野淳子, 瀬尾龍太郎, 奥田晃久, 卯野木健: ニューノーマル時代を見据えたセミナーの提案. 第 49 回日本集中治療医学会学術集会, Web 開催, 2022.3.19
47. 高橋哲也, 岩田健太郎, 加藤倫卓, 児島範明, 森沢知之, 山下遊平, 小幡賢吾, 濱本実也, 瀬尾龍太郎: 日本の集中治療室で働く理学療法士の臨床実践ミニマムスタンダード. 第 49 回日本集中治療医学会学術集会, Web 開催, 2022.3.20
48. 児島範明, 山下遊平, 岩田健太郎, 小幡賢吾, 加藤倫卓, 森沢知之, 瀬尾龍太郎, 小松 寛, 濱本実也, 高橋哲也: ICU で働く作業療法士の技能と役割、本邦と諸外国における検討. 第 49 回日本集中治療医学会学術集会, Web 開催, 2022.3.20
49. 岩田健太郎, 西原浩真, 山田莞爾, 伊藤 翼, 稻垣優太, 下雅意崇享, 本田明広, 北井 豪, 瀬尾龍太郎, 幸原伸夫: COVID-19 患者の PICS 対策. 第 49 回日本集中治療医学会学術集会, Web 開催, 2022.3.20
50. 瀬尾龍太郎: 集中治療医の院内プレゼンスを高めよう! —集中治療医は ICU 外で何ができるのか!?—. 第 49 回日本集中治療医学会学術集会, Web 開催, 2022.3.20
51. 瀬尾龍太郎: ICU のマネジメント —質の担保と運営方法—. 第 49 回日本集中治療医学会学術集会, Web 開催, 2022.3.20

## IX. 1. 31 感染症科

1. 黒田浩一: 微生物学総論と最近の話題. 神戸市看護大学「微生物学」, 神戸, 2021.4.12
2. 黒田浩一: 細菌学総論と検体採取法. 神戸市看護大学「微生物学」, 神戸, 2021.4.19
3. 黒田浩一: 新型コロナ時代の肺炎診療. 第 95 回日本感染症学会学術講演会 若手向け講習会, 横浜, ハイブリッド開催, 2021.5.7
4. 長谷川耕平, 津村明子, 荒川 悠, 海老澤馨, 西村 翔, 大路 剛, 岩田健太郎: 重複感染した *Staphylococcus epidermidis* が red herring となった *Mycobacterium bovis* によるグラフト感染の一例. 第 95 回日本感染症学会学術講演会, 横浜, ハイブリッド開催, 2021.5.7
5. 蓮池俊和: 細菌学各論: 耐性菌 (MRSA と ESBL を中心に) と結核・NTM、感染対策 (標準予防策と感染経路別予防策). 神戸市看護大学「微生物学」, 神戸, 2021.5.10
6. 黒田浩一: 新型コロナウイルス感染症 UpDate (2021 年 5 月編). 第 6 回新型コロナウイルス感染症研究会, 神戸, 2021.5.15
7. 土井朝子: 開業医に必要な抗生剤の話. 東灘区医師会学術講演会, 神戸市 (Web), 2021.5.21
8. 黒田浩一: 新型コロナウイルスワクチンについて. 第 41 回神戸広域脳卒中地域連携協議会, Web 開催, 2021.6.4
9. 土井朝子: ウイルス学各論: パルボウイルス B19 HPV B 型肝炎. 神戸市看護大学「微生物学」, 神戸, 2021.6.7
10. 黒田浩一: ウイルス学各論: RNA ウイルス総論、インフルエンザ. 神戸市看護大学「微生物学」, 神戸, 2021.6.14
11. 蓮池俊和: ウイルス学各論: HIV、HCV、針刺しについて. 神戸市看護大学「微生物学」, 神戸, 2021.6.21
12. 黒田浩一: 新型コロナウイルス患者重症病棟の医師から診療所医師に伝えたいこと. 西宮市医師会内科医会定例講演会, 神戸市 (Web), 2021.6.23
13. 黒田浩一: 新型コロナウイルス感染症の現状とワクチン. 兵庫県保険医協会北播支部「第 37 回総会記念講演」, 加東, ハイブリッド開催, 2021.6.26
14. 黒田浩一: ウイルス学各論: 麻疹、風疹、渡航感染症 (HAV、狂犬病、日本脳炎、デングなど). 神戸市看護大学「微生物学」, 神戸, 2021.6.28

15. 蓮池俊和：寄生虫。神戸市看護大学「微生物学」，神戸，2021.7.12
16. 土井朝子：感染対策（総論と各論）、院内感染、ICN の役割。神戸市看護大学「微生物学」，神戸，2021.7.19
17. 黒田浩一：微生物学講義のまとめ。神戸市看護大学「微生物学」，神戸，2021.7.26
18. 黒田浩一：COVID-19 の治療 2021.7 UpDate。神戸市新型インフルエンザ等対策病院連絡，Web 開催，2021.7.29
19. 土井朝子，長谷川耕平，黒田浩一，蓮池俊和，立川 良，川本未知，西岡弘晶，富井啓介：COVID-19 中核病院における診療体制の構築。日本医療マネジメント学会－第 15 回兵庫支部学術集会－，Web 開催，2021.8.16
20. 蓮池俊和：在宅における COVID-19 勉強会。在宅における COVID-19 勉強会，Web 開催，2021.9.3
21. 南井崇宏，金森真紀，黒田浩一，山下大祐，西岡弘晶：肺多発腫瘤影・浸潤影を認めた 2 期梅毒の 1 例。日本内科学会第 233 回近畿地方会，Web 開催，2021.9.11
22. 土井朝子：COVID-19 の感染対策。第 145 回近畿産婦人科学会共通講習，Web 開催，2021.10.11
23. 黒田浩一：正しく知ろう、新型コロナウイルスワクチン。兵庫県保険医協会「北阪神支部」支部総会記念講演，伊丹，2021.10.30
24. 黒田浩一：市中肺炎診療の考え方－ウィズコロナ時代－。IDATEN（日本感染症教育研究会）オンラインセミナー 2021，Web 開催，2021.11.1
25. 黒田浩一：感染対策の知識・COVID-19 最新エビデンス。感染対策（COVID-19 等）エキスパート育成研修会，神戸，2021.11.7
26. 黒田浩一：インフルエンザ UpDate 2021/2022。院内感染管理研修会，神戸，2021.11.9
27. 黒田浩一：新型コロナウイルス感染症外来診療と後遺症について。新型コロナウイルス感染症についての勉強会（第 2 回），Web 開催，2021.11.25
28. 住友秀次，志水隼人，岡 秀樹，金森真紀，藤田将平，貝田 航，山本 大，黒田浩一，蓮池俊和，土井朝子，西岡弘晶，大村浩一郎：当院における COVID-19 診療と、膠原病・リウマチ性疾患への影響。第 36 回日本臨床リウマチ学会，富山，2021.12.19
29. 黒田浩一：コロナ時代の感染対策。看護師向けのオンライン学習サービス FitNs。（フィットナス）感染チャンネル，動画講義，2021.12.23
30. 土井朝子：第 6 波におけるコロナ治療。神戸在宅塾，神戸，2022.1.11
31. 長谷川耕平：抗菌薬適正使用に関する動画講義。動画講義，2022.1.11-2.8
32. 土井朝子：コロナの外来治療。新型コロナウイルス感染症連絡会 オミクロン株患者に対する地域での治療について，神戸，2022.1.13
33. 黒田浩一：オミクロン。新型コロナウイルス感染症連絡会 オミクロン株患者に対する地域での治療について，神戸，2022.1.13
34. 黒田浩一：オミクロンと最近の話題。第 43 回神戸広域脳卒中地域連携協議会全体会議，Web 開催，2022.2.4

## IX. 1. 32 総合内科

1. 金森真紀：YESTERDAY。京都 GIM カンファレンス，京都，2021.4.2
2. 黒田浩一：微生物学総論と最近の話題。神戸市看護大学「微生物学」，神戸，2021.4.12
3. 黒田浩一：細菌学総論と検体採取法。神戸市看護大学「微生物学」，神戸，2021.4.19
4. 岡 秀樹，住友秀次，志水隼人，金森真紀，大村浩一郎，西岡弘晶：20 年以上安定していた抗 ARS 抗体症候群が肺高血圧症と間質性肺炎で再燃し、膀胱癌が契機と考えられた 1 例。第 65 回日本リウマチ学会総会・学術集会，Web 開催，2021.4.26
5. 山本 大：細菌学各論：GPC と GNR、リケッチア、クラミジア、マイコプラズマ。神戸市看護大学「微生物学」，神戸，2021.4.26
6. 黒田浩一：新型コロナ時代の肺炎診療。第 95 回日本感染症学会学術講演会若手向け講習会，横浜，ハイブリッド開催，2021.5.7
7. 長谷川耕平，津村明子，荒川 悠，海老澤馨，西村 翔，大路 剛，岩田健太郎：重複感染した Staphylococcus epidermidis が red herring となった Mycobacterium bovis によるグラフト感染の一例。第 95 回日本感染症学会学術講演会，横浜，ハイブリッド開催，2021.5.7

8. 蓮池俊和：細菌学各論：耐性菌（MRSA と ESBL を中心に）と結核・NTM、感染対策（標準予防策と感染経路別予防策）。神戸市看護大学「微生物学」，神戸，2021.5.10
9. 志水隼人：呼吸器合併 RA 患者における注意点。Respiratory care with RA セミナー，神戸，2021.5.14
10. 黒田浩一：新型コロナウイルス感染症 UpDate（2021 年 5 月編）。第 6 回新型コロナウイルス感染症研究会，神戸，2021.5.15
11. 貝田 航：細菌学各論：肺炎、尿路感染症、蜂窩織炎、STD（梅毒）。神戸市看護大学「微生物学」，神戸，2021.5.17
12. 土井朝子：開業医に必要な抗生剤の話。東灘区医師会学術講演会，神戸市（Web），2021.5.21
13. 金森真紀，西岡弘晶：Capnocytophaga canimorsus 菌血症の当院での 7 症例の経験。第 12 回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会，Web 開催，2021.5.23
14. 貝田 航：ウイルス学総論、DNA ウイルス総論、ヘルペスウイルス属、アデノウイルス。神戸市看護大学「微生物学」，神戸，2021.5.24
15. 黒田浩一：新型コロナウイルスワクチンについて。第 41 回神戸広域脳卒中地域連携協議会，Web 開催，2021.6.4
16. 土井朝子：ウイルス学各論：パルボウイルス B19 HPV B 型肝炎。神戸市看護大学「微生物学」，神戸，2021.6.7
17. 黒田浩一：ウイルス学各論：RNA ウイルス総論、インフルエンザ。神戸市看護大学「微生物学」，神戸，2021.6.14
18. 蓮池俊和：ウイルス学各論：HIV、HCV、針刺しについて。神戸市看護大学「微生物学」，神戸，2021.6.21
19. 黒田浩一：新型コロナウイルス患者重症病棟の医師から診療所医師に伝えたいこと。西宮市医師会内科医会定例講演会，神戸市（Web），2021.6.23
20. 田口宏和，藤田将平，山本 大，志水隼人，大村浩一郎，西岡弘晶：画像検査で異常を認めず側頭動脈生検で診断できた巨細胞性動脈炎の 1 例。日本内科学会第 232 回近畿地方会，Web 開催，2021.6.26
21. 黒田浩一：新型コロナウイルス感染症の現状とワクチン。兵庫県保険医協会北播支部「第 37 回総会記念講演」，加東，ハイブリッド開催，2021.6.26
22. 黒田浩一：ウイルス学各論：麻疹、風疹、渡航感染症（HAV、狂犬病、日本脳炎、デングなど）。神戸市看護大学「微生物学」，神戸，2021.6.28
23. 山本 大：真菌。神戸市看護大学「微生物学」，神戸，2021.7.5
24. 蓮池俊和：寄生虫。神戸市看護大学「微生物学」，神戸，2021.7.12
25. 土井朝子：感染対策（総論と各論）、院内感染、ICN の役割。神戸市看護大学「微生物学」，神戸，2021.7.19
26. 岩本昌子，東別府直紀，西岡弘晶：当院の特定集中治療室（ICU）における早期栄養介入管理加算算定の現状。第 36 回日本臨床栄養代謝学会学術集会，神戸，ハイブリッド開催，2021.7.21
27. 東別府直紀，西岡弘晶：救急集中治療における栄養管理の流れと現状。第 36 回日本臨床栄養代謝学会学術集会，神戸，ハイブリッド開催，2021.7.22
28. 楠田かおり，室井延之，土肥麻貴子，東別府直紀，西岡弘晶，橋田 亨：在宅中心静脈栄養（HPN）を円滑に行うための薬剤情報提供の取り組み。第 36 回日本臨床栄養代謝学会学術集会，神戸，ハイブリッド開催，2021.7.22
29. 黒田浩一：微生物学講義のまとめ。神戸市看護大学「微生物学」，神戸，2021.7.26
30. 前川和輝：救急外来での感染症の診かた。救急オープンセミナー，神戸，2021.7.28
31. 黒田浩一：COVID-19 の治療 2021.7 UpDate。神戸市新型インフルエンザ等対策病院連絡会，Web 開催，2021.7.29
32. 土井朝子，長谷川耕平，黒田浩一，蓮池俊和，立川 良，川本未知，西岡弘晶，富井啓介：COVID-19 中核病院における診療体制の構築。日本医療マネジメント学会－第 15 回兵庫支部学術集会－，Web 開催，2021.8.16
33. 蓮池俊和：在宅における COVID-19 勉強会。在宅における COVID-19 勉強会，Web 開催，2021.9.3
34. 岡 秀樹，住友秀次，志水隼人，山下大祐，西岡弘晶，大村浩一郎：IgG4 関連疾患による大動脈瘤が十二指腸大動脈瘤をきたした 1 例。第 30 回日本リウマチ学会近畿支部学術集会，Web 開催，2021.9.4
35. 南井崇宏，金森真紀，黒田浩一，山下大祐，西岡弘晶：肺多発腫瘍影・浸潤影を認めた 2 期梅毒の 1 例。日本内科学会第 233 回近畿地方会，Web 開催，2021.9.11

36. 長陽二郎, 藤田将平, 金森真紀, 西岡弘晶: セフトリアキソン血中濃度と髄液中濃度が確認できた血液透析患者のセフトリアキソン関連脳症の1例. 第23回日本病院総合診療医学会学術総会, Web開催, 2021.9.18
37. 土井朝子: COVID-19の感染対策. 第145回近畿産婦人科学会共通講習, Web開催, 2021.10.11
38. 黒田浩一: 正しく知ろう、新型コロナウイルスワクチン. 兵庫県保険医協会「北阪神支部」支部総会記念講演, 伊丹, 2021.10.30
39. 黒田浩一: 市中肺炎診療の考え方 - ウィズコロナ時代 -. IDATEN (日本感染症教育研究会) オンラインセミナー 2021, Web開催, 2021.11.1
40. 貝田航, 金森真紀, 西岡弘晶: 当院で *Edwardsiella tarda* が検出された87症例の検討. 第64回日本感染症学会中日本地方会学術集会, 岐阜, Web開催, 2021.11.6
41. 黒田浩一: 感染対策の知識・COVID-19最新エビデンス. 感染対策 (COVID-19等) エキスパート育成研修会, 神戸, 2021.11.7
42. 黒田浩一: インフルエンザ UpDate 2021/2022. 院内感染管理研修会, 神戸, 2021.11.9
43. 川畑拓也, 阪野文哉, 渡邊大, 塩野徳史, 福村沙織, 朝来駿一, 澤田暁宏, 西岡弘晶, 荒川創一, 大森亮介, 駒野淳, 森治代, 本村和嗣: MSM向けHIV・性感染症検査キャンペーン (2020年度実績報告). 第35回日本エイズ学会学術集会・総会, 東京, Web開催, 2021.11.21
44. 黒田浩一: 新型コロナウイルス感染症 外来診療と後遺症について. 新型コロナウイルス感染症についての勉強会 (第2回), Web開催, 2021.11.25
45. 梅本大地, 岡秀樹, 城田祥吾, 山下大祐, 西岡弘晶: 副腎不全が初発症状であった肺癌下垂体転移の1例. 日本内科学会第234回近畿地方会, Web開催, 2021.12.4
46. 大橋孝太郎, 藤田将平, 志水隼人, 西岡弘晶: S状結腸穿孔を合併したコリン作動性クリーゼの1例. 日本内科学会第234回近畿地方会, Web開催, 2021.12.4
47. 住友秀次, 志水隼人, 岡秀樹, 金森真紀, 藤田将平, 貝田航, 山本大, 黒田浩一, 蓮池俊和, 土井朝子, 西岡弘晶, 大村浩一郎: 当院におけるCOVID-19診療と、膠原病・リウマチ性疾患への影響. 第36回日本臨床リウマチ学会, 富山, 2021.12.19
48. 黒田浩一: コロナ時代の感染対策. 看護師向けのオンライン学習サービス FitNs. (フィットナス) 感染チャンネル, 動画講義, 2021.12.23
49. 南井崇宏, 金森真紀: これでも密です. 京都GIMカンファレンス, 京都, 2022.1.7
50. 土井朝子: 第6波におけるコロナ治療. 神戸在宅塾, 神戸, 2022.1.11
51. 長谷川耕平: 抗菌薬適正使用に関する動画講義. 動画講義, 2022.1.11-2.8
52. 土井朝子: コロナの外来治療. 新型コロナウイルス感染症連絡会 オミクロン株患者に対する地域での治療について, 神戸, 2022.1.13
53. 黒田浩一: オミクロン. 新型コロナウイルス感染症連絡会 オミクロン株患者に対する地域での治療について, 神戸, 2022.1.13
54. 黒田浩一: オミクロンと最近の話題. 第43回神戸広域脳卒中地域連携協議会全体会議, Web開催, 2022.2.4
55. 貝田航: 私のおすすめの一冊 教えます. 適々齋塾・合水塾, 2022.3.19

## IX. 1. 33 看護部

1. 小倉明子: 中心ライン関連血流感染に関連するリスク因子. 第9回日本感染管理ネットワーク学会学術集会, WEB開催, 2021.5.14-6.13
2. 切石卓見, 山本麻未, 山口美恵, 杉江英理子, 川村修司: ERにおける、グリーンケアの取り組み. 第24回日本臨床救急医学会総会・学術集会, オンライン開催, 2021.6.10-12
3. 梅田節子, 弦牧知佳, 中岡ミチル, 岩田奈美, 競晴香, 今道富美子: 「新型コロナウイルス感染症に対するがん患者の不安と対処について」. 第26回日本緩和医療学会学術大会, 横浜, ハイブリッド開催, 2021.6.18-19
4. 新改法子, 藤原のり子: 新型コロナウイルス感染症患者の看護の過程で病棟看護師に院内伝播した1事例分析. 第8回日本CNS看護学会, WEB開催, 2021.6.26
5. 丸山浩枝: COVID-19感染疑い・陽性者の子どもと家族へのケアと現状. 日本小児看護学会第31回学術集会, オンライン開催, 2021.6.26
6. 新改法子: 感染症病棟で新型コロナウイルス感染症に院内感染し、職場復帰できた看護師の思い. 第36回



日本環境感染学会総会・学術集会，名古屋，2021.9.20

7. 古川菜摘：母親の育児ストレスと幼児の子守りを目的としたモバイル端末使用の関連．第 62 回日本母性衛生学会総会・学術集会，オンライン開催，2021.10.15-16
8. 新改法子，竹内志津江：院内感染対策室と手術室の連携による COVID-19 感染対策について．第 35 回日本手術看護学会年次大会，WEB 開催，2021.10.16
9. 迫平智江：私の手術看護を振り返って．第 35 回日本手術看護学会年次大会，WEB 開催，2021.10.16
10. 田川優奈：聴覚障がい者の受療時における困難の現状分析．第 28 回日本ホスピス・在宅ケア研究会全国大会 in 熊本，熊本，2021.10.16-17
11. 梅田みゆき，船越明子：救命救急センターにおける自殺未遂患者の家族に対する熟練看護師の看護実践．第 23 回日本救急看護学会学術集会，オンライン開催，2021.10.22-23
12. 正岡由衣，梅田みゆき，高尾佳美：新型コロナウイルス感染症中等症病棟における看護—認知症患者がせん妄から離脱するための多職種連携の重要性について—．第 59 回全国自治体病院学会 in 奈良，奈良，2021.11.4
13. 米谷久美子，金中宏江，小林由香：分かち合うクレーム対応 ～クレームの検討・記録・報告・周知のシステム構築～．第 59 回全国自治体病院学会 in 奈良，奈良，2021.11.5
14. 牧原尚範，古瀬和久，正城奈美，柴田美由紀：COVID-19 流行下での急性血行再建術における感染防御対策．第 37 回 NPO 法人日本脳神経血管内治療学会学術集会 (JSNET2021)，福岡，ハイブリッド開催，2021.11.25
15. 新改法子：感染症病棟で新型コロナウイルス感染症に院内感染し職場復帰できた看護師の思い～職場復帰の決断と復帰後の思いに焦点をあてて～．第 41 回日本看護科学学会学術集会，WEB 開催，2021.12.4-5
16. 今道富美子，田中年恵，競 晴香，濱田麻美子：サージカルグローブを用いた化学療法起因性末梢神経障害予防の圧迫療法の運用—多職種協働による実践—．第 19 回日本臨床腫瘍学会学術集会，京都，ハイブリッド開催，2022.2.17
17. 須谷帆乃香：AYA 世代の乳がん患者が抱える苦悩・体験談の分析から．第 36 回日本がん看護学会学術集会，横浜，ハイブリッド開催，2022.2.19-20
18. 仲村直子：循環器領域で経験する倫理的ジレンマ—ジレンマの解消のためにできること—．第 86 回日本循環器学会学術集会 (JCS2022)，Web 開催，2022.3.11-13
19. 若林侑起：クリティカルナースが知っておきたい「重症患者の鎮静管理」．第 49 回日本集中治療医学会学術集会，WEB 開催，2022.3.18
20. 古川菜摘：母親の育児ストレスと児のモバイル端末での視聴時間の関連．第 36 回日本助産学会学術集会，オンライン開催，2022.3.19-20

## IX. 1. 34 薬剤部

1. 山本晴菜：肝炎医療スタッフ向け WEB サイト立ち上げによるアドバイザリーボード．肝炎医療スタッフ向け WEB サイト立ち上げによるアドバイザリーボード，Web 開催，2021.4.6
2. 池末裕明：薬剤業務マネジメントの舞台裏～がん薬物療法の基本スキル向上と連携充実～．徳島県病院薬剤師会学術講演会，Web 開催，2021.5.19
3. 山本晴菜：肝炎コーディネーター活動における現状、課題、対策に関する座談会．肝炎コーディネーター活動における現状、課題、対策に関する座談会，神戸，2021.5.26
4. 池末裕明，土居晃平，森本麻友，平島正樹，室井延之，山本信祐，竹信俊彦，橋田 亨：デノスマブおよびゾレドロン酸投与患者における顎壊死発現リスクの評価：傾向スコアマッチング解析．第 13 回日本がん薬剤学会 (JSOPP) 学術大会，松山，ハイブリッド開催，2021.5.29
5. 山本晴菜：パネルディスカッション 肝炎事例．令和 3 年度肝炎医療コーディネーター養成研修会 (第 1 回)，WEB 開催，2021.6.11
6. 橋田 亨：新型コロナウイルスに対するワクチン接種について．オストメイト夏期中央オンライン講演会，オンライン開催，2021.6.12
7. 池末裕明：地域につなぐ薬物療法と薬剤師の役割～ツールの活用と具体例～．第 79 回医療薬学公開シンポジウム，Web 開催，2021.6.13

8. 橋田 亨：薬物治療のバリエーションを高める薬剤師の働きと人材育成. Pharmacist Web Seminar – 薬剤師の未来を考える –. WEB 開催, 2021.6.17
9. 池末裕明：職種と地域の連携で支えるがん薬物療法とアウトカム. 兵庫県病院薬剤師会東西神戸支部合同学術講演会, Web 開催, 2021.6.17
10. 山本晴菜, 鄭 浩柄, 杉之下与志樹, 池末裕明, 室井延之, 猪熊哲朗, 橋田 亨：肝炎検査陽性者掘り起こしシステムの構築～医師と薬剤師の協働によるタスクシェアを見据えて～. 第57回日本肝臓学会総会, 札幌, Web 開催, 2021.6.18
11. 梅田節子, 西本哲郎, 弦牧知佳, 中岡ミチル, 岩田奈美, 競 晴香, 今道富美子, 大音三枝子, 小久保雅樹：新型コロナウイルス感染症に対するがん患者の不安と対処について. 第26回日本緩和医療学会学術大会, 横浜, Web 開催, 2021.6.18-19
12. 橋田 亨：薬剤師の価値を患者に届けるための薬剤業務. 薬剤師向け Web 講演会, WEB 開催, 2021.6.29
13. 高柳信子：多発性骨髄腫治療における薬剤師のアプローチ. 兵庫県病院薬剤師会東西神戸支部合同学術講演会, Web 開催, 2021.7.8
14. 室井延之：シンポジウム①：病院薬剤師の地域偏在と解消を考える 薬剤師の地域偏在 ～全国自治体病院実態調査結果より～. 第4回日本病院薬剤師会 Future Pharmacist Forum, オンライン開催, 2021.7.10-18
15. 室井延之：シンポジウム⑥：薬剤師による入退院支援を考える～病院機能別入退院支援業務の分析と先進事例から～ 入退院支援業務ならびに薬剤師連携に関する事例収集の分析結果. 第4回日本病院薬剤師会 Future Pharmacist Forum, オンライン開催, 2021.7.10-18
16. 薩摩由香里：緩和ケアの薬物療法と薬剤師連携. 薬剤師連携 web セミナー, WEB 開催, 2021.7.16
17. 楠田かおり, 室井延之, 土肥麻貴子, 東別府直紀, 西岡弘晶, 橋田 亨：在宅中心静脈栄養 (HPN) を円滑に行うための薬剤情報提供の取り組み. 第36回日本臨床栄養代謝学会学術集会, 神戸, ハイブリッド開催, 2021.7.22
18. 奥貞 智：糖尿病と対峙する支えに～薬という鎧を最大限に活用して～. 第8回日本糖尿病療養指導学術集会, Web 開催, 2021.7.24-25
19. 室井延之：よくわかるセミナー4 栄養療法を薬学的視点で管理する. 第7回日本医薬品安全性学会学術大会, Web 開催, 2021.7.24-25
20. 池末裕明：Oncology pharmacist の役割の広がり と 深化. 医療薬学フォーラム 2021 / 第29回クリニカルファーマシーシンポジウム, Web 開催, 2021.7.24
21. 池末裕明：呼吸器疾患の薬物療法における薬剤師の取り組み. 第50回北区呼吸器疾患勉強会, 神戸, 2021.7.29
22. 薩摩由香里：「チーム医療～薬剤師によるサポートの重要性～」. 薬剤師向け e-detail コンテンツ, 神戸, 2021.8.3
23. 橋田 亨：薬剤師卒業研修の現状と将来. 令和3年度第5回兵庫県薬剤師会・兵庫県病院薬剤師会共催講演会, 神戸, Web 開催, 2021.8.7
24. 立川 良, 佐藤悠城, 永田一真, 中川 淳, 平林亮介, 富井啓介, 金森真紀, 川本未知, 土井朝子, 鎌田里紗, 高瀬友貴, 田村 亮, 富田秀明, 登 佳寿子, 増本憲生, 三沖大介, 藤原秀敏, 児島雅美, 橋本真理子, 米谷久美子, 松永京子, 阿部祐也：神戸市 COVID-19 自宅待機者に対する訪問診療の取り組み. 日本医療マネジメント学会第15回兵庫支部学術集会, Web 開催, 2021.8.16-29
25. 増田義雄, 池末裕明, 楠田かおり, 薩摩由香里, 田中布貴, 森本麻友, 吉留利香, 林 英誉, 平島正樹, 室井延之, 佐藤悠城, 富井啓介, 橋田 亨：免疫関連有害事象の早期発見のための薬剤師による検査入力支援. 日本医療マネジメント学会第15回兵庫支部学術集会, Web 開催, 2021.8.16-29
26. 室井延之：シンポジウム「薬剤師の地域偏在と解消を考える」 自治体病院における薬剤師の地域偏在 ～薬剤管理実態調査結果より～. 日本病院薬剤師会関東ブロック第51回学術大会, Web 開催, 2021.8.28-9.5
27. 池末裕明：C-Program がん免疫療法 (免疫チェックポイント阻害薬) による副作用と支持療法. 日本臨床腫瘍薬学会 Essential Seminar Neo 2021, Web 開催, 2021.9.7-20
28. 豊田紗和子, 増本憲生, 土肥麻貴子, 入江 慶, 奥貞 智, 室井延之, 松岡直樹, 橋田 亨：SGLT2 阻害薬が術後アシドーシスに与える影響. 第9回日本くすりと糖尿病学会学術集会, Web 開催, 2021.9.11-12
29. 福島春子, 川村修司, 鶴谷 茂, 高橋年道, 茂木香織, 宮井宏之, 大谷恭平, 松石邦隆：新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) 流行が医療従事者に与えた心理的影響. 第117回日本精神神経学会学術総会, 京都, ハイブリッド開催, 2021.9.19-21

30. 池末裕明：がん薬物療法における安全性の向上とエビデンスの発信．第 42 回日本薬学会九州山口支部コロキウム，Web 開催，2021.9.26
31. 室井延之：コロナ危機で考える地域医療とデジタル化．第 8 回 Hyogo Pharmacy Director Conference，WEB 開催，2021.9.29
32. 山本晴菜：肝炎医療コーディネーターとしての薬剤師の取り組み．Kansai Liver Forum，大阪，Web 開催，2021.10.9
33. 升田万祐子，中尾智史，長谷川栞，島田和代，向井梨々香，田中瑞希，松本清香，浦西洋彰，池末裕明，橋田 亨，井口和弘，中村光浩：有害事象自発報告データベースを用いた Clostridioides difficile 関連腸炎の評価．第 31 回日本医療薬学会年会，Web 開催，2021.10.9-10
34. 山岡健太，池末裕明，松本彩子，平島正樹，室井延之，山崎俊成，川喜田睦司，橋田 亨：アキシチニブ服用腎細胞がん患者における蛋白尿発現のリスク因子とレニン-アンギオテンシン系降圧薬による保護効果の可能性．第 31 回日本医療薬学会年会，Web 開催，2021.10.9-10
35. 三沖大介，山本晴菜，池末裕明，米谷久美子，橋田 亨，室井延之：急性期病院における転院難渋症例への地域医療連携センター薬剤師の関わり～新型コロナウイルス感染症患者の転院支援における課題～．第 31 回日本医療薬学会年会，Web 開催，2021.10.9-10
36. 室井延之：シンポジウム 55 「医療ニーズに対応した入退院支援を考えるー病院機能別入退院支援業務の分析と先進事例からー」 入退院支援業務ならびに薬剤師連携に関する事例収集の分析結果．第 31 回日本医療薬学会年会，Web 開催，2021.10.10
37. 山本晴菜：肝疾患患者さんを繋ぐ～肝炎医療コーディネーターの役割～．第 4 回神戸消化器懇話会，神戸，2021.10.14
38. 池末裕明：教育セッション 7 支持療法．第 59 回日本癌治療学会学術集会，横浜，Web 開催，2021.10.22
39. 橋田 亨：(特別講演) 大波を超えて見えた医療の行方と薬剤業務マネジメント．Pharmacy Management Web Seminar，WEB 開催，2021.10.27
40. 三沖大介：急性期病院における地域医療連携と薬剤師の役割．Erbitux HN Web Seminar (第 2 回中日本セミナー)，Web 開催，2021.10.28
41. 比谷里美，藤原 悟，田中郁壮，片上隆史，石山浩之，幸原伸夫，川本未知：IVIg から SCIg へ移行し症状安定を得た高用量 IgG の慢性炎症性脱髄性多発神経炎の 1 例．第 39 回日本神経治療学会学術集会，津，ハイブリッド開催，2021.10.28-30
42. 奥貞 智：ICT を活用して「国民の健康を確保」するために～薬剤師としての知識・責任感・覚悟をもって～．第 58 回日本糖尿病学会近畿地方会，京都，ハイブリッド開催，2021.10.30
43. 薩摩由香里：地域連携に関するカリキュラムを取り入れた薬剤師レジデント教育．第 24 回近畿薬剤師学術大会，Web 開催，2021.10.31
44. 吉野新太郎：抗がん薬による多様な眼障害．第 9 回神戸アイセンター病院眼科臨床懇話会，WEB 開催，2021.11.4
45. 増本憲生，藤田拓俊，入江 慶，高瀬友貴，橋田 亨，平島正樹，池末裕明，室井延之：新型コロナウイルス感染症ワクチン副反応対策としてのアセトアミノフェン服用に関する調査．第 59 回全国自治体病院学会，奈良，2021.11.5
46. 山本晴菜：肝炎医療コーディネーター活動の ABC ～薬剤師としてできること～．令和 3 年度第 8 回兵庫県薬剤師会・兵庫県病院薬剤師会共催講演会，神戸，WEB 開催，2021.11.6
47. 池末裕明：がん薬物療法におけるタスク・シフティングの取り組みと舞台裏．第 52 回日赤臨床薬学研修会，Web 開催，2021.11.6
48. 今子千鶴，入江 慶，土肥麻貴子，田村 亮，池末裕明，橋田 亨，室井延之：透析患者におけるセフトリアキソンの母集団薬物動態解析．第 11 回日本薬剤師レジデントフォーラム，Web 開催，2021.11.6
49. 松井佑莉，増本憲生，入江 慶，高瀬友貴，藤田拓俊，橋田 亨，平島正樹，池末裕明，室井延之：新型コロナウイルス感染症ワクチン接種に対する不安とアセトアミノフェン配布に関する調査．第 11 回日本薬剤師レジデントフォーラム，Web 開催，2021.11.6
50. 松本彩子，山岡健太，池末裕明，平島正樹，橋田 亨，山崎俊成，川喜田睦司，室井延之：腎細胞がん患者における血管新生阻害薬による蛋白尿発現のリスク因子とレニン-アンギオテンシン系降圧薬による低減効果の可能性．第 11 回日本薬剤師レジデントフォーラム，Web 開催，2021.11.6

51. 池末裕明：タスク・シフティングの取り組みと舞台裏．大阪府下市民病院薬剤部長会学術講演会，大阪，2021.11.12
52. 吉野新太郎：ベージニオの薬剤師外来における服薬指導のポイント．Kobe Breast Cancer Seminar, WEB 開催，2021.11.26
53. 山本晴菜：パネルディスカッション 肝炎事例．令和3年度兵庫県肝炎医療コーディネータースキルアップ研修，Web 開催，2021.11.27
54. 室井延之：コロナ危機の中での自治体病院と薬剤師の役割．全国自治体病院協議会 第2回薬剤部会オンラインセミナー，Web 開催，2021.12.1-2022.2.14
55. 橋田 亨：薬剤師教育における卒後臨床研修－薬剤師レジデントの現状と制度化に向けた取り組み－．第56回日本理学療法学会学術大会 日本地域理学療法学会・日本支援工理学療法学会・日本理学療法教育学会・日本理学療法管理研究会 合同学術大会 2021，Web 開催，2021.12.5
56. 田中郁壮，入江 慶，堀井 亮，福井伸行，今村博敏，平昌正樹，池末裕明，室井延之，福島昭二，坂井信幸，橋田 亨：透析中の悪性神経腫瘍患者におけるテモゾロミド適正投与のための薬物動態の評価．第39回日本脳腫瘍学会学術集会，神戸，ハイブリッド開催，2021.12.6
57. 池末裕明：職種間・地域での協働で磨かれる oncology pharmacist の役割．Web 研修会 理想的なタスクシフティングにおいて今薬剤師に必要とされる臨床力とは？ WEB 開催，2021.12.13
58. 三沖大介：病診薬連携の事例紹介．令和3年度第2回薬剤師連携推進研修会～消化器がん、消化器系の副作用対策を学ぶ～，Web 開催，2021.12.18
59. 山本晴菜：肝炎医療コーディネーター「兵庫モデル」の進捗・課題について．令和3年度厚生労働行政推進調査事業費補助金（肝炎等克服政策研究事業）「非ウイルス性を含めた肝疾患のトータルケアに資する人材育成等に関する研究」班会議，Web 開催，2021.12.20
60. 室井延之：病院と地域をつなぐ薬物療法と安全管理 施設間情報提供書とトレーシングレポートの利活用．国際医療リスクマネジメント学会 医薬品安全管理研修会 2022，Web 開催，2022.1.8
61. 室井延之：地域につながるがん薬物療法と薬剤業務のデジタルトランスフォーメーション．日本薬学会関東支部 薬剤師向け研修講演会「がん治療における薬剤師の役割－基礎から地域医療連携まで－」，オンライン開催，2022.1.9
62. 高柳信子：多発性骨髄腫治療における薬剤師のアプローチ～病棟業務から薬剤師外来までのシームレスな関わりを通して～．第14回薬剤師セミナー，Web 開催，2022.1.14-31
63. 池末裕明：薬剤師が支えるPBPMを用いた積極的なirAE. Management Immuno-Oncology Seminar for pharmacists, WEB 開催，2022.1.21
64. 室井延之：自治体病院における薬剤師の地域偏在 ～薬剤管理実態調査結果より～．令和3年度厚生労働行政推進調査事業費補助金事業「薬剤師の卒後研修カリキュラムの調査研究」成果報告会，WEB 開催，2022.1.23
65. 橋田 亨：成果報告（分担研究）．令和3年度厚生労働行政推進調査事業費補助金事業「薬剤師の卒後研修カリキュラムの調査研究」成果報告会，WEB 開催，2022.1.23
66. 橋田 亨：地域と病院をつなぐ薬物療法と薬剤師の役割．Hospital Pharmacist Web Seminar, WEB 開催，2022.1.26
67. 池末裕明：がん薬物療法のタスク・シフト/シェア～何を学び、何を拓くのか～．がん臨床薬剤師セミナー，WEB 開催，2022.1.28
68. 山田圭位子，田中郁壮，三沖大介，山本晴菜，小泉直史，前川嵩太，橋田 亨，川本未知，室井延之：レボドパ/カルビドパ配合経腸用液療法の在宅移行における地域多職種とのシームレスな服薬支援連携．第43回日本病院薬剤師会近畿学術大会，Web 開催，2022.1.29-30
69. 田中郁壮，入江 慶，土肥麻貴子，比谷里美，藤原 悟，川本未知，橋田 亨，室井延之：免疫グロブリンGの薬物動態解析：高用量の投与が必要であった慢性炎症性脱髄性多発根ニューロパチー患者1例．第43回日本病院薬剤師会近畿学術大会，Web 開催，2022.1.29-30
70. 鎌田里紗，登 佳寿子，高瀬友貴，田村 亮，藤原秀敏，富田秀明，増本憲生，三沖大介，富井啓介，室井延之：神戸市 COVID-19 在宅訪問診療における薬剤師の役割．第43回日本病院薬剤師会近畿学術大会，Web 開催，2022.1.29-30

71. 辻井聡容, 小玉博一, 上田 宏, 岡本勇二, 丹田雅明, 廣畑秀記, 吉田太郎, 久笠井秀一, 室井延之: 兵庫県病院薬剤師会・兵庫県薬剤師による外来がん化学療法支援の取り組み～先進的薬剤業務特別委員会の活動報告(第一報)～. 第43回日本病院薬剤師会近畿学術大会, Web開催, 2022.1.29-30
72. Inoue M, Matsumoto K, Tanaka M, Yoshida Y, Satake R, Goto F, Shimada K, Mukai R, Hasegawa S, Suzuki T, Ikesue H, Jun L, Hashida T, Nakamura M: Comparison of the Time of Onset of Peripheral Neuropathy with Solvent-Based and Nanoparticle Albumin-Bound Paclitaxel Formulations Using the Japanese Adverse Drug Event Report Database. The 21<sup>st</sup> Asian Conference on Clinical Pharmacy: ACCP 2022 in Nagoya, Online, 2022.2.11-13
73. 池末裕明: チームで支える irAE マネジメント. 日本臨床腫瘍学会がん 免疫薬物療法マネジメントセミナーベーシックコース, Web開催, 2022.2.13
74. 室井延之: 医薬品の供給問題を考える. 第9回 Hyogo Pharmacy Director Conference, WEB開催, 2022.2.16
75. 室井延之: 神戸市立医療センター中央市民病院モデル事業研修報告(指導側からみた振り返り). 令和3年度卒後臨床研修の効果的な実施のための調査検討事業「研修報告会」, WEB開催, 2022.2.20
76. 室井延之: 自治体病院における薬剤師の地域偏在～薬剤管理実態調査結果より～. 令和3年度厚生労働行政推進調査事業費補助金 公開シンポジウム: 地域における効果的な薬剤師確保の取組に関する調査研究, 東京, Web開催, 2022.2.27
77. 吉野新太郎: 涙道閉塞に関わる抗がん剤服用患者の服薬情報提供について. 令和3年度薬剤師連携推進のための合同研修会, WEB開催, 2022.3.2
78. 橋田 亨: 取り扱いに注意を要する医薬品の管理と薬剤師の役割. 病院・保険薬局薬剤師 WEB セミナー, WEB開催, 2022.3.4
79. 森本麻友, 平島正樹, 入江 慶, 橋田 亨, 吉田英一, 室井延之: オゾン化アルコールスプレーのパクリタキセル除染効果の検証. 日本臨床腫瘍薬学会学術大会 2022 [JASPO2022], 仙台, ハイブリッド開催, 2022.3.12-13
80. 三沖大介: 地域で取り組むがん薬物療法支援 ～連携充実加算と特定薬剤管指理指導加算2の算定促進に向けて～ 高度急性期病院における地域医療連携と薬剤師の役割～薬剤師連携の現状と課題～. 日本臨床腫瘍薬学会学術大会 2022 [JASPO2022], 仙台, ハイブリッド開催, 2022.3.13
81. 薩摩由香里: 抗線維化薬のアドヒアランス向上を目指した服薬指導. ファーマシーセミナーアドバンス(ベーリンガー), オンライン開催, 2022.3.15
82. 室井延之: 地域と病院とをつなぐ薬物療法と薬剤師の役割. Hospital Pharmacist Web Seminar, WEB開催, 2022.3.23

## IX. 1. 35 臨床検査技術部

1. 鳥居裕太, 谷 知子, 北井 豪, 岡田大司, 菅沼直生子, 山本 剛, 宮川祥治, 則政文子, 大畑淳子, 中原千裕, 山本 駿, 香原美咲, 長野真弥, 井川彩加, 藤井礼子, 松岡京子, 森元加奈, 古川 裕: Barlow 病における Mitral Annular Disjunction と心血管イベントの関連. 日本心エコー図学会第 32 回学術集会, WEB開催, 2021.4.23
2. 香原美咲, 北井 豪, 岡田大司, 山本 駿, 鳥居裕太, 井川彩加, 松岡京子, 則政文子, 長野真弥, 中原千裕, 大畑淳子, 藤井礼子, 宮川祥治, 菅沼直生子, 泉 佑樹, 太田光彦, 谷 知子, 古川 裕: 大動脈弁位人工弁機能評価における Doppler velocity index の算出法の検討. 日本心エコー図学会第 32 回学術集会, WEB開催, 2021.4.24
3. 長野真弥, 北井 豪, 岡田大司, 鳥居裕太, 宮川祥治, 井川彩加, 松岡京子, 香原美咲, 則政文子, 中原千裕, 山本 駿, 大畑淳子, 菅沼直生子, 藤井礼子, 古川 裕: 右胸壁アプローチにて評価可能であった肺動脈内膜肉腫の一例. 日本心エコー図学会第 32 回学術集会, WEB開催, 2021.4.24
4. 佐々木一朗: 術中神経モニタリング (IOM) の先にあるもの～転ばぬ先の杖～. 第 70 回日本医学検査学会, WEB開催, 2021.5.15-6.14
5. 玉木明子, 井本秀志, 尾松雅仁, 田代章人, 中山友理香, 山下大祐, 原 重雄: セルブロックが早期診断に有用であった腹膜中皮腫の 1 例. 第 70 回日本医学検査学会, WEB開催, 2021.5.15-6.14
6. 井川彩加, 北井 豪, 鳥居裕太, 菅沼直生子, 山本 駿, 中原千裕, 長野真弥, 岡田大司, 小山忠明, 古川裕: 再燃をきたした IgG4 関連冠動脈瘤の 1 例. 日本超音波医学会第 94 回学術集会, 神戸, ハイブリッド開催, 2021.5.21

7. 鳥居裕太, 岡田大司, 常盤麻里子, 長野真弥, 則政文子, 香原美咲, 宮川祥治, 菅沼直生子, 北井 豪, 古川 裕: 転移性腫瘍の経時的増大に伴い右室二腔症様の血行動態を呈した1例. 日本超音波医学会第94回学術集会, 神戸, ハイブリッド開催, 2021.5.22
8. 菅沼直生子, 宮川祥治, 山本 剛, 簗輪和士, 江藤正明, 岡田大司, 谷 知子, 北井 豪: 神戸市立医療センター中央市民病院心エコー検査室の運営方法. 日本超音波医学会第94回学術集会, 神戸, ハイブリッド開催, 2021.5.23
9. 尾松雅仁: 呼吸器細胞診. 兵庫県臨床検査技師会細胞検査定期研修会(細胞診ジュニアコース), WEB開催, 2021.5.26
10. 丸岡隼人: 当院における移植後キメリズム解析の運用について. 第2回今後の輸血細胞治療検査室のあり方を考えるセミナー, WEB開催, 2021.6.25
11. 丸岡隼人: 急性骨髄性白血病におけるMRD解析法の最前線. Meet the Expert Clinical Technologists Seminar, WEB開催, 2021.9.7
12. 大野 彩, 丸岡隼人, 白石祐美, 物部真恵, 姫野真由子, 大山幸永, 平本展大, 石川隆之: 急性骨髄性白血病における患者特異的FLT3-ITD定量PCRの測定可能残存病変解析. 第22回日本検査血液学会学術集会, WEB開催, 2021.9.11
13. 物部真恵, 丸岡隼人, 大山幸永, 大野 彩, 姫野真由子, 白石祐美, 平本展大, 山下大祐: Digital PCR法によるRHOA G17V検出法の確立. 第22回日本検査血液学会学術集会, WEB開催, 2021.9.11
14. 丸岡隼人: 当院における多発性骨髄腫MRD解析—ゲーティングストラテジー—. 第2回BD FCM-MRDワークショップ 多発性骨髄腫編, WEB開催, 2021.10.6
15. 吉田昌弘: キムリア導入への近道“チームで行う細胞調製”. 第28回日本輸血・細胞治療学会 秋季シンポジウム, 浜松, 2021.10.9
16. 鳥居裕太, 岡田大司, 金 基泰, 大畑淳子, 井川彩加, 宮川祥治, 菅沼直生子, 古川 裕: 滲出性収縮性心膜炎への移行を観察し得た急性心膜炎の一例. 日本超音波医学会第48回関西地方会学術集会, 京都, 2021.10.16
17. 崎山千尋, 岩崎信広, 馬場理江, 佐々木一朗, 簗輪和士, 鄭 浩柄, 猪熊哲朗: 単一腎盂尿管に伴う尿管瘤の3例. 日本超音波医学会第48回関西地方会学術集会, 京都, 2021.10.16
18. 田谷真佑子, 岩崎信広, 登阪貴子, 浜田一美, 馬場理江, 佐々木一朗, 簗輪和士, 鄭 浩柄, 猪熊哲郎, 原重雄: 下大静脈まで腫瘍進展を来した平滑筋腫の一例. 日本超音波医学会第48回関西地方会学術集会, 京都, 2021.10.16
19. 佐々木一朗: 術中神経モニタリングの一から十まで—タスクシフトも踏まえて—. 兵庫県臨床検査技師会生理研修会, WEB開催, 2021.10.30
20. 崎山千尋: 腎臓の形態異常と悪性を疑う病変の鑑別ポイントについて—各種疾患に対するアプローチも添えて—. 2021年度神戸市立医療センター中央市民病院生理検査室オープンカンファレンス, WEB開催, 2021.11.18
21. 田谷真佑子: 「この疾患なに?」. 2021年度神戸市立医療センター中央市民病院生理検査室オープンカンファレンス, WEB開催, 2021.11.18
22. 岩崎信広: 超音波検査講演「meet a need」. 2021年度神戸市立医療センター中央市民病院生理検査室オープンカンファレンス, WEB開催, 2021.11.18
23. 丸岡隼人: 悪性リンパ腫におけるフローサイトメトリー検査の有用性—マルチパラメトリックフローサイトメトリーの夜明け—. 第95回日本病理学会近畿支部学術集会, WEB開催, 2021.12.4
24. 丸岡隼人: 急性骨髄性白血病におけるMRD解析法の最前線. 検査・臨床 Collaborative Seminar, WEB開催, 2021.12.9
25. 丸岡隼人: 多発性骨髄腫におけるフローサイトメトリー検査の威力—invisibleをvisibleへ—. 臨床検査科のためのMM臨床講座, WEB開催, 2022.1.21
26. 牧田実央, 奈須聖子, 神田 彩, 杉邑俊樹, 田中佑果, 長尾朋実, 松本泰三: Herbaspirillum huttienseによる中心静脈カテーテル関連血流感染症(CLABSI)の1例. 第33回日本臨床微生物学会総会・学術集会, 仙台, 2022.1.29
27. 杉邑俊樹, 奈須聖子, 神田 彩, 牧田実央, 田中佑果, 長尾朋実, 松本泰三: FilmArray 髄膜炎・脳炎パネルの使用経験. 第33回日本臨床微生物学会総会・学術集会, 仙台, 2022.1.29

28. 田中佑果, 奈須聖子, 神田 彩, 牧田実央, 杉邑俊樹, 長尾朋実, 松本泰三: 当院の Clostridioides difficile 毒素遺伝子検査の実施状況. 第 33 回日本臨床微生物学会総会・学術集会, 仙台, 2022.1.29
29. 佐々木一朗: 脳死下臓器提供 -25 年経った実情-. 第 15 回脳波・筋電図セミナー, WEB 開催, 2022.1.29
30. 佐々木一朗: 臓器提供のアウトフレーム. 2021 年度兵庫県臓器提供セミナー, WEB 開催, 2022.2.19
31. 中村真実子: 臓器提供事例の報告. 2021 年度兵庫県臓器提供セミナー, WEB 開催, 2022.2.19
32. 南 佳織: 臓器提供適応患者の評価. 2021 年度兵庫県臓器提供セミナー, WEB 開催, 2022.2.19
33. 白石祐美: 新型コロナウイルス遺伝子検査あれこれ～検出方法の違いを知る. 令和 3 年度兵庫県医学検査学会 (第 26 回), WEB 開催, 2022.2.27
34. 菅沼直生子: 超音波検査の内部精度管理(心臓超音波を中心に). 令和 3 年度兵庫県医学検査学会(第 26 回), WEB 開催, 2022.2.27
35. 鳥居裕太, 谷 知子, 岡田大司, 菅沼直生子, 宮川祥治, 上野菜美子, 大畑淳子, 中原千裕, 香原美咲, 長野真弥, 井川彩加, 岸中日幸, 古川 裕: Barlow 病における僧帽弁逆流・僧帽弁複合体形態と心血管イベントの関連. 第 86 回日本循環器学会学術集会 (JCS2022), Web 開催, 2022.3.11-13
36. Torii Y: Early Detection of CTRCD using Leg Positive Pressure Stress Echocardiography in Cancer Patients. The 86th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society (JCS2022), Online, 2022.3.11-13
37. 丸岡隼人: 令和 3 年度精度管理報告 新型コロナウイルス遺伝子検査の概要. 令和 3 年度精度管理調査検討会, 神戸, 2022.3.12

## IX. 1. 36 放射線技術部

1. 宇都宮隆: 新規導入した救急 CT について. KCGH Stroke フォーラム 2021, 神戸, 2021.4.27
2. 清水敬二: 臨床 PET 検査法 被ばく防止と放射線管理. 日本核医学会第 21 回春季大会, web 開催, 2021.5.7-31
3. 清水敬二: PET の収集基礎. はりま RI 塾, web 開催, 2021.6.30
4. 山本滝人: 1.5T × AIR Recon DL の実力. AIR Rowdshow online in 兵庫, 2021.9.30
5. 中村翔太: 動脈瘤計測に関して. Philips Live! #05 Neuro Suite Users Summit (第一部 Session 1), 大阪, Web 開催, 2021.10.16
6. Kito S, Mukumoto N, Nakamura M, Tanabe H, Karasawa K, Kokubo M, Sakamoto T, Yoshimura M, Matsuo Y, Hiraoka M, Mizowaki T: Theoretical Calculation of Population-Based Margins in Fiducial Marker-Based Real-time Tumor Tracking. ASTRO's 63rd Annual Meeting, Chicago, 2021.10.24-27
7. 木藤哲史, 椋本宜学, 中村光宏, 田邊裕朗, 唐澤克之, 小久保雅樹, 坂本隆吏, 飯塚裕介, 吉村通央, 松尾幸憲, 平岡真寛, 溝脇尚志: 標的の呼吸性移動を補償するための非対称な幾何学的マージンの算定 Calculation of asymmetric geometric margin to compensate the respiratory motion of target. 日本放射線腫瘍学会第 34 回学術大会, オンライン開催, 2021.11.12-14
8. 小林彩友美, 平光由侑, 森永由起子, 名定良祐, 茨木丈晴, 奥内 昇: MRI 対応ストレッチャーからの患者転落防止への取り組み. 第 37 回日本診療放射線技師学術大会, 東京, ハイブリッド開催, 2021.11.13
9. 名定良祐, 山本滝人, 平光由侑, 茨木丈晴, 奥内 昇: ディープラーニング画像再構成におけるノイズパワースペクトルの計測. 第 37 回日本診療放射線技師学術大会, 東京, ハイブリッド開催, 2021.11.14
10. 宇草賢二, 石蔵礼一, 竹本幸志, 宇都宮隆, 岡村佳明, 名定良祐: 頭部外傷 CT における自動骨除去画像による出血除外診断の有用性について. 第 37 回日本診療放射線技師学術大会, 東京, ハイブリッド開催, 2021.11.14
11. 名定良祐: 心臓 MRI. 第 51 回兵庫県核医学技術検討会, web 開催, 2021.11.20
12. 大塚 聖: COVID-19 患者の放射線検査対応. 第 10 回救急撮影オープンカンファレンス, 兵庫, 2021.11.26
13. 平光由侑, 小林彩友美, 森永由起子, 茨木丈晴, 名定良祐, 奥内 昇: MRI 対応ストレッチャーからの患者転落防止への取り組み. 第 16 回医療の質・安全学会学術集会, WEB 開催, 2021.11.27-28
14. 吉原宣幸: そのデバイス視えていますか?～医師が変わればデバイスも変わる?～. 医用画像の活用をクロスモダリティで考える会, 兵庫, 2021.12.3
15. 田邊裕朗: 新しいマーク保護シールの検証と初期使用経験. 第 30 回兵庫放射線治療研究会, WEB 開催, 2021.12.17
16. 名定良祐: ディープラーニング画像再構成が 1.5T 装置へ与えるインパクト～ AIR™ Recon DL の使用経験を中心に～. 第 17 回中四国放射線医療技術フォーラム, WEB 開催, 2021.12.18

17. 福井翔也：Comparison of single-energy and dual-energy CT images in patients with arms down positioning: A phantom study on the evaluation of image quality at different arm positions. ECR2022 (欧州放射線学会 2022), ONLINE, 2022.3.2-6
18. 清水敬二：新薬導入時における技師の仕事と役割～主にアミロイドPET撮像について～. 第30回兵庫県PET技術検討会, web開催, 2022.3.4
19. 村田歩美, 宇草賢二：造影CTにおける台形クロス注入法を用いた場合の造影剤の挙動に関する基礎的検討. 神戸市技師会 研究発表会, web開催, 2022.3.14-18
20. 末岡正輝：転移性脊椎腫瘍の定位放射線治療. 第3回兵庫の放射線治療の未来をかたる会, Web開催, 2022.3.19

#### IX. 1. 37 臨床工学技術部

1. 畑 秀治：新人教育のためのチェックシート作成. 第12回広島県臨床工学技士会学術大会・総会, WEB開催, 2021.6.27
2. 杉澤朋弥, 田代章人, 西原浩真, 尾川華子, 有吉孝一：院内ロジスティクスの育成と能力向上に向けた取り組みについて. 第27回日本災害医学会総会・学術集会, 広島, ハイブリッド開催, 2022.3.5
3. 釜江直也, 原園 裕, 石橋一馬, 中村 聡, 中園紘子, 井上和久, 坂地一朗, 吉本明弘：COVID-19専用病棟での腎代替療法を経験して. 第49回日本集中治療医学会学術集会, WEB開催, 2022.3.20

#### IX. 1. 38 栄養管理部

1. 岩倉敏夫：SGLT2阻害薬による食行動への影響を考慮した栄養指導法を模索する. T2DM Webセミナー～糖尿病治療を再考する～, Web開催, 2021.5.13
2. 岩坂朋子：学校で提供されるアレルギー対応給食の実際を知ろう. 第37回日本小児臨床アレルギー学会, web開催, 2021.5.31-6.23
3. 岩本昌子, 東別府直紀, 西岡弘晶：当院の特定集中治療室（ICU）における早期栄養介入管理加算に関する現状と課題. 第36回日本臨床栄養代謝学会学術集会, 神戸, ハイブリッド開催, 2021.7.21
4. 三浦由美子, 岩本昌子, 酒井大輝：ロービジョン患者を対象とした病院給食の食器の検討. 第68回日本栄養改善学会学術総会, web開催, 2021.10.1
5. 岩倉敏夫：GLP-1受容体作動薬を用いたコロナ禍での糖尿病治療戦略. GLP-1 Online Seminar, WEB開催, 2021.10.21
6. 岩倉敏夫：GLP-1受容体作動薬を活かしたコロナ禍での糖尿病治療戦略. 第155回糖尿病教育学習研究会（トップセミナー）第194回IIDES糖尿病研究会 第129回CDE兵庫県連合会研究会, 神戸, ハイブリッド開催, 2021.10.23
7. 岩倉敏夫：GLP-1製剤を活かしたコロナ禍での在宅血糖管理. Diabetes & Incretin Seminar in Fukuyama, WEB開催, 2021.10.28
8. 岩倉敏夫：コーチングを活用した個別化した糖尿病診療の試み. 糖尿病治療を考える会, WEB開催, 2021.10.29
9. 岩倉敏夫：GLP-1製剤を活かしたコロナ禍での在宅血糖管理. Incretin Web Seminar - GLP-1受容体作動薬を活用する -, WEB開催, 2021.11.18
10. 岩倉敏夫：どうする？糖尿病患者の脂質管理～脂質管理の重要性とClinical Inertia～. 脂質管理を考える会, WEB開催, 2021.11.25
11. 岩倉敏夫：COVID-19に振り回されない新しい糖尿病診療を模索する. Diabetes Relationship Seminar in Kobe, 神戸, 2021.11.30
12. 岩倉敏夫：GLP1製剤を活かしたコロナ禍での糖尿病治療ストラテジー. Diabetes & Incretin Seminar in 東播, WEB開催, 2021.12.16
13. 岩本昌子：ICUでの栄養療法；理論と実際～管理栄養士の視点から～. 京都大学医学部附属病院令和3年度NST特別講演会, web開催, 2022.2.18



#### IX. 1. 39 臨床研究推進センター 研究部門 再生医療研究部

1. 森実飛鳥：パーキンソン病に対する iPS 細胞を用いた細胞移植療法. 第 139 回日本薬理学会近畿部会, オンライン開催, 2021.6.26
2. Morizane A : CELL THERAPY FOR PARKINSON'S DISEASE WITH INDUCED PLURIPOTENT STEM CELLS. German Society of Biochemistry and Molecular Biology Lecture Series, Bochum Germany (web), 2021.6.30
3. 森実飛鳥：iPS 細胞を用いたパーキンソン病に対する細胞療法. 第 42 回日本炎症・再生医学会, オンライン開催, 2021.7.8
4. 森実飛鳥：パーキンソン病と再生医療. 地域連携の会, 神戸 (web), 2021.7.15
5. Morizane A : Cell therapy for Parkinson's disease with induced pluripotent stem cells. 日本神経学学会, 神戸(web), 2021.7.30
6. 森実飛鳥：iPS 細胞を用いたパーキンソン病に対する細胞移植治療における HLA 適合. 第 29 回日本組織適合性学会大会, web 開催, 2021.9.3
7. Morizane A : Immune modulation and immune matching in cell therapies for Parkinson's disease. 31st NECTAR/16th INTR, UK, web, 2021.11.10
8. 森実飛鳥：パーキンソン病に対する iPS 細胞を用いた細胞移植療法. 徳島大学 第 13 回脳科学クラスターミニトリート, オンライン開催, 2022.2.23
9. Morizane A : Cell replacement therapy for Parkinson's disease with iPS cells. 16th International Conference on Alzheimer's and Parkinson's Diseases (ADPD2022), Barcelona, Spain (web), 2022.3.17
10. 森実飛鳥：多能性幹細胞由来ドーパミン神経分化誘導におけるプロトコルの調整. 第 21 回日本再生医療学会総会, web 開催, 2022.3.17

#### IX. 1. 40 臨床研究推進センター 管理支援部門 管理支援室

1. 玉木理衣：5 薬剤師～患者と医師をつなぐ CRC (臨床研究コーディネーター) ～ 大学間連携による臨床医工学・情報学高度人材育成事業 キャリアデザイン論. ロールモデルの実体験に基づいたキャリアパス講演, WEB 開催, 2021.7.10
2. 玉木理衣：シンポジウム 6 CRC のキャリアデザイン ～ CRC の専門性を活かし未来の履歴書を描く～. 第 21 回 CRC と臨床試験のあり方を考える会議, WEB 開催, 2021.10.2
3. 義平祥菜：OJT プログラムに基づく評価シートを使用した教育プログラムの導入. 日本臨床試験学会第 13 回学術集会総会, 東京, ハイブリッド開催, 2022.2.4-5

## IX. 2 西市民病院

### IX. 2.1 消化器内科

1. 渡邊 賢, 山田 聡, 原 拓史, 加藤修平, 平佐貴弘, 星 充, 安村聡樹, 高田真理子, 三上 栄, 住友靖彦, 山下幸政: 下大静脈に迷入した ERBD プラスチックステントの一例. 第 107 回日本消化器内視鏡病学会近畿支部例会, 神戸, ハイブリッド開催, 2021.12.11
2. 加藤修平, 住友靖彦, 今村 敦, 中川 豪, 原 拓史, 渡邊 賢, 平佐貴弘, 星 充, 山田 聡, 高田真理子, 山下幸政: 肝細胞癌との鑑別に難渋した肝血管筋脂肪腫の一例. 日本消化器病学会近畿支部第 116 回例会, 大阪, WEB 開催, 2022.2.5
3. 原 拓史, 星 充, 本間周作, 今村 敦, 中川 豪, 渡邊 賢, 加藤修平, 平佐貴弘, 山田 聡, 高田真理子, 山下幸政: 胃穹窿部、横行結腸嵌入に伴い十二指腸球部で通過障害をきたした食道裂孔ヘルニアの一例. 日本消化器病学会近畿支部第 116 回例会, 大阪, WEB 開催, 2022.2.5

### IX. 2.2 呼吸器内科

1. 片岡健介, 吾妻安良太, 須田隆文, 富岡洋海, 近藤康博: COVID-19 流行期におけるびまん性肺疾患急性増悪に関する WEB アンケート調査. 第 61 回日本呼吸器学会学術講演会, 東京, ハイブリッド開催, 2021.4.23-25
2. 荒井直樹, 斎藤武文, 小倉高志, 富井啓介, 神尾孝一郎, 坂本 晋, 宮崎泰成, 富岡洋海, 久田 修, 半田知宏, 本間 栄, 西岡安彦, 吾妻安良太: 特発性肺線維症患者を対象とした第 II 相臨床試験における TAS-115 の有効性と安全性. 第 61 回日本呼吸器学会学術講演会, 東京, ハイブリッド開催, 2021.4.23-25
3. 伊藤功朗, 遠藤和夫, 江村正仁, 小嶋 徹, 富井啓介, 大塚浩二郎, 赤井雅也, 杉田孝和, 福井基成, 長谷川吉則, 高橋憲一, 安井浩明, 藤田浩平, 石田 直, 北 英夫, 加持雄介, 土谷美知子, 富岡洋海, 山田 孝, 寺田 悟, 中治仁志, 濱尾信叔, 白田全弘, 西岡憲亮, 平井豊博: 新型コロナウイルス肺炎とインフルエンザウイルス肺炎の予後因子についての検討. 第 61 回日本呼吸器学会学術講演会, 東京, ハイブリッド開催, 2021.4.23-25
4. 大井一成, 伊藤功朗, 遠藤和夫, 江村正仁, 小嶋 徹, 富井啓介, 大塚浩二郎, 赤井雅也, 杉田孝和, 福井基成, 長谷川吉則, 高橋憲一, 安井浩明, 藤田浩平, 石田 直, 北 英夫, 加持雄介, 土谷美知子, 富岡洋海, 山田 孝, 寺田 悟, 中治仁志, 濱尾信叔, 西岡憲亮, 平井豊博: 新型コロナウイルス肺炎とインフルエンザ肺炎の臨床像の比較. 第 61 回日本呼吸器学会学術講演会, 東京, ハイブリッド開催, 2021.4.23-25
5. 白田全弘, 伊藤功朗, 石田 直, 遠藤和夫, 江村正仁, 小嶋 徹, 富井啓介, 大塚浩二郎, 赤井雅也, 杉田孝和, 福井基成, 長谷川吉則, 高橋憲一, 安井浩明, 藤田浩平, 北 英夫, 加持雄介, 土谷美知子, 富岡洋海, 山田 孝, 寺田 悟, 中治仁志, 濱尾信叔, 西岡憲亮, 平井豊博: 呼吸不全を伴う新型コロナウイルス肺炎とレジオネラ肺炎の臨床像の比較. 第 61 回日本呼吸器学会学術講演会, 東京, ハイブリッド開催, 2021.4.23-25
6. 横山俊秀, 藤川 桂, 鈴木秀和, 上浪 健, 田宮朗裕, 佐藤悠城, 齋藤 合, 内田純二, 森田充紀, 福田泰, 平島智徳, 金津正樹, 細谷和貴, 岩澤俊一郎, 上野清伸, 藤本大智, 熊谷 融, 手良向聡, 田宮基裕: Stage IV 期 EGFR 陽性 NSCLC に対する EGFR-TKI の治療成績と T790M 検出の検討~ HOPE-002. 第 61 回日本呼吸器学会学術講演会, 東京, ハイブリッド開催, 2021.4.23-25
7. 岩林正明, 富岡洋海, 和田学政: 禁煙治療前後における呼吸機能の変化とその予測因子. 第 61 回日本呼吸器学会学術講演会, 東京, ハイブリッド開催, 2021.4.23-25
8. 富岡洋海: シンポジウム「過敏性肺炎国際ガイドラインの問題点と展望」わが国における過敏性肺炎診療指針. 第 61 回日本呼吸器学会学術講演会, 東京, ハイブリッド開催, 2021.4.23-25
9. 富岡洋海: Year Review in Assembly 2020 びまん性肺疾患学術部会. 第 61 回日本呼吸器学会学術講演会, 東京, ハイブリッド開催, 2021.4.23-25
10. 富岡洋海: ILD の診療 2021 update. ILD Web Academy, WEB 開催, 2021.4.28
11. 富岡洋海: 特発性肺線維症と膠原病に伴う間質性肺疾患 IPF と CTD-ILD-抗線維化薬がつなぐもの- 膠原病に伴う間質性肺疾患 WEB Academy, WEB 開催, 2021.6.2
12. 金子正博: 重症喘息の診断と治療~これからの病診連携とヌーカラへの期待~. 重症喘息 management seminar in 神戸西, WEB 開催, 2021.6.9
13. 富岡洋海: CTD-ILD の治療戦略-診断・治療指針 2020 から-. 膠原病リウマチ内科 CTD-ILD WEB conference, WEB 開催, 2021.6.10

14. 富岡洋海：間質性肺炎の治療 - 特発性肺線維症を中心に -。西市民病院薬業連携の会，WEB 開催，2021.6.24
15. 橋本梨花，森田充紀，小倉香奈子，富岡洋海：気胸の家族歴、肺の嚢胞分布、腎嚢胞から発見された Birt-Hogg-Dube 症候群の 1 例。第 127 回日本結核・非結核性抗酸菌症学会近畿支部学会 / 第 97 回日本呼吸器学会近畿地方会 合同学会，WEB 開催，2021.7.10
16. 岩林正明，田村誠朗，壺井和幸，富岡洋海：PF-ILD の経過中に発症した SLE の 1 例。第 127 回日本結核・非結核性抗酸菌症学会近畿支部学会 / 第 97 回日本呼吸器学会近畿地方会 合同学会，WEB 開催，2021.7.10
17. 李 正道，藤井 宏，岩林正明，橋本梨花，和田学政，網本久敬，吉積悠子，古田健二郎，金子正博，富岡洋海：当科で対応した COVID-19 入院症例の検討。第 127 回日本結核・非結核性抗酸菌症学会近畿支部学会 / 第 97 回日本呼吸器学会近畿地方会 合同学会，WEB 開催，2021.7.10
18. 富岡洋海：過敏性肺炎のトピックス。第 127 回日本結核・非結核性抗酸菌症学会近畿支部学会 / 第 97 回日本呼吸器学会近畿地方会 合同学会，WEB 開催，2021.7.10
19. 橋本梨花，金子正博，横田 真，和田学政，網本久敬，吉積悠子，森田充紀，山下修司，古田健二郎，藤井宏，富岡洋海：摂食・嚥下機能を評価した医療・介護関連肺炎（NHCAP）症例の転帰に関わる因子：死亡および転院についての検討。第 36 回日本臨床栄養代謝学会学術集会，神戸，ハイブリッド開催，2021.7.21
20. 光武瑞穂，金子正博，福島浩一，越智達哉，橋本梨花，巽 弥生，尾鼻敏弥，辻佳穂里，後藤昭一，河合峰雄，西田哲也，菅生教文，石本学司，奥野昌宏，田中詳二：認知症薬・抗精神病薬・抗パーキンソン薬・抗てんかん薬と摂食・嚥下機能障害：併用の影響について。第 36 回日本臨床栄養代謝学会学術集会，神戸，ハイブリッド開催，2021.7.21
21. 金子正博：重症喘息治療について考える。喘息診療を考える会，WEB 開催，2021.7.29
22. 藤井 宏：コロナ禍その後、第四波を中心に - 神戸市の状況。西日本呼吸器内科医療推進機構 令和 3 年度夏季学術集会 シンポジウム，WEB 開催，2021.7.31
23. 橋本梨花，富岡洋海，李 正道，岩林正明，和田学政，網本久敬，金子正博，藤井 宏，勝山栄治，河端美則：乾性咳嗽で発症し、約 12 年の経過で呼吸不全死されたびまん性肺疾患の 1 例。第 156 回びまん性疾患研究会，WEB 開催，2021.8.28
24. 藤井 宏：With コロナで結核患者を早期発見するために。令和 3 年度神戸市結核対策研修会，WEB 開催，2021.9.2
25. 富岡洋海：抗線維化薬：IPF から PF-ILD へ - 過敏性肺炎診療指針における位置付け -。Treatment of Diffuse lung disease Seminar in KANAGAWA 2021，WEB 開催，2021.9.3
26. Ogura T, Mori Y, Kataoka K, Nishiyama O, Ando M, Arizono S, Shiraki A, Ichikado K, Ito H, Sakamoto K, Tomii K, Tomioka H, Tsuda T, Kozu R, Kondoh Y: Long-Term Effect of Pulmonary Rehabilitation under Nintedanib Treatment in Idiopathic Pulmonary Fibrosis (FITNESS Study). European Respiratory Society (ERS) International Congress 2021, WEB, 2021.9.5-8
27. 山崎菜々美，富岡洋海，高橋明広，長井苑子：下肺野優位の進行性線維化を呈したサルコイドーシスの一例。第 41 回日本サルコイドーシス／肉芽腫性疾患学会総会，豊中，ハイブリッド開催，2021.10.30
28. 富岡洋海，李 正道，橋本梨花，網本久敬，金子正博，藤井 宏：日本人サルコイドーシス患者における SF-36 健康関連 QOL の評価。第 41 回日本サルコイドーシス／肉芽腫性疾患学会総会，豊中，ハイブリッド開催，2021.10.30
29. 富岡洋海：サルコイドーシスってどんな病気？ 第 41 回日本サルコイドーシス／肉芽腫性疾患学会総会，豊中，ハイブリッド開催，2021.10.30
30. 富岡洋海：過敏性肺炎をめぐる最近の話題：治療について。第 41 回日本サルコイドーシス／肉芽腫性疾患学会総会，豊中，ハイブリッド開催，2021.10.30
31. 李 正道，藤井 宏，岩林正明，和田学政，瀧口純司，古田健二郎，富岡洋海：神戸市立医療センター西市民病院呼吸器内科で対応した COVID-19 入院症例の検討。第 64 回日本感染症学会中日本地方会学術集会，岐阜，ハイブリッド開催，2021.11.5
32. 富岡洋海：ILD 診療の話題：PF-ILD からコロナまで。第 29 回香川びまん性肺疾患研究会，WEB 開催，2021.11.6
33. 富岡洋海：ILD 診療の話題：PF-ILD から、過敏性肺炎、コロナまで。第 45 回西部胸部疾患懇話会，WEB 開催，2021.11.11

34. 大竹康平, 三栖翔吾, 藤川 孝, 酒井英樹, 富岡洋海: 特発性肺線維症患者とその他の間質性肺疾患における6分間歩行試験中の酸素飽和度の比較. 第31回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会, 高松, ハイブリッド開催, 2021.11.12
35. 富岡洋海: 間質性肺疾患診療の話題: PF-ILDからコロナまで. 第2回長崎県北肺疾患研究会, WEB開催, 2021.11.12
36. 秋山訓通, 藤澤朋幸, 森田達也, 宮下光令, 富井啓介, 富岡洋海, 近藤康博, 井上義一, 須田隆文: 特発性肺線維症急性増悪の終末期像 呼吸器内科専門医アンケート調査. 第31回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会, 高松, ハイブリッド開催, 2021.11.13
37. Iwabayashi M, Tomioka H, Wada T: The effects of smoking cessation therapy on pulmonary function and predictive factor of the FEV1 increase. 第25回 アジア太平洋呼吸器学会学術集会 (APSR 2021 Kyoto), WEB開催, 2021.11.20
38. Tomioka H, Hashimoto R, Wada T, Fujii H: Health-related quality of life in patients with idiopathic pulmonary fibrosis treated with nintedanib. 第25回 アジア太平洋呼吸器学会学術集会 (APSR 2021 Kyoto), WEB開催, 2021.11.20
39. 藤井 宏: コロナ禍における呼吸器感染症診療の実際: 私たちはどう対応したか. 感染症病診連携 WEBセミナー, WEB開催, 2021.11.25
40. 金子正博: 好酸球の役割と重症喘息~生物学的製剤の使い分け~. GSK Severe Asthma Web Seminar in 神戸西, WEB開催, 2021.12.1
41. 横田 真, 富岡洋海, 勝山栄治, 李 正道, 橋本梨花, 網本久敬, 瀧口純司, 金子正博, 藤井 宏: IgG4関連疾患との鑑別を要した悪性中皮腫の一例. 第128回日本結核・非結核性抗酸菌症学会近畿支部学会 / 第98回日本呼吸器学会近畿地方会 合同学会, WEB開催, 2021.12.11
42. 遠藤 慧, 富岡洋海, 金子正博, 藤井 宏, 富井啓介: COVID-19との鑑別を要した漢方薬による薬剤性肺炎の2例. 第128回日本結核・非結核性抗酸菌症学会近畿支部学会 / 第98回日本呼吸器学会近畿地方会 合同学会, WEB開催, 2021.12.11
43. 橋本梨花, 富岡洋海, 藤井 宏, 金子正博, 古田健二郎, 吉積悠子, 網本久敬, 和田学政, 李 正道, 岩林正明: トレーラー運転手に発症したレジオネラ肺炎の一例. 第128回日本結核・非結核性抗酸菌症学会近畿支部学会 / 第98回日本呼吸器学会近畿地方会 合同学会, WEB開催, 2021.12.11
44. 金子正博: 加齢による心身の老化 (フレイル). 西市民病院 市民公開講座, 2022.1.20
45. 富岡洋海: 関節リウマチに伴う間質性肺疾患 (RA-ILD): 現場での虎の巻 abvie リウマチ診療 虎の巻, WEB開催, 2022.1.20
46. 富岡洋海: 実力向上のための間質性肺疾患トピックス. 第8回初歩から学ぶびまん性肺疾患セミナー「間質性肺疾患」, WEB開催, 2022.1.29
47. 金子正博: 高齢者における病態別栄養管理の実践と課題 呼吸器疾患と栄養. 第24回・25回日本病態栄養学会年次学術集会, 京都, ハイブリッド開催, 2022.1.29
48. 富岡洋海: 薬剤性肺炎の臨床. 神戸市立医療センター西市民病院第2回薬薬連携研修会, WEB開催, 2022.2.4
49. 網本久敬, 富岡洋海, 松尾健二郎, 李 正道, 岩林正明, 横田 真, 橋本梨花, 瀧口純司, 金子正博, 藤井宏, 勝山栄治: 気管支拡張症の経過中に発症したサルコイドーシスの1例. 第18回近畿サルコイドーシス/肉芽腫性疾患研究会, WEB開催, 2022.2.26
50. 瀧口純司, 山下修司, 松尾健二郎, 李 正道, 岩林正明, 横田 真, 橋本梨花, 網本久敬, 金子正博, 藤井宏, 富岡洋海, 薬師神公和, 勝山栄治, 河端美則: IgG4, IL-6高値を認め、外科的肺生検を行ったびまん性肺疾患の1例. 第157回びまん性肺疾患研究会, WEB開催, 2022.2.26
51. 金子正博: 咳嗽に対する病因病態へのアプローチ~選択的P2X3受容体拮抗薬の作用メカニズム~ The door to a new era for the treatment of refractory/unexplained chronic cough (RCC/UCC). WEB開催, 2022.3.15
52. 富岡洋海: 肺の老化の疾患「特発性肺線維症」: 病診連携から予後改善を. 健康寿命延伸を考える会, WEB開催, 2022.3.17

### IX. 2.3 リウマチ・膠原病内科

1. 山本 大, 壺井和幸, 濱崎健弥, 王 康治, 小西弘起: 新型コロナワクチン接種後の高サイトカイン血症が疑われた関節リウマチの1例. 日本内科学会第234回近畿地方会, web開催, 2021.12.4

### IX. 2.4 腎臓内科

1. 平井俊行, 渡邊周平, 隈元宣行, 原 明子, 瀧口梨愛, 西 慎一: カリウム製剤大量内服により高カリウム血症を呈した非腎不全の一例. 第51回日本腎臓学会西部学術大会, WEB開催, 2021.10.15

### IX. 2.5 糖尿病・内分泌内科

1. 中村武寛: 「医療者が伝えたい生活習慣病のホント～元気で機嫌よく長生きするために～」. 神戸市立南須磨公民館春季講座, 神戸, 2021.6.22
2. 中村武寛: 「コロナ禍における2型糖尿病の体重管理」～肥満専門医が今だから伝えたいこと～. 第10回明日から役立つ糖尿病勉強会, 神戸, 2021.6.23
3. 西垣智子: 「複数のインスリン製剤に対するアレルギーを呈したがCSIIを再開できた1型糖尿病の1例」. 日本内科学会第232回近畿地方会, Web開催, 2021.6.26
4. 中村武寛: 「症例から深める～SGLT-2阻害薬の活用について」. Diabetologist Meeting in Kobe, Web開催, 2021.7.13
5. 中村武寛: 『糖尿病チームで取り組む「こんな時だからこそプロジェクト」～どうすれば地域の幸せを守ることができるか～』. 第154回糖尿病教育学習研究会, 神戸, 2021.9.25
6. 中村武寛: 「チームで取り組む糖尿病重症化予防～こんな時だからこそプロジェクト～」. 神戸市北区医師会北区地域連携を考える会, 神戸, 2021.11.13
7. 中村武寛: 「コロナに負けない糖尿病薬物療法の選択とは?」. 第11回明日から役立つ糖尿病勉強会, 神戸, 2021.12.8
8. 倉本尚樹: 「テガフル・ウラシル及びカペシタビンによる高TG血症をきたした1例」. 第24・第25回日本病態栄養学会年次学術集会, 京都, ハイブリッド開催, 2022.1.29
9. 中村武寛: 「糖尿病合併症から地域の幸せを守る3つのポイント」. 健康寿命延伸を考える会, 神戸, 2022.3.17

### IX. 2.6 脳神経内科

1. Adachi H, Sakai N, Imamura H, Koyanagi M, Goto M, Fukumitsu R, Sunohara T, Fukui N, Takano Y, Go K, Haruyama H, Kajiura S, Shigeyasu M, Teranishi K, Horii R, Asakura K, Naramoto Y, Nishii R, Yamamoto Y, Kawade S, Ohara N, Takasugi J, Fujiwara S, Maekawa K, Sakai C, Sugo N: Result of PTA at acute intracerebral large vessel occlusion in anterior circulation. JSNET2021 (English/Oral), Fukuoka, WEB, 2021.11.25
2. 藤原里紗, 菅生教文, 木原武士, 城洋志彦, 吉野智亮: 若年男性に発症した奇異性脳塞栓症で、血栓の原因が発毛促進薬フィナスチドの内服と考えられた一例. 第121回日本神経学会近畿地方会, 大阪, 2022.3.6

### IX. 2.7 総合内科

1. 山本 大, 濱崎健弥, 王 康治, 小西弘起: 新型コロナウイルスワクチン接種後の高サイトカイン血症が疑われた関節リウマチの1例. 日本内科学会第234回近畿地方会, web開催, 2021.12.4

### IX. 2.8 小児科

1. 飯尾享平, 夏木 茜, 中尾聡宏, 金 伽耶, 内藤昭嘉, 川崎 悠, 磯目賢一, 堀 雅之, 岩田あや, 平海良美, 山口善道, 松原康策, 宮越千智, 太田國隆, 山岡利佳, 江口純治, 松村 治, 奥谷貴弘, 上田育代, 西山将広: COVID-19蔓延前後の川崎病の発生頻度: 神戸市 population-based study. 2016-2020 神戸市小児科医会学術集会, Web開催, 2021.7.31
2. 田中由起子, 吉野翔子, 渡木綾子, 赤沢尚美: コロナ禍での神戸市内の保育所における食物アレルギー児の対応・研修に関するアンケート. 第58回日本小児アレルギー学会学術大会, 横浜, ハイブリッド開催, 2021.11.14

## IX. 2.9 外科（消化器外科・呼吸器外科・乳腺外科・血管外科）

1. 本間周作：当院における鼠径部嵌頓ヘルニアに対する腹腔鏡下手術の治療成績．第19回日本ヘルニア学会学術集会，東京，2021.5.22
2. 多山 葵：診断に難渋した乳腺結核の一例．第29回日本乳癌学会学術総会，横浜，ハイブリッド開催，2021.7.1-3
3. Honma S：Endoscopic Rives Stoppa in a patient with incisional hernia post robotic-assisted laparoscopic radical prostatectomy: a case report. 第76回日本消化器外科学会総会，京都，ハイブリッド開催，2021.7.7
4. 村上哲平：大腸憩室炎によるS状結腸膀胱瘻に対する腹腔鏡下手術を施行した5例の経験．第76回日本消化器外科学会総会，京都，ハイブリッド開催，2021.7.9
5. 有井滋樹：肝疾患におけるバイオマーカー研究の進展（パネルディスカッション 特別発言）．第25回日本肝臓学会大会，神戸，ハイブリッド開催，2021.11.4
6. 村上哲平：大腸憩室炎によるS状結腸膀胱瘻に対する腹腔鏡下手術を施行した5例の経験 - 本邦報告43例の考察を加えて - . JDDW2021KOBE, 神戸，ハイブリッド開催，2021.11.5
7. 村上哲平：悪性狭窄に対して腹腔鏡下十二指腸空腸吻合術を施行した3症例の経験．第83回日本臨床外科学会総会，東京，ハイブリッド開催，2021.11.18
8. 姜 貴嗣：消化器外科と呼吸器外科の合同手術で一期的に根治切除し得た食道胃接合部癌と右原発性肺癌の同時性重複癌．第83回日本臨床外科学会総会，東京，ハイブリッド開催，2021.11.18
9. 多山 葵：内視鏡的逆行性胆道ドレナージス TENT 逸脱により小腸穿孔および腸骨筋膿瘍をきたした一例．第83回日本臨床外科学会総会，東京，ハイブリッド開催，2021.11.18
10. 大越祐介，竹尾正彦：気管分岐部を越えて左気管支に腫瘍が伸展した右中葉肺癌肉腫の一切除例．第38回日本呼吸器外科学会学術集会，Web開催，2021.5.20-21

## IX. 2.10 整形外科

1. 西口 滋：診断困難な股関節周囲の疼痛—仙骨脆弱性骨折を中心として．整形外科疾患セミナー，web開催，2021.4.13
2. 西口 滋，相江直哉，藤田 暁，山根逸郎，藤原弘之，布施謙三：TKA 予定患者におけるレントゲンでの動脈石灰化で PAD（末梢動脈疾患）は診断できるか？—石灰化と ABI との関連について—．第51回日本人工関節学会，横浜，ハイブリッド開催，2021.7.7
3. 西口 滋：骨粗鬆症治療の連携の重要性．西市民病院連携セミナー，神戸，ハイブリッド開催，2021.8.12
4. 西口 滋：単顆型人工膝関節置換術後に脛骨骨折生じた1例．第7回オープンボーンカンファレンス，神戸，ハイブリッド開催，2021.8.20
5. 相江直哉，藤田 暁，山根逸郎，藤原弘之，布施謙三，西口 滋：鎖骨骨折後再骨折し，慢性骨髄炎に至った症例．第7回オープンボーンカンファレンス，神戸，ハイブリッド開催，2021.8.20
6. 相江直哉，藤田 暁，山根逸郎，藤原弘之，布施謙三，西口 滋：距骨外側突起骨折の症例検討．第33回兵庫県骨折治療研究会，神戸，ハイブリッド開催，2021.10.2
7. 西口 滋：診断治療まで時間を要した TKA 再置換術の1例．第8回オープンボーンカンファレンス，神戸，ハイブリッド開催，2021.12.11
8. 西口 滋，相江直哉，藤田 暁，山根逸郎，藤原弘之，布施謙三：ナビゲーション TKA でのトラッカーピンのゆるみ．第52回日本人工関節学会，京都，2022.2.25-26

## IX. 2.11 脳神経外科

1. 坂井信幸，今村博敏，足立秀光，浅井克則，小柳正臣，後藤正憲，福光 龍，福井伸行，高野裕樹，春山裕典，呉 浩一，梶浦晋司，重安将志，朝倉健登，堀井 亮，椛本悠嗣，西井陸大，山元康弘，寺西邦匡，川出智大，坂井千秋：神戸市立医療センター中央市民病院における Philips Angiosystem を用いた学術活動の取り組み．Philips Neuro Users Summit 2021（講演），大阪，2021.10.16
2. Adachi H, Sakai N, Imamura H, Koyanagi M, Goto M, Fukumitsu R, Sunohara T, Fukui N, Takano Y, Go K, Haruyama H, Kajiura S, Shigeyasu M, Teranishi K, Horii R, Asakura K, Naramoto Y, Nishii R, Yamamoto Y, Kawade S, Ohara N, Takasugi J, Fujiwara S, Maekawa K, Sakai C, Sugo N : Result of PTA at acute intracerebral large vessel occlusion in anterior circulation. JSNET2021, Fukuoka, WEB, 2021.11.25-27

3. 藤原里紗, 菅生教文, 木原武士, 足立秀光, 城洋志彦, 吉野智亮: 若年男性に発症した奇異性脳塞栓症で、血栓の原因が発毛促進薬フィナステリドの内服と考えられた一例. 第 121 回日本神経学会近畿地方会, 大阪, 2022.3.6

#### IX. 2. 12 泌尿器科

1. 三田淑恵, 坂田宏行, 八尾昭久, 田代裕己, 中村一郎: 神戸市立医療センター西市民病院におけるロボット支援腹腔鏡下膀胱全摘術の治療成績. 第 73 回西日本泌尿器科学会総会, 宮崎, ハイブリッド開催, 2021.11.6
2. 坂田宏行, 三田淑恵, 田代裕己, 八尾昭久, 中村一郎 (神戸市立医療センター西市民病院): BCG 膀胱内注入療法後の膀胱穿孔後に発症した BCG による胸膜炎、腹膜炎の 1 例. 第 109 回日本泌尿器科学会総会, 横浜, 2021.12.7

#### IX. 2. 13 産婦人科

1. 森島秀司, 杉野祥代, 田邊昌平, 市田耕太郎, 新谷 潔: 腹腔鏡下子宮全摘術後の性交渉による感染を契機に、腔断端離開を来した一例. 第 61 回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会, Web 開催, 2021.9.11-13
2. 田邊昌平, 森島秀司, 杉野祥代, 市田耕太郎, 新谷 潔: 経膈超音波で無症候性膀胱癌を偶発的に発見した 1 例. 第 1 回日本産婦人科超音波研究会学術集会, Web 開催, 2022.1.29-30

#### IX. 2. 14 歯科口腔外科

1. 西田哲也: 「歯初診」「外来環」施設基準対応研修. 兵庫県保険医協会歯科部会・歯科医療安全管理対策研究会, 神戸, 2021.5.30
2. 西田哲也: 病院歯科での保険請求について 「要改善」「不合理」事例の交流. 兵庫県保険医協会歯科部会主催 第 7 回病院歯科懇談会, Web 開催, 2021.6.23
3. 西田哲也: 歯科に特化した感染対策について 西市民病院の現状について. 兵庫県病院歯科医会 第 34 回総会 学術講演会, Web 開催, 2021.7.10
4. 向仲佑美香, 河合峰雄: 抜歯を契機に病的骨折を認めた薬剤関連顎骨壊死の 1 例. (一社) 日本口腔感染症学会第 30 回記念学術大会・総会, 神戸, 2021.10.30
5. 西田哲也: 医科歯科連携における歯科医師の役割. 神戸市立医療センター西市民病院 第 9 回地域連携のつどい, 神戸, 2021.11.11
6. 西田哲也: 「院内感染防止対策に係る施設基準 (歯初診)」対応研修. 兵庫県保険医協会歯科部会・歯科医療安全管理対策研究会, 神戸, 2021.11.14

#### IX. 2. 15 認知症疾患医療部

1. 木原武士, 岩藪かをり, 杉原陽子, 山本さかえ, 谷口 恵, 菅生教文: 当院認知症外来初診時の MoCA-J と MMSE に関する検討. 第 62 回日本神経学会学術大会, 京都, ハイブリッド開催, 2021.5.20

#### IX. 2. 16 看護部

1. 山本和代, 斎藤美智子, 荒木敬雄, 林 有里, 田中小巻, 杉原陽子, 川口麻衣: 院内フィジカルアセスメント研修におけるハイブリッド方式の成果と課題. 第 25 回日本看護管理学会学術集会, 横浜, ハイブリッド開催, 2021.8.28-29
2. 川島佳奈, 松尾幸恵, 大野智子, 森田優花, 荒木隆一, 大岸 睦: 間質性肺炎に伴う呼吸困難に対応する看護師が抱く困難感. 第 59 回全国自治体病院学会, 奈良, 2021.11.4-5
3. 荒木敬雄, 林 有里, 杉原陽子, 川口麻衣, 新田和子, 山本和代: 集合研修からオンデマンド配信に変更した院内新人看護師対象フィジカルアセスメント研修評価. 第 41 回日本看護科学学会学術集会, Web 開催, 2021.12.4-5
4. 大納英美, 村尾まり子, 満尾容子, 杉原陽子, 河本美恵: 病棟看護師の退院支援カンファレンスの認識に関する調査研究. 第 41 回日本看護科学学会学術集会, Web 開催, 2021.12.4-5
5. 斎藤美智子, 山本和代, 荒木敬雄, 林 有里, 田中小巻, 杉原陽子, 川口麻衣: コロナ禍における新人看護師教育の考察と課題. 第 52 回 (2021 年度) 日本看護学会学術集会, オンライン開催, 2021.11.26-12.26

## IX. 2. 17 薬剤部

1. 光武瑞穂, 金子正博, 福嶋浩一, 越智達哉, 橋本梨花, 巽 弥生, 田村昌三, 尾鼻俊弥, 岡本知子, 辻佳穂里, 後藤昭一, 河合峰雄, 西田哲也, 菅生教文, 田中詳二: 認知症薬・抗精神病薬・抗パーキンソン薬・抗てんかん薬と摂食嚥下機能障害:併用の影響について. 第36回日本臨床栄養代謝学会学術集会, 神戸, Web開催, 2021.7.21-22
2. 奥野昌宏, 田中詳二: コロナ禍に伴う実務実習内容の変更とその評価~アンケート調査を通して~. 第31回日本医療薬学会年会, Web開催, 2021.10.9-10
3. 石田洋史, 奥野昌宏, 田中詳二: 当院におけるトシリズマブ(アクテムラ®)のCOVID-19の治療における使用状況. 第11回日本薬剤師レジデントフォーラム, Web開催, 2021.11.6
4. 石田洋史, 奥野昌宏, 田中詳二: 西市民病院でのCOVID-19の治療におけるトシリズマブ(アクテムラ®)の使用状況. 第43回日本病院薬剤師会近畿学術大会, オンライン開催, 2022.1.29-30
5. 川島佳恵, 奥野昌宏, 田中詳二: 調剤薬局からの服薬情報提供書を用いた特発性肺線維症治療薬の服薬状況について. 第43回日本病院薬剤師会近畿学術大会, オンライン開催, 2022.1.29-30

## IX. 2. 18 臨床検査技術部

1. 青野真帆, 笠松 朗, 松之舎教子, 田畑諭子, 大政麻衣, 足立安奈, 谷野敬輔, 姜 貴嗣, 奥野晃章, 高橋明広: 飲酒再開により再燃を認めたアルコール性心筋症の一症例. 日本超音波医学会 第48回関西地方会学術集会, 京都, 2021.10.16
2. 足立安奈: 本院での生理機能検査感染対策. 臨床検査技術部オープンカンファレンス, 神戸, 2021.11.18
3. 西山 茜: 本院での新型コロナ感染症検査. 臨床検査技術部オープンカンファレンス, 神戸, 2021.11.18
4. 山下展弘, 鳥居良貴: スライドカンファレンス解説. 令和3年度第38回兵庫県臨床細胞学会総会・第21回兵庫県細胞検査士会総会, WEB開催, 2022.3.12

## IX. 2. 19 放射線技術部

1. 大小田誠, 増田祥子, 藤本孝弘, 伊田雄貴, 名和志洋: Dual Energy CTにおける品質管理方法構築の基礎的検討. 第77回日本放射線技術学会総会学術大会, 横浜, 2021.4.15
2. 藤本孝弘, 中村 大, 耕田隆志, 名和志洋: Dual Energy CT撮影時の肺野再構成の至適条件の検討. 第49回日本放射線技術学会秋季学術大会, 熊本, ハイブリッド開催, 2021.10.16
3. 藤本孝弘, 中村 大, 大小田誠, 伊田雄貴, 今井雄一: Dual Energy CTにおける仮想単色X線画像でのエネルギー変更時のウィンドウ値の検討. 第37回日本診療放射線技師学術大会, 東京, ハイブリッド開催, 2021.11.13
4. 中村 大, 藤本孝弘, 増田祥子, 四井哲士, 酒井慎治: 被ばく線量管理システムの導入課題. 第32回兵庫県放射線技師会学術大会, オンライン開催, 2021.11.21
5. 今井雄一, 名和志洋, 増田祥子, 大小田誠, 酒井慎治: 胸部動態X線撮影至適条件の検討. 第32回兵庫県放射線技師会学術大会, オンライン開催, 2021.11.21
6. 名和志洋, 手束希望, 長谷川夏美, 加藤早紀, 大小田誠, 中村 大, 四井哲士, 酒井 慎治: 下肢全長撮影における至適撮影条件の検討. 令和3年度近畿地域診療放射線技師会 学術大会, Web開催, 2022.2.20

## IX. 2. 20 リハビリテーション技術部

1. Fujikawa T, Misu S, Otake K, Sakai H: Impact of pectoralis muscle mass on prognosis of idiopathic pulmonary fibrosis. World Physiotherapy Congress2021, Web, 2021.4.9-11
2. 藤川 孝: 特発性肺線維症患者における胸椎レベルでの骨格筋量と予後の関係. 第32回兵庫県理学療法学術大会, web開催, 2021.7.18
3. 大竹康平, 三栖翔吾, 藤川 孝, 酒井英樹, 奥野晃章, 富岡洋海: 特発性間質性肺炎患者における運動誘発性低酸素が肺高血圧に及ぼす影響. 第32回兵庫県理学療法学術大会, web開催, 2021.7.18
4. 田口真衣, 山口卓巳, 小林正樹, 井上慎一, 内田智子: 急性期病院における早期病棟ADL向上のための多職種連携-作業療法士と看護師で病棟ADLトレーニングを行い奏功した症例-. 第55回日本作業療法学会, Web開催, 2021.9.10-11



5. 三栖翔吾, 田中 創, 石原康平, 浅井 剛, 西上智彦: 変形性膝関節症患者における小型慣性センサを用いた歩行時膝関節動揺の新たな評価方法の開発. 第9回日本運動器理学療法学会学術大会, web開催, 2021.9.12
6. 三栖翔吾, 酒井英樹, 浅井 剛: 人工膝関節全置換術後退院前の歩行機能は地域在住成人と比較してばらつきが大きく、機能回復が不十分である. 第76回日本体力医学会大会, web開催, 2021.9.21-23
7. 大竹康平, 三栖翔吾, 藤川 孝, 酒井英樹, 富岡洋海: 特発性肺線維症とその他の間質性肺疾患における6分間歩行試験中の酸素飽和度の比較. 第31回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会, 高松, ハイブリッド開催, 2021.11.12

#### **IX. 2. 21 臨床工学室**

1. 石井利英: ペースメーカー植え込み患者における手動測定等の重要性を再認識させられた心房リード完全断裂症例. 第57回日本循環器予防学会学術集会, WEB開催, 2021.6.6

#### **IX. 2. 22 栄養管理室**

1. 赤沢尚美, 杉岡ふみ子, 田中由起子: 食物経口負荷試験を受ける患児の栄養摂取状況についての一考. 第37回日本小児臨床アレルギー学会, WEB開催, 2021.5.31
2. 尾鼻俊弥: 術後早期栄養介入に対する当院の取り組み. 早期栄養介入WEBセミナー, 2021.6.25

## IX. 3 西神戸医療センター

### IX. 3.1 総合内科

1. Ikemachi M, Miyagawa K : RNA Sequencing Analysis Reveals A Novel Pathway Associated With The Exacerbation Of Covid-19. AHA scientific session 2021, virtual, 2021.11.13
2. 宮川一也, 松本新一郎, 佐々木雅啓, 大崎達也, 古久保昌志, 土基博史, 鈴木健太 : ウェアラブルデバイスをを用いた深部体温、SpO<sub>2</sub>測定による COVID-19 重症化予測モデルの構築. 第 14 回 IT ヘルスケア学会年次学術大会, オンライン開催, 2022.3.6
3. 岡 佑樹, 尾下寿彦, 宮川一也 : COVID-19 罹患後に生じた成人 Still 病 (AOSD) の 1 例. 日本内科学会第 235 回近畿地方会, web 開催, 2022.3.12

### IX. 3.2 脳神経内科

1. 赤堀元樹, 石尾ゆきこ, 高野 真, 柳原千枝 : 見当識障害で発症した stiff-person 症候群に対して、免疫治療及び腫瘍切除によって良好な転帰を得た一例. 第 120 回日本神経学会近畿地方会, 大阪, 2021.12.11
2. 成宮悠爾, 赤堀元樹, 石尾ゆきこ, 柳原千枝, 小嶋康隆 : 両側感音性難聴で発症し顔面神経麻痺を来した髄膜炎の 1 例. 第 83 回兵庫神経研究会, 神戸, 2022.3.25

### IX. 3.3 糖尿病・内分泌内科

1. 藤原雄太, 山根俊介, 原田範雄, 池口絵理, 岩崎可南子, 鈴木和代, 白井亮太, 矢部大介, 林 良敬, 稲垣暢也 : 炭酸脱水酵素 8 (Car8) による GLP-1 分泌制御機構の解明. 第 64 回日本糖尿病学会年次学術集会, WEB 開催, 2021.5.22
2. 孫 徹 : 糖尿病治療における GLP-1 受容体作動薬の位置づけ～循環器合併症を意識した治療戦略～. Clinical Zoom conferenece in Kobe West, Zoom 開催, 2021.6.10
3. 北野貴暉 : 2 型糖尿病治療中に高血糖高浸透圧症候群と、気腫性膀胱炎を合併した 1 例. Diabetes Seminar in HANSIN, 大阪, ハイブリッド開催, 2021.7.9
4. 孫 徹 : 糖尿病薬物治療における GLP-1 受容体作動薬の位置づけ～循環器合併症を意識した治療戦略～. 糖尿病地域連携 WEB セミナー, Zoom 開催, 2021.9.9
5. 北野貴暉, 孫 徹, 藤原雄太, 藤原秀哉, 辻 和雄 : 2 型糖尿病治療中に高血糖高浸透圧症候群と、気腫性膀胱炎を合併した一例. 第 58 回日本糖尿病学会近畿地方会, 京都, ハイブリッド開催, 2021.10.30-11.30
6. 中村綾花, 藤原雄太, 孫 徹, 辻 和雄 : HbA<sub>1c</sub> とグリコアルブミンの乖離が疑われた症例. 第 58 回日本糖尿病学会近畿地方会, 京都, ハイブリッド開催, 2021.10.30-11.30
7. 藤原雄太 : GLP-1 の可能性～自らの研究結果も踏まえて～. Diabetes Future risk Management Forum, Zoom 開催, 2021.11.2
8. 林田珠奈, 孫 徹, 北野貴暉, 藤原雄太, 藤原秀哉, 辻 和雄 : 2 型糖尿病治療中に高血糖高浸透圧症候群と、気腫性膀胱炎を合併した 1 例. 第 15 回糖尿病臨床フォーラム, Zoom 開催, 2022.2.12

### IX. 3.4 腎臓内科

1. 麻生芽亜, 遠藤知美, 垣田浩子, 小倉早奈恵, 谷口美咲, 武曾恵理, 塚本達雄 : 積極的ステロイド加療中に再燃した難治性 IgA 腎症に対し、ミゾリピン追加が有効であった 4 症例の検討. 第 64 回日本腎臓学会学術総会, 横浜, ハイブリッド開催, 2021.6.18-20
2. 垣田浩子, 池内亮介, 遠藤知美, 武曾恵理, 岡田拓也, 塚本達雄 : 当院でのマージナル生体腎ドナーの中期的な腎予後の検討. 第 57 回日本移植学会総会, 東京, 2021.9.20
3. 中田庸介, 竹本桃子, 中井雅史, 佐伯美紀, 新里偉咲, 鳥越和雄 : リツキシマブにて改善したマントル細胞リンパ腫を合併したネフローゼ症候群の 1 例. 第 51 回日本腎臓学会西部学術大会, Web 開催, 2021.10.15
4. 谷口美咲, 遠藤知美, 垣田浩子, 北野俊行, 武曾恵理, 塚本達雄 : 骨髄移植後 GVHD 患者に発症したネフローゼ症候群に対しミコフェノール酸モフェチル (MMF) が奏功した一症例. 第 51 回日本腎臓学会西部学術大会, Web 開催, 2021.10.15-16

5. 宮内美帆, 垣田浩子, 平沼直子, 岩木亮介, 遠藤知美, 武曾恵理, 塚本達雄: 蜂窩織炎経過中にネフローゼ症候群を呈し、腎生検にて感染関連糸球体腎炎と診断した糖尿病患者の一例. 第 51 回日本腎臓学会西部学術大会, Web 開催, 2021.10.16

#### IX. 3.5 免疫血液内科

1. 和田尚一郎, 橋本朗子, 新里偉咲: 亜鉛減量のみで軽快した銅欠乏の一例. 第 232 回近畿地方会, web 開催, 2021.6.26
2. 橋本朗子, 末木祐希, 山本和代, 新里偉咲: 外来初回輸血で輸血後循環負荷を起こした高齢女性. 第 83 回日本血液学会学術集会, Web 開催, 2021.9.23-25

#### IX. 3.6 循環器内科

1. 松岡 佑, 大末剛史, 内田陽介, 吉開友羽子, 土岐啓己, 中川雅之, 江尻純哉, 永澤浩志, 辻 和雄: 心不全を発症した若年者の原発性アルドステロン症の 1 例. 第 233 回日本内科学会近畿地方会, Web 開催, 2021.9.11

#### IX. 3.7 消化器内科

1. 勝山苑香, 島田友香里, 隅田悠太, 尾下真実, 山本健太, 小林拓哉, 池田結香, 伊藤 凌, 太田匠悟, 高田裕, 安達神奈, 林 幹人, 井谷智尚: FS2-1 上部消化管内視鏡検査が原因不明の肺炎治療に寄与した 1 例. 第 106 回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会, 大阪, ハイブリッド開催, 2021.7.10
2. 高田 裕: 西区の消化器疾患の医療連携について~上部消化管疾患を含む~. 神戸市西区医師会学術講演会, WEB 開催, 2021.9.4
3. 尾下真実, 隅田悠太, 勝山苑香, 渡邊 賢, 竜野稜子, 池田結香, 伊藤 凌, 井上元気, 高田 裕, 安達神奈, 島田友香里, 林 幹人, 井谷智尚, 太田匠悟: Y14-7 腫瘍随伴症状を伴う肉腫様肝内胆管癌に化学療法が奏功した 1 例. 日本消化器病学会近畿支部第 115 回例会, WEB 開催, 2021.9.18
4. 井谷智尚: 特別講演『胃癌薬物療法における RAM + PTX の役割を再考する』. 第 6 回消化器がんセミナー in 西神戸, WEB 開催, 2021.10.1
5. 井谷智尚: 『創傷管理 NST カンファ パネルディスカッション』医師の立場から. 第 23 回兵庫 NST 研究会 WEB 学術講演会, WEB 開催, 2021.10.30
6. 山本健太, 高田 裕, 小林拓哉, 池田結香, 伊藤 凌, 太田匠悟, 安達神奈, 島田友香里, 林 幹人, 井谷智尚: 当院で経験した退形成膵管癌の 3 例. 消 P-143 JDDW 2021 KOBE. 2021.11.4
7. 高田 裕: 『今、改めて潰瘍性大腸炎のベースライン治療を考える』. 兵庫県リアルタイム錠発売 5 周年記念 WEB 講演会, パネルディスカッション, WEB 開催, 2021.12.2
8. 勝山苑香: ディスカッション 症例提示. IBD Connecting Web Seminar ~京都・神戸~, WEB 開催, 2021.12.2
9. 大島章裕, 高田 裕, 尾下真実, 勝山苑香, 隅田悠太, 竜野稜子, 渡邊 賢, 池田結香, 伊藤 凌, 井上元気, 安達神奈, 島田友香里, 林 幹人, 井谷智尚, 富松浩隆: FS2-1 血管塞栓術で止血し得た出血性十二指腸潰瘍の 1 例. 第 107 回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会, 神戸, 2021.12.11
10. 伊藤 凌, 尾下真実, 勝山苑香, 隅田悠太, 竜野稜子, 渡邊 賢, 池田結香, 井上元気, 高田 裕, 安達神奈, 島田友香里, 林 幹人, 井谷智尚: 経胃の超音波内視鏡下ドレナージ術が奏功した総胆管結石嵌頓に伴う小網内 spontaneous biloma の 1 例. 第 107 回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会, 神戸, 2021.12.11
11. 渡邊 賢, 高田 裕, 隅田悠太, 勝山苑香, 尾下真実, 竜野稜子, 伊藤 凌, 池田結香, 井上元気, 安達神奈, 島田友香里, 林 幹人, 井谷智尚, 岩崎純治: Y16-4 肺扁平上皮癌に対する nivolumab 投与後に大腸穿孔を来した irAE 大腸炎の 1 例. 日本消化器病学会近畿支部第 116 回例会, 大阪, 2022.2.5
12. 池田結香, 尾下真実, 隅田悠太, 勝山苑香, 竜野稜子, 伊藤 凌, 井上元気, 高田 裕, 安達神奈, 島田友香里, 林 幹人, 井谷智尚: 07-2 長期経過観察中に Hemosuccus Pancreaticus を発症した IPMN の 1 例. 日本消化器病学会近畿支部第 116 回例会, 大阪, 2022.2.5

#### IX. 3.8 呼吸器内科

1. 益田隆広: 小細胞肺癌について. 中外製薬社内研修会, 神戸, 2021.5.31
2. 上領 博: 喘息治療 up to date. 神戸市西区学術講演会, WEB 講習会, 2021.6.19

3. 益田隆広, 多田公英, 櫻井稔泰, 上領 博, 瀨瀬力也, 木田陽子, 三輪菜々子, 松岡 佑, 徳重康介: EGFR エクソン 20 の挿入遺伝子変異陽性非小細胞肺癌の治療中に皮膚筋炎を発症した一例. 第 97 回日本呼吸器学会近畿地方会, Web 開催, 2021.7.10
4. 徳重康介, 益田隆広, 瀨瀬直子, 三輪菜々子, 木田陽子, 瀨瀬力也, 上領 博, 櫻井稔泰, 多田公英: 排尿障害を契機に発見された前立腺結核の 1 例. 第 127 回日本結核・非結核性抗酸菌症学会近畿支部学会・第 97 回日本呼吸器学会近畿地方会 合同学会, Web 開催, 2021.7.10
5. 上領 博: 「当院における結核入院患者の変化: コロナ前と比べて」. 令和 3 年度神戸市結核対策研修会, 神戸, 2021.9.2
6. 大島章裕, 徳重康介, 松岡 佑, 益田隆広, 瀨瀬直子, 三輪菜々子, 木田陽子, 瀨瀬力也, 櫻井稔泰, 多田公英: 敗血症性肺塞栓症から急性膿胸に至った症例の検討. 第 15 回神戸内科学セミナー, 神戸, 2021.11.20
7. 嶋田有里, 上領 博, 徳重康介, 益田隆広, 三輪菜々子, 木田陽子, 瀨瀬力也, 櫻井稔泰, 中西崇雄, 本山秀樹, 大政 貢, 多田公英: Invasive mucinous adenocarcinoma の気管支鏡での診断率の検討. 第 62 回日本肺癌学会学術集会, 横浜, 2021.11.28
8. 大島章裕, 徳重康介, 益田隆広, 瀨瀬直子, 三輪菜々子, 木田陽子, 瀨瀬力也, 上領 博, 多田公英: 敗血症性肺塞栓症から急性膿胸に至った 1 例. 日本内科学会第 234 回近畿地方会, Web 開催, 2021.12.4
9. 益田隆広, 多田公英, 櫻井稔泰, 上領 博, 木田陽子, 瀨瀬力也, 三輪菜々子, 瀨瀬直子, 松岡 佑, 松尾健二郎, 徳重康介: 間質性肺炎のフォローアップ中に発症した Scedosporium apiospermum による肺感染症の 1 手術例. 第 98 回日本呼吸器学会近畿地方会, Web 開催, 2021.12.11
10. 松尾健二郎, 上領 博, 徳重康介, 松岡 佑, 益田隆広, 瀨瀬直子, 三輪菜々子, 木田陽子, 瀨瀬力也, 櫻井稔泰, 多田公英: BCG 膀胱内注射療法による好酸球性細気管支炎が疑われた 1 例. 第 98 回日本呼吸器学会近畿地方会, Web 開催, 2021.12.11
11. 多田公英: 喘息治療をとりまく環境について. テリルジーセミナー in WestKobe, 神戸, 2022.3.31

### IX. 3.9 緩和ケア内科

1. 安藤俊弘, 正井志穂, 中村真理: 苦痛のスクリーニングによるがん患者の男女での苦痛や気かりの違いの検討. 第 26 回日本緩和医療学会学術大会, 横浜, ハイブリッド開催, 2021.6.18-19
2. 正井志穂, 中村真理, 長尾幸恵, 安藤俊弘: つらさのスクリーニングによるがん患者の世代別での苦痛や気かりの違いの検討. 第 59 回日本癌治療学会学術集会, 横浜, ハイブリッド開催, 2021.10.23
3. 安藤俊弘: 苦痛のスクリーニングによるがん患者の手術時の苦痛や気かりの検討. 日本臨床麻酔学会第 41 回大会, 札幌, 2021.11.5
4. 安藤俊弘: 新型コロナ肺炎での死亡例に対し苦痛緩和に使用した薬剤の検討. 第 49 回日本集中治療医学会学術集会, WEB 開催, 2022.3.19

### IX. 3.10 小児科

1. 中尾聡宏, 磯目賢一, 宇治田風紗, 金 伽耶, 内藤昭嘉, 川崎 悠, 堀 雅之, 岩田あや, 山口善道, 平海良美, 松原康策: ESBL 産生菌尿路感染症での抗菌薬選択と治療反応性の検討. 第 283 回日本小児科学会兵庫県地方会, 神戸, ハイブリッド開催, 2021.5.15
2. 堀 雅之: こどものスキンケアの重要性. 第 19 回兵庫小児アレルギーケア講習会, 神戸, 2021.6.27
3. 飯尾享平, 中尾聡宏, 金 伽耶, 内藤昭嘉, 川崎 悠, 磯目賢一, 堀 雅之, 岩田あや, 山口善道, 平海良美, 松原康策, 宮越千智: COVID-19 蔓延前後の川崎病の発生頻度: 神戸市 population-based study, 2016-2020. 第 2 回京都小児臨床懇話会, WEB 開催, 2021.9.5
4. 夏木 茜, 山口善道, 飯尾享平, 中尾聡宏, 金 伽耶, 内藤昭嘉, 川崎 悠, 磯目賢一, 堀 雅之, 岩田あや, 平海良美, 松原康策: 乳児期早期に発症したロタウイルスワクチン接種関連腸重積症. 第 284 回日本小児科学会兵庫県地方会, WEB 開催, 2021.9.25
5. 堀 雅之, 鷲尾 健, 山本和代, 藤本晃代, 中島佳代, 西村 亮, 原田卓弥, 中水義昭, 田中直実, 三好良典, 井立美穂, 佐藤純一, 池田大輔, 西本茂樹, 藤岡成豪: 新型コロナワクチン対策チームにおけるアレルギー専門医の役割. 第 70 回日本アレルギー学会学術大会, 横浜, ハイブリッド開催, 2021.10.8-10
6. 磯目賢一, 飯尾享平, 宮川一也, 上領 博, 多田公英: 左下肢循環障害から判明した上行大動脈内血栓症を合併した COVID-19. 第 91 回日本感染症学会西日本地方会学術集会, 岐阜, ハイブリッド開催, 2021.11.7

7. 松原康策, 岩田あや, 川崎 悠, 本田吉孝, 八角高裕: 4 徴候のうち 2 徴候しか呈さなかった不完全型 WHIM 症候群の 1 例: 骨髓好中球の特徴的な形態異常の診断学的有用性. 第 63 回日本小児血液・がん学会学術集会, WEB 開催, 2021.11.25-27
8. 飯尾享平, 平海良美, 中尾聡宏, 内藤昭嘉, 川崎 悠, 磯目賢一, 堀 雅之, 岩田あや, 山口善道, 松原康策, 松岡道生, 田中敏克, 松久弘典: 不明熱の精査で偶然診断された無症候性重症大動脈弁不全症の 1 例. 第 285 回日本小児科学会兵庫県地方会, WEB 開催, 2022.2.5

### IX. 3. 11 外科・消化器外科

1. 中村公治郎, 影山詔一, 平尾浩史, 伊藤貴洋, 門野賢太郎, 小島秀信, 長田圭司, 松浦正徒, 塩田哲也, 岩崎純治, 畑 俊行, 伊丹 淳, 京極高久: 肝移植における再還流後の  $\beta$ -catenin シグナルは炎症性グラフト傷害およびレシピエントのアウトカムと関連する. 第 121 回日本外科学会定期学術集会, WEB 開催, 2021.4.8
2. 伊丹 淳, 塩田哲也, 松浦正徒, 金田優也, 橘 奎伍, 山下徳之, 中村公治郎, 岩崎純治, 畑 俊行, 京極高久: 当科におけるロボット支援腹腔鏡下直腸悪性腫瘍手術の初期成績. 第 121 回日本外科学会定期学術集会, WEB 開催, 2021.4.10
3. 長田圭司, 中村公治郎, 金田優也, 橘 奎伍, 松浦正徒, 塩田哲也, 岩崎純治, 畑 俊之, 伊丹 淳, 京極高久: 膵頭十二指腸切除術症例における術前炎症マーカー、予後栄養指数が術後合併症の予測因子に及ぼす影響. 第 121 回日本外科学会定期学術集会, WEB 開催, 2021.4.10
4. 橘 奎伍, 岩崎純治: 結腸間膜癒合不全による小児内ヘルニアに対し腹腔鏡下手術を行った 1 例. 第 19 回日本ヘルニア学会学術集会, 東京, 2021.5.21
5. Nakamura K, Nagata K, Iwasaki J, Hata T, Iida T, Kyogoku T: A case of laparoscopic left lobectomy for FDG-PET positive focal biliary fibrosis. 第 33 回日本肝胆膵外科学会学術集会, WEB 開催, 2021.6.2-30
6. Iwasaki J, Kaneda Y, Tachibana K, Nagata K, Nakamura K, Hata T, Kyogoku T: Postoperative complications after biliary diversion surgery for congenital biliary dilatation; A single center experience. 第 33 回日本肝胆膵外科学会学術集会, WEB 開催, 2021.6.2-30
7. Hata T, Nakamura K, Iwasaki J, Kaneda Y, Tachibana K, Nagata K, Kyogoku T: Surgical outcomes for intrahepatic cholangiocarcinoma: a single center experience. 第 33 回日本肝胆膵外科学会学術集会, WEB 開催, 2021.6.2-30
8. Iwasaki J, Nakamura K, Hata T, Kyogoku T: Laparoscopic Anatomic Segment 8 Liver Resection: Extra Hepatic Glissonean Approach and Intrahepatic Glissonean Approach. International Laparoscopic Liver Society 3rd World Congress, virtual, 2021.6.12
9. 金田優也, 岩崎純治, 京極高久: 偶発的に発見された肝外突出型限局性結節性過形成の 1 例. 第 76 回日本消化器外科学会総会, 京都, ハイブリッド開催, 2021.7.7
10. 橘 奎伍, 岩崎純治, 京極高久: 腹腔鏡下修復術を施行した結腸間膜癒合不全に起因する小児内ヘルニアの 1 例. 第 76 回日本消化器外科学会総会, 京都, ハイブリッド開催, 2021.7.7
11. 畑 俊行, 中村公治郎, 岩崎純治, 金田優也, 橘 奎伍, 長田圭司, 松浦正徒, 塩田哲也, 伊丹 淳, 京極高久: 過去 21 年間の当院における進行肝内胆管癌に対する手術治療成績. 第 76 回日本消化器外科学会総会, 京都, ハイブリッド開催, 2021.7.7
12. 長田圭司, 中村公治郎, 岩崎純治, 畑 俊行, 橘 奎伍, 金田優也, 松浦正徒, 塩田哲也, 伊丹 淳, 京極高久: 術前に TAE を行い安全に肝切除を施行した肝左葉巨大血管腫の 1 例. 第 76 回日本消化器外科学会総会, 京都, ハイブリッド開催, 2021.7.7
13. 中村公治郎, 長田圭司, 松浦正徒, 塩田哲也, 岩崎純治, 畑 俊行, 伊丹 淳, 京極高久: 腹腔鏡下鼠径ヘルニア修復術後に腹膜閉鎖部の裂隙に小腸が嵌入し腸閉塞を来した 1 例. 第 76 回日本消化器外科学会総会, 京都, ハイブリッド開催, 2021.7.8
14. 伊丹 淳, 金田優也, 橘 奎伍, 長田圭司, 松浦正徒, 中村公治郎, 塩田哲也, 岩崎純治, 畑 俊行, 京極高久: 当科における直腸癌に対するロボット支援下手術の現況. 第 76 回日本消化器外科学会総会, 京都, ハイブリッド開催, 2021.7.8
15. 岩崎純治, 金田優也, 橘 奎伍, 長田圭司, 松浦正徒, 中村公治郎, 塩田哲也, 畑 俊行, 伊丹 淳, 京極高久: 当院における肝内グリソンアプローチを用いた腹腔鏡下肝 S8 亜区域切除術の定型化. 第 76 回日本消化器外科学会総会, 京都, ハイブリッド開催, 2021.7.9

16. 中村公治郎, 影山詔一, 伊藤貴洋, 平尾浩史, 門野賢太郎, 小島秀信, 岩崎純治, 畑 俊行, 山本高正, 松浦正徒, 塩田哲也, 伊丹 淳, 京極高久: HuR 発現の高いグラフトは肝移植後の障害が緩和される. 第 57 回日本移植学会総会, 東京, 2021.9.19
17. 伊丹 淳, 金田優也, 橘 奎伍, 松浦正徒, 中村公治郎, 塩田哲也, 岩崎純治, 畑 俊行, 京極高久: 診断・治療方針に苦慮した食道癌術後肝転移の 2 例. 第 75 回日本食道学会学術集会, 東京, ハイブリッド開催, 2021.9.23-10.31
18. 中村公治郎: 中下部胆管原発の spindle and giant cell type undifferentiated carcinoma の切除例. 第 57 回日本胆道学会学術集会, 東京, ハイブリッド開催, 2021.10.7
19. 金田優也, 中村公治郎, 河野和馬, 橘 奎伍, 原田樹幸, 山本高正, 松浦正徒, 塩田哲也, 岩崎純治, 畑 俊行, 伊丹 淳, 京極高久: 診断に難渋した膀胱破裂による汎発性腹膜炎の 1 例. 第 83 回日本臨床外科学会総会, 東京, ハイブリッド開催, 2021.11.18
20. 橘 奎伍, 畑 俊行, 河野和馬, 金田優也, 原田樹幸, 山本高正, 松浦正徒, 中村公治郎, 塩田哲也, 岩崎純治, 伊丹 淳, 京極高久: 急性胆嚢炎を契機に診断された腎癌胆嚢転移の 1 例. 第 83 回日本臨床外科学会総会, 東京, ハイブリッド開催, 2021.11.18
21. 伊丹 淳, 塩田哲也, 金田優也, 橘 奎伍, 松浦正徒, 原田樹幸, 河野和馬, 中村公治郎, 岩崎純治, 畑 俊行, 京極高久: 肥満患者に対するロボット支援腹腔鏡下直腸癌手術の 2 例. 第 83 回日本臨床外科学会総会, 東京, ハイブリッド開催, 2021.11.18
22. 伊丹 淳, 橘 奎伍, 塩田哲也, 松浦正徒, 山本高正, 原田樹幸, 金田優也, 中村公治郎, 岩崎純治, 畑 俊行, 京極高久: ロボット支援腹腔鏡下直腸癌手術における側方郭清の経験. 第 34 回日本内視鏡外科学会総会, 神戸, ハイブリッド開催, 2021.12.3
23. 松浦正徒, 伊丹 淳, 河野和馬, 橘 奎伍, 金田優也, 原田樹幸, 山本高正, 中村公治郎, 塩田哲也, 岩崎純治, 畑 俊行, 京極高久: 当院におけるロボット支援下胃切除術と腹腔鏡下胃切除術の比較検討. 第 34 回日本内視鏡外科学会総会, 神戸, ハイブリッド開催, 2021.12.3
24. 中村公治郎, 長田圭司, 岩崎純治, 畑 俊行: 術前の TAE により安全に肝切除を施行した巨大肝左葉血管腫の 1 例. 第 44 回日本肝臓学会西部会, 岡山, 2021.12.10
25. 松浦正徒, 伊丹 淳, 河野和馬, 橘 奎伍, 金田優也, 原田樹幸, 山本高正, 中村公治郎, 塩田哲也, 岩崎純治, 畑 俊行, 京極高久: 切除不能進行再発胃癌に対する 2 次治療において PTX+RAM 療法と nab-PTX+RAM 療法の後方視的検討. 第 94 回日本胃癌学会総会, 横浜, ハイブリッド開催, 2022.3.2
26. 橘 奎伍, 中村公治郎, 河野和馬, 金田優也, 原田樹幸, 松浦正徒: 脳室腹腔シャント留置患者の急性穿孔性胆嚢炎・汎発性胆汁性腹膜炎に対して腹腔鏡下手術を施行した 1 例. 第 58 回日本腹部救急医学会総会, 東京, 2022.3.24
27. 河野和馬, 塩田哲也, 金田優也, 橘 奎伍, 原田樹幸, 山本高正, 松浦正徒, 中村公治郎, 岩崎純治, 畑 俊行, 伊丹 淳, 京極高久: 腹部開腹手術歴のない繰り返す小腸閉塞の原因が小腸腫瘍であった 1 例. 第 58 回日本腹部救急医学会総会, 東京, 2022.3.24
28. 橘 奎伍, 岩崎純治, 河野和馬, 金田優也, 原田樹幸, 松浦正徒, 中村公治郎, 塩田哲也, 伊丹 淳: irAE 大腸炎に起因する大腸穿孔に対して大腸全摘術を施行した 1 例. 第 58 回日本腹部救急医学会総会, 東京, 2022.3.25

### IX. 3. 12 乳腺外科

1. 奥野敏隆: 乳癌診療の実際-診断から治療まで-. 兵庫県病院薬剤師会東西神戸支部合同学術講演会, WEB 開催, 2021.4.15
2. 奥野敏隆, 渡辺隆紀, 山口拓洋, 今野佐智代, 高木理恵, 佐藤恵美, 鶴岡雅彦, 白井秀明, 小川ゆかり, 坂佳奈子: 乳房腫瘍に対する超音波カラー Doppler 法の診断基準構築と標準化に関する多施設共同研究 (CD-CONFIRM) の報告. 第 46 回日本乳腺甲状腺超音波医学会学術集会, オンライン開催, 2021.5.15
3. 奥野敏隆: 造影超音波検査の位置づけと今後の展開. 日本超音波医学会第 94 回学術集会, 神戸, ハイブリッド開催, 2021.5.21
4. 安井佑季, 奥野敏隆, 久下加奈栄, 真鍋美香, 登尾 薫, 三羽えり子: 乳腺混合性腫瘍 30 例における造影超音波の検討. 日本超音波医学会第 94 回学術集会, 神戸, ハイブリッド開催, 2021.5.22

5. 久下加奈栄, 奥野敏隆, 安井佑季, 真鍋美香, 登尾 薫, 三羽えり子: 造影超音波で診断した血管腫様間質を伴う乳癌の1例. 日本超音波医学会第94回学術集会, 神戸, ハイブリッド開催, 2021.5.22
6. 奥野敏隆: 乳房超音波ガイド下穿刺生検の現状と課題. 日本超音波医学会第94回学術集会, 神戸, ハイブリッド開催, 2021.5.22
7. 林 雪, 久保研一郎, 西江万梨子, 上原正弘, 渋谷信介, 大野文美, 山岡利成: 皮膚筋炎に合併する乳癌の1例. 第29回日本乳癌学会学術総会, 横浜, 2021.7.1
8. 御勢文子, 奥野敏隆, 橋 奎伍, 金田優也, 京極高久: 乳がん検診精密検査の精度管理の検討. 第29回日本乳癌学会学術総会, 横浜, 2021.7.2
9. 奥野敏隆, 渡辺隆紀, 山口拓洋, 今野佐智代, 高木理恵, 鶴岡雅彦, 白井秀明, 坂佳奈子, 藤本泰久, 広利浩一: 乳腺腫瘍に対する超音波カラードプラ法の診断基準構築と標準化に関する多施設共同研究 (CD-CONFIRM). 第29回日本乳癌学会学術総会, 横浜, 2021.7.2
10. 清岡 愛, 奥野敏隆: 初期研修医のための乳房超音波トレーニングプログラムの試み. 日本超音波医学会第48回関西地方会学術集会, 京都, 2021.10.16
11. 奥野敏隆: 臓器温存戦略における乳房超音波の役割. 日本超音波医学会第48回関西地方会学術集会, 京都, 2021.10.16
12. 奥野敏隆: 乳癌検診における超音波検査の活用法. 第141回大阪超音波研究会, WEB開催, 2021.11.1-30

### IX. 3. 13 整形外科

1. 坂上功次, 阿部光伸, 齋藤富彦, 川井康嗣, 吉田圭二: 大腿骨骨幹部骨折に対し順行性髄内釘固定施行後インプラント周囲骨折を生じた1例. 第7回オープンボーンカンファレンス症例検討会, 神戸, 2021.5.15
2. 坂上功次, 青木伸明, 阿部光伸, 齋藤富彦, 川井康嗣, 吉田圭二: 肘頭骨折術後に皮膚壊死とプレート露出を生じた1例. 第8回オープンボーンカンファレンス症例検討会, 神戸, 2021.12.11
3. 吉田圭二: 動物咬創の治療. 第8回オープンボーンカンファレンス症例検討会, 神戸, 2021.12.11

### IX. 3. 14 脳神経外科

1. 榎波はる霞, 池内佑介, 蘆田典明, 西原賢在, 細田弘吉: Carotico-clinoid foramen を形成した前床突起の近傍に発生した内頸動脈瘤に開頭クリッピング術を施行した一例. 第79回日本脳神経外科学会近畿支部学術集会, WEB開催, 2021.4.3
2. 榎波はる霞, 西原賢在, 蘆田典明, 細田弘吉: Trajectory 決定に垂直断面画像を活用した海綿状血管腫の1例. 第80回日本脳神経外科学会近畿支部学術集会, Web開催, 2021.9.4
3. 細田弘吉, 中井友昭, 今堀太一郎, 山本祐輔, 田中 潤, 松尾和哉, 甲田将章, 藤田敦史, 田中一寛, 篠山隆司, 甲村英二: 脳虚血再灌流障害におけるオミクス解析. 一般社団法人日本脳神経外科学会第80回学術総会, 横浜, ハイブリッド開催, 2021.10.29
4. 山下俊輔, 甲田将章, 田中 潤, 細田弘吉, 木村英仁, 藤田敦史, 篠山隆司: 内頸動脈狭窄症におけるBeam SAT MRAによる術期脳血流循環動態評価. 第64回日本脳循環代謝学会学術集会, 岐阜, ハイブリッド開催, 2021.11.13
5. 細田弘吉, 藤田敦史, 甲田将章, 蘆田典明, 中井友昭, 木村英仁, 田中一寛, 榎波はる霞, 西原賢在, 今堀太一郎, 篠山隆司: 軽度頸動脈狭窄症の外科治療とその予後. 第51回日本脳卒中の外科学会学術集会, 大阪, ハイブリッド開催, 2022.3.17-20
6. 池内佑介, 蘆田典明, 西原賢在, 細田弘吉: Moyamoya 病によるLimb-shaking に対してMultiple burr hole opening が有用であった1例. 第47回日本脳卒中学会学術集会, 大阪, ハイブリッド開催, 2022.3.17-20
7. 山下俊輔, 甲田将章, 田中 潤, 細田弘吉, 木村英仁, 藤田敦史, 篠山隆司: 内頸動脈狭窄症におけるBeam SAT MRAによる術前脳血流循環動態評価. 第47回日本脳卒中学会学術集会, 大阪, ハイブリッド開催, 2022.3.17-20
8. 尾原信行, 今村博敏, 足立秀光, 原 淑恵, 細田弘吉, 木村英仁, 桑山一行, 溝脇 卓, 本岡康彦, 中嶋千也, 篠田成英, 高本 剛, 上野 泰, 山浦生也, 柳原千枝, 吉田泰久, 川本未知, 坂井信幸: 新型コロナウイルス感染症流行期における神戸市の脳卒中医療体制(年間報告). 第47回日本脳卒中学会学術集会, 大阪, ハイブリッド開催, 2022.3.17

### IX. 3. 15 呼吸器外科

1. 本山秀樹, 中西崇雄, 甲 貴文, 北野貴暉, 井上綾子, 森本茂文, 大政 貢: 肺切除の各アプローチにおける術後疼痛の検討. 第 38 回日本呼吸器外科学会学術集会, WEB 開催, 2021.5.20
2. 中西崇雄, 徳重康介, 甲 貴文, 本山秀樹, 大政 貢: 縦隔腫瘍手術における術式別術後疼痛の評価. 第 38 回日本呼吸器外科学会学術集会, WEB 開催, 2021.5.2.
3. 北野貴暉, 徳重康介, 甲 貴文, 中西崇雄, 本山秀樹, 大政 貢: 部分肺静脈還流異常症を合併した早期肺癌に対して単孔式胸腔鏡手術を行った 1 例. 第 38 回日本呼吸器外科学会学術集会, WEB 開催, 2021.5.21
4. 甲 貴文, 本山秀樹, 徳重康介, 中西崇雄, 大政 貢: 当院での胸囲結核治療成績. 第 38 回日本呼吸器外科学会学術集会, WEB 開催, 2021.5.21
5. 甲 貴文, 本山秀樹, 徳重康介, 中西崇雄, 大政 貢: N-butyl-2-cyanoacrylate とコイルによる塞栓術が有効であったショックを伴う縦隔型気管支動脈瘤破裂の一例. 第 44 回日本呼吸器内視鏡学会学術集会, 名古屋, ハイブリッド開催, 2021.6.24
6. 本山秀樹: 多様化を続ける肺癌低侵襲手術アプローチ 安全な Uniport VATS の導入～100 例の経験としくじりと改善～(スポンサードセミナー). 第 54 回日本胸部外科学会九州地方会総会, ウェブ開催, 2021.7.29
7. Kabuto T, Omasa M, Nagata S, Adachi T, Nakanishi T, Motoyama H: The efficacy of the methods for preventing early recurrence after the first surgery for primary spontaneous pneumothorax in young patients. 35th European Association of Cardio-Thoracic Surgery, Barcelona, 2021.10.15
8. 甲 貴文, 足立泰志, 中西崇雄, 本山秀樹, 大政 貢: 40 歳以下若年者の自然気胸初回手術例における術後早期再発予防のための手技とその有効性の検討. 第 74 回日本胸部外科学会定期学術集会, 東京, 2021.11.1
9. 中西崇雄, 足立泰志, 本山秀樹, 大政 貢: 右肺下葉切除後気管支断端瘻に対し気管支鏡下フィブリン糊散布を行い保存的に治癒し得た 1 例. 第 74 回日本胸部外科学会定期学術集会, 東京, 2021.11.1
10. 中西崇雄, 足立泰志, 本山秀樹, 大政 貢: 同側肺 2 回目手術における癒着. 第 74 回日本胸部外科学会定期学術集会, 東京, 2021.11.1
11. 中西崇雄, 足立泰志, 本山秀樹, 大政 貢: 月経随伴性気胸における月経後日数と内臓症病変との関連. 第 74 回日本胸部外科学会定期学術集会, 東京, 2021.11.1
12. 本山秀樹, 足立泰志, 中西崇雄, 大政 貢: 免疫チェックポイント阻害薬と単孔式胸腔鏡下区域切除の組み合わせの可能性. 第 62 回日本肺癌学会学術集会, 横浜, ハイブリッド開催, 2021.11.27
13. 中西崇雄, 足立泰志, 本山秀樹, 大政 貢: 左肺全摘を要した高悪性度粘表皮癌の 1 例. 第 62 回日本肺癌学会学術集会, 横浜, ハイブリッド開催, 2021.11.27
14. 中西崇雄, 足立泰志, 本山秀樹, 大政 貢: ロボット支援下手術後に胸壁出血を来した 1 例. 第 62 回日本肺癌学会学術集会, 横浜, ハイブリッド開催, 2021.11.27
15. 中西崇雄, 足立泰志, 本山秀樹, 大政 貢: 肺癌疑い EBUS-TBNA にて診断された肺放線菌症の 1 例. 第 62 回日本肺癌学会学術集会, 横浜, ハイブリッド開催, 2021.11.28
16. 足立泰志, 中西崇雄, 本山秀樹, 石原美佐, 大政 貢: 石灰化を伴った単房性胸腺嚢胞に発生した胸腺粘液性腺癌の 1 切除例. 第 62 回日本肺癌学会学術集会, 横浜, ハイブリッド開催, 2021.11.28
17. 中西崇雄, 足立泰志, 本山秀樹, 大政 貢: 重症筋無力症合併胸腺腫に対し左胸腔アプローチ右縦隔胸膜温存ロボット支援下拡大胸腺摘出術を行った症例. 第 34 回日本内視鏡外科学会総会, 神戸, ハイブリッド開催, 2021.12.2
18. 足立泰志, 中西崇雄, 本山秀樹, 大政 貢: 両側肺虚脱と縦隔気腫および気腹症を呈した食道癌術後の右自然気胸の 1 例. 第 98 回日本呼吸器学会近畿地方会, Web 開催, 2021.12.11
19. 中西崇雄, 足立泰志, 本山秀樹, 大政 貢: 胸腺腫術後に NMDA 脳炎を発症した一例. 第 41 回日本胸腺研究会, web 開催, 2022.2.11
20. 池田眞子, 中西崇雄, 足立泰志, 本山秀樹, 大政 貢: SAPHO 症候群に認められた肺癌疑い肺結節の 1 切除例. 第 115 回日本肺癌学会関西支部学術集会, オンライン開催, 2022.3.5

### IX. 3. 16 皮膚科

1. 鷲尾 健: 湿疹・アトピー性皮膚炎と蕁麻疹診療の基礎と実践～皮膚科医の立場から～. 第 9 回神戸 GIMET (General Internal Medicine Education and Training), WEB 開催, 2021.5.20



2. 岡 優実, 飯田裕里佳, 竹内千尋, 鷺尾 健, 浅井沙月, 石原美佐: Pseudoxanthoma elasticum-like papillary dermal elastolysis の 1 例. 日本皮膚科学会第 485 回大阪地方会, WEB 開催, 2021.5.22
3. 鷺尾 健: アトピー性皮膚炎における「アレルギー」の本質を考える問い〜 2 型炎症反応の概念で見えてくるもの〜. 阪神アトピー治療研究会, 大阪, 2021.6.3
4. 飯田裕里佳, 鷺尾 健, 小川 聡, 中村文香, 熊谷 淳, 池町真美: 病巣感染における起炎菌の疫学的調査. 第 120 回日本皮膚科学会総会, 横浜, ハイブリッド開催, 2021.6.10-13
5. 鷺尾 健: 15 分で解説するアトピー性皮膚炎と 2 型炎症反応. 神戸市西区医師会学術講演会, 神戸, 2021.6.19
6. 鷺尾 健: アナフィラキシーと蕁麻疹のよもやま話〜コロナワクチンのアレルギー対策まで〜. 阪神皮膚科医会, 尼崎, 2021.6.24
7. 飯田裕里佳, 熊谷 淳, 小川 聡, 鷺尾 健, 浅井沙月, 橋本公夫, 石原美佐, 谷 昌寛: Syringocystadenoma papilliferum の 1 例. 第 114 回近畿皮膚科集談会, WEB 開催, 2021.7.11
8. 鷺尾 健: 「加温・発汗により痒疹結節様の皮疹が再現されるアミロイド苔癬の 1 例」. 皮膚炎症性疾患研究会, 神戸, 2021.7.29
9. 岡 優実, 飯田裕里佳, 竹内千尋, 鷺尾 健, 夏山貴博: 早期子宮体癌合併抗 TIF-1  $\gamma$  抗体陽性皮膚筋炎の 1 例. 日本皮膚科学会第 487 回大阪地方会, WEB 開催, 2021.10.2
10. 堀 雅之, 鷺尾 健, 山本和代, 藤本晃代, 中島佳代, 西村 亮, 原田卓弥, 中水義昭, 田中直実, 三好良典, 井立美穂, 佐藤純一, 池田大輔, 西本茂樹, 藤岡成豪: 新型コロナワクチン対策チームにおけるアレルギー専門医の役割. 第 70 回日本アレルギー学会学術大会, 横浜, ハイブリッド開催, 2021.10.9
11. 岡 優実, 飯田裕里佳, 竹内千尋, 鷺尾 健, 池町真実, 竹川啓史, 山本 剛: MALDI-TOF を用いて迅速に診断できた *Mycobacterium marinum* 感染症の 1 例. 第 85 回日本皮膚科学会東京支部学術大会, 東京, ハイブリッド開催, 2021.11.13
12. 鷺尾 健: 小児のアトピー性皮膚炎とスキンケア. 第 30 回「皮膚の日」市民公開講座, 神戸, 2021.11.13
13. 鷺尾 健: 食物・薬剤添加物のアナフィラキシー. 第 51 回日本皮膚免疫アレルギー学会総会学術大会, 東京, ハイブリッド開催, 2021.11.28
14. 岡 優実, 飯田裕里佳, 竹内千尋, 鷺尾 健: 周術期アナフィラキシーの 2 例. 日本皮膚科学会第 489 回大阪地方会, WEB 開催, 2022.2.5
15. 鷺尾 健: 難治性蕁麻疹の診断・治療戦略. 第 54 回阪神臨床アレルギー研究会, 尼崎, 2022.2.19
16. 鷺尾 健: オマリズマブ治療に抵抗性を示した慢性蕁麻疹の 1 例. 第 150 回日本皮膚科学会広島地方会, 広島, 2022.2.26
17. 鷺尾 健: 意外と難しい身近な皮膚疾患〜かぶれとほろせの話〜. 神戸市西区医師会学術講演会, 神戸, 2022.2.26
18. 鷺尾 健, 岡 優実, 正木太朗: アリルイソプロピルアセチル尿素による固定薬疹の 1 例. 日本皮膚科学会第 490 回大阪地方会, WEB 開催, 2022.3.5

### IX. 3. 17 泌尿器科

1. 中保良太: 「高齢者膀胱癌の自然史」. 第 6 回泌尿器科腫瘍 Up to Date, 神戸, ハイブリッド開催, 2021.4.17
2. 宇都宮紀明, 中保良太, 山口立樹, 清水洋祐, 金丸聰淳: 陰茎海绵体内に生じた筋周皮腫の 1 例. 第 86 回日本泌尿器科学会東部総会, WEB 開催, 2021.9.3-10.18
3. 清水洋祐: 「前立腺癌領域における BRCA 遺伝子変異とリンパ管の適応について」. 第 13 回院内教育講演, 神戸, 2021.9.29
4. 清水洋祐: 「膀胱がんってどんな病気?」. 令和 3 年度がん市民フォーラム, WEB 開催, 2021.11.30-2022.2.28
5. 金丸聰淳: 「膀胱がんの外科的治療〜経尿道手術・ロボット支援腹腔鏡手術〜」. 令和 3 年度がん市民フォーラム, WEB 開催, 2021.11.30-2022.2.28
6. 宇都宮紀明, 中保良太, 山口立樹, 清水洋祐, 金丸聰淳: 当院における second TUR の臨床的検討. 第 109 回日本泌尿器科学会総会, 横浜, 2021.12.7
7. 金丸聰淳, 山口立樹, 請田翔子, 宇都宮紀行, 清水洋祐: 馬蹄腎に対するロボット支援腹腔鏡下腎部分切除術 (後腹膜アプローチ) の経験. 第 109 回日本泌尿器科学会総会, 横浜, 2021.12.8

8. 山口立樹：「多発性骨髄腫の治療中に診断された膀胱形質細胞腫の一例」．WEST JAPAN Urologist Seminar, 神戸, ハイブリッド開催, 2021.12.13
9. 金丸聰淳：シンポジウム「尿管皮膚瘻」．第39回泌尿器科手術研究会, 和歌山, ハイブリッド開催, 2022.1.28
10. 中保良太：「急激な経過をたどった腎原発血管肉腫の1例」．兵庫岡山RCC講演会, 神戸, ハイブリッド開催, 2022.2.19
11. 金丸聰淳：西神戸医療センターにおける膀胱癌の診断と治療．兵庫県病院薬剤師会東西神戸支部合同学術講演会, WEB開催, 2022.2.24

### IX. 3. 18 産婦人科

1. 夏山貴博, 佐原裕美子, 小菊 愛, 登村信之, 森上聡子, 近田恵里：診断に苦慮した早期子宮体癌に併存した肺腺癌の子宮および子宮付属器転移の一例．第73回日本産科婦人科学会学術講演会, 新潟, ハイブリッド開催, 2021.4.22-25
2. 清瀬ますみ, 森上聡子, 夏山貴博, 小菊 愛, 登村信之, 近田恵里, 佐原裕美子：骨盤膿瘍に対してCTガイド下ドレナージを行った4症例の検討．第73回日本産科婦人科学会学術講演会, 新潟, ハイブリッド開催, 2021.4.22-25
3. 夏山貴博, 佐原裕美子, 登村信之, 森上聡子, 近田恵里, 竹内康人：子宮温存可能であった子宮頸管妊娠の1例．第57回日本周産期・新生児医学会学術集会, 宮崎, ハイブリッド開催, 2021.7.11-13
4. 夏山貴博, 佐原裕美子, 清瀬ますみ, 小菊 愛, 登村信之, 森上聡子, 近田恵里：CTガイド下ドレナージが奏功した子宮内避妊器具装着歴のない放線菌感染による骨盤内膿瘍の1例．第36回日本女性医学学会学術集会, 大阪, ハイブリッド開催, 2021.11.6-7

### IX. 3. 19 眼科

1. 永井遼司, 吉田章子, 山本昭成, 三河章子：icare PRO<sup>®</sup>とゴールドマン圧平眼圧計の比較を踏まえた日常診療における解釈．第75回日本臨床眼科学会, 福岡, ハイブリッド開催, 2021.10.28-31
2. 山本昭成, 吉田章子, 永井遼司, 三河章子：局所制御困難な原因不明の強膜炎における治療の検討．第75回日本臨床眼科学会, 福岡, ハイブリッド開催, 2021.10.28-31
3. 永井遼司, 山本昭成, 吉田章子, 三河章子：Nivolumab開始後に免疫関連有害事象(irAE)としてVogt-小柳-原田病様所見を来した一例．第40回記念開催神戸市立医療センター中央市民病院眼科/神戸アイセンター病院オープンカンファレンス・プログラム, 神戸, 2022.3.5

### IX. 3. 20 耳鼻いんこう科

1. 原真貴子, 雲井一夫, 小嶋康隆, 甲藤麻衣, 藤井大智：診断に苦慮した喉頭壊死性唾液腺炎の症例．第122回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会, 京都, ハイブリッド開催, 2021.5.13
2. 小嶋康隆：当科の鼻・副鼻腔手術．神戸市西区医師会学術講演会, WEB開催, 2021.6.19
3. 井上数喜, 有吉偉雄, 由井光子, 蓼原 瞬, 黒木俊介, 井之口豪, 丹生健一：Thyroid-like low-grade nasopharyngeal papillary adenocarcinomaの1例．第196回日耳鼻兵庫県地方部会, 神戸, ハイブリッド開催, 2021.7.11
4. 武田紘子, 横井 純, 上原奈津美, 藤田 岳, 柿木章伸, 丹生健一：外耳道閉塞により伝音性難聴を来した外耳道骨腫の一例．第196回日耳鼻兵庫県地方部会, 神戸, ハイブリッド開催, 2021.7.11
5. 藤井大智, 小嶋康隆, 武田紘子, 原真貴子, 甲藤麻衣：舌内に膿瘍形成した迷入魚骨の一例．第196回日耳鼻兵庫県地方部会, 神戸, ハイブリッド開催, 2021.7.11
6. 井上数喜, 丹生健一, 井之口豪, 蓼原 瞬, 由井光子, 黒木俊介, 有吉偉雄：Thyroid-like low-grade nasopharyngeal papillary adenocarcinomaの1例．第60回日本鼻科学会総会・学術講演会, 大津, 2021.9.23
7. 藤井大智, 雲井一夫：外耳道に発症したMycobacterium massiliense感染の1例．第31回日本耳科学会総会・学術講演会, 東京, 2021.10.14
8. 井上数喜, 由井光子, 蓼原 瞬, 井之口豪, 丹生健一：蝶形骨洞腫瘍から発見した多発性骨髄腫の1例．第197回日耳鼻兵庫県地方部会, 西宮, 2021.12.12
9. 法 貴元, 平林まり, 小嶋康隆：神戸新聞「耳鼻咽喉科月間」啓発紙上座談会, 2022.1.13

### IX. 3. 21 形成外科

1. 平位恵梨, 小熊 孝, 土屋篤司: 頬部の深い欠損に対し、Deep Plane Cervicofacial Flap で再建した1例. 第64回日本形成外科学会総会・学術集会, 東京, 2021.4.14
2. 小熊 孝: 指尖部損傷に対する Oblique triangular flap の適応と限界. 第12回兵庫形成外科集談会, 西宮, 2021.4.24
3. 小熊 孝: 打撲後に生じる頬部皮膚陥凹の特徴と治療. 第12回兵庫形成外科集談会, 西宮, 2021.4.24
4. 土屋篤司, 平位恵梨, 小熊 孝, 近藤千沙: ステロイド内服中に大腿部の原発性結核性筋炎を生じ外科的治療を要した1例. 第128回関西形成外科学会学術集会, 和歌山, 2021.7.11
5. 平位恵梨: CLI患者に対し、バイパス血管を皮弁に直接吻合し、バイパス術と遊離皮弁移植術を同時に行った7症例(最優秀論文賞受賞講演). 第13回日本創傷外科学会総会・学術集会, 北九州, 2021.7.15
6. 芳村理紗, 土屋篤司, 平位恵梨, 小熊 孝, 岩谷博篤: 植皮片の脱落をきたした鼻瘤の手術例. 第129回関西形成外科学会学術集会, 京都, 2021.11.20
7. 芳村理紗, 土屋篤司, 平位恵梨, 小熊 孝: 器質化した腹直筋鞘血腫の摘出例. 第35回神戸形成外科集談会, 神戸, 2021.11.28
8. 小熊 孝: 指神経に生じた有痛性神経腫に対する神経再生誘導チューブの使用経験. 第13回兵庫形成外科集談会, 西宮, 2022.1.15

### IX. 3. 22 放射線診断科

1. 魚谷健祐, 坂本憲昭, 川崎竜太, 谷口尚範, 富松浩隆, 元津倫幸, 岡田卓也, 山口雅人, 杉本幸司: 上腸間膜動脈ステントの長期開存性についての多施設共同後ろ向き研究. 第50回日本IVR学会総会, Web開催, 2021.5.21
2. 富松浩隆: IVR医が「働きやすい・働きがいのある」職場とは? 病院勤務医から. 第50回日本IVR学会総会, Web開催, 2021.5.21
3. 甲 貴文, 長田駿一, 徳重康介, 中西崇雄, 本山秀樹, 桑田陽一郎, 大政 貢: 特発性縦隔型気管支動脈瘤破裂の一例. 第44回日本呼吸器内視鏡学会学術集会, 名古屋, ハイブリッド開催, 2021.6.24-25
4. 富松浩隆, 田原潤子, 河野泰秀, 北村ゆり, 工藤剛史, 多田智恵子, 桑田陽一郎, 山口立樹: 広範なガス像が見られたが、複数の経皮的ドレナージにより軽快した気腫性腎盂腎炎の1例. 第6回日本穿刺ドレナージ研究会, 大阪, ハイブリッド開催, 2021.7.3
5. 富松浩隆, 田原潤子, 河野泰秀, 北村ゆり, 工藤剛史, 多田智恵子, 桑田陽一郎, 谷口尚範: 経皮的ドレナージが奏功した隔壁を伴うガス産生膿瘍の2例. 第69回関西 Interventional Radiology 研究会, Web開催, 2021.7.24
6. 田原潤子, 富松浩隆, 河野泰秀, 北村ゆり, 工藤剛史, 多田智恵子, 桑田陽一郎, 山口立樹: 経皮的ドレナージが奏功した気腫性腎盂腎炎の一例. 第5回播磨放射線・IVR研究会, Web開催, 2021.8.27
7. 富松浩隆, 田原潤子, 河野泰秀, 北村ゆり, 工藤剛史, 多田智恵子, 桑田陽一郎, 山口立樹: 隔壁を伴った広範なガス像が見られたが、複数の経皮的ドレナージおよび経皮的隔壁破壊が奏功した気腫性腎盂腎炎の1例. 第34回日本外科感染症学会総会学術集会, WEB開催, 2021.12.17
8. 富松浩隆, 田原潤子, 河野泰秀, 北村ゆり, 工藤剛史, 多田智恵子, 桑田陽一郎, 谷龍一郎, 中村公治郎: Curved needle 穿刺によるドレナージが奏功した術後骨盤内膿瘍の1例. 第70回関西IVR研究会, Web開催, 2022.2.12

### IX. 3. 23 麻酔科

1. 内山福美, 堀川由夫, 伊地智和子, 飯島克博, 樋口恭子, 溝渕知司: ロボット支援下外科手術の術後鎮痛法の比較検討. 日本麻酔科学会第67回関西支部学術集会, WEB開催, 2021.9.4

### IX. 3. 24 歯科口腔外科

1. 平井雄三, 岩城 太: 周術期口腔機能管理の際に診断された口腔癌の2例. 第18回日本口腔ケア学会総会・学術大会&第1回国際口腔ケア学会総会・学術大会合同会議, 東京, ハイブリッド開催, 2021.4.17-18

2. 平井雄三, 渡邊佳一郎, 中上絵美子, 吉村宗之, 天真寛文, 日浅雅博, 田中栄二: 歯科矯正用アンカースクリューおよび周囲骨の応力分布に及ぼす埋入深さの影響: 有限要素法による解析. 第 64 回中・四国矯正歯科学会大会, Web 開催, 2021.7.12-8.6
3. 岩城 太: 「病診連携を極める」薬剤関連顎骨壊死の予防と治療の考え方ー骨粗鬆症に関連したものを中心にー. 神戸市西区歯科医師会病診連携講演会, Web 開催, 2021.9.4
4. 平井雄三: 「外来がん薬物療法における周術期口腔機能管理」- 骨吸収抑制剤関連顎骨壊死 -- がん治療編 -. 西神戸周術期口腔機能管理カンファレンス, Web 開催, 2021.10.28
5. 岩城 太: 「外来がん薬物療法における周術期口腔機能管理」- がん薬物療法における口腔関連有害事象についての対策 -. 西神戸周術期口腔機能管理カンファレンス, Web 開催, 2021.10.28
6. 平井雄三, 岩城 太: 下顎骨関節突起骨折術後感染の 2 例. (一社) 日本口腔感染症学会第 30 回記念学術大会・総会, 神戸, 2021.10.31
7. 平井雄三, 岩城 太, 芝辻豪士: 下顎臼歯部に生じたエナメル上皮線維腫の 1 例. 第 66 回公益社団法人日本口腔外科学会総会・学術大会, 千葉, ハイブリッド開催, 2021.11.12-14
8. 芝辻豪士, 平井雄三, 岩城 太: 下顎に発生した混合型(線維形成型/濾胞型)エナメル上皮腫の 1 例. 第 66 回公益社団法人日本口腔外科学会総会・学術大会, 千葉, ハイブリッド開催, 2021.11.12-14
9. 岩城 太: 「肺炎予防と口腔ケア」~口腔機能低下症と誤嚥性肺炎について~. 身近な保健医療講座, Web 配信, 2022.1.31-2.28
10. 平井雄三: 歯原性腫瘍について考える. エナメル上皮腫における治療戦略について. 「下顎臼歯部に生じたエナメル上皮線維腫の 1 例ー若年者における埋伏歯の取り扱いー」. 西神戸歯科口腔外科オープンカンファレンス, Web 開催, 2022.3.24
11. 岩城 太: 歯原性腫瘍について考える. エナメル上皮腫における治療戦略について. 「当院で経験したエナメル上皮腫についてー保存的外科治療か? 拡大外科治療か?ー」. 西神戸歯科口腔外科オープンカンファレンス, Web 開催, 2022.3.24

### IX. 3. 25 看護部

1. 新井まゆ子: 感染対策と感染症診療の看護における倫理的課題ー感染症看護専門看護師の認識に焦点をあててー. 第 36 回日本環境感染学会総会・学術集会, 名古屋, ハイブリッド開催, 2021.9.20
2. 濱本カナコ: 特別企画: 災害から立ち上がる看護~神戸からのメッセージ~病院で働く看護師、看護管理者の立場から. 第 6 回神戸看護学会学術集会, オンライン開催, 2021.10.1-31
3. 正井志穂, 中村真理, 長尾幸恵, 安藤俊弘: つらさのスクリーニングによるがん患者の世代別での苦痛や気がかりのの違いの検討. 第 59 回日本癌治療学会学術集会, 横浜, ハイブリッド開催, 2021.10.23
4. 正井志穂, 皆川美穂 (訪問看護・リハビリステーションわたぼうし WEST): 訪問看護師と病院看護師の連携強化が在宅療養中のがん患者に及ぼす影響. 日本緩和医療学会第 3 回関西支部学術大会, オンライン開催, 2021.11.21

### IX. 3. 26 薬剤部

1. 森本茂文: ますます高価になる医薬品~今後の薬剤費用を抑えるために~. 京滋薬剤師 WEB セミナー, 2021.5.13
2. 森本茂文: 西神戸医療センターにおける眠剤フォーミュラリー~デエビゴ®を加えた院内改訂版~. 不眠症診療 WEB セミナー, 2021.5.20
3. 岸本亜矢子, 山崎彬史, 松尾種代, 中浴伸二, 森本茂文: 薬剤師による入院前薬剤師面談の有用性についての検討. 第 31 回日本医療薬学会年会, Web 開催, 2021.10.9-10
4. 前万紀子, 山崎彬史, 中浴伸二, 森本茂文: 薬剤費削減の糸口となる薬剤師・医師の共働による院内フォーミュラリー作成. 第 31 回日本医療薬学会年会, Web 開催, 2021.10.9-10
5. 吉留利香, 田村 亮, 有吉孝一, 橋田 亨, 森本茂文, 室井延之: まむし抗毒素によるアナフィラキシーに対するアドレナリン予防投与の有用性と予防投与遵守に向けた取り組み. 第 43 回日本中毒学会総会・学術集会, Web 開催, 2021.10.15-31
6. 前万紀子, 森 良江, 中浴伸二, 森本茂文: 薬剤師レジデント研修の一環としての院内フォーミュラリー作成の試み. 第 11 回日本薬剤師レジデントフォーラム, Web 開催, 2021.11.6

7. 森本茂文：内服抗がん剤の副作用マネージメント～S-1治療の向上を目指した継続可能な薬薬連携の取り組み～. 第20回神戸市須磨区薬薬連携講演会, オンライン開催, 2021.11.10
8. 宮下景子：COVID-19患者にクエチアピン坐剤を使用してせん妄コントロールできた一例. 第34回日本総合病院精神医学会総会, Web開催, 2021.11.19-20
9. 中西真也：癌種別講義「胃がん」. 令和3年度第2回薬剤師連携推進研修会～消化器がん、消化器系の副作用対策を学ぶ～, ライブ配信, 2021.12.18
10. 森本茂文：抗がん剤のお話. 健康マスター関西会令和4年1月定例会, 大阪, 2022.1.15
11. 赤瀬博文：西神戸医療センターにおける医薬品情報管理の取り組み. 兵庫県病院薬剤師会東西神戸支部合同学術講演会, WEB開催, 2022.2.24

### IX. 3. 27 臨床検査技術部

1. 山本 剛, 奈須聖子, 丸岡隼人, 佐々木一朗, 菅沼直生子, 宮川祥治, 田村克実, 江藤正明：大規模病院における検査室での感染対策の取り組み. 第70回日本医学検査学会, Web開催, 2021.5.15-6.14
2. 安井佑季, 奥野敏隆, 久下加奈栄, 真鍋美香, 登尾 薫, 三羽えり子：乳腺混合性腫瘍30例における造影超音波の検討. 日本超音波医学会第94回学術集会, 神戸, ハイブリッド開催, 2021.5.22
3. 久下加奈栄, 奥野敏隆, 安井佑季, 真鍋美香, 登尾 薫, 三羽えり子：造影超音波で診断した血管腫様間質を伴う乳癌の1例. 日本超音波医学会第94回学術集会, 神戸, ハイブリッド開催, 2021.5.22
4. 登尾 薫, 森上聡子, 石原温子, 真鍋美香, 登尾里紀, 平海良美, 松原康策：出生前診断が有用であった右冠動脈瘻の一例. 日本超音波医学会第94回学術集会, 神戸, ハイブリッド開催, 2021.5.23
5. 登尾 薫：胎児心臓スクリーニング検査の基礎. 第15回近畿胎児心臓病研究会2021, web開催, 2021.6.6
6. 池成拓哉, 池町真実, 大戸美穂, 二村絢子, 竹川啓史, 山本 剛：MALDI-TOF MSによるMycobacterium marinum皮膚感染症の迅速診断. 第32回臨床微生物迅速診断研究会総会, web開催, 2021.8.1-31
7. 山本 剛：腸管感染症における診断検査を再考する. 第53回日本小児感染症学会総会・学術集会, 東京, ハイブリッド開催, 2021.10.10
8. 濱野 葵, 末木佑季, 橋本朗子, 池田結香, 朽尾人司, 岸田あおい, 真鍋美香, 登尾 薫, 高田 裕, 井谷智尚：小腸リンパ腫において腹部超音波検査が診断・治療効果判定に有用であった一例. 日本超音波医学会第48回関西地方会学術集会, 京都, 2021.10.16
9. 登尾 薫, 池田結香, 朽尾人司, 濱野 葵, 岸田あおい, 真鍋美香, 安達神奈, 島田友香里, 林 幹人, 井谷智尚：超音波検査が有用であった魚骨による消化管穿通の2例. 日本超音波医学会第48回関西地方会学術集会, 京都, 2021.10.16
10. Ikemachi M, Miyagawa K：RNA Sequencing Analysis Reveals a Novel Pathway Associated with the Exacerbation of COVID-19. American Heart Association Scientific Sessions 2021, web, 2021.11.13-15
11. 山本 剛, 池町真実：外科感染症領域におけるmecA検査の有用性. 第34回日本外科感染症学会総会学術集会, WEB開催, 2021.12.18
12. 池町真実, 鷲尾 健：皮膚科医と臨床検査技師の連携が重要と考えた皮膚感染症の1例. 第33回日本臨床微生物学会総会・学術集会, 仙台, 2022.1.29
13. 池成拓哉, 池町真実, 大戸美穂, 二村絢子, 竹川啓史, 山本 剛：血液培養からHelicobacter cinaediとMRSAが検出された1症例. 第33回日本臨床微生物学会総会・学術集会, 仙台, 2022.1.29
14. 大戸美穂, 池町真実, 池成拓哉, 二村絢子, 山本 剛, 竹川啓史, 太田悠介, 斎藤良一：血液培養からMoraxella catarrhalisが検出された急性中耳炎患児の1症例. 第33回日本臨床微生物学会総会・学術集会, 仙台, 2022.1.29
15. 山本 剛, 池町真実, 池成拓哉, 大戸美穂, 二村絢子, 竹川啓史, 原田壮平, 大楠清文：4年越しに再燃した過粘稠性Klebsiella pneumoniaeの1症例. 第33回日本臨床微生物学会総会・学術集会, 仙台, 2022.1.30
16. 竹川啓史：臨床微生物検査室としての同定の方向性ー同定検査の進化と真価ー真菌・糸状菌の同定はどこまでやるか. 第33回日本臨床微生物学会総会・学術集会, 仙台, 2022.1.30

### IX. 3. 28 放射線技術部

1. Hashimoto T, Hayashi R, Nakamoto K, Miyamoto R, Hamada M, Fukui T：Effect of the Reference Lines to image quality of compressed sensing imaging. 第49回日本磁気共鳴医学会大会, 横浜, ハイブリッド開催, 2021.9.10-12

2. 藤本孝弘, 中村 大, 耕田隆志, 名和志洋: Dual Energy CT 撮影時の肺野再構成の至適条件の検討. 第 49 回日本放射線技術学会秋季学術大会, 熊本, ハイブリッド開催, 2021.10.16
3. 林 亮太, 中元勝利, 橋本強志: 多断面同時励起併用 2D-TSE 法における撮像パラメータが SNR に与える影響. 第 49 回日本放射線技術学会秋季学術大会, 熊本, ハイブリッド開催, 2021.10.16
4. 伊藤崇晃, 小形朋子, 大政 亘, 岩佐順平, 吉田一貴, 浜田 誠, 多田智恵子, 河邊哲也: 線量パラメータ解析モデルを用いた前立腺癌 VMAT 計画の品質改善. 日本放射線腫瘍学会第 34 回学術大会, オンライン開催, 2021.11.12-14
5. 大政 亘, 伊藤崇晃, 岩佐順平, 吉田一貴, 浜田 誠, 福井達也: 前立腺癌強度変調放射線治療における CBCT の被ばく線量の低減. 第 37 回日本診療放射線技師学術大会, 東京, ハイブリッド開催, 2021.11.13
6. 藤本孝弘, 中村 大, 大小田誠, 伊田雄貴, 今井雄一: Dual Energy CT における仮想単色 X 線画像でのエネルギー変更時のウィンドウ値の検討. 第 37 回日本診療放射線技師学術大会, 東京, 2021.11.13
7. Ito T, Omasa W, Yoshida K, Tamura M, Monzen H: Establish of dose-parameter analysis model to improve VMAT plan quality for prostate cancer. 21st Asia-Oceania Congress of Medical Physics, web, 2021.12.10-12
8. 橋本強志, 立花莉湖, 長谷川夏美, 林 亮太, 中元勝利, 宮本里奈, 浜田 誠, 福井達也: 圧縮センシング併用頭部 MRA 撮像における Reference Line 数と画質の関係について. 令和 3 年度神戸市技師会研究発表会, web 開催, 2022.3.14-18
9. 横尾宏之, 林 亮太, 三船祐輔, 浜田 誠, 福井達也: OEM (organ effective modulation) の基礎的検討. 令和 3 年度神戸市技師会研究発表会, web 開催, 2022.3.14-18
10. 立花莉湖, 橋本強志, 中元勝利, 長谷川夏美, 浜田 誠, 福井達也: コイル内埋込み型呼吸センサの精度評価と MRI 撮像への応用について. 令和 3 年度神戸市技師会研究発表会, web 開催, 2022.3.14-18

### IX. 3. 29 栄養管理室

1. 島村康弘, 有岡靖隆, 井谷智尚, 京極高久: 入院前支援センターにおける消化器癌術前患者のサルコペニアスクリーニングについて. 第 13 回日本臨床栄養代謝学会近畿支部学術集会, WEB 開催, 2021.9.18

### IX. 3. 30 リハビリテーション技術部

1. 井上慎一: 活動分析アプローチに基づく食事動作への介入. 第 41 回近畿作業療法学会, オンライン開催, 2021.6.6
2. 中野 元: 脳出血により重度の意識障害を呈した症例に対し、早期からの両側長下肢装具を用いた集中的な立位練習を実施した一例. 第 32 回兵庫県理学療法学術大会, Web 開催, 2021.7.18
3. 西尾優也, 大滝 誠, 井上慎一, 奥野敏隆: 乳がん症例に対する活動量計を用いた包括的アプローチ～日常生活と復職・就労継続支援に向けて～. 第 55 回日本作業療法学会, web 開催, 2021.9.10-10.17
4. 井上慎一, 内田智子, 西原賢在: 聴神経鞘腫患者に対し、通勤時の階段昇降に着目して作業療法を行った一症例. 第 55 回日本作業療法学会, web 開催, 2021.9.10-10.17
5. 田口真衣, 山口卓巳, 小林正樹, 井上慎一, 内田智子: 急性期病院における早期病棟 ADL 向上のための多職種連携. 第 55 回日本作業療法学会, web 開催, 2021.9.10-10.17
6. 井上慎一: 急性期. CVA 時期別 OT 研修会 知覚運動アプローチコース, Web 開催, 2021.10.31
7. 垣内優芳, 海老名葵, 笈 哲也, 田中利明, 大政 貢: 入院高齢肺炎患者の退院時転帰に影響を及ぼす因子. 第 61 回近畿理学療法学術大会, Web 開催, 2022.1.16
8. 垣内優芳, 井上達朗: 高齢肺炎入院患者の自己排痰可否を判断する咳嗽力の基準値. 第 6 回日本栄養・嚥下理学療法研究会学術大会, Web 開催, 2022.2.19

### IX. 3. 31 臨床工学室

1. 藤井清孝: 教育講演「医療機器における電波障害で CE が気を付けること～コロナ禍で見えてきたこと～」. 2021 年度 (一社) 香川県臨床工学技士会通常総会, WEB 開催, 2021.6.20
2. 藤井清孝: 病院における電波の利用環境整備と医療安全管理への活用～コロナ禍で見えてきたこと～. 2021 年度医療電波利用中国協議会上期総会, WEB 開催, 2021.9.30
3. 藤井清孝: コロナ専用病棟での生体情報モニタ運用における実際と課題～「許容可能なリスク」の変容にいかに対応するか～. 日本生体医工学会専門別研究会 令和 3 年度第 4 回医療・福祉における電磁環境研究会, 川越, 2022.1.29

4. 藤井清孝：【事例紹介】コロナ専用病棟での生体情報モニタ運用における実際と課題～「許容可能なリスク」の変容にいかにかに追従するか～. 令和3年度医療機関における安心・安全な電波利用推進シンポジウム, オンデマンド配信, 2022.3.1-22

### IX. 3. 32 感染防止対策室

1. 中尾聡宏, 磯目賢一, 宇治田風紗, 金 伽耶, 内藤昭嘉, 川崎 悠, 堀 雅之, 岩田あや, 山口善道, 平海良美, 松原康策: ESBL 産生菌尿路感染症での抗菌薬選択と治療反応性の検討. 第 283 回日本小児科学会兵庫県地方会, 神戸, ハイブリッド開催, 2021.5.15
2. 池成拓哉, 池町真実, 大戸美穂, 二村絢子, 竹川啓史, 山本 剛: MALDI-TOF MS による *Mycobacterium marinum* 皮膚感染症の迅速診断. 第 32 回臨床微生物迅速診断研究会総会, web 開催, 2021.8.1-31
3. 飯尾享平, 中尾聡宏, 金 伽耶, 内藤昭嘉, 川崎 悠, 磯目賢一, 堀 雅之, 岩田あや, 山口善道, 平海良美, 松原康策, 宮越千智: COVID-19 蔓延前後の川崎病の発生頻度: 神戸市 population-based study, 2016-2020. 第 2 回京都小児臨床懇話会, WEB 開催, 2021.9.5
4. 新井まゆ子: 感染対策と感染症診療の看護における倫理的課題—感染症看護専門看護師の認識に焦点をあてて—. 第 36 回日本環境感染学会総会・学術集会, 名古屋, ハイブリッド開催, 2021.9.20
5. 夏木 茜, 山口善道, 飯尾享平, 中尾聡宏, 金 伽耶, 内藤昭嘉, 川崎 悠, 磯目賢一, 堀 雅之, 岩田あや, 平海良美, 松原康策: 乳児期早期に発症したロタウイルスワクチン接種関連腸重積症. 第 284 回日本小児科学会兵庫県地方会, WEB 開催, 2021.9.25
6. 磯目賢一, 飯尾享平, 宮川一也, 上領 博, 多田公英: 左下肢循環障害から判明した上行大動脈内血栓症を合併した COVID-19. 第 91 回日本感染症学会西日本地方会学術集会, 岐阜, ハイブリッド開催, 2021.11.7
7. Ikemachi M, Miyagawa K: RNA Sequencing Analysis Reveals a Novel Pathway Associated with the Exacerbation of COVID-19. American Heart Association Scientific Sessions 2021, web, 2021.11.13-15
8. 山本 剛, 池町真実: 外科感染症領域における *mecA* 検査の有用性. 第 34 回日本外科感染症学会総会学術集会, WEB 開催, 2021.12.18
9. 池町真実, 鷲尾 健: 皮膚科医と臨床検査技師の連携が重要と考えた皮膚感染症の 1 例. 第 33 回日本臨床微生物学会総会・学術集会, 仙台, 2022.1.29
10. 池成拓哉, 池町真実, 大戸美穂, 二村絢子, 竹川啓史, 山本 剛: 血液培養から *Helicobacter cinaedi* と MRSA が検出された 1 症例. 第 33 回日本臨床微生物学会総会・学術集会, 仙台, 2022.1.29
11. 大戸美穂, 池町真実, 池成拓哉, 二村絢子, 山本 剛, 竹川啓史, 太田悠介, 斎藤良一: 血液培養から *Moraxella catarrhalis* が検出された急性中耳炎患児の 1 症例. 第 33 回日本臨床微生物学会総会・学術集会, 仙台, 2022.1.29
12. 竹川啓史: 臨床微生物検査室としての同定の方向性—同定検査の進化と真価—真菌・糸状菌の同定はどこまでやるか. 第 33 回日本臨床微生物学会総会・学術集会, 仙台, 2022.1.30
13. 山本 剛, 池町真実, 池成拓哉, 大戸美穂, 二村絢子, 竹川啓史, 原田壮平, 大楠清文: 4 年越しに再燃した過粘稠性 *Klebsiella pneumoniae* の 1 症例. 第 33 回日本臨床微生物学会総会・学術集会, 仙台, 2022.1.30
14. 飯尾享平, 平海良美, 中尾聡宏, 内藤昭嘉, 中尾聡宏, 川崎 悠, 磯目賢一, 堀 雅之, 岩田あや, 山口善道, 松原康策, 松岡道生, 田中敏克, 松久弘典: 不明熱の精査で偶然診断された無症候性重症大動脈弁不全症の 1 例. 第 285 回日本小児科学会兵庫県地方会, WEB 開催, 2022.2.5
15. 宮川一也, 松本新一郎, 佐々木雅啓, 大崎達也, 古久保昌志, 土基博史, 鈴木健太: ウェアラブルデバイスを用いた深部体温、SpO<sub>2</sub> 測定による COVID-19 重症化予測モデルの構築. 第 14 回 IT ヘルスケア学会学術大会, オンライン開催, 2022.3.6
16. 岡 佑樹, 尾下寿彦, 宮川一也: COVID-19 罹患後に生じた成人 Still 病 (AOSD) の 1 例. 日本内科学会第 235 回近畿地方会, web 開催, 2022.3.12

### IX. 3. 33 医事課

1. 山口健司, 渡邊克幸, 小前哲治: 電子診療録のテレワーク用ネットワーク環境構築について. 第 47 回日本診療情報管理学会学術大会, WEB 開催, 2021.10.7

## IX. 4 神戸アイセンター病院

### IX. 4.1 診療部

1. 横田 聡：Rによるデータ解析入門（ワークショップ）．東京大学オンラインワークショップ，オンライン開催，2021.4.7-16
2. 前田忠郎：RPE不全症に対するRPE細胞移植（シンポジウム）．第125回日本眼科学会総会，大阪，ハイブリッド開催，2021.4.8
3. 前田忠郎，杉田 直，前田亜希子，平見恭彦，万代道子，栗本康夫，高橋政代：網膜色素上皮細胞移植の標的疾患としての網膜色素上皮不全症 RPE impaired disease as a target for RPE cell transplantation（シンポジウム）．第125回日本眼科学会総会，大阪，ハイブリッド開催，2021.4.8
4. 平見恭彦，杉田 直，万代道子，高木誠二，前田忠郎，松崎光博，藤原雅史，坂口裕和，原千佳子，丸山和一，西田幸二，栗本康夫，高橋政代：加齢黄斑変性に対するHLA適合同種iPS細胞由来網膜色素上皮移植の3年経過3-year follow up of allogenic iPS cells-derived RPE transplantation for AMD（口演）．第125回日本眼科学会総会，大阪，ハイブリッド開催，2021.4.8
5. 栗本康夫，平見恭彦，横田 聡，宇山紘史，藤原雅史，山本 翠，前田忠郎，前田亜希子，杉田 直，万代道子，高橋政代：網膜色素変性に対する同種iPS（induced pluripotent stem）細胞由来網膜シート移植手術 Allogenic iPS cell-derived retina transplantation for retinitis pigmentosa（口演）．第125回日本眼科学会総会，大阪，ハイブリッド開催，2021.4.8
6. 万代道子，平見恭彦，前田亜希子，前田忠郎，杉田 直，栗本康夫，高橋政代：iPS細胞由来網膜シートを用いた臨床研究の実施と今後 Clinical study using iPSC-retina sheet and hereafter（口演）．第125回日本眼科学会総会，大阪，ハイブリッド開催，2021.4.8
7. 北畑将平，市川比奈子，井上達也，井上麻衣子，門之園一明：網膜色素上皮細胞の糖改変培地における細胞代謝の影響 Effect of cell metabolism of retinal pigment epithelial on sugar-modified medium（口演）．第125回日本眼科学会総会，大阪，ハイブリッド開催，2021.4.8
8. 前田忠郎，前田亜希子，横田 聡，山本 翠，藤原雅史，平見恭彦，杉田 直，万代道子，栗本康夫，高橋政代：網膜色素上皮（RPE）不全症に対するiPS細胞由来RPE（iPS-RPE）細胞移植の臨床研究計画 Clinical research for iPS-RPE cell transplantation for RPE impaired diseases（口演）．第125回日本眼科学会総会，大阪，ハイブリッド開催，2021.4.8
9. 高橋政代：再生医療時代の硝子体手術（ランチョンセミナー）．第125回日本眼科学会総会，大阪，ハイブリッド開催，2021.4.9
10. 山本 翠，前田忠郎，前田亜希子，許沢尚弘，高木誠二，平見恭彦，万代道子，栗本康夫，高橋政代：網膜色素変性の進行症例における残存網膜機能評価の試み Evaluation of retinal functions in patients with advanced retinitis pigmentosa（口演）．第125回日本眼科学会総会，大阪，ハイブリッド開催，2021.4.10
11. 前田亜希子，増田智浩，大西暁士，河合加奈子，栗本康夫，高橋政代：網膜色素変性に有効なリードスルー効果を標的とした創薬スクリーニング High throughput screening found new readthrough compounds for RP（口演）．第125回日本眼科学会総会，大阪，ハイブリッド開催，2021.4.11
12. 佐藤彰紀，井上達也，北畑将平，池田尚子，名倉光一，大川和慶，荒崎怜以，田中優衣，井上麻衣子，門之園一明：網膜中心静脈閉塞症における超広角眼底撮影のred画像の有用性 Usefulness of red images in CRVO using ultra-widefield SL（ポスター）．第125回日本眼科学会総会，大阪，ハイブリッド開催，2021.4.11
13. Sakai D, Matsumiya W, Kusuhara S, Nakamura M: Factors associated with the development of ocular candidiasis and ocular prognosis with echinocandin therapy for candidemia（ポスター）．ARVO2021, Virtual meeting, 2021.5.1-16
14. 横田 聡：網膜変性外来報告（口演）．第7回神戸アイセンター病院眼科臨床懇話会，WEB開催，2021.5.13
15. 松崎光博：見えない部位の異常がわかる神経眼科診断の考え方（教育講演）．第14回神経眼科コロキウム～細雪の会～，WEB開催，2021.5.23
16. 栗本康夫：原発閉塞隅角病（PACD）の診断と治療（特別講演）．第18回倉敷実践眼科セミナー，WEB開催，2021.5.29
17. 林田真由香：中心性漿液性脈絡網膜症に対する低照射エネルギー光線力学療法の治療効果に関連する遺伝因子（講演）．KAMERADEN眼科学術講演会，WEB開催，2021.5.29
18. 万代道子：網膜再生のいま（講演）．JRPS兵庫，WEB開催，2021.6.20



19. 出本紗季子, 酒井大輝, 岩井裕香子, 平見恭彦, 栗本康夫: 術後ターゲットの違いによる術中波面収差解析装置 ORA™ system の屈折値予測精度の比較 (ポスター). 第 36 回 JSCRS 学術総会, 東京, WEB 開催, 2021.6.25
20. Hagimoto A, Yokota S, Sakai D, Yamamoto S, Yoshimizu S, Fujihara M, Maeda A, Hirami Y, Kurimoto Y: Circumpapillary retinal nerve fiber layer thickness is affected by retinitis pigmentosa (ポスター). 9th World Glaucoma E-Congress, web, 2021.6.30-7.3
21. Sakai D, Fujihara M, Hagimoto A, Yamamoto S, Yoshimizu S, Yokota S, Hirose F, Kurimoto Y: Two-year outcomes and factors influencing the results of microhook ab interno trabeculotomy (ポスター). 9th World Glaucoma E-Congress, web, 2021.6.30-7.3
22. 栗本康夫: 網膜色素不全症に対する iPS 細胞由来 RPE 移植について (口演). 眼科先端医療勉強会～網膜の治療は新たなステージへ～, 神戸, ハイブリッド開催, 2021.7.3
23. 前田亜希子: 遺伝性網膜疾患におけるクリニカルシーケンス (口演). 眼科先端医療勉強会～網膜の治療は新たなステージへ～, 神戸, ハイブリッド開催, 2021.7.3
24. 高橋政代: iPS細胞と網膜変性疾患 (口演). 眼科先端医療勉強会～網膜の治療は新たなステージへ～, 神戸, ハイブリッド開催, 2021.7.3
25. 伊藤晋一郎: ぶどう膜外来報告 (口演). 第 8 回神戸アイセンター病院眼科臨床懇話会, WEB 開催, 2021.7.15
26. 伊藤晋一郎, 杉田 直, 平見恭彦, 山本庄吾, 栗本康夫: 抗 PD-1 抗体薬導入後に発症したぶどう膜炎 2 例の臨床経過の検討 (口演). フォーサム 2021 仙台 第 54 回日本眼炎症学会, 仙台, ハイブリッド開催, 2021.7.24
27. 万代道子: Regenerative therapy using ESC/iPSC-derived retinas for retinal degeneration. 第 44 回日本神経科学大会 / 第 1 回 CJK 国際会議, 神戸, Hybrid 開催, 2021.7.30
28. 吉水 聡: 原発閉塞隅角病 (PACD) (講演). 興和株式会社 社内研修会, WEB, 2021.8.4
29. 伊藤晋一郎: 新型コロナウイルス感染症対策 (第 3 回) (口演). 院内感染対策研修会 令和 3 年度第 1 回, 神戸, ハイブリッド開催, 2021.8.18
30. 横田 聡, 仲泊 聡: 運転と視覚障害 (講演). 第 7 回おうちで ORT サロン, WEB 開催, 2021.8.29
31. 吉水 聡: 原発閉塞隅角病 (PACD) の治療について (ショートレクチャー). SENJU Live Web-Seminar, WEB 開催, 2021.9.3
32. 平見恭彦: iPS 細胞による網膜再生医療 (特別講演). SENJU Live Web-Seminar, WEB 開催, 2021.9.3
33. 栗本康夫: 前眼部 OCT でわかること・わからないこと (特別講演). 第 20 回近畿眼科オープンフォーラム, WEB 開催, 2021.9.4
34. 國松志保, 高橋政代, 岩瀬愛子, 中澤 徹, 福地健郎: Evaluation of the specific visual subfields in motor vehicle collisions during simulated driving 簡易ドライビングシミュレータによる SOM 解析を用いた自動車事故に関与する視野障害部位の検討 (口演). 第 32 回日本緑内障学会 The 32nd Meeting of Japan Glaucoma Society, 京都, ハイブリッド開催, 2021.9.11
35. 宮崎稚子, 藤原雅史, 山本庄吾, 吉水 聡, 横田 聡, 宇山紘史, 松崎光博, 酒井大輝, 広瀬文隆, 栗本康夫: The intraocular pressure and observations by gonioscope after the microhook ab interno Trabeculotomy マイクロフック線維柱帯切開術眼内法術後のゴニオスコープ GS-1® により観察された隅角所見と眼圧の検討 (ポスター). 第 32 回日本緑内障学会 The 32nd Meeting of Japan Glaucoma Society, 京都, ハイブリッド開催, 2021.9.11
36. 吉水 聡, 酒井大輝, 松崎光博, 山本庄吾, 宇山紘史, 横田 聡, 藤原雅史, 広瀬文隆, 栗本康夫: Post-operative changes in anterior chamber and lens parameters in eyes with primary angle closure 原発閉塞隅角眼の水晶体摘出術前後の水晶体パラメータを含めた前眼部構造の解析 (ポスター). 第 32 回日本緑内障学会 The 32nd Meeting of Japan Glaucoma Society, 京都, ハイブリッド開催, 2021.9.11
37. 横田 聡, 前田亜希子, 平見恭彦, 藤原雅史, 栗本康夫: Management of Glaucoma Therapy for Patient with Retinitis Pigmentosa 網膜色素変性による視野障害を有する患者における緑内障管理 (ポスター). 第 32 回日本緑内障学会 The 32nd Meeting of Japan Glaucoma Society, 京都, ハイブリッド開催, 2021.9.11
38. 横田 聡: 公平、平等、それとも。社会でひとりひとりが力発揮するには (ポスター). 京大 100 人論文, オンライン開催, 2021.9.15-19
39. 横田 聡: MDF の書き方 (講演). VI スポーツ合同勉強会, オンライン開催, 2021.9.28
40. 三浦由美子, 岩本昌子, 酒井大輝: ロービジョン患者を対象とした病院給食の食器の検討 (口演). 第 68 回日本栄養改善学会学術総会, オンライン開催, 2021.10.1-2

41. 横田 聡：ロービジョンケアの連携（各論）（講演）．令和3年度視覚障害者用補助器具適合判定医師研修会，WEB開催，2021.10.2
42. 吉水 聡：原発閉塞隅角病（PACD）の治療について（講演）．第23回兵庫県眼科フォーラム，WEB開催，2021.10.2
43. 前田亜希子：眼科難病領域におけるゲノム医療 遺伝子パネル検査の臨床実装に向けて（ランチョンセミナー）（講演）．日本人類遺伝学会第66回大会 第28回日本遺伝子診療学会 合同開催，横浜，ハイブリッド開催，2021.10.15
44. 栗本康夫：iPS細胞を用いた網膜の再生医療（講演）．令和3年度兵庫県眼科医会 秋期定時総会並びに創立70周年記念講演，神戸，2021.10.17
45. 吉水 聡：緑内障手術について（講演）．大塚製薬 社内研修会，WEB開催，2021.10.20
46. Uyama H, Tu H, Sugita S, Yamasaki S, Matsuyama T, Kurimoto Y, Shiina T, Watanabe T, Takahashi M, Mandai M：Competency of ipsc-derived retinas in mhc-mismatched transplantation（ポスター）．ISSCR/JSRM 2021 Tokyo International Symposium, web, 2021.10.27-29
47. 栗本康夫：原発閉塞隅角病の治療戦略－病態生理の理解から治療のQ&Aまで－（インストラクションコース）．第75回日本臨床眼科学会，福岡，ハイブリッド開催，2021.10.28
48. 吉水 聡：原発閉塞隅角病の治療戦略－病態生理の理解から治療のQ&Aまで－（インストラクションコース）．第75回日本臨床眼科学会，福岡，ハイブリッド開催，2021.10.28
49. 前田忠郎，横田 聡，平見恭彦，寺田基剛，柴田由美子，前田亜希子，万代道子，藤原雅史，山本 翠，高木誠二，杉田 直，栗本康夫，高橋政代：神戸市立神戸アイセンター病院の網膜色素上皮不全症に対する臨床研究実施体制について（口演）．第75回日本臨床眼科学会，福岡，ハイブリッド開催，2021.10.28
50. 松崎光博，角替麻里絵，横田 聡，吉村 元，川本未知，栗本康夫：抗アクアポリン4抗体陽性視神経炎に対し免疫グロブリン大量静注療法を施行した2例（口演）．第75回日本臨床眼科学会，福岡，ハイブリッド開催，2021.10.28
51. 酒井大輝，平見恭彦，杉田 直，小山英治，栗本康夫：ペムプロリズマブ投与に関連する網膜症に対してステロイドパルス療法を施行した1症例（ポスター）．第75回日本臨床眼科学会，福岡，ハイブリッド開催，2021.10.28
52. 許沢尚弘，三浦拓也，山本 翠，前田忠郎，高橋恒一，辻川明孝，栗本康夫，高橋政代，万代道子：深層学習を用いたフルオレセイン蛍光眼底造影検査早期過蛍光領域の自動評価の試み（口演）．第75回日本臨床眼科学会，福岡，ハイブリッド開催，2021.10.29
53. 平見恭彦：網膜再生医療の今（講演）．第10回クロスオーバー JAPAN，福岡，2021.10.29
54. 前田亜希子，稲葉 慧，吉田晶子，河合加奈子，横田 聡，平見恭彦，栗本康夫，高橋政代：遺伝性網膜変性疾患における遺伝学的検査に関する患者認識調査（口演）．第75回日本臨床眼科学会，福岡，ハイブリッド開催，2021.10.31
55. 前田亜希子：網膜変性症の現状と今後（口演）．西宮市難病団体連合協議会 令和3年度難病医療相談会，西宮，2021.10.31
56. 山本庄吾：専門外来報告「涙道外来報告」（口演）．第9回神戸アイセンター病院眼科臨床懇話会，WEB開催，2021.11.4
57. 藤原雅史：落屑症候群の啓蒙と診察間隔、どうされていますか？（ディスカッション）（口演）．第18回兵庫県眼科オープンカンファレンス，神戸，ハイブリッド開催，2021.11.6
58. 石井香奈子，今北千里，稲美 幸，横田 聡，藤原雅史，岡田由有子，栗本康夫：疼痛緩和を目的とした強膜バックリング手術パスの変更の検討（口演）．第21回日本クリニカルパス学会学術集会，山形，ハイブリッド開催，2021.11.26-27
59. 松崎光博，前川嵩太，角替麻里絵，横田 聡，川本未知，栗本康夫：慢性進行性抗アクアポリン4抗体陽性視神経炎に対しエクリズマブが有効であった1例（口演）．第3回兵庫県眼科医会・2大学合同オープンカンファレンス，神戸，ハイブリッド開催，2021.11.27
60. 酒井大輝，平見恭彦，栗本康夫：近視眼におけるターゲットの違いによる眼内レンズ度数計算式の屈折値予測精度の比較（口演）．第3回兵庫県眼科医会・2大学合同オープンカンファレンス，神戸，ハイブリッド開催，2021.11.27

61. Kitahata S, Yamamoto M, Yokota S, Maeda T, Gocho K, Maeda A, Hirami Y, Kurimoto Y, Kadonosono K, Takahashi M : Observation of photoreceptors in retinitis pigmentosa with macular edema by adaptive optics (優秀演題シンポジウム) (講演). 第 60 回日本網膜硝子体学会総会, 東京, ハイブリッド開催, 2021.12.3
62. 松崎光博, 前川嵩太, 角替麻里絵, 横田 聡, 川本未知, 栗本康夫 : 慢性進行性抗アクアポリン 4 抗体陽性視神経炎に対しエクリズマブが有効であった 1 例 (口演). 第 59 回日本神経眼科学会総会, 東京, ハイブリッド開催, 2021.12.17
63. 横田 聡 : 網膜色素変性の遺伝子検査について (口演). BAYSIDE EYE SEMINAR, WEB 開催, 2021.12.23
64. 伊藤晋一郎 : ぶどう膜炎の網羅的 PCR 検査について (口演). BAYSIDE EYE SEMINAR, WEB 開催, 2021.12.23
65. 吉水 聡 : 専門外来報告「緑内障外来報告」(講演). 第 10 回神戸アイセンター病院眼科臨床懇話会, WEB 開催, 2022.1.20
66. 横田 聡 : 神戸アイセンター病院 運転外来の紹介 (講演). 第 10 回神戸アイセンター病院眼科臨床懇話会, WEB 開催, 2022.1.20
67. 藤原雅史 : 隅角癒着解離術 (教育セミナー) (講演). 第 45 回日本眼科手術学会学術総会, WEB 開催, 2022.1.28
68. 酒井大輝, 平見恭彦, 栗本康夫 : 術後ターゲットの違いによる眼内レンズ度数計算式の屈折値予測精度の比較 (口演). 第 45 回日本眼科手術学会学術総会, WEB 開催, 2022.1.28
69. 早川悦子, 伊藤晋一郎 : 神戸アイセンター病院における COVID-19 の診断と対応 (口演). 令和 3 年度第 4 回感染防止対策地域連携共同カンファレンス, WEB 開催, 2022.2.3
70. 伊藤晋一郎, 中村隆宏, 外園千恵, 栗本康夫 : 粘弾性物質により形成された 2 重前房に対して術中 OCT が有効であった 1 例 (口演). 角膜カンファレンス 2022 第 46 回日本角膜学会総会・第 38 回日本角膜移植学会, 金沢, 2022.2.10
71. 藤原雅史 : トラベキュlectミー編 (講演). 第 24 回緑内障手術研究会, 大阪, ハイブリッド開催, 2022.2.18
72. 酒井大輝 : トラベキュlectミー編 (講演). 第 24 回緑内障手術研究会, 大阪, ハイブリッド開催, 2022.2.18
73. 横田 聡 : 興和の社内勉強会「視覚障害者スポーツについて」(講演). 興和の社内勉強会, WEB 開催, 2022.2.22
74. 伊藤晋一郎 : 新型コロナウイルス感染症対策 (第 4 回) (講演). 院内感染対策研修会 令和 3 年度第 2 回, WEB 開催, 2022.3.2
75. 酒井大輝, 出本紗季子, 岩井祐香子, 平見恭彦, 栗本康夫 : 術後ターゲットの違いによる術中波面収差解析装置 ORA™ system の屈折値予測精度の比較 (口演). 第 40 回記念開催神戸市立医療センター中央市民病院眼科・神戸アイセンター病院 オープンカンファレンス, 神戸, ハイブリッド開催, 2022.3.5
76. 藤原雅史 : 緑内障治療継続を考える勤務医の立場から (講演). 参天 WEB 講演会 人生 100 年時代における緑内障治療継続のためのアプローチ, WEB 開催, 2022.3.17
77. 山本庄吾 : 涙道治療の実際 (講演). 第 3 回兵庫県涙道涙液研究会, 神戸, ハイブリッド開催, 2022.3.19
78. 藤原雅史 : リアル・ワールドにおける緑内障診療と病診連携の課題と展望 (講演). 興和 WEB 講演会, WEB 開催, 2022.3.24

#### IX. 4.2 看護部

1. 岡崎代司子, 鈴木佳津子 : ラダーチェック表を活用した眼科専門病院における手術室教育の取り組み. 第 37 回日本視機能看護学会学術総会, web 開催, 2021.10.1-7
2. 石井香奈子, 今北千里, 稲美 幸, 岡田由有子, 早川悦子, 横田 聡, 藤原雅史, 栗本康夫 : 疼痛緩和を目的とした強膜バックリング手術パスの変更の検討. 第 21 回日本クリニカルパス学会学術集会, 山形, ハイブリッド開催, 2021.11.26-27

#### IX. 4.3 栄養管理室

1. 三浦由美子, 岩本昌子, 酒井大輝 : ロービジョン患者を対象とした病院給食の食器の検討. 第 68 回日本栄養改善学会学術総会, オンライン開催, 2021.10.1-2

## 編集後記

2022年も、新型コロナウイルス感染症のパンデミックによる医療提供体制の逼迫に加えて、ウクライナ情勢の影響から資源高騰や医療材料の供給不足もあり、さらには薬剤の販売停止が度重なるなど、我々医療の現場にとっては昨年も大変な一年になりました。一方で、北京の冬季オリンピックやカタールのサッカーワールドカップでの日本代表の活躍に元気づけられた方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

さて令和4年、第61巻の神戸市立病院紀要は中央市民病院の木原康樹院長による心不全の新しい概念についての総説にはじまり、西市民病院呼吸器内科の瀧口純司医長、西市民病院臨床検査技術部の弘田大智技師、西市民病院看護部の大橋佳奈看護師、同じく西市民病院看護部の樽本南々帆看護師からの報告を掲載しております。ご投稿をいただいた著者の皆様に厚く御

礼を申し上げますとともに、編集および発刊に際しましてご尽力をいただいた法人本部の紀要事務局の担当の皆様にも深く感謝いたします。

この神戸市立病院紀要は科学技術振興機構(JST)が運営する電子ジャーナルプラットフォームのJ-STAGEに2019年から掲載されており、2011年(第49巻)以降のバックナンバーも閲覧できます。皆様の日頃の業務への取り組みを振り返り次代に残す情報発信の手段として、ぜひご活用をいただければと思います。

神戸市立神戸アイセンター病院  
副院長

平見恭彦

# 神戸市立病院紀要投稿規程

1. 神戸市立病院紀要は、地方独立行政法人神戸市民病院機構に勤務する医療従事者の研究論文を掲載し、学会報告、その他の学術活動（前年度における業績）を広く記録し、年1回の発刊とする。
2. 投稿者は、地方独立行政法人神戸市民病院機構に勤務する医療従事者に限る（共著はさしつかえない）。編集委員会で依頼した原稿は、この限りでない。
3. 投稿論文の内容は、他誌に未発表であり、現在投稿中ではないこと。
4. 原稿の採否は、編集委員会が決定する。また、原稿の体裁、長さ、文体などについて著者に変更を求めることがある。なお、掲載済の原稿は返却しない。
5. 原稿の種類および原稿枚数
  - (1) 論文（総説）……………字数制限なし  
 (原著)……………10000字以内  
 (英文の場合は5000語以内)  
 (症例報告)……………4000字以内  
 (英文の場合は2000語以内)  
 (医療研究報告)……………8000字以内  
 (英文の場合は4000語以内)

※いずれも要旨を含み、図、表、文献は含まない。

- (2) 医学振興事業等研究費補助による業績報告  
 ………………10000字以内  
 (英文の場合は5000語以内)
- (3) 学会報告・論文発表（業績リスト）  
 ………………診療科ごとに提出
- (4) C P C 報告……………1 症例 2600 字以内  
 (所定の様式を使用)

6. 執筆要領は、次による。  
 A. 論文（総説、原著、症例報告、医療研究報告）

- (1) 執筆様式は次の通りとする。

※総説・原著・症例報告は下記①から⑥の順での執筆とする。  
 医療研究報告は①②⑤⑥の順（③の英文表題、④の英文 Abstract は不要）での執筆とする。

- ①論文表題（和文）  
執筆者所属・氏名（和文）
- ②要 旨（400 字以内）（和文）  
キーワード（5 コ以内）
- ③論文表題（英文）文頭のみ大文字の表記とする。  
執筆者所属・氏名（英文）  
※英文氏名は、名を先、姓を後（フルネーム）とする。
- ④ Abstract（200 語以内）（英文）  
Key words（5 コ以内）（小文字）（英文）
- ⑤本 論  
はじめに（見出し番号は付けない）  
…………… } 大見出し番号 I II III ~ を用いる。  
…………… } 中 " 1 2 3 ~ " }  
…………… } 小 " (1)(2)(3) ~ " }  
おわりに（必ずしも必要ない。見出し番号は付けない）
- ⑥文 献

- (2) 原稿は、A 4 判用紙に 34 字× 25 行で、上下左右に約 3cm の余白をとり、12 ポイント以上で印字すること。数字は半角文字を用いること。  
 英文原稿も用紙は A 4 判を用い、上下左右に約 3cm の余白をとること。字の大きさは 12 ポイントを原則として、ふさわしいピッチで、行間はダブルスペースとすること。  
 また、本文についてはプリントアウトしたものと同一原稿のデータを提出すること。データの形式は、本文は Word とする。  
 原稿中所定の用紙のほか、タイプ用紙、方眼紙、図表は、すべて A 4 判を使用し、写真は、手札型のものを A 4 判用紙に添付する。
- (3) 英文抄録は、表題、著者名、所属及び本文で構成する。本文の行間はダブルスペースとする。
- (4) 表現法については、下記の点に留意する。
  - 1) 本文の中で文献を引用する際には、引用番号は本文の引用順とし、「三輪ら<sup>1-3)</sup>」のように右肩に番号をふる。
  - 2) 略語はできるだけ使わない。止むを得ず使う時は、初出時に正式名を記した後に（ ）内に記入する。

- (5) 図、表については、下記の点に留意する。
  - 1) 図は説明文を別紙に書くこととする。
  - 2) 図、表は説明も含め、英語とするのが望ましい。ただし、図、表が日本語の場合は説明も日本語とする。
  - 3) 挿入箇所を本文の欄外に指定する。
  - 4) 写真は白黒を原則とする。カラー写真は、編集委員会の承認したものに限る。提出方法は、Excel、Word 等のデータも提出すること。
  - 5) 電子顕微鏡写真にはスケールを入れる。
- (6) 専門用語以外は、当用漢字、新かなづかいを用い、横書とする。
- (7) 文献の記載方法は次の書式による。（Index Medicus、医学中央雑誌に従う）。なお、文献数については、総説は上限なし、原著及び医療研究報告は概ね 30、症例報告は概ね 15 までとする。

- 1) 雑誌の場合  
著者名：表題. 雑誌名 巻：初頁—終頁, 発行年
- 2) 単行本の場合  
著者名：書名, 版数, 発行社名, 発行地名, 発行年
- 3) 分担執筆による単行本の中の分担部分の引用の場合  
著者名：分担執筆部分の表題. 書名, 編集者名, 版数, 発行社名, 発行地名, 初頁—終頁, 発行年
- 4) 雑誌名は、その雑誌指定の略名がある場合はそれを用い、ない場合は Index Medicus あるいは「日本医学図書館協会編、日本医学雑誌名表」にあるものを用いること。
- 5) 発行年は西暦を用いること。
- 6) ページは通巻ページを用いること。
- 7) 著者名は、3 名までは全員を記載する。4 名以上の場合は最初の 3 名を記載し、「他」あるいは外国語文献の場合は「et al」を付する。
- 8) 実例

- 1) Beltramin AU, Hertzig ME: Sleep and bed-time behavior in preschool-aged children. Pediatrics 71: 153-158, 1983
- 2) 鈴木義之: 細胞生物学からみた遺伝性酵素欠損症の病態. 日児誌 88: 405-408, 1984
- 3) Cohen MM: The child with multiple birth defects. Raven press, New York, 1982
- 4) 松永 英: 日本における遺伝性疾患の頻度. 遺伝相談, 日暮 眞 編, 小児科 Mook 32, 金原出版, 東京, 1-11, 1984
- 5) Dorken B, Moller P, Pezzuto A, et al: CDw75. Lymphocyte typing IV: white cell differentiation antigens. In: Knapp W, Dorken B, Gilks WR, et al. eds, Oxford University Press, New York, 109-110, 1989

- (8) 執筆者は、原稿を各施設の庶務（総務）係へ提出すること。

B. 医学振興事業等研究費補助による業績報告

- (1) 執筆要領は、論文（6. A 参照）の執筆要領に準ずる。
- (2) 別冊は作成しない。

C. 学会報告・論文発表（業績リスト）

- (1) 以下の必要記入事項があれば提出様式は自由であるが、Word 形式で提出すること。診療科ごとに提出する。
 

《論文発表》

  - ①雑誌の場合  
著者名全員（筆頭執筆者から順番に記載）：表題. 雑誌名 巻：初頁—終頁, 発行年, DOI (web 発表の場合)
  - ②単行本（分担執筆）の場合  
著者名全員（筆頭執筆者から順番に記載）：分担執筆部分の表題. 書名, 編集者名, 版数, 発行社名, 発行地名, 初頁—終頁, 発行年, DOI (web 発表の場合)
  - ③単行本（単独での執筆）の場合  
著者名全員（筆頭執筆者から順番に記載）：書名, 版数, 発行社名, 発行地名, 発行年, DOI (web 発表の場合)

## 神戸市立病院紀要投稿規程

### 《学会報告》

発表者全員（筆頭演者から順番に記載）：表題、  
学会名、開催場所、発表年月日（※西暦で日にち  
まで記載）、DOI（web 発表の場合）

- (2) 学会報告等で発表した学会での研究発表、症例報告、  
講演などは漏れなく投稿する。

### D. C P C 報告

- (1) 必ず所定の様式を使用する。  
(所定の様式は各施設の総務係へ請求する)
- (2) 図表を含めて 2600 字以内、原本とデータを提出する。

### E. その他

- (1) 初校は、著者校正とする。
- (2) 別冊は、20 部まで無料とする。これを超える場合と  
カラー図版の実費は原則として著者が負担するもの  
とする。
- (3) 本誌に掲載された論文などの著作権は地方独立行政法  
人神戸市民病院機構に属する。

神戸市立病院紀要編集委員

中央市民病院 副 院 長 高 橋 豊 (委員長)

副 院 長 石 川 隆 之

第 2 診 療 部 長 川喜田 睦 司

循 環 器 内 科 部 長 古 川 裕

西 市 民 病 院 院 長 代 行 中 村 一 郎

副 院 長 富 岡 洋 海

西神戸医療センター 小 児 科 部 長 松 原 康 策

皮 膚 科 部 長 代 行 鷺 尾 健

神戸アイセンター病院 副 院 長 平 見 恭 彦

(令和4年12月現在)

神戸市立病院紀要 第61巻

令和5年2月28日発行

編 集 神戸市立病院紀要編集委員会

発 行 神戸市中央区港島南町2丁目2番地  
神戸市立医療センター中央市民病院南館3階  
地方独立行政法人 神戸市民病院機構

印 刷 地方独立行政法人 神戸市民病院機構

印刷所 イワサキ出版印刷有限公司



